日野市議会会議録

昭和63年 第4回定例会

第41号～第48号

12月 9日 開会
12月24日 閉会

日 野 市 議 会

日野市立図書館 ☎81-7354
1385761

昭和63年　第4回定例会日程

12月　9日	（金曜日）	会期の決定、行政報告、諸般の報告、審査報告
12月12日	（月曜日）	議案上程、請願上程、一般質問
12月13日	（火曜日）	一般質問
12月14日	（水曜日）	一般質問
12月15日	（木曜日）	一般質問
12月16日	（金曜日）	一般質問、議案上程、請願上程
12月23日	（金曜日）	審査報告
12月24日	（土曜日）	審査報告、議案上程

昭和６３年
第４回定例会

日野市議会会議録目次

○12月９日　　金曜日（第１日）

出　席　議　員 …… 1
欠　席　議　員 …… 1
出席説明員 …… 2
議　事　日　程 …… 2
開　　会 …… 7
会議録署名議員の氏名 …… 7
会　期　の　決　定 …… 7
諸　般　の　報　告 …… 69

（請願審査報告）　　（文教委員会）

請　願　第 63－12 号　郷土芸能の保存に関する請願 …… 69
請　願　第 63－17 号　「中学校40人学級を３年生より行う逆学年進行方式実施」の為の日野市議会に対する請願 …… 69
請　願　第 63－19 号　義務教育費国庫負担制度堅持の意見書の提出を求める陳情 …… 69
請　願　第 63－20 号　義務教育諸学校の学校事務職員に対する義務教育費国庫負担制度の維持に関する陳情 …… 69

（厚生委員会）

請　願　第 62－30 号　老人入院見舞金制の制定と実施に関する請願 …… 71

（建設委員会）

請　願　第 62－３ 号　「国民の食料を守り、農業再建に関する意見書」提出についての陳情 …… 72
請　願　第 62－29 号　多摩平六丁目32番地の８、９に建設予定のマンション建設阻止に関する請願 …… 75
請　願　第 62－36 号　米の市場開放反対、農畜産物の輸入自由化阻止の意見書採択に関する陳情 …… 85

（中間報告）

特別委員会中間報告の件 …… 86
延　　会 …… 88

○12月12日　　月曜日（第２日）
出　席　議　員 …… 89
欠　席　議　員 …… 89
出　席　説　明　員 …… 90
議　事　日　程 …… 90
開　　議 …… 93
（議案上程）
議 案　第117号　日野市一般職の職員の昭和63年度12月期における期末手当の特例に関する条例の制定について …… 93
議 案　第 96 号　日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について …… 102
議 案　第 97 号　日野市職員の分限に関する条例の制定について …… 102
議 案　第 98 号　日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について …… 102
議 案　第 99 号　日野市市税条例の一部を改正する条例の制定について …… 102
議 案　第100号　日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定について …… 110
議 案　第101号　日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定について …… 110
議 案　第102号　財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例の制定について …… 110
議 案　第103号　日野市緑地信託等に関する条例の制定について …… 110
議 案　第104号　日野市立保育園設置条例の制定について …… 123
議 案　第105号　昭和63年度日野市一般会計補正予算について（第３号） …… 126
議 案　第106号　昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算について（第１号） …… 142
議 案　第107号　昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算について（第２号） …… 143
議 案　第108号　昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算について（第３号） …… 143
議 案　第109号　昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算について（第２号） …… 149
議 案　第110号　昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算について（第２号） …… 149
議 案　第111号　昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算について（第１号） …… 152
議 案　第112号　昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算について（第１号） …… 154
議 案　第113号　市道路線の認定について …… 155
議 案　第114号　土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結について …… 155
議 案　第115号　農業共済無事戻金の交付について …… 155
議 案　第116号　南多摩農業共済事務組合の設立について …… 155
（請願上程）
請 願　第 63－23 号　沢川広場に便所および水道設備設置並びに広場拡張に関する請願 …… 160
請 願　第 63－24 号　放射能測定器設置の請願 …… 160
請 願　第 63－25 号　コミュニティセンター建設に関する請願 …… 160
（一般質問）
鈴木美奈子議員
１．市立病院内の「さやか学級」の存続と充実について …… 161
馬場弘融議員
１．立日橋開通にともなう地域の諸問題について …… 174
散　　会 …… 184

○12月13日　　火曜日（第３日）

出　席　議　員 …… 185
欠　席　議　員 …… 185
出席説明員 …… 186
議　事　日　程 …… 186
開　　議 …… 187
（一般質問）
馬場繁夫議員
1．生活環境と交通安全対策について …… 187
天野輝男議員
1．日野市の行財政について問う …… 199
2．市内小中学校の給食はカロリーの高いパン食より、米食を増す考えはないか？ …… 217
中谷好幸議員
1．「文化」的なまちづくりを！行政の「文化」化を!「文化」の革新を！ … 219
2．幼な子を愛しみ育てる土壌はぐくむ日野市立幼児教育センターの発展を …… 234
夏井明男議員
1．崩壊危険箇所についての対策を望む …… 240
2．市営学習室（自習室）構想 …… 243
3．市営保養センターの建設 …… 247
谷　長一議員
1．小中学校の児童、生徒を学校毎にみて、子供の躾は、親、先生がお手本だ …… 251
2．第一小学校々庭を整備せよ …… 259
散　　会 …… 262

○12月14日　水曜日（第４日）
出　席　議　員 …… 263
欠　席　議　員 …… 263
出席説明員 …… 264
議　事　日　程 …… 264
開　　議 …… 265
（一般質問）
米沢照男議員
1．市民本位の民主的な行政のいっそうの前進をめざし第５期革新日野市政の実現を！ …… 265
2．都保健医療計画策定に市民の切実な要求を反映させよ！ …… 275
竹ノ上武俊議員
1．天皇問題は主権在民と地方自治を守る立場での対応を貫け …… 278
2．百草台小学校周辺緑地への７階建てマンション建設について問う …… 293
福島盛之助議員
1．土地区画整理事業の推進と当局の対応問題点 …… 299
石坂勝雄議員
1．昭和64年度予算編成の基本方針を伺う …… 314
山口達夫議員
1．豊田南区画整理事業の進捗状況について問う（住民意思を尊重するルール作りはできないか） …… 333
散　　会 …… 343

○12月15日　木曜日（第５日）
出　席　議　員 …… 345
欠　席　議　員 …… 345
出席説明員 …… 346
議　事　日　程 …… 346
（一般質問）
小山良悟議員
1．森田市長、４期16年間本当にご苦労様でした。勇退の時期と思うがその考えを問う …… 347
2．市民の健康維持向上に市立病院の積極的な役割を望む …… 352
古賀俊昭議員
1．「日野市行財政改革に関する基本方針」は推進されているか（給料表の適正化、定数管理の適正化、ＯＡ化推進を中心に） …… 361

２．小学校校長の「米飯給食の回数を週二回にして望しい」との給食調理員への申し入れが、不当労働行為だとする職員組合の主張について …… 373
３．市役所の「赤旗」を撤去せよ …… 382
高橋徳次議員
１．東西平山区画整理の見通しとその間の問題点の対応について …… 384
２．旭が丘千代田自動車跡地の公団住宅建設と横河メディカル建設に伴う旭が丘小・四中学区の通学路及び周辺の交通等の整備について …… 391
奥住日出男議員
１．行政改革の進捗状況について問う――推進事項の具体的な取り組み内容とその実施率―― …… 395
小俣昭光議員
１．緑と清流を生かすまちづくりについて …… 412
散会 …… 423

○12月16日　金曜日（第６日）
出席議員 …… 425
欠席議員 …… 425
出席説明員 …… 426
議事日程 …… 426
開議 …… 429
（一般質問）
板垣正男議員
１．市民サービス向上めざす市政を …… 429
２．公民館、中央福祉センターの利用と建てかえについて …… 439
３．栄町地域にコミュニティセンターを …… 443
４．国際交流について …… 447
福島敏雄議員
１．文化都市日野市建設に向けて行政の活性化を追求しよう …… 449
中山基昭議員
１．行政の当面する課題とその対応について（主として都市生活環境の整備） …… 462
（議案上程）
議案　第118号　日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について …… 480
（請願上程）
請願　第63－26号　「宅地開発指導要綱」にもとづく公的負担の軽減に関する請願 …… 483
請願　第63－27号　旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願 …… 483
請願　第63－28号　鉄道共済年金の安定的財政確立に関する請願 …… 484
請願　第63－29号　日野市営グランドの充実を求める請願 …… 484
散会 …… 484

○12月23日　金曜日（第７日）
出席議員 …… 485
欠席議員 …… 485
出席説明員 …… 486
議事日程 …… 486
開議 …… 491
（緊急質問）
土木工事の不正疑惑！あいつぐ不明朗な公共事業について問う …… 491
（議案審査報告）　（総務委員会）
議案　第96号　日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について …… 527
議案　第97号　日野市職員の分限に関する条例の制定について …… 527
議案　第98号　日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について …… 527
議案　第99号　日野市市税条例の一部を改正する条例の制定について …… 529
（総務・文教・厚生・建設）
議案　第105号　昭和63年度日野市一般会計補正予算について（第３号） …… 529
（文教委員会）

議 案　第 80 号　日野市立幼児教育センター設置条例の一部を改正する条例の制定について …… 540
（厚生委員会）
議 案　第104 号　日野市立保育園設置条例の制定について …… 545
議 案　第106 号　昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算について（第１号） …… 546
議 案　第109 号　昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算について（第２号） …… 546
議 案　第110 号　昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算について（第２号） …… 546
議 案　第112 号　昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算について（第１号） …… 546
（建設委員会）
議 案　第100 号　日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定について …… 548
議 案　第101 号　日野市都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定について …… 548
議 案　第102 号　財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例の制定について …… 548
議 案　第103 号　日野市緑地信託等に関する条例の制定について …… 550
議 案　第107 号　昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算について（第２号） …… 551
議 案　第108 号　昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算について（第３号） …… 551
議 案　第111 号　昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算について（第１号） …… 552
議 案　第113 号　市道路線の認定について …… 552
議 案　第114 号　土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結について …… 552
議 案　第115 号　農業共済無事戻金の交付について …… 556
議 案　第116 号　南多摩農業共済事務組合の設立について …… 556
延　　会 …… 558

○12月24日　土曜日（第８日）
出 席 議 員 …… 559
欠 席 議 員 …… 559
出 席 説 明 員 …… 560
議 事 日 程 …… 560
開　　議 …… 563
（請願審査報告）　（厚生委員会）
請 願　第 63－27 号　旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願 …… 563
（建設委員会）
請 願　第 63－26 号　「宅地開発指導要綱」にもとづく公的負担の軽減に関する請願 …… 564
（取り下げ）　（総務委員会）
請 願　第 62－53 号　法務局の増員に関する要請についての陳情 …… 566
（文教委員会）
請 願　第 62－６ 号　公立中学校英語の授業時間増に関する陳情 …… 566
請 願　第 62－32 号　第三幼稚園における２年保育４歳児の増員に関する請願 …… 566
（総務委員会）
請 願　第 63－16 号　都営住宅家賃値上げ中止の意見書提出を求める請願 … 567
請 願　第 63－22 号　東京都住宅供給公社住宅の家賃値上げ中止を求める意見書提出の請願 …… 567
請 願　第 63－28 号　鉄道共済年金の安定的財政確立に関する請願 …… 567
（文教委員会）
請 願　第 63－11 号　日野市立第二中学校音楽室に机を設置させるべく日野市教育委員会に勧告に関する請願 …… 568
請 願　第 63－14 号　再び万願寺一里塚現状保存を訴える陳情 …… 568
請 願　第 63－29 号　日野市営グランドの充実を求める請願 …… 568
（厚生委員会）

請 願　第 62－19 号　東町地区公害に関する請願 …… 568
請 願　第 62－24 号　犬の不妊・去勢手術に関する市と市内病院（獣医師）との委託契約の改善と猫に対しての不妊・去勢手術に対する補助に関する請願 …… 568
請 願　第 63－ 3 号　保健、医療、福祉の拡充に関する陳情 …… 568
請 願　第 63－23 号　沢河広場に便所および水道設備設置並びに広場拡張に関する請願 …… 568
請 願　第 63－24 号　放射能測定器設置の請願 …… 568
請 願　第 63－25 号　コミュニティセンター建設に関する請願（建設委員会） …… 568
請 願　第 62－42 号　山王下公園周辺の市営駐輪場設置反対に関する陳情 … 569
請 願　第 63－ 9 号　日野市東平山地区における緑地を守るとともに、私有地の買い上げを求める請願 …… 569
請 願　第 63－18 号　「宮」町名存続要望に関する陳情 …… 569
（継続審査議決）
下水道対策特別委員会の継続審査議決に関する件 …… 569
スポーツ・公園対策特別委員会の継続審査議決に関する件 …… 569
交通対策特別委員会の継続審査議決に関する件 …… 570
市立病院等対策特別委員会の継続審査議決に関する件 …… 570
議員提出議案第10号　学校事務職員等の給与費国庫負担制度除外に反対する意見書 …… 570
議員提出議案第11号　旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する意見書 …… 571
閉　　会 …… 571

12月９日　金曜日　（第１日）

昭和６３年
第４回定例会　日野市議会会議録　（第41号）

12月９日　金曜日　（第１日）

出席議員　（30名）

１番	奥住日出男　君	２番	宮沢清子　君
３番	高橋　徹　君	４番	土方尚功　君
５番	山口達夫　君	６番	天野輝男　君
７番	福島盛之助　君	８番	福島敏雄　君
９番	中谷好幸　君	10番	小俣昭光　君
11番	川嶋　博　君	12番	馬場繁夫　君
13番	夏井明男　君	14番	小山良悟　君
15番	馬場弘融　君	16番	高橋徳次　君
17番	旗野行雄　君	18番	一ノ瀬　隆　君
19番	板垣正男　君	20番	鈴木美奈子　君
21番	中山基昭　君	22番	秦　正一　君
23番	黒川重憲　君	24番	古賀俊昭　君
25番	谷　長一　君	26番	市川資信　君
27番	石坂勝雄　君	28番	名古屋史郎　君
29番	竹ノ上武俊　君	30番	米沢照男　君

欠席議員　（なし）

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	長谷川暢男君	総務部長	坂本金雄君
市民部長	大貫松雄君	生活環境部長	藤浪竜徳君
清掃部長	小林修君	都市整備部長	前田雅夫君
建設部長	永原照雄君	福祉部長	高野隆君
水道部長	橋本栄萬君	病院事務長	大崎茂男君
教育長	長沢三郎君	教育次長	砂川雄一君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	佐藤智春君	次長	土方留春君
書記	田中正美君	書記	濃沼哲夫君
書記	佐々木茂晴君	書記	小林章雄君
書記	斉藤令吉君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3
立川速記者養成所　所長　関根福次
速記者　保木シゲル君

議事日程

昭和63年12月9日（金）
午前10時開会

日程第 1　会議録署名議員の指名
日程第 2　会期の決定
日程第 3　行政報告
日程第 4　諸般の報告

（請願審査報告）　（文教委員会）
日程第 5　請願 第 63－12 号　郷土芸能の保存に関する請願
日程第 6　請願 第 63－17 号　「中学校40人学級を3年生より行う逆学年進行方式実施」の為の日野市議会に対する請願
日程第 7　請願 第 63－19 号　義務教育費国庫負担制度堅持の意見書の提出を求める陳情
日程第 8　請願 第 63－20 号　義務教育諸学校の学校事務職員に対する義務教育費国庫負担制度の維持に関する陳情
（厚生委員会）
日程第 9　請願 第 62－30 号　老人入院見舞金制の制定と実施に関する請願
（建設委員会）
日程第 10　請願 第 62－3 号　「国民の食料を守り、農業再建に関する意見書」提出についての陳情
日程第 11　請願 第 62－29 号　多摩平六丁目32番地の8、9に建設予定のマンション建設阻止に関する請願
日程第 12　請願 第 62－36 号　米の市場開放反対、農畜産物の輸入自由化阻止の意見書採択に関する陳情

（中間報告）
日程第 13　特別委員会中間報告の件

（議案上程）
日程第 14　議案 第 117 号　日野市一般職の職員の昭和63年度12月期における期末手当の特例に関する条例の制定について
日程第 15　議案 第 96 号　日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 16　議案 第 97 号　日野市職員の分限に関する条例の制定について
日程第 17　議案 第 98 号　日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 18　議案 第 99 号　日野市市税条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 19　議案 第 100 号　日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 20　議案 第 101 号　日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定について

日程第	21	議 案 第 102 号	財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例の制定について
日程第	22	議 案 第 103 号	日野市緑地信託等に関する条例の制定について
日程第	23	議 案 第 104 号	日野市立保育園設置条例の制定について
日程第	24	議 案 第 105 号	昭和63年度日野市一般会計補正予算について（第3号）
日程第	25	議 案 第 106 号	昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算について（第1号）
日程第	26	議 案 第 107 号	昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算について（第2号）
日程第	27	議 案 第 108 号	昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算について（第3号）
日程第	28	議 案 第 109 号	昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算について（第2号）
日程第	29	議 案 第 110 号	昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算について（第2号）
日程第	30	議 案 第 111 号	昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算について（第1号）
日程第	31	議 案 第 112 号	昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算について（第1号）
日程第	32	議 案 第 113 号	市道路線の認定について
日程第	33	議 案 第 114 号	土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結について
日程第	34	議 案 第 115 号	農業共済無事戻金の交付について
日程第	35	議 案 第 116 号	南多摩農業共済事務組合の設立について
（請願上程）			
日程第	36	請願 第 63－23 号	沢川広場に便所および水道設備設置並びに広場拡張に関する請願
日程第	37	請願 第 63－24 号	放射能測定器設置の請願
日程第	38	請願 第 63－25 号	コミュニティセンター建設に関する請願

本日の会議に付した事件

日程第1から第13まで

午前10時32分　開会

○議長（市川資信君）　　これより昭和63年第４回日野市議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員28名であります。

これより日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員については会議規則第81条の規定により、議長において

12番　　馬　場　繁　夫　君

13番　　夏　井　明　男　君

を指名いたします。

次に日程第２、会期の決定の件を議題といたします。

議会運営委員長の報告を求めます。

〔議会運営委員長　登壇〕

○議会運営委員長（小山良悟君）　　議会運営委員会の御報告を申し上げます。

去る12月６日、議会運営委員会を開会いたしまして本定例会の会期を協議いたしました。その結果、昭和63年第４回定例会の会期を12月９日より12月23日と決定いたしました。

御承認のほどよろしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　　お諮りいたします。ただいまの議会運営委員長の報告のとおり会期を決定するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって会期は本日から12月23日まで、期日15日間と決定いたしました。

次に日程第３、行政報告を行います。

市長から行政報告を求めます。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　　本日より昭和63年第４回定例市議会を開くことになりましたので、よろしくお願いをいたします。

前回議会以降、今定例会に至る間の主要な行政事項について、私より３件につき報告を行い、他は提出資料をもって報告にかえさせていただきます。

その１、高幡土地区画整理事業地における新たな公共事業用地の確保について。

高幡土地区画整理事業16.8ヘクタールは、昭和61年に事業施行以来、地元と地権者の

御理解により換地作業が順調に進み、先般、権利者対象の指定前供覧を終えて、近く仮換地指定の事務を進めるところまでに至っております。

当土地区画整理事業は、この方面、将来の都市像に適応する市街地整備のほか、高幡不動駅前広場、同じく東踏切部分の立体化用地の確保など重要な公共事業を内容としているわけでありますが、今回、新たな地域施策を実施可能とするため、面積6000平方メートル余の公共用地確保を図りたい考えであります。それは、先般議会で請願採択されております南部地域病院を誘致するために必要な用地で、保健所の東、第八小学校の西を予定しております。既にこの区画整理事業審議会に御相談をして、おおむね賛成の了解を得たところであります。

施行者市では、この事業地において先行取得をしております約4000平方メートルの用地と保留地2800平方メートルをあわせ、新たな集合換地を行う計画であります。

この計画実施のために、今後地権者各位にも理解をお願いすることになりますので、議会におかれましても何とぞ御理解と御協力のほどお願いするものであります。

その２、大成荘の改築と林間施設の展望について。

山梨県有地を借地している大成荘は、改築を進める方向で基本計画に明らかにしたところでありますが、市民生活が多様化し余暇活動が活発化している現状にあって、大自然の中でのみ経験できるようなリゾート施策は、今後市民要望として一層強まるものと考えます。

今回、長野県安曇村乗鞍高原の村有地に契約を結び、雄大な自然環境の中で新たな施策の展開を思い立ったものであります。

本件については、安曇村との折衝、並びに実地視察を行いましたが、道路交通は便利よく、２時間半程度の時間を要しますが、中部山岳国立公園の一角に位置し、日本アルプスの乗鞍、上高地、穂高、槍などの高山群と温泉その他の環境に恵まれた自然条件を持つことを確認しております。

二つの林間施設の考え方としては、青少年の健全育成と体験学習の場として、それぞれの特徴を生かす展望が考えられます。

大成荘については、テーマを「少年の森」として林間生活を体験する場とし、乗鞍高原についてはテーマを「青年の森」として、登山、スキー、キャンプ場などの拠点施設としての位置づけが考えられます。

今後、これら林間施設の具体的計画に当たっては、「日野市林間施設検討委員会」を設けて市民の声を集約する方法をとりたいと考えます。

なお、この安曇村村有地借り受け契約に必要な当初経費を今回補正予算に計上しておりますので、よろしく御理解のほどお願いいたします。

その３、シティハイツ日野旭が丘（千代田自工跡地）の入居募集に関する住宅・都市整備公団との了解事項について。

住宅・都市整備公団によって旭が丘の千代田自工跡地に建設が進められている「シティハイツ日野旭が丘団地」607戸の一部221戸が来年３月に完成する予定の中で、このたび入居募集が始められることになりました。

住宅・都市整備公団の工場と住宅の一体開発によるシティハイツ日野旭が丘団地については、これまでにも報告をしておりますとおり、工業地域に立地する職住近接を命題とする新しい発想の住宅建設として、計画当初から事業者である公団と協議・調整を行ってきたところであります。

今般の入居募集に当たりましても、市内に所在する企業、事業所に対し、この開発の趣旨に沿って借り上げ社宅として地元企業より優先募集方式をとることになっております。去る12月５日には、市内企業総務担当者に集まっていただき入居募集の事前説明会を行ったところであります。

なお、当事業地の北側に接する市有地、高圧線下帯状の土地でありますが、約1000平方メートルと豊田駅前公団所有地約300平方メートルとの交換についても、ほぼ了解が成立していることをあわせて御報告いたします。

豊田駅に接続するこの交換地は、将来、豊田南口再開発事業とのアクセス施設に設計することが可能であります。

以上をもって私の行政報告を終わります。よろしく御理解のほどお願い申し上げます。

○議長（市川資信君）　収入役以下については報告書のとおりですので、報告を省略いたします。

これより行政報告全般についての質疑に入ります。石坂勝雄君。

○27番（石坂勝雄君）　今、市長の行政報告をお聞きしまして、２点ばかり伺いたいと思うんですが、高幡の区画整理の中に、今までの市の公社がお持ちになっているところへ先行取得の形で公共用地を持ちたい、公共用地というのは、非常に今の土地の高騰の中で持ちにくいんで、公共の用地を持つ、ということに対しては私は全く異存がなくて、積極的に地権者の理解なり高幡の区画整理組合の審議委員の皆さんの御賛同なり、地権者の賛同が得られれば、これはいいことだと思うんですが、ただ、議会の方でも、今市長の報告を聞くと南部地区の病院を云々というようなお話があったんですが、南部地区

の病院の問題は、現在、恐らく中間報告が、市立病院等特別委員会の委員長から中間報告があると思うんですが、非常に議会としても鋭意検討を加えている中で市長の構想は、私も厚生委員会なりその委員会に所属をしておりますので聞いておるんですが、１点、私が今の市長の行政報告を聞いてお伺いしたいのは、余り目的をきちんとうたっちゃって、その取得は結構なんだが、いろんな市民サイドから見たり、病院の、特に日野の二次施設というか公立病院が、高度の医療が必要な段階で今の市立病院では対応がし切れない、こういう中で、いま一角上がった二次的な病院施設というふうなことの中で、そういう南部の計画というのが、私、どういう市長の構想なのか定かでないところへ、余りに明確にそういうことで打ち出されることが特に今の時期に適切かどうか、こういうことに対して伺いたい。

これは、いわゆる公共施設を取得されるということに対しては、私は一つも異存がないが、何か内容についてまで、そこまで明確に言われるのはいかがなもんであろうか、こういうことでうかがいたい。

それから、いま１点は大成荘の、老朽化しているんでこれは直すんだ、ということはいろんな中で結構だと私これまた思うんですが、改築と、ところがその次が「林間施設の展望」という中で長野県のアルプス下というか、付近の安曇野というんですか、安曇村というんですか、この上、青少年の健全育成施設というんですか、そういう構想の中で、今度の補正予算に賃貸借の予算がのっているんですが、私が、いつも申し上げるんですが、昨年も老人特養ホームの問題の調査費というふうな形がとられた。今年度、私当初予算としてはこういうお話は聞いていなかった、こういう中で、せっぱ詰まったいわゆる最後の12月の定例会、しかも――その続きは、私、一般質問等でありますので、この市長の行政報告の中では差し控えたい、と思うんですが、ある程度政策的に加味するものも最終議会にお出しになってくる、こういうことでなくて年度の初めにやられることが必要ではなかろうか。

私も間接的には市長からも聞いていますんで、教育委員会関係のえらい熱情に市長が動かされたようなお話も漏れ承っているんですが、そういう中で私、このこと自体に――市長の提案というのは、大変いいことがほとんどなんですね。それだけに私も、そのことだけにいいとか悪いとか言わされると、非常にいつも良心の呵責に追いやられるんですけれどもね。

ただ、少なくとも我々議会のチェック機関としては、やっぱり理事者の出すものは何でもいいことなら、うのみでいいんだ、こういうことではならんじこないか、やっぱり

きちんとしたルールに則って、やはり、しかるべき段階でどう手順を踏んでやるんだ、こういうことも必要ではなかうか、こう思うんです。

いま少し、恐らく補正予算が出ているんで、その中で該当委員会で恐らく議論があると思うんですが、いま少し市長の――私から言うのは、こういう政策的に近いというんですか、一つの新しいビジョンを掲げるには、やはり教育委員会関係であっても、いわゆる財政権というんですか、予算は、やはり執行者が握っているんですから、そういう点は年度当初にやるべきではなかろうか。いつでも――いつでもと言っちゃ失礼かもしらんけれども、昨年もいいことだ、という特養ホームが出た、ことしもまたそういうものが出てきた、こういうことでは、ちょっと私も、いま少し従前の計画、議会に対してもいろんなアプローチがあってもしかるべきではないか、こう思いますので伺いたいと思います。

以上、２点です。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　おっしゃる意味は、よく理解できるわけであります。

一番目の、この高幡区画整理地内に公共用地を確保したい、これは一般論として提案をする範囲でもよろしいわけでありますが、多分また、それを何に使うかということもあわせて予測を申し上げておく必要もある、こういうことでございまして、今日、市立病院の特別委員会も設けられたり、つまり、これからどのように日野市の医療体制を確立していくか、ということは大きな課題になっておるわけでありますし、いろいろな考え方があるわけでありますけれども、私はやっぱり、議会でもその請願採択をされてあった、また、その請願採択には事前に十分それらのこともあわせ考えた、ということでたまたま南部地域の医療施設、医療機関ということに対しましても十分お答えをしなければならない時期だ、このように考えておるわけでございまして、今回その用地の確保について御報告を申し上げる。何々に、ということを余り明確にということは、少し間の手順が欠けている、ということであるならば、今、御指摘になったような手順でこれからの質疑を進めていきたい、こういうように考えておるところでございます。

それから、林間施設のことにつきましては、かねがね大成荘の改築ということにあわせまして、もう少し新しい機能を付加したいものだ、ということを考えてまいりました長野県の八千代村とか、あるいは富士見町あたりで、ある程度の視察も行ったことがあるわけでございますが、今回、一つのきっかけがございまして、今御報告をしたような非常に見込みのある事例に当たった、こういう機会でございますので、確かに提案の順

序もあるとは思いますが、来年の当初予算にこれらのどのような取り組みをするか、ということをかけるに当たりまして、やはり用地が一応保障されておる、ということが大切な要件だと思っておるわけでありまして、このような提案でちょっと唐突というふうに指摘される面があろうかと思いますが、経過はそのようなことでございますし、それから相手があることでありますし、また、全く競争がないわけでもないわけでありますので御理解をお願いしたい、と思っております。

○議長（市川資信君）　　石坂勝雄君。

○27番（石坂勝雄君）　　再度の御答弁はよろしいと思いますが、ちょっと私の考えだけ申し上げておきますけれど、高幡の区画整理内のいわゆる公共用地の取得をされる、ということに対しては、私も全く異存はございません。

ただ、いわゆる南部地区の請願の採択云々という市長の答弁であったんですが、あれは、特にあの請願は南平というような、ある程度限定された、南部地区といってもそういうことがかなり強く出てきた中で今まで推移してきたと思うんですね。しかも現在、再度私申し上げますが、議会としても特別委員会で市立病院等の検討に入っている。こういう中で余りそのことが、何か格好よさではなかろうかと思うんですが、出ると、いわゆる市民というのは、非常に何というか、すぐにでもなるんじゃないか、という期待感があるんですね。その辺のところを、長年おやりになった市長さんのことですから、現にいろんなことをお考えになって、公共用地の取得ということで、私、今聞いていると、余り内容のことは、というような含みもあるようですから、その辺のところをひとつ、私、お願いをしたい、こういうふうに思っております。

それから、その次の長野県の、私はこういう施設を持つことに対しても、これは真っ向から云々ということじゃなくて、私、日野とのいわゆるレットランド、姉妹都市関係を結んでいるところも、やっぱり実際には行ったり来たりしなければ本当の意味がないということと同じように、私どもは確かに富士山麓だろうがアルプスの山麓だろうが、こういう施設をつくってするけれども、やはり、その地帯に行って、特に日野みたいにいわゆる30年前まではすごい都下で有数な穀倉地帯であった、こういうところが一躍都下でも有数な、いわゆる住宅街であり働く場になってきた、こういうことを思うと今の特に若い人は、過去をともすると社会教育の場のあたりで教えたり、いろんな歴史的な経過をしないとわからないんじゃないか、こういう中で、やはり非常に空気もいいし場所も広いし、それから、特にいろんなすさんだ世の中で私も保護司をやっているんで、特に中学３年ぐらいの者を保護監察をやってるんですが、そういう中で確かに違う面へ

行って、そういう団体生活を通して、いわゆる話し合いの場というんですか、教師と触れ合ったりリーダーと触れ合ったり、そういうことは必要だと思うんですが、私、何ていうか、むしろそこの、年間なかなかうまく利用するという形をとれるのかどうか。

それから、いま一つは、村なり町なりと市なりと、行政的も踏まえて姉妹都市というか友好関係の何かを結んで、ただ借りて、ただつくっちゃってやっているということで果たして――一時、私なんか、まだまだ出る前だったんですが、大成荘を借りたときは、やはり一面的に前は各市がお持ちになった時代だと思うんです。恐らくまた、その前も一面的にそういうことになるんじゃないか。うちにおいては市民会館を初め随所に箱物が完備している、また今度は、外にそういうものを求められるということは、非常に日本の働きバチということからいけば親たちに余裕が出れば――特に子供たちの土曜日が休みになる、中央官庁は、もう来年から土曜日が月２回、法律で決まる、こういう中で、私も確かに余暇利用ということが、土曜日をどうするか、という問題があると思うんですが、ただそれには、もっと前からきちっとした、いわゆる小学校、中学、特に中学、高校あたりの者のリーダーの養成というか、あんまり飛びはねた、いわゆる上の人だけが、よく昔は餓鬼大将という者がいたから縦割りでうまくできたんだ、ということと同じように、その辺の問題をもっと地道にやることがあるんじゃないか、こういうふうに思うんですね、市長。ただ何か箱物をつくって、ということは、少し何か――私は教育長なり教育委員の人にもそういうサイドが強い要望であるというなら伺いたい、こう思うんですが、その辺のところを熟慮してこういうことは、やるべきではなかろうか、市長は唐突でない、と言うけれど、今のところはわずかな賃貸借の費用だけであるんですが、かなりの予算を食っていくものになるんではなかろうか、こう思うんですね。慎重な御配慮をお願いしたい、ということを申し上げておきます。

以上です。

○議長（市川資信君）　　谷　長一君。

○25番（谷　長一君）　　この高幡土地区画整理事業の件につきまして、公共用地の取得ということでお伺いしたいんですけれども、この高幡の土地区画整理事業は、16.8ヘクタールの中にこの6000平米の南部地域の対策として病院をつくる、ということでありますけれども、いわゆる、ただいまの市長の話によりますと指定前の供覧ということをおっしゃられたんですけれども。それから、その仮換地指定ということになるんですけれども、この指定前の供覧のときに意見書等が出されたかどうか、ということをお伺いいたします。

それから、いわゆる6000平米というのは先行取得であり、またその2000平米の公共用地は、保留地の集約換地ということによって生み出される、ということでありますけれども、これらの点につきまして、この集約換地ということになると従前そこに土地を持っていた方が外へ出されるわけですけれども、そうなると、この指定前の供覧等におきまして意見等も出た、というふうに考えざるを得ないんですけれども、この指定前の供覧に意見書が出たかどうか、というのが第１点です。

それから、あと一つは、いわゆる高幡の土地区画整理事業ということを考えてみますると、この商業地の発展を促すように整備をする、それで北側の農地等については病院ができるというようなところ、そのあたりは、これは今農耕地であり、将来は優良な住宅地の造成を行うということであります。

そういうことになりますと、住む人が健康で快適な生活を営むことのできる環境のよい町ということになるんですけれども、果たしてこの南部の病院、これが、この6000平米程度の土地にどのような規模の病院がつくられるか、やはり面積によって病院の規模というのは、おのずとわかるのではないかと思います。そうなると、この用地の確保ということになると、今度は土地区画整理事業ですから審議会というのがあるのではないか、と思うんです。そうなると、この用地の確保等につきまして、審議会は、これは同意事項ですから同意が得られているのではないかと思うんですけれども、そのあたりについてもお伺いをしなければならない、というふうになるわけです。

そこで、さらに日野市には、市立病院等対策特別委員会というのがあるんですけれども、それで今回、ここで市立病院対策特別委員会の中間報告というのが出されるわけですね。そうなると、この特別委員会と南部地域病院ということにつきまして、どのような打ち合わせ等が行われて、このような形になったかどうか、という以上の点につきましてお伺いいたします。

○議長（市川資信君）　　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　　それでは、第１点につきましてお答えをいたします。

御承知のように高幡の区画整理は、昭和61年５月31日に事業認可を取りまして事業が発足をしております。面積が16.8でございます。

それから、今、病院の話が出ましたけれども、この地域でございますけれども、京王線から北側でございます。この面積が12.4ヘクタールでございます。区画整理の作業でございますけれども、事業認可を取りまして換地の作業をしてまいりました。本年４月１日に法律に基づかない、いわゆる任意の仮換地の供覧をしたわけでございます。それ

で、この供覧につきまして各権利者から意見を聞きまして、意見が妥当で修正可能なものにつきましては一部修正をしまして、第二次の供覧をしたわけでございます。

それで現在、11月でございますけれども、換地計画の決定、それから、京王線北側の12.4ヘクタールの仮換地の指定につきまして審議会の意見を聞き、同意を得たわけでございます。それで、京王線の北側の12.4につきましては、仮換地の指定をこの12月から来年の３月にかけまして行うということでございます。

この公共用地の確保の件でございますけれども、今申し上げましたように、いわゆる換地の計画が決定し、それから仮換地が既に発表されておりまして、この用地を集合化するということになりますと、各権利者の同意を得ながらまとめていく、ということになるわけでございます。したがって、仮換地の決定の前に集合化をする、ということではないわけでございます。これから、各権利者の同意を得ながら公共用地の確保を図っていく、そういうことでございます。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　区画整理の手順は、今、部長が説明をしたとおりでございますが、いわゆる公共用地の確保、その目的には病院誘致があります、というふうに申し上げておるわけでありまして、その市立病院との関係をどうするか、ということも当然伴ってまいります。

今、地域保健協議会、御承知のとおり日野市の医療行政につきまして御相談をする場としての地域保健協議会がございます。地域保健協議会には、かつて議会にも御報告をしておりますとおり、今、東京都で進められております病床をどのように医療圏に配当するか、ということにつきまして、日野市の意見として300床の、現状からいうとどうしても300床は日野市内に確保できるように、そういう反映を計画の中に入れてほしいということを知事あてに要請をしている、ということを既に申し上げております。

また地域保健協議会には、日野市の南部に対します医療施設、これの地元の大変な医療が希薄である、市立病院では十分対応できない、そういう不安があるわけでございますので、その解消をどういう方法でとっていくか。

そこで、過去の話であり、また実現のできなかった南部の医療の経過でございますが医師会でも、南部には百数十床の病院がかつて民間病院の計画としてあった、これを承認をされております。したがって、それの流れの中で実現を図っていく、ということが一つには必要であり、またそれには行政がある程度関与して、そして誘致というような形でもとらないと、なかなかその目的が達成できない。

別な話で恐縮ではございますが、先ほど南平というような話もございまして、もしダイクマの店舗が出店とならないで、あの場所にでも地主さんが医療機関を計画していただければ、非常にいい場所だ、というふうには見ておりましたし、そのようなお願いをしたわけでありますが、そのことは成就いたしませんでした。

そこで、これからの方向といたしまして、南部の地域病院を市の行政指導によって確保したい。市立病院との関係も当然生じますから、市立病院のこととともうまく整合して取り組んでいきたい、このことの発想によりまして、私は市立病院の計画も非常にはっきりしてきた、このように言えるように思っております。

○議長（市川資信君）　谷　長一君。

○25番（谷　長一君）　区画整理の方の関係は、それでいいと思いますけれども、私は、市立病院対策特別委員会の委員長さんとか副委員長さんがおりますので、この方との話し合い等がなされたかどうか、ということですよね。これは、どうしてかといいますと、片方においては、このような対策特別委員会をつくりまして鋭意市民の皆様方の期待に沿うべく一生懸命努力をしている、ということなんですけれども、突然、きょうこのような、また行政報告がなされるということは、やはりこの議会と市長との関係、行政という関係をスムースに押し進める上において必要なことでありますのでお伺いしたけれども、そのあたりにつきましては、まだ答弁がなされていないんですけれども、そのあたりはどうなのか、もう一回お伺いいたします。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　請願審査の際に厚生委員会には出席をいたしまして、そのようなことをおおむね御報告はしたと思っております。

それから、特別委員会にはぜひ出席をしてお話をしたい、という気持ちは持っておりましたが、機会を得ませんでしたので委員長さんには別の方法で、ある程度お話はしたこのように申し上げられると思っております。

○議長（市川資信君）　市長か都市整備部長、先ほどの谷　長一君の質問の中で、審議会の中で意見は出されなかったか、という質問に対して答弁がなされてないように思いますが、その点についてもどちらか御答弁をお願いいたします。都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　お答えいたします。

先ほど、高幡土地区画整理事業の作業の流れにつきまして御説明を申し上げたわけでございます。要するに仮換地の、いわゆる換地計画の決定、それから一部仮換地の指定の作業が動き出しておったわけでございますので、この公共用地の集合化ということに

なりますと、換地計画及び仮換地の指定とあわせ、ないしはそれ以降になりますけれども、各権利者との話し合いの中で集合化をしていく、ということでございます。

したがって、縦覧等におきまして各権利者から意見が出る、ということは、もちろん作業のタイミングからいってあり得ない、ということでございます。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　先ほどの報告の中で、高幡区画整理審議会にもこのことの御相談をした、そうして、おおむね了承を得た、このようにお答えをいたしております。谷議員さんの前段の質問は、一般論として区画整理を行います際の事前の換地の供覧、換地案の供覧、その際に意見書というものも出るわけであります。私の聞いているところでは、意見書の数は極めて少なかった、そして、それらにつきましては、このこととは別個な処理の仕方になるわけでありますが、その意見を尊重して修正もし、また審議会の同意も得た、こういうことで換地事務が進んでいく、このように御理解をお願いしておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　今、市長の方から「大成荘の改築と林間施設の展望」ということで行政報告をいただいたんですが、私も過去何回か大成荘の改築については質問をしてきましたし、今回も市営の保養施設を、ということで一般質問も出しているんですが、実は林間施設の展望ということで長野県の安曇村ですか、ここに決定したような話も今ありまして、補正予算にも組まれている、というお話が今あるんですけれども、大成荘の改築が具体的に、基本計画の中では65年だと思いますけれども、そのころから構想を具体的化していく、というふうになっております。来年は64年の４月ですから、それとの兼ね合いでいきますと、この林間施設の展望というのも普通ですと、その計画に沿えば、やはり65年に――64年に構想を立てて65年から、計画どおりですとそういうふうに進むわけですけれども、今回予算を組まれて、という話があって非常に急展開をしているわけです、というふうに受け取れます。基本計画で、かなり各係、課で練り上げてきて、実施計画のところで財政的な裏づけもして持ってきたわけですが、今回、急遽こういうふうな形になっているな、というふうに受けるわけです。

その辺、心配しますのは、この間の特別養護老人ホームではありませんけれども、あれも市長の方と担当の方の行き違いがあったのかな、というふうにも思うんですが、市長の方でどんどん進められていって、ひとつの形ができ上がりつつあるわけですが、それにしても、そのときに検討委員会をつくって、やはり練り上げていくべきではないか、

という議論もありました。拙速に過ぎるんではないか、規模からいっても将来的にはどうか、ということも、さまざまに議論されたわけです。日野市議会としては、特別養護老人ホームをつくるということは賛成である、ということで、どなたも反対の立場ではなくて賛成の立場から、さまざまな疑点をただした経緯があるわけです。

今回も、この点、安曇村で林間施設をつくるということについては、そうかな、というふうにとらえているわけですが、２年間ぐらい、急遽展開を早めたといういきさつ等も、ちょっと私には唐突的に見えますので、この点、もう少し丁寧に御説明していただきたい、というふうに思います。

もう一つ、日野旭が丘千代田自工跡地についての話ですが、原則として今市長がお進めになっている構想ということは、私も十分理解できますし、そうあってくれればいいな、というふうな立場からお聞きするわけですが、借り上げ社宅というふうな、職住接近構想の借り上げ社宅というふうなお話もありましたけれども、実際こういうふうな構想で進めることが十分に可能なのかどうか、その辺の、この構想が実際には、それほど需要がなかった、というふうな結果にはならないのか、その辺をちょっとお聞きしておきたい、というふうに思います。

３点目は、実は11月の26日付で「日野社会教育センター職員一同」ということで、私のところに、はがきがまいりました。非常にちょっと唐突な感じがしましたので、この辺、市の方も情報を得ていると思いますので、担当の方で御報告をいただきたいんですが、ちょっと「報告集会の御案内」ということで読ませていただきますと、「ひごろより社会教育センターに温かい御理解、御支援をいただきありがとうございます。さて、11月５日の緊急集会には、問い合わせを含め延べ200人の方が御参加くださいました。日野社会教育センター発展のための親身になっての御発言、大変ありがとうございました」――私は、この緊急集会には参加していないわけですが、存じ上げておりませんでした。「おかげさまで――次なんですが、私たち職員一同が要望した館長人事、岩崎副館長を新館長に、ということと、センターの大事な方針は日野市と相談なくは決められない、ということについて、社会教育協会にも認めていただくことができました」こういうふうにあります。

この辺、日野市と相談なく決められないということで２点ありまして、人事の問題とセンターの大事な方針と二つあります。この点、どういうふうな内容であったのか御報告をいただきたい、というふうに思います。

それから、４点目になりますが、これは教育長の方に情報として得ていれば御報告をいただきたいんですが、情報として得ていなければ、また後でお調べいただいて御報告いただきたいと思いますけれども、10月にいわゆる40人学級の請願運動がありました。その請願運動の中で実は日野市の――まだ尾を引いているわけですが、いわゆる変形40人学級について自民党、公明党は、これについて理解を示さなかった、というふうな穏当な内容ならいいんですが、かなり罵詈罵倒した文書をつけまして、その請願運動と一緒に文書が回りました。その文書の回り方が問題でして、市立の小中学校の先生から生徒の父母へ回りまして、そこから請願署名運動として回ったいきさつがあります。

先生方の政治的な行為ということで、私も、どの辺まで限界があるのかということで前に一般質問させていただきました。請願運動ですから、その辺はまた若干違うと思いますけれども、私が問題にしますのは、法的な問題もあると思いますけれども、要するに、こういうふうな日野の市議会を二分するような賛否両論あって、おのおの理由があったと思いますが、そういうふうな内容を一方的な立場から特定の政党を、また複数党を罵詈罵倒した文書を小学校、中学校の教職員の方から、教員の方からそのクラスなり学年なりの父母のところへ文書として流していく経緯ということは、非常に穏やかではない、というふうに思うわけです。

その生徒の背景には、やはりお母さん方もいらっしゃいますし、お父さんもいらっしゃる。そういう方から見れば、やはり教育の偏向性といいますか、そういうことに対して厳しい意見も、私は出てくるだろう、というふうに思うわけです。

こういうことが、何かあるごとに教育現場で行われるようなことがあれば、将来的には非常に大きな禍根を残してくる、というふうに私は思うわけです。その辺、教育長の方としてその実態をつかまれていれば、その報告をしていただきたいですし、そういうことがやはり法的には許されるんだから、それは議員さん、大目に見た方がいいですよ、というふうなお立場なのか、やはりその点は、法的には許されるか許されないか、その詰めもありますが、どういうふうに教育委員会として基本的にはお考えなさるか、その辺、お聞きしたいと思うんです。

以上です。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　林間施設につきましては、本来、教育委員会の所管に置いてありますので、ごく細部に当たりましては教育長の方からお答えをいたします。

大成荘の改築につきましては、基本計画の中で64年に設計、65年が実施、こういう内容になっておるわけでありますが、私も大変気になっておりますが、あそこの面積が１

万4000平米、そこに3000平米の施設をつくることは、私は不可能だ、また無理がある、このような気がいたしまして、何か新しい要素を加えたい、そのことが一つの思考の中に絶えず残っております。今、結果、考えておりますのが、その3000平米を二分して大成荘は2000平米、そうして収容人員100名規模、それから安曇野の方を考えると安曇野の方には1000平米、50人規模、こういうことが適切ではなかろうか、こう考えられております。

大成荘は御承知のとおり、かなり冬場は寒冷でありますし、それから、あそこの地質、地形、樹木が余り育たない、という悪条件もあるわけでありますし、また造成を広げるということもちょっと無理がある。そこで、2000平米に直して100人規模にし、また別の機能を別の場所に加えるならば、ちょうど理想的に行くんではなかろうか、こういう配慮が、考え方がございます。

それから、旭が丘ハイツにつきましては公団と、かなりやり合いまして、工業地域に住居をつくるということは、工業を優先する立場の住宅でなければおかしい。そして、工業地域に生活本位、あるいは永住というような形で立地を認める場合には、工業地域そのものが、また将来無理が伴ってくる。そこで、賃貸であり、その賃貸がまた社宅的用途で住宅を供給することが望ましい。また、それもなかなか都市整備公団の内部の募集規定からいいますと多少無理があることだ、と思っておりましたが、東京支社は、よくそのことをのみ込んで日野市の御要望はごもっともだ、ということになりました。

ただ、家賃がかなり高いもんですから企業側がうまく乗っかってくださるかどうか、これは一つの問題がございます。私も説明会には立ち会いまして、つまり日野の行政施策としてよく理解をしていただきたい。こういう無理なことは、公団には本来あり得ないことなんだけれども、つまり職住近接という意味は、地元が使う、そういうことになるわけですからその趣旨をよく理解をして――社宅は個人で解決すべきこと、というふうに言う企業もありましたけれども、今日優良な企業は、社宅もともに保証するくらいの考え方が望ましいことではないでしょうか、というふうに今説明をいたしておりまして、公団は急いでおりますが、ある程度のそういう関係は理解される、このように見ております。

それから、社教センターのかかわりますビラとおっしゃいましたが、私の知っておりますのは、社会教育協会では今回理事長の交代がございました。今までの有光理事長から山下理事長に交代がございました。その際、社会教育協会そのものもかなり今日の社会教育事業には、つまり資金の流れが意のごとくならず、といいましょうか、私は企業

からどんどん寄付をしていただく立場でしょう、つまり日本が健全に資本主義が機能しているのは、社会教育がしっかりしているからだ、といって企業から金が来るように交渉なさるべきでしょう、とこのようなことを言っておったわけでありますが、ともかく交代がございました。その際に、日野の、いわゆる日野社教センターを何か財産と考えられて、本部流の何か計画がちょっと示されたようなふうに聞いております。ですから、これは日野市と相互信頼に立って、全く地域社会に奉仕し社会教育手段で貢献をしてもらう、という関係で成り立っております。

そういうことをある機会に説明をして、その新しい理事長によく理解をされました。それならば確かにそのとおりだ、設立当時の初心に返って日野市に十分社会教育的事業を展開をして、そして、そのことの評価をもっと広い社会に広げていきたい、こういう考え方に立たれたように承知しております。前回、運営協議会がございまして、その場でもそのような趣旨が合意されております。

あそこに働いている方々は、かなり給与上にも無理があるわけであります。そのようなことで不安が多少あったかもしれませんが、それらは、すべて解消をした、このように理解をいたしております。

そういうことでございます。

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　第４点目の40人学級の問題で、何か政治的な行為が行われているんではないか、という形での御質問でございますけれど、私の方では、今回組合が直接請求運動という形で、40人学級の完全実施ということで、都議会に向けて直接請求運動を10月、11月にかけて署名を集めて展開している、というそのことは承知しております。

ただ、この署名については、公務員である教職員が直接その請求人というような形で運動に加わる、ということはできない。このことも校長会等を通して、よく現場の方にも徹底をさせております。

ただ、今、夏井議員さんの方から御質問がありましたそれと絡んで、昨年度の変形40人学級問題を通して特定の政党を罵詈罵倒するような、そういう関係のチラシ、それを含めながら父母の方へそういうものがおりている、ということにつきましては、全くそういうチラシを見たこともございませんし、毎月、定例的に校長会あるいは教頭会等を持っておりますけれど、そういう中でも今まで、そういう関係での報告、あるいはこういう運動をしている部面があるけれど、それはまずいんではないか、というような形で

の意見、そういうものは全く聞いておりません。

もし、そういうことが事実であるといたしますれば、これは当然教育公務員といたしまして、特定の政党を支持し、あるいは反対する目的を持って教育をする、ということは、これは今の教育公務員法の中にもきちっと規定されている内容でございますし、よく内容を調査した上で一応対処したいと思います。

○議長（市川資信君）　夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　それでは、大成荘の林間施設の展望については、予算の方でのっているというお話のあった、早めた基本的な考え方ということは、ちょっと市長の方から残念ながら御答弁いただかなかったわけですが、これは、各いろんな行政の手法では共通する問題だと思いますので、またお聞きしたいと思います。

それから、３番目の旭が丘の千代田自工の跡地については、よく市長の御努力も理解できましたし、ぜひ成功できればなあという思いでおります。

日野社会教育センターについての今の市長のお話で、日野市における社会教育センターの存在、役割ということを新しい理事長にお話をされた、ということで、それはそうかなというふうに受け取るわけですが、私が一番基本的に心配をしますのは、一つの財団法人として、一つの独立体としてある。日野市が、大きいか少ないか議論はありますが、補助金を出されている。原則的には、お金は出すけれども口は出さないよ、というふうな建前が原則的には貫かれているだろうと思うんです。

そういう意味で、慎重を期する意味で運営委員会とかいうところで、こちらの意見、要望も言わせてもらう。ただ、中についての経営とか人事とか運営方針とかについては、それなりの限界がありますから、そこら辺のことをわきまえていかないと、今ちょっと心配しましたのは、待遇についてもかなりいい方向ではないか、というお話がありましたけれども、市としてできる限界の基準というものを明確にお持ちになっていませんと、ほかの団体、ほかの法人、そういうものに対して市で何らかのかかわりをもっていった場合に、極端に言いますとずかずか入っていってしまう、というふうなこともありますから、その辺、結果がよければ、ということもあるかもしれませんけれども、そこら辺の限界を慎重に見きわめながらおやりいただかないと、最終的には、この日野社会教育センターと日野市との関係が長期的には、要するに悪い関係を私は生じて来るだろう、というふうに思いますので、その点、意見として申し上げておきたいと思います。

それから、教育長の方で先ほど御答弁いただいたわけですが、私が心配しますのは、非常に内容もありますけれども、そういうふうな経路をたどってきて、そういうものが

出てきたということは、教育の根幹にかかわってくる問題で、ある意味では教育の中身を崩していってしまう、親と先生の信頼関係、生徒と先生の信頼関係を根底から崩す結果になる、ということを、法律に触れる触れないは以前の問題として、教育に携わっている人であれば当然それが一番注意しなければいけない点で、その辺についての配慮といいますか、そういう点について、非常に運動をおやりになった方も軽率だったし、いけないんではないかな、というふうに思って、あえて質問させてもらいました。

中身についての、そのチラシについては私も持っておりますので、また見ていただいて今後の教育の行政の中で運営していただければありがたい、というふうに思います。

以上です。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　何点か質問させていただきます。

まず関連をして、最初に今質問がありました高幡の区画整理事業区域内の公共用地の確保についてお尋ねをいたしますが、審議会の同意事項となっている件については、既に審議会の皆さんにお諮りをして修正が行われた、つまり同意が得られた、というふうなことだろうと思うんですが、いつの審議会でこの南部地域の病院についての計画が発表され、同意が得られたのか、審議会の開催の日時、それから議案となった件についてはどういう形でこの件が提案されたか、その点をお尋ねをいたします。

それから、病院ということになりますと用途地域のことが絡んでくると思うんですが、私も詳しくはわかりませんが、現在区画整理が計画実施されている区域において、今後、準工だとか１種住専地域と２種住専等の用途が確定をしていくわけですが、病院を今回計画をするということになりますと、この用途地域との関係で多少の計画変更が再度必要になってくるのではないかと思いますが、この点についてお尋ねをいたします。

それから、先般、多摩南部地域に東京都が多摩南部地域病院を５年後をめどに、多摩センターの駅から南西約１キロの地点に病院開設を計画をした、ということで、病院の位置等も発表されているわけでありますが、この東京都が計画をしております南部多摩地域病院は二次医療が中心だ、というふうに聞いております。約300の病床を持った病院ということでございますが、今回の日野の南部地域に考えておられる計画が、市で持っておられる内容と、この多摩センターの近くに計画をされる病院と、地域のいろいろ医療の適正な配置ということからすると、多少その辺の調整が必要ではなかろうかと思いますが、この多摩南部地域病院との関連はどのようにお考えになっているか、お尋ねをいたします。

それから、昭和62年、昨年になりますが、日野市でやっとつくられました基本計画、これには昭和68年までの細かい事業が、実施されるべき事業が掲載されているわけでありますが、これには、南部地域の病院をいつから着手するということは、全く触れられていないわけでありますが、突如ここで浮上をしたということで、この基本計画との関連についてはどのようにお考えになっているか、この点をお尋ねをいたします。

それからもう一点は、いつもそうなんですが、議会にこうした大事な――私ども、大きく用地が確保されたなということで、進展をした、ということで感心をするわけでありますが、この議会の行政報告の前に、もう既に共産党の「赤旗」では12月５日号に大きく写真まで入りまして、「待っていました市南部の病院、日野、用地を確保」ということで大きな記事が出ております。「赤旗」を呼んでいる人は、もうこの高幡の区画整理事業地内に市立病院ができる、ということを一早く知ることができたわけでありますが、この記事の中を見てみますと、10月には高幡の区画整理事業地域に2000坪の用地を確保したことを明らかにしました。既に用地を確保した、というふうな表現が記事の中にも、それから見出しにも出ているわけでありますが、市長は、これから用地を確保していきたい、というその見通しを今回述べられたわけです。用地が確保された、という「赤旗」が正しいのか、用地を確保したい、という市長の今回の報告が正しいのか、どちらかがうそをついていると思うんですが、この点についてお尋ねをいたします。

まず、関連の部分について先に回答を得たいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　それでは、私の方から１点及び２点につきましてお答えをいたします。

１点目の審議会の関係でございますが、これは本年の10月の12日でございます。高幡土地区画整理審議会の協議会という形でお諮りをした、ということでございます。

先ほど谷議員さんからもちょっと質問がございましたけれども、法的に審議会に諮るものと諮らないもので事務連絡、あるいは協議事項ということで審議会にお話をしているわけでございますけれども、この公共用地の集合化といいますのは、いわゆる仮換地の作業が九分どおり完了しているわけでございます。その中で、この京王線から北側にあります区域の中の市有地、あるいは保留地を集合化をしよう、ということでございますので、法に基づく集合化ということではなくて、先ほど申し上げましたように各権利者の理解と協力を得て集合化をする、そういうものでございます。

したがって、この審議会につきましては正式な議題として諮るものではないわけでございます。今後の土地の集合化に当たって審議会の委員さんの協力も必要でございますので、事前にお話をした、そういうものでございます。

それから２点目は、用途地域の問題でございますけれども、用途地域につきましては全市の見直しをいたしまして、来年の３月ないし４月に、ということで作業を進めているわけでございます。その中で、この地域につきましては、ちょうど中ほどに東西に準幹線的な道路がございます。この道路の南側が第２種住居専用地域、それから北側につきましては、第１種住居専用地域の予定でございます。

病院につきましては、用途地域は第２種住居専用地域以上でないとできないわけでございます。第１種住居専用につきましては、つくる場合には建築基準法に基づく許可を得る、という手続きになります。

用途地域をこれからさらに見直しをするか、あるいは許可でいくのか、その辺は今後の推移を見ながら対応していきたい、というふうに考えております。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　今日、この医療圏ということで、いわゆる病床規制の論議がなされておるわけでありまして、これは東京都が最終的には決定をされる、という性格のものであります。

それで東京都は、都立多摩南部病院、そういう仮称で多摩市に用途が予定をされておる。たしか開設68年ごろが予定をされておる、と思うわけでありますが、それに病床は300、そして都立で二次医療を目指す、こういうふうに言われておるわけでありますが、これは南部医療圏という、つまり、やや広域の範囲で理論化されますので、私どもは、その南部医療圏の中で日野医療圏には、あと300床、ぜひ最小限に必要ですからそのことを認めてください、ということを提起しております。

したがって、将来交通路としてはモノレールの系統に都立の病院、それから日野地域にも日野の南部病院、こういう関係は、何となく同じ線上ではないか、という感じがしないわけではありませんが、そういうことで別段、特別に競合するという関係ではありません。むしろ、ある程度、機能分担をしながら役割がおのずから定まっていく、こういう性格で臨むべきものだ、このように考えております。

それから、４番目に基本計画との関係は、基本計画では市立病院のいわゆる改造といいましょうか、これは期間の中の後期に取り組む、こういう考え方でなっております。

そして、今質問の「赤旗」新聞に、既に用地が確保されたごとく公表された、こうい

う御趣旨のようでありますが、私は、それは別段特定のところに何か発表するなんていうことは、したことはないわけです。ただ、地域保健協議会にはこのことを発表してございますので、地域保健協議会には厚生委員長もおられる、こういうことではないかと思うわけでありまして、特別に市民一般に発表すべき事項は、順序を間違えるなんていうことは、私はございません。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　大体わかったんですが、南部に病院をつくるべきだ、という市民の要望は、かなり以前から強いものがあるわけでありますので、きちんとした手順を踏んで早急にそれが実現するということは、まことに望ましいわけでありますが、やはり場あたり的にならないように市民の期待に率直に沿うものである、ということが必要でありますので、その点、十分に留意をしながら進めていただきたいと思うわけであります。

「赤旗」には着工までも書いてあるんですね、２年後には着工。我々が普段わからないことは、もう全部、市長から報告がある前に「赤旗」をちゃんと読んでいればすべてわかる、ということで、そういう面で非常に今回の件は、何かを象徴しているような気もいたしますが、２年後に着工可能というふうに書いてありますので、着工の件だけ、もう一度市長に見通しをお聞きしておきたいと思うんですが。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　用地の確保がまだ定まらないのに、着工のことまで確信めいたことは言えるわけではありません。ただ、順調に推移すれば３年後ぐらいには着工できるんではなかろうか、という想定は成り立つ、このように考えております。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　真実を、やはり報道に当たっては書くべきでありますので、よく「真実を報道する赤旗」と書いてありますけれども、今回の件については真実じゃなかったようでありますので、その点は確認をしておきたいと思います。

それでは、私の質問をこれから始めさせていただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　古賀議員、いかがでしょうか、次の質問に入る前に、よろしければここで休憩をとって、午後の第１回目の質問にしていただけたらありがたいなと思うんですが、いかがでしょうか。

○24番（古賀俊昭君）　議長の御指示に従います。

○議長（市川資信君）　お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思

いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午前11時55分　休憩

午後１時32分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

行政報告に対する古賀俊昭君の質疑を継続いたします。古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　先ほど、私、市の南部地域の病院建設に向けての件で質問いたしましたが、ちょっと聞き洩らしたことがありましたので、一つだけ都市整備部長に教えてもらいたいんですが、病院は、用途地域との関連で２種住専ならば建設が可能だけれども、１種住専地域については原則は不可能であって、つくることはできない。しかしながら建築基準法の許可があれば可能だ、というふうにお答えになったような気がするんですが、ちょっとその点もう一度、それで間違いないのかどうか、お答えをいただきたいと思いますので、お願いいたします。

○議長（市川資信君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　お答えいたします。

ただいまの議員さんが言われたとおりでございます。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　わかりました。結構です。

それでは、２点にわたって質問をさせていただきます。

まず１点は、市役所のマイクロバスの使用規程についてでありますが、先般、11月の21日と22日に静岡県で行われた御婦人の集いに市のマイクロバスが使用された、ということであります。

市のマイクロバスの使用規程を見てみますと、運行範囲というところに走行片道行程40キロメートル以内、ということがうたわれております。この点からいたしますと、今回の市役所のマイクロバス使用については、この規程に照らして、どういうふうな解釈のもとに運行が行われたものか、その点を１点、お聞かせをいただきたいわけであります。

２点目は、市長でも教育委員会の教育長でも構いませんが、市内の市立図書館に、仮に私の後援会で発行しております議会報告を配付をしてもらうために、図書館内に、来館者にそれを渡すために置いてもらうことが可能かどうか、その点についてお尋ねをい

たします。

以上２点です。

○議長（市川資信君）　　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　１点目の、市役所のマイクロバスの使用についてお答えをいたします。

マイクロバスの使用につきましては使用規程がございまして、御質問の中にもございましたように、日野市役所を中心にいたしまして半径35キロでございます。半径35キロの範囲内で片道の走行距離は40キロメートル、このように規定されております。

ただし、その使用の目的の特殊性などによりましてそれを超える場合には、管財課長を経て市長の決裁を得る、こういう手続きが必要になってまいります。

○議長（市川資信君）　　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　　お答えをいたします。

市立図書館に、市民がいろいろ文化的な活動をする際に必要ないろんなパンフレット類その他を置いてほしい、というような希望も実際問題としてございまして、やはり図書館も一つの市民のコミュニケーションの場だ、というような形で基本的には、そういうものについては取り扱いが可能な方向でやっておりますけれども、ただ、場所その他の問題で、やはりそういったものを置く場所を特定をしてやりませんと、いろいろ誤解が生ずる恐れもございますので、特定な場所については、設置場所を、ここはそういう市民のいろいろなＰＲのあれを置く場所である、というふうに限定して、ある場所については、そういうことが可能になるようになっているところが、一部あるはずでございます。

ただ全部の図書館に、そういう特定する場所を設けることができない場所もございますんで、そうしますと、例えば館内の机その他に、そういったものを自由に仮に置いてしまいますと、かえって混乱を招いて、それを図書館がかえって配付をしているんじゃないか、というような形に誤解を生じてしまう恐れがありますので、これは、例えば市民のそういうパンフレットを置く場所である、と特定をした場所については、そういうことが可能なように考えております。

ただ、営業活動その他に関するものについてはお断りをする、という形になろうかと思いますけれども、現在は、ただ場所の関係で高幡図書館の特定の場所、という形に限定をされております。

○議長（市川資信君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　まず、マイクロバスの件ですが、使用規程では市役所中心に半径35キロ並びに片道40キロ以内とする、ということであるけれども、これはあくまで原則であって、管財課長から、市長の特に求めがあれば要望して例外もあり得る、ということでありますが、今回、11月の21日、22日に静岡県で行われた御婦人の集会の参加者を運ぶためにマイクロバスが使用された、ということは、どういう理由で、この規約の規程の例外というふうに市長は判断をされたのかどうか、この点、お尋ねをいたします。

それから、市立の図書館で高幡の図書館については、市民のパンフレットや市議会の議員の議会レポートや、後援会便り、そういうものも現在配付をする場所を提供しているということでありますが、それは、いつからなのか、それから、もしそうであれば、そのことが可能だ、ということを当然私どもにも知らしめなければならないと思うんですが、今のところ、どなたにそれを許して場所の提供を行っているか、もう少し詳しくお答えをいただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　マイクロバスの使用の範囲につきましては、教育及び社会福祉の事業にかかわるものでございまして、市が主催、または共催をするものについては、この貸出規程に当てはまる、こういうことになっております。

御質問の11月21、22につきましては、婦人センターを使用する方たちを中心といたしまして、「市長と福祉を語る集い」ということで出かけております。先ほどの走行距離、片道40キロメートルは超えておりますけれども、正規の手続きをとって、しかもこの貸し出しの規程にマッチする、こういうことで使用を許可したものでございます。

○議長（市川資信君）　　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　　実際に市民の間で、いろいろ文化活動その他の活動が行われますけれども、それで、そういう案内のビラ等を置いてほしい、という希望が幾つも寄せられております。

これについては、例えばその内容についていろいろ制限を加えることになりますと、いろいろ判断が入って来ざるを得ない。例えば営業活動ということが明確である場合は、これは別でございますけれども、そうでない場合については、いろいろ判断が入ってくるような微妙なものも当然出てきます。そんなようなことで場所を特定して、もし置くとすれば、場所を特定して置くか、一切置かないか、どちらかしかない、というような形にならざるを得ない、というようなこともございまして、これについては、ちょっと私、時期を明確に記憶しておりませんけれども、昨年の末かことしの初めぐらいではな

いか、というふうに思います。たしかパンフレット展示棚を、それを置いて、その部分だけについては置ける、というような形になっている、というふうに理解をしております。

ちょっと時期が、ただいま申し上げましたように明確ではありませんけれども、前年度の終わりごろか今年度の初めぐらいだ、というふうに考えております。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　私の質問に、まだ十分お答えいただいてないんですが、まずマイクロバスの使用に関する件については、教育や福祉にかかわるものについては例外を認めているということで、今回それに該当する、というようなお話でありますが、この集会の主催団体はどこなのか、市が主催または共催するもにについて、というような今、総務部長のお話がありましたが、どのような団体が主催をした「福祉を語る集い」という、今、集会名称も上げられたようでありますが、主催をしているところはどこなのか、それをお尋ねをしたいと思います。

なお、これは２日にわたっていると思いますので、多分宿泊を伴う、つまり日帰りでないマイクロバスの使用であったと思うわけでありますが、２日間にわたるようなこういう場合でも、その点は、特に市の方としてはこだわっておられないのかどうか、その点もあわせてお答えをいただきたいと思います。

それから、図書館の場所提供のことなんですが、私がお聞きしているのは、市民の方がいろんな文化活動、サークル活動を行う中で、できるだけ多くの皆さんに参加を求めて図書館にパンフレットやＰＲチラシを置く、ということでお願いに見えるケースは、これは多々あろうかと思います。そういうものを今、一々挙げつらって話をするとややこしくなりますし、間口も広くなりますので、私は市議会議員の議会レポートに限ってはどうか、ということでお聞きをしたわけです。

今まで、もう既に認めているケースがあるということで、やっている場所が高幡図書館だとおっしゃった、だれについてそれは今まで認めてこられたか、認めているということをおっしゃるわけですから、どなたか当然掌握しておられると思うんですね。これはお答えがありませんでしたので、その点、重ねてお聞きをいたします。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　お答えをいたします。

今、だれについて認めているか、という御質問でございますけれども、ちょっと私、今、議員さんの方で御指摘のありましたような種類の文書類について展示をしているか

どうかについて、現在確認はしておりません。したがいまして、だれのものについて認めたか、というような形では、ちょっとお答えが今はできないわけですので、それについてはちょっと調べさせていただきたい、というふうに思います。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　11月21、22日、両日にわたる催しものにつきましては、主催者は静岡県富士市でございます。

それから、マイクロバスの使用規程の中には１泊の場合も含まれる、このように解釈をしております。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　まず、マイクロバスのことなんですが、御承知のようにマイクロバスは、市の所有ではありますが、市民の共有の財産でありますので、市の行政活動の中で市民の利便に供する、ということで行政サービスの一環としてマイクロバスが利用される、ということは、これは決して悪いことではないわけです。

ただ、行政の公平または中立、というようなことからしますと、ある特定の団体とか政党とか、そういうものが主催するものの参加者に対してマイクロバスを提供する、ということになると、これはちょっと問題になってくるのではないか、と思うわけです。そういうことで今回は、名称は何か「福祉を語る集い」ということで特段問題はないと思うんですが、どこが主催をした集会か、ということがここで問題になってくると思うんですね。

今、総務部長は静岡県の富士市、自治体が主催をしたとおっしゃったんですが、私は違うんじゃないかと思うんですね。マイクロバスの貸出を当然される場合は、どういう会合に参加をする目的を持ってマイクロバスが使用されるのかは、やはり把握をして、きちんと書類等で確認をされた上で、使用目的がこれなら問題はない、ということでお許しになっていると思うんですね。富士市で間違いございませんか。その点、もう一度お尋ねをいたします。

それから、高幡図書館に、ある市議会議員の議会報告が展示の場所を確保して置かれている、ということを教育次長は認められたんですが、だれかはわからない、いつかも定かでない、ということでありますが、一々市民のいろんな行事のＰＲパンフレット等と区別するのも難しいし、議会の活動報告等であれば議員から持ち込まれたものは、市が設置しております教育委員会が管理運営を行っている図書館には置くことができる、ということになると思うんですが、ただ、これが特定の政党とか政治団体ということに

なってきますと、地方公務員法との関連等も出てくると思うんですが、その点は、教育委員会はどのようにお考えになってクリアすると考えて設置を認められたのかどうか、地方公務員法との関連等、管理法規との関係で、どういう判断をされたか、お答えをいただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　先ほど、ちょっと私の言葉が不足していたかもしれませんが、議会報その他の文書類が置かれているかどうかについて、私はちょっと現在のところ確認をしておりませんので、置かれている、というふうには、ちょっと私、現在断定はできない、というふうに思っておるわけですが、いずれにしろ、そういったものも含めて市民の――本来の目的は、文化活動その他に関してのビラ類を中心として皆さんにお知らせする、ということでございますけれども、特定の限られたそこの部分について市民の方が、自由にそれぞれのそういったパンフレット類、ビラ等についてはそこに置ける、という形で基本的には運営をしているはずでございますので、そうなれば、特定の部分についてだけ置かせて他の部分については置かせない、というようなことは一切ないはずでございまして、その辺は、すべて公平に取り扱わなければならない、というふうに考えております。

これは、あくまでも図書館の業務として収集をして、それで提供するという分野につきましては、これはあらゆる資料を収集し、これはすべての立場の資料ですね、そういったものを収集し保存し提供する、ということでありまして、あくまでも市民のコミュニケーションの場として、そういうパンフレット類を置くというのは、その限られた部分について、図書館が行う資料提供業務とは離れて、そこのコーナーで自由にそういうものについては置いて、それで皆さんのコーナーに使っていただくということが、そういうコーナーなり、コーナーといっても実際には小さい展示棚一つでございますけれども、それを出入口のところへ置いて、それを利用していただく、という形になるわけで、これはあくまでもすべての人が、その立場、その他について限定をしないで、もちろん公平に使っていただくというのが原則でございます。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　マイクロバスの使用のことで、ちょっとつけ足しておきたいと思います。

マイクロバスの使用につきましては、今、総務部長よりお答えをした基準がございます。その基準外の使用、特に公的な行事、これに参加するときなど社会教育や福祉の関

係が多いわけでありますが、例外を認めてある、こういうことがございます。

御指摘のことしの11月21日、22日の行事は、十数年続いたと思っておりますが、「市長と福祉を語る婦人の集い」ということで、日ごろ交流を行っておる、参加をするという形で行っておりまして、ことしは静岡県富士市が主催者を担当した、こういう経過がございます。日野市からたしか16名だったかと思っておりますが、婦人の参加がございました。そして、その行政事務は生活環境部婦人センターが所管をする、ということにいたしております。婦人の有志の方を自主的に派遣をして各市の報告などを聞きながら研修をやっていただく、こういう機会になっておると思っております。

私もことしは参加させていただきました。２日間にかかっていましたが、特に費用は自弁でなさることになっておるもんですから、せめてバスをサービスをした、したがって、その使用目的に全く適合しておる、というふうに解釈をいたしております。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　ことしは、回り持ちで富士市が担当したということで、主催については自治体名を挙げておられるんですが、これは回り持ちでやるということは、その母体になる団体があるわけですね。富士市が今回は当番市として主催市のような形で運営の責任を負ったんだと思いますが、実際にこの母体になっている団体はどういう団体か、その点、もう一度お尋ねをいたします。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　地方自治センターという、そういう団体が過去にはありましたが、現在は、明確に存在をしているというわけではありませんけれど、一つのおつき合いといいましょうか、いろんな市に要請をして、参加をする市がことしもたしか二十数市あっただろうと思っておりますが、そういう形で運営をされておる、ということであります。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　市長は、なかなか言葉に出してはおっしゃらないんですが、これは革新市長会が主催でしょ、それは違いますか、どうですか。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　革新市長会という言い方が生きておった時代もありますけれども、現在は地方自治センターという形で、どこの市という特定をしないでこういう行事に参加をしていただいておる、こういうことでありまして、開催市には、その地域の民生委員さん等多数の婦人が参加をされ、各市から十数名ないし、多いところはもっと

多いところもあるわけでありますが、要するに福祉についていろんな発表なり勉強をなさる、こういう機会でありまして、私も助言者として役目を果たした、こういうこともあります。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　現在は、革新自治体も年々少なくなりまして、このままでは先細りだ、ということで、革新市長会もいろいろ知恵をしぼって参加市をできるだけ多く膨らませていくために、今は革新市長会というふうな名称は使わないで、地方自治センターなる名称でこの集いが行われておる、ということでありますが、全国集会でも二十数市しか参加をしていない。去年は沖縄で行われ、それ以前は中野で行われたこともあるようでありますが、日野市からも大体いつも同じようなメンバーの方が参加をしている、ということで、私は、やはり革新市長会というものが今は名称が使われていなくても、革新自治体と一般に言われるところの自治体が主体となって開かれる集会等というのは、やはり、どうしても幅広い全国的な自治体に呼びかけて行われる会合というふうに解釈するのは、多少無理ではないかな、という気がいたします。

例えは、これが政党等であれば、例えば共産党大会や自民党大会に参加する人を市のマイクロバスで送り迎えする、ということになると、これはちょっと問題になると思うんですね。しかし、それに近い形が今回のマイクロバスの使用に関してあるのではないか、というふうな気がいたします。

しかも、マイクロバスの使用規程がきちんとキロ数まで定めて存在するにもかかわらず、それを超えて使用されるに当たって、市の、やはり市民の共有財産として市が責任を持って管理しているものでありますから、その辺の運用は、きちんと厳格にやっていただかなくてはいけないのではないかと思います。

また、使用規程が実情に合わないということであれば、使用規程の見直しも行うべきではないか、というふうに思います。

今回は２日間にわたって使用されている、ということで、市長のこれは一声で決まったものだと思いますが、運用については十分慎重を期していただきたいと思うわけであります。何か夜中に病人の方も出られて、マイクロバスで送り病院まで行ったり大変だったようですが、１泊してそうしたことまで、そういう事故でもありませんが、そうした事態まで起これば、十分に道等を熟知しないドライバーの方が、やはりそうしたことも背負わなくてはならなくなる、ということで、今回の運行については多少反省すべき点もあるのではないか、と思いますし、革新市長会なる特定の団体の集会に市のマイクロバスが送迎に使われる、ということは問題を含む、ということを指摘をしておきたいと思います。

先ほどの教育次長からお答えになった回答は、ちょっと私も納得できないんですね。当然、例えば政党に属したり政治団体に所属をしている人の議会レポートを市立の図書館の中に置いて場所を提供して、不特定多数の市民にそれを配付をする機会を与える、ということになれば、地方自治法や地方公務員法との関連を最初、当然検討をされたはずです。その検討の結果、置くことは、峻別することはなかなか難しい、イエス・ノーを分けるのは難しい、ということで、ある一定の解釈、判断のもとになされたのではないかと思うんですが――なされてないかもわかりません。勝手に置かれたのかもわかりませんが、その辺の経過をお尋ねしているわけです。

どなたのものを置いたのかどうか、検討されたのであれば当然だれのものかというのは、おわかりになっていなくちゃいけないと思うんですね。かなり重要な問題だと思うんです。これが波及をしますと、例えば、この市役所の１階ロビーにもそれぞれ議会レポートを出している方は置くことも、これを敷衍していけば可能になってくるわけですね。そういう問題も含んでいるわけですので、最初、どういうふうな形でこの問題を処理されたか、その経過をぜひ教えていただきたいんです。どなたのものを俎上に上げて検討されたんですか。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　教育次長、お答えいたします。

先ほど申し上げましたように、当初のこういうコーナーをつくって市民の方の、いろいろそういう案内とかパンフレット類について設置をする場所が必要になってくる、という問題につきましては、当初、やはり市民の文化的な活動ということで、それに必要な、それによって発生してくるいろいろビラとか案内とか、そういったものを置く場所を１カ所、やはり図書館の内部に設けた方がいいんじゃないか、ということで、また設けてほしいということでの要望があって、そういうコーナーを設置を検討をしたわけでございます。

ですから、あらかじめ、今例でお話がございました議会活動の報告だとかそういったものを頭に置いて、そういう場所を設ける、ということを検討したわけではないわけです。

ただ問題なのは、そういうふうにしてそういうコーナーを設けたときに非常に難しくなってくるのは、例えば一般的な文化活動ですね、だれが見ても、例えば絵画の教室の

こういう同好会があるとか、こういう催しものがある、とかいうのはまだいいんですけれども、団体の例えば中身に立ち入って、この団体は政治的な団体であるとか、そういう形で判別を下すことが非常に難しい事例が中には発生をしてきます。そのときに、例えば図書館側が、これは政治的な団体であるからだめだ、これはいい、とかという判断を下すことになりますと、その辺のところが、特に一般的な市民団体という形で出てきているものについては、非常に難しくなってくるところがあるわけです。

その辺のところが、非常にそういう場所を設けた場合の一つの大きな課題でございましたけれども、その辺のところを図書館側が一々判断をする場合、じゃあ基準は何か、ということになるわけですけれども、その基準を、客観的に見てこの基準ならばいい、という基準を設けることは実際問題として難しい。例えば文化活動といっても非常に範囲が広い面がございますので、その辺のところが、そういう場所を設ける場合の一つの重要な問題ではあった。

ただ、今、具体的に御指摘があった、例えば議会報みたいな、議会の活動報告だとかいうような形の場合には、非常に判断は容易な面がございますけれども。ですから私ども、今そういうものが本当に置かれているかどうか、ということは、ちょっと確認をしておりません。

問題の経過はそういうことで、そういう一部のコーナーを市民の交流の広場というふうな形で設ける、というのが趣旨だったわけでございます。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　次長のお話は一般論なんですよね、私は個別のことをお聞きをしているんです、個別について。個人の議会報告を置くことは可能かどうか、ということをお聞きした、そうしましたら高幡図書館で認めている、ということをおっしゃった。じゃあ認めるに当たって、私は当然地方公務員法との関係法令とのこともお調べになったのではないかと思うんですよ。私が担当であれば当然調べますね、それは。

じゃあ、そういう検討をなさったんですか。まだ、ちょっとお聞きしたいことがあるんですが、そこはおやりにならなかったんですか。今、置かれているかどうかわからない、とおっしゃるんですが、置かれていた事実があることは認めておられるんですね。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　置かれたことがあるかどうか、ということを私はまだ事実問題としては、例えばそういうコーナーが設置されてから、そういうものが置かれていたことがあるかどうか、ということは、ちょっと確認はしておりません。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　次長にちょっとお願いをしたいと思うんですが、これは議会活動を、後援会や政治団体の一つの機関誌的な形で出す場合と、個人で発行する場合は当然これは公職選挙法の関係でいろいろ問題が生じてくるわけです。個人の議会レポートを市民の――後援会委員とか関係者以外に、不特定多数にこれを配付する、ということになれば、公職選挙法に当然ひっかかってくるわけですね。もし、公選法に違反をするようなことに市が手をかす、これは大変なことですよ。そういうことも当然私は検討をされなければ、こういうものが配付を目的に持ち込まれて来たものについて安易に、どうぞお置きください、ということにはならないと思うんです。

しかし、それが現に置かれていた、ということは事実です。事実です。ですから、そういうことをお許しになったということは、当然検討の末、置かれたのか、それともだれかが強引に、持ち込んだ人が有無を言わせず置いていったのか、あるいは内部の図書館の関係者が空いているところがあるから、こっそり置けばわかりはしないから、ということで置かせたのか、いろいろ考えられるわけです。

どういう経過で、この個人の議会レポートが高幡図書館に置かれたのかどうか、その点をはっきりしていただきたいんです。大変重要な問題だと思うんです。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　先ほど、ちょっと私の言葉が、説明が不足だったかもしれませんが、先ほど、非常に文化団体の活動という形でいろいなものが、ビラを含めて作成されますね、いろんな案内じみたものが。そういったものについての判断基準というものが非常に難しい、ということでお話を申し上げたわけです。

ですから、先ほどちょっと質問の中で、そういう議会報その他が置かれたことの事実があるか、という御質問だったんですが、私はそれを確認をしてない。だから、もし置かれていたんだとすればそういう解釈の延長上で、あるいは過って館員が理解をして置いてしまった、という可能性もありますし、あるいはそこがそういうコーナーだ、というふうなことでそこに自由に、図書館に断ってはなしに、そこに置いてしまった、という可能性もないわけではございませんので、その辺は、私どもの方は調査をしてみませんと何ともお答えができないんですが、そういうコーナーを設けるときの審議の経過としては、むしろ文化団体という形で出されてくるものの判別の問題が、非常に内部的には問題になっていた、ということは、そういう形で承知をしているわけでございます。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　私は、先ほどから申し上げておりますように、市民の文化活動並びに市民のさまざまな地域での活動が、多々、種々あるわけです。ですからそういうものを置くということ、置かせてもらいたい、ということで図書館に訪れて、それに市が対応される場合のことは、一応今回は除いて、そういうものは大体、原則置かせてあげるというのが妥当だと思うんですね。

ただ、政党や政治団体にかかわるものについては、そのことをもし高幡図書館の、ある方が、これは例えば自民党の議員だからとか、これは共産党の議員だからとか、これは社会党の議員だから、と何らかの形で、その政党や政治の目的に賛成もしくは反対の意思を持って、できるだけ市民の皆さんに読ませた方がいい、という判断でやったとすれば、これは地方公務員法に触れますね。大変重要な問題ですよ。どういう経過で置かれたか、ということは大事なことです。今、おわかりにならないということですが、私は、ですから一般論じゃなくて、現実起こった事柄について承知をしておられないならば大至急調べていただきたいと思いますし、関係者からその間の事情を聞いて対応していただきたいと思うんです。

本当に御存じないのかどうか、その点もう一度お聞かせをいただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　そういう文書類が置かれた、という事実については、現在私は確認をしておりません。

ですから、その辺のところを私ども早速調査をいたしまして、そういう問題についてのきちんとした対処が図書館でできるようにしたい、というふうに思っております。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　これは地方公務員法や公職選挙法にもかかわる問題を含んでおります。私は、その事実を確認をしておりますが、教育委員会は承知をしておられない。この間の経過を、私は質問を留保したいと思いますので、高幡図書館の担当にお聞きになればすぐにわかることだと思うんですね。すぐに調べていただいて、再度回答、経過の説明をまずしていただきたいと思います。

それから、教育次長がお答えになった答弁は、最初と最後でかなり揺れが出てきたんですね。私は最初に、例えば私が後援会で出しております議会報告を市内の図書館に置くことが、希望すればできますか、とお聞きしたんです。そうしたら教育次長は、既にいろいろ市民の文化活動の利便に供するために特定の場所を決めて、それが可能になるように考えているので可能であるはずだ、現に高幡図書館で行っている、ということを

お答えになりました。つまり置くことができる、と回答されたわけです。置くことは構わない、むしろそういう市民に情報を提供していくことは構わない、というようなお答えだったと思うんです。

そうしましたら今度は、自分はよくその議会報告のたぐいのものについては、事実はよくわからない、ということを今度はおっしゃったんですね。ですから、もう一度ちょっと――その経過は、改めてお調べいただいて、すぐに御報告いただきたいと思いますが、私が今、高幡図書館に議会のレポートを、後援会で出しておりますものを持って、これを市民の皆さんに広く読んでいただきたい、熟読していただきたいので置いてもいいですか、と私が高幡の図書館でお願いをしたら、高幡の図書館は何とお答えになるんですか。どうぞ、とおっしゃるんですか。ちょっと待ってください、ということなんですか。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　今の御質問ですけれども、これはちょっと図書館側に確認を取った上でお答えをしたい、というふうに思っておりますので、ひとつよろしくお願いをいたします。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　私は、行政報告に関して今質疑を行っているわけでありますが、大変重要な問題だと思いますので、しかるべき責任者、担当から経過をお聞きになって御回答を、ぜひ早急にしていただきたいと思いますので、議長の方でお取り計らいをお願いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　わかりました。

ただいま古賀俊昭君の行政報告に関連する中でのただいまの質問については、質問と答弁がまだ十分でありませんので、至急これを調査の上、まだ質問者が残っておりますので、その間に調査を進めていただいて御回答をいただく、という方向で議事を先に進めさせていただきます。次、天野輝男君。

○6番（天野輝男君）　この高幡土地区画整理事業の中の公共用地の確保について、まず質問させていただきます。

先ほどからの市長の答弁を聞いておりますと、確かにこの南部病院の医療施設の請願その他、るる説明がございました。その中で、私は昨年度は厚生委員会に所属しておりましたから、そういうものを踏まえながら私たちは、この市立病院で特別委員会を考えたわけであります。そういう面で南部病院の医療施設の請願、これは東京都へ、南部の医療圏、ベッド数の確保300床の意見書とか、また日野市の医療協議会への説明、こう

いうものから、どうしてもあそこの場所が必要である、という答弁なわけですね。これは確かにわかる。確かに南部病院というのはどこかに持って行かないことには、確かにお困りになっているわけです。南部の病院、医院がちょっと不足しているところの人たちは、大変不安に思っている。これは、そういう面から見たらどこかにつくらなきゃいけないな、ということはわかるわけです。この日野を私はざっと見ても、まだまだこれから、要するに日野市の財源がたくさん必要な箇所が、たくさんあるわけですね。

そういう面で、この高幡不動、区画整理を通しながら公共の用地を確保して、そしてその利用については、もっとやはり――先ほどの説明を聞いていますと、市長の、上からこういうものをつくりたいんだ、と言っているように私は聞こえてならないわけですよね。だから、そのあたりをもっと、やはり掘り下げて考える必要があるのじゃないか、とこのように思うわけであります。

そして、やはり私は、この南部病院の要するに建設用地を確保する、ということも確かに必要であるけれども、やはり大きく日野市の全体の医療行政というものを考えた場合には、もう市立病院の院長も来て説明をしているように、まず、この市立病院の建てかえというものから進めるのが順当である。私、こう思うんですね。

そういう面で私は市長に――聞いておりますと3年後ぐらいに着手できるんじゃないか、そのための投資だ、ということなもんですから、それよりも、やはり市立病院の建てかえというものを本格的に考えていただきたいと思うんですが、このあたりの答弁をまずお願いしたいんです。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　日野市の医療圏、今まで市立病院の果たしている役割は、かなり重いわけでありますが、市内交通の、交通利便の不十分などによって、どうしても市民一帯に活用されてない。それから病院そのものが、今日では建物が老朽化しましたり機能が不十分だということは、もう現実の問題でありまして、いずれ大きく取り組むべき課題である、このようなことは、どなたも同じだと思っております。

私もこれまで、どういう手順でこの市内の病院、あるいは病床整備を行っていくか、いろいろ考えを巡らせてまいりました。特に南に民設民営の病院ができることを期待したわけでありますが、これが、御承知のとおり実現できなかった。ある程度の行政のてこ入れによって、これを現実の姿にしていく必要があると思っております。

そういう意味で高幡の区画整理、たまたま現在、今であれば一定面積の公共用地を用意することができる、こういうことで一つの布石を行った、というふうに御理解をいただきたいと思っております。

一方の市営住宅につきましては、私はこれで、こういう手順によって改築の手順が緒につく、見通しができる、このように考えておるところでございます。そのことにつきましては、また手順を経て議会の御意見も賜りたい。特別委員会もあることでございますから、その席でも十分説明をいたしたい、このように考えております。

○議長（市川資信君）　天野輝男君。

○6番（天野輝男君）　市立病院の確かに建てかえをしなきゃ、私はならないと思うわけです。何しろ毎年5億円以上のお金が、一般財源が消えておる、これはやはり建物が老朽化している、というばかりじゃないんですね。やはり、この日野市の市立病院そのものが、特に日野市で開業しておる医療機関、こういう開業医の方は、やはり余り利用していただけない、こういうところにも、やはり問題があるわけです。

そういう面で私は、やはりこの市立病院の建てかえという問題を通しながら日野市の医療行政というものを、やはりまとめていく、ということが重要な役割になってくる、とこのように思うわけです。そういう面で、ぜひ市立病院の建てかえをするときには、恐らく今あるベッド数よりも、300ぐらいは確保する、ということを言っております。そういう面で十分そのベッド数は確保できるのではないか、とこのように思うわけです。

だから、そういう面で確かに南部病院、これは必要でありますけれども、南部病院の医療施設を考える前に、この市立病院の建てかえというものを本格的に考えることが必要じゃないか、とこのように私は感じておるわけです。特にこの高幡不動の区画整理を通して公共用地を利用するということですが、10年くらい前ですか、保健所の隣接地にどこかの病院を持ってくる、ということで、医師会からも当然反対を受けてこれができなかった経過があるわけです。

やはり、こういう形で、もしここに病院を持ってくるという場合には、恐らく地域の開業医が黙っていない、と私は思うわけですよね。今後こういう医療行政を整備していくときには、やはり医師会、そしてこの医療協議会等の考え方もしっかりと生かしながらつくっていかなければならないと思うんです。やはり、そういうしっかりした考え方のもとに、そして予算を計上して有効なものをつくってくる、ということが一番大切である、と私は思うわけであります。この公共用地の2000坪ぐらいの土地では、確かにベッド数は確保できるでしょうけれども、やはりどこかの付属病院とか、そういう上に系列のあるところの施設でない限り、余り、市立病院と同じように役に立たないわけですね。そのあたりを十二分に考えながら、私は軽率に、ここに医療施設をつくる、それは大変

いいことであると思いますけれども、やはり何を優先的にやるべきか、このあたりを真剣に考える必要があるのではないか、ということを考えているわけであります。

そういう面で、もう少ししっかりした考えのもとに――思いつきにやっているようにしか私には考えられないわけです。実際、昨年も特養の老人ホームも出てまいりました。私は必要はわかるわけです。しかしながら、その必要としているものは必ずしも市民に本当の意味で利用され、そして市民の要望にこたえるものであるかな、ということが本当に疑問なわけですね。やはり財源を使うに当たっては、皆さんの意見を聞きながら、そしてそれを生かすような方法を考えることが必要じゃないか、とこのように思うのですが、市長は先ほど、市立病院の件については考えてやっていきたい、ということを言っておりますけれども、そういう面で、もし地域の医師会の方で、医師会を通して、また地域の開業医がそういう形で、どういう病院が来るかわかりませんけれども、それは困る、ということになった場合には、どういうようにお考えになるか、市長から御答弁していただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　先ほどもお話ししたわけですが、南部に民間病院が進出される、これを期待をしていた、その民間病院は既に地元の、地元といいますか、日野市医師会から承認をされて、そして事業化が進みつつあったわけであります。

したがいまして、それを補う形でつくるものに地元の医師会は、もちろん異論はございません。そのことは、地域保健協議会で病床確保の進め方について、ということを諮問の中で既に順序立てて説明をし、一定の了承を得ておる、こういうふうに御理解をいただきたいと思っております。

それらの順序を経て、今おっしゃるようにいろいろな状況判断を適切に行って、その財政の使途についても十分配慮せよ、ということでございますので、言うまでもなく、あらゆる市民の方々の御意見を集約する形で日野市の将来のために必要なものはきちんとつくっておく、このようにいたしたいと思っております。

○議長（市川資信君）　　天野輝男君。

○６番（天野輝男君）　　南部病院というのは、恐らくこの医王病院が南平の二丁目ですか、あそこに来るということで皆さんが納得したんじゃないか、と思うんですよね。確かに日野市の全域を見て医療の不足しているというところは、やはりあのあたりが、南平のあたりが一番開業医が少ないわけです、人口の多い割には。

そういう面で私は、確かにこの辺には医療機関が少ない、ということで認めたものだ

と私は思うわけです。だから、そのあたりを、やはり市長の考え方であってその辺は。この高幡不動のそこも南部というには違いないけれども、やはり南部というのは、私は南平周辺、あのあたりが南部だと思うわけです。

そういう面で私は、今後、公共用地として取得することは当然よろしいことである、と思うけれども、やはり総合的にもっと考えながら、そして、この「赤旗」にすぐ載るような、そういうようなことじゃどうしようもない、と私は思うわけです。そういう面でぜひ私は、この病院をつくるに当たっては、もっと医師会、そしてこの医療協議会、そして市立病院の意見を十分に反映しながらつくっていただきたい、このように思います。

○議長（市川資信君）　　土方尚功君。

○４番（土方尚功君）　　１点だけ質問をさせていただきますけれども、今回、市長の報告の中で２番目に出されました大成荘の改築と林間施設の展望ということで、この点だけに限って質問をしたいと思うんですが、既に石坂議員を初め夏井議員からも質問がされておりますので、そういう中で私の方から、特段に極力ダブらないような形でいきたいな、ということで、いろいろ見ていたんですが、先ほど夏井議員は、後の予算の関係も絡んでいるので予算のところでお聞きをする、というようなことで引かれましたので、その点、私の方は今の時点でこれまでに向いてきた、具体的にどんな手順が踏まれてこのような形になってきたのかな、大変、日野市基本計画というようなことで、ことしの初めに出た計画が、当然この中には修正や、あるいは改定を行う、というようなことはうたわれておりますけれども、特段に石坂議員が申し上げたとおり、年度の途中でまるきり新しい事業が入ってきた、こういう点に非常に私は疑問を感じているものですから、先ほどの説明以上に、ぜひこの手順といいますか、どのような形で行われてきていたのか、そしてまた、それに関連する資料等、先ほどの市長の御回答の中には、今後建物等については具体的に検討委員会を設けて検討を加えていくんだ、ということでございますけれども、もう既にこの後の予算の中では、借地というようなことで手立てをもうしているわけですから、予算に入る前に一応確認をさせていただきたい。資料等の提出等があれば、また幸いであります。

まず、その点でお伺いをしたいと思います。

○議長（市川資信君）　　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　　お答えをいたします。

御承知のとおり日野市の基本計画の中では、大成荘の改築という課題が掲げられてお

ります。その中では規模が3500平米余、3540平方メートルぐらいで上がったと思いますが、これは、現在の八ケ岳の山梨県有地をお借りしているわけでございますけれども、学校領地区内にあるわけでございます。

したがって私どもとしては、この計画の初期の段階では、移動教室としての利用ということもやはり頭に置いて計画そのものは考えざるを得ない、というふうな形で当初は考えておりました。したがいまして、規模をかなり大きく考えたわけでございます。

ところが実際問題としては、現在、県から借りております用地は１万4000ちょっとでございますので、建ぺい率、容積率等が20％でございますので、その用地内ではその規模の建物を建てることは難しいわけでございます。

したがいまして、建てかえ計画につきまして、山梨県の林務事務所というのがございますが、そこで管理しているわけですが、そこといろいろ相談をしたわけですが、その中で、できればもっと広い用地を学校領の地区内等で確保できないかどうか、というようなことも打診はしてみましたけれども、実際問題としては、あの学校領地区内で２万平方メートル程度の用地を確保するということは実際問題として困難だ、ということになりました。

したがいまして、私どもとしては、一つは移動教室として使う、という前提を少し外して考えた場合にはどうなるだろうか、ということで、これは校長会その他もいろいろ御意見も伺いましたけれども、実際問題として移動教室は現在、日光、油壺、その他で行われている、というようなことで、これを八ケ岳の山麓に振り向けるということも実際問題として学校の意思も今のところ明確でない、というか余り乗り気でない、というようなこともございましたので、それならば、もう少し小規模の、例えばクラス単位とかグループとか、そういうふうな形での利用ということを想定して計画を考えた方が現実的ではなかろうか、ということに大体方向としては、なってきたわけでございます。

それで私どもとしては、大成荘について、なぜ学校が使うことについて余り積極的でないか、ということは、現在の建物が非常に老朽化している、ということがまず第一の問題としてございますけれども、その周辺の立地の問題だとか、いろんなことも、学校側としてはいろいろあるわけでございますので、それならばほかのところに適当な用地がないだろうか、というようなことで、先ほど市長も申し上げておりましたけれども、何カ所か見ております。しかし、なかなか適当な土地がなくて、教育委員会内でも適当な土地がもしあれば斡旋をしてほしい、という話も教育委員さんにも申し上げておいたわけでございます。

長野県は、長野県自体としても県内の自治体が、いろいろリゾート開発その他でも積極的に村有地なり町有地を開発をして提供する、という動きがあって、それで日野市あたりもそういう照会に来ている、という話も聞いておりますけれども、たまたま、教育委員で長野県の出身で活動されておる方がおりまして、それで安曇村の「乗鞍高原集団施設地区」というのを安曇村に設けて開発をしたわけでございます。その中に３区画ほど現在残っている、という情報がもたらされました。それが夏ごろでございましたけれども、９月議会が終了した10月の初めに現地を視察をいたしまして、上高地へ入って行く道、梓川沿いの道を入って行って、手前のところで曲がって入るところなんですが、そうすると乗鞍高原という、かなり台地になっているところが乗鞍岳の山腹にございます。

非常に、中部山岳国立公園内にございますし、乗鞍岳を初めいろんな登山にも向いているし、それから近くに、かなり何カ所もスキー場があるし、村としては、さらにスキー場の開発も今後進める。それから、温泉についてもボーリングを行って今後行く予定だ。現在も温泉は引かれている部分があるんですけれども、現在は非常に万杯になっている、今度ボーリングしてそういうことも可能にする、というようなことで、非常に拠点として向いている地域だということがわかりましたので、これはぜひ、そういう大成荘との関連の中で、先ほど市長が申し上げておりましたように、片方は少年を中心として、片方は青年を中心とする、というような形でそういう施設を確保していく。しかも区画が３区画しか残っていない、というようなこともございまして、ほかからも引き合いその他がございますので、非常に立地条件が恵まれているいい場所なので、ぜひその点については早急に確保を図っていただきたい、ということでお願いをした、というのが経緯でございます。

○議長（市川資信君）　　土方尚功君。

○４番（土方尚功君）　　行政側の説明としてはその程度かなということで結構ですけれども、特段に大成荘の検討を加えたところ、要するに建築の２割というような問題は殊さら最近規制がかかった、ということではないと思うんですね。もともと１万4000平米で２割ということであれば、当然2800平米程度の面積の建物しか建たない、という現実が、これはもう歴然としていたわけです。それがこの計画の中では3540という面積。

先ほどの市長の説明の中では、数字の、要するに適当に答えたんだな、というふうに私は理解をしているんですが、3000平米のうち2000は要するに大成荘、1000平米を青年の施設、そこで面積としても540平米がどこかへ消えちゃっていたんですけれども、そ

れはそれとして、いずれにしても計画の中では、大成荘を市民保養施設の機能をも、というようなことで、もともと、はっきりうたっているわけです。それがいつの間にか市民が消えてしまって少年と青年だけに区分けをした、こんなことが修正程度のことでとらえられる問題ではないと思うんですね。

根本的に、この計画をつくる時点にもう、一つは面積すらそういうオーバーをしたもの、違法建築を市がしようと計画をした、こういう事実が計画の中に既にある、ということと、それから、市民に向けてうたって、市民の保養施設をつくります、というようなことも一つ検討の中に入っていたにもかかわらず、もう既にそこで欠落をしてしまった事実、それから青年に向けたひとつの――これは、青年の施設が必要だ、ということは十分承知をしているところですから反対をする余地はありませんけれども、余りにも唐突な計画が出てきたんじゃないか、最初に述べたとおり、年度の途中からこういった問題が出てきた、余りにもおかしいじゃないか。

私は、ちょっと過去の古い、自分でも青年といいますか、そういう時代、今は青年とは言いませんけれども、かつて40年の半ばごろからいろんなこういう活動を進めて、市長は、よく市民に向けて場所の提供をほしい、というようなことで言っていますけれども、われわれ民間での活動の中でちょうど十数年前、今、現実に新潟に土地を日野の青年を中心に、当時つくった団体、「日本アシュラム協会」というようなことで、宗教には直接関係ありませんけれども、アシュラム、例のガンジー首相の唱えた、要するに2人が集まればそこが学校である、施設がなくても学校なんだ、というふうなガンジーの唱えを受けて、じゃあ2人、3人寄ったから、ひとつやっていこう、というような発想の中でそういう団体をつくって、例のユネスコの当時事務局長でありました、今は筑波大の教授をやっておりますけれども、竹本さんという人との接触の中で新潟に今でも借りている土地が4平方キロ、要するに2キロ2キロの長さを持った土地を無償で借りております。それを拠点にして日野の子供たちが自然に親しむように、というふうなことで、自然児育成キャンプというのを50年代の初めから継続をしています。こういったことが民間の、要するに行政に頼らない部分でできるんだ、という事実を持っているわけです。そういう土地も、ちょっと手立てを考えれば十分――たまたま、私がこのスタートの時点では、新潟では遠過ぎる、せいぜい檜原あたりの土地を借りてこういった施設をしようじゃないか、という発想で動きをかけたんですが、たまたまそのときには、そちらの土地を提供するからぜひやってくれ、それからその地域は、廃村といいますか、上越の後谷というところですから、もう過疎ということで、家をみんな出ていってしまっ

ている、そういう場所を借りた現実で、一つの村興しのスタートの問題で入っていったわけです。現実にもともとの廃屋を一つと自分たちの手づくりの建物が2棟、そういったものを使って夏場のキャンプ、それから冬もずっと管理に入って、今、メンバーがいるわけですけれども、そういったことからすれば余りにも、安曇村のその土地がこういう形で見つかった、見つかったから即対応をしていきたい、余りにも簡単に計画を出し過ぎているんじゃないか、こういうふうに思います。

12月の6日の朝日新聞にもスリランカからアリヤラトネ氏が、九州の村興しの関係で向こうの鹿児島の青年たちが呼んで、サルボダヤ運動を進めている博士ですけれども、お見えになって、そういったことで力を入れている。その方も後谷、要するにアシュラムの場所にも来ていますし、息子さんも来ています。私なんかも会っていますけれども、そういった方々がやっぱり何か一生懸命やれば、おのずとそういったものができ上がってくるんだ、というようなことの精神の中に一生懸命やっているわけですね。

そんなことを我々は身をもって体験しているわけですから、そういう中からすると非常に行政側が、先ほど、要するに土地を物色してそういったものをしていきたいんだ、それから教育委員さんにもお願いをした、という中からそういったことが、たまたま見つかったんで出てきた、私は、そちらの方が先で、市長の要するに行政報告なんていうのは、予算をどうしてもここで取っちゃって事実をつくっておこう、というようなことの中から、逆に行政報告でつじつまを合わせよう、というような意図を持って、あえてここへ行政報告で上げて来たんじゃないか、こんなような考え方に立つわけなんですけれども、そういった意味からして、あと市長からもう一度そこら辺の御意見をお伺いしたい、ということと、それから後の予算の関係では、余り私は、当然文教委員の方で検討されるわけですから、ひとつそんなようなことの努力が足りないんじゃないかな、ということを申し上げて、市長、そこら辺から御意見があればぜひ伺っておいて、後の検討の材料としたい。

以上です。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　努力が足りない、と言われる、私は努力をしている成果というふうに申し上げたいわけですが、情報は必ずしも次々と御相談をする機会がなかった、というような事情もあったように思います。

大成荘に取り組みます際に、あの大成荘を当面唯一の期待をする場としていいか、ということで、かなり私は何年来考えてまいったつもりであります。もう少し広々とした

ところ、あるいは機能をもっと豊富にするところ、こういうことを考えた、という経過があるわけでありまして、今回、非常に優れたところを探し得た、一応、村当局とは基本的な約束をつくっておいて、そして、これからの使用に最大限な機能を発揮させたい、これが考え方の根拠でありまして、手順として欠ける点は、あるいは議会に御了解を得る手順としては唐突と言われる面もあることだとは感じております。

ただ、大成荘のことを来年、委員会をつくって検討します際に、できれば既に別のまた雄大な用地がある、ということとあわせ検討いたしますと、大成荘に対します検討も非常にしいいわけでありますし、それから日野市の未来を担う少年、青年に、このような施策が提供できるということの意味もあろうか、と思っておりまして、一般市民のことを言わないから一般市民は入れないか、ということにとられると、これは全く逆といいましょうか、つまりそういう機能を表に出すけれども、余力の機能がまた、たくさんありますから、それは市民に十分使っていただく、こういうことで大成荘の今までの移動教室施設も、市民のいろいろな別の方法で使ってもらったわけでありますから、その使用は十分可能である、ますます豊かになる、このように思った次第でございまして、そのことを御理解をいただきたい、というのが今回の趣旨でございます。

○議長（市川資信君）　土方尚功君。

○4番（土方尚功君）　一応、今、考え方を伺いましたので、後の検討についてはそれなりの立場でまた検討する、ということでいきたいと思いますが、いずれにしても、今の市長の回答の中にも一つ疑問を抱くようなことは、大成荘の改築については何年来検討してきた、そういう中で、こういう計画書もできている、そのものが、非常に急激に変化するような行政は、ぜひやめていただきたい、というふうにお願いをして質問を終わります。

○議長（市川資信君）　お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後2時50分　休憩

午後3時33分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほど、行政報告の中で古賀俊昭君の質問が保留されておりました。その件についてまず御答弁をいただきます。教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　先ほど、十分に事実の確認のないままにお答えをして御迷惑をおかけをいたしました。おわびをいたします。

先ほど、ちょっと申しましたように、図書館の中にそういうコーナーを設ける、という問題の発端は、市民の文化活動のそういったものをどう取り扱うか、ということで、問題としてそういうコーナーを設けるという形になったわけでございますが、その際に利用条件として、配付資料の編集責任者が主として日野市の個人、もしくは団体であること、それから配付資料が無料であること、それから営利目的の宣伝パンフレットでないこと、それからコーナーに置ける範囲内の資料であること、これは物理的な問題で余り大きなもの、分厚いものだとか、そういったものが置けないということですね。それから展示期間は2カ月で、2カ月を超える場合には撤去をする。取り扱いの分野については図書館と協議をする、というような内容の利用条件というのを設定してあります。

これについては図書館内部で検討して、図書館協議会にもお諮りをしてそういう形で進める、という形になったわけでございます。

ただ、先ほど御指摘いただいたような公職選挙法とのかかわる問題だとか、そういったことについて、この段階では厳密に検討をしていない部分がございます。したがって、館内で利用条件の解釈等にまだあいまいな部分が確かに残っていたのは事実でございます。しかし、いずれにしろ法に触れることはできないわけでございますので、その点については早急に明確にし統一した方針で対処をするようにしたい、というふうに考えております。

そういうふうな若干あいまい――先ほど言いましたような利用条件の確認に基づいてやっておるもんですから、若干、先ほど議員さんの方から御指摘いただいたような文書の取り扱いについて、あいまいな部分が確かにございます。したがいまして、一時そういったものが、文書の名前はちょっと明確ではございませんけれども、置かれていたという事実を確認はいたしました。現在は、ない、ということでございます。

以上です。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　やっと大まかな経過がおぼろげながらわかったわけであります。つまり法令等に抵触が考えられる、つまり違法性が指摘されるようなことについては、十分検討していない、ということでありますが、しかしながら、それが現実に置かれた、という事実をお認めになるのか、ならないのか、そこが大事なところだと思うんです。

高幡の図書館の担当者は、そのことを恐らく何が置かれていたか知らないで勤務して

おられた、ということは考えられないわけでありますので、いつからいつごろまでの間、だれの議会のレポート報告が置かれたのかどうか、その点、確認してもらえないはずはないんですが、その点の御回答が全く欠落しておりますが、その点いかがでしょうか。事実がはっきりしないと、問題点を整理できないんですが。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　このコーナーに置く文書類につきましては、その置かれた１点ずつを図書館に保存をしているということがございませんので、現在どういう形の文書であったか、ということについて、ここで明確にすることができません。

ただ、いずれにしろ利用条件の解釈について、先ほど申し上げましたような形で利用条件について確認をして、それで実行をしているということで、細部についての検討に不十分な点が確かにございますので、その点については今後早急に明確にして、統一した方針で対処できるようにしたい、というふうに考えております。

先ほど申しましたように、法に触れる、というような性質の問題については、これは一切できないわけでございますから、今後とも、そういう点については十分に配慮をしたい、というふうに考えております。

以上です。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　次長は、私がお聞きしていることに故意か無視かわかりませんが、お答えにならないのはどうしてか、私、理解できませんね。高幡の図書館の責任者並びに担当者にお聞きになれば、恐らくわかると思うんですね。御存じなんでしょう。どうしてそれをおっしゃれないんですか。大事なことじゃないんですか。法に抵触するかどうかわからない微妙な問題を含んでいることであれば特に事実が大切なんですね、どういうことが行われたか、ということが。その点はっきり――わからないはずはないと思うんですよ。どうですか。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　この事実の問題については、高幡の担当者にも確認をいたしました。しかし実際問題として、先ほども申し上げましたように、どういう文書でだれのものか、ということが確認できなかったということでございます。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　市議会のメンバーの中のだれかの議会レポートが置かれた事実があるかどうかについては、いかがですか。置かれたことがあった、というふうに承知

しておられるのか、そのことも確認できないのか、どうなんですか。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　担当者の方は、文書の名前については明確に記憶はしておりませんけれども、ことしの９月ごろに置かれていた、ということについては私も確認いたしました。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　だれかのものが置かれていた、ということは今次長がおっしゃったんですけれども、だれのものかというのはわからない、ということですが、置かれた経緯はどうなんでしょうか。勝手に持ってきて置いていったものなのか、図書館の関係者が了解をして置いたものなのか、その辺の経過はいかがですか。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　少なくとも担当者の記憶では、議員さん個人が来てお持ちになったものではない、市民の方がお見えになって置かれた、というふうに記憶しているということでございました。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　担当者は、こういうものを市役所の施設である市立図書館に置いてもらいたい、ということで申し出があれば、どういうものか見るはずですね。見ますね。30人しかいない議員のだれかの名前が、でかく書いてあるわけですね。よく知っているいろんな議員の顔写真も入っている、だれか。きれいさっぱり忘れてしまってだれのものだったかわからない、ということはあり得ますか。

前、教育次長は図書館長をやっておられましたけれども、図書館司書の資格をお持ちですか。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　司書の資格は持っております。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　司書の資格を持っておられるのであれば、図書館に持ちこまれた資料について、図書館の職員の方の中には司書の資格を持った方は、ほかにもたくさんいらっしゃるとと思うんです。当然そういう資格をお持ちの方であれば、確認をするのが当たり前じゃないですか。確認をするのを忘れることはないんじゃないですか。特に、非常に法律とも絡む問題があるというようなこともおっしゃって、そのことはまだ詰めるに至ってないから、あいまいのままだ、とおっしゃれば、持ち込まれたものにつ

いては、やはり検討なさるから当然記憶に、ある程度残るはずですね。なぜ、お隠しになるんですか。

○議長（市川資信君）　　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　　私、その事実を隠しているわけではございません。

先ほども言いましたように、利用条件の中で配付資料の編集責任者が、主として日野市の個人もしくは団体である、ということで答えました。例えば営利目的の宣伝パンフレットではないとか、配付資料が無料であることとか、そういった条件等の問題があります。

確かにその辺については、十分にその利用条件の確認のときに、図書館側でそういう利用条件を設定するときに十分に討議が行き届いてなかった部分が確かにあるのは事実でございますので、担当者の方でもそれを見て、それが日野市内の個人もしくは団体である、という先ほどの条件に合致している、ということであると、いいですよ、というような形になって置く、というのが日常的な例でございますので、いろんな種類のパンフレット類がありますので、私が事実を承知していながら隠してそのことを申し上げない、ということではございません。

○議長（市川資信君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　次長は直接承知しておられなくても、高幡市立図書館のそのことにかかわった職員の人は、はっきりその事実を十分承知の状態が、まだ続いていると思うんですね。これが10年も20年も前のことなら忘れてしまうということも考えられると思います。しかし、ついこの間、１月そこそこ、まだたつかたたないかですね。

高幡図書館の方が次長の問い合わせに対して、とぼけて答えてないのか、だれかわかりません、ということで答えてないのか、次長は聞いていながら、この場では、やはりいろいろ問題があるので答えられない、ということで答弁を拒否しておられるのか、当然そのことは、これだけ休憩時間があれば確かめるべきじゃないですか。だれのものが置かれたかわからない、というのじゃ話にならないじゃないですか。置かれた事実は認められたんですよ、今。だれのものか特定しなければ話にならないでしょう。はっきりさせるべきだと思います。答えてください。教育長でもいいですよ。

○議長（市川資信君）　　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　　私が確認をした結果そういうことでございましたので、現在その資料がございませんので、その文書の名前なり、そのお名前なりを申し上げられない。私もその担当者に確認をして、担当者自身がはっきり言っておりませんので私も

確認できなかった、ということでございます。

○議長（市川資信君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　市の施設に書類を置く、どこのどなたがお願いに来たかということは、多分控えておられるんじゃないかと思うんです。どなたが持ち込んできたものなのか、その点もわからないかどうか、お聞きをいたします。

それから、１日だけ置かれて、さっと、これはまずいと思って引き上げたんだったら、それはわからないということもあるかもわからないですが、半月以上置かれていたんです。それを高幡の図書館に勤務しておられる方が毎日見ていながら、しかも貸し出しのカウンターの前にあるボックスですから、いやでも目につくんですね、朝来れば。それを毎日見ていてだれ一人覚えていない、ということは考えられますか。はっきりさせてください。

○議長（市川資信君）　　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　　配付で依頼を受けてそこに置く文書については、控えというのは取っておりません。

もともと、文化団体のそういう種類のものを置くコーナーでございますので、そこに自由に申し出ていただいて、できるだけ自由に置いていただく、という形で日常的には処理をしておって、いろんな種類のものが置かれておりますので、特に担当の職員が記憶をしていないということでございます。

○議長（市川資信君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　カウンターの前に置かれている書類は、９種類ぐらいあったんです、あのボックスにあるのは。そのなかの一つなんです。よく見えるんですよね。半月以上置かれていた、ということでありますので、職員の方が１人も、いまだにだれのものだったかわからないということは、あり得ないと思います。

それから、この議会レポートを置くことはまずいんですか。置いても構わないんですか。

○議長（市川資信君）　　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　　その点に関しましては十分に今後検討いたしまして、統一方針を明確にしたい。それが法に触れるものかどうか、という問題につきましては、早急に検討して明確にしたい、というふうに考えております。

○議長（市川資信君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　教育委員会としては、法に触れるかどうかわからないので今後

検討しなければ、置くことが可能か不可能なものであるかわからない、という回答ですが、現にこれが置かれたんです、市の図書館の中に。しかも、かなりの長期間にわたって。じゃあ、だれのものがどういう経緯でそこに置かれたものなのか、というのは調べなきゃいけないでしょう。だれも覚えていない、ということが通用しますか。

もう一度、教育委員会の方で調査をしていただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　議長から教育次長に、ちょっとお尋ねをしたいんですけれども、詳細について調査するように、という、先ほど議長から申し入れをしておいたんですが、その名前の確認等の調査は、しなかったんですか。

○教育次長（砂川雄一君）　しました。じゃあ、もう一度、申しわけありませんが調査を……。

○議長（市川資信君）　もう一度、直ちに調査するそうでございますので……。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後３時50分　休憩

午後４時47分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

お諮りいたします。議事の都合により、あらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって会議時間を延長することに決しました。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後４時48分　休憩

午後５時43分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

休憩前に古賀俊昭議員より質疑の中で調査確認事項が、ようやく整いましたので、ここで教育次長をして答弁をいたさせます。教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　貴重な審議時間を長引かせまして大変申しわけございません。

この件につきまして、再度、高幡図書館の責任者に確認をいたしましたけれども、やはり記憶を呼び起こすことができませんでしたけれども、私どもの方で、そこの高幡図書館に置かれていたと思われる文書を入手いたしましたので、それを責任者を呼びまして見せましたところ、多分それであったような気がする、という確認を得ました。

それは、Ｂ４、２ページの印刷のものでございまして、タイトルが「新聞赤旗」となっておりまして、発行者が議員の中谷好幸さんの名前が掲げられているものでございます。

こうした資料の取り扱いについて、図書館内で意思統一に欠けて軽率であった点については、私の監督不行き届きということでございまして、心からおわびを申し上げたいと思います。今後、取り扱いについて現場に十分徹底をいたしまして、こういうことのないようにいたしたい、というふうに思っております。

大変御審議を長引かせて申しわけありません。心からおわびを申し上げます。

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　教育長の方から一言おわび申し上げます。

今、次長の方から答弁がございましたように、十分職場の実態を掌握し切れないで、議会の方に多分の御迷惑をおかけしたことを心からおわびいたします。こういうことのないように、今後十分対応してまいりたいと思います。

よろしくお願いします。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　事実関係が明らかになりましたので、以後、教育長の陳謝等もございましたので、十分綱紀の弛緩等を招かないように、今後取り組みをお願いをしておきたいと思います。

今までの経緯を見て、公共施設でこうした違法とも言える行為が行われた点について、市長はどのようにお考えになっているか、見解をこの際、賜っておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　図書館の性格上、ミニコミ誌等で何かサービスをしよう、という積極的な気持ちは、それなりの評価が可能だと思います。

ただ、その資料の中に余り、特に教育委員会が管理をする施設でもありますし、政治活動的な資料が露骨に置かれる、ということは、確かに適当ではなかった、これからそ

ういうことは、ないだろう、このように私からも指示をしたいつもりであります。

○議長（市川資信君）　竹ノ上武俊君。

○29番（竹ノ上武俊君）　今の質疑の中で、ちょっと確認をいたしたいことと要望が１点ありますので、質問をいたします。

今後のことについては、次長と教育長並びに市長からお話がありましたので、その点については最後に要望をしておきたいと思います。

今までのことなんですけれども、今までのやりとりを聞いておりますと、図書館の、そういうチラシなどを展示する棚に受け入れるものについての基準が不明瞭なままに、自由に受け入れをしていた、というお話に聞こえたんですよね。そういう中で、今の一つのそういう資料を教育次長の口から固有名詞を上げてお話があったんですけれども、それを受け入れた段階では、記憶ですから細かくは追及いたしませんけれども、そういったたぐいのものも含めて図書館側としては、違法性は、もちろん感じずに自由にそういうものは受け入れよう、ということできたんじゃないか、というふうに承ったわけですけれども、その点だけ一つ、今までのことですよ、確認をしておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　先ほども申し上げましたように図書館側の意図は、市民の文化活動の発展に貢献をしたい、という趣旨で、そういうコーナーを設けているわけでございますので、いずれにしろ法に抵触するものは、もちろん置けないわけでございますので、そういった点については、今後十分に、ぴしっと厳粛に対応していきたい、というふうに考えております。

○議長（市川資信君）　ただいまの質疑の関連ですか、関連でしたら、竹ノ上武俊君。

○29番（竹ノ上武俊君）　要望だけ、それではしておきます。

ただいまの固有名詞を上げた文書が図書館の一定の場所で掲示される、ということが公職選挙法や図書館の法律、こういうことに触れるかどうかは、きょうは結論は出てないわけですよね。私の考えでは、私は高幡の図書館を時々、立ち読みですけれども、しょっちゅうと言ってもいいかもしれませんけれども、利用させていただいております。そのときに私も、今言ったもののほかにも、市民団体だけれどもこれは政治団体だな、と私が感じて市議会などを批判した通信などもずっと、相当置いてございました。

しかし私は、今、次長が言われたような、そういう自由な資料の公開というような意味で、あるいは市民団体に便宜を提供する、というような意味でなされているということで、ほとんど気にもしなかったんですけれども、私はそういう点では、前向きの立場

というのは今後も維持をしていただきたい。

図書館の戦前戦後のいろいろ運動の歴史の中で、図書館がどうあるべきか、という宣言などもなされ、図書館には一定の、どのような立場のものでも平等に置くんだ、こういう精神があると思うんですね。だから、そういう基本的な精神を守って今後も市民への文化活動へのサービス、あるいは諸資料がいつでも市民が見られるように、こういうことで大いに図書館の方で努力をしていただきたい、こういうふうに要望しておくものです。

それから、今、古賀議員の発言では、議会便りとか、そういう個人が発行したり、政治団体なり、さまざまな団体が発行した文献が図書館にあることが違法なような発言があったんですけれども、私は、選挙中の文書とか、例えば図書館の中で政治団体の後援会の加入の申し込み、それを配って、そこで活動をするとか、そういう直接公職選挙法とかいうものに触れるものがなされる場合は、これは厳に慎まなければいけません。しかし、さまざまな政党なり政治団体、市民団体の文書が図書館に存在するということは、私は合法的な図書館活動の一つだ、というふうに考えておりますので、その辺は、大いによく図書館関係者も研究していただいて最大限の、やっぱり自由を市民に保障する方向で進んでいただくように強く要望しておきたい、と思います。

○議長（市川資信君）　名古屋史郎君。

○28番（名古屋史郎君）　議論を聞いていますと、先ほどの冒頭の教育次長の答弁は、公職選挙法云々ということを十分想定できるような設問だったわけですよね。私の議会報は置いてもらえますか、ということから始まったわけで、それに対しての返事が、積極的に置いてほしい、と言うに近い、それに近いような答弁であって、最後の方は、市長も教育長も次長も大変申しわけない。

公職選挙法上どうなのか、というのは不規則発言の応酬で、何かすっきりしないんですね。もし、それらの議論は別にして、一番最初の答弁は、ちょっとおかしかった、ということも含めておっしゃれば、竹ノ上議員のおっしゃるようなことは消えちゃうわけですよね。いや、それはもう明確に区別すべきことなんだ、ちょっとまずかったんだ、ということを強調されれば、竹ノ上議員の言われることは消えちゃうわけで、またその反対であるとすれば、また違う結論が出てくるわけですよね。だからその辺は、何かこれで議論をおしまいにしてしまうというのは、どうも私にはわからないんですね。

その辺、ひとつ明確にしていただきたいと思うんですが、どうですか。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　当初の私の、古賀議員さんの一番初めの質問に対する私の説明で、私の理解が行き届かない点がございまして、不十分な説明をしてしまいました。大変それは申しわけない、というふうに今思っております。

先ほど申し上げました少なくとも法に抵触するようなものについては置けない、というのが帰結でございますので、ぜひそのように、ひとつ御理解いただきたいと思います。私の説明が当初のと違ってしまいまして、その点については大変申しわけなかった、というふうに思っております。

○議長（市川資信君）　ほかに御質疑はありませんか。馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　お話をいろいろ伺っていて、教育委員会は一体何をしているのか、というふうな感じを改めて思ったわけですが、実は、先ほどの土方尚功議員の質問の関連で、非常におかしいな、というふうなところを感じたもんですから質問させていただきますが、市長から報告があった２番目の大成荘及び林間施設の展望ですね、このことに関連をするわけですが、このことについては予算組みもしてあって、教育関係の予算として2,800万からのお金が後ほど出てくるわけですね。

先ほど教育次長のお話だと、既に教育委員会の中でも報告なり議論なりをしている、というふうなことをお答えになったと思うんです。実は私どもは教育委員会、直にはのぞいておりませんが、毎月毎月の広報に、教育委員会ではこういうふうな議論をしておりますよ、というふうな連絡を受けているわけですが、そういう中で一体、この2,800万からのお金がとりあえず出ていくという、しかも新しい事業である、ということについて担当する教育委員会では、一体どのような審議を踏まえて、きょう、ここに出してきたのか、ということをまず教育長にお伺いをしたいと思います。

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　林間施設の問題につきましては、教育委員会内部としては今回の予算の問題と絡みまして教育委員会の懇談会、並びに教育委員会そのもので内容を検討し、大成荘の問題、並びに今度の安曇野の問題につきまして、この機会に統一してそういう用地が取得できるならば、将来の週休２日制の問題等も、先ほど石坂議員さんの方からも出てまいりましたけれど、そういう状況が起きてくる中で、社会教育の大きな施設として用地の確保だけは、とりあえずできる時点でやっておくのが一番望ましいんではないか。

将来的な形で、その内容をどういう形に持っていくか、という問題につきましても、今までも大成荘につきまして、冬季のスキー教室その他について、大変そういう施設が

利用できるような場所をほしい、というような意向等もありますし、大成荘と師弟の関係のような形で、今回の大成荘予算の範囲の中で、もし実現できる状況が生まれるならば、その方向というのも将来の日野市の社会教育関係の問題等を考えたときにも、確かに大きな利点があるんではないか、こういうことで予算要求を12月議会に、とりあえず土地の問題だけでお願いをしている、こんな現状でございます。

○議長（市川資信君）　馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　教育長のお話だと、いわゆる教育委員会の中の審議事項というんでしょうか、予算絡むわけですからね、議会に出そうとする予算を話し合うわけですから審議事項だと思うんです。その中に今回の大成荘に関連をする、という形になりますか、全く新しい林間施設を用意する、といいますか、そういうことについての審議事項というのがあったんですか。

実は私ども、松下太郎さんという方から、日野の教育委員制度を考える会というのがあって、月々、教育委員会を私たちは傍聴しました、こういうことが審議されておりましたよ、というようなものを９月、10月、11月、３回分持っているんですけれども、これに、あるいはあえて、はずしたのかどうか、私はわかりませんが、少なくとも、これを見る限り、きょう、このような市長の報告があったような形のものが今議会に出るであろう、というふうなことでの審議、あるいは報告すらないようなことになっているんですけれども、それは、この資料をお出しになった方が間違いなのか、間違いなく審議事項というような形の中で取り上げられた上で教育委員会で決定をして、こうなっているのかどうか、もう一度確認をしたいと思います。

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　お答えをいたします。

確かに予算の、議会で審議していただく内容にも触れますし、現実問題として、この予算にかかわる問題等につきましては、傍聴者も含めた、いわゆる教育委員会そのものの中というよりも、教育委員会の会議を一応閉じまして、その後、秘密会にした中でこの問題につきまして討議をした。その中では、確かに大成荘も山であるし、この安曇野の問題も山であるので、これを議会に出したときに、せっかく、そういう一応場所を設定するならば山と海というような、そういうような意見等も出るんではないか、とか、あるいは将来的には、やはりそういう市民の保養施設と申しますか、青少年の健全育成の場として、できれば海の方にもそういう場所を将来的には確保したいとか、そんなような意見等も出されながら検討して、今回の予算要求という形にのせたわけですけれど、

現実的には、先ほど申し上げましたように、事前に議会審議もわずらわさないうちにそういうものが、いかにもでき上がってしまうような形で市民サイドから大きく情報が流れるというのは、議会との絡みからいってまずいんではないか、ということで、議会を一応締めくくった中で今言ったような検討をした、というのが現状でございます。

○議長（市川資信君）　　馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　　どう考えてもおかしいんですね。秘密会にするというのは、本来一個人の、例えばある校長先生ですとか、教頭先生がどうなるとか、そういう問題についての議論がある場合には、秘密会にしますよ、ということでいいと思うんですけれども、この議会もそうですけれども、まして予算に関係することでしょ。あえて秘密会にする必要なんか全くないと思うんですね。

今、教育長がおっしゃられたことは、私どもはその場にいませんから本当にそういった議論があったのか、あるいは全くないけれども、そういうふうなお話をこの場だからしているのか、ということは全くわからないわけです。まして教育委員会の、私どもは市の広報でもらう教育委員会の審議事項には、例え秘密会であっても予算に関係すること、12月議会に出てくることですから、こういうことも審議をされましたよ、というふうな形でのって当然だと思うんですね。例えば、その話が秘密会であったにしても。

そういう点の配慮が全くないし、これをすんなり、いろんな広報、あるいはこういった教育月報なんかを見ますと、恐らく、全くこういう審議、審議といいますか、教育委員会内での議論の煮詰めがなされないままで、この場にぽっと出てきている、というふうな印象をどうしても持ってしまうわけですよね。そういう点で私ども、教育委員会というのはちゃんと議論をしているのかな、というふうな気がしてならないわけです。

実は、もう少し申し上げますと、この松下さんの文書の中に、教育月報の中にこういうことが書いてあるんですよ。議会の文教委員会に出ていつも不思議に思うんだ、あれだけ教育委員会で一生懸命議論している、審議をされている、これはぜひ予算をいただきたい、ということで教育委員から議会へ回されているんだから、議会の文教委員会なんか必要ないんじゃないか、もしそこで必要だとするならば、教育委員会は一体無用の長物なのか、というふうなことが書いてあんですね。

もし私どもが、この場でこういった議論をしなかった場合、秘密会の中でだれも知らないままで実は審議があったんですよ、というだけで、何も公にならないままで突然に出てくる、ということがこれからもたびたびあるんじゃないかな、という恐れを感じるわけです。

というのは、前の話になりましたけれども、変形40人学級のときも、やはりそうでしたね。やはりこの当初予算の中で、ことしはこういうことを考えていきたいんですよ、というような議論が行われるのではなくて、何となく隅の方にいる中で突然ぽんと出てくるということが過去にもあったわけですね。

非常にこういう教育委員会のあり方でいいのかな、重要な問題、個人にかかわらない重要な問題というものは、もっともっと公の場で議論をすべきだし、そういうものがいろんな議論の中で、いい悪いをさんざんやった中で、ぜひとも必要だから大成荘以外にもこういうものをやっていこうではないか、ということをだんだん広めていって議会に出してくる、そういう手順がぜひとも必要だと思うんですけれども、その辺について、私は教育長がおっしゃるんだから真実だと思いますけれども、それにしても、今聞いて初めてそういうことが議論をされた、ということが私どもわかるわけで、こういったことで本当に教育委員会というものが信頼をされる教育委員会になるのか、本当に議論をしているのか、ということが問われると思うんですけれども、その辺については何かお考えありませんか。

○議長（市川資信君）　　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　　11月14日の日野市の教育委員会協議会という形で、この林間施設に関する基本構想という内容について相当内容を詰めた形で、この林間施設を整備する目的とか、あるいはこの大成荘の建てかえの計画の問題とか、その他含めてこの協議会の中で時間をかけて審議した。

先ほど申し上げましたように、ただ予算も絡む問題でございますし、12月の議会前にそういう形で先に教育委員会自体の今持っております計画が、議会におかけもしないうちから、いろんなチラシ等で市民の方のところへ、いかにももうでき上がっちゃったんですよ、というような形で流れることを私たちは逆に心配いたしまして、協議会という性格の中で処理をした、そういうことです。

○議長（市川資信君）　　馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　　だんだん輪郭が見えてきたんですよね。

どうして、ここまでこだわるかといいますと——この教育月報こだわりますけれどもね、10月号には９月の教育委員会の内容がちゃんと載っているんですよ。これには「補正予算の件」といって、90万円だとか800万円だとか30万円ということがちゃんと、恐らく、ここへ載っているということは、公開の委員会の中で議論がされているわけですよね。恐らくこれまでの教育委員会というのは、次の議会に出そうとする予算について

は公で議論をしていたはずです。どうしてこれだけ、そういった、わざわざ協議会ですか、そういったものをつくってやったんですか。やってもいいです。とすれば、次の教育委員会には間違いなく公開の議論として、予算の件として出して、その上でこの議会の場に持ってくる、というのが手順ではないですか。いかがですか。

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　おっしゃられる筋道につきましては、そのとおりでございまして、11月14日に教育委員会の協議会の中で、この内容を十分検討して2,800万という予算を、一応財政当局の方に要求するぎりぎりの状況の中で、先ほども申し上げましたような気持ちだけが先行して、この次の教育委員会には、今度は逆に議会へ正式に出したわけですから、出したわけですから議案としては、当然その他の予算の問題等も含めながら、こういうことで議会へ出しました、ということの議案としての内容を詰めなくてはならない、こうは考えておりますけれども、先ほど申し上げたように、先にそのことのためにいろいろ問題が起きてはまずい、というような配慮の中で協議会という形で内容を詰めた、というのが現状でございます。

○議長（市川資信君）　馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　お話を伺っていまして、本当にこれ、教育委員会の中で委員さんがいろんな議論をして、どうしてもこういうものが大成荘以外に必要なんだ、市長にお願いをして予算を出してもらおうよ、予算をつけてもらおうよ、という、そういう筋道を追った議論の上で出て来たものじゃないんじゃないかな、という気がしてならないんですね。そうであれば、こんな出方はしないと思うんですよ。余りにも不自然なんです。教育委員会で、じゃあ、もし本当に議論をしているんだったら、どうして、もう少しはっきりと公の議論ができなかったんでしょうね。

私は、これまでも申し上げてきましたけれども、40人学級のときもそうでしたね、教育委員会、がんばれ、と。市長の意向はともかく、それがいいとか悪いは別問題で、教育委員会として日野市内の子供たちをあずかっていく、教育していく上で、これだけはぜひ必要なんです、という議論がまず先にあって、それを長い間、詰めた中で、どうしても予算組みが必要だから、といってここへ出てくる、というそういう筋道がどうも欠けているような気がするんですね。

それで改めて、私、思いますのは、これは実は８日、きのうの朝日新聞に東大和市の記事が載っていたんです。日野でも大分議論があったんだけれども、教育委員というものは、法的にはその市の、あるいは町の住民でなくても構わないけれども、やはり市内

の教育をあずかる以上は、町の中の教育をあずかる以上は、その町に住んでいる人がやるのが当たり前ではないか、というふうな議論が行われているんですね。

日野でも随分ありました。これまでも、たくさんあったと思うんです。日野には教育長、教育長は行政の立場ですから仕方がないとして、ほかにもお二人、日野市以外の教育委員さんがいらっしゃるわけですね。能力的にはともかくとして、本当の意味で一住民として市内の子供たちのために何とかしよう、というふうな熱意を持った議論をした上でこういうものが出てくるのかな、ということを改めて私思ってしまうんですね。

この新聞の記事によりますと、これは社会革新クラブの議員さんですね、この問題を東大和で追及した方は。「法的には、どうか知らないけれども、事実上、東大和市民としての生活をしていない人が教育委員を努めるのは、おかしいではないか、地域の教育問題を審議する資格はないんじゃないか」というふうなことで、実はこれ、朝日新聞自体も割とこの議論に対して好意的に取り上げているんです。実は、日野でも大分この議論はしたんですけれども、そのときには残念ながら取り上げてもらえなかったんですけれども、そういったことも含めて教育委員会、教育委員さん、もっともっと、がんばってもらいたい。自分たちがずっと検討した上で、これはどうしても必要だ、というものを出すならばいいですけれども、今回の出し方のように公になった資料からは、どう考えても、どこを開いても、じっくり教育委員会で議論をし、大成荘ではどうもまずいから、こちらの方にしようよ、という議論がじっくり行われた、というものが伺えないんですよね。教育委員会に、ぜひ、もっともっとしっかりしてもらいたい。

教育長は、かつて革新市政下における教育行政はどうあるべきか、ということを考えつつ進めています、というふうなお話もありました。とんでもないことで、市政が保守であろうと中道であろうと革新であろうと、教育委員会というものは、教育というものはそれとは別に、選ばれた方々が自分たちは選ばれたんだ、町の教育のことを一生懸命考えていこうではないか、というそういう姿勢がまず第一だと思うんです。

そういう点で、どうでしょう、教育長、今回の教育委員の一人として、進め方についてこれでよかった、とお思いですか。今後は、こういうことがないようにしたい、というふうにお考えですか。どうですか。

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　十分、意の尽くせる形での答弁になっていないのかもしれませんけれども、先ほど次長の方でもちょっと話がございましたように、今回のこの林間施設を視察に行くとか、そういう現実的な行動やなにかは既に10月段階からとられ、そ

れを集大成した形で、この林間施設整備にかかわる基本構想というような形の内容の問題を協議会の中で検討して、これなら、こういう方向で12月議会に予算要求を出していいんではないか、というところまでまとめた上で出した、というような現状でございます。

それで、教育委員さん自体の問題につきましては、この前、議員さんの一応議会での承認を得る際にも、いろいろ問題等も出てまいりましたけれども、私たち自身としては十分委員さん自身が活動できるような形の方、こういう方が、現実問題、やはり教育の仕事に携わっていただきたい、というのが中心でございまして、その点で市内に居住していらっしゃれば、それに越したことはもちろんないわけでございまして、ただ現実的には今の教育委員さんたちも、月に五、六回、多いときには10回近く学校訪問だとか、あるいは父母との懇談会だとか、社会教育の行事だとか、いろんな形に精力的に行動をとっていただいている。そういう点では私自身、今の教育委員会、決して形骸化しているとか、あるいは教育委員会の活力を失っているとか、そういうような委員会ではない、というようにとらえております。

○議長（市川資信君）　馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　最後に、もう一回、確認だけしておきます。

今回の、じゃあこの予算組みを伴う安曇村の林間施設ですね、このことについては教育委員会の審議事項の中で可決をされたものではないですね。

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　協議会の中で検討して議会の方へ予算要求を出した、そういう状況でございます。

○議長（市川資信君）　馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　もう一回聞きます。教育委員会の審議事項の中で可決をされて出て来たものではないんですね。もう一回お答え願います。

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　おっしゃられるとおり、結局予算の伴う内容でもございましたし、問題が問題でございますから、一応議会に出した後で追認していただくような形をとりたい、こういうことで、あくまでも協議会という形の中でまとめた内容でございます。

○議長（市川資信君）　馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　わかりました。これで終わりますけれども、ぜひ、教育委員会

がんばってください。終わります。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　一言だけ申し上げさせてください。

今、教育長と馬場議員のやりとりを聞いて、これは教育長に認識をちょっと改めていただかなければ困るな、ということで、あえて発言をさせていただくわけなんですが、今この林間施設の件について秘密会にした、傍聴者もいるということで、それで議会に出す前に市民の方に話が流れる、ということでは困るという、いわば議会に対する配慮的な発言がありましたけれども、そして、今度の教育委員会では、議会で決まった後だから今度はそれを公開でできる、というふうな答弁をしましたですね。そういう考え方は基本的におかしいんじゃないか、ということです。それから議会としても非常に迷惑だ、ほかの議員さんは、どう思うかわかりませんが、私自身は、そう思うんです。

こういう林間施設の、こういうふうな構想というものについては、大いに皆さんの議論をいただいて、この予算が最終的に議会で可決しなければ通らない仕組みになっていることは、だれもわかり切っていることですから、秘密にするという意味は全くない、おかしい、むしろ。こういう前向きの構想であれば、むしろ教育委員会で公開し討議して、そして市民の批判にも耐え得るような、そういう詰め合いをして初めてその上で議会に提出してくる、という考え方の方が、よっぽど正しい姿じゃないか、というふうに思うわけですよね。そういうふうなものの部分の公開の場でのそういう討議というものをされないで、議会でとにかく予算が通ったら追認の形でやろう、というふうな考え方は、もうおかしい。それじゃ市民も納得しないんじゃないか、という気がするんです。

それじゃ、まるで——例えば、きょうも傍聴者がお見えになっていますけれども、傍聴者のために何かをする、というふうな取り組み方はおかしいですよ、基本的に。教育委員会として、この社会教育の行政の方向づけは、どうあるべきか、どういうふうな政策を持って取り組んだら効果はあるのか、成果はあるのか、そういう観点での協議をしていくわけですから、正々堂々と公開の場をして何にもおかしくないわけですよ。市民の方で、その先へ情報が流れた云々といったって、我々、何もそのことについて、とやかく申し上げませんよ。むしろ市民の批判に耐えられるような、そういうところまで議論を積み上げて完璧な計画を持って、そして議会に出す、そういうことが必要じゃないでしょうかね。

だから今後も、何かそういうふうなものについて、傍聴者がいるから秘密会にしちゃう、議会に出る前にそういう話が漏れたらどうだ、それは全く、何もおかしな悪いこと

をするというなら話は別ですけれども、立派な社会教育の政策の一環としての取り組みなんですから正々堂々と公開にして、その上で議会に出してくる、それはもう一向に差し支えないことなんですよ。だから、議会を通ったら今度は公開にして云々というふうな、そういうふうな、いわゆる教育委員会の討議のあり方というのは、基本的に、やっぱり改めてもらわなくちゃ困る、と私は思うんですよね。

その辺のところは、教育長、どうですか。そのお答えをきちんと確認しておきたいですね。

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　今、小山議員さんのおっしゃっているとおりだと思います。ただ、私、今回のこの問題で、ちょうど３月議会で40人学級の問題で大分神経質になっていたんで、問題が問題であるし、議会にまだ公示もされないうちに、問題が事前にいろんな形で、チラシ等で流れるというのは逆に問題ではないか、という形の方が先立っちゃったもんですから、協議会というような性格の中で内容を詰めた、というような形をとっておりますけど、筋としては、今、小山議員さんのおっしゃったとおりの筋だと思います。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　教育長がそういう認識に立っていただいて、今後ともそういうような――やっぱり筋というのは大事なんですよ。一部を、例えば決まったかのような形でチラシを出されては困る、というのは、それは何を指して言っているのか私にはよくわかりませんが、少なくとも我々は、そういうふうなことはないんですが、また、そういう人たちに振り回されるというのも、これもまた困ると思うんですよ。

例えば議会へ出す前に教育委員会がこれを決めた、というふうな、そういう言い方をしたら、それは問題ですよ。そうなると議会もおかしいじゃないか、ということになるけれども、こいうことを討議して、そして、こういう計画で議会で予算が認めてもらえるかどうか、という、そういう討議だったら別にそれは何もおかしくないわけで、議会で予算が通る前に決まりました、という形で報告する仕方は、これはよくない、ということですよね。

だから、若干それますけれども、市長の例えば病院の問題にしても、南平に病院誘致を、というような広報でトップに出たこともあるんですね、かつて。もうあれを見ると市民の方は、もう決まったかみたいに思っちゃうんですけれどもね。今回の区画整理地の中にこれの病院の誘致の構想も、例えば「赤旗」なんかは、もう決まった、という報

道をしているんですけれども、これもそういう決め方じゃぐあいが悪いんで、例えば教育長が言っているいろんな情報、そういう形で出されて困るんだ、というのが、例えば今言った「赤旗」とか、そういうたぐいのものがそういうことをやる傾向があるんで、したがって困るから秘密にするんだ、というなら本当に困った風潮だな、と私も思うんですけれども、そういったものに振り回されないように、やっぱり正々堂々と公開の場で議論をして、そして、それが市民の批判にも耐えられるような立派な計画を積み上げて、そして議会に出してくる、そういう考え方で正々堂々と自信を持ってやってもらいたい、ということを強く要望しておきます。

○議長（市川資信君）　旗野行雄君。

○17番（旗野行雄君）　市長の行政報告の冒頭にやった、高幡の土地区画整理事業地における公共用地の確保、ということについてですが、この問題については、私、たしか３月議会だと思うんですが、「地価狂乱と自治体の対応について」というタイトルの中で触れたことがあります。非常に、こんなに地価が上がっては、自治体でも事業用地の取得が大変になってくる。その対策の一つとして区画整理事業における保留地なり、あるいは先行取得用地を活用すべきである、そういう提言をしたことがあるわけです。

一つは、区画整理区域内へ一つそういう用地を確保すべきである、ということと、こういう保留地なりを区域外の公共用地の取得について代替地として使うべきではないか、こういうような提案をしたことがあります。

同じような発想で、今回市長が高幡の区画整理区域内に、市長は集合換地というような言い方で用地を確保する、このことは現段階では、非常に区画整理区域外では、公共用地のまとまった確保が非常に難しいという状況の中では、当を得た策ではないか、と私も考えて、あえて、このことについては反対するわけではないんですし、むしろ賛成なわけですが、どうも今までの、この問題に対する質疑を聞いてみると、こういうことのようなんです。

私は当初、この行政報告にもありますけれども、ある程度、高幡については、８月以来審議会を３回ばかり開いて、既に仮換地の指定まで同意を得ているという段階のようでありますし、都市整備部長の説明によると、この指定を３月あたりまでにするんだ、だから、この仮換地指定は別にして、指定後に市の保留地なり先行取得用地が仮換地指定であちこちに散らばっているものをまだ、担当者に聞いてみると、どこを集合して事業用地を設定するんだ、ということは決まっていない段階だから、どのくらいその作業をしなければということがわからない、という説明ですが、そういうようなやり方で個々

に仮換地の権利者と話し合って用地を集合させるんだ、こういうような説明だったわけです。

むしろ私は、実質的に、市長が言うように集合換地というような形で、換地計画の変更に実質的には当たるわけですから、筋からいけば換地計画の変更をして、この用地を取得するのが妥当ではないか、こういうふうに思うわけであります。

考えてみて、仮換地処分を決定して、それで個々に権利者と話し合って交換のような形で用地を取得するんだ、というのは、むしろ非常に仮換地処分の変更よりも難しい作業ではないか、このように私は考えるわけですけれども、その辺はどのように考えているのか、ひとつ答弁願いたいと思います。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　ごもっともな御質問だと伺っております。

本来ならば、特に学校用地でありますとか、どの区画整理事業の中に学校用地を定めよう、という際には、初めからそういう計画内容を示してまいります。

今回高幡の場合は、既に、ある程度仮換地作業が先行しております。そして一方に南部に地域病院を、ということが住民の切実な要望であり、かつまた議会でも請願採択に進んだ、この時点ならば、まだ集合換地という方法で地域に了解が得られるならば十分可能だ、という意味で、特に今回行政報告の一項目に挙げた、こういう次第でございます。つまり、今までになかった公共用地の計画を、進行中ではありますけれども、現在ならまだ可能であるので、行政報告として、こういう方式でやります、ということを申し上げた、というふうに御理解をいただきたいわけであります。

したがいまして、まず審議会にもそのことを御了解を得、それから、これから個別的に交渉を進めていくんだ、こういう順序でございます。言われるごとく複雑にはなりますが、地域一般としては歓迎をしたい、という気持ちも伺っておりますので、十分話は通じるようになって、いくためにまた努力もしなければならない、こういうわけでありまして、特に今回、行政報告をする意味は、新しい施策を取り入れておりますのでそのことを議会にも報告をする、当然の必要事項だ、必要な報告だ、とこう思っております。

○議長（市川資信君）　　簾野行雄君。

○17番（簾野行雄君）　　私の申し上げたのは、このやり方自身がどうこう――むしろ市の事業用地を確保するには、これからもこのような方法以外にはないんで、極端に言うと、ではないか、というような考えもしているわけですけれども、理論的に言って非常に難しいことはわかっているわけです。しかしながら、何とかこれは換地計画の変更と

いうような形で、事を進めた方が可能性はあるんではないか、仮換地処分をして、あと権利者との話し合いで市の手持ちの土地とその中で交換して用地を確保するんだ、１カ所にですね。ということは、むしろ仮換地処分の変更より難しいんではないか、このように私、考えているわけで、確かにこういうことは結構な話だ、地域としては、それは結構な話に違いないわけです。しかし、権利者としては非常な抵抗があるんではないか、作業上も非常に難しいんではないか、理事者のです。

そういうふうに、私、考えて今質問するわけで、その辺、いまちょっと市長の答弁を聞きたいと思います。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　手順がかなり進行していたものですから、現段階でとれる一つの方式ということでございますが、換地計画のまた、さかのぼって変更するというふうなことも担当の方では十分検討した、と思ってはおりますけれども、なお、その点につきましても、もう一遍指導当局とも協議をして可能性を探ってみたい、とこう思います。

○議長（市川資信君）　　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって行政報告を終わります。

次に日程第４、諸般の報告を行います。

会務報告についてはお手元に配付してあります報告書のとおりですので、事務局長の報告は省略いたします。

諸般の報告全般についての質疑に入ります。なければこれをもって諸般の報告を終わります。

これより請願第63－12号、郷土芸能の保存に関する請願、請願第63－17号、「中学校40人学級を３年生より行う逆学年進行方式実施」の為の日野市議会に対する請願、請願第63－19号、義務教育費国庫負担制度堅持の意見書の提出を求める陳情、請願第63－20号、義務教育諸学校の学校事務職員に対する義務教育費国庫負担制度の維持に関する陳情の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認め一括議題といたします。

文教委員長の審査報告を求めます。

〔文教委員長　登壇〕

○文教委員長（高橋徳次君）　　それでは、文教委員会に付託されました請願第63－12号、

郷土芸能の保存に関する請願について、その審査と経過並びにその結果を御報告申し上げます。

本請願は、６月17日の第２回の定例会におきまして本委員会に送付されたものでございます。請願者は、内野岩雄さん、ほか662名の方でございます。郷土芸能の保存、青少年の育成を認識することと、育成への援助をお願いしたい、という内容の請願であります。本請願は資料等を収集し慎重に審査を行いました結果、請願の趣旨を検討する意味で、また真面目な団体には援助をするように、という意見が出され、お手元の審査報告書のとおり全員異議なく採択と決した次第でございます。

次に、請願第63－17号、「中学校40人学級を３年生より行う逆学年進行方式実施」の為の日野市議会に対する請願についての審査の経過並びにその結果を御報告いたします。

本請願は、９月６日の第３回定例会におきまして本委員会に付託されたものであります。請願者は、平山中学校ＰＴＡ会長、杉山紀子さん、ほか５名の方からです。中学40人学級を３年生より行う逆学年進行方式実施の要望と、40人学級早期完全実施を政府、東京都教育委員会に働きかけてほしい、という内容の請願であります。

本委員会で逆学年方式が可能かどうかについて審議し、現状では難しい問題であるが要望として都に働きかけたい、という意見が出され、全員異議なく採択と決した次第でございます。

次に、請願第63－19号と請願第63－20号は同趣旨のものでございますので、一括して御報告させていただきます。

なお、報告の前に請願第63－19号にはミスプリントがございましたので、お手元に正しいものを配付いたしましたので差しかえていただきたいと思います。

それでは御報告いたします。

請願第63－19号、義務教育費国庫負担制度堅持の意見書の提出を求める陳情でございます。９月６日の定例会におきまして本委員会に付託されたもので、陳情者は遠田　弘さんです。もう１件は、請願第63－20号、義務教育諸学校の学校事務職員に対する義務教育費国庫負担制度の維持に関する陳情です。９月13日の定例会で本委員会に付託されたものでございます。陳情者は藤井悦子さんでございます。義務教育諸学校の学校事務職員を義務教育費国庫負担制度から除外しないよう必要な措置を求めたものでございます。

本２件の陳情に対し、委員会では慎重審査を行いました結果、お手元の審査報告書のとおり全員異議なく採択と決した次第でございます。

なお、後ほど意見書を提案させていただく予定になっておりますので、あわせてよろしくお願いいたします。

以上４件に対する文教委員会の審査報告を終わります。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本４件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本４件について採決いたします。本４件に対する委員長報告は採択であります。本４件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって、請願第63－12号、郷土芸能の保存に関する請願、請願第63－17号、「中学校40人学級を３年生より行う逆学年進行方式実施」の為の日野市議会に対する請願、請願第63－19号、義務教育費国庫負担制度堅持の意見書の提出を求める陳情、請願第63－20号、義務教育諸学校の学校事務職員に対する義務教育費国庫負担制度の維持に関する陳情の件は、委員長報告のとおり採択と決しました。

これより請願第62－30号、老人入院見舞金制の制定と実施に関する請願の件を議題といたします。

厚生委員長の審査報告を求めます。

〔厚生委員長　登壇〕

○厚生委員長（米沢照男君）　請願第62－30号、老人入院見舞金制の制定と実施に関する請願についての委員会の審査報告を申し上げます。

この請願は、昨年の９月３日、日野市南平５－28－35、西山新次郎さん、ほか3238名から提出されたものであります。老人の健康保持増進と負担軽減のために老人入院見舞金制度をぜひ実施してほしい、という趣旨の請願であります。

昨年９月以降、９回にわたり審査が行われてまいりました。この間、委員会として、他市の老人福祉手当や敬老手当など健康管理手当の類似手当の状況、さらには老人理美容券サービス事業の各市の実施状況、さらに老人入院見舞金制度、シルバー入院共済制度などの他市における実施の状況、さらにはまた、老人医療費における個人負担の実態などについて、詳しく調査検討を進めてまいりました。

こうした委員会での積極審査を経て、去る11月21日の委員会で理事者から、まず第１に、健康管理手当を１万円から１万2,000円に引き上げる。第２に、その引き上げ分の2,000円を積立金として留保し、共済制度の本人負担分に当てる。第３に、想定される総経費は約4,000万円、公費と私費、各2,000万円ずつになる。４点目として、対象は当面70歳以上とする。以上のような内容で施策の実施を図りたい、との意向が示されました。

厚生委員会として慎重審査の結果、全会一致で採択と決したものであります。よろしく御審議のほどをお願いをいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は採択であります。本件は委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって、請願第62－30号、老人入院見舞金制の制定と実施に関する請願の件は、委員長報告のとおり採択と決しました。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後６時45分　休憩

午後７時15分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

これより請願第62－３号、「国民の食料を守り、農業再建に関する意見書」提出についての陳情の件を議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長　登壇〕

○建設委員長（川嶋　博君）　請願62－３号、「国民の食料を守り、農業再建に関する意見書」提出についての陳情であります。

この問題につきましては、請願者といたしましては東京都千代田区霞ケ関１－２－１農林水産省内全農林労働組合東京地方本部執行委員長、小池信太郎殿でございます。この趣旨の内容をかいつまんで申し上げますと、行革によって３Ｋ、憲法、国鉄、米に対

する攻撃がなされ、食管制度に関する風当たりが一段と強くなります。それから農業の過保護の問題、それから、日本の穀物自給率が32％になるということ。

二つ目には、輸入農産物の食料の安全性の問題もうたわれております。

次には、農業が就業が失った上に労働者が都心へ追い込まれて、未組織の底辺の労働者がつくり出される政策なんだ、そういうことでございます。あとは食管制度の問題が絡んでおります。この趣旨の内容でございます。

この内容につきましては、提案が提出された年月日が昭和62年２月27日でございます。その間、各委員会とも委員会で継続審査になりまして今日に来たわけでございます。委員長の責任におきまして採決の結果、賛成少数で不採択の結果でございます。皆さんの十分なる御審議をよろしくお願いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。小俣昭光君。

○10番（小俣昭光君）　日本共産党市議団を代表いたしまして、国民の食料を守り農業再建に関する意見書提出についての陳情に賛成する立場から一言意見を申し上げます。

全米精米業者協会などが日本の米市場開放を求めて、米通商代表部に再提訴するなどアメリカからの農産物の輸入圧力が一段と強まって、米をめぐる事態は重大となっています。

国民の主食や食生活の基本となる農産物については、ほとんどの国で政府が管理し輸入制限を行う措置をとっています。現にアメリカでも、牛乳、バターなど13品目をＧＡＴＴ、関税、貿易に関する一般協定に基づく自由化義務免除の対象とし、さらに国内法などによるものを加えると25品目の輸入規制を行っています。それぞれの国の生活様式や農業の立地条件を抜きにした一面的な米の割高論や、農業の過保護論が意図的にあおられていますが、このことは国民の食料と日本農業全体を存亡の危機に追い込む危険なもの、と言わなければなりません。米つぶし、日本農業つぶしを許したらどうなるのでしょうか。

一つは、穀物自給率が現在でも32％となっております。資本主義国では例を見ない異常な事態となっているもとで、米にまでこれを広げた場合どうなるか、ということです。工業製品の輸出ラッシュで生み出した金の力に任せて外国農産物を買いまくる、という体制や方針が長続きする、という保障はどこにもありません。むしろ、それは極めて困難であります。間違った選択だ、というのは国際的な常識となっています。

主要資本主義国では、穀物自給を高めるための農業保護政策がとられています。例えばイギリスでは、過去の苦い経験を学んで、1960年に53％だった穀物自給率を1982年には111％まで引き上げ、輸出できるまでになっています。

二つには、輸入農産物や食品の安全性の問題です。その生産過程での農薬の添加物の問題に加えて、長時間輸送などに伴う防腐剤の心配や病害虫の侵入など、絶えず安全性にかかわる問題がつきまとっています。現在でも食品の安全性が社会問題化しているもとで、これが一層手のつけられない状態となってしまう恐れが多分にあります。

このほか水田の国土保全機能や、稲作と国民文化の関連などの問題にも十分注目しなければなりません。公の機関が民主的に管理し責任を持つことが必要であり、国の政治の最も重要な柱であると考えます。市場原理の大幅な導入とか、民活などの名目で、主食の米が大企業、大商社の利潤追求の道具にされてしまうことは、明らかであります。

そういう点でも、日野市議会の中でも５人の方が農業を職業としていますので、次のことをつけ加えておきます。

８月の10日、11日の両日に宮城県農協青年連盟部長研究集会での決議がされております。ここでの決議では、現農協青年部は、安全で新鮮な食料生産に努め、みずからの経営の安定と地域の農業、農村の発展に日々努めている。

一方、政府自民党は、地域農業の基幹産物である輸入制限農産物10品目、牛肉、オレンジの自由化、さらに２年連続の大幅な米価引き下げという暴挙を行い、今後さらに米価新算定方式、消費税導入など、危険な方向で働いていると言える、と主張し、同時にアメリカの言いなりになり国民の主権を放棄する財界主導型農政が行われることに危惧の念を抱き、真に日本農業の発展と、安全で安定した食料生産について心から考える代表者を支持する、ということを再度確認するとともに、次回は参議院比例代表選挙においては、自由民主党を支持しない、ということを決議しております。

さらに９月の20日の衆議院では、米の自由化反対に関する決議、また21日は参議院におきまして、同じような国会での全会一致の決議がされておりますことをつけ加えて、意見とします。

○議長（市川資信君）　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は不採択であります。本件は委員長報告のとおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（市川資信君）　挙手多数であります。よって請願第62－３号、「国民の食料を守り、農業再建に関する意見書」提出についての陳情の件は、委員長報告のとおり不採択と決しました。

これより請願第62－29号、多摩平六丁目32番地の８、９に建設予定のマンション建設阻止に関する請願の件を議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長　登壇〕

○建設委員長（川嶋　博君）　請願第62－29号、多摩平六丁目32番地の８、９に建設予定のマンション建設阻止に関する請願でございます。

請願者代表は、日野市多摩平六丁目32－６、川田　栄殿ほか537名でございます。紹介議員は、一ノ瀬　隆議員、山口達夫議員、鈴木美奈子議員、奥住日出男議員であります。この請願の提出日は、62年８月31日が受付でございます。

63年の11月の10日に建設委員会を開催いたしまして、この間の慎重審議を行いました。その結果、この請願に対する賛成少数で不採択と決した次第を報告し、十分審議をお願いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。一ノ瀬　隆君。

○18番（一ノ瀬　隆君）　先ほど委員長から御紹介いただきましたように、私は、この請願の紹介議員であります。古賀委員長、川嶋委員長と二代にわたり審査をいただき、建設委員会の皆様方には、大変御苦労をいただいたことを深く感謝する次第であります。紹介議員を各会派の代表の方に、特に地元に関係のある方々にお願いしたところでありますけれども、それが、今、委員長の審査報告では不採択ということで驚いたところであります。

この驚きを抑えながら、５点ばかり質問させていただきたいと思います。

ただいまの審査報告で、不採択の理由が全く述べられておりません。もう一度詳しく報告していただきたいと思います。

２番目として、この請願は、請願内容からして即刻採択である。それにもかかわらず、ずっと継続してきたのは、採択してしまうとそれをすぐに執行部に送る、執行部はもう議会の手から離れて、議会の監視がないから議会としては非常に不安である、ということ、それから、関係議員の皆さんが建て主に折衝することも、議会にいる間はあるわけでありますけれども、それが採択ということで離れてしまうと、そのようなこともなくなる不安がある。そういう意味で当初、採択が当然であるけれども、監視の意味で継続

にされていた、と思うわけであります。

私は、このような流れでもって、長い間、この請願は採択でなく、当然採択であるけれども継続されたのだ、というふうに理解しております。これは、私のひとり合点であったかどうか、ということを審査の状況からお話しいただきたいと思います。

３番目として、この請願と同じような請願が多摩平五丁目のマンション建設の反対の請願として出されました。この請願は、同じ建設委員会によって採択されました。もちろんそれを受けて本会議でも全会一致で採択されたと思いますけれども、同じようなマンション建設反対の請願が、一方は採択される、一方は不採択ということは、全く私は理解できないのであります。この点での建設委員会での審査の中での指摘がなかったかどうか、お伺いいたします。

４点目としまして、この六丁目のマンションは、請願を審査してきた建設委員の皆さんの努力もあって非常に効果があった、と考えております。近隣との間隔が、当初出してきたのは60センチであったのが１メートルに離れた、駐車場も当初、全くなかったのが、いろいろ不備はあるにしても８台の車が置けるようになった。それから、４階が３階にはならなかったにしても４階の一部が削られた、そういう意味でこの請願の価値は大きかったと思うわけであります。この価値の大きかった請願が、どうして不採択になったのか、これが全く理解できないのであります。このような審査がなされたかどうかをお聞きをしたいと思います。

５番目として、各市では請願の審査の場合、不採択がやたらと多い市もあります。しかし日野市議会の慣例では、不採択は非常に数が少ない。不採択は、市民の強い要望での請願であるから、なるべくしない、そういうよき慣例があったと思います。そうして、どうしても採択されない場合には、請願者に対して取り下げてくれないか、不採択はしたくないので取り下げてくれないか、というようなことは過去に幾つもあったと思います。採択はできず不採択ということでしたら、取り下げを紹介議員――私にはなかったですから、私以外の紹介議員に話をされたか、あるいは直接請願者に話をされたのか、その点をお伺いしたいと思います。取り下げということを紹介議員ないしは請願者に話すべきだ、という審査の中での主張があったかどうか、ということであります。

以上５点を質問いたします。

○議長（市川資信君）　建設委員長。

○建設委員長（川嶋　博君）　それでは、経過の内容を少し詳しく説明をさせていただきたいと思います。

62－29号、多摩平六丁目のマンションにつきましては、本件は９月の定例会におきまして本委員会に、62年の９月に本委員会に付託されたものであります。請願者は先ほど申し上げました方でございます。請願者の要望については、事業主もある程度の譲歩をし、請願の趣旨に沿った行政指導もしてきた　という担当課長からの説明がございました。

本委員会は現地調査も行いまして、慎重審議の結果、ただいま報告をされたような結果で賛成少数、不採択となった次第でございます。

この問題につきましては、住民の要望に対しまして建築面積、延べ面積、戸数の削減、それから、先ほど一ノ瀬議員の方からも言われました境界の問題、そういうものが７点出ております。

この１点目は、この地域には２階建て敷地もゆったりと確保し、緑を大切にして突出した建物は地域環境のバランスを壊す、という問題でございます。

二つ目につきましては、27戸の入居するマンションに対する駐車場のスペース、これがゼロでありました。この問題につきましては、駐車場を敷地内に９台確保するスペースをとった、ということでございます。

それから３点目は、ワンルームマンションは、独身者、単身者用で管理面が行き届かない。長い歳月をかけて育ってきた地域住民の暮らしのルールになじまない、こういう問題がございます。この問題については、単身者用の20戸を14戸にし６戸を減じております。それから、世帯主の７戸は変わりません。

それから管理面におきましては、建て主側が管理人を置いて単身者に対する周辺の迷惑をかけないように十分注意をする、こういう内容でございます。建物の隣接地の境界の60センチは圧迫感が強い、と地域の住民が……。この問題につきましては、60センチを１メートルに変更しております。

あと五つ目は、住民の方からの問題で電波障害がございます。電波障害につきましては、電波障害が発生すれば集合アンテナを設置して対応する、こういうことでございます。

それからプライバシーの侵害につきましては、廊下や窓、ベランダ等の目隠しがないではないか、そういう問題があります。これにつきましては、プライバシーにつきましては十分対応し、工事して技術的な要綱に沿った指導を行う、ということになっております。

最後の、防火管理人選任につきましては、建て主側としても防火管理人を、世帯の７

戸のうち１戸を管理人を置いて対応する、こういうことでございます。

先ほどの報告につきましては、１点目が以上でございます。

それから、即刻の採択をすべきだ、または採択をすべきだ、という問題につきましては当委員会といたしましても、このマンションにつきましては要綱について、一応、建て主側の問題につきましては要綱はクリアをしている、ということでございます。

それから同じ請願について、多摩平五丁目のマンション建設でございますが、この問題につきましても、先ほど含めた内容につきまして、一方的なことではなくて地域住民との話し合い、行政指導の中におきまして対応してきております。

それから、あと４点目は、効果について当委員会としても地域住民、または行政指導の中でいろいろと御意見なり御指導もし、当委員会としても、行政の担当の方から地域住民の請願者の方にいろいろと意見を出して、連絡を密にしてまいりました。

そして、最後の不採択にし取り下げの問題につきましては、委員会として地域住民とのいろいろ話し合いを行いました。私も含めて地域の集まりについても出向いてまいりました。それから、あと紹介議員の問題につきましても、そのつど、先ほど一ノ瀬議員にも委員会の経過なり、いろいろ逐次報告をしてまいりました。

そういうことで、以上、委員会といたしましても慎重審議を行いました結果、以上の報告になったような次第でございます。

よろしくお願いします。

○議長（市川資信君）　　一ノ瀬　隆君。

○18番（一ノ瀬　隆君）　　詳細なる御回答ありがとうございました。

答弁について、よく理解できないところ、不満なところもございますけれども、再度の質疑は省略いたしまして、後ほど意見の場で発言させていただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。小俣昭光君。

○10番（小俣昭光君）　　請願第62－29号、多摩平六丁目32番地の８、９に建設予定のマンション建設阻止に関する請願に賛成する立場から意見を申し上げます。

第１は、いまだに住民と建て主の間で合意ができておりません。第２点目は、駐車場スペースであります。住みよいまちづくり要綱に対して、駐車場の１台枠が十分確保されているとは言えません。第３点目は、法的にクリアしているとしても住民の環境を守る立場から、住民の合意を前提であります。第４は、請願が結論が出てないうちに工事

が着工されるなど、以上の点を申し述べ請願を採択する立場で意見といたします。

○議長（市川資信君）　　一ノ瀬　隆君。

○18番（一ノ瀬　隆君）　　この請願の紹介議員といたしまして不採択には反対し、ここで結論を出すならば採択以外にはない、として意見を言わせていただきます。

この請願は多摩平五丁目マンションのときと同じように、当初、採択すべきであるが、請願者の意向に沿うためには継続の方がいい、先ほどの質疑にも申し上げましたように、採択すると議会の手から離れる。都市計画課の方に回るわけでありますけれども、議会の監視がなくなると、一生懸命やっている職員ではありますけれども、何となく議会の恐さから離れて、その点が怠慢になりがちである。そんなことからも継続にしておいて、この次また審査するぞ、ということで担当課にも一生懸命やってもらう、こういうことを、私は十何年前からも監視の意味での継続というふうに呼んでまいりましたけれども、まさにこの請願は、当初採択すべきものであるけれども、監視の意味で継続してきたものであると思います。したがって、それをここで採決するというなら、当初採択すべきものだったわけでありますから、それを変更する理由は何もない、採択以外の何ものでもない、と思うのであります。

私は、請願者の皆さんと一緒に良好な住環境を守るため、４階建てマンション反対の立場で建築主と再三折衝してきました。深夜に及んだことも何度かあります。あるときは、古賀議員と一緒に折衝に当たったこともあります。ここで法律に違反していなくても、特に要綱にそむいていなくとも住民要望、強い住民要望を実現するために、よい住宅環境を守るために市としてもがんばるべきだ、皆さんも一緒にがんばろう、と言った、あの明快な古賀議員の発言を記憶しているところであります。

これらの折衝の大きな武器の一つになったものに、この請願があります。田辺さんという建築主に折衝したわけでありますけれども、この請願は、今、議会で継続中であるけれども、もともと採択されるべきものである。それを採択以上の強い意味を持って継続しているのだ、市議会の意向は日野市民を代表した意向である。この意向を真摯に受けとめ建築主は当然考えるべきだ、ということを主張してまいりました。

この結果、もちろん住民の皆さん方の大きな努力、そして建設委員を初め関係議員の皆さんの努力もあって、４階から３階にはならなかったものの、先ほど質疑にも申し上げましたように60センチの境界幅を１メートルに広げた、駐車場もつくった、４階の一部も削った、幾つかの効果があったわけであります。

請願というのは、できれば一番最初に採択、ないしは不採択という採決をするのが望

ましいわけでありますけれども、その望ましいことでもって今建設委員会で結論を出されたと同じように、当初不採択になったらこの折衝がどうなったか、ということを考えてみればわかるのであります。もし、当初、議会がこの請願は不採択だということを出したとしたら、これだけの成果、建築主が譲るということはなかった、と思うのであります。

したがって、継続、継続としてきたのは採択と同じような意味で、それをさらに強めたというような形でやってきた、それがこのような効果をもたらしたものだ、と私は理解しております。この請願は採択以外にはない、ということを重ねて主張しておきたいと思います。

この請願が万が一不採択になると、今後、同じようなマンション建設に反対し住環境を守りたいと願う市民から、議会に請願が出しにくくなります。この例に倣って不採択になったのでは大変だ、ということで、議会を当てにしないで住民だけで反対運動をする、ということにもなるのではないかと考えます。

私どもは、市民の代表として市民の声を受けて、これを市政などに反映させる大きな役目を持っています。この役目の否定にもつながりかねないこの請願の不採択には、反対であります。

○議長（市川資信君）　ほかに御意見はありませんか。黒川重憲君。

○23番（黒川重憲君）　意見を言うつもりは全くなかったんですが、お二人の方から意見が出ましたので私も意見を述べさせていただきたいと思います。

まず、今回のこの請願の審議に当たりまして、採決に当たった委員長の英断に心から敬意を表したいと思います。恐らく、いまだかつて全会派の議員の方たちが紹介議員として名を連ねている請願が不採択になったことは、まず、ないのではないかと思います。それだけにこの請願の持つ深い意味が、採決に当たっての決断が、今後の議会の権威を問われる重大な意義あるものと私は思うわけであります。

これまでの経緯を若干述べてみますと、昭和62年の７月４日に建築計画のお知らせがありました。７月13日に市あてに反対の嘆願書が提出をされました。そして、何回かの地元説明会を経て、今審議中の請願第62－29号でマンション建設阻止に関する請願が提出をされました。当初の建築計画は、395.28平米に４階建、単身者用20戸、世帯者用７戸の建築計画でございました。

委員会におきましても、62年の９月21日の第１回の審議から本年11月の委員会まで、都合８回にわたり慎重審議を重ねてまいりました。既にことしの初めから建築が着工さ

れて来年の完成を目指している。建築法上において、何ら法律的にも支障がない建物である。不当な建築物が建設されることのないよう、という請願の趣旨からは大きく隔たりがございますけれども、今も述べられておりましたとおり、住民の運動があったために当初計画よりも住民の意向が大きく酌み入れられた形になっているのであります。

すなわち、延面積においては766.5平米から723.86平米に縮小され、４階の西側を１戸削りました。戸数も20戸から14戸に減少いたしました。当初の計画は、駐車場ゼロの計画から９台のスペースを取るようになりました。隣のおうちからの距離が、60センチから１メートルに延ばされました。こういった、大きく住民の意向が酌み入れられたわけであります。

この請願との時間的なずれが、このようにある以上、すなわち一方では完成を目指して建築が始まっている、あるいは一方では建築をしないでほしい、という請願、この請願の現状の存在価値は極めて薄いものだ、と判断をした次第であります。

したがって、委員長を通じて取り下げられないか、とこのように申し出をいたしましたが、しかし、この取り下げはかなわなかったわけであります。以上の観点から、この請願をいたずらに採択をする理由は何らない、このように判断をいたしました。

私ども議員というのは、この議会での発言権、審議権、表決権を得るために厳しい戦いをして、市民に選挙で訴え血のにじむような戦いをして、この議場にいるのであります。だからこそ、この表決権がいかに重いものであるか、ということを私たちは身にしみて感じているのであります。ゆえに正当な理由を持って事に当たり責任を持たなくてはならないことは、承知のとおりであります。

以上の理由から委員長報告のとおり賛成をいたします。

○議長（市川資信君）　ほかに御意見はありませんか。小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　私も、あえて意見を申し上げるつもりはなかったんですが、一ノ瀬議員の申し上げたことは、一般的には全く一ノ瀬議員のおっしゃるとおりで、その話だけを聞いておれば、それじゃあ、なぜ不採択にしたのかというような、解せないというふうに思われる議員もたくさんおられると思うんですね。

そういう中で、私があえて意見を申し上げるということは、請願の反対の運動をされている方にしてみれば鬼のように見えるかもしれませんが、あえて私は、ここで委員会の実態といいますか、報告が委員長からされているわけですけれども、この結論に至った経過ですか、そういったものをある程度理解できるような意見といいますか、形で述べていきたい、というふうに思うわけであります。

このマンション建設反対の請願でありますけれども、こういう請願は、過去にもたくさんありますし、また、これからもそのたびに出てくるんではないか、というふうに想定される問題であります。そういった問題に対して行政側、あるいは議会側がきちんとした、やっぱり一つの考え方というものを持って対処していかなければ、今後の行政運営にも混乱を来すんではないか、というふうに思うわけであります。

議員は、住民の皆さんの意思を反映させる、という大きな使命を帯びております。また一方で市長を初め行政側も、仕事をするということは、これはまた市民のために行政サービスとして役割を果たしていただいているわけであります。したがって私どもは、適切な行政運営をされるということも監視もしなければなりませんし、また意見も述べていかなければならない、そういう立場にもあろうかと思います。

そういう位置づけの中で、このマンションの反対の請願が出ました。このマンションの建設そのものは、関係法令に基づいて建てるわけですから違法性はないわけであります。違法性のないその建築申請に対して行政側が、それを建てるな、と押さえつけるわけにはいかない、これも現状であります。さりとて、実際に自分の近くに、自分の家の横に大きなマンションが建てられる、というふうな状況になったときに、住民の立場にすれば確かにうっとおしいことでありますし、できれば建ててほしくない、というふうに思うのも、これもまた理解できるわけであります。そういう住民の皆さんの気持ちを考えれば、議会として対応できる手段といいますか、そういったものは、この請願に対して継続審議という過程の中で対応していこう、というのが委員の気持ちだった、というふうに思います。その結果の成果というものが、先ほど一ノ瀬議員が述べられているように、建築主もいろんな譲歩をいたしました。

そういう状況の中で、私も、実は個人的に何回かの経過を踏まえて委員会で発言をしましたけれども、結局、こういうふうな問題については、それぞれがお互いに妥協しなければならない、そういう性質のものだ、というふうに思うわけでありまして、これまでの、例えば多摩平五丁目のマンションの問題についても採択になりましたけれども、結局、建築主もある程度譲歩し、住民の方もいわゆる法の限界というのもございますから、その建築主の譲歩を不満足ながらも理解をして、譲歩して協定を結んだ、そういう背景の中で採択になったわけであります。

ところが今回の場合は、この請願の運動をされている方々は――私が、現実に、例えば建物をすぐに建てられている状況の中で、そしてまた、建築主もある程度譲歩した、譲歩案を示した、そういう中でお互いに住民の近隣関係をよくするためにも協定を結んだらどうでしょうか、という発言をしました。ところが、この運動をされている方の受けとめ方が、建築主との話し合いをストップさせておきながら、建物ができたから否でも応でも妥協したらどうだと言わんばかりのことを小山委員は言っている、というふうな、そういう指摘の文書というものを、私のところにも来ました。そういう受けとめ方をされたわけであります。そして、協定はとにかく結ばない、あくまで反対するんだ、というふうな姿勢を一貫して取り続けてきたわけであります。

そういう状況の中で、例えば市民の人が傍聴に来れば、あるいは選挙のことを考えると、本当はその場で議員としては票も意識し、選挙も意識し、その場での大勢の、例えば傍聴者があれば傍聴者を意識して、ややもすると住民サイドに立った、行政側に対して無理押しといいますか、ごり押しのような態度表明をすることもあるわけでありますけれども、しかし、そういうふうな議会であっては本当に市民のためになるのか、という、そういう疑問も抱くわけでありまして、正すべきことは正す、いけないことはいけない、限界あるものは限界ある、ということもあえて勇気を持って取り組んでいかなければならない、そういうことも示していかなければならない、それもまた議会の責任ではないか。何が何でも住民がこう言うから、行政の仕事に対して――行政は、あくまで法令に従って、関係法令に基づいてこの仕事を進めなければならない、そういう立場にあるわけですし、それが、また社会秩序を守っているわけでありますから、そういう社会秩序をぶち壊してまで議会がそれを後押しするというわけにはいかない。そういうことを、やっぱり反対運動をされている皆さんにも理解をしてほしい、そういう意味で、私ども勇気を持って今回の請願については不採択という決議をしたわけであります。

願うことならば住民の皆さんが――やはり今度建設されるマンションの建築主も関係法令に基づいて建てているわけで、建てること自体を本来とめるわけにはいかない。しかし、そういう中で違法性がないからといって、自分の計画どおりにやるんだ、住民の声は全然聞かない、ということじゃなくて、譲歩も、先ほどるる申し上げたような譲歩をしたわけでありますから、住民の皆さんも、ある程度のやっぱり妥協は必要ではないか。そして、できれば請願を取り下げるという形で、これまでのようなパターンの形になっていただけるのが本当は、一番私どもが望んでいる姿であったわけでありますけれども、今回の場合には、協定は結ばない、いわゆるいろんなことの譲歩をしてほしい、という請願にも書いてある形で出ているわけですけれども、ある程度、それは全部、百パーセント譲歩しているわけではないけれども、そういう請願の趣旨に基づいて、ある程度建築主も譲歩しているわけでありますから、請願の反対運動をされている皆さんも、

その辺の限界というものもあるわけでありますから、協定を結んでいただきたかった、というのが本当の私どもの正直な心情なんです。

しかし、あくまで協定は結ばない、最後まで反対だ、極端なことを言いますと、反対のための反対運動というふうな姿勢をかたくなに取り続けてきている今日であったわけであります。

そういった皆さんに対して、私どもが取ったこの不採択というふうな結論だけを聞きますと、先ほど一ノ瀬議員が言われるような考え方に立てば、ちょっとそれは乱暴じゃないか、というふうな受けとめ方をされるかもしれませんが、今私が申し上げたような経過もあるわけでありまして、やはり私どもは、すべて、全部住民の人に、市民の人にどの角度からも迎合する、というようなことではいけない。相談に乗ってやるべきところは一生懸命相談に乗ってあげる。我々ができる範囲のものは、一生懸命この行政に反映させる。そういうことは、もちろん私ども本当に大事な役割であります。そういう気持ちには、全く各建設委員もかわりないわけでありますけれども、しかし一方的に、一方的な立場だけのかたくなな姿勢だけをとられますと、やっぱりそれは正さなければいけない、というような気持ちも持たざるを得ないことも理解してほしい、こう思うわけであります。

請願者の皆さんも、例えば自分がマンションを建てる当事者になった場合、逆の立場でも考えてみてほしい、というふうにも思うわけであります。やはり、この世の中は関係法令に基づいて事をなさなきゃならないんだ、一方でそういうことが、行政も守るから私どもも、市民生活も守られるわけであります。たまたま、逆の立場であるから反対運動だ、という形での気持ちは、それはよく理解できるんですけれども、やはりそれも一方では、建築主も関係法令で守ってやらなければならない。それがまた、逆に私どもの市民生活も関係法令で守らなければならない、ということにつながるわけですから、そういった行政のルールといいますか、社会生活の秩序というふうなものもぜひ理解していただきたい。

そんな願いも込めてあるわけでありまして、そういう意味で私どもは、本当にこの結論を出すには苦心をいたしました。悩みました。名古屋委員なんかも相当悩まれたと思うんですけれども、勇気ある結論といいますか、態度表明をしていただいたんではないか、というふうに私自身も非常に敬意を表するところでありますけれども、ある意味では、こういったことに対しての反発というふうなことを受けるかもしれませんが、しかし、私どもは決して住民の皆さんのためになってない、というふうなことでやったわけ

じゃない。住民の皆さんのためになっているからこそ、あえてこういう結論を出したんだ、という、そういう気持ちは十分に持って、この結論を出したわけでございます。

そういった意味で、今回の例は今までのマンションの反対運動の請願とは、若干背景が違う、経過が違う、というふうなことから、こういう結論を出したということで、不採択に賛成の立場で意見を述べさせていただきました。

○議長（市川資信君）　ほかに御意見はありませんか。福島敏雄君。

○８番（福島敏雄君）　ただいま両者の意見を聞いていまして、簡単に意見を申し上げますと、私もその前まで、この建設委員会の中でこの請願に携わってきまして、今までの川嶋委員長の報告の中でも、あの請願があったから業者との話し合いが進んだ、ということを今でも私は信じておりますし、そういう効果を果たした請願が、私はいろいろ議論を聞いていてわかる面もあるわけですけれども、私の信念といたしまして、不採択には、どうしてもならないんじゃないか、という感じがいたしますので、そういう意見を表明いたします。

○議長（市川資信君）　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は不採択であります。本件は委員長報告のとおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（市川資信君）　挙手多数であります。よって請願第62－29号、多摩平六丁目32番地の８、９に建設予定のマンション建設阻止に関する請願の件は、委員長報告のとおり不採択と決しました。

これより請願第62－36号、米の市場開放反対、農畜産物の輸入自由化阻止の意見書採択に関する陳情の件を議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長　登壇〕

○建設委員長（川嶋　博君）　請願第62－36号、米の市場開放反対、農畜産物の輸入自由化阻止の意見書採択に関する陳情でございます。

請願者は中野区東中野１－56－５星野ビル４階、日本労働党東京都委員会委員長、秋山秀男殿でございます。紹介議員はおりません。

この問題につきましても62年の９月14日に受付がありまして、それ以降、たび重なる委員会におきまして継続審査、継続中の間に個々の委員がそれぞれの勉強をしていただ

いて、委員長の責任におきまして採決を行いまして、63年11月10日の委員会におきまして不採択に決した次第でございます。

よろしく御審議をお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。天野輝男君。

○6番（天野輝男君）　こういう問題は、各市町村で取り上げているかどうか、ということを調べてみますと、やはり国に対するこういう問題は、議長の裁量で議長あずかりとか、そういう形で押さえている市町村が多いわけです。

そういう面で、こういうものをやはり意見書として受け入れないで、ある程度代表者会議なり、議長が判断していただきたい、このように思います。

○議長（市川資信君）　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は不採択であります。本件は委員長報告のとおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者　挙手〕

○議長（市川資信君）　挙手多数であります。よって請願第62－36号、米の市場開放反対、農畜産物の輸入自由化阻止の意見書採択に関する陳情の件は、委員長報告のとおり不採択と決しました。

これより日程第13、特別委員会中間報告の件を議題といたします。

市立病院等対策特別委員長より、市立病院等に関する委員会の中間報告をしたい旨、申し出がありましたので、委員長の報告を求めます。

〔市立病院等対策特別委員長　登壇〕

○市立病院等対策特別委員長（奥住日出男君）　きょう最後でございますので、いましばらく時間をいただきたいと思います。

お手元にお配りをさせていただきました資料をもとに報告をさせていただきたい、というふうに思います。

当委員会は、本年３月の定例会におきまして設置された委員会でございます。これまで７回にわたりまして、精力的に検討を加えてまいりました。今回、前半期のまとめという形でもって中間報告をさせていただきたい、というふうに思います。

７回にわたる委員会の中で理事者の皆様、さらには病院関係者の方々の御熱心な御意

見等も賜りながら、本日までまいったわけでございますけれども、御案内のように、医療行政が今日の社会情勢の中で重要な課題の一つになっていることは、皆様、既に承知のことと存じますけれども、当委員会といたしましても、医師会の方から市長に、公立病院を何とか充実してほしい、という、こんな要請等も踏まえながら公立病院はどうあるべきか、この辺を念頭に置きながら病院の現場を見、関係者のお話を聞き、さらには利用者の声なども参考にしながら検討を深めてまいりました。

すなわち、公立病院の果たすべき役割、今までも病院長の方からもお話がありましたように、ここにも書いておきましたけれども、入院患者にウエイトを置き、重症患者の治療ができ、より高度な診療ができること、加えて急患診療の充実促進を図ることが望ましい姿ではないか、また果たすべき役割である、というふうに認識をしているところであります。

しかしながら現状を見ると、皆様にも既に御承知おきのとおり、別紙の内容、ということで記載をしておきましたけれども、現状は、公立病院としての役割は十分果たしていない、また市民ニーズにこたえ切れない部分が相当多く出てきている、ということでございます。

そこで結論としましては、こういった市民要望にこたえるには、今までのやり方、すなわち増改築でもってお茶を濁すようなやり方では、到底これからは、こたえられていけない。したがって、新しく病院を建設することにある。これが中間報告のまとめでございます。

後半期、引き続きまして、今後、それではどういう形の病院がよろしいのか、あるいは財政的に問題はないのか、また建設位置の問題はどうか、さらには総合医療体制の確立、この辺ももう少し検討する必要があるんじゃないか、この辺を中心にさらに論議を深め結論に持っていきたい、かように考えておるところでございます。

本日は、中間ということで報告をさせていただきました。よしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これをもって、市立病院等対策特別委員会の中間報告を終わります。

お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ延会いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

本日の未了日程は、12日の日程といたします。

次回本会議は、12日午前10時より開議いたします。時間厳守で御参集願います。

本日は、これにて延会いたします。

午後８時18分　延会

12月12日　月曜日　（第２日）

昭和６３年
第４回定例会　日野市議会会議録　（第42号）

12月12日　月曜日　（第２日）

出席議員　（30名）

１番	奥住日出男　君	２番	宮沢清子　君
３番	高橋　徹　君	４番	土方尚功　君
５番	山口達夫　君	６番	天野輝男　君
７番	福島盛之助　君	８番	福島敏雄　君
９番	中谷好幸　君	10番	小俣昭光　君
11番	川嶋　博　君	12番	馬場繁夫　君
13番	夏井明男　君	14番	小山良悟　君
15番	馬場弘融　君	16番	高橋徳次　君
17番	簾野行雄　君	18番	一ノ瀬　隆　君
19番	板垣正男　君	20番	鈴木美奈子　君
21番	中山基昭　君	22番	秦　正一　君
23番	黒川重憲　君	24番	古賀俊昭　君
25番	谷　長一　君	26番	市川資信　君
27番	石坂勝雄　君	28番	名古屋史郎　君
29番	竹ノ上武俊　君	30番	米沢照男　君

欠席議員　（なし）

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	長谷川暢男君	総務部長	坂本金雄君
市民部長	大貫松雄君	生活環境部長	藤浪竜徳君
清掃部長	小林修君	都市整備部長	前田雅夫君
建設部長	永原照雄君	福祉部長	高野隆君
水道部長	橋本栄萬君	病院事務長	大崎茂男君
教育長	長沢三郎君	教育次長	砂川雄一君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	佐藤智春君	次長	土方留春君
書記	田中正美君	書記	濃沼哲夫君
書記	佐々木茂晴君	書記	小林章雄君
書記	斉藤令吉君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3
立川速記者養成所　所長　関根福次
速記者　大迫嘩子君

議事日程

昭和63年12月12日（月）
午前10時開議

（議案上程）

日程第1	議案 第117号	日野市一般職の職員の昭和63年度12月期における期末手当の特例に関する条例の制定について
日程第2	議案 第96号	日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について
日程第3	議案 第97号	日野市職員の分限に関する条例の制定について
日程第4	議案 第98号	日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第5	議案 第99号	日野市市税条例の一部を改正する条例の制定について
日程第6	議案 第100号	日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定について
日程第7	議案 第101号	日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定について
日程第8	議案 第102号	財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例の制定について
日程第9	議案 第103号	日野市緑地信託等に関する条例の制定について
日程第10	議案 第104号	日野市立保育園設置条例の制定について
日程第11	議案 第105号	昭和63年度日野市一般会計補正予算について（第3号）
日程第12	議案 第106号	昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算について（第1号）
日程第13	議案 第107号	昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算について（第2号）
日程第14	議案 第108号	昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算について（第3号）
日程第15	議案 第109号	昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算について（第2号）
日程第16	議案 第110号	昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算について（第2号）
日程第17	議案 第111号	昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算について（第1号）
日程第18	議案 第112号	昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算について（第1号）
日程第19	議案 第113号	市道路線の認定について
日程第20	議案 第114号	土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結について
日程第21	議案 第115号	農業共済無事戻金の交付について

日程第　22　議 案　第 116 号　南多摩農業共済事務組合の設立について
（請願上程）
日程第　23　請願 第 63－23 号　沢川広場に便所および水道設備設置並びに広場拡張に関する請願
日程第　24　請願 第 63－24 号　放射能測定器設置の請願
日程第　25　請願 第 63－25 号　コミュニティセンター建設に関する請願
日程第　26　一般質問

本日の会議に付した事件
　日程第１から第26まで

午前11時９分　開会

○議長（市川資信君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員、29名であります。

これより議案117号、日野市一般職の職員の昭和63年度12月期における期末手当の特例に関する条例の制定の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案117号、日野市一般職の職員の昭和63年度12月期における期末手当の特例に関する条例の制定について、提案理由を申し上げます。

本議案は、日野市一般職の職員の給与に関する条例第16条第２項の規定にかかわらず、昭和63年度12月期に支給する期末手当の乗率を100分の196とする特例を定めるものであります。

詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議決定をお願いいたします。

○議長（市川資信君）　関係部長から詳細説明を求めます。総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　議案117号、日野市一般職の職員の昭和63年12月期における期末手当の特例に関する条例の制定について、御説明申し上げます。

このたびの支給率は、ただいま市長から提案理由の中にございましたとおり、100分の196でお願いをするものでございます。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。奥住日出男君。

○１番（奥住日出男君）　本件の記事が12月３日の読売新聞に報道されておったわけですけれども、その中の報道の一部に、総務部長のコメントとして、民間との比較において、2.56を答えたようなニュアンスの記事が載っておりましたので、若干民間に関係しますので、基本的なことをお聞きしたいと思います。

まず１点は、2.56カ月と回答されたことは大変結構だと思いますし、それはそれなりに問題ないと思うんですが、3.5カ月を要求した当然根拠があるわけですね。まあ民間は民間なりにいろいろ根拠を組み立てて要求するわけですけれども、今回3.5カ月を要求した根拠は何だったのか。それに対して執行部側がどのような見解のもとに、この2.56カ月を答えられたのかについてお聞きしたい、これが１点です。

それからもう１点は、先ほどの全協の中でいただいた資料の２ページ目に、いろいろと庁舎内座り込みというのが書いてあります。当然3.5カ月要求するわけですから、組

合としては、我々１年間こんなに頑張ってきたんだと、だからこれだけの要求ほしいということ当然出ると思うんですけれども、私もあの光景を見まして、ゼッケンをつけて、職場に行ったり、あそこに座り込んだり、行ったり来たりしている。どういう形であああいうことをやっているのかなと、まあ昨年も質問しましたけども、ただペナルティを科せばいいというもんじゃない、こんな気がするわけです。常々市長が市民の理解と協力を得るためにということで、いろんな施策を展開されている、何かちょっと言っていることとやっていることが行きと帰りぐらいの違いがあるような気がしてならない。

昨年の本会議でも今後こういったことを是正していきたい、いろいろと勉強をして何とかいい方向に持っていきたいということを言われましたので、この１年間あまり変わった光景に見当たらないんで、どんなふうに組合と話し合いを持ってきたのか、あるいは庁舎内でもって検討されてきたのか、その辺を２点目にお聞きしたいというふうに思います、以上です。

○議長（市川資信君）　　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　組合側の3.5の要求でございますけれども、これは統一要求でございまして、組合サイドから出されたパーセンテージでございますので、私どもの方からお答えを申し上げるのは、差し控えたいと思います。

それから2.56の回答でございますけれども、御質問の中にございましたとおりの新聞記事、民間に比べてということが、もうそれだけの理由でというような記事にまとめられております。実はあの記事は電話取材の記事でございまして、交渉の過程やら助役会の様子など、いろいろ私が答えましたことを、新聞社側でまとめた記事でございます。確かにあれを読みますと民間のベースがいいから、公務員も上げてあげたんだと、そのようにとられます。確かに民間の景気も判断材料の一つではありましたけれども、すべてではございません。いろいろの交渉に関する問題も抱えておりますし、また各市とも2.56カ月というような暗黙の了解ができ上がっておりまして、それに日野市も乗ったと、こういうようなことでございます。

それから１年間の労使の交渉の結果についてというお話でございますが、座り込みの戦術は確かに変わっておりますと、思いませんけれども、この座り込みにつきましても、秩序ある座り込みが今回の座り込みではなかったかと、私は考えております。大きな声も出さずに整然と行われておりましたし、組合の掲示板以外にあまりビラ等の貼付もなくて、整然と行われたように私は感じております。

○議長（市川資信君）　　奥住日出男君。

○１番（奥住日出男君）　　１点目の御答弁なんですけれども、統一要求であるから差し控えたいということだと、困るんですね。というのは、3.5カ月を要求した根拠というのがあるわけですね、考え方も。これこれ、こういうことだから3.5カ月を要求しますよという。それに対して、「わかった」と、「組合の言うこともよくわかるけれども、今こういう状況なんでひとつ2.56で何とか勘弁してくれ」という、まあざっくばらんに言えばこういうやりとりになるはずなんです。したがって、差し控えてもらっては、市民はわからないんですよ。なぜ3.5要求したのかな、どうして2.56回答したのかな。この新聞記事だけ読んだ市民というのは――新聞記事はかなり批判めいたことばかり書いてありますから、今総務部長がおっしゃられたようにこれが当然すべてであるわけはないわけですね。かなりオーバーに書く記事もありますから。ただこれしかないものですから、市民がですね、この期末手当に関することの情報が。ですからざっくばらんに、どういう要求の趣旨だったのか、この辺をはっきり御答弁をいただきたいというふうに思います。

それから２点目の、整然と座り込んだという言い方というのは、どういうことなんですかね、違法なんでしょう、こういうことは本来は。黙っていれば何やってもいいのかということになりますし、ちょっと問題があるんじゃないかなと思うんですが、もう少し突っ込んだ御答弁をお願いしたいと思うんですが、よくわかるように。これ市民にやっぱし理解を求めるからには、それなりの説明もし、納得ももらわなければいけないわけです。ですからその辺のやりとりがどんなふうになっているのか、もう一度御答弁お願いします。

○議長（市川資信君）　　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　3.5の要求額につきましては、今まで組合側の要求額と変わらない額だと私は理解しております。なぜこの3.5が出され続けているのか、こういうことになりますけれども、今まで10年来、ほとんどこのボーナス交渉におきまして、この率が下がる一方であった、こういうことから要求の率も3.5カ月を下げられない、まあそういう事情があったのではないかと思います。

それから座り込みについては確かにおっしゃることもよくわかりますけれども、こういう戦術も、もうすでにとっている労組はあまりないようにも聞いております。社会情勢の変化によって戦術も変化していくべきではないかと考えております。

○議長（市川資信君）　　奥住日出男君。

○１番（奥住日出男君）　　しつこくなりますからもうこれでやめますけれども、3.5カ

月はずっと今までも続けてきたということなんですが、要は月数要求というのは当然毎年ベアがあるわけですから、それを固定することによって金額がアップするのは当然なことでして、戦術的には私はこれは組合としては一番いいやり方だというふうに思っておりますけども、3.5カ月要求して2.56しか回答が得られない。約１カ月も差がある、要求と回答の差にですね。あまりにも、この何というんですかね、現状を少し知らな過ぎる。どんなに民間が一生懸命努力して頑張って税金を納めているのか。公金ですからもう少し慎重にこの辺を取り扱っていただきたいし、何かこう甘いって言えば甘い、少しそのあれですかね、税金に対する感覚がないというのか、自分たちが稼ぎ出したものじゃないわけですから、何かそんな感じがしてならない。甘いと言うしか私は言いようがないわけですけれども、本当にこれからあれですよ、少数精鋭でもって、まあ職員もそうそうふえるわけじゃないわけですから、頑張ってもらわなければ困るわけですけれども、市長が言われているような本当に考え方でもって、これから行政需要にこたえていく上ではもっと真剣なやっぱしやりとりがあっていいのかなと、今の御答弁聞いていますと、何か今までもこうだったから今回もこうだというような感じに受け取れます。そういう戦術だからこうだとか、あるいはもうだんだん、だんだん座り込み少なくなったから、また考えるという、もう少し真剣に考えていただいて、本当に市民に理解をしていただくという上では、大変不満な、私、答弁なんです。市長にこの辺の考え方、まあ今後、こんなふうに考えているとか、あるいは今回のこの2.56に対して、どんな見解を持っているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　毎年、期末手当のことで、何といいましょうか、はっきりと説明のできないような部分が私どもにも胸の中に残っております。つまり組合の3.5要求、統一要求と言っておりますが、かつては、つまり十数年前、その3.5が実質的な数値として役割を果たし、またそれにプラスアルファもつけられた。こういう時期も確かにありました。しかしまあこの経済成長の間の、いろいろな民間の経過ももちろんあるわけでありますし、官公労なるがゆえに、特別な理由があるということも言えないものがある、というのがだんだんと数値を押さえてきた、その経過にもなるわけでございまして、目標はなるべく国家公務員並みに統一をするということに、また私どもも努力目標としては考えざるを得ない状況でございます。

そうしてなるべくそれに近づいていくというのが、今の傾向になっており、組合もそれをだんだんと社会情勢の判断として順応せざるを得ないということの理解は、進みつ

つあるというふうに感じております。

御指摘のとおりのまた交渉戦術に不法な行為を伴わせるということにつきましても、市民から見られたら、これまた弁明の大変しにくい状況でございますが、今後一層お互いが厳しくその立場を自覚をして、そうして市民に不信の持たれる行為のないように、また進んで理解を求められるような、そういう役所づくりをしていきたい。このこともかねがね申しておるとおりでございます。一層の努力をすることをお誓い申し上げて、御理解をお願いするものでございます。

○議長（市川資信君）　　土方尚功君。

○４番（土方尚功君）　　１点だけお伺いしたいと思いますが、今回の特例にかかる条例の内容の方なんですけれども、第２条に「その額に給料月額の100分の20を超えない範囲内で規則で定める」この部分なんですけれども、すでに算定の関係で激変緩和措置ということで、パーセンテージを順次下げているという実情は承知をしているところでございますけれども、こういった形で12月期の今期に限っての場合で言えば、もうすでに12％ということで、これを超えることはないわけですから、条例の上ではこういう形であっても、特例の場合には特段にここへ数字を12というふうにはっきり表示をして、上程をされてもいいんではないかという理論を私は展開をしたいわけですが、そこら辺についての御回答といいますか、195が196になる、こういう数字は直している、これは必要なことでしょうけれども、逆に給料月額のそういった100分の20というものが、100分の12を超えないということはもうこれは明らかだと思うんです。そこら辺の見解についてお答えをいただきたい、以上です。

○議長（市川資信君）　　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　御質問の中で今年の12月期におきましては、すでに部長職はおっしゃるとおり12％、課長職は10％、課長補佐職は６％に落ちております。したがいまして、この100分の20を超えない範囲に入ってしまうわけですけれども、御質問の趣旨はよくわかります。次回の特例条例が必要な場合には、十分趣旨を尊重いたしまして、検討させていただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　土方尚功君。

○４番（土方尚功君）　　今、総務部長からそういうお話なんで、承知はいたしました。やはり現実には有名無実といいますか、実態等もかけ離れてきている。さきの一般質問で行った条例とかそういった要綱の見直しというような点を申し上げましたけども、ここら辺にもそういったあらわれがあるんじゃないかなということで、特段に申し上げた

あれですから、今後ぜひとも御検討をお願いして、質問を終わります。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　要約して質問をさせていただきます。今、市長のお話の中にもありましたように、まあ国の基準を目指すというのは、各自治体の期末勤勉手当の支給率の目標になっているわけでありますが、今回労使間で決着を見た数字を見ますと、支給率で2.56ということで、12月期について比べますと、昨年よりも逆に支給率がふえてしまっているわけであります。国、東京都の2.5カ月、並びに年間の夏冬のトータルの4.9に近づこうとすれば、当然昨年に比べて支給率がふえてしまうというのは、市長の今のお考え、答弁に逆行する実態になっているわけであります。今回、昨年に比較いたしまして、0.01支給率において支給月数が結果的にはふえてしまった。この理由をどのように考えればいいのか、背景を含めて御説明をしていただきたいと思います。

それから今回支給率の2.56、数字で言えばそういうことでありますが、かねて国等の指導の中で、厳しく求められておりました住宅手当の算定基礎除外ということは、今回も見送りになっているわけであります。この住宅手当の額を、先ほど全協でお聞きをいたしますと、1,189万ということで、約1,200万円近くが住宅手当に算入をされてこの全支給額が出されているわけであります。11億579万5,000円という数字であります。この住宅手当をもし算入しない、つまり国や東京都の支給率と同じ形でボーナスが出されるとしますと、10億7,500万円程度になると思いますが、本来2.56カ月の支給月数で住宅手当が算入されていませんと、今申し上げた10億7,535万程度に支給総額がなるわけでありますが、今回はこれにさらに1,200万円の住宅手当が含まれているわけでありますので、実質の支給月数はさらに今回の2.56よりも上回るということに結果としてはなると思うわけであります。この住宅手当の算入によって、実際にはどれだけの支給月数になっているのか、この点についてお尋ねをいたします。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　お答え申し上げます。１点目の支給率のアップの根拠でございますけれども、社会・経済情勢の変化、こういうものも勘案をいたすとともに、国・都の妥結の額に最も近い数字を探りながら、決定をいたしたものでございます。

それから２点目の住宅手当を入れない場合、入れない場合はどのくらいの率かというお話でございますけれども、2.63カ月になるんじゃないかと考えております。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　数字の方は大体今出していただいた2.63カ月ということで間違

いないと思います。ですから本来ですと、住宅手当の算入を除外をした支給額に、平均給与に、2.56を掛けて冬のボーナスが算出されるのが、正当な本来のあり方だと思いますので、この点住宅手当が二十数市においては、全国に例を見ない形でそうした悪慣行が続いているということで仕方がないのかもわかりませんが、ぜひこの点の実態をよく掌握していただいて、国や都に比べれば0.13カ月実際多くなるわけです。そういった実態もあります。金額にいたしますと1,200万円の増でありますので、約３％の金額的には増加になっているということであります。ただ0.01カ月昨年よりも支給率がふえたということではなくて、そうした面での実際の数字の字面をよく受けとめていただいて、是正に向けての取り組みをお願いしておきたいと思います。

それから昨年よりも月数において率が増加をしているというその背景、理由については、まあ非常に抽象的に社会・経済情勢の変化というようことをおっしゃったんですが、民間は確かに今奥住議員のお話にありましたように、いろいろそれなりの努力をしながら、以前は石油危機に対応する、また現今では円高の経済環境の中で、その克服に取り組みながら今日の存立を確保してきているわけであります。そういうことを考えますと大企業等は確かに支給率、12月のボーナスの妥結状況を見ますと、この数字の前後にあるということはよくわかるわけでありますが、我が国の経済基盤を支えております中小企業の実態を見てみますと、必ずしも一律にそれに横並びということにはなっていないわけです。そういった点を市内のいろんな事業所の実態も考えていただければ、ただ社会・経済情勢の変化に対応したということだけでは、ちょっと納得できる回答とは言いがたいわけであります。この辺市長はどのようにお考えになっているかですね、昨年の率から――本来国、都並みを目指したいというお話でありましたが、実際にはトータルしますと、冬の金額と支給率とあわせますと、まだ５カ月を上回っている状況であります。どのように説明をされるのかですね、市長からの回答お願いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　本来給与の年々の推移というものは、前年の実額を少なくも保障する、こういうことが一つの内面的な原則になるわけでありまして、これからもまだそれらのことを吸収するためには、ある程度の期間を要すると、このように思っていなければならないと、こう感じております。

突然、住宅手当の算入があたかも違法行為だというふうに指摘をされてきたわけでありますし、これを今後是正の課題とするということで取り組んでいくことを、すでに組合側にも通告をいたしております。そういう要素を含んで、これからのまた交渉が始ま

る、そしてある期間の後には到達点に達する、このように交渉の経験からして見通しを持っております。

ことしのこの現象は、いろいろまた特別の要素もあるかもしれませんし、一応各市とも共通をして妥結を見ることができた、一定のつまりことしの相場というふうに御理解をいただく以外にございません。なお、国家公務員、あるいは都の職員ということと比較いたしましても、それぞれ優遇されたる点がないわけではありません。例えば住宅が支給されているという例もかなりの範囲にあるわけでありますが、それらのことを含めて、ともに納得のいく、しかも市民にも十分理解をしていただける、そういう給与の状況に安定をさせるということが、これからのまた課題であるというふうに御理解をお願いをしなければならないわけでありまして、まあことし１年を取り上げてどうこうということをあまり強調してみても、意味がないんではなかろうか、こういう感じもいたします。一定の年限を信頼の中で持ちながら、また納税者市民にも十分納得のいただける、そういう手順を踏んでいくということにいたしたいと思っております。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　それから一つだけ最後に確認をしておきたいんですが、交渉の過程の中で、先ほど指摘もありましたが、庁舎内に座り込みが毎回同じように繰り返し行われ、今回も組合によってそうした行為が行われたわけでありますが、こうした座り込みが庁舎内で行われた場合に、市は退去を求めるような対応をしておられるかどうかですね。座っておる者は勝手に座っておけということでそのまま放置しておられるのか、その点どのように具体的に対応されたのか、されなかったのか、その点お願いいたします。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　今までの座り込みに対する当局の対応、並みのことはやってまいりました。交渉の席上におきまして、この座り込みを解くように口頭で伝えたことはございます。

○議長（市川資信君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております本件については、委員会付託を省略いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって本件については、委員会付

託を省略することに決しました。

本件について御意見があれば承ります。石坂勝雄君。

○27番（石坂勝雄君）　質疑の中で十分いろいろな指摘がされておりますが、私、意見として申し上げたいのは、全協でも私、まあ全協だから私も思い切った意見を申し上げておきました。しかし交渉の経緯の中で、少なくともいわゆる期末手当を加えるときに、社会情勢の多少変化というか、そういうものを勘案していくんです、私もそういう勘案しないということもおかしいということも、十分理解します。そうであるなら、よその企業なり、官でなくて企業でこういう交渉経過を、過去はあったかもしらんけれど、現在は恐らく改善されているんではなかろうかとこう思うんですね。そういう中で座り込みをやるとか、何か総務部長のさっきの答弁を聞いていると、静かにしていればゼッケンをつけても、座り込んでいても容認をしているんだというようなときにも見えるし、まあ最後の古賀議員の中では、いわゆる口頭ではあるがそういうことを解くようにと言ったような、私は少なくとも公務員というのは、特にそういう点では市民、国民の血税の中で賄われているということであるなら、私は給与が高いとか、期末手当の支給額が多いということを申し上げるんでなくて、少なくともっと紳士的なきちっとした中でされなければならないんではなかろうかということを強く指摘して意見とします。

それからいま一つですね、何というか26市の統一回答なり、統一交渉の場が特に回答側ではあるのに、いわゆる市の自体の中でそう何というか恐らく理事者に迫っても、恐らく統一の要求を出して、片方は助役会なりで統一の何かを踏んでくることであれば、おのずから私は回答が出ないということを思えば、何か威嚇的なことというか、こういうことを示さなければ、理事者なり何か動いてくれないんじゃないかというふうに考えざるを得ないんです。今後少なくともそういうことは、まあ何か総務部長が言った、静かにやっていればという、電車の中で何というか静かにしていれば３人前の座席を取ってもいいんだということと比較対象は適切ではないかもしらんが、現にいわゆる以前のとき、こういうことの問題がないときに労使というか、理事者と十分組合と、私は――組合運動の健全ということを決して否定しているんではなかろうが、こういうことの問題は行動で移さなけりゃどうだということは、これは十分こういうときでないときに話し合って、市民が見てもこれは決して恐らく市民読本でこういう姿を出して、恐らく良識ある市民は是としないということを強く申し上げておいて、意見にいたします。以上です。

○議長（市川資信君）　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終

結いたします。

これより本件について採決いたします。本件は原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第117号、日野市一般職の職員の昭和63年度12月期における期末手当の特例に関する条例の制定の件は原案のとおり可決されました。

これより議案第96号、日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定、議案第97号、日野市職員の分限に関する条例の制定、議案第98号、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定、議案第99号、日野市市税条例の一部を改正する条例の制定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第96号、日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について、提案理由を申し上げます。

本議案は昭和64年４月より南多摩農業共済事務組合を設立することに伴い、農業共済事業特別会計を廃止するため、日野市特別会計条例の一部を改正するものであります。

議案第97号、日野市職員の分限に関する条例の制定について。本議案は日野市職員の分限に関する手続き及び効果に関する条例の全部を改正し、名称を日野市職員の分限に関する条例として制定するものであります。

議案第98号、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について。本議案は日野市職員の分限に関する条例の適用を受けて、休職する職員の休職期間中の給与を規定するため、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正するものであります。

議案第99号、日野市市税条例の一部を改正する条例の制定について。本議案は地方税法施行令の改正に伴い、日野市市税条例の一部を改正するものであります。

以上４議案の詳細につきまして、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　関係部長から詳細説明を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　ただいま議案第96号で提案されました、日野市特別会計条例の一部改正について、御説明申し上げます。

ページでは２ページ、３ページでございます。内容的には現在の特別会計、農業共済事業特別会計があるわけでございますが、これを廃止するものでございます。具体的な理由といたしましては、この共済制度は昭和22年、農業災害補償法の公布によっての発足でございます。ちょうど40年間の経過をしたわけでございます。都市化の進展により農地の減少等に伴いまして、事業量が縮小されるというような内容でございます。よって南多摩管内八王子、町田、日野、稲城、４市の農業事業を合併し、先ほど提案の中にありましたとおり64年４月から一部事務組合を設立するものでございます。よって農業共済事業特別会計の廃止をするという内容でございます。

４ページ、５ページの欄を見ていただきますと、現在特別会計の中には５本あるわけでございます。その１条の３号の中に農業共済特別会計という事業に載っておりますので、これを廃止して４号を３号に、あるいは５号を４号にということで、４本の特別会計に改定をお願いするものでございます。

前に戻って付則でございますが、63年度の農業共済事業特別会計にかかる出納については、出納閉鎖64年５月31日まで存続をお願いしたいという内容のものでございます。

よろしく御審議のほどお願いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　議案第97号、日野市職員の分限に関する条例の制定について御説明を申し上げます。

２ページをお開き願いたいと思います。主な改正点について申し上げます。下の方に第３条がございます。３条は休職の事由でございますが、古い条例ではこの休職の事由が、地方公務員法第28条、第２項の規定どおりで、心身の故障のため、長期の休養を要する場合、並びに刑事事件で起訴された場合の２点だけでございました。今回新しく市立病院に勤務する看護婦、または准看護婦が助産婦、あるいは看護婦の資格を取るために、学校や養成所で学業に従事する場合、さらにもう１点は３ページにございますが、３ページの上段に水難、火災その他の災害で生死不明、または所在不明となった場合についても、休職できる規定を設けたものでございます。

第２点につきましては、５ページをお開き願いたいと存じます。５ページにつきましては、第７条、失職の例外でございます。地方公務員法第16条第２号で、「禁固以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで、またはその執行を受けることがなくなるまでの

者」とございますけれども、この例外として「禁固の刑に処せられた職員のうち、その刑に係る罪が公務上又は通勤途上の過失によるものであり、かつ、その刑の執行を猶予された者については情状により、当該職員が職を失わないものとすることができる」、このような例外規定を加えるものでございます。

続きまして議案第98号にまいります。日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について御説明を申し上げます。今回お願いいたします改正は97号で御説明いたしました分限に関する条例と連動をする給与条例の一部改正でございます。市立病院に勤務する看護婦、准看護婦が学業に従事する場合、それから水難、火災、その他の災害で生死不明、または所在不明となった場合、その期間中は給料、扶養手当、調整手当、住居手当のそれぞれ100分の70を支給するという内容でございます。

水難、火災その他の災害で生死不明、または所在不明の原因である災害が公務上と認められるときは、給与の全額を支給することができるというものでございます。

○議長（市川資信君）　市民部長。

○市民部長（大貫松雄君）　それでは議案第99号、日野市市税条例の一部を改正する条例の制定について御説明を申し上げます。

まず今回の市税条例の改正の理由でございますけども、昭和63年の10月21日、政令の第303号によりまして、銀行法の施行令の改正がされました。昭和64年２月から銀行の休日のうち土曜日については、従来の第２、第３土曜日の休日をすべての土曜日に改めるということになりまして、このような情勢を踏まえまして、地方税法の改正がされ、それに伴って市税条例の改正をするものでございます。４、５ページの対照表で改正前の「毎月の第２土曜日若しくは第３土曜日」とあるものを、改正で「土曜日」というふうに位置づけるものでございます。そして付則ではこの条例は、昭和64年２月１日から施行するものでございます。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。谷　長一君。

○25番（谷　長一君）　この議案第97号の、この日野市職員の分限に関する条例の件でですね、この条例はこの東京都下の、またはその他の全市にわたるものなのかどうかということです。

それとあと一つは、この第７条の、いわゆる「禁固の刑に処せられた職員のうち、その刑に係る罪が公務上又は通勤途上の過失によるものであり、かつ、その刑の執行を猶予された者については情状により、当該職員がその職を失わないものとする」というこの条項についての、ひとつ詳細なるその解釈をお願いいたします。ひとつ具体例を挙げ

て、しかも簡単明瞭にお願いいたしたいと思うんです。以上です。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　分限に関する条例でございますけれども、助産婦、看護婦学校等への通学休職制度、これを持っている市は、町田市、青梅市、稲城市、日野市、日野市はただいま提案しておりますけれども、町田、青梅、稲城、それからさらに東京都などもこの休職制度を持っております。

それから第７条の失職の例外規定でございますけれども、公務上、または通勤途上の過失というものでございますが、これは交通事故を想定しております。十分に自分の方は注意をしていたにもかかわらず、相手方の過失、あるいは自分の方には罪がなくて、相手方の過失によって起きた交通事故、まあこういうものを想定いたしまして、情状により、その職をそういった場合の刑罰については、職を失わないものとする。このように考えております条例でございます。

○議長（市川資信君）　谷　長一君。

○25番（谷　長一君）　そうしますと、例えば交通事故と言いますけれども、この日野市の職員は、この自動車等を使わないで通勤というのは、その範囲があると思うんですよね。範囲はないんですかね。もし、そのあったとした場合――この交通事故というのは、あくまでも今までの判例や何かを見ますと、一方的な過失じゃなくて、やはり８対２とか、９対１、またはもっと５分５分とか、こっちが悪い場合等もあるわけですけれども、この非常にそのあたりは難しいと思うんですよね。それで結局当該職員が、過失じゃないというけれども、過失の限度というのはどのぐらいに置くのか、またはその限度というのをどのぐらいに置くということは、その際の行為というようなことが当然出てくるわけですけれども、やはり非常に交通事故等は、これからますますふえてくるんじゃないかと思うんです。いわゆるこの定例会等におきましても、恐らく何回となく何件もあるわけですから、そのあたりを踏まえて考えてみると、やはり禁固の刑ですよね、そのあたりをいわゆる執行猶予等も出てくると思うんですよね。そうなるとどのあたりがどうなのかということにやはり規則ですかね、この範囲を決めるということはできないものでしょうか、そのあたりについてお伺いいたします。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　通勤途上、または公務上に交通事故を起こしまして、交通裁判にかけられまして、禁固の刑が確定をした。しかしその刑の執行を猶予される場合もございますけれども、その猶予されて、しかもその情状によって、当該職員がその職

を失わないように、その職を保証する、こういうものでございまして、この近所では八王子ですとか、三鷹、調布、福生、東久留米、多摩などがこの通勤途上の公務上、または通勤途上の過失による交通事故を起こした場合、これは失職の例外規定になっております。

○議長（市川資信君）　　石坂勝雄君。

○27番（石坂勝雄君）　　１点は共済制度ですね、今度一部組合にされるというんですが、何か多摩市では、もう農地がなくなる、少なくなっているとか、ないというか、そういうことで加入をされないというようなお話を聞いておるんですが、全体の歳入歳出と予算の、大体のこの場で煮詰まってきているんですから、１年間の額ですね、全部が一部組合に寄った場合の、それから事務職員は何名ぐらい置くのか、それからどこへ置くのか、その点を１点。

それからいま一つですね、今、谷議員が聞いた質問の中で、通勤途上に何というか、いわゆる交通事故を起こした場合の問題のことが出たんですが、現在市が交通費を支給している場合に、例えば一つの例を挙げれば、青梅から通っている者はどういう――車で運転して来なければ、車の事故は出ないわけです、まあ電車に乗ってくればいわゆる車の事故というのはないんだから。交通費はどういう形の中で支給しているのか。まあ青梅線から例えば立川に乗ってきて、立川から日野まで乗ってくる交通費を出しているのか、ずっとバスか何かでずっと来るのを出しているのか、車は車で別途に出しているのか、その辺のところをひとつお知らせ願いたい。それから、その後のことは十分総務委員会で、そのことの是非については検討してもらいたいということもあわせて申し上げておきます。

それからいま一つ、いわゆる保健婦さんが非常に何というか市立病院にいないということで、こういう学校に行かれたり、そういう間の給与を100分の70出るということは、かなりの高額が出るということで、これはこういうことというのはないと思うんだが、じゃ一定の期間中だけもらっていて、そしてすぐ例えばやめたと、こういうときの、前の時代、戦前の時代にはよく学校の先生だとか、いろんな特殊の何かに対しては義務が課せられて、今の方向としてはそういうこととか、いわゆる好ましいことではない、例えば防衛大学に入っても別に何というか、やめられるのもいいんだということなんで、そういう点で恐らく――私は老婆心で申し上げるんで、そういうことはないと思うんだが、そういう点で本人の申し出だけで、こういう形をとるのか、いわゆる上司なりいろんな形の中で、この人なら、例えば助産婦の学校を出て、日野の市立病院に残って、市

立病院のそういう保健婦活動なり、職務に対してはやってもらうということは、それでも現実にはだれも絶対をつけられるものはないんですね。そういう点の考え方はどうお考えになっているのか、以上です。

○議長（市川資信君）　　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　　それでは第１点目の御質問についてお答えいたします。

この共済一部事務組合でございますけども、多摩市は御指摘のとおり、加入をしてございません。４市でございますけども、この４市によります予算規模という御質問でございました。ちょっと手元に資料がございませんでまことに申しわけございませんけども、後ほど出てまいります議案116号の中で、お答えをさせていただきたいと思います。なお場所でございますけども、場所につきましては、八王子市下柚木498番地に置くことになってございます。ここは元柚木支所の場所でございます。

それから職員の数でございますけども、関係市から派遣するということで、その数は９名となっております。以上でございます。

○議長（市川資信君）　　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　２点目の交通経路の問題でございますけれども、青梅から日野に通う場合には最も近い経路で、しかも経費のかからない経路を申告をしてもらいます。そしてそれをさらに職員課で調べまして認められますと、額が支給されることになっております。

それから看護婦の方の休職ですけども、70％を出すのは高給である、まあそういう御質問でございます。現在、東京都でやっておりますこの休職制度も70％でございます。町田につきましても70％でございますので、この額を日野市もならったわけでございます。さらに看護婦から助産婦になるには、１年間の勉強が必要でありますし、さらに准看護婦から看護婦になるには２年間の期間が必要でございます。この期間70％の給与をもらって行っているわけでございますので、それを卒業した場合に市立病院に勤めてもらわなければ意味がなくなるわけです。しかしながら必ず市立病院に勤めなさい、こういうことを言うのは職業の選択の自由を保障する憲法22条に抵触するんではないか、こういうような見解もございますので、特別に義務年限は課しておりません。ただしその選考にあたっては、就学年限の後も市立病院に勤めてくれるであろう、そういう方を病院側で慎重に選考していただく、こういうことを考えております。

○議長（市川資信君）　　石坂勝雄君。

○27番（石坂勝雄君）　　住宅手当の問題なんですが、住宅手当の問題をここで言わんと

しているんじゃないんですが、交通違反をしたときの例えば禁固なり、何なりに処せられたときのことが問題になるんですが、私がちょっと答えてもらいたいというのは、車で通っておってもずばり、まあ恐らく私はわかっているんですよ、恐らく一番最短距離の交通機関を使う料金を出していると、こういうような理解だと思うんですが、どうですか、ちょっと答えて。そうでなければいま一回立って聞くようだから。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　一番短い距離の交通費を支給しております。

○議長（市川資信君）　石坂勝雄君。

○27番（石坂勝雄君）　私はその辺のところが基本的に、いわゆる都なりほかの機関で、私は今の交通渋滞の中で、電車で通って来なさいよという料金が支払われていて、車で来られて、こういう事故になって、いわゆる何というんですか、過失だからやむを得なかったんだということが、私はあくまでも庁舎内へ入ってそういうことで、まあ電車の事故があったというんなら、これは交通機関を利用してきてあれだというなら、ちょっとその交通機関の出てきているならわかるけど、ちょっとこれも他市でやって恐らく――総務部長は他市でやっているからこういうふうにしたんだと、こう言われると思うんですが、私はちょっと疑問を感ずるんです。もし私がその立場であるんなら、車で来ているということは認めませんよ。しかし本人がどうしても交通費の最短距離の電車に乗って、バスへ乗って来ているんだが、車で来られているというのは認めないけど、まあそういう中で何かあったことは個人の責任ですよというのが、私の考え方で、私の職場ではそれは通しているつもりです。恐らくこういう点は都の方でこういうことを、何というか、都はまた別に一つの例ですけど、都はどういうふうにお考えになっているのか、他市ではどういうふうにやっているか、鋭意検討してですね、いわゆる何というか審議していただきたいということをこれは要望しておきます。以上です。（「関連」と呼ぶ者あり）

○議長（市川資信君）　関連ですか。福島敏雄君。

○８番（福島敏雄君）　今の石坂議員さんのは質問になるかと思って聞いていたんですけれども、調べておいてほしいということだったもんですから、ちょっとお聞きをしたいんですが、簡単に言いますと、交通費の支給という仕方があるわけですけど、そのときに通勤途上災害ということを認める場合に、その本人が通常どういう経路で通勤しているかということを、役所に申請しているはずなんですね。ですから、そこのところは当然今、石坂議員さんが言われたとおり、交通費をもらうというのは、通常申請しているルートでもらう。実際には車で通っていたといったときに、通勤途上災害認められないケースがかなりあろうかと思うんですが、その辺どういうふうに把握しているか、先じゃなくて、ちょっと今お答えいただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　今までのそのケースにどんなケースがあったか、子細に把握しておりませんので、委員会までに十分整理をしておきたいと思います。（「やむを得ない」と呼ぶ者あり）

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　私、お聞きしようと思っていた点、今出ましたので、もう一つだけ、解釈上の見解をちょっと教えていただきたいんですが、３ページの休職の事由の一番最後の「水難、火災その他の災害により生死不明又は所在不明となった場合」というのがありますが、「又は」ということで生死不明と所在不明が並列で並んでいるわけです。この場合ですね、例えば生死は明らかだけれども、所在がわからないという場合は、どういう状況の事態が考えられるのか、具体的にはどのような状況の想定をしておられるか、この点ちょっと教えていただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　火災、水難その他の災害によりまして、生死不明、生きているか、死んでいるか不明である、この決め手になるのは、その遺体が発見された場合には、これはもう亡くなっているということがはっきりいたします。遺体が発見されない場合は生死はまだ不明でございます。そしてその場合にどこにいらっしゃるのか、これもわからないわけですから、所在不明である、このように考えております。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　今の解釈ですと、所在不明と、それから生死不明、二つが条件になってくるんですね。ところがこれは生死不明と所在不明が別個の条件で、この規定があるんですね。これは何か模範文例のようなものがあってこうされたのか、厳密にあまりこう難しく考える必要がないのかもわかりませんが、ちょっと教えていただきたいと思ってお聞きしたんですが、それ以上の何か御説明ございますか。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　この全部改正につきましては、私から二つの主な改正点について御説明いたしました。そのほかにも表題を変えることに始まりまして、細かい文言についても東京都の条例を参考にいたしまして、変えてございます。東京都の条例に

ならったものでございます。

○議長（市川資信君）　　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本４件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第96号、日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定、議案第97号、日野市職員の分限に関する条例の制定、議案第98号、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定、議案第99号、日野市市税条例の一部を改正する条例の制定の件は総務委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認め、総務委員会に付託いたします。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後０時15分　休憩

午後１時31分　再開

○議長（市川資信君）　　休憩前に引き続き会議を開きます。

これより議案第100号、日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定、議案第101号、日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定、議案第102号、財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例の制定、議案第103号、日野市緑地信託等に関する条例の制定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　　議案第100号、日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定について、提案理由を申し上げます。

本議案は中小企業者に対する事業経営資金の融資限度額の引き上げ等、当該事業の充

実を図るため、日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正するものであります。

議案第101号、日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定について。本議案は日野市組織規則の改正に伴い、日野都市計画事業万願寺・高幡及び豊田南土地区画整理事業施行規程を定める条例の一部を改正するものであります。

議案第102号、財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例の制定について。本議案は日野市における都市環境の向上を図り、都市の緑化を推進し、緑と清流を守り、うるおい豊かな都市づくりに寄与することを目的に設立する財団法人日野市環境緑化協会に対して、助成その他の援助を行うため、財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例を制定するものであります。

議案第103号、日野市緑地信託等に関する条例の制定について。本議案は良好な都市環境の形成を図る一環として、市内に残る貴重な緑地を土地所有者の理解と協力により保全するため、日野市緑地信託等に関する条例を制定するものであります。

以上４議案の詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　　関係部長から詳細説明を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　　それでは議案第100号、日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定につきまして、御説明いたします。

今回の改正でございますけども、主な改正点を申し上げますと、一つは融資限度額を引き上げたことでございます。それから運転資金と設備資金につきまして、併用融資を認めたこと、それから３点目は一般開業資金を新設したことでございます。それからもう一つは身体障害者の方でございますけども、すべての融資を通じまして通常の２倍以内の利子補給を行うというような点でございます。そのほか融資制度の充実整備に伴いまして、文言の整理をいたしております。

それでは内容につきまして、御説明申し上げます。新旧対照表でごらんいただきたいと思います。100号議案の10ページ、11ページをお願いしたいと思います。まず１条でございます、目的でございますけども、一般の方が利用できる開業資金を新設いたしましたのに伴いまして、文言の整理をさせていただきました。

それから第２条でございます。用語の意義でございますけども、従来２条とそれから６条の７号に分かれていました身体障害者の定義を一本化したことでございます。

それから第４条でございます、融資資金の種類及び限度額でございますけども、４条第１項第３号につきましては、緊急資金の具体的な例を挙げて、わかりやすくしたものでございます。それから１項第４号でございますけども、身体障害者開業資金の枠を広げまして、一般の方が利用できる開業資金に改めました。これに伴いまして資金の定義についても改めたものでございます。

次に12、13ページをお開きいただきたいと存じます。４条の２項でございます。運転資金と設備資金につきましては、併用を認めておりませんでしたけども、今回併用して利用できるように改めたものでございます。

それから４条の第３項でございます。融資の限度額を引き上げてございます。新たに設けました開業資金については、金額による限度額のほか、新たに所要の３分の２という枠を設けております。それから運転資金と設備資金はそれぞれ25％を引き上げをいたしました。ただし併用資金の場合は全体で1,500万円の枠を新たに設けたものでございます。それから緊急資金につきましては、新たに東京信用保証協会の保証対象といたしましたことによりまして、７倍に引き上げをいたしました。それから開業資金は新設ということもありまして、700万円といたしております。

それから５条の第１項でございます。５条は融資資金の償還方法及び利率でございます。第１項でございますけども、これらにつきましては年数表示から月数表示に改めたものでございます。

それから６条の申し込みの資格でございますけども、第１項第１号でございます。これにつきましては、申しわけありません、14ページ、15ページでございます。６条の関係でございます、申し込みの資格でございます。第１項第１号でございますけども、これにつきましては個人の住居要件のみを規定いたしました。それから第１項第２号につきましては、個人の事業要件を規定いたしました。それぞれここで分けたものでございます。それから６条の第１項第３号でございます。これにつきましては、法人に対する資格要件の規定でございます。それから第６条第１項の４号でございます。これにつきましては、従前と同様市税の納税義務者の一項の規定でございます。

次の16ページ、17ページをお開きいただきたいと存じます。６条の第１項第５号でございます。これにつきましては、緊急資金を新たに保証協会の保証対象にいたしましたので、これに伴います改正でございます。それから６条の第１項第７号でございます。これにつきましては開業資金に対する年数、年齢要件を規定したものでございます。それから６条の２、個人事業所の法人化でございます。第１項でございますけども、これ

につきましては従来個人事業所が法人となった場合は、個人事業所は消滅いたしまして、事業主、個人としては融資あっせんの申し込みの資格を失うことになります。また新たに設立されました法人は営業期間が１年未満ということで、ともに融資の道が閉ざされておりました。しかし保証協会ではこのような法人につきましても、一定の要件に該当するについては、保証の対象としておりますので、今回の改正ではこれを受けて新たに救済の道を開いたというものでございます。

次のページ、18、19ページをお開きいただきたいと存じます。６条の２の２項の関係でございます。前項で個人事業所のときに事業主が本制度を利用していた場合、法人化した時点で完済をしていただく規定を新たに設けてございます。

それから７条第１項第２号でございます。開業資金につきましては担保の提供を条件といたしましたことによりまして、保証人に対する担保提供の規定を新たに設けてございます。次は20ページ、21ページをお開きいただきたいと存じます。９条でございます。これにつきましては実地調査でございます。これにつきましては文言の整理でございます。

11条でございます、削除でございます。これにつきましては融資あっせん審査会の規定でございますけども、緊急資金を新たに保証協会の保証対象に加えたことによりまして、それから身体障害者専用開業資金を廃止いたしましたことによりまして、融資あっせん審査会の審査を不要ということ伴いまして、削除するものでございます。

それから12条でございます。融資あっせんの決定でございます。第１項でございますけども、これは市長が行う運転資金設備資金及び緊急資金の融資あっせん決定の規定でございます。

次のページ、22、23ページをお開きいただきたいと存じます。第２項でございますけども、新たに設けました開業資金の融資あっせん決定の規定でございます。これにつきましては、保証協会の保証ありませんので、実地調査の結果により、融資あっせんの適否を決定する規定でございます。

それから15条の３項でございます。15条は利子補給でございます。この３項でございますけども、身体障害者の方がこの制度を利用をする場合、すべての資金を通じまして、通常の場合の２倍以内の利子補給が行えるように改めるものでございます。身体障害者専用開業資金に対する利子補給の考え方を拡大いたしまして、全資金に対し、より有利な利子補給を行うというものでございます。現在の利子補給の状況を見ますと、通常の場合1.5％ですので、身体障害者につきましては３％以内の利子補給を行うことになり

ます。

それから21条でございます。これも削除でございますけれども、これは損失補償の規定でございます。特定金融機関に対する損失補償の規定でございますけども、実質的な代弁済の規定となっておりましたものを削除するものでございます。

次の24、25ページでございます。お開きをいただきたく存じます。これにつきましては文言の整理でございます。恐れ入りますが７ページをごらんいただきたいと存じます。これは付則でございます。付則の第１条でございますけども、施行日でございます。これは64年の４月１日からの施行をお願いしたいとこのように考えております。なお11条の関係の規定でございますけども、これは融資あっせん審査会の規定でございます。これにつきましては64年の５月１日から適用ということでお願いしたいと存じます。

それから２条以下は経過措置でございます。新条例の適用は、昭和64年４月１日からの申し込み分からでございますので、それ以前の申し込みについては、旧条例で対応するというものでございます。その他、融資あっせん審査会の関係、それから損失補償の関係でそれぞれの付則として掲げてございます。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　　それでは議案第101号、日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例につきまして、御説明申し上げます。

去る10月21日付をもちまして、日野市組織規則の一部改正を行いました。この内容につきましては御承知のように、区画整理課を区画整理第１課と第２課の二つの課に分けたわけでございます。現在ございます万願寺・高幡及び豊田南土地区画整理事業施行規程を定める条例の中で、土地区画整理審議会の設置が定められております。この条例の第18条第３項でございますけれども、本審議会の庶務担当部局は日野市役所都市整備部区画整理課となっております。組織規則の改正に伴いまして、この庶務担当部局を都市整備部に改めるものでございます。この条例の適用は63年10月21日に遡及するものでございます。よろしく御審議をいただきたいと思います。以上でございます。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　議案102号につきまして、御説明申し上げます。

この条例をつくります前に、９月の議会で、財団法人日野市環境緑化協会の設立のために３億円の出資金をお認め願ったわけでございますが、これは協会のあくまでも基本財

産でございまして、きょうお願いいたします助成に関する条例、これは運用資産になっていくものでございます。では、今後の協会の設立の予定はどうかということを御説明しておきたいと思います。

まず認可を11月30日都庁に提出いたしました。その結果の打ち合わせによりますと、64年１月６日金曜日でございますけれども、認可をされるという予定になっております。そうして１月20日、登記を予定いたしております。これ等が進んでいきますと、理事会の開催とか評議員の方々の委員会の開催というぐあいに進んでまいりたいというぐあいに考えております。

今市長がおっしゃいましたように、提案理由で説明ございましたように、この協会に対しまして、助成その他の援助を行いまして、これによって緑を守っていきたいという切なる願いのものでございます。定義といたしましては、書いてありますとおり、財団法人日野市環境緑化協会とは前条の目的を達成するために、日野市が３億円出えんいたしております。それから民法34条の規定に基づき設立された協会でございます。

それから財産の貸付け等でございます、第３条でございます。これ等につきましては、原則といたしまして、庁舎内に無償で事務室を貸し付け、また貸し付け以外の方法により使用させるなど、ただし特別の理由がある場合は有償といたしたいということでございます。

それから４条、経費の助成でございます。これはここに記載のとおり、毎年度予算の定める範囲内で助成をしていきたいということでございます。

それと市役所と協会との連携ということで、５条に書いておきましたように、お互いに緊密な連絡をとりながらやっていくということでございます。

助成金の交付手続き、これはここに記載のとおりでございます。その他市長が委任、第７条に委任でございますが、これは参考資料として規則をお出ししておりますので、ひとつ参考にしていただきたいというぐあいに考えております。以上で102号の議案の説明を終わります。

次に議案103号の日野市緑地信託等に関する条例の制定についてということでございますが、これの条例制定の目的といいますか、そういうことは市長が説明されたとおりでございます。

定義といたしましては、まず２条、２ページでございますけれども、定義を書いております。「緑地」とはと云々ということでございます。それとこの条例で「市の責務」それと「市民の責務」ということを書いたわけでございます。それにつきましては記載

のとおりでございます。

それと緑地保全等の方策としましては、まず信託法によるところの信託による不動産信託契約、それから市長が緑地所有者との間でその緑地につきまして、地上権の設定、賃貸借、使用貸借もしくは土地の管理等の契約をすることができるということでございまして、この不動産信託につきましては、市が指定するところの公益法人に当たってほしいというぐあいに考えております。

それから地代の支払い等でございますが、有償以外のものについて、無償のものもあるわけでございますけども、緑地につき地上権の設定、または賃貸借を締結した場合、使用貸借の場合はこれは無償になりますので、地代を払うことはないということでございまして、その緑地につきまして時価相当額の地代を支払うというものでございます。

それから第２項といたしまして、公益法人との緑地所有者との間で締結された前条の契約は、双方が契約期間の満了する６カ月前までに、当該契約を終了させる旨を申し出ないときは、必然的にこれは更新されるんだということでございます。

それから市長等の管理、第７条でございます。市長またはその公益法人は、５条によって締結された緑地の所有者との契約の趣旨に従いまして、緑地の管理を行います。当該緑地を市民の健全で、快適な野外活動の場に利用することができるというぐあいに定めております。それから第２項でございます。当該緑地の管理に要する費用は、第５条により契約当事者となる市長、または公益法人が全額を負担いたします。第３項といたしましては、市長または公益法人は、緑地所有者の承諾がなければ、地形、緑地の区画形質の変更をし、工作物を設置し、または当該緑地上の樹木の伐採を行わないのを原則といたします。ただし防災、防犯上の必要があるときは当該緑地の管理上、必要やむを得ない限度内でこれをいじることができるという条項でございます。

告示でございますが、第５条によりまして契約した場合には、これを告示するということでございます。もちろんこれには告示板、標識を設置いたします。その設置した標識に関しての汚損したり、または破壊してはならないという条項を加えたわけでございます。

第９条は固定資産税等の免除でございます。市長は第５条による契約を締結した緑地所有者に対し、第６条第１項による地代を支払う場合を除き、当該契約の日の属する年度の翌年度分から、当該契約期間の満了の日の属する年度分まで固定資産税及び都市計画税を免除するというものでございます。それと、これの一番の特色といたしまして、次に出てまいります緑地の先買い権でございます。第10条でございます。第５条により

まして契約いたしました土地所有者、緑地の所有者は、当該緑地を有償で他人に譲り渡そうとする場合、あらかじめ市長に対してその予定対価の額、当該緑地を譲り渡そうとする相手方、その他別に定める事項を書面で届け出なければならない。第２項に行きまして、その届け出がありましたならば、30日以内に市の意思を決定いたしまして、その当該緑地の所有者に、それを購入するかどうかという通知をしなければならないという条項でございます。それから第３項でございますけども、これは第１項の届出をした者は前項の通知を受けるまでの間は、当該緑地を他人に譲り渡してはならない。先買い権の制約をしているわけでございます。

で、なおこの委任条項でございますけれども、この条例において必要な事項は規則で定めるということになっておりまして、参考資料といたしまして、施行規則を提出してございますので、よろしく御審議のほどお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　懇切な説明があったんですが、ちょっと理解できなかった点を質問いたします。

まず100号に関しまして融資あっせん審査会が削除、11条で、削除になっているわけでありますが、その理由及び損失補償の削除について、もう一度御説明をお願いいたします。

それから環境緑化協会に対する助成等に関する条例について、２ページにこれは定義の第２条で、「出えん」という言葉があるんですが、「えん」という字が平仮名で書いてありますので、「出えん」という言葉の語義を正確にとらえることができないような気がするんですが、具体的には「出えん」という言葉については、こうした表現以外に適切な言葉はないのかどうかですね、その点をお尋ねをいたします。私どもに配られております新国語辞典というのには、「出えん」という言葉出ていないんです。その点を教えてください。

それから今の建設部長から詳細説明がありました緑地信託に関する条例についてでありますが４ページですね、固定資産税等の減免というところがございます、第９条です。ここで先ほど部長は、固定資産税及び都市計画税の「免除」というふうに説明されたんですが、条例では「減免」となっております。「免除」と「減免」では、かなりの開きがあるわけですが、少しは納税義務があるのかですね、はたまた免除されて、そうした義務を負わないのか、どっちが正確であるか、お尋ねをいたします、以上です。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　お答えいたします。

「出えん」という言葉のとらえ方でございますけれども、法律用語といたしましては、実はけさほど松山２号線の件につきまして、弁護士から出ております上申書をお配りしております中にも「出えん」という言葉が出てまいります。辞典によりますと、「当事者の一方がその意思に基づいて、財産上損失をして、他方に利得させること」となっております。でございますので、やはり「出えん」、これは平仮名で、「捐（えん）」を「損（そん）」というような似た字でございますので、「えん」というぐあいに書いたわけでございます。

それから信託条例等に関する方でございますけれど、私が先ほど「免除」ということを申しました、ということで、これ過ちでございまして、「減免」でございます。御訂正いたします。

○議長（市川資信君）　　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　　それでは条例の11条の関係、それから21条の関係につきまして、御説明いたします。

まず11条の関係でございますけども、改正前につきましては緊急資金と、それから身体障害者専用開業資金の融資につきましては、融資あっせん審査会を設けて、審査をしておりました。これにつきましては、今回の改正によりまして、保証協会の対象にしたということで、緊急資金は保証協会の対象にしたこと、それから開業資金につきましては、不動産を担保にすることでこの解決を図ったということでございます。したがいましてこの融資あっせん審査会につきましては廃止をするものでございます。

それから21条の関係でございますけども、これにつきましては身体障害者専用開業資金とそれから緊急資金で、いずれも保証協会の保証、あるいは担保設定ということで改めましたので、この損失補償の条項につきましては、削除するものでございます、以上です。

○議長（市川資信君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　大体わかるのですが、それは市の独自の判断で、審査会等の削除が行われたのかどうかですね。つまり担保たる効果の有無については、どこで最終的にはじゃあチェックをして、担保が有効かつ十分なものであるかということを、最終判断するのはどこなのかですね。審査会等で行うということではいけないのかどうか、その点もう一度お尋ねをいたします。

それから「出えん」という言葉なんですが、一方が他方に対して負担をする、何らかの財物を提供するということでわかるんですが、弁護士の方が日野市長あてに出した上申書には、漢字で書かれておりますが、条例ではどうしても平仮名で書かなければならないのかどうかですね。いろいろな取り方ができると思うんですね、平仮名の場合には。あえて平仮名にしておられるゆえんは何かですね、「えん」という字です。そしてほかの用語では置き換えができないのかですね。こういう指導があったのかどうか、この用語の使用がこの場合にはどうしても避けることのできない選択といいますか、この用語以外取ってかわる言葉はないのかどうか、平仮名にしてまで使っておられますので、その点お尋ねいたします。

「減免」の件は結構でございます。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　この助成条例につきましても、都の指導を受けまして、この「出えん」、「えん」という言葉を使うということに決定したわけでございます。以上でございます。

都の指導が「出えん」ということで指導を受けましたので、そのようにしたわけでございます。

○議長（市川資信君）　　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　　11条の関係でございますけども、緊急資金は保証協会の保証対象ということでございます。それから開業資金は担保設定でございますけども、不動産の担保設定になりますけども、この関係につきましては条例の第９条でございます、ここに実地調査というのがございます。この中で調査をするわけでございますけども、これは金融機関にだっこいたしまして、調査をしていただく、この中で対応するというものでございます。なお審査会ではいけないのかという御質問でございますけども、金額の額の引き上げを行っておりますので、その関係では正確を期することで、専門的な金融機関等の審査の方が確実ではないかと、このような判断をいたしたものでございます。以上でございます。

○議長（市川資信君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　第９条の調査は市長が行うんですね。金融機関等に委任委託等をして行うということになっていないわけで、市が担保設定が適切かどうかということを確実ならしめるには、信用保証協会がここに１枚加わったということで、もう十分だというふうな御判断なのかどうかですね、ちょっとよく理解できないんですが、第９条

の調査は市長が行うということになっておりますので、その点もう一度詳しく教えてください。

それからいわゆる戦後の国語改革といいますか、必ずしも好ましいことじゃないんですが、一時当用漢字表、また現在では常用漢字表で漢字制限を行ってきたということによりまして、このような分け書きという書き方だと思うんですが、一方は漢字で同じ熟語でありながら、前出か後出の部分に平仮名の部分が入ってくるということで、非常に漢字本来の表意文字としての役割が損なわれることに、現在かなり――まあ是正は進んでおりますがなっているわけですね。ですからあえて平仮名でどうしても書かなくちゃいけないということにはならないと、私は判断をするんですが、弁護士さんはちゃんと「出捐」という言葉を漢字で使っておられる。法律家が使っている文字でありますので、法律に準ずる条例でも、「出捐」なる熟語を漢字で表記することの方が、むしろわかりやすいのではないかと私は思うのですが、平仮名にされた理由を、分け書きにしておられる理由をもう一度教えていただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　　９条の実地調査の件でございますけれども、まあ市長がするということになっておりますけれども、これにつきましては施行規則の中で委任をしてございます。ちょっと条文が、ですけども、この調査表につきましては、金融機関にお願いいたしまして、調査をしていただくわけでございますけども、一応５号様式ということでございますので、この様式につきましては施行規則の中で委託をお願いすると、調査をお願いするという形になるものでございます。市長が直接するということではございませんので、ひとつ御理解をいただきたいと存じます。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　御答弁申し上げます。「出えん」の「えん」を漢字でという御意見でございます。現在の常用漢字に「えん」という字は、漢字の字はございませんので、「えん」と、また都の方の指導もそのように指導されましたので、「出えん」と書いたわけでございます。以上でございます。

○議長（市川資信君）　　よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

谷　長一君。

○25番（谷　長一君）　　実はこの議案第100号についてお伺いしますけれども、このいわゆる中小企業事業資金融資ということになりますと、このお金を借りようという人は、お金があって借りるんじゃないんですよね。または財産があって、借りようという人は

非常に少ないわけです。そこで私も過去この窓口を訪れたことがあるんですけども、それは私の知っている人がお金を借りたいというので、市の窓口を一緒に訪れたことがあるんです。そのときにやはりいわゆる運転資金、この設備資金、それから緊急融資を受けようとか、または開業するときの資金ということであったんですけれども、今回については大幅に増額されたわけです。が、しかしこのいわゆる保証協会の保証があった場合には融資を行うということなんですけれども、この保証協会の保証があったというときの融資ということになると、非常にこれはごく対象者が少なくなってしまうわけなんです。そこで私はこの運転資金、設備資金等については、市長が運転資金と緊急資金については、保証協会の保証があった場合に融資のあっせんをするということになっておるわけですけれども、これをやはりもっと融資の拡大というのを図ると同時に、金があっていわゆる設備等もする人だって、全部じゃないんですね、ないからお金を借りに行くんですから、これらをやはり日野市の商工会に対しては、市が補助金を与えたりなにかをしている関係上、商工会の保証等のことも一応考えたらどうかと思うわけであります。

そこでこのたしか先ほど緊急資金、それから開業資金あっせんに当たっては、この９条ということで市長がやはり適否を決めるということになっておるけれども、このいわゆる９条の対応ということになると、これは金融機関ということになるわけですね。そうなると当然この緊急資金については、この保証協会、それからこの開業資金については、これは担保ということになると何かということになれば、やはり物件なんですよね。そうすると確かに緊急資金、それから開業資金等については、350万と700万であるけれども、なかなか借りることが困難であるというのが、今までの現状じゃなかったかと思うんです。そのあたりにつきまして、ひとつ市長はどのようなお考えを持っていらっしゃるか、お伺いをしたいわけです。以上です。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　この市内の産業振興に対します行政施策として、一番有力な手段がこの融資あっせん、まあ即効的な役割が果たせる一つの手段だと思うわけであります。その融資を求める人がまた、金額にもよりますし、自己調達能力がないから、こういう手段に依存をしたいということになるわけでありまして、何とか力の少し欠ける状態をできるだけ補ってあげる。これが本来の行政の振興のための融資策だと、そのようにも考えたいわけであります。一定の規模に到達をして金融機関が交渉に応じてくれる、というところはもう金融機関にゆだねていいはずでありますけど、保証協会に認めてもらうという域に達するには、これまた信用の度合いがいろいろ調査される、このま

ことに苦しい状況が間に立つ立場として生まれるわけでありまして、もともとの原資が公金であるということによりまして、あまり安易な、取りはぐれのあるような状況でも困りますし、そのあたりの一番厳正なところを、また金融を求める方にもそのことをよく知っていただく、こういう点が大切な根拠だとこのように思うわけでありまして、その域よりもっと少ない方は、別の条例、つまり小規模事業者育成条例、これらもまた時をはかりまして、なるべく信用の度合いを――自主努力もあわせてつけていただくと、こういう手段に眼目を置きたいと思いますので、できるだけ力になれる判断をしなきゃいけないと、こういうことがまた一方に必要だというふうに感じております。

○議長（市川資信君）　谷　長一君。

○25番（谷　長一君）　ただいま市長の答弁では確かにわかるわけなんです。どうしてかと申しますと、ただいま言われたとおりの小規模育成条例等もあります。この小規模育成条例にしましても、やはりなかなか市の窓口へということで、市役所の窓口へ行くと借りられないわけなんですよね。それで東京都に何年以上という規則がありまして、実際に行くと、なかなか対象者であって、借りられる対象者じゃないということなんです。そういうことを考えてみると、この議案100号につきましても、同じことが言えるんじゃないかと思うんです。やはりそのあたりをよくお考えになりまして、私は欠けている点を補う、不足分をプラスして足りるようにするということはよくわかるんですね。しかしやはり日野市には、商工会というのがあるわけですから、このあたりももっとよく市の補助金が出ている関係上、運用して中小企業育成というのに当たってもらえれば、非常に幸いじゃないかと思うわけです。そうすることによって融資等のあっせんも幾分厳格な面が解消されるんではないかということを一つ何とかお考えをよく持っていただいて、小中、その企業の育成を図ってもらいたいと思うんです。これ要望です。終わり。

○議長（市川資信君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本４件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第100号、日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定、議案第101号、日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定、議案第102号、財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例の制定、議案第103号、日野市緑地信託等に関する条例の制定の件は建設委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御

異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、建設委員会に付託いたします。

これより議案第104号、日野市立保育園設置条例の制定の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第104号、日野市立保育園設置条例の制定についての提案理由を申し上げます。

本議案は、保育所入所措置事務等が機関委任事務から市町村の団体委任事務となったことなどに伴い、日野市保育所設置条例の全部を改正し、名称を日野市立保育園設置条例として制定するものであります。

詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　関係部長から、詳細説明を求めます。福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　それでは議案第104号、日野市立保育園設置条例の御説明を申し上げます。

本条例につきましては、日野市立保育園設置条例（昭和36年条例第31号）の全部を改正するものでございます。それでは２ページ、３ページをお開き願いたいと思います。

まず提案の理由でございますけれども、先ほど市長から説明ありましたように、昭和61年10月に107国会におきまして、地方公共団体の執行機関が国の機関として行う事務の整理及び合理化に関する法律が可決、成立されました。それに伴いまして保育園の入所措置事務及び保育園の保育料の徴収事務が国の機関委任事務から市町村の事務へと、団体事務化されたわけでございます。内容といたしましては、児童福祉法が改正されまして、児童福祉法の第24条による保育所の入所措置事務、それから56条によります保育所の民生移管経費の徴収事務が、団体化されたわけでございます。すでに市議会におきましては、昭和62年３月に日野市保育所入所措置条例、昭和62年３月31日条例第16号でございますが、これが制定されておるわけでございます。

今回の条例の改正点でございますけれども、まず第１は、２ページの条例名でございます保育園、今までの「保育所」という名称を「保育園」ということで、改正いたしました。それから１条、２条は旧条例と同じでございます。それから第２点におきまして、第３条の入所の対象者を改正いたしました。まず法24条及び39条に規定する児童となっ

ておりますのを、今回は法第24条及び日野市保育所入所措置条例の規定により措置された児童というぐあいに、条例に依拠することにいたしました。

第３点でございますけれども、第４条に掲げておりますように、定員とそれから保育料の徴収等を規則へ委任するというぐあいになっております。これは児童福祉法の施設最低基準が改正されまして、市町村長の権限内の事務ということになりましたために、これを市長が別に定めるということで定めてございます。したがって別に定めます内容といたしましては、定員は日野市保育園設置条例の施行規則第３条に定員の条項を定めまして、保育園の定員は別表の定めるとおりとするというぐあいに定めております。また保育料の徴収につきましては，日野市保育所措置費徴収規則の中にうたっておるわけでございます。

以上が改正点でございます。この条例につきましては公布の日から施行するということで、付則に定めております、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　　これより質疑に入ります。夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　　今の説明で形式的な説明だったというように思うんですが、実質的には入園の対象というところが変わったということですが、具体的に中身としてどういうふうに変わったのかですね、具体的に中身のことを教えていただきたいのです。というのは、保育園に通っている方たちにとってどのぐらい、このことによって変動が起きてくるのか、全く従来どおりなのか、従来どおりでないのか、従来どおりでないとすると、どの辺が一番影響を受けてくるのか、その辺率直な内容として教えていただきたいと思います。特に４条では、市長が別に定める委任ということで、内容について委任条項にもなっていますし、その辺のことも教えていただきたいというように思います。

○議長（市川資信君）　　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　お答えいたします。まず対象でございますけれども、これにつきましては、旧条例におきましては法に規定する児童ということでございますけれども、団体事務化された結果、各市町村は保育所入所措置条例を設定しなければならないと、こういうことになりまして、これが62年に入所措置条例を定めたわけでございます。まあこの際に御説明をしたわけでございますけれども、決してそれによって旧来の事務の内容を大きく変えるということではございませんで、依然として措置に欠ける児童を措置の対象とするということでございまして、その他各困窮度によりまして、保育所入所をする、措置をすると、こういうことでございますので、したがって日野市の事務といたしまして実施はいたしておりますけれども、かつて福祉事務所事務として機関

委任事務としてやっておりました内容とほとんど変わっておりません。これは全く変わっておりません。以上でございます。

○議長（市川資信君）　　夏井明男君。

○13（夏井明男君）　　今のお話でわかったんですけど、そうしますと単に機関委任事務から団体委任事務になった体裁から、こういうふうな形になったというふうにお聞きしたわけですが、しかし団体委任事務として独自性が発揮できるような余地ができたというふうに私は理解しているんですが、そうすると将来的には各地方公共団体で、独自にこういう点についてはこういうふうに直していこう、入所基準についてはこういうふうにしていこうとかということで、そこら辺がかなり個性の出て来る余地というのは、これから将来的に出てくるんではないか。今現在、日野市においては、今の部長のお話ですと、従来どおりの運用でほとんど違いがないということですが、将来的には日野の独自性ということも制度的には認められているというふうに理解したんですが、それでよろしいですか。

○議長（市川資信君）　　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　お答えいたします。現状では62年の時点で、62年４月の時点でスタートしたときには、混乱が全国的に起きるといけないので、統一した条例、規則で対応しようと、まあこういうことでそれは今現在遵守されているように思っております。したがって、当分の間は現状の状況というのは変わらないと思いますけれども、お説のとおり、時間のたつに従って、基本はやはり団体事務化されておりますので、市町村長の権限で実施できるという内容について若干の弾力性がございますので、これについては若干の変化が出てくる可能性がございます。しかしながら、法のたしか24条だと思いましたですが、保育に欠ける児童を対象とする点の枠がはっきり決まっておりますので、これがはずれない限りは自由に、例えば幼稚園のように措置ができると、まあこういうことにはならないだろうというぐあいに、考えております。

○議長（市川資信君）　　よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

土方尚功君。

○４番（土方尚功君）　　今１点だけ確認をさせていただきたいと思うんですが、法的な問題は今夏井議員の方のあれで私の方も理解いたしましたが、ここで言う保育所の設置条例から、今度保育園の設置条例というようなことで、「所」が「園」になったというまあ名称の関係ですけども、特段に「園」になったということは、今までも保育所でありながら、日野市の場合、名称で保育園という形を使ってきている、これは現実にあっ

たわけですが、そういう意味で今度「保育園」ということで統一されてきているのがこれでわかりますけれども、例えば３条でも出てくる、要するに保育所入所措置条例ですね、この関係がこちらの方はそのまま「所」で残ってきている、この関連といいますかね。それで逆に保育所の入所措置条例の方を見れば、やはりまだ「保育所へ」という形になるわけですから、通常一緒に連動されているようなものであれば、逆にこの設置条例に伴って、入所措置条例の方も本来なら保育園というふうに直すべきではなかろうかなという疑問を抱いたので、そこら辺の説明をいただければと思います。

○議長（市川資信君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　御指摘にお答えいたします。

御指摘のとおり、現在ここで「保育所」を「保育園」と改めます。これにつきましては、地域で採用されている言葉を使うと、こういうことで慣れた言葉を使うと、こういう意図でございますけれども、そのほかに今まで行政的、事務的に使っておりました「保育所」という言葉が残っておりますので、これは今後できるだけ早いうちに「園」「保育園」という形で統一して改正をいたしたい、こういうぐあいに考えております。

○議長（市川資信君）　よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第104号、日野市立保育園設置条例の制定の件は厚生委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、厚生委員会に付託いたします。

これより議案第105号、昭和63年度日野市一般会計補正予算（第３号）の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第105号、昭和63年度日野市一般会計補正予算第３号について、提案理由を申し上げます。

本議案は昭和63年度日野市一般会計補正予算第３号であります。補正額は歳入歳出それぞれ４億6,690万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を344億9,087万円とするものであります。詳細につきましては担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　歳入歳出全般及び第２表債務負担行為補正の説明を関係部長から求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　それでは議案第105号、63年度の一般会計補正予算第３号について御説明申し上げます。

大変申しわけありませんが、議会開会時のときに歳出のところで一部訂正がありますので、また順を追って説明のときに、正誤表はお配りしておりますが、その中で御説明を申し上げたいというふうに思います。まず１ページでございます。ただいま提案のとおり今回の補正額は４億6,690万2,000円を追加させていただくものでございます。よって63年度の総額344億9,087万円とするものでございます。

また第１条の２項の中には第１表の歳入歳出予算の補正の内訳を記載したものでございます。なお第２条につきましては、債務負担行為の補正をお願いするというものでございます。それでは内容に入らせていただきます。

２ページ、３ページをお開き願いたいと思います。まず第１表の歳入歳出予算の補正でございます。この中で四つの款に基づいて歳入の補正をお願いするものでございますが、大きな問題としては14の繰越金４億3,104万7,000円を、62年度の繰越額から取り崩しをここにさせていただきたいというものでございます。歳出でございます、九つの款の補正をお願いしております。内容的には詳細の中で説明をさせていただきたいと思います。

なお３ページの第２表でございます。下の欄でございますが、債務負担行為の補正でございます。事項別には（仮称）高齢者センターの新築、（仮称）文化財センターの新築でございます。この事業につきましては63、64という債務負担でお願いしているわけでございますが、高速道路下の占用をお願いし、やっと許可がいただけました。よってそれに基づく一部設計変更、あわせまして多少の単価アップということで、金額の限度額の変更をお願いするものでございます。

なおそれではページ、８ページ、９ページ、歳入を順を追って説明をさしていただきます。まず目で１の民生費国庫負担金でございます、もう説明欄に記載もされておりますので、この内容につきましては施設入所増による内容の金額のアップでございます。続いて10ページ、11ページ、目だけで申し上げますが、１の民生費の国庫補助金、これは障害者の訓練のために要する経費でございます。人員増に伴いましての２分の１の補助金でございます。４の教育費国庫補助金でございます。これは減額部分でございますが、説明欄記載のとおり準要保護児童、あるいは生徒の対象減による、人員の減による

理由でございます。なお12ページ、13ページ、款の10、都支出金、項の２の都補助金、目では２の民生費都補助金でございます。65万の補正をお願いするものでございますが、身体障害者の住宅設備改善資金でございます。希望者の増による歳入増ということでございます。なお、目の５の土木費都補助金につきましては、ここに説明欄に記載のとおりでございます。

なお14ページ、15ページ、目で３の衛生費委託金でございます。委託事務の事務量の増加による歳入増という内容でございます。５の土木費委託金につきましても、許可事務に伴います内容の事務費の委託金の内容でございます。なお16ページ、17ページ、目では３の老人保健特別会計繰入金でございます。一般会計より繰り出ししていた運用資金部分でございます。ここに老人特別会計繰り入れとして、4,062万7,000円を歳入にするものでございます。

18、19ページ、目では１の繰越金でございます。歳入の総括欄の中で御説明申し上げました、ここで62年度の繰越金が、端数は書いてありませんが、前年度繰越金として、６億6,017万415円、62年度の繰り越しがあったわけでございます。よってこの補正額を４億3,104万7,000円を取り崩しいたしまして、補正後の額は４億7,558万5,000円ということでございます。よって残が１億8,458万5,000円、まだ開いていない部分として残が残っておるということを申し添えておきます。

なお３の、次のページの20、21でございます。３の歳出に入らせていただきます。款では議会費、項で議会費、目でも議会費でございます。歳出の部分につきましてはかなり人件費の変動によっての内容が伴いますので、ここで大枠を説明さしていただきたいと思います。補正予算の中で、全体的に款、項、目の人件費の補正がお願いするわけでございます。当然款、項、目に基づく職員の退職者の問題、採用の問題、あるいは５回の人事異動等に伴う職員の変動等の内容の中で一部整理させていただくものでございます。当然補正増もありますが、減額をすべて主にしたわけでございます。減額をすべて整理したわけではございません。今後当然予定される給料改定等もありますので、多少の留保額はありますので、３月の時点で整理していきたいという人件費の補正の内容でございます。

それでは22ページ、23ページ、款で２の総務費、項で１の総務管理費でございます。目で一般管理費、ここで先ほど冒頭申し上げました訂正をお願いしたいと思います。大変恐縮でございます。節のところで２の給料でございます。この中の説明欄の内容について、訂正をお願いしたわけでございます。「一般職113人」と記載してありますが、

この訂正をこれは「助役」というふうに御訂正願いたいというふうに思います。なお３の「職員手当等」ということでございますが、この説明欄の記載も、「特別職期末手当」の部分でございます。なお４の共済費につきましても、「職員共済組合負担金」となっておりますが、この「職員」というのは、「特別職」の共済組合負担金の御訂正をお願いするものでございます。以上、このページは特に説明する部分はございません。

なお24ページ、25、目の14の諸費でございます。ここに説明欄に記載のとおり、おのおの事業の前年度の事業の完了に基づきましての、返還金でございます。

なお26、27ページにつきまして、目の２の賦課徴収費でございます。特に節の11の需用費の中で、一番下の欄に印刷製本費で229万6,000円を、補正をお願いするものでございますが、当然当初予算の中に、そういった印刷・納付書、そういった一切のものはお願いしてあるわけでございます。まあ課税に要する用紙等の問題でございます。非常に高くなって、単価アップによるその値上げ分による補正をここでお願いするという内容でございます。

なお28、29ページは略させていただきます。

30ページ、31ページ、目では選挙管理委員会費でございます。御承知のとおり選挙管理委員会の委員さんの改選がございました。よって当初予算の計上部分に、改選時にダブッた部分の１カ月分をここで補正をお願いするものでございます。なお、３の市長選挙につきましては、記載のとおり選挙関係のプログラムの開発をここでしていきたいという内容でございます。

なお32、33、特にございません。

34ページ、35ページでございます。目の２の身体障害者福祉費でございます。節の中では20の扶助費でございます。おのおの施設委託費、あるいは住宅設備改善給付費、先ほど歳入の中で、御説明申し上げましたが、希望者、あるいは入所等の増によるここに歳出の増額をお願いするものでございます。８のコミュニティ費、節の中で15の工事請負費でございます。650万をお願いするものでございますが、内容は川北の地区センターの増改築、当初にお願いしております遺跡の関係でかなり当初の見積もりよりは、調査のための経費、調査のためにかなり１メートルの基準のやつをかなり深く掘ったために、そのための基礎工事、あるいは資材の値上げに伴う補正をお願いするものでございます。なお目の９の消費生活向上推進費でございます。一番下の18の備品購入費でございます。放射線測定器ということで、まあこれは生活課の備品として置きまして、食品安全のための管理をするために、簡単なものでございますが、そういった備品を備えていきたい

というものでございます。

なお36ページ、37ページは略させていただきます。

38ページ、39ページの中で、目の４の保育園費でございます。節の11の需用費、ここに記載のとおりでございます。いずれ基本計画の中にもあるわけでございますが、暫定的な応急処置としての改修、雨漏りのための改修をここでお願いしたいということでございます。なお、その下の19の負担金、補助及び交付金、78万4,000円につきましては、みなみだいら保育園の関係でございます。現在都営住宅等の屋上の防水が行われております。その関連の中で同じようにしていきたいという補正のものでございます。

なお40ページ、41ページは略させていただきます。

続いて42、43も略させていただきます。

44、45も省略させていただきます。

46、47、目の３のし尿処理費でございます。補正を300万お願いするわけでございますが、説明欄記載のとおり収集量の増加、あるいは単価アップによる補正でございます。

次に54ページ、55ページに飛ばさしていただきます。目の１の土木総務費でございます。節の中では、22の補償、補塡及び賠償金、きょう議会の中に資料が配られておりますが、松山２号線の裁判和解金として、3,400万をお願いするものでございます。場所につきましては日野台五丁目ということでございます。

56ページ、57ページ、目の４の街路灯費でございます。11の需用費につきましてはここに記載のとおり、当初予算でも計上しておりますが、現在の実績から見て、あと３月までの不足分含んでの補正をお願いするものでございます。15の工事請負費につきましては、街路灯、浅川の南側の部分、15基を設置していきたいというものでございます。

なお58、59ページでございます。目の２の河川維持費でございます。14の使用料及び賃借料、ここに記載のとおり、浅川河川における用水の取水口６カ所あるわけでございます。その取水口に対する二つの機具を借り上げましての整備をしていきたいというものでございます。

なお60ページ、61でございます。目の２の区画整理費でございます。繰出金でございます。土地区画整理事業特別会計３億5,127万3,000円を繰り出ししていくものでございます。これは豊田南口の区画整理に伴いましての用地買収費でございます。なお、８の緑化費でございます。15の工事請負費として500万、花卉栽培苗圃新設ということでございます。先般議員さんからの提言もあり、また市長室からということで、広報を通して市民の御協力を呼びかけたわけでございます。その中の一つとして、この用地2,800

平方メートルをお借りして苗圃に使っていくものでございます。

なお62、63ページ、目の４、林間施設費でございます。2,880万8,000円をお願いしているわけでございます。冒頭行政報告市長からなされたわけでございますが、林間施設の土地契約負担金としてお願いするものでございます。この場所につきましては、すでに説明したとおりでございます。安曇村の村有地３区画、現状で持っているわけでございます。そのうちの２区画で7,202平方メートルを借りるという予算をお願いしたものでございます。よって３区画のうちの２区画ということの内容でございます。

なお64、65、教育、小学校費でございますが、おのおの説明欄に記載のとおりで、現在当初予算の中でも、特に教育振興費の７の賃金等につきましては、実施しているわけでございますが、より充実したものをやっていくための補正をお願いするものでございます。

なお66、67は特にございません。68、69もございません。

70、71、目の２の市民プール費でございます。多少の、すべて――減額でございますが、すべての事業が完了しておりますので、ここに減額をお願いするものでございます。

以上、一般会計の補正予算第３号の内容につきまして、御説明申し上げました。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。土方尚功君。

○４番（土方尚功君）　歳入の関係で繰越金のことでございますが、先ほどの部長の説明も６億6,000万からの金額の繰り越しがあって、今回４億7,558万5,000円ですか、金額になりますから、先ほどもおっしゃったと思うんですが、１億8,400万、まだ要するに取り崩しをしないで済んでいる部分ということが、金額的に大きい数字が出るわけですけれども、これからあと、３月――まああと議会で言えば定例的にも３月の議会だけということであります。そういう中で、これについて財政的な意味からして、今後どのように考えていらっしゃるのか、この点について、特に今回単に歳出にあわせただけ、要するに取り崩しをしたんだなという理解をするとすれば、若干ここら辺に問題があるんかなあということで、まずお伺いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　お答えしたいと思います。

確かに62年度の残があるわけでございます。当然前の議会の中にも、私の方も起債等の借り上げをしているわけでございます。ただ国庫関係についての一部返還のできない部分もありますが、東京都の問題、あるいは銀行の関係等につきましては、この残につ

きまして現在都とも折衝中でございますので、繰り上げ償還の方向で考えているということでございます。

○議長（市川資信君）　土方尚功君。

○4番（土方尚功君）　はい、わかりました。繰り上げ償還というようなことで、極力対応ができれば、それに越したことがないと思います。そちらの方については全力を挙げていただきたいなというふうに思います。ただ今回の行政報告の中でも特段に63年の10月末現在の中でも調定としては、すでに総額の金額は調定額に入ってきているわけですから、執行率でも大変高い金額がまあ出ている、率が出ている、こういう現状があるわけですから、極力早い時点で有効に使っていただければと思います。

特段――あと林間関係のことについては、夏井議員の方から篤と御質問があろうかと思いますので、私は基本的にこちらの環境については、検討委員会等設けて、実施すべきだ、そういうことであれば、私は基本的にはこの金額は不要である。そして検討委員会等で金額をとらえることについては、賛成。この施設そのものは反対ではないわけですから、手順としてはそういった方向に持っていって、文教の委員会の方でまた検討されるわけですから、そういったことにすればこの繰越金の金額も減額をして、ちょうど予備費等が今回のところありませんから、繰越金の金額を下げて、歳出を下げるというような方向で私ども考えているというようなことを申し上げておいて、質問を終わります。

○議長（市川資信君）　夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　38ページのたまだいら保育園の屋根の改修ということで、555万ですか、計上されております。不思議に思いますのは、これは本予算組むときまでは、雨漏りはしていなくて、本予算組んでから、ですから4月から現在に至って――ことし雨多かったんですが、相当雨漏りがひどくて、ここで急遽やるようになったというふうに、事情に理解していいのか。それとも本予算組む時点でもうすでに雨漏りしていて、福祉部の方から上がってきた要求としては、財政部の方で切られたというふうに理解していいのか、その辺よくわかりません。前にも私は幼稚園でしたかね、たまだいら幼稚園の方でも、雨漏りという話を聞いたことありまして、今度は保育園でこういうふうな途中のところから雨漏りというのが出てきてますので、どのぐらいのが現状なのか、非常にポタポタ漏って、ひどい状態ならば、これはかなり問題ですし、こういうふうな形がどこからこう来たのか、ちょっと私も理解できない点がありますので、詳しく説明していただきたいと思います。

それから63ページの林間施設費ということですが、これ土方議員の方から、ちょっと私、基本的には少し土方議員とは違う考え方持ってますが、これ、こういうふうに理解してよろしいでしょうか。村有地の2区画を非常にいいところなので、この金額を、手を打たなければ、契約として流れてしまう、むしろほかの方へ持っていかれてしまうというふうなことがあったというふうに、非常に推定されるのですが、そういうふうに理解していいのかどうか。

それから大成荘の基本計画がありまして、大成荘はかなり縮小して、少年の家ですか、少年の家ということで50人ぐらい、正確な数字あれですが、安曇野の村の方は青年の村とか、基地とかということで、大体50人ぐらいという、こういう発想なんですが、これは大成荘をつくられる予算、規模、それから市民のニーズというものを踏まえると、このぐらいの基本的な予算の枠組みで両方ともできるというふうに考えて、その延長線で来た話なのか、その辺お聞きしたいんです。で、私が今こだわっていますのは、大成荘は今度小金井市が、うちの隣が府中で、府中の隣が小金井で、小金井の隣が調布なんですが、府中と調布が建てかえまして、今やっております。小金井の方も来年か再来年ですね、調布ぐらいの規模になるんでしょうか、林間施設としてのものをつくると、こういうふうなことが行われているわけです。八ケ岳ではほかのところでも移動教室なり、また林間の施設として使うということで進んできました。日野市におきましては、あの敷地が要するに1学年の生徒全員を収容して、できる規模ではどうなのかということが、ギリギリの線であったという話も聞いています。またあそこは天候の不順なところで、体育館的なものもないと、やはり研修といいますか、あそこへ来た意味の重要な部分が半減されるということで、かなり担当の方も苦労されているような話も聞いてました。その聞いた中で最終的な集約として、あそこに基本計画に出てきたわけです。で、私は、移動教室が今小学校の5年生も中学校の2年生も行われていますが、市によってはああいうふうな施設をつくりまして、移動教室として使う。義務教育の一環として行われるので、費用的にもかなり安く父母の教育費の義務負担軽減ということもかねて、おやりになっているということを聞いているわけです。そういうふうな延長線に来て、それがスポッと消えちゃったというふうに理解をしていいのかどうか。もっと言いますと、基本計画、基本構想の考え方というのは、その程度の軽さで理解してよろしいのかなと、私も大成荘のあれについては、64年から65年に実施計画で入っていましたんで、非常に楽しみにしていた一人なんです。それがスポッと消えて、今回こういうふうな形で、まあ青年の家になると、一般市民が使えるかどうか、補助金の絡みもあるのかもしれませ

んが、少年の家となると、その対象ということで、その辺が一体どこに行っちゃったのかですね、よくわからないわけですね。総体的に費用としては金がかかる、お金がかかるというふうな具体的なことはもうお持ちだと思いますので、その辺ちょっと教えていただきたい、このように思います。

○議長（市川資信君）　　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　まず第１点のたまだいらの保育園の屋根の改修工事費、修繕料でございます、555万6,000円について御質問ございましたので、お答えいたします。これはたまだいら保育園がもうすでに30年近くになりますので、もう木造ですし、かなり老朽化しておりまして、建てかえなきゃならない時期に来ております。しかしながらあそこの総体的な建設計画を今組んでおりますし、当面やはり雨漏りがいたしますので、どうしてもこれは直さないことにはできない、こういうことでございますので、今回屋根の改修だけでもしたい、こういうことでいたすわけでございます。とにかく建物そのものはかなり老朽化してまして、屋根がトタンですし、かなり雨漏りがひどいと聞いております。したがって今後あとあしたから保育をすると、こういうことに差し支えるということでございまして、ぜひお認め願いたい、こういうぐあいに考えています。

○議長（市川資信君　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　御質問の林間施設のことにつきましては、先般の行政報告で不十分な点がありますために、まだ御理解が――まだ御質問が出ると、こういうことだと思いますので、私の方から一番大きい部分についてお答えをしておきたいと思います。

大成荘は日野市の林間施設として長い歴史を持っておりますし、それなりの今後の活用も考えていく、これは大きな原則でございます。そうして大成荘の面積は――山梨県との契約は、当初移動教室ということで契約をされておりますものを、教育委員会の決定もあわせて、移動教室というよりも林間施設、一般林間施設といいましょうか、社会教育的意味を含めたそういう意義に置きかえるということの了解は、すでに得たところであります。そして面積が１万4,000平米余ということであります。今後基本計画に載せております後期の改築ということを見通しておるわけでありますけど、まあ２割の建ぺい率の施設でもございますから、今の建物計画としては無理が伴ってまいります。つまり三千数百平米、こういった計画を一応掲げておるところにすでに無理がございます。そのこととあわせまして、もう少し別の意味のリゾート施設が得られないものかということを、これまでいろいろな形で検討をしてまいりました。結果として安曇野の情報が得られたということでございまして、つまり大成荘につきましては従来の――この間大

まかにいって3,000平米計画を2,000平米計画に落とす。そして安曇野に1,000平米計画を新たにつくる。実質においては、金額等におきましては、大体同じ予算の範囲でやれるものだと、こう思っております。そして、将来展望といたしまして、今青少年の健全育成こそ最も重要な課題でもございますので、大成荘の場合を、これは例えばでありますが、「少年の森」と、こういう位置づけで設計が行われたということがございます。そうした安曇野を「青年の森」ということで、そのために若干の林間生活の差がある、こういうことが考えられるわけであります。あわせて3,000平米程度の計画によって、大成荘は、まあ児童もそれから大人もということで、大体100人施設、100人の収容施設、安曇野の場合は50人収容施設、１人に大体20平米ぐらいの設計が適当というふうにも聞いております。そういうことで日野市の、まあ山寄りのリゾート施設として、もちろんこれは市民にも遊休期間は十分活用をしていただく。こういうことが当然でございますし、なるべく有効に使われるということでなければ、公共施設の意味にも欠けるわけでありますから、できるだけ――まあ周辺の環境を大きく利用して、市民のニードにこたえていこう、こういうことでございます。

まあ大きな数字の上の私どもの判断、そういうことでございますが、担当の教育委員会の方も、それなりにすでに説明も内部的にされているようでございますから、その詳細につきましては、本来の教育委員会の管理事項として取り組んでいただくと、こういうことでございます。

○議長（市川資信君）　　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　　それでは１点目の問題についてちょっとお答えをしたいと思います。

安曇村の村有地の中に村が開発をしました乗鞍高原集団施設地区というのが設けられております。その中に現在残されております区画が３区画あるということで、ほかは大体すでにそれぞれの寮なり何なりに使用をされているわけでございます。その面積は一応7,202平方メートルでございます。これについては他からも引き合いがあるという話でございますので、市としてのやはり態度を先方、安曇村の方に伝えておきませんと、他から引き合いがあった場合に、他の方にあるいは回ってしまう、という可能性も当然考えられるわけでございます。手順としましては、安曇村の条例その他がございまして、それに基づきまして、まず賃貸借契約に入る前に、普通財産貸付申請書というのを村の方に提出しまして、それでそれの申請を、オーケーをいただいてから、話が正式になるという手続きになっております。以上です。

○議長（市川資信君）　　夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　　それではたまだいら保育園について、今の部長の答弁は、非常に私は矛盾していると思いますのであれなんですが、再度お尋ねしますけど、一つは非常にひどいというふうに聞いているというお話で、部長は直接――まあ行かれているんだろうと思いますけれども何かそういうふうなお話しでした。今は保育園の、保育に欠ける状態だと、雨漏りしてて、というお話なんですね。ですから、保育に欠ける状態の雨漏りというのはひどい状態ですから、これは基本的にあそこのところを全部将来的にどうするかということも、これから何年後か出てくるんだろうと思いますが、もしもそうだとすれば、そういうふうな状態というのは、何カ月の間に急速に来たわけじゃなくて、30年ぐらいたっていて、古いということ私もよく承知してますし、いい状態じゃないということは知っていますけど、そうだとすればやはり本予算の中で請求をしてくるべきだろうという話だと思うんです。当然、私はされているんだろうと思うんですが、その辺は財政部長の方でどうしてけられたのかですね。保育に欠ける状態があるのにかかわらず、ここでけられたということについて、一言お話をしていただきたいと思います。

それから大成荘と今の安曇野の森の方の青年の家の話なんですが、これはそうしますと、ちょっと私の理解の仕方が間違っていて、大成荘は大成荘としての構想が今まであったんだけれども、私は当初学年が下に行くに従って、生徒の数も少なくなるということで、十分、１学年の移動教室ぐらいのものが使えるというふうに読んだものですから、それで市の方も恐らくそういうふうな構想があったんだろうということで、私はここに出たと理解したわけです。そうしますと、今の安曇野の方の話は置いておきまして、大成荘自体の話で言いますと、そういうものは設計をしてみたけれども、断念せざるを得ないというふうに理解をして、100人の林間施設できているわけですけども、そういうふうなものとして位置づけるという変更をされたというふうに、今理解しているわけです。安曇野の方は大成荘とは全く関係がなくて、いい土地があって、こういうふうなものがあって、いいじゃないかということで大成荘とは、別にスポッと出てきた話だろうというふうに理解をしているわけです。そうしますと、大成荘の方の少年の森から手順が始まっていくのか、それとも安曇村の方の青年の森ですか、そちらの方が先に進んでいくのか、その辺すでにもう安曇村の方の土地の契約も、結ぶ金額も計上されているわけですから、その辺は見通しとしてできていると思うんです。ですからその辺のところをもう少し鮮明に教えていただきたいというふうに思います。もしも大成荘の方が設計

的に基本計画に載せるところで、無理があって断念をしたというふうに理解していいのか。特にほかの市やなにかでは、そういうふうな施設として進んでますから、あえて日野市はそれをとらなかったということに対しては、重要な決定であったというふうにも私、理解していますので、その辺どういうふうになっているのか、もう少しお聞きしたいというふうに思います。

○議長（市川資信君）　　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　　まず第１点のたまだいらの保育園の屋根の改修についてでございますけれども、福祉部といたしましては、たまだいらの老朽化の問題がございますので、新年度の対応としては建てかえるということで考えてまいりました。したがって当面の改修ということよりは、基本計画をどうつくるかということで考えておったわけでございます。しかしながら、あの周辺の公共施設の総体的な計画が現在遂行しておりますので、その中の一環でございますから、当面の保育に欠ける状態ということになると困ると、まあこういうことで、ともかく屋根がかなり老朽化してございますので、これを早急に、やっぱり保育に欠けることのないように、早急に改修したい、こういうことでお願いをしたということでございます。

○議長（市川資信君）　　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　　たまだいらの保育園の関係でございます。ただいま福祉部長の方が説明しておりますが、確かに福祉部と企画財政部との協議の経過もあるわけでございます。基本計画の中にも、一定の期限に建てかえるというような方向づけをし、現在庁内関係部署で全体的な、総合的な部分の検討・協議を進めております。しかしことしはかなり天候等の状況が悪かったというような事情もあろうかと思いますが、非常にことし雨漏りが多かったというようなことを、この予算要求の中で担当部から説明を受けております。そういう中ではやはりここで基本計画は基本計画として、進めているわけでございますが、ここで暫定的な補正をお願いし、対応していくべきだというような結論で、補正を提案させていただきました。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　大成荘の将来展望に当たりましては、いわゆる――まあ林間施設として、大きく役割を果たすように改築をすると、こういう考えが基本計画の内容であります。そうして、御承知のとおりその面積、借地面積１万4,000平米、２割いっぱい建てましても、2,800程度、したがって目指す三千数百平米には建物としても不可能だということがございます。そのあたりちょっと、この基本計画の詰めの不徹底だっ

た点は確かにあるわけでありますけど、私もかねて何かもう少し機能を広げたい、そういうことであちこちの調査も若干やったということも申し上げました。したがって今幸いに一つの新しい情報を持ち得ましたので、大成荘そのものの機能を拡大し、また建物の面積としては分ける形で、つまり大成荘の清里には約2,000平米を、それから長野の安曇野には約1,000平米を、そしてまた収容人員にいたしましても、清里には100人規模、それから安曇野には50人規模、こういうふうに展望をしておると。そのことを今回の行政報告で申し上げたかったつもりでありますけど、不十分であった点も確かにあると思っております。まあせっかくの大変すぐれた環境でもございますので、御理解をいただいて確保していきたい、こう思っております。これのその順序につきましては、これから検討委員会を設けて、両者あわせて検討していこうと、こういうことを申し上げたいと思っております。

○議長（市川資信君）　ほかに御質疑はありませんか。古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　35ページの委託料、商品安全確保及び適正化事業、この内容について教えていただきたいと思います。

それからその下の放射線測定器の購入でありますが、食物の安全性を確保していくということで、一つの他市に例を見ない施策と言えるのかもわかりませんが、私も専門的な知識がありませんので、ちょっと教えていただきたいんですが、以前原子力船「むつ」が放射線漏れの故障を起こしましたときに、科学者と呼ばれる人でも放射能と放射線という言葉の意味が取り違えられて、まあいろいろ喧伝をされたというようなことで、そういう解説記事等読んだことがあるんですが、今回放射線測定器というふうになっております。放射能という物質から出される、放出されるのが、放射線ということだと思うんですね。ですから、放射線を測定することによって、放射能を特定をするということは難しいのかもわかりませんが、今回市で考えておられる、いわゆる市の行政の守備範囲として、放射線の測定をする。その上で、放射線を放出、出している放射能の特定等まで、考える必要があるのかどうかですね、そこまで考えておられるかどうか。その点、ちょっと私も十分な知識を持ちあわせておりませんので、非常に珍しい事業だとも思いますので、どのように市はお考えになって、この測定器購入に踏み切られたのかどうかですね。多少専門的になるのかもわかりませんが、常識の範囲内で御回答いただければと思います。

○議長（市川資信君）　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　それでは、委託料でございますけども、商品の安全確保及び適正化事業でございます。これにつきましては、現在チェルノブイリの原発事故がありましてから、商品、特に食品関係になってくると思いますけども、まあ放射能の汚染関係、それからそのほか食品の添加物もございます。またそれらの表示の問題、あるいはグラムの表示、それらが適正かどうか、これにつきまして、委員、15名を考えておりますけども、この方々たちにいわゆる資料収集、それから調査研究をしていただきまして、報告をしていただくという事業の委託でございます。

それから18の備品購入でございますけども、放射線測定器でございます。私、まあ専門家ではございませんけども、いわゆる放射能、それから放射線、これは違うものでございます。放射能といいますと、放射性核種の強さということでございますし、まあ放射線はそれから核種から出ている線の種類ということになろうかと思います。それで当市で考えている、私ども考えておりますこの測定器でございますけども、一般的、ポピュラーなものでございます。携帯のできるものでございますけども、これらについては、実際に――いわゆる先ほど申し上げましたけども、輸入食品に対する関心とか不安が高まってきておりますので、そういう状況にございます。しかし実際に使ってみて、使用してみることも、また必要ではないかということで、放射線、放射能についての勉強のきっかけになればと、このように考えております。

なおこの放射線の中で、測定の中で異常な数値が出れば、これについては専門の機関にお願いいたしまして、分析をお願いするということになるかと思います。そのような方向で市は考えているところでございます。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　もし仮にですね、市が今度購入する――放射能から出される放射線を測定して、ある一定量の数値を示すと、要するに危険ラインを表示をした、示す結果になったという場合には、それを市に、データを測定した人が提供をして、そして先ほど最初の説明がありました何か専門家の方15名で組織をする食品の安全確保、及び適正化事業の委託先であるその委員会かなにかにそれを持ち込むということでしょうか。

○議長（市川資信君）　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　特にそういう関連は考えておりませんけれども、一般の方が使ってみて、まあ異常な数値が出た場合には、先ほど申し上げましたけども、専門の機関にお願いをして分析をするというものでございます。

それからこの商品の安全確保適正化事業でございますけども、これは消費者団体の中から15名の委員さんにお願いをしたいということで考えております。したがって、この

中で先ほど放射能の測定、あるいはこの中で出てきた、測定した中で出てきた異常な数値のデータといいますか、それらについて必要があれば今後十分に考えなきゃいけないと思いますけども、公表なり何か対応を考えたい、このように考えております。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　このことにつきましては、昨年の議会であったでしょうか、日野市で放射線の測定器を買って、食品安全の行政に資する必要があるという提言も聞いております。そしてまたこのたび、先ほどの議会で食品安全について、請願採択が行われております。そのことを速やかにおこたえをする意味もありまして、その測定器を備品として設置し、まあ食品安全運動の方々に、依頼をする形で測定もやっていただく。結論は要するに安全であるということがはっきり公表できれば、一番幸いであります。何か多少でも問題があるということでありますならば、東京都の保健所なり、あるいは厚生省の当局に問い合わせて、そして日野市の市民の食品の安全をなるべく確保していくと、こういうことの一つの端緒にすることがこの時期だとこういう判断でございます。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　ちょっと特にこうした専門の方というのはいらっしゃらないのかもわかりません、職員の中に。食料品が安全かどうかというのは、放射線の量を測定をすれば確認できるのかですね。放射能の強さを測定すれば、判断できるのか。そこのところは専門的にどうなんでしょうか。放射線測定器では放射能の強さは測定できないと思うんですが、その点は特段必要ないのかどうかですね。せっかくお金をかけて、こうした機材を購入するわけですので、ある程度お調べになったと思うんですが、ちょっと教えていただきたいと思うんです。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　すべての安全基準には一定の数値があります。その数値を超えると、まあ警戒だということになるわけでありますし、その数値に到達しなければ、一応安全という判断になるわけでありますから、やっぱり測定の意味はあると思っております。そしてまた消費者運動にこたえるには、確かに不安全だということの言い方も出るわけでありますけど、一般的にはそう不安全というのはざらにはない、ということをやっぱり数値の上で立証する必要がある。それが私は今日の安全運動の内容ではないかと思いますし、もし、数値以上のものが出るとすれば、これはやっぱり当局に質問をしていく、あるいは警戒ということで、何らかの措置をやっていくと、こういうことの判断の材料は消費者運動の本来のあるべき姿だ、それには十分また尊重する必要がある

というようなことの判断でございます。専門家は、その道にいずれいらっしゃいますから、もし危険だということであれば、十分その原因なり、状況なりの判断を追及をしなきゃなりませんし、市民にもよく知っていただくという必要があろうかと思っております。

○議長（市川資信君）　中山基昭君。

○21番（中山基昭君）　歳入との関連の中で、お聞きをしておきたいわけですけども、実は前回市税の補正が大変景気回復等も含めて、空前の大幅な増収等の中で補正がなされた。こういう経過がございます。そういう面ではさらに市税等の増収が見込まれるんじゃないかというふうな感じをしております。まず今回特に市税等についての補正はございませんけども、この資金の有効活用、こういう面からは増収が見込まれるならば、積極的な補正等の中でこれらの活用という点も、まあ考えてよろしいんじゃないかというふうな感じもしております。したがいまして、これからの市税の増高はどのように見込まれるか、あるいは今回特に市税等の補正がないよと、この辺についてはどのような考え方で特に補正をなされないのか、この点についてひとつお伺いしておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　市民部長。

○市民部長（大貫松雄君）　市税の補正の件でございますけれども、今回の12月の定例会にはしてございませんけども、まだはっきりした数値はございませんけども、３月に補正を、市税の精査した中の補正をいたす。金額はですからこの時点ではまだはっきりいたしませんけども、３月に補正をするような今の計画ではございます。

○議長（市川資信君）　中山基昭君。

○21番（中山基昭君）　先ほど触れました、前回大変景気回復等含めて、大幅な補正があったということですね、今明確でありませんけども、この３月に最終の調整をした中の補正をしたい、こういうことですけども、当然私はふえるんじゃないかというふうな感じで受けとめておるところですね。ふえるならば、あえてできるだけ早く、やはりまだ補正をしてもらいたい施策なり、あるいは事業もたくさんあるわけですから、こういう中に活用するようにしたら、もっと積極補正になるんじゃないか、こういう意味合いを含めて、指摘しているわけです。

○議長（市川資信君）　市民部長。

○市民部長（大貫松雄君）　確かにこの３月に補正を、財源を満たすというのは、年度の関係もございますけども、ここでやはり特に法人関係ですね。各決算もここでかなり

出まして、最終的にはっきりします。それでやはり増額の補正予算をされるということでございます。

○議長（市川資信君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第105号、昭和63年度日野市一般会計補正予算（第３号）の件は、歳入全般及び歳出のうち議会費，総務費、第２表債務負担行為補正を総務委員会へ、歳出のうち民生費、衛生費、労働費を厚生委員会へ、歳出のうち農業費、商工費、土木費を建設委員会へ、歳出のうち教育費を文教委員会へ、それぞれ付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、それぞれの委員会へ付託いたします。

お諮りいたします。議事の都合により、暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後３時40分　休憩

午後４時18分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

これより議案第106号、昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第106号、昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算第１号について、提案理由を申し上げます。

本議案は昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算第１号であります。補正額は歳入歳出それぞれ2,194万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を41億7,049万6,000円とするものであります。

詳細につきましては担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　関係部長から詳細説明を求めます。市民部長。

○市民部長（大貫松雄君）　それでは議案第106号の昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算第１号の御説明を申し上げます。

まず特別会計補正予算書の６、７ページから御説明をいたします。今回補正予算をお願いする内容といたしまして、歳入、それから次のページの歳出、これが関連がございまして、特に高額な医療給付の発生によりまして、市町村国保の財政運営が圧迫されてございます。その緩和を図るために、ことしの６月に国民健康保険制度の改革がされまして、都道府県も参画して医療費の地域差問題と、国と地方が一体となって、取り組むという一種の共済事業を発足させたものでございます。

歳入の中の１目の共同事業交付金、2,194万8,000円は、次のページの８、９ページにございます高額医療費共同事業医療費拠出金に伴うものの、都からの交付金でございます。次の８、９ページ、ただいま申し上げましたように、高額医療費の共同事業を行うということで、実施主体は各都道府県の国保団体連合会にお願いをいたしますものでございまして、日野市の拠出分といたしまして1,201万円、これを拠出するものでございます。そのような内容の補正予算でございます。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第106号、昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）の件は厚生委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、厚生委員会に付託いたします。

これより議案第107号、昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算（第２号）、議案第108号、昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算（第３号）の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第107号、昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計

補正予算（第２号）について、提案理由を申し上げます。

本議案は昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算第２号であります。補正額は歳入歳出それぞれ、５億8,029万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を49億9,808万1,000円とするものであります。

議案第108号、昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算第３号について。本議案は、昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算第３号であります。歳入歳出予算の総額に変更ありませんが、歳出予算の下水道費に2,961万円を追加し、同額を都市下水路費から減額するものであります。

以上、２議案の詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　関係部長から詳細説明を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　それでは議案第107号、昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算第２号につきまして、御説明申し上げます。

13ページでございますが、ただいま市長から説明をしたとおりでございますので、このページにつきましては、省略をいたします。

それでは18、19ページをお開きをいただきたいと思います。歳入でございますが、国庫負担金でございます。説明欄にございますように、都市計画道路1・3・1号線に係る公共施設管理者負担金でございます。当初予算につきましては、３億2,000万円の計上でありましたが、用地費、補償費、事務費等の増によりまして、１億8,050万円を増額補正をするものでございます。

それから次は20、21ページでございます。繰入金でございますが、豊田南区画整理費繰入金でございます。３億5,127万3,000円の増額補正でございます。トータルいたしますと、総額で13億8,822万4,000円になるわけでございます。

次が22、23ページでございます。諸収入でございます。日野高校グランド用地負担金でございます。これは日野高校の用地が狭いということで、中央自動車道の近くに農水省の、いわゆる蚕糸試験場の桑園があったわけでございます。この国有地を飛び換地をいたしまして、高校用地に接続をさせるというものでございます。飛び換地をしたために、既存の宅地が６戸移転をすることになりましたので、この移転の費用、4,852万3,000円を東京都から受け入れるというものでございます。換地後の面積でございますけれども、8,610平方メートルでございます。

次が歳出でございます、24、25ページでございます。万願寺区画整理費でございます

が、そのうち事業費でございます。13の委託料の9,000万円でございますが、これは新都市建設公社に事業の委託をしております。その追加分でございます。当初予算とあわせますと、総額で６億5,434万8,000円になります。

それから14節、使用料及び賃借料でございます。これは事業の増に伴いまして土地の新規借り入れでございます。それから次の19、負担金、補助及び交付金でございます。これは万願寺地区内の水道の負担金を東京都に負担をいたしまして、施行してもらっているわけでございます。これは延長の増と、消火栓の増に伴う増額でございます。次が22節の補償、補塡及び賠償金でございます。これはここに書いてございますように、建物の移転補償費、その他の費用でございます。

次が26、27ページでございます。高幡区画整理費でございます。説明欄に「調査設計負担金」とございますが、これは記載のとおりでございます。それから事業費の13節、委託料でございます。この委託料につきましては、高幡の土地区画整理事業につきましては、直接東京都の負担金が新都市建設公社の方に負担をされまして、市が負担すべきお金につきましては、市の方から公社の方に負担金として、委託料として、負担をするわけでございます。したがって都の交付金がふえましたので、総事業費は変わりませんので、市の負担分が減少したということで、2,140万円の減額補正ということになるわけでございます。それから19節の負担金、補助及び交付金でございますが、高幡地区内の水道整備に伴う負担金でございます。これは追加分でございます。

次が28、29ページでございます。豊田南区画整理費でございます。公有財産購入費でございますが、区画整理事業用地の先買いといたしまして、ここに記載してございますように666.68平方メートルの用地を取得するものでございます。

次が30、31ページは予備費でございます。区画整理事業会計につきましては、以上でございます。

次が議案第108号、昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算第３号でございます。これは市長から説明がありましたように、歳入につきましては従前どおりでございまして、歳出における増減の補正ということでございます。

それでは40、41ページをお開きをいただきたいと思います。下水道総務費の13節、委託料でございます。下水道使用料収納ということで、これは下水道料金を上水の使用料と一緒に徴収をしておりまして、市の受託水道事業特別会計の方に支払い使用料の徴収をしている、その事務費の追加分でございます。

42、43ページでございます。19節の負担金、補助及び交付金でございます。この内容

でございますが、浅川処理区、それから秋川処理区の中で、八王子に近接したところの区域の汚水を、八王子市の汚水管で取らざるを得ない、そういう地形があるわけでございます。その市が、日野市分を八王子市の汚水管に放流するわけでございますので、そのふえた分の建設費を市が負担をするというものでございます。2,500万円の追加でございます。

次が44、45ページでございます。都市下水路費でございます。まず最初に委託料でございますが、日野本町六丁目７番地先排水管実施設計でございます。これは２・２・10号線の道路工事を東京都が現在しております。それでこの周辺の雨水を排除するために、歩道に市の排水管を設置する予定でございます。その設計費でございます。延長にいたしまして約300メートルでございます。この事業につきましては、一部排水管の実施も63年度に実施する、実施すると同時に残るものにつきましては、64年度に施行する、そういう計画でございます。次の22節、補償、補塡及び賠償金でございますが、これは執行残でございます。減額補正でございます。下水道につきましては、以上でございます。よろしく御審議のほどお願いをいたします。

それから大変失礼をいたしました。区画整理の予算で26、27ページでございます。ちょっと説明、飛ばしましたけれども、19節の640万円の調査設計負担金とございます。これは高幡土地区画整理事業の経過をちょっと説明申し上げますと、保健所の裏から東の部分にかけまして、七生東部土地区画整理組合という団体ができまして、組合施行の準備をしてきたわけでございます。一部権利者の同意が得られないということで、この事業が頓挫をしてしまった、ということでございます。その後金田土地区画整理事業の事業化、それから保健所の裏の一部につきましては、組合施行で高幡土地区画整理組合の準備会の設立、こういった経過がありまして、市が事業の引き継ぎをしたわけでございます。そこで七生東部の区画整理組合の中で、調査、それから設計等に直接的に支出した費用が約1,880万円ばかりあるわけでございます。この費用につきまして、これは借入金でやっておりまして、金田土地区画整理組合が全額を負担をしたということでございます。この負担に際しては、金田土地区画整理組合は4.4ヘクタールの中で、この七生東部の清算をしたわけでございまして、この負担の処理を今後どうするかということで、懸案になっていたわけでございます。高幡区画整理組合の準備会が設立され、これを市施行に移行した経過、それから七生東部でつくりました調査、測量等の経費、こういったものを、市が区画整理事業の中で、資料を引き継いでおるわけでございます。したがって、1,882万5,000円でございますけれども、このうち保健所の裏の区域が市施行が12.4

ヘクタールでございます。この12.4ヘクタールに相当する金額、640万円を市が金田土地区画整理組合の方に支払うという内容でございます。大変前後いたしまして、失礼いたしました。以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　数字のことでお尋ねするわけじゃないんですが、下水道事業計画の進捗状況について、市民の方から、何回か聞かれますし、そのたびに下水道課の方で詳しい資料をいただきまして説明することもあるんですが、つい先日日野台の方へちょっと行きましたらば、今、日野市の方で、下水道の進捗状況の説明会をしている、お昼にはお弁当が出て行われているということで、資料を、ちょっとそこで配られた資料を見させていただいたんですが、その人の話ですと東京都の北多摩何区というんですかね、目の前の昭島の処理場ですが、そういうところも見学をしながら、日野市においてどのように下水道事業が進捗状況にあるかということを説明されているという話がありまして、私、おやっと思ったんですが、というのは、まずそういう下水道事業の進捗についての話を市の方で、これから当分まだないであろう地域についての方、町会の方、自治会の役員の方に説明をされている機会ということは、私、初めて聞いたものですから、これはまあ賛否両論あるところですが、私は基本的にはまあ賛成なわけですが、この説明会というのは、これから日野市全域にわたって行われている事業計画なのかどうかですね。そういうふうな順序にいるのかどうか。で、どこが担当されているのか。特に日野台の方では、ちょうど一番おそくなる時期に入るような地域の方々でして、で、市の方の説明ですと、浅川右岸の方が――ちょっと正確でありませんが、六、七年かかります。で、なるべくそれを早めて、浅川左岸の方へ入っていきたいんだ、こういうお話を聞いたんだけれども、一体うちの方はどの程度なんだろうかという話もあったわけです。その辺、当初の予算委員会のとき、そういうふうな事業も起こすなんということは聞いていませんでしたし、これからも地域を分けて、そういうふうな説明会をして、昼食をごちそうして、各処理場の施設を回ってお帰りいただく、日野市の認識をしていただく、この事業はどの辺まで続くのか。その辺の見通し、それから市民の方の反応をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（市川資信君）　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　夏井議員さんのおっしゃられました説明会といいますのは、私ども生活課が所管しております自治会の役員の方を集めまして、自治会の見学会ということでございます。七生地区、それから日野地区と分かれまして、今回は下水

道関係のお話を下水道の方に午前中お話をしていただきまして、午後は昭島の処理施設を見学していただいた、ということでございます。

この経過でございますけども、市内の施設、まあ下水道、それからごみの関係、こういった施設を年次交代といいますか、そういう形で市内の状況を知ってもらうということで、私どもの方で計画しているものでございます。

○議長（市川資信君）　夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　ちょっと私のとらえ方が間違ったかもしれませんが、もう少し確認したいんですけども、そうしますと、各自治会、日野市の中に自治会、いろいろございますけども、今回のテーマとしては、自治会の研修として下水道のことについて勉強しようではないかと、そういうことであればそういうふうな担当の方に来ていただいて説明を受けよう、こういうふうなことの場面の、一場面として今回は下水道事業についての勉強会をしようという、そういう一連の話の中の一分野に過ぎないというふうに理解していいかどうかということと、あともう一つは日野市の方で積極的に下水道事業について、広報宣伝活動のためにやるというのとはちょっと違うというふうにとっていいかどうかということですね。あともう一つは、出られた方の認識が違うのかもしれませんけれども、まあお弁当の話なんですけども、これは自治会といいますか、町会といいますか、そういうふうな各種団体の方の自主的な費用として出された費用というふうに理解していいのかどうか。その辺、ちょっと確認の意味でお尋ねします。

○議長（市川資信君）　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　今回は自治会の方、各自治会から３名ないし４名の方に来ていただきまして、施設の見学会だということで催しをいたしました。今回は下水道について勉強会という形で、企画をいたしました。なお、昼食でございますけども、日ごろ自治会には大変御協力をいただいておりますので、この機会にやはり昼食は私の方で負担をいたした、こういう経過でございます。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　予算計上は多分、自治会見学会という事業名になっております。そうして市内の自治会が約220ほどあるわけでありますが、浅川を境にして南の地域、北の地域、こういう分け方で自治会の、まあ会長というのが本来の資格ですが、会長が御都合のよくないときには他の役員ということで、もう古くからやっておる自治会見学会のことだということが、今感じておりまして、つまりことしのテーマに下水道という問題を選んだ。日野市はこれから先、こういう経過を経て、地域、地域に下水が普

及してまいります、ということを認識をしていただくための事業、こういうことでございまして、もうちょっと古く、前、以前から管外にまで、研修の機会が延びておりましたけど、私はなるべく市内で、日帰りの範囲でやっていただこうという趣旨で行っておるものでございます。まあ市民に、日野市内の行政事情を会長さんを通じて、勉強していただく、こういう機会のわけでございまして、下水道当局が自分の事業のＰＲにやっておるという性格ではございません。自治会担当の部局が、自治会長さんに集まっていただいて研修会を開いた、こういう性格でございます。

○議長（市川資信君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本２件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第107号、昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算（第２号）、議案第108号、昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算（第３号）の件は建設委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、建設委員会に付託いたします。

お諮りいたします。議事の都合により、あらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって会議時間を延長することに決しました。

これより議案第109号、昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算（第２号）、議案第110号、昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算（第２号）の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第109号、昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算第２号について、提案理由を申し上げます。

本議案は、昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算第２号であります。補正予定額は収益的収入及び支出に4,885万9,000円を追加し、収益的収支及び資本的収支の予定額を26億4,553万4,000円とするものであります。

議案第110号、昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算第２号について。本議案は昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算第２号であります。補正額は歳入歳出それぞれ2,282万9,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を17億1,152万7,000円とするものであります。以上２議案の詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　関係部長から詳細説明を求めます。病院事務長。

○病院事務長（大崎茂男君）　それでは議案第109号、昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算第２号について、御説明申し上げます。

47ページの第２条の関係でございますが、収益的収入及び支出でございます。収入におきましては、医業収益の伸びを4,075万9,000円と見込み、また医業外収益では、東京都の補助金810万円を補正するものでございます。

支出におきましては、材料費、その他経費に一部不足を来しておりますので、4,885万9,000円を補正いたしまして、予算総額を25億3,505万円とするものでございます。

50、51ページをお開きいただきたいと存じます。収入でございますが、医業収益のうち、外来収益が伸びておりますので、外来患者１人、１日当たりの収入を5,570円として、合計4,075万9,000円を補正するものであります。また医業外収益におきましては、東京都の補助金でございますが、市町村公立病院運営費の補助金が１ベット当たり５万円アップとなりましたので、162床分、810万円を補正するものでございます。

次に支出でございますが、補正額4,885万9,000円の内訳です。まず薬品費に不足を来しておりますので、4,200万9,000円を補正するものでございます。薬品は主に検査関係の試薬でございます。それから修繕費に400万計上してございますが、これはＣＴというＸ線撮影装置の管球、球切れによりまして、これを取りかえるという費用の相当額でございます。また雑費の285万円につきましては、引き続き看護職員の確保が難しいために、募集広告をさらに続けていくための追加をお願いするものでございます。以上よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　水道部長。

○水道部長（橋本栄萬君）　それでは議案第110号の昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算第２号につきまして、御説明申し上げます。補正予算説明書の57ページ

をお開き願いたいと思います。歳入歳出予算それぞれ2,282万9,000円を追加いたしまして、歳入歳出予算の総額それぞれ17億1,152万7,000としようとするものでございます。次に歳入について、御説明いたします。58、59ページをお開き願いたいと思います。目の１の水道事業委託金でございますが、補正額は1,942万円です。これは歳出に見合う金額を都の委託金として来るものでございます。

次に60、61ページをお開き願います。下水道使用料の徴収事務委託金でございます。これは東京都水道局で下水道使用料の徴収経費の対象経費の中の負担率が変更になりまして、340万9,000円を追加するものでございます。

次に歳出について御説明いたします。62、63ページをお開き願います。目の１浄水費でございます。2,583万1,000円の減額でございます。11の需用費の動力費でございますが、1,100万円の減額でございます。これは多摩平給水場と三沢浄水場の工事に伴いまして、水源12本を運転を停止をいたしました。それと南平配水場と、大坂上浄水場の配水量が天候、その他によりまして減少になり、電気量の使用量が減になったという理由でございます。15の工事請負費の導水管の移設でございます。1,600万の減額でございます。下水道関連工事の導水管の移設費を当初予算に計上しておりましたが、一部工事が中止になりまして、減になったということでございます。次の目の２の配水費でございます。6,623万5,000円の増額でございます。11の需用費の動力費でございますが、600万円の減額です。これは多摩平と旭が丘の給水場と三沢の浄水場の配水量が先ほどと同じように、天候等によりまして、減少になったということで、電気使用量が減になったということでございます。15の工事請負費の配水管移設費ですけれど、これは万願寺と高幡区画整理地内の配水管の移設費が当初計画より延長が増になったということで、7,147万5,000円を追加するものでございます。目の３の給水費191万4,000円の増額と、目の４の受託事業費の87万3,000円の増額でございますけど、それぞれ職員の人事異動によるものでございます。

次に64、65ページをお開き願いたいと思います。目の５の業務費です。313万8,000円の増額でございます。12の役務費については、手数料の口座振り替えの件数が増になったということで、125万円を追加するものでございます。

次に66、67ページをお開き願いたいと思います。目の１の水道改良費でございます。2,350万円の減額でございます。15の工事請負費の配水管新設及び消火栓の設置でございますけど、これは万願寺と高幡と下耕地等の区画整理地内の配水管の新設でございます。この延長が増になったために、1,863万9,000円の追加をするものでございます。次

に浄水施設費の改良費でございます。4,200万円の減額でございます。これは三沢浄水場内の自家発電機の設置を計上しておりましたけど、東京都の協議の中で一時中止をするということになりましたもので、この減額でございます。以上で説明を終わります、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本２件について、御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第109号、昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算（第２号）、議案第110号、昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算（第２号）の件は厚生委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、厚生委員会に付託いたします。

これより議案第111号、昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算（第１号）の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第111号、昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算第１号について、提案理由を申し上げます。

本議案は、昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算第１号であります。補正予定額は収益的収入及び支出に94万6,000円を追加し、収益的収入及び支出の予定額を2,475万3,000円とするものであります。

詳細につきましては、担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　関係部長から詳細説明を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　それでは議案第111号、昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算第１号につきまして、御説明申し上げます。

今回の補正は、昭和63年度日野市農業共済事業特別会計実施計画のうち、その一部に計数等の変更が生じましたので、補正予算としてお願いをするものでございます。補正内容は農作物共済勘定、園芸施設共済勘定、それから業務勘定についてでございます。

74ページをお開きいただきたいと存じます。まず農作物共済勘定の収入でございますけども、今回の補正は農作物共済無事戻金交付額の決定に伴うものと、事業推進に伴う計数整理の補正でございます。目の３でございます。農作物責任準備金戻入につきましては、２年度にまたがる麦の責任準備金額が確定いたしましたので、減額するものでございます。目の４、法定積立戻入でございますけども、これは共済金支払いの財源確保のため、補正をお願いするものでございます。それから目の５、農作物特別積立金戻入は、無事戻金の財源確保のために、水稲、それから陸稲、麦、それぞれの補正をお願いするものでございます。それから目の６でございます。農作物連合会特別交付金でございます。これは無事戻金支払いのために、連合会から支払えるものでございますが、額の確定によりまして、補正をお願いするものでございます。

隣の75ページをごらんいただきたいと存じます。支出でございます。目の２、農作物共済金でございますけども、虫害、それから干害等の事故による共済金として支払われるものでございますが、当初の見込みより、事故が少なかったことによる減額でございます。それから目の３、農作物無事戻金でございますが、これは昭和60年度から、昭和62年度の３カ年に事故により共済金を受けなかった方等に交付するもので、その額の確定による補正でございます。項の２、予備費でございますけども、これにつきましては計数整理のための補正でございます。

次に76、77ページをお開きいただきたいと存じます。これは園芸施設共済勘定でございますが、こちらも農作物共済勘定と同様、無事戻金交付額の決定に、確定に伴う補正でございます。

次は78、79ページでございますけども、業務勘定でございます。業務勘定の収入でございますけども、目の１、受取補助金でございます。このうち、国、都、支出金の増につきましては、額の決定によるものでございます。それから目の２の事務費賦課金でございます。これの減につきましては、農作物の引き受けの減少に伴うものでございます。それから目の４の雑収入でございます。この増につきましては、農業共済事業普及推進費として、連合会より交付が確定したことによるものでございます。また事業外収益の目の２でございます。業務引当金戻入につきましては、昭和62年度の業務引当金が決算により確定したことによりますものでございます。

隣の79ページでございます。業務勘定の支出でございますけども、目の１、９の旅費でございます。それから14の使用料及び賃借料並びに目の４の損害評価費の旅費でございますけども、これは日野市農業共済事業が昭和64年度に合併することによりまして、

現在の運営委員会委員及び損害評価会委員さんの任期が今年度限りとなりますために、来年度に予定しておりました研修を本年度に実施したいということで、補正をお願いするものでございます。

以上雑駁でございますけども、補正の説明を終わります。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第111号、昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算（第１号）の件は、建設委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、建設委員会に付託いたします。

これより議案第112号、昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算（第１号）の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第112号、昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算第１号について、提案理由を申し上げます。

本議案は、昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算第１号であります。補正額は歳入歳出それぞれ4,211万4,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を40億2,836万8,000円とするものであります。

詳細につきましては担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　関係部長から詳細説明を求めます。福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　それでは、日野市老人保健特別会計補正予算の御説明を申し上げます。

86、87ページをお開き願いたいと思います。今回の補正は支払い金の交付金の中で、過年度分としまして、昭和62年度精算交付金が確定いたしましたので、補正をするものでございます。731万8,000円を計上しております。

次に88、89ページでございますが、東京都の支出金のうち、過年度分でございますけ

ども、昭和62年度の精算負担金といたしまして、23万4,000円、これを歳入として、精算として東京都からもらうわけでございます。

それから90、91ページでございますが、繰越金でございます。ここに掲げましたのは、昭和62年度の決算によりまして、繰越金が確定いたしましたので、3,456万2,000円を翌年度に繰り越すものでございます。

次に歳出でございますが、92、93ページをお開き願いたいと思います。諸支出金でございます。そのうちの償還金でございます。これは昭和62年度の国庫負担金が、超過に交付されておりますので、返還をするものでございます。148万7,000円でございます。

次に94、95ページでございます。諸支出金のうち、繰出金でございますが、一般会計への繰出金でございます。昭和62年度の精算金といたしまして、一般会計へ4,062万7,000円を繰り出すものでございます。以上でございます。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第112号、昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算（第１号）の件は、厚生委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、厚生委員会に付託いたします。

これより議案第113号、市道路線の認定、議案第114号、土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結、議案第115号、農業共済無事戻金の交付、議案第116号、南多摩農業共済事務組合の設立の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長　登壇〕

○市長（森田喜美男君）　議案第113号、市道路線の認定について、提案理由を申し上げます。

本議案は財産管理区分が明確になった日野94号線並びに寄付手続きが完了した日野95

号線を道路法第８条第２項の規定に基づき、道路認定をするものであります。

議案第114号、土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結について。本議案は日野市日野台五丁目24番地の土地所有権確認等請求事件にかかわる相手方との和解について、地方自治法第96条第１項第12号の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

議案第115号、農業共済無事戻金の交付について。本議案は日野市農業共済条例第36条第１項及び第88条の23第１項の規定に基づく無事戻金の交付で、昭和60年度から、昭和62年度の３カ年にわたり、農作物等に被害がなかった共済加入者に支払うものであります。

議案第116号、南多摩農業共済事務組合の設立について。本議案は地方自治法第284条第１項の規定に基づき、農業共済事業の事務を共同に処理するため、南多摩農業共済事務組合を設立するものであります。なお、組合を組織する地方公共団体は八王子市、町田市、日野市及び稲城市であります。

以上４議案の詳細につきましては、それぞれ担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　関係部長から詳細説明を求めます。建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　議案113号、市道路線の認定についてでございます。このたび認定をしていただきたいのが２本ございます。１本が日野の94号線、起点は日野本町七丁目３番13、終点が日野本町の七丁目５番18、延長が130メートルで、幅員が４メートルから5.5メートルございます。その図面につきましては、２ページにございますので、御参照いただければ幸いかと存じます。中央福祉センターと中央公民館の旧一中跡地のところでございます。これにつきまして、敷地――私有地と市の土地との境界が明確になりましたので、ここに認定をお願いしようとするものでございます。

次に２番目といたしましては、日野の95号線でございます。起点及び終点は記載のとおりでございまして、延長が78メートル、幅員４メートルでございます。３ページを――略図がございますので、御参照していただければ、幸いかと存じます。これにつきましては寄付でございまして、寄付なされた方が古谷太一様でございます。用地としては7773番の８と204、この両方の土地の寄付をいただいて、道路の認定をお願いするものでございます。

それから議案114号でございます。土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結についてでございます。件名といたしましては、１ページのところでございますけれども、

「土地所有権確認等請求事件」俗に言っているところの市道松山線の件でございます。その市道松山線につきましては、けさ、松山線の図面をお配りして、案内図がございますので、御参照いただければ、幸いだと存じます。

係争地の表示は日野市日野台五丁目24番地でございます。地目といたしましては山林、地積が1,200平方メートル、和解の相手方、横浜市港南区下永谷町574番地、浅賀ミチ子、敬称は略させていただきます。

和解の金額が3,400万円でございます。今までの和解に至った、この件につきましての概要が２ページにございます。それ、ちょっと朗読させていただきますと、「本件係争地の所在は、日野市日野台五丁目24番地の土地であって、松山２号線として昭和26年９月作成の日野町道路網図に記載され管理してきた道路である。

昭和56年12月４日付けで八王子簡易裁判所に浅賀ミチ子より調停申立が提出され、昭和57年３月１日の第１回から同年10月４日の第７回まで調停期日が設けられた。この中で日野市は自らの所有権を主張し、一方申立人は更地価格での買取りを要求して譲らなかったため、調停は不成立となり、浅賀ミチ子は、昭和57年10月25日東京地方裁判所八王子支部に訴の提起をし、昭和58年２月７日の第１回から昭和60年11月８日の第12回までの間、口頭弁論が開かれ、この間証人としてそれぞれの関係人が証言をした。また昭和58年11月28日の第１回から昭和60年６月11日の第11回まで訴訟上の和解のため交渉期日が設けられたが成立に至らなかった。その後昭和61年２月12日判決の言渡しがあり被告（日野市）の全面勝訴となった。」わけでございます。

「これを不服とする原告（浅賀）は、昭和61年２月27日付けで控訴を提起し、昭和61年６月24日の第１回から昭和62年２月19日の第７回まで口頭弁論が開かれ、この間控訴人側から証言をし、その後、東京高等裁判所より本件は和解により解決するように勧告がなされ、昭和62年３月18日の第１回から昭和63年10月25日の第14回まで当事者双方で協議した結果、別紙和解条項（案）のとおり合意をみた。」わけでございます。

「和解条項（案）」でございますけれども、ここに記載してありますとおり、八つの条項から成り立っております。内容は記載のとおりでございます。なおこの中で、根抵当権、それから抵当権の設定等などなされておりますが、これが５ページ、６ページとございます。11物件、抵当権等がございますが、これ等全部抹消していただきまして、市の所有ということ、正式に3,400――その登記を完了していただいたならば、3,400万円を支払い、ここで和解に持っていきたいということでございまして、なおこの裁判に携わっていただきました栗山先生、それから稲山先生、両弁護士から、上申書が提出さ

れております。これをけさ御配付いたしましたところでございますけれども、このような上申書もございまして――ここでちょっと触れておきたいんでございますけれども、ちょっと開きまして、単に「当職らの判断」とございます。「一審判決において勝訴判決を得ているものの、前述した裁判官の意見のなかには、市としても厳しく受けとめるべきところがあると判断いたします。しかしながら、市の立場として和解金としては浅賀が出捐した1,085万円にこれに対する利息相当分を加算した合計金2,387万円あたりが相当であると思料し」、これ計算いたしますと、5.5%年利ぐらいで計算されております。「この立場を堅持してきました。ところが、この数字では浅賀の主張と平行線をたどるばかりであり、解決の見通しはつかないことが明らかとなった結果、裁判官が3,400万円を勧告しました。

この勧告された額の当否を検討するために本件道路敷の鑑定評価額を算出してもらったところ、道路敷であることの減価率90%（すなわち10%の値打ちよりないということでございまして）を前提として、5,760万円との数値を得ました。」これは平方メートル当たり48万円で計算してございます。「これに照らして勧告された和解額が標準地価格の5.9%に相当する額にあたり、当職らは、まずは妥当な額ではないかと思料するに至りました。前述した裁判所の見解と今後における登記関係の整理に鑑みると、この段階で裁判所の勧告を受け入れることが、大局的見地から相当と判断せざるを得ません。よって上申の趣旨のとおり上申いたします。」ということでございます。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　　それでは議案第115号、農業共済無事戻金の交付について御説明申し上げます。

これにつきましては、昭和60年度から昭和62年度までの３年の間、農作物共済及び園芸施設共済の加入者で被害が全くなく、過去２年間掛け戻し金が支払われなかった加入者に対しまして、支払い合計共済金の２分の１を限度といたしまして、交付を行うものでございます。また被害が発生したことによりまして、共済金の支払われた方と、あるいは過去２年間に無事戻金が支払われた人に対しては、その合計金額が共済掛金合計金額の２分の１に達していない場合は、その満たなかった額を無事戻金といたしまして、交付するものでございます。

対象農家は農作物共済が223戸、園芸施設共済が17戸でございます。交付金額は農作物共済が39万7,746円、園芸施設共済が４万7,146円となっております。

続きまして議案第116号でございます、南多摩農業共済事務組合の設立についてでございます。この設立につきましては、議案の96号で企画財政部長の方から、御説明をいたしましたけども、都市化の進展に伴いまして、共済資源が減少しております。したがってその事務量が毎年縮小しつつありますので、南多摩管内の八王子市、町田市、日野市、稲城市の４市の農業共済事業を併合いたしまして、一部事務組合を設立するものでございます。

２ページでございますけども、南多摩農業共済事務組合の規約でございます。この規約につきまして御説明申し上げますと、４章、17条からなる規約でございます。１章につきましては４条でございます、組合の名称、それから組織をする地方公共団体、それから共同処理をする事務、それから事務所の位置等の条項になっております。事務所につきましては、八王子市下柚木の498番地に置くことになります。

それから２章は５条からなっております。組合議会の組織でございます。定数は８名ということで、各市それぞれ２名の委員さんをお願いすることになります。そのほか組合議員の選挙、それから任期、それから補欠選挙、議長及び副議長等の条項が入っております。

それから３章は組合の執行機関でございます。５条の規定になっております。これには管理者及び副管理者の規定、４ページ、５ページでございますけども、収入役の設置、それから選任、任期の規定がございます。それから監査員の設置、選任、任期等の条項がございます。

それから４章でございます。組合の経費でございます。これは３条からの規定になっております。経費の支弁方法、それから損失補てんの方法、それから会計の規定等でございます。

なお附則につきましては、この施行でございますけども、東京都知事の許可のあった日になっております。一応64年４月１日をめどにしてございます。以上で御説明を終わらせていただきますけども、96号議案で御質問ございました新しい組合の予算規模でございますけども、まあ石坂議員さん見えておりませんけども、説明いたしますと、４市でまだ深くは確定はしておりませんけども、約9,700万円台になろうかと思います。以上で終わらせていただきます。よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　　これより質疑に入ります。夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　　１点だけお聞きいたします。114号の議案なんですが、日野市の方では、3,400万円というお金について、どこかに請求するというんでしょうか、そ

の辺は何か考えていらっしゃるんでしょうか、もうそういうことは無理だということで、一切これで終わりというふうな報告になるんでしょうか。ちょっと一言だけお願いします。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　この件は大変長い経過を経た経過があるわけでございますが、当初、本来その市道としても現実に使われているという事情もありますし、また議会でも道路認定をしてもらったという経過があるものですから、なるべく――まあ勝訴はもちろん、こちらの負担をない状態で結果づけたいと、こう考えておりました。ところが、きょうの経過で御承知のとおり、土地の確認につきましては、これは全面勝訴となったわけでありますが、実質上の向こうにまた抵当権を設定したり、また買うとき、若干の出資もしているというふうな向こう側のまた再控訴がありまして、裁判所もいろいろ御判断の結果、この程度日野市は負担をして、和解という形で決着をつけるのが望ましい、こういう結論でございます。

今お話のございましたどこかに請求のできるという相手はないわけでありまして、今回の金額を議会の御理解によりまして認めていただき、決着をしたい、そして当該地の住民の方々もいろいろ心配をしておられますので、そういう形で結論をつけたいと考えております。

○議長（市川資信君）　　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本４件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

お諮りいたします。これをもって議案第113号、市道路線の認定、議案第114号、土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結、議案第115号、農業共済無事戻金の交付、議案第116号、南多摩農業共済事務組合の設立の件は建設委員会に付託いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認め、建設委員会に付託いたします。

これより請願第63－23号、沢川広場に便所および水道設備設置並びに広場拡張に関する請願、請願第63－24号、放射能測定器設置の請願、請願第63－25号、コミュニティセンター建設に関する請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

請願の要旨はお手元に配付しました印刷物のとおりです。請願第63－23号、請願第63－24号、請願第63－25号の常任委員会への付託は、会議規則第138条の規定により、議長において厚生委員会に付託いたします。

お諮りいたします。議事の都合により、暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後５時33分　休憩

午後６時３分　再開

○議長（市川資信君）　　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問１の１、市立病院内の「さやか学級」の存続と充実についての通告質問者、鈴木美奈子君の質問を許します。

〔20番議員　登壇〕

○20番（鈴木美奈子君）　　それではただいまから市立病院内の「さやか学級」の存続と充実についての質問を行います。

12月５日午後４時、「さやか学級」の移転に反対する父母・教師・医療従事者の会代表加藤節子さん外４名の方が、１万4,366名の署名をつけて、病院内学級「さやか学級」の市立第五小学校の移転に反対し、ふえ続ける心身症児童・生徒のためにも、「さやか学級」の充実を目指すという、そういう中身の陳情を行いました。

この署名はことしの７月の暑い時期から12月の今日の寒い冬の今日まで、約４カ月近く各団体や、また個人のところ、初めて署名をお願いする、こういう方たちも多かったと思います。そういう中で今陳情が出されたのは、１万4,366名ですけれども、陳情が出された後も、まだこの代表者のところに署名が寄せられてきております。いかに多くの市民の中でこの「さやか学級」の存続を求める、こういう声が大きいかということが、この署名の数にもあらわれているのではないかというふうに思います。

すでに私ども共産党の議員団の１人として、中谷議員が62年の６月17日の一般質問でも行ってまいりました。そのときの中身といたしましては、１年間の入級児童数、それから入級児童の病状がどうなっているか、そして３番目には、「さやか学級」の維持・効果、４番目は「さやか学級」の今後について、そして５番目には、同じような病院内

学級を全国にもあると伺っているけれども、どれぐらいであるかという、こういう５点の質問を行ったわけでございます。その中で、教育長は「日野市の一つの特徴として出てきておりますものをなくしてしまうという考え方は、教育委員会としては持っておりません」ということを答えております。市長の答弁は「病院の中に要求としてあります透析の医療行為、そしてまた人間ドック、こういうものを開きたい、こういうところでは「さやか学級」の施設が今管理上、治外法権的施設として使われているこのことがやはりかかわってくるのではないか」というふうな、こういう答弁があったわけでございます。

私はこの「さやか学級」ができましたときから、今日までずっといろいろと見てまいりましたが、この中で「さやか学級」に関係した先生方から、大変毎回、毎年とは言いませんけれども、「さやか学級」がまただめになりそうだという心配の声を幾度となく聞いたことがございます。今、移られました佐藤正身先生、この佐藤先生が最近この「さやか学級」に勤めたわけでございますけれども、この先生は本当に子供会も組織されている先生なもんですから、子供が大好きな先生で、「さやか学級」の中でも、病気に、不安に恐れを抱いている子供に、またあすも来ようという希望を持たせるために、明るい、楽しい学級づくりを考えた。そしてそこで子供と先生が遊び、手づくりのおもちゃをつくり、料理や、おやつづくり、散歩に行って、カエルやザリガニ取りなどをやったという、こういう普通の学校ではちょっと考えられないような、こういう教育をやってきたわけでございます。これが10年間の前般で、後半はこの５年間の「さやか」を守り育ててきた世間の人に、もっと「さやか」を知ってもらうことだということで、いろいろと訪問学級から、病弱児学級に格上げして、そして「さやか学級」ということになったわけでございますけれども、いつもこの存続するか、廃止になるかというそういう瀬戸際の中で、いろんな雑誌にも投稿したり、そしてまたいろんな団体にもお願いしたり、そして教育委員会にも存続のお願いしたりする中で、今日存続できたということが、この62年度発行の「かめの子」という「さやか学級」の子供たちの書いた作文だとか、あるいはまた先生方、病院の先生が書いた本にも書いてございます。

山の分教場のように医師、看護婦、教師が子供と心を通わせる、ぬくもりのある小さな学級の存在は大きいと、このように述べておられますが、私もたびたび「さやか学級」に行ってまいりますと、本当に中に入りますと、とてもこれが学校かしらというような思いをいたしますけれども、雑然とした中に、本当にこう温かいものを「さやか」の学級の中に見えるわけです。そして今その後引き受けられました土屋先生、女性の先生で

す。とても体格もよろしくて、おおらかな感じで、とっても病弱な子供たちが頼もしく感じられるようなそういう先生ですけれども、この先生が初めて「さやか学級」に入ったときのことを述べておられますが、「病院の北側一番奥の小さな教室を見たときには、山の分教場を思い起こしました。そしてまた始業式の数日前でしたけれども、入院中の子供たちの全く訪れない、しいんと静まりかえった教室の中で、そこに立って、一体どんな子供が来るだろうかと、胸をわくわくさせたというこういうことをおっしゃっております。そして４月６日、待ちに待った始業式には、さやかっ子と会ったのです。くりくり目で恥ずかしそうなみかちゃん、もとの学校に試験登校して、戻る準備中の百済君。ちょっと暗くて、元気のない渡辺君、何だか少なかったような気がいたします。ところが、新学期が始まりますと、心身症の子供たちが次から次へと入級してきました。何の準備もないままに、何人も子供とかかわることになりました。そしてその中で思うことは、この子供たちはちっとも、病児らしくない。とても明るくて、わんぱくだ。車いすや松葉づえがなければ、五小の子と全く変わらないじゃないか」と、こういうふうに思えたというふうにおっしゃっております。そして「さやか学級」がみんな大好きで、教室のあくのを待って、どかどかと入ってきて、剣玉やこま回しや、トランプやかるたや、お年玉、次から次へと遊び、そしてその中でも教育、こういうことで本当にエネルギッシュに子供たちがその中で学んでいることが報告されております。

そしてまたこの訪問学級、訪問客の多いということも一つの特徴だというふうに述べられておりますけれども、ここの「さやか学級」には、卒業した子供たちの親たちも訪ねてきて、その後のまた教育相談、そういうものにも、大変――卒業して行って、また戻っても、その「さやか学級」がお母さんたち、子供たちのよりどころとなっていることが、ここでもわかるわけでございます。私も見に行ってまいりましたときにも、本当にお顔の色もいいお子さんで、足が骨折したお子さんはギブスを巻いておりますので、病気かわかるんですけれども、あとのお子さんは本当に元気そうで、しっかりと土屋先生がお習字を教えていらっして、曽我先生が中学生の数学を教えていらっしゃるというそういう状況の中で、楽しそうな授業光景が見られたわけでございます。その中でも、古くからいらっしゃる、今中心になっておられる曽我先生が、この２年間でも「さやか」にもいろんな変化があって、学級の存続の問題と、教員の定数減の問題、そして存続は一応落ち着いたけれども、定数の方はついに講師が１名取り上げられてしまったということで、今２人の先生がやっております。そしてまた病院内の教室を借りているという、そういうことから、未解決な課題もたくさんあって、いつも「さやか」は外からと中か

らの嵐の中で、フラフラしているということが述べられておりますが、私はぜひそういう中でこの「さやか学級」が地域の中の子供たちだけでなくて、全国からも電話相談があるということ、私がお訪ねしたときも、ほかからも、清水からも電話が入ってましたし、先日は金沢からも電話が入ったということで、皆様方もお読みになったと思いますけれども、「さやか学級」に関係している学校の先生や、看護婦さんたちが書きました、この「小児心身症不登校のカルテ」というこういう本が大変多くの、全国的に今読まれておりまして、これを読んだお子さん自身が、中学生ですけれども、こういう学校だったら僕も行ってみたいと言って、そして「さやか学級」に入ったというこういう実践例もあるわけですから、私は中と外で、本当にゆらゆらと揺れ動かすのではなくて、安心して授業が受けられるように、それはやはりこの市とそれから病院、この二つのところでしっかりと、確信を持った教育ができるような、そういう方針を立てるのが、皆さんを安心して教育実践にも励んでいただくこともできますし、また子供たちが安心して学校に通える、こういう状況にあるのではないかというふうに思います。

心身症の症状で入院、入級している子供たち、57年から62年の12月まで、51名、こんなに今たくさんの子供たちが心因性の病状でこの「さやか」に学んでいるわけです。そして大変これが多くなってきております。「さやか学級」といいますと、どうしても最初がぜんそくから出発した学級ですから、ぜんそくの子供たちが最優先というような見方が私はあるんではないかというふうに思います。ところが、現在ではもう子供たちの病気の症状が変わってきております。ぜんそくの子供もおりますけれども、そのほかいろいろと心因性のかかわっている子供たちの病気、その子供たちの「さやか」への入級も多いわけですから、そういう考え方も改めていく必要があるんではないかというふうに思います。

そういう点から、今より６点について質問をいたします。１点目は題にございます市立病院の「さやか学級」を存続させよという問題でございます。これは先ほど述べましたように、どうしてもこれは全国的にも評価され、そして50年の４月森田喜美男市長の手によって、革新市政だからこそ、こういう弱い立場の子供たちに手を差しのべて、そして子供たちの教育権を保障した、この「さやか学級」を必ず私は存続させていかなければならないと思います。そういう意味でこれをぜひ存続させていただきたい。

２点目につきましては、教育委員会の「さやか学級」についての見解をお尋ねしたいと思います。昨年の中谷議員の質問にも、「さやか学級」を存続いたしますというふうにお答えはあったわけでございますけれども、やはり教育委員会も、市やあるいはまた

病院、そういう間に入って、いろいろと揺れ動く部分もあるのではないかと思いますので、教育委員会のしっかりとした見解をお尋ねしたいと思います。

３番目には病院経営の中で、「さやか学級」をどう位置づけているのか、病院経営の中でのこの「さやか学級」の位置づけ、これが大変重要な位置を占めているわけです。病院が確かに採算がとれるそういう病院経営をやらなければならないと思いますし、また市民要望のあります人工透析であるとか、あるいはまた人間ドック、これをやらなければならないというその気持ちもよくわかりますけれども、「さやか学級」とそうした人間ドック、あるいはまた人工透析、どちらをとるかという、こういう、私は二つのうちの一つをとるのではなくて、二つをやらなければならないというふうに思うわけです。そういう点では、「さやか学級」をどう位置づけているのか、病院当局の見解を問いたいと思います。

４番目には心身症不登校の子供たちが、多くなってきております。先ほども述べましたように、子供の病気もどんどん変化してきております。特に今の社会情勢の中で、また夫婦の関係、あるいはまた離婚の問題、企業で働いていらっしゃるお父さんのいろんな勤務状況の問題、本当に細かなことが子供たちの心に大きな問題として投げかけられ、それが一つの病気となって、今の心身症不登校の子供たちが多くなっているのではないかというふうに思います。そういう点では、「さやか学級」で学ぶことを、ぜんそくの子供たちだけでなくて、今もぜんそくの子供だけでないことは確かですけれども、それと同じに不登校の子供たちもきちっと位置づけて、そこで学ばせる必要があるというふうに思いますので、その点についてお尋ねいたします。

５番目には中学生の病院内学級を検討せよでございます。大変中学生の間にもこの心身症や不登校の子供たちが多くなってきております。小学生の中にもありますけれども、本当に中学生が多くなってきておりますので、今の「さやか学級」は第五小学校の分校としての「さやか学級」でございますので、中学生の学級、これをつくる必要があるのではないかというふうに思いますので、中学生の病院内学級を検討していただきたい。

第６には、病院建てかえに当たっては、「さやか学級」の教室を確保せよという問題です。今病院の建てかえ問題、あるいはまた先般市立病院の、私たち議会でつくっております検討委員会の中での中間答申も出されましたが、この病院の建てかえ問題は、近い将来にわたってくる問題でございます。そういうときには、病院の設計の中にきちっと「さやか学級」の教室を設計の中に入れる、このことが私はこれからの問題としては大事だというふうに思いますので、病院建てかえに当たっては、「さやか学級」の教室

を確保せよという、こういう問題で以上６点について、質問をまず行います。よろしく御答弁お願いいたします。

○議長（市川資信君）　　鈴木美奈子君の質問についての答弁を求めます。

教育長。

○教育長（長沢三郎君）　　ただいまの御質問の中の１番、２番、４番、５番と、４点について私の方から、答弁さしていただきます。

まず最初に、市立病院内の「さやか学級」を存続させよという趣旨の御質問でございますけれど、この問題につきましては、先ほど鈴木議員さんが触れておりましたように、62年の６月議会で中谷議員さんの質問に答えたときと変わっておりません。長期にわたって、入院を余儀なくされております子供さんたちの教育の保障という問題、この面から特徴のある病院内学級という形の「さやか学級」が存続しているわけですから、何とかこの「さやか学級」の現状というものは、維持していきたいと、そういう考え方を持っております。

それから２番目に、教育委員会の「さやか学級」についての見解を問うということになっておりますけれど、この「さやか」の問題につきましては一応、東京都教育委員会の認可を受けまして、２名の病院内学級の先生ということで、２名の教員を東京都の教育委員会の方から派遣をされていると、そういうような状況でございますので、現在持っております制度上の問題、こういう問題につきましてはぜひそれを有効に活用しながら、「さやか」の問題については引き続き東京都とも連絡をとりながら、先ほど申し上げましたように、病院に入院している子供さんたちの教育権の保障という面について維持していきたいと、こう考えております。

それから４番目の心身症、不登校の子供たちが多くなっているが、「さやか学級」で学ぶことを位置づけろというような観点での御質問でございます。確かにこの登校拒否という問題につきましては、先日も文部省の発表もございまして、小学校、あるいは中学校の登校拒否の子供さんたちが加速度的にその人数がふえているというような形での発表がございまして、その内容についてでございますけれど、今鈴木議員さんがお話がありましたような心身症、いわゆる神経症的な登校拒否の子供さんもおりますし、あるいはその他の原因で、学校へ登校するのを好まない、そういう子供さんもおりまして、登校拒否に対する対応という問題、この問題につきましては、市の教育委員会の方でもぜひ何とかしていかなくてはならない。現状では、日野市の中に小学校に３名、中学に20名ほど登校拒否というような形で、学校に常時登校してこないというその状況の子供

さんがおりまして、そういう子供さんの中で、今申し上げましたような心身症に類する、この病気に原因する登校拒否、そういうものにつきましては、確かに「さやか」との絡みもあると思いますけれど、大部分がそうでない状況の中なので、これは教育相談的な対応を含めながら、ぜひ指導室あたりでも何らかの手立てというものを考えていかなくてはいけないと、そのように考えております。ただすべてそれを「さやか」に位置づけてしまっていいものかどうかという問題については、やはりいろいろ検討する要素を含んでいると思います。

それから５番目の中学生の病院内学級を検討せよというその状況でございますけれど、現在の病院のスペースその他の問題からいきますと、小学校の「さやか学級」が精いっぱいの状況でございまして、中学校の病院内学級というものまで、現状のスペースの中で、市立病院の中に小学校の「さやか学級」とは別に中学生用のその病院内学級というものを設けるということ、このこと自体は、今の現状では非常に無理が伴ってくるんではないかと、そのようにとらえております。以上です。

○議長（市川資信君）　　病院事務長。

○病院事務長（大崎茂男君）　　御質問の３点目でございますが、病院経営の中での「さやか学級」の位置づけということでございます。ただいま御質問にもありましたように、「さやか学級」は昭和50年からあるわけでございます。当初プレハブ、現在は増築いたしました病院の建物、本体内にあるわけでございますが、病院本来といたしましては、患者さんの治療、医療的な措置が本来の業務でございますが、「さやか学級」という治療を受けながら、教育も受けられるというようなシステムにつきましては、これは患者さんはもちろんプラスになりますし、また病院の医療の中でも、何らかの精神的なものや何か、患者さんの医療への上向きといいますか、前向きな気持ちも出てくるというようなことで、評価しているものでございます。ただ御質問にもありましたように、いろいろ教室の問題が出てくるのは、たまたま現在の市立病院が老朽化していること以上に、狭隘でございます。それでいろいろ医療の面を拡張したいという中では、面積的なものでかなり悩んでいるといいますか、困難を来しているというのが現状でございます。したがいまして、今後病院の中に、今のとおりに置くか、あるいはまた何か別の場所、病院の敷地内の別の場所に置くかということにつきましては、教育委員会とも協議したいと思います。現状の医療だけであれば、現状の場所でよろしいかとも思いますが、先ほどの御質問にありましたように人工透析や、あるいは人間ドックというようなことも考えますと、何か対策を講じなければいけないのではないかと思っております。

また経営的に何か負担があるかというようなことでは、病院の施設といいますか、ハードの面につきましては、病院の自前の経営の中ではなかなかつくることは難しくて、一般会計から設備・施設については100％助成をいただいているわけでございますので、そういうような市の教育行政、あるいは財政からのバックアップがあれば、病院としての経営ということでは、また別のものかと思います。

また人工透析、あるいは人間ドックをやるとしても、面積的なもの、今の「さやか」が、あるところでもしやるとしても、採算が合う医療になるかどうかは、これはちょっと面積的な計算、あるいは患者さんの数を計算しませんと出てきませんが、いずれにおきましても経営という中では、物質面、建物、あるいは光熱水費等であれば、特別大きなウエートはないかというふうに思っております。

それから６点目の病院の建てかえに当たっては、「さやか学級」の教室を確保せよというようなことでございますが、病院の老朽化に伴います建てかえ計画につきましては、病院内といたしましてもその必要性は感じておりまして、一応病院内としても、基本計画と申しますか、そういうようなものも作成した経緯がございます。しかし現時点ではどういうような病院の役割があるか、あるいは建てかえするとすれば、どんな場所にどんなふうにというようなことは、まだ煮詰まっておりません。したがいまして、建てる時期、あるいは建てる場所によりましてその時期に、具体化する時期に、また教育委員会とも十分協議いたしまして、その時期における「さやか学級」のあり方を考えていきたいというふうに思っております。

○議長（市川資信君）　　鈴木美奈子君。

○20番（鈴木美奈子君）　　それでは再質問いたします。

基本的には市立病院内の「さやか学級」を存続させるということについての確認はいたしました。それから２番目の問題ですけれども、今まで２人先生が派遣されておりまして、そのほかに講師が60年の４月まで、61年まであったのかちょっとその辺はっきり私わかりませんけれども、60年の４月までは講師として大石先生という方がいらっしゃいまして、62年の４月からはもうその方いらっしゃらないんですけれども、今２人の先生が見てらっしゃって、これがベットのところに教えに行く場合も、あるときにはお習字をクラスの子供たちにやらせて、そしてベットまで教えに行くという、そういう状況があるわけですね。ですから私はぜひ講師を１人、市の方から派遣できないかどうか、その点が１点質問でございます。

それから中学校の病院内学級、検討が無理ということで、現状では無理ということですけれども、もしそうであれば、現状が打開された場合、今のところからもしほかのところに移った場合、それは62年の10月に「さやか学級」の担任と、それから五小の校長先生の神山先生が、長沢教育長のところにも63年度の予算編成に対してということで、「さやか学級」の設置場所を病院敷地内に独立建造物として、新築移転し、その費用を市教委予算として計上してくださいとか、それから設置場所や建物の規模については、病院側、学級側とよく連絡してやっていただきたいとか、それから校地としては地図を添えて、示されておりますけれども、こういう学級からの要望について検討をされているのか、そしてもし検討されていればこの中で中学校も一緒に、建物を少し大きめにいたしましてやれる状況が見えてこないかどうか、その辺をお尋ねいたします。

それから３番目には、心身症の子供たちが多くなっている問題ですけれども、これが全部市立病院との関係でないというふうにおっしゃいますけれども、私は曽我先生からお聞きしたのでは、「さやか学級」に来たこの子供たちは、すべて全員、また学校に戻ったという、こういうことを聞いております。確かに「さやか学級」に来ないお子さんもいらっしゃいますけれども、全部が全部心身症じゃないですから、学校にいたくないというそれぞれの理由がありますから、全部が全部、「さやか学級」、市立病院に来て、そしてそこで診ていただいて、「さやか学級」にということにはいかないかもしれませんけれども、でも長期の子供６名が全員復帰できたということ、そしてまた短期の４名の子供も、軽症でもう復帰できたということや、現在来ている子供も３名がもうすぐ復帰できるという、本当にこの「さやか学級」の教育実践がここにあらわれているということ、それは病院側の医師や、看護婦さんや、また普通の方たちのこういう努力によって、本当にこういう子供たちが立ち直っているわけですね。心も体も直して、立派にもとのところに戻れるという、こういうことですから、私はぜひいろんな症状があるけれども、そのことをぜひ考慮にしていただきたいというふうに思います。

○議長（市川資信君）　　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　　お答えいたします。現在２名の担任の先生だけで対応していると、61年の４月までは講師の先生もプラスアルファでお手伝いがされていたと、まあこの内容につきまして、講師の先生について、東京都の方で講師の時間数の枠をいただいて、処理をしてきたのか、あるいは市のいわゆる長期にわたって先生が休む場合に、市の単独予算で講師の先生を入れている、そういう予算の枠の中で処理をしてきたのか、その辺は調査してみないとわかりませんけれど、いずれにいたしましてもよく学校側と連絡をとって、相談した上で、確かに教科、あるいは指導の内容によっては、講師の先

生に面倒を見てもらうことがより効果のある場合もございますので、その辺の講師の活用の問題については、よくまた学校側と相談をしながら、対応していきたいと思います。

それから中学校の現状で病院内の学級を設けるということは困難である、これと今鈴木議員さんの方から話のありました「さやか学級」の移転に関する学校長並びに「さやか」の学級の担任の先生からの措置要望、これにつきまして、その中に病院敷地内に独立の建造物として、新築移転し、その費用を市教委の予算として計上してくださいと。現在確かに「さやか」がある部分というのは、病院のメインの部分でありまして、病院側としては病院行政をいろんな角度から市民の方々の要望に応じて、対応していかなくではならない、そういう部分に「さやか」が現在占領しているといっては語弊があるかもしれませんけれど、置かれている。決して第五小学校の校長も、それから「さやか」の先生方も、今の場所をあくまで固執したいという形ではなくて、ただ病院の敷地の中に、ある程度プレハブでもリースでも、そういう残されている場所に、そういうものを一応建てていただいて、現在の場所は病院側にお返しして、そちらに移って「さやか」の位置を継続をやっていきたいということで、この辺だったらどうでしょうかということで、第１案、第２案、第３案というような形で、候補地なども含めながら、図面の上にそれを落として、要望が出されておりまして、その要望につきましては、病院側の方にもお渡ししてあるという、そういうような現状でございます。ただその場所を、そういう新しい建物を病院の敷地の中に、どっかにつくって、その際に中学校の病院内学級もあわせて増築してみたらどうかという点については、先ほども申し上げましたように、現在の病院のスペースからいきまして、小学校の「さやか」ですら、なかなか再三いろんな際に問題が出てきておりますように、難しい状況でありまして、その上に小学校の病院内学級とは別に、中学校の病院内学級を新しく現状の中にプラスして設けていくということは、極めて困難な状態であると、こういうことを言わざるを得ないと思うんです。

それから先ほどの心身症の子供さんたちの対応の問題でございますけれど、確かに中学生に、申し上げたいんですね、極めて数が多くなっていると、小学生が５人に対して、中学生が20名ほどですね、日野市でも不登校といいますか、登校拒否の子供さん方がおりまして、その内容が中学生の場合ですと、上級学校の試験等とも絡んで、学業不振といいますか、勉強がおもしろくない、だから学校に行きたくないんだというようなケースの子供さんが約２割、それから友人関係、友達関係とのトラブル、そういう問題や何かを含めての問題を理由に登校について、非常に問題を抱えてしまう子供さん方が約２

割、それから両親の不和というような形で、両親との家庭の中におけるところの状況、こういうものが十分うまくいかないという状況で登校拒否を起こしているというような子供さんが12％ほどというようなことで、そういう状況の子供さんを全部ひっくるめて、小児心身症という形の中に入れて対応すべきか、あるいはやはり教育相談ケースの中で、対応していかなくてはいけないのか。その辺の問題含めて、十分検討していきたい、こんなように考えております。

○議長（市川資信君）　　鈴木美奈子君。

○20番（鈴木美奈子君）　　ありがとうございました。

それではまた違う立場で病院側の方にお尋ねいたしますが、どうしても「さやか学級」を、病院の中にある以上、ちょっと病院との関係が出てくるんですけれども、人間ドックとか人工透析、これは一体いつごろからやりたいという御希望があるのか、その辺をお尋ねいたします。

それから企画財政の方では、お尋ねいたしますが、先ほどから予算のことがやはり出てきております。財政が一番大事ですので、財政上もし教育委員会からとか、病院から、いろいろと予算のことで要求があった場合には、ぜひつけていただけるかどうか、その点をお尋ねいたします。

それから市長には、昨年の中谷議員の質問のときには、割りと否定的なお答えだったんですけれども、１年たった現在、市長のお気持ちがどうであるか、お尋ねしたい。

○議長（市川資信君）　　病院事務長。

○病院事務長（大崎茂男君）　　病院では人工透析や、あるいは人間ドックをいつごろからやりたいと考えているかということでございますが、これは患者さん、あるいは市民の要望が前から強うございましたので、できればなるべく早くやりたいということを今まで何年か詰めてきたわけでございます。ただスペース的なもので行き詰まっておりまして、いまだにできておりませんが、スペースさえ確保できれば、すぐにも、来年度でもやっていきたいという気持ちでおります。

○議長（市川資信君）　　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　　予算というような考え方の中でということでございます。当然私の方も全体的な実施計画の中にも、総合的な市の施策、そういった問題を財政レベルでいろいろ計画を立てているわけでございます。もちろん鈴木議員さんの質問の中の内容も当然その財政部分に触れるわけでございますが、すべて市全体の計画の中では、やはり全体的な問題を考えながら、担当部局とやはり調整した中で、対応して

いきたいというふうに思います。以上です。（「市長、交代だよ、そんな冷たいこと言っているんじゃ」と呼ぶ者あり）

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　この「さやか学級」の生い立ちは私もよく記憶しておりますし、理解もしているわけであります。当時は小児ぜんそくの専門医がおられたということで、ぜんそく児を対象に始まった、こういう経過でございます。その当初の生い立ちがだんだん内容が変わって、長期入院児、外科的、あるいは内科的、あるいはその他の長期入院児が対象になっておるということは、その後の経過として知っているわけであります。

今本来の病院事業、あるいは病院業務を市民要望に沿って展開するために、かなり厳しい状況がございますので、もしかして――私のこれ、何ですね、私の理解の不十分だった点でもあると思っておりますが、まあ遠くない、つまり母体校の、第五小学校の養護教室の傍らにでも、そういう部分がとれないものだろうかということを、いっとき考えたことがあります。

この間、いろいろと状況判断をいたしまして、教育委員会とも相当相談をし、また病院とも相談をして、「さやか学級」の存続は保障をする。それから場所につきまして、病院には既存の設置にはちょっと無理だということがありますので、院内にまあプレハブ等でも何とか処理できる方法がないかということの検討を、病院長並びに事務長に指示をいたしております。病院長からはある考え方が先般報告をされてきております。つまり可能性がだんだんと生まれつつある、こういうことでございます。

それから将来病院を改造します際には、日野市の特色のある教育の一つの要素としてできるだけ存続をできるような設計をしたい、こういうことは感じておるところであります。そうして今、いわゆる「さやか学級」の登校拒否、つまり不登校に対する行政の対応が新しくまた生まれつつあるというふうな話でございますが、本来「さやか学級」は病院に入院をし、ベットを持って、そうして院内の児童として特設をされてある病院内教室に通うというのが、本来的姿であります。病院に席を持たず、あるいは病院に手続きを行わずして、教室からいきなり直接対応するということがちょっと無理があるように感じられますので、そのあたりのところをこれからはきちんと整理しなければならない、つまり何とか可能な方法を探し出すと、こういうことになると思うわけでありますが、これはこれからの一つの課題、懸案事項になるように思います。

そういうことで病院本来の業務を当面付加する、新しくやる方法と、それから「さやか学級」の存在を何とか両立をさせたい、そういうことで一定の見通しが生まれつつありますので、もちろん十分とは言えないわけでありますが、将来は将来の大きな課題としてやっていく、当面は当面という姿でやっていくということで、一応安定をさせたいと考えております。

また病院内の医師の方、あるいは運動の方々に対しましても、つまり都内に病院内学級という教育の一つの制度は、3カ所しかないということが、日野市の過小評価になって生まれては困る。つまり公立学校には全部病院内教室を広げるくらいの意気込みで主張をするのが、これが本来の教育の姿ではないか、というふうに申し上げております。子供のことでありますから、私は子供に対するあらゆる手の行き届く措置は優先させて取り組むのが、本来の教育の姿だ、このように教育にも信頼をしたいと思っております。おおむね、以上です。

○議長（市川資信君）　　鈴木美奈子君。

○20番（鈴木美奈子君）　　ただいま、現在と、また今後の展望について市長の方からはっきりしたお答えが出ましたので、運動をやっていらっしゃった方もこれで確信が持てたというふうに思います。

それで教育委員会の方にお尋ねを、またちょっといたしますが、「さやか学級」の方から病院内に建てる場合には、ここに建ててほしいという地図も含めて渡されて、3カ所ほど示されておりますけれども、それについてどのところを建てるかということについては、もうお話し合いをされているか、それとも今の私の質問によりまして、病院と教育委員会と市当局と、このことについて、お話し合いがなされましたので、これからの課題かもしれませんけれども、一応もう去年――62年ですから、62年の10月、ことしの63年度に向けて出されておりますので、もし新しく建てる場合にはここだということがもし決定されているようでしたら、お尋ねしたいというふうに思います。

○議長（市川資信君）　　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　　ただいまの御質問でございますけれど、まだ教育委員会側としては、候補地を3カ所ほど挙げて、病院側の方に図面を含めて、提出してあるというその状況でございまして、どこの場所にということにつきましては、病院側と、これから先十分煮詰めて対応していかなくてはいけない。少なくとも先ほど事務長の方からお話がございましたように、もしできれば64年4月に向けては、そういうような形でのその準備ができるように努力していきたいと思っております。

○議長（市川資信君）　　鈴木美奈子君。

○20番（鈴木美奈子君）　　ありがとうございました。

それでは新しく「さやか学級」を存続させるために、新しい教室を建てる場合には、病院側とそれから「さやか学級」の担当の方とぜひ話し合いをした上で、この場所がいいということで、位置の決定などもしていただきたいというふうに思います。

それから市長の方からは、日野市の「さやか学級」が東京都内に三つしかないから、そのことだけで評価をされたらというふうにおっしゃいますけれども、私は三つしかないことが、大変評価できるのではないかというふうに思うんです。でも全国で、二千二百数学級、「さやか学級」というような学校がありまして、そしてそこで学ぶ子供たちは7,000人もおります。全国ではたくさんあるんですけれども、どういうわけか東京都、ここが問題です。東京都下には三つしかないという、その中で革新の市政の日野であるということは、私は本当に誇りだというふうに思います。そして今、全国で今国立病院が統廃合されて、そしてそのあおりがこういう子供たちの養護学級、そして子供たちが通っているこういうところまでつぶされているという状況、私は、お年寄りの皆様のところの病院のことばっかり、こう目が向いていたんですけれども、今回調べてみますと、こうした国のこういう統廃合が、ここの子供たちのところにまで影響を及ぼしているということもわかりましたし、ですからぜひ私どもは、この「さやか学級」を存続させるために、皆さんと一緒にまた頑張っていかなければならないと思うわけです。

終わりになりましたけれども、お母さんたちが、本当に署名もしたこともなくて、請願をどういうふうに紹介議員になっていただいたらいいかしらなどということで、皆さんのところを回ったと思いますけれども、紹介議員になる方がいないという、そういう状況があったというふうに聞いております。そういう中でやむを得ず市長に陳情したという、こういういきさつがあるわけでございます。私はこの「さやか学級」が本当に日野だけでなくて、全国からこうして評価されて、教育相談にまで、電話や、あるいはまたわざわざお母さんが訪ねてくるというこういう状況の中では、ぜひ来年の市長選挙でも、森田喜美男市長に五たび市長になっていただいて、この「さやか学級」を存続させていただきたいというふうに思います。終わりといたします、ありがとうございました。

○議長（市川資信君）　　これをもって１の１、市立病院内の「さやか学級」の存続と充実についての質問を終わります。

一般質問２の１、立日橋開通にともなう地域の諸問題についての通告質問者、馬場弘融君の質問を許します。

〔15番議員　登壇〕

○15番（馬場弘融君）　　議長のお許しが出ましたので、通告に従いまして質問をいたします。大変お疲れだと思いますけれども、手短にやりますので、よろしくおつき合いをいただきたいと思います。

来年の４月に片側開通を目指して、現在工事が進められております立日橋並びに都市計画道路２・２・10号線につきまして、開通後の通行量の増加など、地域への影響を踏まえて、６点ほど質問いたします。この問題はすでに何度か取り上げてきておりますけれども、新しい橋ができる、あるいは都市計画道路が完成するといっても、通過交通には役立つけれど、地域には利益が少ない。むしろ公害や騒音をまき散らすだけだというのでは、何のための新しい橋であり、道路なのかということになってしまう。そういう意味から、特に２・２・10号線については、その工事に並行して、東町を中心とする周辺地域の環境整備を推進をすべきであると申し上げてまいりましたし、また地域からも自治会長の名前等での請願とか、要望がたびたび提出をされていたわけであります。そこで質問の第１点は、片側開通が間近に迫った現時点までに、東町地域のおくれている生活環境がどのように改善をされてきているのか、これについて伺いたいと思います。具体的には、吸い込み槽等に悩んでいる家などの下排水の対策、生活道路の整備の問題、また地主さんの関係で非常に不安定な状態にある地域広場の問題など、応急的な対応がどうなっているかということと、将来的にミニ区画整理といいますか、たしか現在Ａ調査の最中だと思いますけれども、この現状と今後の見通しについてお聞かせをいただきたい。

それから今回の質問の前提として、立日橋の片側開通の時期が来年の４月に間違いないのかということですね。それから２・２・10号線の開通のときも、道路の状況が一体どういうふうになるのか、全部片側なのか、あるいは一部は全面というか、両側ができ上がるのかどうか。さらには２・２・11号線、スポーツ公園の北側になりますけれども、これはいつつながるかということも、あわせて前提としてまず教えていただきたいと思います、以上が１点目。

２点目は仲田小及び一中の通学路について、信号機の設置や横断歩道など、交通安全面の配慮が十分なされているか。またこの道路の開通に伴って、通学路の変更等の事態が起こってくるのかどうか。非常に激しい通行量になると思いますので、その辺を踏まえてお伺いをしたいと思います。

３点目、これは数年来の懸案でございますけれども、直接道路には関係ありませんが、市民の森スポーツ公園南側の公園から宿裏への連絡道路の新設の問題でございます。こ

の道は現在、赤道のままになっておりますけれど、連絡道路としてはもとより、災害のときには避難通路としても役割を果たす道路だと思います。これまで関係地主さんのまあ善意に頼るということばかりで、あまり進んでいなかったわけでございますけれども、この２・２・10号線が開通をすることをきっかけにして、ぜひ買収方式ということで、推進をしていただきたいと思います。ぜひ積極的なお答えをいただきたいと思います。

それから４点目、農林省――農林水産省跡地のいわゆる留保地ですね、留保地の今後についての問題であります。新しい橋、新しい道路が開通をいたしますと、ますます留保地の豊かな緑のありがたさがわかってくると思います。先般発行されました「日野市民読本」89年版、まあ中身についてはいろいろ問題があったようでございますけれども、（「そのとおり」と呼ぶ者あり）この「市民読本」の第１ページの見開きの航空写真ですね、これ役所の上空から立川方面を見た写真でありますけれども、この中にも――市長も十分おわかりだと思うんですが、スポーツ公園と仲田小学校にはさまれたところに、非常に豊かな森が写っておりまして、「いいなあ」という感じでございます。改めてこの緑はぜひ残しておきたいというふうに思うわけでありますけれども、市長は一時この場所を体育館がほしいので、高層住宅を誘致をするというふうな案を、私に言わせれば、アドバルーン的に上げたことがありますけれども、その後高層住宅案は棚上げになりまして、現在は東町地域の区画整理の中に入れて考えるというふうになっていると思いますが、私重ねて申し上げたいんですが、この留保地はぜひ全部市で買収をするといいますか、手当てをしていただきたい。そしてこの豊かな緑地を残しつつ、体育館等のスポーツ施設を整備して、市民の森という名前に恥じない公園にしていただきたい、こう思うわけでございますけれども、この留保地について市長の考え方をこの機会に改めてお伺いをしておきたいと思います。

それから５点目、これは直接２・２・10の関連ではございませんが、甲州街道の通行量がさらに増加をするのではないかという面から、ＪＲ日野駅の改良工事のその後といいますか、一部残っているところがあったんですけれども、その後について伺いたいと思います。それは駅舎改良工事のときに残した甲州街道の、上り車線側の歩道の拡幅工事、現在どうなっているかということが一つ。この歩道の拡幅工事はたしか当初の話では63年中には、完成をさせますよというふうに聞いていたわけですけれども、現在まで全く工事に入っておりませんので、ちょっと心配になりました。これを教えていただきたいと思います。

それからついでに、これは先般の議会で福島敏雄議員が触れていた問題でありますけ

れども、新たにつくられましたトンネル歩道と、駅舎をつなぐ屋根の問題ですね、これが前議会以後、どういう方向に進展をしているのかということも、あわせて教えていただきたいと思います。

最後に６点目は、この立日橋、あるいは２・２・10号線が開通したとしても、その両端は立川側は、奥多摩街道のバイパス、日野側は甲州街道ということで、この部分に車が詰まってしまえば、結局は渋滞箇所が拡大をするだけという感じを持ちます。抜本的な解決にはやはり１・３・１号線を急がなければならないと思いますし、また前議会の行政報告にもございましたように、日野橋ロータリーの立体化、あるいは立川市の行政範囲になりますけれども、この都市計画道路２・１・１号線ですかね、立川の。これは日野橋のロータリーから斜め右に南武線の矢川の方に行く道ですけれども、この推進を強く働きかける必要を感じるわけです。そこで、前回せっかくの行政報告があったんですけれども、それ以降市長は一体どのように対応されているのか、今後の取り組みをどうするのかということについて伺いたいと思います。以上６点よろしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　馬場弘融君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　それでは都市整備部の関係につきまして、お答えをいたします。

まず第１点目の立日橋及び２・２・10号線の開通の関係でございます。２・２・10号線につきましては、64年４月でございますけれども、東京都は片側開通をしたいということで、現在工事を行っております。この片側といいますのは、上流部の片側がほとんどでございまして、若干甲州街道から北に入ったところの一部につきましては、東側になる予定でございます。全線の開通の予定は、66年４月でございます。

それから２・２・11号線の関係でございますが、これは留保地と市民の森スポーツ公園の間の都道でございます。64年ないし65年に施行を行いまして、２・２・10の全線開通にあわせるということになっております。

それから排水の問題でございますけれども、先ほどの下水道の補正予算の中でも、若干申し上げましたけれども、神明都市下水路の完成に伴いまして、その周辺の雨水の排除を行うということで、この２・２・10号線の側道でございますけれども、２・２・11号線から北の部分でございます。この歩道部分に雨水管を埋設しまして、東側につきましては１宅地分、西側につきましては、後ほど建設部長から説明申し上げますけれども、地域の排水管を敷設をいたしまして、この都市下水路につなぐ、歩道の排水管につなぎ、

神明への都市下水路につなぐということになるわけでございます。

それから区画整理の関係でございますが、これは留保地を含めまして、36ヘクタールでございます。市民の立場からこの整備課題を見ますと、生活道路の整備、排水施設の整備、公園、２・２・11、２・２・１――この２・２・１といいますのは、甲州街道でございます。それから留保地の活用、２・２・11には、もちろんのことモノレールの問題も含んでいるわけでございます。こういった課題を踏まえまして、現在62年度の後半から、調査に入っております。調査につきましては、３カ年、62、63、64年度の計画でございます。65年度には都市計画決定及び事業認可を取りたいというふうに考えております。

地元への住民の説明会でございますが、64年度の前半に実施をしたいというふうに考えております。

それから４点目の留保地の問題でございます。これは御承知のように現在３.4ヘクタールございまして、２ヘクタールが仲田緑地でございます。緑地等の指定がない部分が、通称、私ども白抜きと言っていますけれども、１.4ヘクタールあるわけでございます。この土地につきましては、東町の土地区画整理事業の中に含めるということを大前提にいたしまして、市民の要望でございます体育施設の建設とか、あるいは現在あります植物、自然の保護の問題、財政の問題、まあそのほかにもあるわけでございますけれども、区画整理にあわせまして、具体的な取り扱いを今後詰めていきたいというふうに考えております。

それから５点目の日野駅関係でございます。ガード下の歩道の関係でございますが、これは歩道トンネルの完成に伴いまして、この国道を西側に車道を振るわけでございます。そして立川寄りの歩道を拡幅するということになるわけでございます。この工事につきましては、すでに工事発注を総武国道建設事務所が行いまして、すでに業者も決まっております。来年の３月25日の工期ということになっております。

それから次のトンネル歩道と、駅舎をつなぐ屋根の件でございます。現在駅舎のひさしが国道の方に出っ張っているそうでございます。これを一部改修をするということがございまして、これとあわせて屋根をかけるか、あるいは別に切り離すか、いろいろＪＲ、それから総武国道事務所、日野市と協議中でございます。早ければ年度内、場合によっては64年度の工期になるのではないか、一応かなり実施可能な線で今話が詰めつつあるということでございます。

それから６点目の、１・３・１とか、あるいは日野ロータリー、立川２・１・１号線

の問題でございます。１・３・１号線につきましては、建設省が中心になりまして、万願寺土地区画整理事業の西端から、神明上の土地区画整理の境まで、約900メーターございますけれども、この事業化に向けて今努力をしているということでございます。

日野橋ロータリーの件でございますが、今建設省は八王子、立川都市圏渋滞対策実行計画というものを現在つくっております。この中には短期と長期があるわけでございますけれども、短期対策として四つほど柱を挙げております。一つは交通信号の高度化、これはすでに系統信号となっておりますけれども、さらにその辺の見直しをするということ。それから２点目は違法駐車の排除、３点目は道路交通情報提供の充実、４点目が既存道路の有効利用で交通容量をふやす。日野橋につきましては特に４点目の既存の用地内で車線の増加ができないかということを検討し、今後実施しようとしております。具体的に申し上げますと、日野ロータリーの国立側、及び日野橋側の車線を増加させるというものでございます。

それから立川２・１・１号線でございますけれども、この件については、建設省、東京都、あるいは立川、国立市に要請をしているところでございます。現状の家のいわゆる建てつけ状況を見ますと、非常に混雑をしているところにこの道路ができるわけでございます。現在のところ、まだ見通しが全く立たないわけでございますけれども、今後も関係機関に要望をしてまいりたいというふうに思っております。都市整備部の関係は以上でございます。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　それでは通学路関係についての御質問にお答えをしていきたいと思います。

御承知のようにこの立日橋から国道20号に至る２・２・10号線については、現在一応仲田小の通学路になっておりますので、通学路の安全確保については可能な限りの配慮をしていきたいというふうに考えております。今までも東京都においても、周辺の自治会、学校、あるいはＰＴＡなどの関係団体から意見を聞いて要望を取りまとめまして、警察等との協議を進めて児童・生徒の安全確保に必要な諸設備を整えていただいております。

２・２・10号線は完成時には、幅が22メートルで、中央分離帯を持つ４車線の道路になると聞いておりますけれども、両サイドに、幅が３メートルの歩道がつくられるというふうに聞いております。この立日橋から国道20号までの間に、３カ所の信号機が設置をされる予定になっていると聞いております。一つは西常安寺６号線との交差する、一

つは２・２・11号線との交差する、もう一つはスポーツ公園南側の――一応スポーツ公園入口と言ってますけれども、そこの３カ所に信号機が設置されるようになるというふうに聞いております。したがいまして、２・２・10号線より東側の自動車道については、それぞれの信号機の場所を渡っていただくということになろうかと思います。

で、完成時に通学路を変更する必要があるかどうか、この辺については、学校側ともよく協議をした上で、必要があれば通学路の見直しを検討していきたいというふうに思っております。それからこれ、全面的に開通するまでの間、一部４車線、一部２車線という部分なんかあるようで、この辺のところについても、私どもとしてもやはり学校ともよく協議をして、児童・生徒に対する安全指導、その他については、万全の対策をとっていきたいというふうに考えております、以上です。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　今の一番目に申し上げました立日橋の片側通行に伴う東町の生活環境はどのように改善してきたかということでございまして、まず吸い込み槽など悩みへの下排水対策、生活道路の整備、まずこれについて御答弁申し上げます。東町地区の整備に関しましては、昭和59年度から、地域の自治会を中心にたびたび内容をお聞きし、打ち合わせもしたところでございます。しかしこれはやはり主に２・２・10の新設、それから神明上の都市下水路の敷設が主体ではございましたが、その中で生活道路の整備とか、生活排水の施設の整備につきまして要望がありました。これを重要視いたしまして、建設部といたしましては、昭和60年から計画的に事業を進めているところでございます。

排水問題でございますが、今前田部長からも２・２・10号線沿いの家屋の排水施設につきましては、下水路で２・２・11から北側についてはやりますということがございました。建設部といたしましては、２・２・10の西側の公道に、雨水及び家庭雑排水が流入できる排水施設を設ける工事を、現在お約束どおり施工中でございます。私道につきましては、道路用地の所有者の承諾が得られず、今非常に苦慮しているところでありますが、今後とも協議をしていきたいというぐあいに考えております。

それから生活道路の件でございますけれども、市道西常安寺６号線は、これは羽田ヒューム管沿いの道路、南側沿いの道路でございますけれども、これは昭和60年度から２カ年で道路排水施設の整備を完了いたしました。それから２・２・10路線、西側に存在しますところの一部市道の拡幅整備でございますが，これにつきましては、関係権利者と現在協議中でございまして、なかなか利害関係が相反するといいましょうか、なかなか権

利者の意思が統一できないというような状況でございます。

その次に３番目のスポーツ公園南側の道路の新設ということでございます。この道路は御存じのとおり、市民の森、スポーツ公園の南側の出入り口と連絡する市道といたしましては、地域住民の方々の利便も見込まれるため、昭和61年度で測量調査を開始いたしました。現在の幅員は１メートルでございます。これを５メートルに拡幅して、公園の出入りを便利にする。しかも今おっしゃいましたように避難通路としても利用できていき、この地域の環境の整備、土地利用の向上ということを考えていたわけでございます。当初は権利者の協力を得て、用地については寄付をいたします、ということでございましたですが、その後一部の方々から有償であってほしいという要望が出されております。これ等については、今後ともどのようにしていくか、検討をいたしたいというぐあいに考えております。

この道路として考えておりますのは、約延長が80メートルございます。それから幅員も５メートル、関係の権利者は６名様でございます。拡幅用地の面積は約270平方メートル必要かと思っております、以上でございます。

○議長（市川資信君）　　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　　１点目の御質問の中で地区広場の御質問がございました。この御質問にお答えしたいと思います。

御質問のこの広場でございますけども、この広場につきましては東町自治会で、今まで地主さんとのお約束で、広場として借用しておりました。広さは1,791平米でございます。この土地につきましては、相続の関係がございまして、使用が危ぶまれておりました。またこれに関連いたしまして、請願が出されまして、採択されたという経過もございます。現在、市では自治会の役員さんとお話を持ちまして、まあ市で取得を検討したわけでございますけども、買収は難しいと思われますので、当面市で借用する方向で、現在話を進めているところでございます。以上でございます。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　立日橋、２・２・10の通りがだんだんと整備のための工事が進みつつありまして、片側交通、次いで全体交通ということになっていくわけであります。伴う排水の問題、交通の問題、いろいろな地元の諸要望が伴うのは、当然のことだと思っております。特に担当者がそれぞれ答えはいたしてあるわけでありますが、私は市民の森スポーツ公園にふさわしい森を残したい、これは全く同感でございまして、今後緑地の位置の変更等をまた検討しなければならない、このように思っておるわけであ

ります。緑地を、立派な樹林を極力残す方法で検討することは、もう申すまでもございません。

それから立川ロータリーの立体化を提言したわけでありますが、そのことに伴いまして、国道当局にも足を運んだところであります。特に言われたのは、今都道、つまり今何号と言いましたでしょうか、（「２・１・１」と呼ぶ者あり）２・１・１という斜めの道があるわけであります。これを日野市からもぜひ都に強く求めてほしい、こういうアドバイスもございましたので、そのとおり建設局当局にも要請をいたしております。立川市、あるいは国立市とも協力いたしまして、抜本的解決のために、やはり立体化が必要だということを強力に推進をしてまいりたい考えでございます。なお質問ではございませんが、いわゆる２・２・11の西の方向に向かって、東京都の、つまり中央線以西、これは測量するという伝えをいただいております。このことは、つまり事業が始まるということですね。要望は達したということで、特に御報告をしておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　おおむねお答えいただきましたけれども、市長１点だけちょっと初めにお願いしたいんですが、従来の懸案であったスポーツ公園の南側の連絡通路といいますか、避難通路、スポーツ公園にはちゃんとまあ入口といいますか、入口があるけれども、道がついてないというところですね。そこについて、何らかの買収費用といいますかね、そういうことを踏まえて、対応していただけるかどうかちょっとお答えいただきたいと思うんですが。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　寄付をしていただく一定の基準があるわけでありますけど、必要な事業に対しましては、全体の配慮の中で、十分対応していきたい、このように考えております。

○議長（市川資信君）　馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　ぜひ積極的に対応していただきたいと思います。関係する方々だけでなくて、この地域全体にとって必ず有効な道になると思いますので、積極的な対応を早急にお願いをしたいと思います。

それで順番にちょっと言いたいんですけども、１点目の東町地域の排水の問題ですけれど、いろいろ対応していただいても、何軒かどうしても排水ができないというところが残っちゃうんですね。そういうところについては、当面ぜひポンプアップとか、きめ細やかな対応をやっていただきたいというふうに思います。

それから広場の問題ですね、どうでしょう、不安定な状況なんですけれども、今のお話だと、環境部長のお話だと、何とか現状のままでしばらく使えるというふうな見通しだということでよろしいのかどうか、もう１回確認したいと思います。

○議長（市川資信君）　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　現在の感触では、そのような方向で大丈夫だろうというような感じは持っております。

○議長（市川資信君）　馬場弘融君。

○15番（馬場弘融君）　これもどんでん返しがないように、ぜひ小まめに対応していただきたいと思います。

それから２点目の通学路の問題なんですが、先ほど教育次長から説明をいただきまして、２・２・10に３カ所の信号及び横断歩道ができるわけですね。東町の一方通行の出口のところ、２・２・11との交差をするところ、公園の一番南側のところですね。ところがちょっと気になるのは、一中の通学路でもある今の宿裏の道路といいますか、一中の前を通って、高木歯医者の裏に出てくる東西の道路がありますが、この道がどうも真ん中にグリーンベルトができますから、全く通過できない道路になりそうなんですね。そういうことで信号もできないし、横断歩道もできない。となると、この道路結構中学生が通ってますから、ここはうまく対応しませんと、地元の父母とか、あるいは地域住民からもいろんな問題が出る恐れがあるんで、この辺の対応をぜひ考えておいてもらいたいというふうに、これは教育委員会にも申し上げておきますし、道路を管理する方の土木ですか、そちらの方にも学校の対策だけではなくて、地域住民が出るのにちょっと不便になります、ここは。出入りに不便になりますから、事前に対応する必要があるだろうという気がいたします。それだけは申し上げておきます。

それから留保地の問題、市長確かに3.4ヘクタールのうちの２ヘクタールの緑地ですね、これは多少西寄りといいますか、今森がある方にこう寄せてもいいですから、その２ヘクタールの緑地だけはぜひぜひですね、残してもらいたい。これをいじるようなことは絶対しないでもらいたいというふうに強く要望をしておきます。

どうも約束の時間が来ましたので……、いろいろ地域の細かい問題について伺いました。もう１点、ごめんなさい、忘れました、通学路の問題ですが、仲田小学校の北側のクランク状になっている道がありますね。あの道が実は、さっきのお答えでわかったんですが、２・２・11が当面つながりませんね。いいですか、２・２・10は全部できる、橋も渡れる。ところが２・２・11が通れない。一方甲州街道は渋滞したままだというこ

とになると、あのクランクの道を通って立日橋へ抜ける車がかなりふえると予想されます。それでこの安全対策はぜひ講じていただきたいというふうに、重ねて申し上げておきます。ちょっとまとまりませんけれども、いろいろ申し上げました。こういった都市計画道路、新しい大きな道ができるときには、ぜひ道路だけを考えるのではなくて、周辺の住民の環境改善、特に通学路等の安全確保のために、これからもいろんな道路につきまして、積極的な対応をしていただくように重ねてお願いをいたしまして、今回の質問は終わります。ありがとうございました。

○議長（市川資信君）　これをもって２の１、立日橋開通にともなう地域の諸問題についての質問を終わります。

本日の日程はすべて終わりました。

明日の本会議は午前10時より開議いたします。時間厳守で御参集願います。

本日はこれにて散会いたします。

午後７時33分　散会

12月13日　火曜日　（第３日）

昭和６３年
第４回定例会　日野市議会会議録　（第43号）

12月13日　火曜日　（第３日）

出席議員　（30名）

1番	奥住日出男君	2番	宮沢清子君
3番	高橋　徹君	4番	土方尚功君
5番	山口達夫君	6番	天野輝男君
7番	福島盛之助君	8番	福島敏雄君
9番	中谷好幸君	10番	小俣昭光君
11番	川嶋　博君	12番	馬場繁夫君
13番	夏井明男君	14番	小山良悟君
15番	馬場弘融君	16番	高橋徳次君
17番	簇野行雄君	18番	一ノ瀬　隆君
19番	板垣正男君	20番	鈴木美奈子君
21番	中山基昭君	22番	秦　正一君
23番	黒川重憲君	24番	古賀俊昭君
25番	谷　長一君	26番	市川資信君
27番	石坂勝雄君	28番	名古屋史郎君
29番	竹ノ上武俊君	30番	米沢照男君

欠席議員　（なし）

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	長谷川暢男君	総務部長	坂本金雄君
市民部長	大貫松雄君	生活環境部長	藤浪竜徳君
清掃部長	小林修君	都市整備部長	前田雅夫君
建設部長	永原照雄君	福祉部長	高野隆君
水道部長	橋本栄萬君	病院事務長	大崎茂男君
教育長	長沢三郎君	教育次長	砂川雄一君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	佐藤智春君	次長	土方留春君
書記	田中正美君	書記	濃沼哲夫君
書記	佐々木茂晴君	書記	小林章雄君
書記	斉藤令吉君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3
立川速記者養成所　所長　関根福次
速記者　川久保友子君

議事日程

昭和63年12月13日（火）
午前10時開議

日程第1　一般質問

本日の会議に付した事件
日程第1

午前10時6分　開議

○副議長（一ノ瀬　隆君）　おはようございます。本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員20名であります。

本日、議長所用のため、私、副議長がその任を務めさせていただきます。特段の御協力をお願いいたします。

これより日程第1、一般質問を行います。

一般質問3の1、生活環境と交通安全対策についての通告質問者、馬場繁夫君の質問を許します。

〔12番議員　登壇〕

○12番（馬場繁夫君）　それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

21世紀を目指して「住みよい日野」から「住んでよかった日野」への快適な生活環境をつくり上げるためには従来の施策を着実に進めるとともに、環境面から積極的に誘導、調整を図りつつ、総合的、さらには計画的な施策を推進するという環境管理の考え方が必要であることは当然のことであります。住みよいまちづくりを創造するために五つの視点があると言われております。その第1点のまず基本的な視点というものにつきましては、安全で利便性であるという都市機能の基本的な問題であります。第2点目といたしましてはビジュアル――美しいまちをつくるという視点であります。第3点目はエコロジカル――生態学的な視点、第4点目としてはソシアルな視点、開発と保全との調和の関係であります。第5点目には、ふるさとのまちという視点であります。

今までの一般質問等を通じまして五つの視点に整理をしてみますと、第1点目の都市の基本的な機能性の視点におきましては、区画整理、再開発等の都市基盤整備、防災計画それから安全対策、化学物質の汚染、地下水の汚染等の環境汚染等の問題、第2点の機能の、次の視点である第2点目のビジュアルの視点につきましては、都市緑化とか用途地域の諸問題、都市景観等の問題であります。第3点の視点といたしましては、エコロジカルの視点、段丘崖の緑地等、緑地の保全、それから自然保全、それから植生、生態系の保全等であります。第4、またもしくは第5の視点につきましては、快適な住環境の促進等の問題につきまして、各視点が交差しながらの質問をさせていただいております。

今回は、交通事故の増加が現在社会的な問題にクローズアップされておりますし、南平地域の環境の変化等もありますので、第1点の視点であります交通安全問題について、さらには法的な盲点につきまして今回は質問させていただきます。

多摩地域におきましても交通事故、死亡事故が激増しております。警視庁第８方面本部の11月25日現在のまとめによりますと、交通死亡者は昨年の同期を33人も上回る153人で、昨年１年間の132人を突破している状況であります。日野署管内の交通事故におきましても死亡者数は昨年より１名減の２人でありますが、事故数は重傷、軽傷物件数ともにふえているのが現実であります。南平に大型のディスカウントショップが進出し、北野街道の交通量が大変増加しておりますし、付近の生活道路の交通量の増加、また駐車場の問題等、交通問題を取り巻く環境の大きな変化も起きております。

そこで質問といたしましては、南平駅周辺の交通変化状況を十分調査され、現状に即した交通安全施設の整備、さらには交通安全対策、特に交通規制を含んだ交通安全対策を日野署との十分な協議の上、早急に対応していただきたいと思っておるところでありますので、この問題についての対応についてお伺いいたします。

第２点目といたしましては、同じ南平駅周辺の小・中学校における通学路の問題であります。

交通状況の変化に伴いましていろんな条件が変わってきておりますので、通学路の見直し、また児童という観点から、交通安全対策について今後対応していただきたいと思っておりますので、それについても御質問いたします。

それから、ことしの死亡事故で最も多いのがオートバイ事故で全体の40％とも言われております。次に多いのが60歳以上のお年寄りの事故であります。ちょっとした交通ルール無視が悲惨な事故を招くケースが多いと言われているほどであります。交通事故防止対策は施設整備促進は当然としながらも、交通ルールを守ることであります。大人の交通ルール、道徳の再教育及び深い理解が不可欠であります。現在、小学生低学年に交通安全塗り絵等を配付しておるところでありますが、今後の交通問題の減少のために教材としてのスライドとか８ミリ、16ミリ等の交通安全に対する教材それから機材を収集して一般市民に貸し出す交通安全資料コーナーの設置、また交通安全教育の促進という面から行政も取り組んでいただきたいということで、この辺につきましての行政のお考えなり将来についての政策についてもお伺いいたします。

第４点目といたしましては、大型店舗出店に伴い、第一種住居専用地域内駐車場設置につきまして種々の問題が今回浮き彫りになりました。特に建築物建設に伴う駐車場につきましては、東京都安全条例等で規模に応じた規制等がありますが、建物の伴わない駐車場につきましては、東京都公害防止条例により自動車の収容能力が20台を超える場合につきましては届け出の義務がありますが、用途地域、周辺の環境、交通状況等によるところの具体的な法規制は全くないのが現状であります。今後、第一種住居専用地域内に事業者が、特に不特定多数の利用を目的とする一定規模以上の駐車場の制限及び設置基準また管理基準等が必要であります。日野市の住みよいまちづくり指導要綱等の中で何か一つの基準づくりができないかということであります。

第５点目といたしましては、区画整理を中心として都市基盤整備を行っているところでありますが、現在はおおむね、今後の予定も含みまして50％程度の開発状況ということであります。今後はタウンマップ（都市計画の全体像）の策定とともに、地区詳細計画の策定も行い、その地域の特性、用途を十分考慮した発展を環境保全との調和を含みながら、まちづくりをする必要があると思います。

以上５点につきまして、まず答弁をお願いいたします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　馬場繁夫君の質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　御答弁申し上げます。

今、議員さんが御発言になりましたように「住んでよかったまち」「住みたいまち」ということ、まことにごもっともなことと思います。それに対しまして南平駅周辺のダイクマということをおっしゃっておりませんけれども、多分そういうことだろうというぐあいに推察するところであります。

ダイクマの南平店の駐車場施設、これは６カ所、455台、臨時といたしましては４カ所、590台が準備されております。主要道路、北野街道から駐車場に進入する地点、すなわち南平の駅前それから日鉱の入り口のところ、それから高校の入り口のところ、それから南ケ丘の各通りに入る交差点などには、人と車の集中するおそれが十二分にあるところであります。

これに対しましての対応としまして、ダイクマと打ち合わせをしたわけでございますけれども、駐車場の場所のＰＲをしっかりすること、それから２番目といたしまして、集中箇所の警備員の配置ということ、それから、もちろん誘導、案内ということも含んでいるわけでございます。それから３番目には、車両の誘導ということ、４番目には横断歩道をする方々のための安全性を図るための誘導というようなことで、ダイクマといたしましては本社に警備管制本部をつくりまして、その体制の充実を図り、この徹底を期しているところであります。

しかし、北野街道という道路、都道でございますけれども、幅員が広いとは言えません。11メートル、歩道を含めて11メートルでございます。通常の交通量も多いことを考えますと、交通渋滞ということはどうしてもこのダイクマの進出によりまして影響はな

いということは言えないというぐあいに考えております。

住民の安全と環境を守る立場から、市といたしましても日野警察署とも協力をいたしまして、指導、取り締まりを含めて業者の責任と行政の役割を明らかにして問題の解決に努力していきたい、というぐあいに考えているところでございます。

また報告いたしますけれども、９日がオープンでございました。市の建設部の職員を現地調査に配置いたしました。９日の午前中の報告によりますとさほど北野街道は込んでいない。しかし、開店時には約2,000名の方が並んでおられたと、それと電車が着くたびにどっと人たちがおりて買い物にお見えになっているということ。

それともう１点は、ファミリーレストランというんでしょうか、そういうハンバーガーとか等売っているとか店がございます。そういうところは必ず駐車場を持っておりますので、そこに車を、食堂に入るんではなくて、そこに置いて買い物に行くというようなことでトラブルがあったやにも聞いております。

それから午後からの報告によりますと大分込んできた。八王子方面からの方の車が多いという情報を受けています。月曜日になった報告によりますと、土、日はやはり込む。しかし、付近の先ほど言いましたファミリーレストラン等は満席になって非常にお客さんが多いようである。しかし、最初日野市が考えたほどの影響といいましょうか――もう込んで渋滞してどうしようもならないという状態まではいってない。しかし、都営住宅のあります堤防上に車がずっと並んでいる。これはお買い物に見えた方だけではないと思いますけれども、そういう状況であるということを報告を受けております。

それから交通ルールの教育、３点目でございますけれども、この交通問題に対しまして資料とか、すなわちスライド等をつくって住民の方々に対しまして交通というもののルールの大事また自分の身を守るということの重大さと、また運転する人は、常に利便性はございますけれども、時としては走る凶器にもなるということ等を考えあわせますと、やはり日野警察の方でもスライド等が用意ございますので、今後ともこの教育というものにつきましては広報を通じ、またスライドというようなものも準備をしながら、また警察とも打ち合わせをしながら対策を練っていきたいというぐあいに考えております。以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　それでは、第２点目の通学路の問題についてお答えをいたします。

川崎街道を含めましてちょうど南平駅周辺には平山小学校と七生中学校の通学路が現

在指定をされております。大型店の開店に伴いまして、川崎街道については確かに車が込んできているわけですが、いずれにしろ自動車との登下校時における安全の確保を私どもとしては第一に考えなくてはなりませんので、今後の推移も十分に調査しながら児童・生徒に対する適切な安全指導、それから安全の確保にもし必要ならば設備等の改善もしなければならないと思いますし、それから必要ならば通学路の見直しなども学校側とも十分に協議をして進めていきたいというふうに考えております。以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　駐車場の問題でございますけれども、議員さんの方からお話ございましたように、現在は建築基準法によるところの、いわゆる用途地域での規制があるだけでございます。建物につきましてはそういう形で規制があるわけでございますけれども、青空駐車ということになりますと都の公害防止条例に基づくところの指定作業場の届け出だけでございます。

駐車場の実態を見ますと、工場とか、あるいは作業所とか、そういったところの駐車、いわゆる従業員の駐車場あるいは量販店のいわゆる駐車場、この中には建設作業等の従業員の駐車場も含むわけでございますけれども、こういうものもございます。さらには居住用の駐車場という形態もあるわけでございます。これらの問題につきまして都の公害防止条例につきましては、先ほど申し上げましたように20台以上につきましては公害防止の立場から騒音、排ガス等の被害から周辺の居住者を守るために届け出をし行政指導をする、ということになっているわけでございます。そのほかのこの駐車場にかかわる問題といたしまして、行政指導の立場は道路管理者であります都でありますとか市、それから法的な規制を行うところの警察行政にかかわると、そういうことでございます。

市のまちづくりの指導要綱で指導をできるだけ今後もするように検討はいたしたいと思いますけれども、この駐車場につきましては、ただいま申し上げましたような総合的な行政の中で成果を上げませんと住民の期待には沿えないということでございます。今後、その辺の手法等につきまして十分検討いたしたいというふうに考えております。

それから、住みよい住環境を保全するための地区計画など、ということでございますけれども、現在は区画整理を実施したところにつきましては権利者にお願いをいたしまして地区計画を導入をしております。その他の地域につきましても、土地の権利者あるいは居住者の方の御理解が得られれば地区計画を導入しようということで指導をしているところでございます。地区計画は建築協定とは異なりまして、若干の不賛同者がありましても都市計画決定だからできるわけでございますけれども、例えば駐車場の規制を

するということになりますと、なかなかさっき申し上げましたような駐車場の性格もいろいろあるわけでございますので、この辺については検討を要するんではないかというふうに思います。

市の姿勢といたしましては、できる限り地区計画を導入して、いわゆる土地利用の誘導を図っていきたい、というふうに考えているところでございます。以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　馬場繁夫君。

○12番（馬場繁夫君）　　第１点の南平駅周辺の交通安全につきましては非常に北野街道もかなり込んでまいりましたし、また特に生活道路に相当の数の車が駐車をしたり、非常に今までの環境とはまた非常に違った地域以外の方がダイクマに来たお客さんと思われる車が相当数駐車する、というふうな部分が非常に現実的に出てまいりましたので、何とかその辺も交通規制をするなり、また特に危険な場所も数カ所ありますので、そういう場所につきましても何らか対応をして、特に駅周辺に住んでいる住民の方が安心して道路を利用できるような施策も深めていただきたいと思います。積極的に担当の方でやっていただきませんと、今部長の方で行政と事業者の責任を明確にしてやっていくんだ、ということも言われておりましたので、この辺につきましては早急にやっていただきたいと思います。

それで２点目の通学路につきましても非常に大人の感覚ではなく、子供の側の目の線というんですか、そういう部分から、これも早急に安全をできれば早急に点検をしていただきたいと思います。特に土曜日の下校の時期になりますとかなりの車の方が駐車をしたり車の量も多くなりますので、この辺が一番現実的には大きな交通事故の危険性も拡大されてまいりますので、その辺を含んで総点検をしていただきたい。特にＰＴＡの父兄の皆さんとのいろんな情報を交換しながら積極的に検討をしていただきたいと思います。

それから３点目の交通安全指導につきましては非常にまだ消極的な対応なんですけれど、やっぱり交通事故を防止するということは非常に難しい部分ですけれど、施設を幾ら完備してもルールを守らないと交通事故は減っていきませんので、やはり今後とも施設整備は当然進めながら、いかに教育という部分を高めていくかということがこれからの大きな課題になるんじゃないかと思います。

日野市におきましても、交通事故防止という教育の面につきましては余り積極的に現実的にはやられてないというのが実態かと思うんです。ですから例えばいろんな交通に関するいろんな資料を展示をすることも必要だろうし、またいろんな貸し出しを、今警

察がやっているからということじゃなく、行政としてもいろんな交通の啓蒙に関する、また教育に関する資料を収集をしながら、それを一般の方にも利用していろんなところでその分を活用していただいて交通ルールの認識を深めていただくということは積極的に対応していただきたいと思います。

それと同時に、その教育という部分につきましてももう少し具体的に教育というものを対応していただきたいと思いますね。特に幼児期におきます交通安全教育というのは非常に大事だと、小さいときから交通安全に対する認識を深めることによって効果が出てくるんだと。府中市でも特に幼稚園へ上がるような小さい幼児の方に対して、いろんな角度から遊びながら交通ルールを学んでいく、またそういう認識をさせていくということをやっているそうでありますけれど、非常に効果が上がっているということも聞いておりますし、特に小学校につきましても、現在今塗り絵ですか、交通の塗り絵を配付しているというのが実態ですけれど、やはりもう少し地域的によってはいろんな対応をしているところもあるかと思うんですけれど、やっぱりもう少し行政の中でも小学生に対する単なる知識を、そういうものを習得させるだけではなく、実際に実地指導をしていく、自分の体で身につけるということが非常に特に小学生につきましては大事になっておりますので、そういう部分ができるような、例えば学校の施設に対しての対応していくとか、またいろんな学校の要望に対応できるような、また行政としては、部分を対応できるようなことをしていただきたいと思います。

また中学生につきましては特に交通法規を、交通の法規について認識できる、理解できるような部分も高めていく必要があると思いますので、その辺についての総合的などういう形にすることによって交通ルールが幼児期からそういう小・中学生の中で認識を深め、将来的にそういう人たちが交通ルールを守って安全な交通をしていくという観点からやっぱり考えていただきたいと思います。

それと同時に、今非常に大きな問題になりますのは高齢者の方が非常に交通事故が多いということでありますので、こういう高齢者に対する、いかにして交通事故が減らせられるような老人会に対して、いろんな角度からそういう例えば映画を見ていただくなり、また自分たちの高齢者の体の部分がどうしても若いときと違いますから、そういう部分の認識や横断歩道の渡り方とか、いろんな部分につきましていろんな機会に行政としても教育的な部分を深めていただきたいと思います。

父兄の皆さんが、特に大人の皆さんが交通ルールを守らないとやっぱり子供にも大きな影響が出てきますし、実際最近車に乗っていてもはっとする機会が非常に多くなって

きている。特に信号無視をしたり、大きな道路に突然飛び出したり、非常にそういう部分が最近は特に深まってきてますので、やはりそういう教育ということは非常になかなか行政でも再教育するということは難しい部分があろうかと思いますけれど、それにつきまして今後一つの大きな安全教育という部分をどういう角度から対応していくか、その辺につきましての施策がどうも不明確でありますし、もう一歩それについての対応ができてないのが実態でありますので、その辺につきまして対応について進めていただきたいと思います。

それから第4点目につきまして、なかなか実質的には事業者が利用しております不特定多数の方に利用させております駐車場につきましては、なかなか具体的な法的な規定というのがないので、今回のダイクマ出店につきましても、駐車場につきましていろんな問題点が起こってきております。その規定の仕方も非常に難しい部分も多いと思いますけれど、特に第一種住居専用地域、住宅が張りついている地域につきまして不特定多数の人が、特に部外者であります人が利用する場合につきまして、何らかの規模の規制とか台数につきましてはある程度の基準を設けていきながら、それを超える場合についてはもう少し具体的にその付近の騒音防止の問題とか排気ガスの問題とか、いろんな部類で具体的な部分を一つの基準づくりをしていきませんと、やっぱりいろんな指導をするにしても非常にまちまちな指導になってきておりますので、それにつきましてもう少し具体的な部分を今後検討する必要があろうかと思うんです。特に行政におきましても非常に対応する場所がそれぞれ部課が変わってきておりますので、そういう分につきましてもう少し調整をしながら具体的な方法を生み出していきませんと、やっぱり今後ともいろんな事業者が出てきた場合いろんな問題点が出てくるでしょうから、ただ駐車場といいましてもすべての駐車場ということだと当然な問題点がありますから、あくまでも事業者がそこに建物を建てて営業する場合、不特定的な方が利用するという一つの限定を含んだ中でその駐車場の規制なり基準づくりというものを考えていただきたいということであります。

5点目につきましても非常に今区画整理も積極的に対応しておりますが、まだまだ大枠では市内の50%についてはまだそういういろんな計画もありませんし、具体的にもありませんので、そういう地域的に余り来てほしいけれど、その地域については余り地元としては好ましい状況じゃないという部分の事業者が今後ともどんどん出店することは十分考えられますので、やはり地域の状況に応じて出店ができるような、またある程度地域性が伴うについては、行政としても一つの基準の中でまた都市計画なり全体計画と

いう中である程度阻止というか、また規模の縮小なりできるような全体計画的な部分も今後深めていきませんとなかなかその場その場の対応になって、また住民が二つに分かれて賛成、反対という大きな対立に招くようなことも十分出てまいりますので、今後の状況を踏まえながら、そういう部分につきましての新たな基準づくりというか、全体計画的な部分、また場合によっては地区詳細計画という部分も考える必要があろうかと思いますので、その辺につきまして一応5点につきまして何か御答弁があればお伺いします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　答弁ございますか。市長。

○市長（森田喜美男君）　　市街化が進み人口がふえるということになりますと交通量が多くなる、あるいは車両がまた量がふえて渋滞の要因になる。二律背反的な関係になるわけでありまして、特に都市計画そのものは大きな都市の発展の秩序と申しましょうか、誘導していく手段になるわけでありますけれど、都市計画もまだ十分に行き届いてないというのが日野市の現状でもございますので、地域的にいろいろと問題をつくり出しておるわけであります。

交通安全のことと、私はもう一ついわゆる駅に近い地域の放置自転車の行政対応、このことを今後重点という位置づけをして取り組まなければならない、このように感じております。特に今御指摘の南平というまだ地域整備が整ってないところに大型店舗が出店をし、その店舗が繁盛すれば交通渋滞は必ず伴う、こういう関係にあるわけでございまして、地域の方々の御要望に対しまして出店側にも十分その対応を責任を持つように、そういう指導する機会も持ったところであります。一定のお客がかなり広い範囲から集まるわけでありますから、日柄あるいは時間帯によっては車の渋滞を来すということはもう明らかであります。

一応の対応として駐車場とかそういうことの用意になるわけでありますが、今いろいろと御指摘のとおり、それらのみで確実な交通安全あるいは交通ルールが守られるとは、十分ではないというふうに思っております。一番効果のあるのは私は先般もちょっと見てまいりましたけれど、開店の期間だけであるのか、相当交通整理の要員を各地域に、各拠点に配置をしている。あの姿をかなり長期にやってもらおうと、こういうことを考えております。伴いましてこの交通安全教育も極めて重要なことでございます。特に幼児期に生活指導として社会ルールあるいは交通のルールをもう本能的に身につける、これがまた一番生涯を通じて効果のあることでございますので、この点は幼児教育の場などで――保育園や幼稚園で、あるいは小学校の低学年で十分その機会を与えなければな

らない、このように感じております。

都市化の傾向の中で、いわゆる近隣騒音、近隣公害、騒音あるいは排気ガスのこともちろんございますが、やっぱり基準はあるべきだと思います。また基準がないと野放しになってしまって単なる精神論だけでは指導が徹底できない。何か専門機関によって仮に日野市独自ということになりましても一定の基準は目指したいものだと、このように承ったところでございます。

老人が多くなりますと、また交通災害に一番危険の多いのは老人でありまして、老人には昔のまだ生活の感覚が残っていて、道路を横断歩道でない部分をよぎったりということがたまたま出るわけでありますが、そういうことをいろんな機会にお年寄りの方にも安全をみずから守っていただく、そのような再教育というと大げさかもしれませんが、認識の機会を定めていきたい、設けていきたいと、このように承ったところでございます。

一つのきっかけで市内の交通がどのように変化をするか、一つのテストケースでもあると思っておりますし、本来ならば必ずしも出店を好まなかったわけでありますけれど、事実が実現したわけでありますから、これによって何かいわゆるマイナスの影響が非常にふえるというようなことは許されない、許してはいけないと、このように思っておるところでございます。そのような考え方で十分指導をしていきたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　馬場繁夫君。

○12番（馬場繁夫君）　　ありがとうございました。交通につきまして日野市の中で日野市安全計画という62年から65年に対して安全計画というのがありますが、これを少し深めながら実施計画の策定に結びつけて少しでも交通安全ができるように進めていただきたいと思います。

環境問題は大きな曲がり角に差しかかっているとも言われております。それは個別の規制で解決できるという問題はほぼ一段落し、あとは原因が複雑に絡み合ってきたり、影響も長期潜在的であります。また地球的規模で広がりを見せている状況とも言われております。

一方、物質的な充足の後は、より快適な環境を求める声がだんだん高まっていくところであります。その結果、環境問題として取り扱う幅が大変広くなり、直面の深刻な問題から豊かな潤いのある環境づくりへと大きく広がるところであります。市民にとりまして環境とは何か、どうあるべきか、改めて再検討することが今求められ始めているのではないでしょうか。生活環境権ということも最近少しずつ言われ始めてきております。

事業者、市民、行政の責務を明らかにしながら、行政はより市民意識を高揚し、深めていくことが大事であります。

非常に環境問題につきましては大きな動きが変わってきておりますし、日野市におきましても日野市環境保全に関する条例がありますけれど、やはりこの中でも事業者、市民それから行政の責務もうたわれております。しかし、また基本的には公害という部分からのにおいがまだまだ強い環境保全条例ということであります。もう少しこの辺の環境に対する部分につきましてもう少し行政も高めていきませんと、なかなかそれは認識が難しくなっておりますので、高めていただきたいと思います。特に「快適な環境を創造する」ということが目的の中で歌われていますけれど、その快適な環境というものがどういうものかという具体性について何ら具体的なものがありません。ですから、今後じゃあどういうものが快適な環境なんだ、ということを行政ももう少し具体的な一つの目安というものをつくっていただきたい。そして一歩踏み出した形の中でまた環境権という観点からの環境を見つめ直してほしいと思います。

ですから前の一般質問の中でも快適な環境ということで東京都が進めております部分につき若干一般質問させていただきましたけれど、もう少しある程度形としてどういうものが快適なんだ、ということが形としてある程度見にくい部分もありますけれど、見えるような明確な部分をまず設けていただきまして、それにつきまして各部課で具体的に日野市の環境を保全し、また快適な住環境をつくっていくという部分を進めていただきたいということであります。やはりばらばらな中で行政が幾ら進めていっても、やはりなかなかそこにおきましては一つのものがつくり上げることがなかなか難しさが出てくると思いますので、もう少し具体的な環境保全という部分と快適環境ということを、その辺につきまして何か市長のお考えがあればお聞きしたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　私はかなり環境には深い興味を持っておるつもりでありますが、日野市の環境、いかにこれからアベニティーという快適環境という言葉がございますが、やはり素材は日野市の特色として「緑と水」ということが十分素材になり得る。その自然条件をなるべくまちづくりに豊かに取り入れて、そうして、その環境の中でまた健康や文化が育ち発展をすると、こういう手法こそ環境をよくする手法だと、このように考えておるわけでございまして、まだ未完成という状況ではございますけれど、だんだんとそういう条件が具体的に目に見える形で進みつつあると、このように御理解をいただきたいところでございます。

特に市民が環境権という一つの権利意識を持って、そうして行政に目を注いでいただく、あるいは自治の能力の範囲で地域地域の環境に、環境を守ることに参加をしていただく、こういうことが本来の自治の姿だろうと思っておるわけでありまして、環境緑化協会等はまさにその役目を果たす組織となり得るというふうに期待を申すところでございます。

きちんとしたまだ数値としてお答えをできる内容の整理を持っておりませんが、指摘をされるところに全く同感でございますので、今後とも一層努力を励むと、こういうふうにお答えを申し上げたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　馬場繁夫君。

○12番（馬場繁夫君）　　どうもありがとうございました。一つの例としまして東京都におきまして具体的に快適な環境ということを、環境の総合評価の体系ということができております。総合評価の中には安全面の評価、衛生面の評価、利便性の評価、快適性の評価それから個性面の評価、人間関係の評価という大きく六つの面からそれぞれの施策をされているわけです。そして、それを総合的に一つの環境を評価していく。特に市の市内におきましても緑があるからすべての環境がいいということも一面には言えないわけですから、その利便性も大事ですし安全性も大事であります。ですから、すべてがどの場所でもすべてがそれをクリアーするということは現実的には難しいですから、結局総合的に評価をして日野市内が総合的には同一レベルになれるんだと、どこについても例えば利便性があってもそこは緑が少ないけれど、総合評価ではある程度評価できるんだと、そういう具体的な部分をこれから進めていっていただきたい。そうすることによって日野市の環境保全に関する条例も具体的になってくると思いますので、特にいろんな建物を建てるにしても色などについても都市の景観ということも非常に大事なものでありますので、その辺の有無をもう少し深めながら全体計画としての位置づけを明確にしながら環境保全を深めていただきたい。

また、それと同時に市民の皆さんに、非常に市民の皆さんもなかなかそれぞれ難しさの部分がありますので、もう少し市民の方もそういう市民の方の役割というか、認識も深められるような行政のいろんな市民の高揚を図れるような施策も今後深めながら全体として住んでよかったという誇りが持てるような、そういうまちづくりに今後行政として積極的に取り組んでいただきたいと思います。

これで質問を終わらせていただきます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　これをもって３の１、生活環境と交通安全対策についての

質問を終わります。

一般質問４の１、日野市の行財政について問うの通告質問者、天野輝男君の質問を許します。

〔６番議員登壇〕

○６番（天野輝男君）　　通告に従いまして一般質問させていただきます。

日野市の行財政について問う。市制25周年を迎えるに至り大変喜ばしい限りであります。この25年間を顧みますときに、東京オリンピックを契機に日本では高度経済成長期を迎えました。消費者物価比数、これは総合、トータル、32品目あって、これを総合、トータルですね、これでいきますとちょうど昭和36年は総合で59.7％であります。昭和37年は総合で63.7％、昭和38年は総合で38.7％、ちょうどオリンピックの年ですね。昭和39年度は71.5％であります。昭和40年度は総合で76.7％、昭和41年、84.4％、昭和44年、93.3％、そして昭和45年度では100％にいっている。そして47年度は111.4％、昭和48年度は124.5％であり、昭和49年度は152.7％、約３倍に達したわけであります。

このような経済成長の中で働き手が不足していきました。そのために仕事を自由に選ぶことができるようになり、子供たちにはかぎを預けて夫婦で働くようになりました。日本のこのような高度経済成長とは反して、日本の家族構成にひび割れが入り崩壊していった家族も多くありました。その原因は何であったかを知る必要があると思います。働き場所があるために、子供の教育費を得るため、文化的安定した生活を得るため電気製品をローンで買ったり、また年間こつこつためた頭金ができたら家を購入する、そして残りはローンで支払うと、そういうパターンであります。家を買えば当然税金がかかってくるわけであります。十二分に検討したつもりでいたその税金が支払えない、銀行で借金をする、銀行で借りられない部分はサラ金やそういうものに手を出して、そして借金に追われてしまっていく。そして奥さんは少しお金がたくさん働けるようなそういう場所に働きに行くと、ローンはどうにか払っていくにもかかわらず、今度は夫婦の間でトラブルがふえてきて離婚になったり、そして家が差し押さえられて家族がばらばらになっていく。これらのことが私たちの身近から出たときには大変ショックなことでありました。このような日本民族の伝統ある家庭を崩壊していく、これらの日本はどうなっていくかという気がしておるからであります。

日野市の行政もかじ取りを誤ると、私たちの世代では解決できない、財政の確保ができぬまま次の世代に借金を残すのではないかという心配があるわけです。

そこで質問したいことは、日野市の公共の施設、特に公会堂、市民会館、地区センター

について質問いたします。

今日までの利用状況ですね、公民館、市民会館の、これをまず質問いたします。それから順にやっていきますので、このことについてお答え願いたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　天野輝男君の質問についての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　それでは、市民会館それから七生公会堂でしょうか、それの利用状況ということでございますので、お答えいたしたいと思います。

市民会館それから七生公会堂でございますけれども、これは日野市市民会館条例によりまして、市民文化の向上を図るために施設の利用、公開また市民の文化活動を推進するためのほか、市民文化の向上に必要な事業を行う目的で設置されているものでございます。

その運営内容でございますけれども、大小ホールそれから展示室、会議室と一般利用者への貸出業務と、それから館自体の直接企画実施しております公演事業を要綱で設置されています。これらの事業でございますけれども、62年の実績でございますけれども、既に62年度事務報告書で報告済みでございますけれども、施設全体の利用状況は開館日数に対します年間の平均利用率が、これは96.7％でございます。利用者数では15万4,147人の方が利用しております。１年間に市民１人が年１回は利用した数字になろうかと思います。なお使用料の収入でございますけれども、総額が3,645万9,000円でございます。収支の比率では36％になっております。この収支比率の状況を近隣の他市の状況と比較してみますと、調査した９市の中では４番目の成績となってございます。

それから自主事業でございますけれども、昭和62年度におきましての公演の状況でございますけれども、年間13の事業を行いまして公演されております。その総事業費は3,573万2,000円で、これに対しますチケットの売上収入の割合では76.4％でございます。入場者数は１万1,327人、１事業の平均では871人の方が利用されている結果になってございます。

それから一方、七生公会堂でございます。62年度の利用状況でございますけれども、年間平均の利用率が開館日数に対しまして54.7％の利用でございます。利用された人員ですけれども、２万6,524人が利用されておりまして、使用料の収入は658万3,000円でございます。収支の比率では18.1％でございます。この数字でございますけれども、市民会館の状況と比較しますと若干利用成績が低くなっておりますけれども、この施設が定数300席のホールでございますので同規模の施設が京王沿線にたくさんございます。

多摩市、府中市それから調布市がございます。これらの関係と61年の市民会館の開館以降、市民の利用形態が市民会館に移っているということも大きな原因ではないかなと、このように考えております。

以上、２施設の利用状況をお答えいたしました。以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　天野輝男君。

○６番（天野輝男君）　どうもありがとうございました。私はこれらのことをあえて質問させていただいておりますのは、やはり少額の金額だからとか、私は今後こういう公共の施設に対しても甘えがあってはならないということを私は強く感じております。また、これらの施設運営に当たっては、私は市民の要望にこたえることが一番大切であると思います。市民サービスをするということが革新市政のうたい文句であります。

私のところにある人、知人から、森田市政に対する憤慨の電話がございました。その内容をよく聞きましたら、市民会館で９月25日、フェイブザ盲導犬セカンドチャリティーコンサートというものが開かれたそうであります。このときに盲導犬の全国の副会長というのが日野におりまして、その方が、盲導犬は要するに目の不自由な方に日野市では貸し出しをしておるんだそうですね。そして、その盲導犬を理解していただくとともに、実際この盲導犬を訓練するには大変なお金が訓練にかかるんだそうですね。そういうために目の不自由な人のコンサートですから、市民会館の中に要するに盲導犬で案内させていって皆さんに盲導犬を紹介したかった。そしたら実際この会館、そういう中に動物を入れてはならないという規則が多分あるんじゃないかと思うんですね。そのためにそれを断わってしまった。だから日ごろ弱者の立場とか言っておる森田市長はどうなんだと、色あせてきているじゃないかということを私は言われて、私も大変困ったんですね。

その中で私もその方の、電話でがんがん言っているわけですから少し冷静に私も考えながら、まだ市の当局としては多分市の市民会館の使用規則の中に動物を持ち込んではならんというものがあって、そしてそのとおりに市の職員がお答えしたんだと思います、ということを言ったんですね。そして大変失礼しました、ということでその方には説明をして納得していただいたんですけれども、やはり私は、特にこういう彼ら、ボランティアですね、盲導犬を訓練したのは自分のお金で、そして盲導犬は目の不自由な人に自由にお使いください、という形で市の方にも要望しているわけですから、やはりこの施設を使うに当たっては、今後はやはりどういう趣旨で会が持たれるのか、そういうところも十分考えてあげて、そしてその会の目的に十分こたえられるような配慮が必要じゃないかなということを感じたわけであります。

革新市政も14年間を迎えて、14年間続いてまいりました。そこで一般市民にとりましては、14年目ですね。（「15年」と呼ぶ者あり）14年目で来年が15年目だよ。来年のだから４月以降が16年目だよ。（笑声）森田市長になって何か便利になりましたか、と多くの人々からよく質問を受けます。また市議会議員が何にでも力不足なので、行政の仕事が他市と比較しておくれているのか、半分は市議会議員の責任でもあると私はよく言われるわけであります。行政の長の役割、市議会議員の役割等説明したいときもございます。言いわけをすると、かえって力不足なので言いわけしているのかと考える人も多いのであります。革新市政14年間の政治に（「16年」と呼ぶ者あり）16年間の政治に終止符を打つことが日野市の活性化につながると思いますが、森田市長は５選に出馬する意思が十分に伝わってまいります。

そこであえて私は質問するわけであります。冒頭に日本の核家族の崩壊していった一般的な事例を説明いたしました。初めから終末の結果が理解できる人はだれもいないのであります。私は、日野市も、日野市の財政も15万都市では数年前までは指折りの財源であったことを理解しております。しかしながら、他市よりも公共の施設がおくれておることは間違いないわけであります。

私は、そこで府中市の場合を例にとりました。（「府中はギャンブルでお金があるんだ」と呼ぶ者あり）そればっかりじゃありません。（笑声）この文化会館というのは直径１キロに一つつくるという目的で、現在11施設あります。これは一つが大体10億円前後であると聞いております。体育館については７施設あります。総合体育館は昭和41年につくったんですね。だからその当時につくれば日野市もとっくにできたわけですけれども、（「だれだ、そのときの市長は」と呼ぶ者あり）（笑声）そういう面でこの規模も総合体育館、昭和46年４月にできました。要するに規模は5,159.82平米であります。敷地面積は６万3,431平米であります。総工費は46年の金額ですから４億1,600万、駐車台数が200台であります。市民会館についても完成したのが41年１月であり、規模が何と建物が2,270.87平米であります。敷地面積は7,292.39平米（「平米じゃわからない」と呼ぶ者あり）３で割ってください、3.3で。収容が1,023名であります。工事費は４億5,000万。そして、この管理運営は委託しておるんですね。この委託管理が私はとても日野の場合も、やはりこの施設についてはやはり先ほど申し上げましたように少ない金額だから、そういうんじゃなくて、やはりそういう細かいところから改める必要があるなということを感じておるもので、このように質問しておるわけです。

私は、このような公共の施設を考えても必ずしも日野市は財政の豊かさに日野市民が

比例して貢献されてないということを感じているわけであります。そこで私は森田市長にも今後も頑張っていただきたいと、このように思うわけであります。

そこで私は、森田市長がやっても今後はそれほど甘い状況の中にないということを申し上げたいわけであります。日野市の基本構想を調べても、府中市のような施設はまず文化会館が10、だからもっと恐らくできると思うんですね、10。体育館が七つです。南平体育館よりもっと大きいですよね、府中にあるのはですね。それがもう既に七つあるんです。そういう施設はまず私はできないと思うんですね。だから、そういう面で私は市長がかわっても次の人はこれは大変だなということを感じているわけであります。そして将来の展望に立って、この日野市の財源を効果的に生かすためには今までの施設のつくり方を改める必要がある、とこのように考えております。そして、まずは第１としては、市民の要望そして市民の意見が十分生かせられるような施設、そして専門的な方の意見を聞きながらつくっていくと、そのようなことをまず第１点に挙げたいと思います。そしてその施設は、やはり20年たっても30年たっても、これを利用する人たちが十分満足できるような施設、それはやはりこの市民の意見が生かされている施設であるならば、やはり活用する人たちも喜んで私は使うと思うんですね。だから、あくまでも市民の考え方が生きているという、そういう施設をつくることが必要であると思うわけです。だから早くいえば二世三世にまでも利用できるような、そういう施設が必要であると思うわけであります。そして市民が活用しやすい施設に徹すること。やはり先ほど盲導犬のことでいろいろ質問いたしましたけれども、やはり要するに集まった、その開催する人の趣旨を十分生かせられるようなものを、やはり盛り込んでいくということが必要であると思うんですね、今後は。そして第４としては、人件費はなるべく委託して一般財源から負担しないこと。ボランティアや市民の協力者を得るように育成するということが必要であると思うわけです。（「議員の数も減らすか」と呼ぶ者あり）

私は、日本国も急激な高齢者社会を迎えております。その中で市民要望の中で体育関係、文化関係、福祉関係の分野で活躍できる人がふえてくるものと確信するからであります。偏った市民の意見を生かすのではなく、一般市民の意見を生かすことこそ大切であります。そして財源の確保とともに、誤りのない方向に進んでいただきたい、このように考えております。

そこで市長に、今私が申し上げましたような中から、ぜひ今後どうしてもこういう施設というものについては人件費がかかってくるわけですね。そして限られた中でこの運営をしていくということになりますと、やはりボランティアとか委託しながらその会に

沿ったような市民の方もいらっしゃると思うんですね。そういう面でそういう方を育てながらいっていただきたいなということを私感じておるわけですね。ぜひ市長に今私がこの４点について申し上げました、まずこの施設をつくるに当たっては、市民の意見が生かされるような建物であってほしいと。その意見というのは、一部の森田市長を支えている人たちの意見のものでなくて、広く市民の中からの意見を聞きながら施設をつくり、そして運営していただきたいなということを感じておるわけですね。その中に、そうしていくならば必ず私はこの施設の趣旨に沿った協力者やボランティアで協力してくださる人もふえてくると、このように思うんですね。そのあたり、森田市長のお考えがありましたら教えていただきたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　今、毎回財政の将来ということに心配をされて、いろいろな形で御提言をいただいております。残念ながらもう少し広範な視野で物を見ていただき、市政の今まで来た道あるいは将来行く道を視野を広げて見ていただくともっとよくわかるんではなかろうかということを思うわけであります。

初めに言われました市民会館に盲導犬の入るチャリティー行事があると、これはもう私の耳に届きましたせつなに、それは入れなさい、というふうに答えて実施しておりますので、支障があったということは全くございません。万事がそのとおりでございまして（笑声）思い違いがあってはお互いに正確な了解ができないということだろうと思っております。

もちろん健全財政の運営の中でいろいろな施策を行うわけでございます。これらはすべて市民本位に、そしてまた議会の賛同をいただいて成り立ったことでございますから、偏見に立ったり自我的な感覚で行政に担当したということは、もう全くないわけでありまして、その点はよく御理解をしておいていただきたいと思います。

まだまだまちづくりの課題、特に基盤の整備事業、今取り組んでおります下水道の、公共下水道の完全普及や、それから区画整理方式によります都市整備、これらの事業は当分の間、日野市の大きなまちづくりの根幹をなす仕事でありますから、そのためにまた莫大な財源を要する、ということもあわせ考えまして市政全体の運営、その中のまた財政の運営、これらについては十分配慮していくことはもう言うまでもございません。おかげさまで日野市の持っております立地条件と、それから過去の行政運営、かじ取りと言われましたが、かじ取りもおおむね妥当であったということによって、日野市の将来はますます期してまつことができると、非常にすぐれた自治体になり得る可能性と資

格要件を持っておるということを私は本当にありがたく思っております。

まず治水という仕事につきましては、これまで根川の改修等を行ったことによってほとんど浸水地点をなくすこともできました。今、下水道事業に取り組んでおるわけでございまして、これもこれから約10年の間に日野市内の全域に完成をさせるということは十分可能であると見通しております。稼働の始まります、処理場の稼働が始まります67年でございますが、そのときには65％の達成度を期したい、これが当面の大きな眼目でございます。区画整理、今３事業施行しておるわけでありますが、なお引き続いて東町あるいは万願寺第２、西平山と施行の手順を進めていくことは御承知のとおりでございまして、着々ととは必ずしも言いがたいわけであるかもしれませんが、これらの事業を促進をすることによって、基盤整備が日野市ぐらい整うところはないぐらいではなかろうかというふうにも誇れると思っております。

財政の健全化ということはもう申すまでもないことでございますから、その中の経常経費部分をなるべく身軽にして、そうして市民生活のための施策を厚くしていく、ということはもう行政運営の基本だと、このようにも考えております。

御提言のいろいろな施設あるいは行事に市民参加を広く求めて、そうして経費の節減という観点からだけではなくて、自治の発展のためにそういう市民の英知を活用させていただく、このことは特に私どもの目指します市民自治のためにも非常に意義のあることでございますので、そのようにこれはもうますますその運営についても期してまいりたいと、あるいは業務の部分委託をいたしまして、そうして、なるべく効率的な行政を進めていくということも大切だと思っております。

けさ方の市内老人クラブが公共施設の清掃活動をしてくださるということを取り組まれまして、激励と感謝の意をあらわしてまいったわけでございます。老人クラブが地域の環境美化に目を向けていただくと、こういうふうなきっかけができますことは市内の市民自治の上でも本当に有意義であると、こう思っておりますので、激励を申し上げ、また十分敬意も表し、器具機材等の提供もまたあわせ行って地域社会に活躍をしていただくと、有効なことだというふうに考えております。

多々御指摘の通りの足りない点もあろうと思っておりますので、なるべく市民の方々の広く意見を聞き、それにおこたえをすると、それを公正におこたえをする、これが自治体行政のあるべき姿でございますので、一層の勉強と努力を重ねて責任を果たしていきたいと、このように考えますので、よろしくお願いをいたします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　天野輝男君。

○６番（天野輝男君）　　盲導犬につきましては大変私も失礼いたしました。ということは、私のところに１日に３回も４回も電話がありまして、そして、そういうのが何日も続いて、それで私どうしてもその方と私が電話しても会えなかったりなんかして、そしてこの会が終わってから連絡があって説明しましたら、要するに福祉を唱えている市政で、そういう福祉のために利用させている盲導犬を使っていただいているそういう中でそういうことがあったんですよ、ということだったものですから、私はまるっきり使えなかったのかな、というような錯覚をしてしまっておったもので、大変失礼いたしました。

今、森田市長の話を聞いておりますと、何か私が偏っているようなことを言っておりますけれども、特に私は言っておりますのは、やはり府中市は府中市であるかもわからないけれども、やはり日野市の財源の、かつての豊かな財源であったならば、府中市だってこのぐらいできたんだから、このぐらいの施設はつくってもいいんじゃないかなと思っているから、私はあえてこれらのことを質問しておるわけです。

実際、今後この日野市にこんな要するに文化会館１億円以上のそういうしっかりした文化施設が、文化センターというものが１キロ管内には一つずつつくっていくというふうになったら、日野市だって10個やそこらつくらなければ恐らく間に合わないと思うわけですね。だから、そういう面から見ましたら、それが果たしてできるのかということですよ、日野市の財源、今までにですね、この財源で十二分のそういう施設ができて、市民が利用できるような施設ができるのかと私は一番ここに遠回しに言っておりますけれども、このことを私は言いたいわけですよ。

日野市の財源で森田市長が16年間やっていただいたために――確かによくなった面も確かに私たち認めておりますよ。しかしなら、これから日野市の住民だってやはり家を持てない人、そういう人もたくさん出てくるわけですね。そういう人たちは何を利用するかといったら、やっぱり公共の施設を利用して、そういう中からやはり自分の子供たちの情操教育をするということが一番必要になってくるわけです。公共の施設というのは一にも二にも利用されると思うから、私はあえてこれらのことを質問しておるわけであります。

そういう面で私は、まだ後続いてあるものですから、この辺にしておきますけれども、やはり森田市長の今までの施設のつくり方を見ましても単発的にやっておる、こういうところにやはり市民の十分な意見が生きてないな、ということを私は強く感じているわけであります。

そういう面でぜひ――すべてが悪いと言っているんじゃありません。しかしながら、私たちが一番こうしてほしいなという問題が解決してない。そこに私はこれらのものを取り上げたわけであります。あとでまた続いてやりますものですから、この質問はこの辺で終わりまして、やはり公共の施設を建設するという中で私は道路網の整備というものが日野市では大変おくれております。また赤道と呼ばれております道路の整備が急務であると私は思うわけであります。

先日も松山線ですか、訴訟の和解金を支払った記事が載っております。私は次の世代のために、やはり公道と民地という境界をはっきりさせておくということが必要であると私は考えております。そういう面で、今赤道と呼ばれている道はどのくらいあるのか、このあたりを教えていただきたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　建設部長から御答弁申し上げます。

赤道ということでございますが、道路の種別につきましては明治９年の通達によりまして、そのときは国道、県道、里の道と書いて里道と読みますけれども、里道の三つに分けられたわけでございます。里道は旧道路法、大正８年でございますけれども、施行された際にこれが市町村道として認定をされたわけであります。現在のは実質的には、この赤道という用語、また里道という用語は使われておりませんけれども、不動産登記法第17条に規定するところの、いわゆると公図、これには里道に赤い色が塗ってあります。絵図に赤い色が塗ってあります関係で赤道と言われているわけでございます。里道といいますと農村地帯で水田とかの畑を区画している２メートル前後の、１間前後の幅の幅員が多いわけでございます。

管理面でございますけれども、赤道、これも当然市道認定をしております。幾らぐらいあるかということでございますが、統計のあれによりますと、日野統計によりますと延長406キロ、約。件数といたしましては約2,200路線あるというぐあいに考えられております。その中には企業とか個人所有の中に取り込まれている道路があることは事実でございます。今御指摘のとおりでございますので、日野市といたしましては、これの管理の明確をするというような意味で、名前を出しては失礼ではございますけれども、日野自動車とかオリエント、富士電機、このようなまず大きいところから整理をしていこうということでその手続は終わっておると、これを手始めにやっているということでございまして、今後とも、このような管理という面につきましては十二分に意を注いでいきたいというぐあいに考えております。以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　天野輝男君。

○６番（天野輝男君）　　2,200件そして406キロメートルですか、406キロメートルでしょう。はい、そうしますと406キロメートルといいますと、これは相当の私は坪数になると思うんですよね。やはり私は先ほど申し上げましたように、やはり我々の代では恐らくこの問題も解決できないかなと思うんですね。しかしながら、やはり今から手がけなければ、いつこれを手がけるんですか。そういう面で、私はこういう問題もやはり次の世代の人が受け継いでも、やはり十分それを活用できるような方向をとってあげるのが私たちの道であると思うから、あえてこういう質問をしておるわけです。手始めに日野自動車、オリエント、富士電機をやるということでありますから（「終わってるの」と呼ぶ者あり）これはもう終わっているのね。終わったんですか。（「終わっています」と呼ぶ者あり）じゃあそうしますと、この次はそれ以外のところも徐々に手がけていくということなんでしょうか。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　私の今の発言が誤解を招いたようでございます。406キロあるというのは市道の延長でございます。

赤道という言葉がないんで私の方も困っているわけでございますけれども、里道ですね、先ほど言いましたような里道、これを大正何年でしたか、大正８年の旧道路法によりまして市町村道と読みかえたわけでございまして、処理されていないのが406キロで、しかも今言いました本数がすべて処理されてない――ほとんどは処理されているのでございます。処理されてないのがごく一部であると、それのやはり一部であったとしてもこれは市有財産でございますので、これらの管理には徹底を期さなければならないということを申し上げているわけでございます。以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　天野輝男君。

○６番（天野輝男君）　　わかりました。ありがとうございました。

そういう面でやはり私が知っていただけでも二、三件はあるわけですね。そういうところがあるものですから、あえてこれらも要望したわけであります。ぜひこういう問題にも真剣に取り組んでいただいて、そして、すっきりした形で次の世代に渡せるようなものに管理していかなければならないということを感じております。

これに関連いたしまして栄町の地区センターの改築の件で、これは建設委員会で可決されておるんですが、附帯条件として隣の住んでいる、公園の隣に住んでおる方のこの住宅との借り上げが私たち条件を、それを出しておるんですが、このあたりは、じゃあ

もう解決しているのかどうか。解決できておりますか。地区センターをつくる建てかえの件の、隣地に住民がおったと思うんですね。そういうことが私、まだ解決できていないんじゃないかなと思っておるんですが、しばらくあのところにも行っていませんからわかりませんが、解決できているかどうか、お答え願いたいと思いますが……。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　答弁を求めます。総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　総務部長からお答え申し上げます。

栄町の自治会館が建っている土地につきましては、既に昨年の11月に管財課が調査をいたしてございます。その結果わかりましたことは、栄町四丁目の市有地、これは普通財産でございますけれども、市有地として376.32平米の広さがございます。この広さにつきましては、この土地につきましては昭和50年の５月に光土地という会社から市が買収をしたものと、さらにその会社が市に寄付をしたもの、これを合わせて376.32平米ございます。

今御質問の中に出ました隣接する栄町四の13の12にお住まいの高橋作太郎さんの土地、この土地には既に住宅が建っております。その住宅が市有地を利用して、利用しませんと出入りできないような形に一見見えるのであります。ところが、よく調べてみますと、この市有地の北側用水沿いに戦前昭和18年に道路があったことが判明をいたしております。その道路の幅が約４メートルございました。しかしながら、戦中戦後の食糧難の時代に余り利用されてないその道路を畑として耕作したと思われる地元の方の証言がございまして、だんだんその道路が畑に変わってしまいまして道路の形をなしてない。それが現在までに引き継ぎされておりまして、高橋さんのお宅はその市有地を利用して斜めに横切って入ったり出たりする、こういう形になってきているわけでございます。

しかしながら、この高橋さんがお宅を建てたときには建築確認申請をきちんと受けておりまして、その４メートルの道路から進入できるような確認申請を受けておるわけです。東京都の西部建築事務所の資料を見てみましても昭和18年の12月に建築線の申請、現在の位置指定道路がなされておりまして、その後にこの位置指定道路が廃止されたということも聞いておりませんので、現在においてもこの道路敷４メートル幅は有効と、このような見解を持っているわけでございます。境界確定がいまだ済んでおりませんけれども、建築等には直接的な支障はございません。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　天野輝男君。

○６番（天野輝男君）　　確かに建築には支障はないかもわからないけれども、要するにあそこは児童館の方の土地を使って出入りしている、荷物を運んだり。だからやはりこ

ういうものはずるずるずるずる先へいけばなかなか解決できない私は問題と思うんですね。そういう面で建築確認とれているからそれでいいというものじゃないと思う。やはりそこは、やはりある程度今後は塀をするとか、そういうふうにしてやはり公共の用地また民家の要するに権利を持っている土地とをはっきりと分けるということが私は一番必要であると思うんですね。

とかくこういうややっこしい問題については当たらずさわらずというようなところがだれにもあるわけです。しかしながら、私はこういう問題はやはりなるべく早く解決しないことには、あのあたりもやがて区画整理が始まるかもわからないけれど、多分できないと思いますし、やはり今の段階からしっかり手を打って解決しておくということが私は必要であると、それが要するにあそこの地区センターを改築するときの私は条件だったと私も思うわけです。そういう面で、私はぜひこういう問題も解決していくように努力していただきたい、このように要望しておきます。

日野市における公共の施設はまだ総体的には少ないと思われます。土地区画整理事業が進捗する中で、限られた公共の用地を有効に生かすためには日野市の基本構想の考え方を十二分に活用することが必要であります。高幡区画整理事業内の公共用地は南部病院の予定地であると今議会で森田市長から聞いたわけであります。その内容も急激なことで、何か私たちがばかにされているように感じているわけであります。やはり市民の有効な公共の用地を確保するということは大変利用価値があり、そして利益にもつながるわけであります。そういう中で、私は公共の用地を有効に利用するという面から見ても、やはりこの高幡不動内の、高幡区画整理事業内の公共用地についてはもっとやはり真剣に考えてみる必要があるのではないかなということを強く感じているわけであります。

ことしより市立病院の特別対策委員会が発足いたしました。市立病院はもう私たちが再三言っておりますように、年間５億円からの赤字を一般財源から繰り入れているわけであります。これは10年続いたらもう50億円も財源が消失してしまうわけであります。そして、こういう中で土地はまだまだ高騰するでしょう。そういう中から公共用地を確保するということは大変難しい、このように思うわけです。そういう面で、私は物事をつくるということについては、やはり慎重に審議を進めながら、そしてどれを優先してやるかということをやはり決める必要があると思うんです。そういう面で、私は日野市の基本構想の意見をまとめたものを十二分に生かすということが先決じゃないかなということを考えているわけであります。

市立病院の赤字を解消するための中間報告書なるものが出てまいりました。やはり高度の医療を施すという規模にはやはりあの施設では中途半端なんです。そしてもう建物も老朽化しているために、やはりあの建物を本格的に考えなけりゃならない、そういう時が来ておるんであります。私はそういう面から見まして、やはり人命を守るという面から見まして、やはりあの日野市の市立病院の施設であると、要するに集中治療室もない、そういう中でまたそれを無理やりつくるということになるといろんな面でしわ寄せがくる。そういう中で、やはり私は日野市の市民の生命を守るという立場から物を考えるならば、やはり市立病院の建てかえを本格的に考える必要があると、これをまず第一に持ってくる必要があるということを私は言いたいわけであります。

確かにこの南部の医療圏につきましては、今確かに道路も未整備のままで向こうの方に大変迷惑をかけておると思いますけれども、やはり200坪ぐらいの土地に病院をつくるということになりますと恐らく100ベッドです。そして科目が全部恐らくできないと私思うんですね。そういう特にこれからの高度医療というのは、要するに集中的に治療できるそういう無菌状態なそういう施設があると、やはり、ばい菌に感染したり、そういうことで十分に治療ができて、要するに生命を10年か20年たったらもう亡くなってしまった人が十分そういう形でだんだんだんだん体力をつけながら意識を取り戻しておるわけです。そういう施設はまず私はできないと思うんですね。

そういう面で高幡の前につくるという市長の意向でありますから、あえてこういう問題を質問しておるんです。そういう意味では市立病院よりもっと小さいものができる、それは民間である。その民間の企業で土地を融資すれば、あるいはその病院が来て経営が成り立つかということになると、土地は今高いから多分経営は成り立つでしょう。しかしながら、そういう病院が二つぐらい同じようなものがあったって日野市の市民のためにならんですよ。なぜならといったら高度医療ができないからです。だから、そういうものをつくるより、やはり私が再三申し上げているように、日野市の生命を守るにはしっかりした施設、集中治療ができるような施設、そういうものがまず第一の条件として挙げられるわけです。

私は、そういう面でこういうものをつくるということについては、やはり独断でやるのではなくして、やはり日野市には医師会もあります。また市立病院もあるわけです。そういう方々の意見を聞きながら、まして市立病院の赤字もどう解決したらいいかといったら、いわゆる日野市の開業医の方が市立病院に自由に利用していただいて、患者を送っていただけるような体制をとれば50人、500人、1,000人のベッド数を確保したって極端

な話ね、それを患者が治った時点で回復したんで戻してあげれば十分これは市立病院としてだってやっていけるんです。赤字分が５億円に、今赤字分の５億円なんていうのは帳消しにできるんですよ。だからそういう面から私はそのためにはよく専門家の意見を聞きなさい、ということを申し上げているわけであります。

そういう面で、私は去年の特別養護老人ホームの件を見ましても突発的に出てくる。私は一部の市民の人気取りの政策ではないかと、このように感じているわけであります。だから、やはり南部の医療病院というものを考える場合にも、今中谷さんが言ったから、私は南部医療病院をつくるなと言っているんじゃないんです。まず市立病院の場所をあの場所では手狭だからもう少し南部の方にも利用できるような場所に移しながら、そして、そこをつくった、そしてまだ多分不足している部分はできると思うんです、日野市のこの面積からいきましたら。そういうところにこの病院を確保してあげれば市民サービスが十分できるんじゃないかと、このように思うから私はあえてこういう質問をしておるわけです。

森田市長は、やっぱり一部の人の人気取りにやっているとしか私は思えないんです。だからそういう面で私は森田市長がこの問題について最後まで取り組むというのであるならば、私たちもやはりそれなりの考え方を持っていかなきゃならないなということを強く感じております。そういう面で、この面について、この間、森田市長の方からも御回答いただきましたけれども、もう一度御回答をいただきたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　発言の中で私の一番腑に落ちない言葉は、何か人気取りということで仕事をしているということは、もう全く非礼きわまると言いたいぐらいであります。日野市民の要望に沿って議会の議決を得ながら確実正確にやっておるわけでありますから、偏見を持たないようにしていただきたい。（「まだあるんだよ、市長」と呼ぶ者あり）

立場がありますからいろいろな御意見のあることはもう当然でございますし、それを十分に傾聴をして結論に導くということが当然のコースでありますので、すべての仕事はそのような経路を経て行ってきておる、というふうに理解をしておいていただきたいと思います。

地域に医療圏という考え方があって、そうして、その医療圏で一応の医療責任の果たせる、医療サービスの実施できる、そういう条件づくりを進めなければならないということはもう当然であります。今東京都ではそれを南多摩医療圏という範囲設定で計画が

進んでおります。その中に我々は日野市民としての日野医療圏というものを矛盾なく位置づけていきたいと、こういう考え方を持っております。それが300床のこれからの病床確保の要請ということでございまして、その配当を市立病院に約100ベッド、南部地域病院に150ベッド、そして民間の既存病院に50ベッドというふうなごく原則的な配分を考えておる。これはもう既に地域保健協議会あるいは議会にもお答えをしているところでございます。また地域保健協議会でもそれは一応了承されておると、こういうことでございまして、先ごろ南部地域病院の請願採択もありましたし、それから南部に医療が希薄である、という状況を将来にわたって解決をするために地域病院を設定をいたしたい、そういう考え方を数年来持っておったことも事実であります。

今回それを現実に導く手段として高幡の区画整理事業の中に約2,000坪の公共用地を確保しておきたいと、こういう考え方を先般行政報告として報告をしたところでございました。私は、それによって市立病院の将来の改築計画がもう非常に見通しよく取り組めることになると、このように認識をいたしております。市立病院はもちろん経営を休むことなく運営をしながら、なお改築という手段を考えなければなりません。それにはまだこういう場所で表明するだけの内容の詰めを行っておりませんが、一定の考え方を一つの構図として成り立たせております。遠からずそのことも議会にまた御相談をする機会がある、また特別委員会でいろいろ御審議をいただいておりますので、その中に明らかにしていきたい、こういうふうに考えております。

十分、現実病院の改築ということによって増床もある程度果たし、機能もまた近代医療の一定水準は維持すると、こういうことを目指して行うわけでございまして、南多摩医療圏といたしましては、御承知のとおり八王子の医療センター、また多摩市の都立病院、都立病院は、これは公営、公設民営という形をとるというふうに発表されております。56年ごろに、58年に多分開院される（「50じゃないよ、60だよ」と呼ぶ者あり）60です、68年に開院をされるというふうに承っております。

我々の市におきましても同じようなテンポで仕事が進められる可能性を十分感じておるわけでありまして、日野医療圏と、南多摩医療圏の中のまた日野医療圏ということで機能の相当高いレベルを維持するような、そういう考え方で取り組むべき課題だと、このように考えておるところでございます。余り御心配のないように、ひとつ達成は必ずいたしますので御理解をお願いいたしておきます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　天野輝男君。

○６番（天野輝男君）　いつもの調子で私も聞いておったわけでありますけれども、私

は市長の一部市民の人気取り政策であると申し上げましたのは、やはり聞いておりますと確かに協議会の意見、そういうことは言いますけれども、医師会というものは出てこないわけです。私はこういう医者が日野市にある程度協力していただかない限り、幾らあそこへ市立病院を建てかえしたところで、この一般財源からの赤字分は消えないと思うわけであります。そういう面で市長がそう申し上げる――今言ったような意見でありますからそれなりに私も納得せざるを得ませんけれども、私はやはり日野市の一般財源をどうすべきかということになった場合には、やはりこの赤字分をいかに防ぐかということにあると思うわけであります。

そういう面で私は市長が今申し上げたことは市長の考え方ですから、これは私がとやかく言っても仕方がないと思いますもので、この件についてはある程度市長の言っていることは理解したわけでありますけれども、私はこういう面において、やはり私たちのこの要するに住みよい、そしてまた高度の医療設備を備えた病院を建設するということについては私は納得できないわけであります。特にこの日本の社会は高齢化社会を迎えております。そして、ことしの毎年患者の数はお年寄りがふえるからふえるばかりであります。ことしの国家予算は18兆円を達しておるわけであります。そういう面でこのままでいくならば日野市の市立病院の赤字もますますふえるわけであります。そうい面から見まして、日野市の財源を有効に生かすということについては今森田市長がおっしゃったようなことをやったら私は納得できないわけであります。そういう面で、私はやはり市立病院の医師を初め、職員のやる気を起こさせるということについてはやはりまずこの施設面を整備するということが一番大きなウエートを占めてくるのではないかということを強く感じております。そういう面で、ぜひ私はこういう問題を第一に取り組んでいただきたいと、このように要望しておきます。

なおそして私は、先日社会教育センターの資料を初めて見せていただきました。そしてこの社会教育センターについては財団法人ですからやはり自主財源で運営するということが一番理想な姿であります。日野市においては、ことしは2,216万2,000円もの負担、要するに補助金として出しております。私は今日までの教育センターの役割を考えてみますと、日ごろ私にも小耳に伝わってくる方もおりますし、本当にいい面も悪い面も私の耳に入ってくるわけであります。そして近ごろでは役員の選出を見ても当然私が疑問に思ってきたことがだんだんわかってきたわけであります。そして私はこの施設を利用する人たちの意見を私の耳に入ってきます。そして、だんだん使いにくくなっちゃったんだよ、ということを聞くわけであります。そういう面が私はどうしてなのかなと思っ

ておったんです、というのは大体顔を見ればわかりますからね、人間が。だから、そういう面でこのあそこのセンターに行って催し物なんかあると私も時々顔出ししておるんですね。そうすると、これはなということを感じておったわけです。そしてやはり私はこの教育センターの要するにこの運営目標とか、そういうものを丁寧によく読んでみました。そうすると、なるほどなということが私は感じてきたわけであります。

なるほどなということはどういうことかといいますと、ここに抜粋して書いてきましたからこれを読み上げます。――地域におけるセンターの基本的役割、最近の急激な産業構造の変化、社会構造の変化は社会の発展を一層困難にしておると、社会の発展を一層困難にしている。この発展を困難にしておるということが要するに次に出ているんです。幸い地域には人間らしい生活の価値を見つめ直す動きが強まっておると、生活の質を問い直す動きが高まっておる。生活を見直し、問い直す物差しを確かなものにしようとする学習要求が広がっておる、学習要求。これメンバーを見ればわかるように、学習要求というものは恐らく私は見ておりませんからわかりませんが、私が言わなくとも皆さんわかると思うんですね。人間的、人間的生活追求。切実な学習要求の深まり、広がり、現実に役立つことが基本的な役割である。そしてセンターの事業目標。市民の自主的自己形成に役立つ。要するに内面的に立派な人間になるということですね。それがこに載っておるんですね。市民が学習、文化活動、市民運動を通して、自分や社会や自然を深く科学的にとらえる目を養う。これは当たり前な話です。自分の命や暮らしをかけがえのないものと感じるだけに、他人の暮らしや願いや言葉を大切にし、人間を傷つけ荒廃させる自分の内面、要するに内面、心の状態、さまざまな邪悪なもの、廃退的なもの、よく学生運動で使う言葉ですね、これはね。なものとの闘い、仲間とともに力を合わせて、よりよい生活、より住みよいまちづくりに取り組む主体形成に役立つ。民主的まちづくりに役立つ、市民が暮らしの問題を持ち寄り、話し合い、問題をとらえ直し合意を広げておく。そこに考え方の違いが生じるのは当然であります。その違いを単純に異端だと決めつけず、違いの生まれる根底に思いをひそめ、合意の部分を広げ行政に反映させていく。違った意見の者が集まってくる、その人たちをどうするか、皆さんもよく御存じだと私が言わなくともわかると思います。彼らの手段を見るならばそんなことは明らかですね。行政に反映させ、そしてそこに民主的なまちづくりの筋道がある。そしてその後がいいですね。とりあえず教育センターとしては、教育の面で地域の教育力を掘り起こし、意見をぶつけ合わせ合意を広げ、教育の民主自治の意識と仕組みをつくることを通して民主的に図っていくということですね。――日ごろ森田市長が革新市

政のもとで教育委員の選出、地域の教育力を高めるという日野市広報の内容とほとんど同じような文章が出てくるわけであります。市民の多くの方々より社会教育センターが使いづらいと先ほど申し上げました。波長が合わなくなってしまったということを私も聞いております。

私、その教育センターの運営についても確かに今かなり前、19年前ですか、そのときから考えるならば、やはり団地の子供たちが成人してしまって数が少なくなってくるということは、数が少なくなってきたということは当然原因として挙げられるわけです。しかしながら、私はそればかりじゃないと思うんですね。私たちも一時お金が足りないからって、ああいいよとお金を助賛金で出していた経緯があるわけですね。それは私の子供も利用して北海道に連れて行っていただいたことがあります、根室にですね。そしていまだにその子は５年生のときに行きましたから、いまだに５年ぐらいたっても、その向こうの北海道の根室の子供たちと文通したり行き来をして、そうい面では少し視野が広がって大変ありがたいなとまま思っているわけですね。

しかしながら、今の状態で私はだんだん人が一部、先ほど私に市長が偏見な考え方を持っているということを言っておりますけれど、やはりそういう人たちだけがたくさん集まってきますとだんだんだんだん行きにくくなってしまうんですね。だから私はそういう面で市長の確かに考え方は広い考え方を持っているなということは感じておるわけですが、しかしながら、考え方は最終的には自分が自分の意見なのか、まただれかが智恵つける人がいるのか、それは私は定かではないけれども、やはり自分サイドで物事を判断しているように私は思えるわけです。

そういう面で、私はこういう教育センターの役員の選出だって私は本当にこれを見て今ちょっとおかしいと思うことは、やはり文教委員が共産党の人であるならば、鈴木さんがずっと入っていらっしゃるようですけれども、やはりそういうときは遠慮するとか、文教委員にはならないとか、そういうようなことをやはり、それぐらいなことはやはり私は考えていただきたいなということをこれを見て感じておるわけです。だから、そういう面で確かに森田市長そのものは確かに広く市民の声を聞いていらっしゃるとは思いますけれども、やはりいざ政策面のことになるとそうはいかないわけですね。どうしても要するに一部の政党の人の意見は政策に結びついてくる。しかしながら、それがすべてだとは思いませんけれども、彼らの言っていることは大体政策面につながってくるということを見ましたときに、やはり私が考えているのが間違いなのか、そのあたりを少し理解していただきたいなということを感じているわけです。

そういう面で私は今までいろいろの面から説明いたしました。そして私は特にこの日野市のやはり公共の施設、こういう問題についてはやはり建物をつくるということについては、やはり基本構想の中からしっかり生かしていただきたい。そしてまだあれは７年間の計画ですから延々と続くわけですから、それがやはりこの７年間が一区切りであり、その次に持ってこれるよう、市民が先ほど言ったように30年も40年も使っても、要するに親子２代、３代と使っても利用価値があるようなものを今後つくるということが私は一番必要であると、日野市に欠けたところであるということを強く感じたわけであります。そういう面でぜひ私はこの日野市の行財政を有効に生かすという面から、ぜひそういう小さいところからやはり改めていくところは改めていきながら、そして長期展望に立って日野市のまちを立派なものに育てていきたいと、つくっていきたいということを強く感じているわけであります。

もう少しあったわけですけれども、それは（「午後にゆっくりやってよ」と呼ぶ者あり）もう12分しかないんでしょ、12分しかないですから、これを――そういう面で、私はぜひ日野市の市民の意見をやはりしっかりととらえて、そして専門的な意見を生かしながら、そして立派なものをつくっていただきたい、このように要望する次第であります。そしてこの種の質問は終わらせていただきます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　これをもって４の１、日野市の行財政について問うの質問を終わります。

一般質問４の２、市内小中学校の給食はカロリーの高いパン食より、米食を増す考えはないか？の通告質問者、天野輝男君の質問を許します。

○６番（天野輝男君）　皆さんも御存じのように、子供たちの体型も大分変わってきております。そういう面で、こういう問題はやはりパン食が原因じゃないかなということが日ごろだんだん言われてきております。そういう面で、私はこの種の質問をしようとしたところが、実際古賀議員がすることになっておるものですから遠慮しまして、日野市でもやはり米食をもっと取り入れることが必要じゃないかなということを感じております。

東京都の方では２食と、週２食ですか、ということがだんだん言われてきておるわけですね。そういう中で、今後日野市の給食の中に組合がどう言っておるか私もその文書を見ておりますけれども、やはり組合の言うことを聞いた方がいいのか、また市民の、一般市民の家庭の子供たちの健康を考えながら市民の声を聞くべきなのか、このあたりを私は今強く感じておるわけです。そういう面で日野市の給食について、米食を今後取

り入れて、もっと今、週１食ですけれど、もっと２食３食と取り入れていく考え方があるかどうか御回答お願いします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　天野輝男君の質問についての答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　　お答えをいたします。

今御質問の中にもありましたけれども、昭和56年に東京都の米飯給食検討委員会というのが米飯給食のあり方について考え方を示しておりまして、その中では実施回数は週２回実施を目標とすることが望ましいということを示しております。望ましいということで、実際の運用は各市町村に任されているわけでございますが、その後昭和62年に学校給食における栄養摂取標準の点の改定を行いました。

それに伴いまして小学生の場合で、今まで低学年、高学年ということで２段階だったんですが、今後は小学校の場合、低学年、中学年、高学年という３段階に分けてそれぞれ必要な栄養なりカロリー面の目標を示すようになったわけでございます。その中で特に脂肪の目標値を従来よりも低く抑えるという方向も出されてきております。

こうした動きを受けまして、日野市においても学校給食会の栄養士部会で検討委員会を設けまして、その標準に合わせる方向でいろいろ献立の趣向なども行ってきたわけでございますけれども、その検討委員会での結果でも、やはり米飯については週２回実施をした方がその標準に沿った必要な栄養素をとるについては適切であるというような方向も示されましたので、教育委員会としては、ことしの５月に米飯を週２回実施をする方針を出しまして組合の方にも示して協議に入りまして、現在の段階では昭和64年度から米飯週２回実施の方向で努力をしているところでございます。以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　天野輝男君。

○６番（天野輝男君）　　日野市の中でも既に組合が、この問題は教育違反だと騒いでいる中で、既に米食を週２回にしてもいいという学校が５校あるんですね。そういうことを踏まえながら、やはり私たちの考え方が要するに子供たちのまず健康を考えて、そして市民の意見が、意思が十分生かせられるようなやはり給食であってほしいと、このようなことを要望して、この種の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　これをもって４の２、市内小中学校の給食はカロリーの高いパン食より、米食を増す考えはないか？の質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後０時20分　休憩

午後１時34分　再開

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問５の１、「文化」的なまちづくりを！行政の「文化」化を！「文化」の革新を！の通告質問者、中谷好幸君の質問を許します。

〔９番議員　登壇〕

○９番（中谷好幸君）　　それでは通告に従いまして「文化」的なまちづくりを！行政の「文化」化を！「文化」の革新を！質問いたします。

森田市長は今年度の第１回定例市議会の所信表明で「時代の流れを見きわめつつ本市の将来像を展望するとき、単に住みよいまちというだけでなく、住むことが喜びであり誇りであるまちへの質的に高度なものでなければならないと考える」と述べ、さらに「市政も能動的に潤いや魅力のソフトの面を開発する発想が必要であると考えます」と、このように表明されました。私はこの所信表明を４期15年の市政を担当された森田市長が、ある種の感慨を持って表明されたものであると受けとめました。

森田市長が市政担当者として前任者よりバトンタッチされた1973年は、60年代からの高度成長がピークに達する時期で、日野市においても開発によるさまざまな弊害が爆発的に吹き出した時期であります。環境の破壊や人口増に伴う小・中学校の校舎の不足など極めて深刻な事態となり、あちこちで市民の要求が吹き出した時期でありました。森田市長が市民の要求を取り入れた施策の第一歩として進められたことは、学校や保育園の増設、乱開発をやめさせ生活環境の保全を図ることでございました。当時の総予算に占める教育予算の割合は40％にも達しておりました。オイルショック後の地方財政危機の中で、学校や保育園、いわば市民が生活するに必要な最低限の施策に精力をすべて費やさなければならない、こういう時期であったわけであります。そして、それから15年経過した今日、人口増はもはや鎮静化し、下水道や区画整理事業など本格的な都市基盤整備も軌道に乗せることができているわけであります。

今、日野市は市長も所信表明で述べられているように、活力が最高に高まっている時期に遭遇しているわけであります。日野市の基本構想が掲げる「緑と文化の市民都市」という基本目標を現実的な視野に入れたまちづくりを進めることができる、そういう時期が到来していると思うわけであります。私は市長が所信表明で触れられた住むことが

喜びであり、誇りであるまちの一つの重要な要素となるであろう文化行政の問題について、幾つかの提言も含めて質問をさせていただきたいと思います。

具体的な質問に入ります。第１は、日野市民会館の問題です。

日野市民の文化活動の拠点としての市民会館が開設されてから３年になろうとしております。先日の日曜日12月11日には日野市在住の２人のピアニスト、館沼明美さんと中野小枝さん、お二人とも国際的なコンクールの受賞者ということですけれども、こうした方々によるコンサートが開かれました。これは日野市民コンサート実行委員会と日野市民文化事業協会の共催で開かれたということであります。日野市民の芸術家が、しかも世界的な芸術家が日野市民の支援で日野市の文化会館でコンサートが開くことができる、日野市民会館にふさわしい大変すばらしいことだと思ったわけであります。

この３年間の市民会館の実績は、事業報告などを拝見しましても利用率や自主事業の観客動員数など他市の同種の事業と比べても遜色ない水準であると承知しております。３年間という短期間に事業を軌道に乗せられた職員の皆さんに敬意を表するものでありますけれども、高度な機能を持つ市民会館が今後一層市民の芸術、文化、創造活動の拠点として発展させるために、どのような努力をこれからなされようとしているのか、お考えをお聞きしたいと思います。

あわせて、特に大きな役割を占める市民会館の自主事業については、これまでどのような形で、プロセスで企画を立てられ、日野市の市民会館らしい特色を持った事業として進める努力をなされてきたのか、この点についてお聞きしたいと思います。

第２の質問は、これからの公共施設のあり方に関してです。

まちづくりを進める上で、単に利便性とか機能性を追求するだけでなく、生活空間にゆとりがあり自然との調和がとられる、また日野の歴史や風土を大切にする、そうした文化的な視点が大事になっていると思います。とりわけ公共施設は、地域の中心になる施設としてこうした配慮が必要になっていると思います。最近つくられた生活・保健センターやふるさと博物館、最近だけでなく古くは中央図書館や高幡図書館は、単に利便性、機能性というだけでなくて、文化的な配慮がなされてその地域に溶け込み、まち全体に潤いをもたらすようなそのような設計がなされている大変好ましいものと思うわけでありますけれども、今後の公共施設の建設においては一層こうした努力がなされる必要があるのではないかというふうに思うわけであります。

こうした公共施設という点で、特に市内の小・中学校について配慮する必要があるのではないかと思います。日野市内の小・中学校は、いずれも人口増に対応するためぎり

ぎりの必要に迫られてつくられたものだという背景もあります。ですから、全体として必ずしもゆとりがあるつくりにはなっておりません。いろいろよいところもあるわけでありますけれども、全体としてはゆとりや豊かさを感じさせるものではありません。よく映画やテレビでアメリカやヨーロッパの学校が映されて見ることがあるわけでありますけれども、つくづく日本という国は貧しい国であるということを実感いたします。

日野市内でも現在の小・中学校というイメージは、高い金網や塀あるいは重い鉄の門で囲まれた閉鎖的なイメージ、教育という最も文化的なことが行われているというには余りにも暗いイメージがいたします。この点は昔の学校、貧しい木造建築ではあったけれども、もっと地域に開かれた温かい雰囲気が、町や村に溶け込む雰囲気があったと思うわけであります。文化的な雰囲気のあるまちづくり、地域づくりを進める上で、地域にある小学校、中学校など公共施設のあり方について考える時期ではないかと思いますけれども、お考えをお聞きしたいというふうに思います。

第３に「広報ひの」に関連してお聞きしたいと思います。

広報というのは、一つには市役所から市民へのお知らせ、情報伝達の媒体としてあります。同時に市民同士の情報の交換や相互理解の媒体としてもあります。日野市民の文化生活を豊かにしていく上で、広報が果たす役割は大きいと考えるものであります。日野市の広報「広報ひの」は、情報量も豊かで他市のものと比べて高い水準にあると思います。市民の広報に対する関心も高く、よく読まれている方だと私は考えます。私自身としても、例えば新しい企画である市民運動の提唱の欄や消費者シリーズ、障害者シリーズあるいは情報交換のみんなのメモ帳などは目を通すようにしています。ところで、この「広報ひの」について市民の皆さんからいろいろ注文を受けることもあります。そうした声も含め「広報ひの」がもっと市民生活の中に生きるように、市民の文化生活を豊かにするようにという点で幾つか質問をし、また提言もしたいと思います。

ここに「広報ひの」を持ってきました。それから、これは「生活と健康を守る会」というふうな会の機関紙であります。同じような掲載の新聞ですけれども、内容はともかくとして一見わかることがあります。それは遠くからわかりにくいかもしれませんが、「守る会」の新聞の方がずっと読みやすいということです。内容の点を言っているわけではありません。なぜかというと、一つは字が大きいということです。（笑声）それから写真やカットが生かされている、こういうことではないかというふうに思います。例えばこの「広報ひの」には敬老大会や敬老基金、管理手当、シルバーパスをどうしてもらうか、こういうふうなことが書かれているわけでありますけれども、お年寄りがこの

字を見るというのはなかなか大変苦労なことではないかと思います。ですから、まず字を大きくすること、それから写真やカット、漫画など視覚に訴える努力をすること、それからカラーとまではいかなくても２色刷りなど目に入りやすい工夫をすることができるのではないかと思います。情報量が多く、かつ市の広報ですからできるだけ正確に書かなくちゃいけないということで、字数もどうしても長くなるという点は理解できるわけでありますけれども、ページ数をふやすなどして情報を減らさないで活字を大きくするということは特に努力をしていただきたいところでございます。

第２に内容の点であります。市の広報という性格もあり、市民への一方通行の情報ということが紙面の大半を占めるということにもなりがちです。しかし、もっと市民の声を紙面に取り上げてもよいのではないかと思います。市民から市への意見あるいは市民同士の意見の交換をもっと重視してほしいと思います。以前、保育料の値上げをめぐって市民の意見を紙上討論という形で取り上げたことがあると聞いていますが、市政の問題でテーマを設定して紙上において市民の意見を交換する、そのような企画が組めないかどうか。以上、技術的な面、内容の点について質問をしたいと思います。

第４に図書館の視覚資料フィルムライブラリーの充実について質問します。

私どもの百草の地域で、昨年夏、ことし夏と２回、平和の集いという集会を開きました。地域で実行委員会をつくり図書館から借用した原爆や戦争の記録映画を見たり戦争体験などを語り合う集いです。昨年は金田公園て野外映画会を行ったのですけれども、200人を超える親子が集まりました。ことしは大雨にたたられ急遽落川地区センターに会場を変えたのですが、それでも50名が集いました。かなり夜遅くまでなったのですけれども、途中で帰る人は一人もおりませんでした。

そこで感じたのは、一つは平和に対する関心の高さということですけれども、もう一つは、映画の力、魅力ということです。これだけ映像文化が発達して毎日のようにテレビから映像が送り出されているにもかかわらず、しかもそんなに明るい映画でないのに多数の人が集まり一緒に鑑賞し語り合う、映画には大変な魅力があるということをつくづくと感じました。映画というのは演劇などと比べてスクリーンと映写機とフィルムがあればだれでも簡単に準備ができる、しかも芸術的にもすぐれたものを大勢で鑑賞ができるという特色があります。そこで平和の集いに集まったお母さんの中にも映写技師の資格を取ると、今度の図書館の講習会で映写機技師の資格を取り、そして、また月１回ぐらいの映画を見ようじゃないか、こういうふうな動きも出てきています。

ところが、見たいフィルムがあるかということになると、これがなかなか手に入りま

せん。新しい映画や大作はなかなか高価で、地域の映画会などでは相当の入場料を取らないと映画会社から借りる場合は採算が合いません。立川の教育会館にはかなり充実したフィルムセンターがあり無料貸出をやっておりますけれども、新しい映画は余りないように思われます。日野市の図書館はどうかといえば、反核平和のすばらしい映画がそろいつつありますけれども、圧倒的に数が少ない。二、三回映画会を開けば全部底をついてしまう、こういう感じであります。日本の映画の衰退が言われていますけれども、よい映画もたくさんあります。私もこの夏「となりのトトロ」「火垂るの墓」という２本のアニメーションを見ましたけれども、テレビなどで流されているアニメとは次元の異なる芸術性の高いものでした。ぜひこんな映画を子供たちに見せたい、大人にも見せたいと思いました。

日野市の図書館でも、すべての分野の映画フィルムを買いそろえるというのは大変だと思いますけれども、今、反核平和映画をそろえようとしているように、例えばすぐれた児童映画などテーマを設定してフィルムをそろえるなど、視覚資料の充実を図ってほしいと切に思うところであります。この点についてお伺いしたいというふうに思います。

第５に社会教育の発展、特に社会教育の専門家と職員の中に養成し蓄積していくということの重要性について質問します。

伝統ある日野市の図書館行政が誇れるのは、量よりもむしろ市民本位のサービスという質の高さであると言われています。そして、これらを保障しているのは専門的に研修を積んだ職員であります。一方、公民館活動についていえば、1967年にオープンした中央公民館は当初は職員もいなく貸し会場にすぎないという状態でしたけれども、’73年に社会教育の場として10講座が開かれ、さらに館長が専任化され職員も配置をされるということに一定の充実を見てきたわけでありますけれども、しかし、歴史的な経過から社会教育のかなりの部分を民間の社会教育センターにゆだねるという、そういうこともあり、系統的な発展を必ずしも切り開いてきたとは言えないのではないかと思います。しかし、今日、社会教育への市民の期待要求は高まっており、これを充実させることが市政の課題となっているわけであります。これらは中央公民館の建てかえ計画あるいは公民館的な役割を果たすであろう東部会館の建設など、これから具体化され、さらに浅川南部への公民館の分館の建設への期待なども高まっているところであります。

私は、こうした日野市の社会教育を発展させるためにこうした施設の建設とともに、あるいはそれ以上に一定の専門職をこうした施設に配置していくということ、養成していくということが大変重要になっていると思うわけでありますけれども、お考えをお聞

きしたいと思います。

第六つ目に、質の高い文化的イベントを日野市で開催することを提案したいと思います。

文化的なまちづくりは、その地域の歴史や風土を生かすということと同時に、世界的な視野に立つことが大事だと言われております。地域のまちづくりの特性や理念、特徴は日本一、世界一の水準のものをねらうということ、このことが大事だというふうに言われております。先日、町田の版画美術館の視察に行きましたけれども、版画美術館という点では世界一を目指している、あるいは自負しているというふうな気迫を感じました。日野市でも、日野市の理念となるような世界一とか日本一を目指すようなイベントが企画できたらと考えます。

例えば日野市のイメージからいえば先ほども映画に触れましたけれども、反核平和の世界的な映画コンクールをやるとか自然を大切にするというテーマで映画コンクールをやるとか、あるいは児童映画のコンクールをやる、映画でなくても音楽やロックの大会でも世界的なアーチストを招いての文化的なイベント、そんなものが考えられないかということです。お考えをお聞きしたいと思います。

最後の質問になりますが、これまでに幾つか系統的ではありませんけれども、いわば思いつくままに文化行政について質問、提案をしてきました。つくづくと感じることでありますけれども、文化行政というのは総合的なものであります。大変幅の広いものであります。何から手をつけてどう進めるべきかは市民の知恵を集めて考える必要があるのではないかと思います。

それで最後に、市の文化行政を本格的に進めるために市民による文化行政懇談会というものをつくったらどうかということを提案したいと思います。文化行政の最終的な担い手は市民であります。日野市民の文化的エネルギーは極めて高く文化活動団体も無数にあります。学者や文化人だけでも1,000人は下らないのではないか、この力を合わせて文化行政について、方向性について知恵を絞る必要がないか、この点についてお聞きしたいわけであります。

以上、７点について質問させていただきます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　中谷好幸君の質問についての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　それでは、第１点目の市民会館の関係につきましてお答えいたします。

市民会館でございますけれども、市民会館は文化活動の拠点ということで利用状況も他市の施設に遜色のない実績をおさめておるところでございます。現在、市民会館の自主事業の企画でございますけれども、これにつきましては、市民会館利用者から寄せられておりますアンケート調査の結果などを反映をいたしまして企画をいたしまして練るわけでございますけれども、これを、市民会館自主事業協会理事会というのがございます。構成員は市長初め各部長でございますけれども、この審議を経まして実施に移されております。そのほか基本的な事項といたしましては、市民会館運営審議会がございます。これらの意見を受けまして運営に当たっているところでございます。

また自主事業を企画していく上で基本的な考えといたしまして、年間13から15の公演を考えておりますけれども、この限られた公演の公演数の中で市民の多くの方の指向に合うように、あるいは音楽、演劇、寄席あるいは映画等の広範なジャンルの中から演目を選定いたしまして具体化をしていくわけでございます。この中でアンケート調査による市民の意向を加味するよう努力しているところでございますけれども、具体化していく上で、一方では各ジャンルの劇団それからプロダクションが製作する公演等の予定と主催者側の自主事業との企画がうまく合うかどうか、この辺の難しさがございますけれども、常時二、三年先の劇団のプロダクション等との公演情報を幅広く収集していきまして早いうちに企画をしていく必要があろうかと、こういうように考えております。したがいまして、近隣各市の企画状況を見ましても、各市で設置されております運営委員会や協議会等でも自主事業の大枠で基本的方針を協議決定しておきまして、細部の具体的案は事業協会にゆだねる方式で実施されておるところでございます。

一般的に自主事業の企画に市民の参画を考える場合、自主事業公演の鑑賞会的それから、鑑賞、観劇をする立場で自主事業の企画に参画する場合と、それから市民自身が演じまして演奏する立場が事業計画に、演奏する立場で事業計画に参画する場合とが二つ考えられると思います。当市の市民会館では開館以来本年でちょうど３年になりますけれども、一般市民の施設利用、自主事業の公演ともにほぼ定着化をしておりますので、今後は市民の文化活動そのものの啓蒙、育成等の実施もしていく構想にしたいと、このように考えております。

その一つといたしまして、先ほど言いましたとおり鑑賞会的な組織、例えば市民開館の友の会とか音楽同好会のように一般市民が自主的に活動をする組織や音楽、演劇や映画等ジャンル別の組織も考えられますので、これらの組織が結成されますと館の自主事業への市民の意向が反映されやすくなるんではないか、このように考えております。

それからもう一つは、市民が自分たち自身で演じ演奏する文化活動の啓蒙援助する事業が考えられます。先ほど中谷議員さんが言われましたけれども、この11日の日曜日でございますけれども、実施されました市民の自主的活動団体であります日野市民コンサート実行委員会の企画されました市内に在住する演奏家を主体といたしました第８回日野市民コンサート、これにつきましては市民会館自主事業協会が共催援助ということで、そういう方式を本年初めてテスト的に実施したわけでございます。各ジャンルにこのような市民活動を啓蒙援助する方式も逐次推進していきたいと考えておりますが、事業化するには今後多少検討整備が必要かと思っております。十分今後検討を加えていきたいと、このように考えております。以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　それでは、御質問の２点目、４点目、５点目についてお答えをしたいと思います。

公共施設の建設に当たっての問題について御質問があったわけですが、公共施設全体ということになりますと、単に教育委員会だけの問題ではございませんが、実際に教育委員会では学校初めいろいろな施設を持っておりますので、その立場からお答えをしたいと思います。

学校等の公共施設を建設するに当たって、やはりその施設それぞれの持つ機能を十二分に果たせる施設をつくる、ということが一番肝心な問題でございますけれども、それだけではなくて、その施設が周辺の町並みと調和しているかどうかということ、それから調和するだけでなくて、できれば町並みを引き立てるような施設でありたいということもあります。それから、その施設が人々を引きつけるような存在感を持った施設であるかどうか、そういったような配慮といいますか、観点も必要になってくるだろうと思います。さらに外形だけでなくて、今御質問の中にもありましたけれども、施設内部の空間構想がその機能に見合って人間的な温かさを持っているかどうかと、こういったようなことも非常に重要な要素になろうかと思います。公共施設を建てるに当たっては、やはりそういった視点を持っていくということが大事になってくるんではないかと思います。これは何もお金をかければよいということではなくて、広い意味でのデザインポリシーというものがやはり大切になってくるのではないか。

教育委員会で今後もいろいろな施設をつくることもありますし、あるいは既存の施設の改修ということも当然必要になってきますので、そういう際には、そういう一つの文化の視点といいますか、そういったものを持って、その施設を単なる箱物から脱却させ

るようにしていきたいというふうに考えております。

それから視聴覚資料に関する御指摘でございますが、最近、ニューメディアという言葉がありますように、新しいさまざまな媒体を使って、特に視聴覚関係の媒体を使った資料が出版をされておりまして、市民の資料要求の中に占める比率も大変高くなってきております。また青少年層の生活動向の変化によりまして活字離れの傾向がある一方で、そういう視聴覚資料への傾斜ということもかなり現実にはございます。そうした青少年の要求にこたえていくためにもこういう視聴覚関係の資料の充実というのは当然図っていかなければならないというふうに考えております。ただ現実的な問題としては、既存の施設の中で視聴覚資料をある程度まとめて収集して提供するというのはかなり物理的な限界もございます。

したがいまして、基本計画の中にも掲げてございますように、視聴覚資料センターの設置の検討を今後進めていくようにしたいというふうに考えております。その中には当然映画フィルムその他の問題も含まれてくるわけでございますが、現実問題として映画フィルムというのはかなり高いわけでございます。ですから、なかなかこれを全部一市立の図書館のレベルで集めるということはかなり困難さもございます。現在、東京都にフィルムライブラリーもございますし、その他民間のさまざまなそういう団体等もございますので、そういったところとの協力関係なども今後積極的にとるようにしていきたいというふうに考えております。

それから社会教育の問題でございますけれども、最近、生涯学習社会というようなことが盛んに言われているわけですが、今後そういう文化的な事業なり社会教育的事業の果たす役割というのが質量ともに地域社会の中で増大をしていくというふうに考えております。基本計画の中でも市民の学習機会の拡充、市民要望に根差した講座づくり、こういったものを事業の柱として掲げておりますけれども、その中で従来の各種事業の改善、発展のほかに市民大学、これはコミュニティーカレッジと申してもいいかもしれませんが、そういったものの創設の方向もこの基本計画の中で打ち出しているわけでございます。これらの事業を行うためには近隣大学との連携とか地域人材の活用など、あわせて進めなければなりませんし、そういった事業の企画、立案、カリキュラムの編成あるいはプログラミングなど非常に高度な作業が必要になってきます。

したがいまして専門的な知識と経験を有する有能な職員を配置をしたり、あるいは養成をするということが大変重要になってくると考えております。この種の事業の生気というのはそれを推進する職員に大きく左右されますので、今後とも専門的職員の配置等

については十分配慮をしていきたいというふうに考えおります。以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　　3点目の「広報ひの」に関係しての御質問でございます。お答えしたいと思います。

現状としては昭和62年度からちょうど15日号の発刊でございますが、年4回ほど4ページ増しをして発刊しているわけでございます。よって年間の総ページとしては150から約160に至っているわけでございます。御質問者の中の話の中にもありましたとおり、当然広報につきましては、市民が目で見て楽しめる広報を目指して、ということが大きな役割だろうというふうに思っております。もちろんその中には写真やカット類等を増したわけでございますが、また市民の声の話題あるいはカメラ、散歩欄等を新設し、従来からのものとつけ加えて新しい様相に変えた経過はあるわけでございます。

先ほどもありましたが、本年11月15日の広報からは、市民運動の提唱と私の呼びかけというようなコーナーも新設いたしました。もちろんその中での読みやすい広報とするために、先ほど質問の字を大きく、というような問題があるわけでございます。当然これは市民含んでお年寄り向けコーナーとあわせてイラストの問題等また子供向けの漫画あるいはそういったコーナーを今後検討すべきだというふうに現在考えているところでございます。

しかし、この限られた紙面の中で、当然各課の協力を得ながら記事の選択をし、内容のあるものに企画しているわけでございます。先ほどの質問の中にもありますとおり、市民の声を重視というような問題もあるわけでございます。もちろんこの問題等含んで今後広報の読みやすい広報に努力していきたいというふうに現状で考えております。

なお6点目のイベントの問題でございます。

これは私の方で前段お答えしたいと思いますが、提言の中には反核映画あるいはもろもろの世界一、日本一というような提言がありました。現在、国の政策の中でも紙面上の中で村興し、あるいはいろんな方策が考えているやに報道されているわけでございます。もちろんこのイベントを積み上げるにしても私の方が中心になって各庁内の部署との調整を図りながら、今の御提言を踏まえ今後の対応を考えていきたいというふうに思っております。

なお7番目の文化懇談会の問題でございます。

もちろん今までの文化行政推進の中でのいろいろ御質問をいただいたわけでございます。現在の当然文化行政を進める上では市民の意見や提言がもう大切であるということは申すまでもありません。現在、市の文化行政各分野の中におきましても各種の委員会あるいは審議会等が設置してあるわけでございます。その中には市民の代表する方々の意見あるいはその提言をいただいて施策を進めているのが実情でございます。

今後、文化行政については、当然総合的な考え方を検討する必要があろうかと思います。そういう考え方に立ちながら、現状の文化行政を推進していく中での各部で持っている委員会あるいは審議会等の調整を図りながら、今後の文化懇談会をどうあるべきか、またどう検討すべきかというようなことを含んで今後検討を進めていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　中谷好幸君。

○9番（中谷好幸君）　　七つの提案、質問を行ったんですけれども、意見、要望を述べて、その後で市長のお考えについて、私の提案についてどういうふうに考えられるのかというふうなことについて御答弁をいただければというふうに思います。

市民会館の自主事業についてでございますけれども、今後、市民自身が企画に参加できるような、そういうふうな取り組みを強めたい、そういう御答弁でしたので、ぜひその点で御努力をお願いしたいと思います。

率直に言って、自主事業のプログラムを見ますと本当に日野らしい、確かにコンサートから演劇から寄席までいろいろなジャンルのもので、しかも一流の企画がなされているわけでありますけれども、こうした企画が立川でやられても町田でやられてもおかしくないというふうな、そういうふうな感じが非常にするわけです。本当に日野市らしい自主事業を、一番日野市の予算をかけてやる事業ですから市民が企画に参加していく、こういうことが非常に重要になっているんではないかというふうに考えますので、ぜひともその御努力をお願いしたい、こういうふうに思います。いろいろ読んでみますと「文化行政というのは文化サービスを供給する水道づくりと、こういう側面と、市民と自治体が一緒になって行うドラマづくりの二つの側面がある」と、こういうふうに言われていますけれども、今後、市民と一緒になってドラマをつくる、文化をつくる場として市民会館を位置つけた取り組みに一層御努力をいただきたい、このことを心からお願いしたいと思います。

学校についても積極的な御答弁をいただきました。学校の機能を生かす、これが大事だけれども、しかし、町並みやあるいは町並みを引き立てるような存在感のある、かつ温かいそういうふうな施設が重要になっているんだということなんですけれども、言葉だけになると簡単ですけれども、実際は具体化することでありますし、日野市の小・中

学校の校舎の老朽化も進んでおりますし、幾つかの建てかえ計画もこれから出てくるんではないかと思います。その際は、ぜひとも例えば生活・保健センターだとか、あるいはふるさと博物館のような、そういうふうな地域を引き立てるようなそういう配慮といいますか、そういうことをぜひともやっていく必要があるんではないかというふうに思います。

それから、そう先のことではなくても、もっと学校のあの高い塀だとか高い金網ですね、鉄の門、もちろん防犯的な問題だとかいろいろ社会的な問題があるのかもしれませんけれども、地域から入りやすい、地域に溶け込むような努力というのは建物だけではなくていろいろできるところがあると思いますので、そういう点でも地域で非常に重要な役割を果たす小・中学校の施設については考えていただくことが大事だというふうに考えますので、この点についてもよろしくお願いいたします。

「広報ひの」についてですけれども、これについても積極的な御答弁をいただきました。どんどん市民の活動が活発化するとともに、市政が発展するとともに情報量が多くなってくるわけですから、どんどんこの紙面に詰め込んでいくと、そういうことになるというふうには思うんですけれども、このままでは本当に読みにくくなってきているというふうに思うんです。例えばお年寄りの例えばシルバーパスが云々だとか、こういうふうな欄だけでも、お年寄りのページだけでも字を大きくするとかいうふうな努力はすぐにできることでありますし、情報量を今のままでも紙数をふやすと、ページ数をふやすと、別に情報をふやすということではなくてページ数をふやすというような努力も編集などの御努力でできるのではないかと思いますので、今やられました積極的な答弁も含めて、ぜひ積極的な御検討をいただきたいというふうに思います。

それからフィルムのライブラリーですけれども、この点についても視聴覚センターの検討だとか、あるいは東京段階での図書館の協力によってフィルムを集めていく、こういうふうな努力がなされているという積極的な御回答をいただいたわけですけれども、いずれにしても、予算がやはり今のところは限られているというところが当面問題があるというふうに思います。市長の方からもこの点でフィルムの視聴覚の資料を集めていくという点で、そういうふうな財政的な面も御配慮いただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか、お考えをお聞きしたいというふうに思います。

それから社会教育の充実、この点についてもそれぞれ教育委員会サイドでいろいろな検討が行われている、こういう御答弁をいただきました。また専門的な職員、高度な技能や知識を持っている職員が必要である、こういうふうな御答弁もいただいたわけであ

ります。そういう点で努力いただきたいわけでありますけれども、一つ先ほども触れましたけれども、日野市の社会教育の歴史の中で社会教育センターが重要な役割を果たしてきた、この日野市の実践を通じて社会教育の専門家を蓄積してきている、こういうふうな民間の活力を利用することも含めて、社会教育の、日野市の社会教育の発展の方向を打ち出していただきたい。聞くところによると社会教育センターは経営の点でも必ずしも軌道に乗っているとは言えないというふうに聞いていますし、予算の議会のたびごとに助成の問題でいろいろもめるわけでありますけれども、市との関係についてもしっかりと整理をして、きっちりとした関係をつくってこうした活動についても保障していく必要があるのではないかというふうに考えるのですけれども、それらの点についてぜひお考えをお聞きしたいというふうに思います。

それから質の高いイベントの問題です。

なかなか難しい問題だと思いますけれども、立川や八王子が業務核都市を名乗るならば、日野市は文化核都市でいくんだ、こういうふうな気構えで大きなイベントをぜひともやっていく。これが本当に地域の文化の活性化につながるのかというふうな疑問もあるわけですけれども、本当に日野市の目的や理念を市民の中に明らかにしていく、合意をかち取っていくという点で、こういうふうな機会も非常に意義あることではないかというふうに思いますので、ぜひとも積極的な検討をお願いしたいというふうに思います。

最後に懇談会についてですけれども、懇談会についても市民の代表を加えて文化行政を進めるための審議会等々についても考えていかなければならない、こういうふうなお考えが表明されましたので、積極的にやっていただきたいわけでありますけれども、あわせて行政の側に文化行政を総括するところがない、という問題についても十分配慮する必要があるのではないかというふうに思います。

文化の行政について質問しましたけれども、それこそ市長部局から教育委員会部局いろんな分野にわたるわけであります。ですから、そういう意味ではこういうふうな、それこそ文化の問題というのはまちづくりから教育、それから例えば市民会館のような行政まで広くわたるわけでありますから、こういうふうな全体を総括するセクションの設置だとか、あるいは横断的なプロジェクトをつくるとか、こういうふうな市側の市民の懇談会とともに市側の対応も重要になっている。そういうふうな系統的な文化行政を進めていく、見直していく、そういうことが重要になっているというふうに考えるものです。そういう点で市長の御見解をお聞きしたいというふうに思います。

以上、全体的なお話で結構ですので、市長から御答弁いただければと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　市長の答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　　行政の「文化」化を！という御提言をいただいておるわけでありますが、まさに行政の目指すところは行政の文化化という方向といってよろしいと思っております。いろんな形で経済成長が、この手段として経済成長は望ましいわけでありますが、目的を明らかにする、つまり日本の国の文化を高める、ないしは世界に尊敬をされる文化を創造すると、こういうことが経済成長の目標であるべきだと思いますし、またわれわれの自治体におきましてもいろいろな努力は終局するところ、市民文化、市民の文化に対する、あるいは一般的にソフトと言ってよろしい領域が本来の目的である。ハードはその手段であるというふうに考えるべきだろうと、こう思っております。

今までのところ、ハードの箱物づくり、これも手段としてどうしても必要でありますので、ある程度の箱物をつくってきたと、その箱物も本来の目的であるべき内容のソフトなもの、これをいかようにつくり発展をさせていくかということが真の目的であると、こう考えるところでありまして、そのあたりにまだ多分に不十分なものがあるわけでありますから、これからの大きな市民参加、市民のエネルギーによって、そういう方向を自治の手段としてまたつくっていくと、こういうことになるべきだろうと思っております。

御質問の中の、これから学校を建てかえる際に、何か管理と機能のために設計をしたというふうな学校ではなくて、町並みや人の心を豊かにする、そういう手段を設計に取り入れるといいましょうか、そういうことは本当に公共施設のつくり方として大切なことだと思っております。今までどちらかといいますと、中央の指導に沿ってなるべく補助金のもらえるようなことがいい行政だというふうにも言われがちでありましたけれど、もっとまちらしい、自治体らしい、そういう教育の場をつくっていくということもこれからの課題だというふうに御指摘に対して感じておるところであります。つまり学校施設のソフト化ということだろうと思います。

「広報ひの」その文字のことでちょっと私も行政広報は何かショッキングな表現は要らないと、むしろ静かに和らしく見てもらえる、そういう活字がいいんではないか、こう思っておりましたが、もっと読みいいとか、わかりいいとか、そういうことはもちろんでありますけれど、今使っている基本的な活字ではありませんが、文字の形、１行がたしか11字、13字ですか、割合大きい文字を使っているわけでありまして、表題は私はなるべくソフトな表現でやった方がいい、こんなふうなことを担当の方に言っているわけでありまして、その点はこれからひとつ検討をしていきたいと思っております。

図書館は文化行政の一つの大きな手段でございますし、日野市の場合、一応成功はしておるわけでありますけれど、これをより高度なものにしていくと、その高度なものというのは量よりもやっぱり質だということについては、まさに同感でございまして、その手段にごく選択をした範囲のフィルムライブラリー等を設ける、これは特色づくりのために役立つことだというふうに思います。

社教センターがいろいろと社会教育について大きな役割を果たしてもらっているわけでありますが、私は日野市のやっぱり外郭団体としてきちんとした育成を図る必要がある。せっかくの能力を能力いっぱいに活用する、そういうお互いの協力が大切だと、このようにも考えておりますので、存立の保障を図りながら、そのような努力をしていく考え方でございます。

この質の高いイベントというのは確かにやりたいわけでありますが、なかなか何を目指すか、我々の情報不足もありまして、これから例えば御指摘の文化懇談会でありますとか、あるいは文化行政市民会議というふうなものでも設けて、いろいろな情報を聞きながら何かそういうことにたどり着きたいものだと、こう考えるわけであります。

一つの例を申しますならば、１月15日、成人式でございますが、今、日本国内では比較的評価の高い読売コンサートを昨年から迎えることをやったわけでありまして、来年もそのような計画を進めようと考えております。成人式を単なる何か式典という形のみならず、そういう日野の成人式は音楽成人式だ、というふうなことに特色ができれば幸いだと思っております。そのようなことをこれからいろんな広い範囲の情報をいただきながら、地域社会のこの日野市の大きな特色として、文化の、行政の文化化あるいは地域の文化の発展のために取り組むべき、それこそ本当の目標がそこにあるというふうに考えておるところでございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　中谷好幸君。

○９番（中谷好幸君）　　積極的な御答弁ありがとうございました。

私たち共産党市議団は、先日老人医療費の無料化で有名な沢内村に行政調査で行ってまいりました。非常に感じたことですけれども、もちろん老人医療などの点についてすぐれた施策にも感銘を受けたわけですけれども、村が全体として大変明るいというふうな雰囲気に感銘を受けました。それこそ山の中の村ですけれども、普通の田園風景とはちょっと違う。一番最初バスで入って一番最初に気がつくことは、農家の窓が非常に大きく南側の壁いっぱいにとられている。屋根に積もった雪がこの窓の側に落ちないように傾斜がついている。そういうふうな配慮がされていました。町が、雪が降るともう全

く雪に覆われてしまう、原始時代に戻ってしまう、そういうふうな中で、町の指導で家のつくりもこういうふうに変わってきたというふうな点を後で知りました。それから雪が降ると全く雪に閉じ込められるそういうふうなところであったわけですけれども、村の努力で盛岡から沢内村に抜ける幹線道路がつくられたという話を聞いたわけですけれども、その道路の両側にはずっと草花が植えてある。非常にあったかい、そういうふうな感じがしたわけであります。冬、雪に閉ざされると原始時代社会同然となる。全く貧乏と病気の村だった。こういうふうな自然の猛威をなくすというふうなことで理想を掲げて沢内村の人々、特に深沢村長を初めとするそういう方々の御努力が連綿と続いてきたということで、そういう中で町の雰囲気まで変わってしまうのではないか、そういうふうな感じを受けたわけです。

私たちの日野市のまちも革新市政になって16年になるわけですけれども、市制25年というわけでありますけれども、確かに沢内村のような自然の猛威というものはありませんけれども、しかし、東京都の郊外に位置するということで、高度成長時代にはそれこそ乱開発という沢内村の雪どころではないような大波を受けておりますし、また現在、東京一局集中というような国際的な巨大な大波も押し寄せてきているわけであります。

日野市基本構想に掲げられている「緑と文化の市民都市」がこの大波に飲まれることなく自治の力で、市民の力で実現していかなければならないんだということをこの沢内の視察の中でもつくづくと考えたものでございます。市政に対する市民の期待は一層大きくなっていると思います。ぜひとも頑張りたい、私たちも頑張りたい、そのことを表明してこの質問を終わらせていただきます。（拍手）

○副議長（一ノ瀬　隆君）　これをもって５の１、「文化」的なまちづくりを！行政の「文化」化を！「文化」の革新を！の質問を終わります。

一般質問５の２、幼な子を愛しみ育てる土壌はぐくむ日野市立幼児教育センターの発展をの通告質問者、中谷好幸君の質問を許します。

○９番（中谷好幸君）　通告に従いまして質問をさせていただきます。

日野市立幼児教育センターが条例化され、職員などの体制が整えられて発足してから３年になろうとしております。この条例については議会から３年間の期限立法という足かせをはめられているわけであります。期限をなくすという条例改正が行われない限り、廃止されるというような大変な事態にも直面をしています。そもそも幼児教育という地味で息の長いテーマの研究に３年間という期限をつけられ、３年間に目に見える成果があらわれなければ、と奮闘されてこられた幼児教育センターの研究者の皆さん、また職

員の皆さんに心から敬意を表したいというふうに思うんです。それこそ外から見ても痛ましく思うような御努力をなされてきたのではないかというふうに思います。それはどうして感じますかといいますと、この日野市の幼児教育センター、業務報告書を読めばわかることではないかと思います。それこそほかの役所の報告書には見られない生身の人間の息遣いのある報告書となっていると思うわけであります。

私は特に昭和62年度の報告書、経過と成果についてを中心に、幼児教育センターは３年間で何をやってきたのか、またこの先何をやろうとしているのかということについて質問したいというふうに思います。

第１点は、幼児教育センターでは、この62年度の報告書で幼児保育の現状調査を行ってきたとして報告がされているわけであります。この調査は日野市の幼児保育、幼児数の実態を累年的に町や学区ごとに総合的にまとめたもので、聞くところによると市町村レベルや県レベルでこのような調査が行われたのも全国でもまれだというふうにも聞いております。この調査でどんなことが明らかになったのか、また行政として、この結果をどのように生かされようとしているのか、この点について１点質問したいと思います。

第２は、幼児教育センターでは個性形成の萌芽の研究というテーマ、三つ子の魂の研究を一貫してテーマにされてきています。今、子供を育てることは大変困難な時代だと言われ、子供たちの心のゆがみや体のゆがみ、子育てをめぐってさまざまな問題が出されているわけでありますけれども、今日の教育においてなぜ三つ子の魂、個性形成の萌芽の時期を探ることが大事なのか。研究センターでは、どうしてここに執着されているのか、こうした研究を日野市でやっておくことがどうして必要なのかというような点についてわかりやすく説明していただきたいと思います。

第３番目に、幼児教育センターでは保育カリキュラムの実践的研究や幼児の発達の観察についての研究、こうした研究を現場の保母やあるいは幼稚園の先生と共同で進められてきましたし、また進められようとされています。いろいろこの62年度の経過と成果にも出ているわけでありますけれども、読ませていただきましたけれども、研究の方法というのは保育の実践と結びつけて徹底的に観察し記録する、そして集団的な評価や分析、これを繰り返して行っていく、こういう大変地道なものです。この研究報告例の中でも、例えば不思議なポケットという歌を通じて何カ月もかけた試行錯誤によって子供たちの歌に対するイメージをどういうふうに膨らませていくのか、こういうふうな研究がなされておりますし、例えば目立たない子の観察というテーマで、積極的な子供、消極的な子供の中間、集団保育の中で目を落としかねない、落としがちになるような子の

観察をする意義を述べてこういうふうな研究もやられています。

私はこういう研究成果を読んで、もしもこういう研究が幼児教育の現場の先生や保母さんの中に広がっていって、また蓄積されていくならばどんなにすばらしいことか、というふうに思いました。研究というのは、研修に比べると大変難しい点があるのではないかと思います。研修という言葉には、研修を受けるという言葉がありますけれども、研究という言葉には研究を受けるという言葉がないわけであります。あくまでも研究は主体的でなければなりません。そういう点で、この研究に現場の先生方を組織していくということ、加わっていただくということは大変だったのではないかと思いますけれども、こういう点でどういうふうに成果をおさめられたのか、どういう到達点にあるのか、そこら辺の点について教えていただければと思います。

第４に、以上のような62年度までのほんの短期間の研究の中で大きな成果を挙げられていると私は思うわけでありますけれども、幼児教育センターとして、今後どのように研究を発展させようとお考えなのか、今後の課題というものを教えていただければと思います。

以上、４点について質問させていただきます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　中谷好幸君の質問についての答弁を求めます。教育長。

○教育長（長沢三郎君）　　教育長の方から答弁させていただきます。

ただいまの幼児教育センターの今まで取り組んでまいりました内容等含めまして、これからどうあるべきなのか、という問題も含めて御質問がございましたけれど、まず最初に幼児数の動向調査、これは62年度に現在明星大学の教授をやられております岡田先生を中心に、日野市に在住しております子供さんたち、これは公・私立を問わず幼稚園、保育園児、そういうものを実態調査を全市的に進めてそのデータをまとめたわけでございますけれど、地域に密着した幼児にかかわる政策、そういうものを打ち立てていく際には、どうしてもその対象となる幼児、これの動向というものの実態を十分把握してかからなくてはならないと、そういう面から実態調査が展開されていったということでございます。

私自身も十分この実態調査の内容分析、それ等について十分できているわけでございませんので、岡田先生の最終的な実態調査のまとめの中に触れております内容等も含めながら申し上げたいと思いますけれど、まず第１点目に、この日野市内に居住している未就園児、幼稚園にも保育園にもどこへも行っていない子供さんたち、こういう子供さんたちが日野市の場合、極めて少ないんですけれど、それでも４歳児に107名、それから５歳児に51名の幼児がいる。その幼児が例えば幼稚園とか保育園に通えないで障害施設等に通園していると、そういう場合等もございますでしょうし、あるいは本当に家庭でお母さんあるいはおばあちゃんと一緒に生活しているというようなケースもあるわけでございますが、いずれにしても障害幼児等の実態等についてはもっと十分調査の内容を深めていって、できるだけ障害の問題等については早期発見、早期治療、早期保育というようなものが必要なわけでございますから、その辺の問題等は、未就園児等についてはさらに内容を分析して深めていきたいと、こんなように考えているわけです。

それから２番目に、この中でも触れておりますけれど、確かに核家族化していると、一人っ子の家庭あるいはせいぜい２人兄弟と、昔のように４人、５人兄弟がいて、その中で社会性が培われるという機会が少なくなってきている、そういう状況の中ではこれからの一つのテーマとしてそういう社会性がなかなか育たないその幼児というものを対象にしたときに、３歳児の幼児教育というものはどうあるべきなのかという３歳児幼稚園教育の問題、こういう問題等についてもいろんな角度から研究を深め、その普及に当たっていかなくてはいけないんではないか。

幸いに幼児数が減少してきている中で、現在の幼稚園の域を受け入れの中から３歳児以上が幼稚園の受け入れ園児として国でも認められている中で、３歳児教育というものをどんなぐあいに位置づけていったらいいのか、これもこのデータ等の結果から十分分析しながら進めていかなくてはいけない内容ではないか。さらに幼稚園児の減少率が保育園児の減少率に比べてずっと割合が高いということ、保育園児の方はそれほど減っていないんですけれど、幼稚園児の減少が際立って高いということ、このことはやはり現在要保育を必要とする家庭というものがどんな実態にあるのか。お母さん方の社会進出とあわせて共働き家庭がふえていると、そういう実態の中で行われている問題等も含めて、これらの資料をいろんな角度から分析して今後の日野市の幼児教育の一応対象として取り組んでいきたいと、そんなように考えております。

それから２番目の個性尊重の教育、三つ子の魂ということ、大変重松先生自身その一番大もとの時点のところに迫る研究で苦労をされておりますけれど、いずれにいたしましても幼児教育という、これは人格形成の基本的な時期、これが幼児の時点に相当固まってくる。ある学者に言わせますと、人間の脳細胞の90％は３歳児までに大体でき上がってくると、こういうようなことも発表されている中で、三つ子の魂といいますか、人格形成の一番中心的な時点における大切な時期に先ほど申し上げましたような核家族化あるいは母親の職場進出、そういう中で保育者自体が幼児へ働きかける重要性、こういう

ものは極めて高いわけでありまして、国の研究機関あるいは都道府県段階の研究機関、こういうものもありますけれど、現実問題としては、その地域の中で実践的、実証的に現在子供さんたちを預かっている先生あるいは保母それから保育に当たるお母さんたち、こういう者の意見交換等を行いながら、ばらばらであっては力にならない、それを一つにまとめていかれるような継続的なあるいは計画的な機関として幼児教育センターがこの研究を集約する拠点として機能していくような、そういうような方向での取り組み、これが個性尊重の教育の一番基礎のところに置かれているんではないかと、このように考えております。

それから３番目の保育カリキュラムの問題でございますけれど、研修と研究とは違うんだ。確かに研究ということになりますと自主的、自発的な能動的な意思というものがその中に働かなくてはなかなかできない。与えられてするものでなくて、自分から進んで取り組んでいく内容というものが研究という過程でありますので、幼稚園あるいは保育園の先生方にいろんな形で働きかけ、現在では実践的な研究保育ということで、幼稚園から２園、それから保育園から４園、研究協力園という形でお願いして、その中で継続的な共同研究というものを進めているという状況でございます。

確かに保育者の方々の幼児を見る目、そういうものは広い視野に立って物を見るような、そういうような方向に広げていく、それの大きなよりどころになっているというように感じております。

最後に、今後の課題ということになりますけれど、私たち自身ぜひその幼稚園あるいは保育園またはお母さんの中でも保育に当たっているお母さん、そういう方の中から主体的に研究協力者、幼児教育センターに対する研究協力者を委嘱しながら、その組織というものを検討し、できるだけ今ある体制にそういう実践的な保育活動に当たっている方の協力を得ながら研究体制を整備していきたいということ並びに幼稚園、保育園と小学校との関連、これをどうしてもやっぱり十分な形で連携がとれるような手だてをとっていかなくてはいけない、その辺のことを今後の課題として取り組んでいきたいと、このように考えている次第でございます。以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　中谷好幸君。

○９番（中谷好幸君）　　日野市の幼児教育センターの存在意義あるいは今後の課題について、非常にきっちりした御答弁をいただきましたので再質問はいたしません。私の意見を述べて質問を終わりたいというふうに思います。

たびたび議会で取り上げることでございますけれども、幼児教育センターの業務報告

書の扉に「今、世の中で一人ひとりのお子様のしていること、しようとしていること、考えていることがしみじみとおわかりでしょうか、力を合わせて探りましょう」こういうふうな言葉が書かれています。たびたび読み直してもすばらしい言葉だというふうに私は考えています。気持ちが洗われるというか、心が触発されるというか、襟を正させる言葉ではないかというふうに思うんです。この言葉と同じような響きの言葉がどこかにあると思いましていろいろ読んでみましたら、児童憲章の中にはこういう言葉があります。「日本国憲法の精神に従い児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福を図るために」というふうな書き出しで「児童は人としてとうとばれる、児童は社会の一員としてとうとばれる、児童はよき環境の中で育てられる」こういうふうな三原則が明らかにされているわけであります。私は、この幼児教育センターの大事にされているところは、まさにこの児童憲章の立場であるというふうに思い至りました。今日、子育ての問題があるいは教育の問題がいろいろあるわけでありますけれども、この原点に戻るということがひとつ重要なことではないかと思うわけであります。

もう一つ私の感じるところでは、幼児教育センターが３年間の努力の中でなされたことの中で一番とうといことということは、研究活動という主体的な活動に、いろいろな困難があっても保育園や幼稚園の先生方が参加をされ始め、実践的な芽が出始めているということであるのではないか。人のつながりができる、そういう人が生まれてきたことではないかというふうに思うわけであります。

そういう点で、ぜひともこの芽を摘み取りたくない。幼児教育センターが先ほど教育長が言われたような方向で本当に発展されるならば、本当に日野市の幼児教育はすばらしい、保育園、幼稚園はすばらしい、本当の意味で言われる時がくるのではないかと、こういうふうなことを感じます。

三つ目に感じることは、幼児教育センターの発展のために尽くらされてこられた職員の皆さんや研究者の皆さんの心に思いをいたすことが今大事なのではないかというふうに思います。研究というのは仮説を打ち立ててそれを検証していくというふうな地道な活動であり、長い見通しがないとなかなか情熱が続かない、意思が続かないものであります。３年間という期限をつけられたにもかかわらず、全力を尽くしてみんなに成果を認めてもらおう、こういうふうな努力は本当にとうといものであるというふうに思います。

ところが、今３月以降のどうなるのか、大変不安になっておられる、あるいは意思が消えてしまう。情熱が消えてしまっても無理からないような事態ではないかというふう

に私は思います。もしもそういうことになれば、せっかく日野市にいるこうした研究者や、また保育や幼稚園の先生方の情熱をなくすということは、本当に市民全体にとっても、また日野市の歴史にとっても大変大きな損失につながるのではないかと私は考えるものであります。

この問題について、今委員会で審議中でございますけれども、ぜひとも同僚議員の御理解を心から私からも訴えて質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

○副議長（一ノ瀬　隆君）　これをもって５の２、幼な子を愛しみ育てる土壌はぐくむ日野市立幼児教育センターの発展をの質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（一ノ瀬　隆君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後２時58分　休憩

午後３時32分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問６の１、崩壊危険箇所についての対策を望むの通告質問者、夏井明男君の質問を許します。

〔13番議員　登壇〕

○13番（夏井明男君）　第１問の崩壊危険箇所についての対策ということで質問させていただきます。

場所は２カ所ほどありまして、一つは大坂上二丁目15番地、いわゆる甲州街道沿いの地域であります。

まずこの問題についてお聞きしたいんですが、10年ぐらい前に八王子ですが、大和田で議会でもこの辺は崩れるんじゃないかという指摘があったことがありました。とうとう崩れましてそのときには下にいた80近いおばあちゃんが亡くなったということがありました。その後急遽八王子市では１億数千万かけて工事をしたという経緯がありました。この大坂上二丁目の話は下に家がありませんので、崩れても下の方で災害が起きるということはないんですが、あいにく上の方には家がずらっとありますので、恐らく時間の経過とともにあそこは対策としては崩れてくるというふうに見える場所であります。この間、30人の議員さんで議員研修の帰りに甲州街道のそこの地域を通って、皆さんも指

摘をされた点の場所であります。

この15番地の地域は、非常に上が下水がありませんので非常に地盤が緩やかで非常に下が思ったほど固くありませんで、非常に軟弱な地形になっております。さらに日野駅から八王子に向かいまして高速道路の手前、右側の斜面ですが、ここが開発行為で住宅が建った地域であります。当初、相武国道の方もこの辺の甲州街道ののり面ということで岩盤はしっかりしているんだろうということで測量を始めたんですが、意外に軟弱な地盤だということで驚きまして、急遽お金のないところを、ちょっと金額的にはあれですが4,000万、5,000万かけまして対策をとったという地域でもあります。また過去に不幸にして、この地域でやはり崩壊の事故がありまして亡くなられた地域でもあるわけです。

こういう危険な所では当初家を建てるとか構造物を建てるとかということになりますれば、事前に法規制が働きましてその対策をとられるわけですが、既に既存のある構造物、建物についての下の崩れ等については対策として難しいということも聞いておりますが、この辺、どういうふうに日野市の方では認識をされているのか、何らかの対策を考える必要があるのではないかというふうに思うわけですが、この１点お聞きしたいと思います。

２点目は、東豊田三丁目30番地の地域であります。いわゆる黒川公園とＪＲ中央線の交わる地点であります。

この地域も私も気がつかなかったんですが、下から見ている限りは上の方でどういうことが起きているか非常に草深い所ですのでわからなかったんですが、上から見ましたらば、どんどん浸食されて崩れているという地域であります。ここでは緑地の規制がなされておりまして私有地であります。崩れているそばを見ながらその方は緊急措置として自分のところでその他人の土地に入っても擁壁みたいなのをつくる必要があるんじゃないかという切迫感につまされているわけであります。この地域は日野市の方でも最近までは情報として得られてなかったと思いますが、幸いにして、この一般質問を契機にしまして早急に見ていただいたわけですが、その上でどのようにこの対策を考えておられるか、その辺の認識、今後の対策として考えられる手だてがあるかどうか、その点お尋ねしたいと思います。以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　夏井明男君の質問についての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　御質問の崩壊の対策でございますけれども、第１点目

の大坂上二丁目15番地の先の崩壊場所でございます。

過去にがけ崩れがあったところの近くでございます。現在空き地になっているところのがけ地と、それから甲州街道沿いののり面の部分ではないかと思います。一応現地を確認したところでは、私有地ののり面のがけ地と、それから国有地ののり面に続いているところでございます。長い年月の経過と自動車等の振動があるかもわかりませんけれども、部分的に地崩れあるいは地ずれがしているように思いました。このような状態が続いておりますと今後にも過去同様なことが推測されるわけでございます。これをこのまま放置することはできる問題でございませんので、地域の関係の皆さんと市と協力いたしまして、おのおのの土地所有者また管理者にその対策について要請行動等することが必要ではないかな、このように考えているところでございます。

それから東豊田三丁目30番地の地先の崩壊場所でございますけれども、これも確認いたしましたところ、よく10年ほど前になると思いますけれども、宅地造成がされた場所でございます。その隣地がのりになっておりまして、現況山林になっているところと思います。この箇所も大坂上の場所と同じような状態がございますので、やはり関係の地主に対しまして対応を要請してまいりたい、このように考えておるところでございます。以上でございます。

○議長（市川資信君）　　夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　　それでは要望したいと思います。

二丁目15番地は、甲州街道を管理する意味からも建設省の役割分担というのは非常に比重としては大きいと思います。確かにこの下には私有地があって問題が複雑なわけですが、そのまま放置しておいていいというわけではありませんので、ぜひ強力に進めていただきたい。特に上の方が岩盤が非常に弱い、軟弱だということもぜひ調査をしていただきたいと思うんです。長年あの地域は吸い込み槽でやってますので、なかなか吸い込まない時期には上が沼地みたいな形になって絶えず下へ浸透しにくいような地域にまでなっておりますので、意外ともろい地域になっているはずです。ぜひ精査していただいて要請していただきたい。ここで大きな事故の発生というのも多少大げさになるかもしれませんが、時間の問題だろうというふうに私は認識しておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それから東豊田三丁目30番地先の件ですが、ここももう庭先のところまでもう塀のすぐそばまで崩れてきております。過去にこの辺の地域についての袋地対策ということで私も２回か３回ぐらいこの議会で質問もさせていただいてますが、そういうのんびりした話ではないということが上から見てよくわかりました。市も東京都の方へ、また東京都も緑地指定になっている地域の買い上げということで努力をされているということも資料を通じて聞いているわけですが、今回の議会で成立を見るであろう緑地信託法の７条３項を使ってでも対策を立てていただきたいというふうに要望して、この件については終わります。

○議長（市川資信君）　　これをもって６の１、崩壊危険箇所についての対策を望むの質問を終わります。

一般質問６の２、市営学習室（自習室）構想の通告質問者、夏井明男君の質問を許します。

○13番（夏井明男君）　　それでは２問目の市営学習室（自習室）ということで話をさせていただきます。

これは事前に図書館の方の館長さんからのお話でもあるんですが、こういう話は余り聞いたことがないということでいるわけなんですけれども、実は、日野市の図書館が全国的に有名であるということで歴史があるというふうに伺っております。昔の図書館ですと蔵書の保存と図書館内での閲覧に重を置いてきた。こういうものから地域に開かれた本の利用ということを考えて日野市は始まった。つまり閲覧室、勉強部屋のない図書館をつくりたいと、こういうふうな発想で日野市の図書館行政が進められてきたというふうに伺っております。さらに生涯教育等も含めて、地域に開かれた図書館として一般的な立派な図書館では視聴覚室の中心の部屋、学習室、集会室、児童室、このような設備を整えていくような状況にあります。日野市の長期計画の中にもその話が出ているわけであります。

私の話はちょっと逆行するような話になるかもしれません。全国の図書館の発生は、いわゆる勉強部屋みたいなものからそこに本を置き、だんだんそれが拡大されていったという経緯がありますので、その辺から見るとどうかというふうな議論も出てくると思います。私がこれを取り上げましたのは、実は四谷の駅の北口にＪＲ――前の国鉄ですが、共済会館という会館がありまして、これは何階ですか、５階か６階を開放しまして地域の勤め人の方さらには学生さんたちに勉強部屋として開放している施設が伝統的にずっと続いております。図書館で本を借りるのではなくて、自分の環境の中でどうしても落ち着いて本が読めないという市民の人の層に合わせてつくった施設であります。

そういうふうな観点から見ますと、私も公団に住んでおりますけれども、住宅事情によっては落ち着いて自分の読書ができないという層も私は聞いておりますので、今の図

書館というのは本を借りて、さらにはその情報を得て、その中でいくというふうな形が主流になっており、それが本来の図書館の進め方だというふうに私も理解しておりますが、日野の市民の方に私が申し上げたような希望があるとすれば、ぜひこのような構想が練られてもよろしいのではないかということで申し上げた次第であります。

全国にも例がないかどうかちょっと参考までに――防府市に例がございました。これは前の図書館長でありました前川前図書館長から見れば、これは図書館ではなくて疑似図書館であるというふうに論断された形態でございますけれども、そうではなくて図書館ではなくて、まさに学習室的な構想ということを長期的には必要になってくるんではないかというふうに思いますので、提案をしたいというふうに思います。

現在、日野市でも図書館行政においては夜間の利用対策というのがおくれているというふうな状況もございます。現在の状況を見ますと、ほとんど５時に終わる状況であります。分館によっては土曜日開館をしているところもありますけれども、ほとんどのところが土、日休むところもあります。ちなみに多摩平児童図書館では土、日が休みです。開館が１時半から５時まで、日野図書館が10時から５時まで、月曜日が休館です。平山図書館が１時から５時まで、月曜日、土曜日休み、百草台児童図書館が１時から５時まで、土、日が休み、日野社会教育センターにあります図書館、これが月曜日、土曜日休みで10時から５時まで、高幡図書館が10時から５時で月曜日休みというふうなことでありました。中央図書館もやはり10時から５時までということであります。

今、全国の図書館の中ではこの５時までという利用形態について、さらに利用状況を高める意味で研究が進んでいるというふうにも聞いております。開館時間が市民の方の利用として使いにくいという状況からすれば、朝、家を出て夕方に帰る勤め人の場合とか、また利用できない時間帯等に開館している存在というのはなるべく少なくしていこうという方向にあるとすれば、こういう形態をとっていただきたいわけでありますが、この図書館の利用の一つの別の流れとして私の申し上げました学習室的な構想があってもいいのではないかということを申し上げたわけであります。この点についての御見解を伺いたいと思います。以上です。

○議長（市川資信君）　夏井明男君の質問についての答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　お答えをいたします。

図書館の本来的なあり方について、今御質問の中でも議員さんの方から御指摘がございましたように、市民の資料要望にこたえて市民が必要とする図書、雑誌、新聞などの資料を無料で提供するのが一応基本的な図書館の役割でございます。この資料提供の、

資料を利用する利用の仕方としては、確かに館外貸出という方が一応メインになっておりますけれども、館内でそれを使うということも当然利用の仕方としてはあるわけでございまして、そのための施設は現在図書館によっては非常に施設的に狭いためにそういった場所が余りないところもございますけれども、ある程度の規模のところについてはそういう場所も一応は設けてございます。

ただ、今も御指摘ございましたけれども、図書館の開館時間の問題が必ずしも現在の市民生活の実態に合っていないというような問題もございまして、これは図書館にとっては大変重要な検討課題でございまして、そういったものが実施できる方向で今後も検討をしていきたいというふうに考えおります。

それから、今御指摘のあります自習する場所といいますか、そういう場所の問題でございますけれども、社会人の問題でいえば確かに例えば勤めが終わった後とかあるいはいろんな住宅の事情などで、そういった場所を使いたいというような御希望も確かに存在するとは思っております。ただ、その辺のところをどんな形でカバーしていったらいいかというのはなかなか難しい点がございます。

従来ですと、とかくそういう学習室、自習室というのは主に学生さんあるいは生徒さんからの要望としては今までも実際にはございました。この生徒さんや学生さんの問題でいえば、こちらの方はやはり一つはやっぱり学校の問題といいますか、その学校の指導にかかわる問題という側面が非常に強いわけでございまして、特に試験期といいますか受験期にそういった某所を求める方々もおられるわけで、そういった勉強というのはやはり学校における担任教師の指導を受けて行われるというのが原則でございますので、やはり試験期、受験期の生徒、学生に対する全般的な教育上の指導とか、あるいは生活上の指導を学校としてどうするか、ということを改めて検討して方針を出す必要があろうかと思います。そうして必要ならば、例えば学校施設の一部を使ってそういう場所を設定するというようなこともあるいは必要になってくるかもしれませんが、いずれにしろ、これは学校側とも十分に検討しながらそういった問題については解決を図る必要があるいは出てくるかもしれないというふうに思っております。

中学校の場合でいいますと、今後予想される余裕教室の活用の中にそういった部分を含めて検討する必要もあるいは出てくるかもしれない。ただ社会人の場合は、なかなかそういう場所というわけにはいきませんので、今後充実していくであろう例えばコミュニティー施設等の中でそういったことが可能かどうか、その辺のところは検討してみる必要はあろうかというふうに考えております。以上です。

○議長（市川資信君）　　夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　　今の次長の答弁の中にすべて入っているわけですが、非常にこういうふうなものがあったらいいな、という声は結構強いわけであります。ところが、なかなかそれが上がってこない、生きてこないということが実際にありまして、その辺がどの辺でそうなってしまうのかということをちょっと調べました。

選挙権のない世代の人たちでまだ横のつながりもそれほどないと、運動として成り立ちにくいということがありまして、個々ではそういう願望を持っているけれども、そういう願望の時期がある時期のことで、長期的にその方にとっては必要であるというふうな状況も出てこないのも原因をしているかもしれません。ただ未成年者の方のそういう方に、大いにそういうふうな雰囲気のものがあればありがたいな、という声は強いことは確かであります。

四谷の共済会館で行っていますその申し込みの当日になりますと、大きな列ができます。そこではその近くの方であるということの証明をもちまして、ここは有料でありまして、今どのぐらいになっているか、当時ですと１カ月2,000円ぐらいの形で自分の机等を確保できるわけです。そこで四六時中自分の研さんもできると、こういうふうな施設であります。そういうところがお金を出しても、というぐらいに非常に希望が強いということは確かですので、これはいろんな角度から教育委員会だけの話でなくて、ぜひ可能ならばその追求をしていただきたいということを御提案したいと思います。

この辺、市長からお話がいただければありがたいと思います。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　御質問に伺っているわけでありますが、確かに成長過程の学生あるいは児童・生徒、何か固有の勉強場が欲しいというふうに感じている人は少なくないというふうに推測いたします。そのことはいろんな理由があると思いますけれど、主として居住条件に伴う問題ではなかろうか。勉強盛りの人たちが集まって鉢巻きを締めるような一生懸命な勉強の姿というものもとうとい姿ではありますが、グループでそれぞれの自宅を持ち回って共同の勉強をするというようなことも確かにあると思っておりますが、居住問題から発生する、つまり固有の、固有のといいましょうか、あるいは公営の勉強場が欲しいと、だんだんそういうふうに求められることも理由はあるように思います。その際に、今の時点て公営の仕事として該当できるかどうか、そのあたりにちょっとちゅうちょを感じるわけでありますが、何か住宅がある程度整ってまいりました場合には、そういうところを借りるなどという方法は、そうしてまた有料で貸すというようなことも不可能ではないように思います。

ただ、いわゆる図書館を図書の貸出場あるいは図書を閲覧する場、その上に自由の勉強する場ということができると有意義な面もあるということはもう間違いないと思いますが、現在の図書館の傾向として、主として機能を供給の場に、図書の供給の場に考えられておるわけでありまして、勉強の場ということに対しては恐らくスペースの上で成り立ちにくいというのが今日勉強場を確保し得ていない理由だろうと、こう思っております。

ある程度系統的に状況の判断をしながら、市民要求があり、またその効果が十分あるということの見通しが成り立てば、また新たな課題として考えるべき問題だと、このように思いました。

○議長（市川資信君）　　夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　　私もこの辺については、この問題につきましてはさまざまな問題が伏在していると思いまして、構想ということで述べさせていただきました。

私もこの件につきましてはアンケート調査なり等して、もう少し具体的な把握をしたいと思います。市長からはかなり御理解のあるお答えをいただいたと思います。この質問については以上です。

○議長（市川資信君）　　これをもって６の２、市営学習室（自習室）構想の質問を終わります。

一般質問６の３、市営保養センターの建設の通告質問者、夏井明男君の質問を許します。

○13番（夏井明男君）　　この問題は今回の行政報告の中でも若干市長には苦い言葉として映ったかもしれませんけれども、発言させていただいた経緯があります。

この間、日野の市内の方ですが、杉並区の保養センターに行った方がおりました。非常に区立の宿泊施設として保養施設として非常によかったと、内容もよかったし食事もよかったということで感激をして帰ってまいりました。それにつけても日野はないですねと、こういう話になりまして、前にも何回か聞いたことがあります。調布の保養所を使われて調布はよかったという話も聞いたことがあるわけであります。それで杉並区の資料を見ますとかなりありまして、職員互助組合の施設として千葉県の富津市に大貫寮、それから青梅市に青梅寮が職員互助組合施設としてあります。これは区の職員の施設ですが、あいているときには利用できますということで１人大人1,400円であります。賄い料として1,200円、ですから2,600円で泊まれますと、こういうことであります。さら

に教職員の研修所ということで五日市市に秋川荘という研修所を持っております。これもやはり杉並区の教職員の研修所ですが、あいているときにはどなたでも利用できます。宿泊料金が1,500円で賄い料が1,400円、2,900円で１泊で泊まれるわけであります。

そのほかに校外施設ということで、これは移動教室として杉並の子弟の方が使っているわけですが、山梨県のこれは忍野村ですね、ここに富士学園というものを持っております。さらに伊豆の下田に近いところですが、弓ケ浜学園を持っております。もう一つ長野県の長田町ですか、菅原学園ということで、菅平学園ということでこの三つの施設を持ってまして、ここで移動教室を行っております。さらに区民の人の施設として子供たちが義務教育の子ですが、ぜんそくであるとか虚弱であるとか肥満で悩んでいる子供に対してのために南伊豆健康学園ということで全寮制の施設を設けております。さらに湯河原杉並荘ということで、これは保養施設ですが、大人3,000円、賄い料1,500円、4,500円で泊まれる施設を湯河原に持っております。そのほかに国民健康保険の指定旅館ということで次の温泉地、すなわち草津、伊香保、猿ケ郷、鬼怒川、熱海、伊東、箱根の一般旅館と料金協定を結び指定旅館として区民の方にあっせんをすると、こういうことで区民の方の余暇利用に一つの応援をしている制度があるわけであります。調布市も早くから市民休暇村ということで持っております。これは多賀荘ということですが、ここでは収容の方が52人であります。大人以上が１泊２食付で4,500円。１室１人で使用する場合には5,500円ということで、ここもかなり使われているそうであります。

私は今のところ勉強不足かもしれませんが、日野では大成荘しかなかったんではないかというふうに理解をしているんですが、現状はどういうふうな状況か、これに匹敵するようなものが、例えば職員互助組合関係のもので、もしかしたらあるかもしれませんので、その辺を含めて現状を教えていただきたいと、こういうふうに思います。

それから、この私は保養センターをつくる時期だというふうに思っているわけですが、第２点目は、先日の行政報告の中で、少年の家100人の施設、青年の村ですか、青年の村50人ということで安曇野村につくられるという話もありますが、名称はともかくとして、市民の余暇の利用の仕方としてどういうふうに考えておられるのか、非常に気になるところですのでお聞きをしたいというふうに思います。

さらに、これは企画財政部長の方だと思いますが、日野の市民の方、いわゆる10代の方にどういうふうな市民サービスができるのか、20代の人を対象にした場合はどうなのか、30代の方、40代の方、50代の方、60代の方というふうな世代別な形からとって、日野の市民の方がどういうふうに日野市の行政サービスを受けているかという角度から絞っていきますと、この市民保養所センターを利用される年代等踏まえますと、この辺が抜けているんではないかというふうな気がしておりますが、この辺、どういうふうにお考えになっているか、この辺のお話を受けたいと思います。

特に私は気になっておりますのは、来年、市民プールの脱衣所が変わるというふうに期待をしているわけですけれども、ああいうふうな状況の悪い脱衣所が今までずっとそのままきたということに対して奇異に思っていますので、そういう心配を踏まえて今質問させていただいております。この辺の考え方をお聞きしておきたい。先ほど質問しました学習の話も、これは10代の方に絞って話をさせていただいた事例なんですが、この点どういうふうにお考えになっているか承りたいと思います。以上です。

○議長（市川資信君）　夏井明男君の質問についての答弁を求めます。教育長。

○教育長（長沢三郎君）　今、夏井議員さんの方から御質問のありました杉並の状況等含めながらお話がございましたけれど、御承知のように日野市の場合、人口急増期に当たって学校施設づくりに追われ、最近になってやっと社会教育施設関係の方へ手を伸ばせるような状況が訪れてきている。

こういう中で大成荘が非常に老朽化しておりまして、これの建てかえ問題、これが俎上に乗っている中で、学校当局とも連絡はとって何とかいわゆる父母負担の軽減の問題等も含めながら、大成荘の改築とあわせて、いわゆる移動教室の宿泊施設として利用できるかどうかという方向での打診等もずっと続けてきたわけでございますけれど、今まで予算委員会の際等にもよく意見として出されておりましたが、学校側としては海と山というような形で、５年生時点では三浦半島の油壺の方へ、６年では日光へという一つのパターンが学校にでき上がっておりまして、余り積極的な形の大成荘利用という形での反応が学校側からは上がってこない。教育委員会サイドでもいろいろ検討したんですけれど、市民保養施設か、あるいは学童の林間施設かという過程の中で、大成荘の場合は学校寮に位置づけられておりまして、いわゆる市民の保養施設という形であの建物を改築するわけにいかないという制約がございまして、一応社会教育の線で学童を中心とした自然の中で生活をできるグループあるいは学級サイドでの利用、こういう施設に一応位置づけて対応したらどうかという結論に達したわけでございます。

そういう状況の中で、今までの状況から大成荘の冬場の利用というものがなかなか思うようにいかないという条件もございまして、特に最近ではスキーブーム等も反映して冬場スキーのできるような施設を望む、そういう傾向等も非常に多いというような現実を踏まえて、たまたま安曇野という状況が飛び込んできたという状況等もありまして、

この大成荘の改築と絡めながら安曇野の問題についても、ぜひ何とか議会の御協力を得ながら実施に移せるものは移していきたいと、こんなような考え方で対応しているというのが現状でございます。

将来は、確かに杉並ではございませんけれど、湖畔の宿とか海辺の宿とか、そういうものが将来的に設置できるような状況になっていただきたいということを望んでいるという現状でございます。

○議長（市川資信君）　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　それでは１点目の関係、職員互助会に関連しての保養所施設と、保養施設ということでございます。

当然、今議員さんからも御質問がありましたが、一般が使える保養施設としては、現状におきましてはございません。職員の場合においては夏の期間、一定の期間を互助会としての借用するというような制度を設けての職員対応をしているのが実態でございます。なお過去には、現状ちょっとわからないんですが、老人クラブの中で一つの施設を借りて、一定の保養施設としての契約を結んでいた経過はあることを追加としておきます。

なお３点目の市民サービス面からの10代、20代、30代というような年齢別の行政の考え方ということでございます。

市の施策の中にもおのおの施策を掲げてあるわけでございます。最近の施策の中ではコミュニティー施設の充実等含みながら、その中に温水プールの導入、確かに若い層の年齢に対しての対応が完全でないという中での今後の施策の充実を考えているわけでございます。東部会館等につきましては一般の25メートル公認のプールというような問題等を含んで今後推進していきたいというふうに思っております。

なお、もちろんこの20代、30代の若い年齢層のために、今教育長の方から安曇野の問題がございましたが、この場所につきましてはかなり自然園というような問題、キャンプ場の問題、フィールドアスレチックスの問題等、フルシーズンを通してスキー等にも使えるような施設でございます。そういった中の地域の環境等もありますので、ぜひこの年齢層の対象のためにもぜひ御理解を賜りたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（市川資信君）　夏井明男君。

○13番（夏井明男君）　今御答弁いただきましたけれども、教育長のお話ですと日野市も人口急増地域ということで、それの対応に追われてきたと、これからの課題として受

けとめたいというお話でありました。それは十分わかりますが、私が一番気がかりですのは、この長期計画の中に、基本計画の中に市民の余暇的なものとしてはどういうのがあるかということで、保養所的な考え方で見ますと大成荘の改築の言葉しか出てこないわけであります。「市民保養施設の機能も考えた施設として整備します」教育長のお話ですと、市民保養所的なものとしては大成荘の沿革からして、性格からして無理だというお話でありました。そうしますと、ただ前回、市長のお話ですと、こういう方が使っていらっしゃらないすき間を縫って市民の方か利用できるというふうな形かなと、安曇野の村の方の青年の家についてもこういうふうな形態かなというふうに思うわけであります。

私は当初、大成荘の改築と、海の方にもう一つぐらいつくりまして、それを移動教室で両方使って移動教室の負担を少なくするという形態をとりながら市民の方にも使っていただくという形態が一番理想的ではなかったかなというふうに頭に描いてきておりましたので、この辺が少し不安として残っております。

ぜひ基本計画の中にもう少し余暇を楽しむ意味で温水プール等もつくられていくわけですが、先ほど御紹介しました杉並区の例にあるとおり、少し隔絶をしているのではないかなと、これからの課題として念頭に置かれるんであれば、ぜひ基本計画の中に加えていただきたいなということを強く希望して、質問を終わります。（拍手）

○議長（市川資信君）　これをもって６の３、市営保養センターの建設の質問を終わります。

一般質問７の１、小中学校の児童、生徒を学校毎にみて、子供の躾は、親、先生がお手本だの通告質問者、谷　長一君の質問を許します。

〔25番議員　登壇〕

○25番（谷　長一君）　それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

小・中学校の児童・生徒を学校ごとに見まして、子供のしつけは、親、先生が私がお手本だと思ったので、正直にこの点につきましてお伺いいたしたいと思います。

これはどうしてこのようなことを考えたかと申しますと、11月の30日午後３時ですね、文教委員会が二中へ行きまして教職員との懇談会ということが行われたわけです。そのときに、やはりこれからの世代を担う小・中学生のことを思いながらいろいろとその懇談を重ねて、この次の質問はどうしても子供のしつけは親、先生がお手本だということで、ここで質問をさせていただくという機会をいただいたのでございます。

これはいろいろ前段はありますけれども、ことしの夏、西日本の戻り梅雨、東日本の

遅い夏、７月末の梅雨明けに始まったことしの夏の日照りは、日照時間は平年の半分以下、８月もかっと照りつけるような太陽は幾日もなかった、非常に天候が不順で自然界にもおかしな現象が起きた。夏のサルスベリやアブラゼミが８月中旬ごろ最盛期として鳴き騒いでいたということも記憶に新しく、また私の裏の山のススキやヤマハギが１カ月から２カ月も早く穂を出してしまったという夏秋同居の光景が、私は今まで見たことがなかったようなものがぶつかったわけです。また米等は不作だとか平年作と言われておりましたけれども、過去の冷夏につきましては暗いムードがいっぱいありましたけれども、ことしはあるようでなかったと、確かに季節の野菜づくりの農家それから海水浴場、ビアガーデン、水着等、この気候を頼みとした業種は泣かされたということがテレビやなにかでも報道されておりました。

一面、デパート、スーパーの売上高は10年来の高率、特に紳士服、婦人服、貴金属、大画面のカラーテレビ、ビデオ等がよく売られたと報道されております。また海外旅行史上最高で、海外の旅行も史上最高であったと、夏はですね。ですからＪＲ各社の利用客の増加は47年以来の好調であり、また東証の一部、二部上場の株も非常に活況を呈して現在に至っているわけであります。

このような好況に支えられた社会の中でも将来への不安を訴えた人というものは５人の中に４人はおりました。特にこの中で特に皆さんもよく御存じの中学生の両親殺し、それから母親が自分の子を置き去りにしてどこかへ行ってしまった。さらには埼玉の川越で少女の、幼女の行方不明事件、子供を取り巻く環境の厳しさも見せつけられたわけでございます。株と金に絡む疑い、いわゆるこの政界、官界、企業、民間人を巻き添えにした事件も多発し、またこれにはサラリーマンも含んでおります。そのようなことを考えてみると同時に、この新聞紙上等でも国民の不公平感、特に土地が高くなった不公平感というのが不満となって爆発しそうな気配になっておるということも聞いておるわけでございます。

そのような中におきまして、この長寿社会、老後へのこの漠然とした繁栄はいつまで続くのかということになるわけでございますけれども、気象現象は人間が長年続けてきた環境破壊等に起因するものであるのではないかというようなことも言われ、それが不安の種になっているということもまた言うに及ばないところもあるわけでございます。

また、おもしろいか、すっきりしないか、またよく御存じの楢崎弥之助代議士に対する贈賄工作、これは常識では私には考えられない、個人的な金をわいろに使うなんて、だれもこれは納得できるものでもなく、また説明もできない。明確にするにはその背景、

動機が明らかにされなければならないということになると、今後の捜査で贈賄工作の全体像が明確になるのではないかと私は思います。これにつきましては、非公開株の譲渡を受けた人たちは単なる経済的行為だと、買ったままでまだ手放していない人もいるんだと、しかし、我々にしてみれば、一般の人たちは買えない、入手しがたい株を手に入れたことを考えると、弁解していてもこれを看過するわけにはいかないと、見過ごすわけにはいかないというのが国民である庶民の感情ではないかと思うわけであります。政界、官界、地方自治体、それから企業、民間人に及んでいる。このようなことを考えてみると、一体行政の公正さというのは一体どこにあるのかと、やはり私は公務員の清潔さは絶対に保たれていかなければいけないというふうに考えております。

また、この小・中学校の入学式、卒業式の季節になると、いつも新聞紙上をにぎわすのはぴかぴかと着飾った１年生の新しい――飾ってはないけれども、ぴかぴか光った１年生の新しい制服姿、この姿を見ると実に私は清潔感が保たれておりまして、その登校姿を見ると非常にほほえましい感に打たれるわけでございます。一方、中学の３月の卒業式等をめぐっては、いつも新聞紙上をにぎわすのはいろいろな事件であります。私はいつも心を暗くさせられるわけでございます。

日野市内の小・中学校でも表面には出ない。私たちにはわからない事件が起こっているということであります。およそ社会の健全な常識では考えられないことが学校では常識となって歯どめがなくなってしまったというような感が見受けられるところもあります。小・中学校、児童・生徒の抑えとして校則というのがあるわけであります。私も一部の学校の校則をいただきまして読んでみたわけでございます。市内の市立中学校の校則ということでありますけれども、これは全部申し上げませんけれども、校内生活それから礼儀、それから今度、服装、頭髪、持ち物ですね、公共の物を大切に、というようなこと、それから今度は校外生活と、このように５分別されている、５項目より成り立っている校則なんですけれども、やはりこれらを見ると実に現代にはどうも合っていないんじゃないかというようなところも見受けられるわけでございます。

市内の中学校においても、私の子供が中学生のころ、また私が市会議員になってからもおびただしい校則に対する見解や意見が寄せられたこともあるわけでございます。また学校関係者からの批判に対する、反批判ですね、これは先生が申し上げても非常に校則と矛盾しております関係上、その説得力がないわけであります。どうしてかといいますと、運動会とか卒業式に非行的な中学生等または小学生でも、いたずらをするような人は締め出してしまうわけですね。それで、この締め出すというようなことが校則の中

にあるかと申すと、ないんですよね。そうなると実質的には締め出す要素というのはどこにもないんだけれども、ないから、校則についての根拠を正直に整理して、しかも父兄にわかりやすく説明しろと、してくださいということになると、実際には説明がなかなかできないのじゃないかと思うわけでございます。

人は時によって、話せばわかるけれども、わからない場合もあるわけでございます。世の中には守らなければならないルールがあります。ルールは無条件で従うことがこれはいいかと申しますと、私は逆効果も出てくるような場合があるということであります。これらを整理してみると、論理的には整合性のないルールを強制すればするほど反発心、反発が起こるのは当然であるわけです。児童・生徒に時と場合によっては親に対し、教師というその権威ある言葉に無条件で従う習慣がつくり上げられるというようになったならば、その方が健全な社会にとって害をもたらす場合もあるというふうに考えざるを得ないわけです。その辺のことを考えますと、各校とも校則にこだわるという事情はよくわかりますけれども、理解するような形に直していかなければならないというようなことも考えてみなければならないのではないかと思うわけです。

そこで、この校則についてまた答えていただきたいと思います。

それから、1988年度のことしのこの手元にある日野市教育要覧を見てみますると、この発刊に当たって教育委員長の村田安正先生ですね、それから25周年を迎えて教育長の長沢三郎先生が――この内容をちょっと読ませていただいたんです。ちょっとすぐわかるように、いつも言っていらっしゃることですけれども、急速な都市化に伴い、教育はさまざまな困難に立ち至ってきたと、わかるように急速な都市化、これを克服してきたということであります。また教育環境に大きな変化があらわれた。これは特に児童・生徒の減少である。また有意義な教育環境づくり、一層の教育内容の充実に努めるというようなことが書いてあります。これらを考えてみると、長沢教育長の言葉にもあるように、日野市の教育の前進を図り、21世紀を展望する生涯教育の地盤づくりに総力を挙げて取り組むということが力強く表明されているわけであります。

しかし、教育現場を見ると非常に困難さがこの二中を見てもわかるように障壁となって立ちはだかっているということでございます。また一方、この高度社会成長以降、急激な社会変動の結果に最も敏感に反応した若者、文化と弱体化した家庭教育機能は機構を中心に反社会性、社会に反するような行為ですね、登校拒否に代表される非社会性を大きくしてまいったのでございます。青少年の問題行動、最もそれが集中的にあらわれる思春期の児童・生徒を受け持つ小・中学校を大きく揺さぶられてきたということは当

然のことであります。状況が状況なので教師の苦労は並大抵ではないことは皆様方も既に御承知のとおりでございます。中学校の現場をめぐる困難に対しては、先ほどここで申し上げましたその校則は本当に有効であるのかどうかと、この際、改めて先ほども申し上げましたけれども、検討をしなければいけないということを再び申し上げておきます。

それから、戦後の混乱期、動乱期を乗り越えて徐々に経済が安定期に入り、さらに急成長を遂げ、科学技術の発展とともに一躍日本も経済大国になった。社会環境は著しく変化しました。その結果、特に企業構造等の変化に伴って勤労者は、働く方々は心身ともに疲労する、家では子供との会話は余り行われない。帰ってくるとおふろに入ってテレビを見て酒飲んで転がっている。またお母さんはパートに行ってしまう、子供が帰ってきてもうちは留守である。それで一方、校則を見ると、あれですね、生徒だけで家人の留守中友人宅を訪問したらいけないとかといったって、生徒のお母さんがいないんだと、学校から出てしまえばもうお母さん、お父さんはもちろんいない、弟もいない一人っ子だった場合は、うちの中に１人でいるわけにいかないから、どうしてもテレビを見るとか、または友だちのうちにおれのうちに来いよとかいうことになるわけですね。そうするとその校外生活の校則を見ると、行っちゃいけないことになっているんですね。これは外泊や深夜の外出というのはしちゃいけないということはよくわかっていますけれども、非常にこれ以外にも多く沿ぐわないところがあるわけであります。

そのようなことを考えると、当然服装とか頭髪とか持ち物等の項を見ても非常に時代おくれのようなところもあるのじゃないか。それですからやはり先生が朝校門のところに立っていろいろと生活指導をするような場面も見受けられるわけでございます。

それで、やはり二中に行って特に感じたことは、教師が生活指導に非常に手をやくと同時に、あのようなお話を聞きますと皆さん本当にお疲れでしょうという以外に言葉が出ないわけですね。それで学校長は教育目標は確かに確立しているんだと、もう掌握、確立していて確実に掌握しているといっても、今度はその学校経営に困難を来してしまうということで、非常に指導が私は自動車が渋滞すると同じように、渋滞してしまうのではないかと考えて、あのときにいろいろと話を聞いたわけです。それによって教師側のその教育目標というのと、今度は生徒自身の教育目標双方にこれは支障が出てくるというふうに感じたわけでございます。この生徒と教師とのそうなると、そこに信頼関係ということを考えてみると、やはり教育というものは教師と生徒との信頼に立った教育が推進されるということになるわけでありますから、これらにもまた支障が出てきてし

まうというふうになってしまうわけでございます。父母や地域の期待にこたえる教育の推進にもこうなると、また支障が出てきてしまう。本当にあちこちに支障が出てきて障害だらけになってしまうんじゃないかと、このようなことを私は先生とお話をしながら痛切に感じたわけであります。

子供のしつけは、いかに家庭の親が行うことでありますけれども、家庭から手が離れ学校へ行けば、やはり先生が本当に慈愛に満ちた教育をしてくださるということになると、どうしても先生に対する信頼というのが厚くなければならないということを懇談のときに身をもって感じたわけでございます。そうなると今度は論理とか道義を、というふうになるわけでございます。論議や道義なんていうものは、これはもう論をまたずして人の行う正しい道、実際に道徳の基幹になる原理ということでありますから、我々がどうのこうのというようなことを言うことはないと思うんですね。

そのあたりを踏まえてよく考えてみると、やはりさかのぼって物は考えなけりゃいけないんじゃないかというふうに当然なってくるわけであります。そうなると今のお母さんとか親ですね、お父さん、お母さん、それから先生というのは一体どの時代の方かということになると、やはり戦後の親ですね、戦後の親が大多数、その時代というのは、やはり生きるためのことということになると、親は、お母さんはその子、自分の子供に食わせるために食糧をどうして確保しなければならないかということだったんですね。それですから食い物をあさっているわけですから、しつけどころじゃないわけですね。本当に私はしつけどころじゃない。そのつらさというのを電車の中や貨車の中で見ても、当時は中央線だって今のような客車が走っているのではなくて15トンの貨車に杉丸太が２本あって、それで担ぎ屋というのがいたり私たちも乗ったことがあります。非常に荒廃していた時代ですからそのときに育った子供ですね、それらのつらい思いを母親がしていますから、今度は自分の子供だけにはそのような思いはさせたくないと、そういう気持ちがどなたにもあると思うんです。そうなるとやはり子供子供と、子供を大事にしなきゃなんないということで心配させちゃいけないということで過保護になってしまうわけですね、過保護に。それですから、その時分に育った子供が今大きくなってお母さんであったり父親であったり教師になっているわけです。本当に今の中核的な存在年齢になっているわけですね。

そうなると今度はしつけというものは、基本的には先ほども申したように家庭でなされるものでありますから、家庭でそのお母さんができなかったということですから忍耐力も根気も非常にないような――そんなことを言うと失礼てすけれども、皆さんに。あ

さはかな人間が出てきてしまうんですね。それですから忍耐等を克服することができない。親として見守る姿勢というのはいかに大切かということが言えるわけです。子供がいい方へ進めば、よい方へ進めばその都度親というのは必ずああよかったなと、本当に心から褒めてあげることができる、また心から本当によかったと褒めてあげることができるのは、やはり先生、親であり、また先生であってということは私もよく小学校のときに先生に言われたこともあるし、またしかられたこともあります。よく覚えております。

このようなことを繰り返すことによって自信がつき、また自発性も育つというふうになるのではないかということを考えてみると、これは親と教師という立場を考えてみると非常に大切であり、また同じようなことが言えるのは親と教師であるということが私から見ると言えるんじゃないかと思うんです。そうなると、しつけと教育は基本的には何を促すかということになると創造性の進歩、確立、進歩ですね、確立と社会のルールを教えることだ。子供の個性を伸ばし、家と社会のルールをその体で覚えさせるということが私は任務じゃないかということであります。

またその一方においては、小さいころ子供の質問が非常に知的というか好奇心というか、いろいろどうしてだとか、なぜだとか、くどいほど聞く子供がいるんですよね。そういう子供というのを見ると、やはり疑問を持っているから聞くんだと、心から愛情を持って本当によくわかるように説明をしてやれば、これは何も子供に教えるんじゃなくて、その親だって、また先生だって自分の勉強にもなるわけですね。それですから、やはり先ほど教育長が、子供は今の時代は少ないので幼児期に社会性が培われないとか、または３歳児の幼児保育の問題、特にこの場合は、母親の職場進出等のことをおっしゃられました。または特に小さいとき個人尊重の教育、人格形成の人格的地位と、地域の中での実践的、実証的にこの幼児教育というのは推進していかなければならないというようなこともおのずからわかってくるというふうになるわけでございます。しかし、現場で考えてみると、現実というのはそうではなくて、行動できるようになるまでには非常に親とか先生の指導という役割がどこまでいかなければいけないかというようなことも考えてみると、どうしても親と子供と先生と、それから生涯教育ということになれば社会ですね、これは結局一つの塊にならなければならないというふうに私は考えております。

このような観点に立って、私は先ほど申し上げました子供のしつけは親と先生だということにつきまして質問をいたすわけです。あと一つ質問がありますので、なるべく早

く簡単にしてください。お願いします。

○議長（市川資信君）　　谷　長一君の質問についての答弁を求めます。答弁については簡潔明瞭に願います。教育長。

○教育長（長沢三郎君）　　ただいま谷議員さんのおっしゃられているとおりだと思います。（笑声）私も教育は人にありと、やっぱり人が一番基本であると、そういうように教育の問題については押さえております。

いずれにいたしましても、この校則の問題等について今御質問がありましたけれど、確かに現在の中学校教育等を見ますと、いろいろ学歴社会からくる重圧の問題だとか友人関係といっても塾に行かなければ地域にその仲間がいないとか、あるいは親の期待感が大き過ぎるとか、あるいは管理社会というものが学校段階まで及んできて、校則というような形でいろいろ生徒の行動を束縛する。

そういうような状況の中で、校則等につきましては私よく中学校の生徒会サミットなんていうのへ一緒に参加して子供たちの意見を聞くんですけれど、非常に今の中学生は私たちが子供のころと比べますと、これだけいろいろな形での社会性というものを身につけているのかというような驚くような発言等も行われている。ぜひそういう点をいい方へ伸ばすような努力、これをやっぱり学校側と十分連絡をとりながらやっていきたいと、こう思っております。

○議長（市川資信君）　　谷　長一君。

○25番（谷　長一君）　　ただいま教育長がおっしゃられたことは私が考えていることと内容的には大した相違はない。本当にいい答弁をしていただきましてありがとうございました。

このような答弁の中にも、やはりまだたくさん欠けているところも私はあるんじゃないかと思うんです。今の時代というのを見るとよく私たちもやはりお金万能というか、そしたりまたよく皆さんもおっしゃられるように、赤信号も大勢で渡れば怖くないとか、そういうような風潮の中で、いわゆる主体性を育てて何事にも勇気を持って立ち向かう生きざまですね、地味な努力や、しつけ教育をする私は必要があると思うわけでございます。まず先ほども申し上げましたように、親と教師は手を取り合って手本になるということが大切であると同時に、私自身も、また親も教師もともに学ぶ姿勢、これが大切じゃないかと、これらがあると私は必ず子供たちから尊敬される親であり教師またはその社会人ということになるのではないかと思うわけでございます。

現実は、日本の中がテレビ一つで情報を入れることができるわけでございます。一方

的な教育ということはあるかもわかりませんけれども、教育の情報等ですね、それだから混同しちゃっているわけです、一緒にしちゃっているわけです。一緒にしているということは、どっちだかわかんないということなんですよね。やっぱり自由と平和を願う気持ちが教育というものにあるとしたならば、社会の情報をすべてを受け入れ、自分だけでどうじゃなくて、一つの体制の中で良識ある方々がチェックをする、考え直す。そういう意味で精神的な感性と品格を構築するような研究が大切であると私は考えております。そうなれば必然的に社会そのものも清潔になり、質の高い社会、親、教師というふうに必然的になってくるのではないかと考えております。

それらを踏まえて、やはりこれから教育委員会においても大いにこの点について頑張っていただきたい。そして子供のしつけは、親、教師が手本だということを必ず実践するようにお願いして終わります。

○議長（市川資信君）　　これをもって７の１、小中学校の児童、生徒を学校毎にみて、子供の躾は、親、先生がお手本だの質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により、あらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって会議時間を延長することに決しました。

一般質問７の２、第一小学校々庭を整備せよの通告質問者、谷　長一君の質問を許します。

○25番（谷　長一君）　　それでは２問目の質問です。第一小学校の校庭を整備せよということでございます。

市内の小・中学校は、小学校が20、中学校が８校ありまして、校舎の格差は非常にあります。先ほどどなたか申されておったようですね。それと同時に、生徒の、児童の減少傾向が著しく目立って環境変化は非常に多くなってきたわけでございます。

そこで小・中学校の格差を縮小することは望まれますけれども、差し当たり私はここでは基本計画等を見ると事業計画によっていろいろとなされるような基本構想が記されています。小学校については五小の建てかえを初め校舎の整備、これは20校ですね。屋内運動場の整備が11校、校庭の整備が10校ということになっておって、62年から64年が前期、65年から68年が後期ということで実施される事業内容になっているわけでございます。

そこで、いろいろもっと長く言いたいんですけれども、時間がないから簡単に申し上げますと、この運動場なんですね。この運動の効果ということでございます。運動は体にどのような効果をもたらすかということでございます。

まず人間は生まれれば必ず赤ちゃんでも10カ月、12カ月から13カ月ぐらいになると立ってよちよち歩くようになるわけでございます。初めは歩幅も狭いけれども、大きくなるに従って次第に広がっていくわけです。しかし、皆さんも恐らく案外わかっているようでわかってないのがこの歩幅、どんなような形で歩き始めてその歩きじまいになるかということですね。人間は歩けなくなったら終わりだということはよく言われているわけです。そこで、歩幅の一番長いのはその間幾つぐらいかというと、20歳前後だということです。前によく森久保教育委員長さんが成人式のあいさつのときに20歳ぐらいのことを言っておりましたよね。そのあたりを考えてみると、20歳前後が最も歩幅が広くなる年齢であるというふうに言われております。先ほど申しましたように、人間は歩けなくなったらおしまいだと、なるべく歩幅をとって長い距離を歩くように心がけるということが大切だそうです。

そうなると、やはり体育館の中でこれをやろうと思っても狭くてできないんですね。やはり小・中学生のころ十分鍛練しておくことによって老後の健康が保障されるということも言われているわけでございます。毎日適度な運動を続けることによって、年齢を積んでも運動をしている人が比較的若いと言われるのは、そこにあるわけであります。それですから、毎日適度な運動をしておくことが若さを保つ秘訣であるということが言われております。

また、その運動は精神的な効果もあり、さらに成人病の予防に効果がある。特に動脈硬化は歩行と疾走を短い時間、数回繰り返すということですね。または緩急をつけた運動というのがよいと言われております。それですから、時々こういうふうに私は外へ出てみますと、朝や夕方、夜、早歩きの方が歩っているようです。あのような歩き方では散歩程度ですから動脈硬化の予防やなにかにはならないと、これは言っても過言じゃないかと思います。

そこで、やはり私はここで校庭を整備しろということなんですけれども、やはり屋内体育館でやればいいんじゃないかというけれども、そうじゃないんですね。やはり特に強調したいのは、日光と健康ということを申し上げなければどうしてもならないわけです。

それで、そこで今度は日光はということになると、日光はというと非常に案外わかっ

ているようで皆さんわかってない点もあるんじゃないかと思うんです。やはり日光は、その波長の長さによって紫外線それから可視光線と赤外線というふうに分かれているわけであります。先ほど整骨の天野さんとも話をしたんですけれども、（笑声）紫外線はどんな波長なんだいといったら、わからねえというんです。（笑声）それで私が説明してあげたら、なるほどかと、こう言っていました。じゃあ可視光線はといったら、これは難しく言わないでプリズムですね、プリズムで見ると七色の色、にじですよ。それが可視光線といって、赤外線というのは波長の長い、目には見えない線ですね。やっぱり赤外線も紫外線もそうなんですね。それで、結局やはり植物やなにかが可視光線というのがないと、そのエネルギーによって光合成を営んでできなくなるということですよね。

それでまたその紫外線というのはどういう役割を果たすかということもまたありますけれども、日光に当たると暖かい感じを受けるというのはみんな承知していると思うんです。その赤外線の温熱作用によってそのような効果が出てくるわけです。先ほど申しましたように、赤外線というのは目には見えないんですよね。熱として感じる。それで、しかも波長が長いので暖かさはこういうふうに暖かさは肌を通して中の方にまで入ってくるということですよね。

それで今度また殺菌効果もあるわけです。それだから、どうしてもやっぱり運動場でやらないと、外でなきゃだめなんですね。そしたりまた特に風邪を引いているようなときに、インフルエンザのビールスなんていうのは20分で赤外線に当たると死んでしまうんですね。そうしたりまた、特に冬、赤ちゃんがこういうふうに足をこうやって歩く人が、日光の曇りの多いところ、特に東北の方では昔の人というのはこういう足が多かったんですよね。そういう人はなぜかというと、やっぱりビタミンのDが少ないとか、そしたりまたビタミンのDは体内のカルシウム等の代謝によってつくられるんですね。やっぱり太陽が当たるということによって、このビタミンDの不足を解消するんだということが言われております。それですから、特に幼児やなにかの骨の発育というのには太陽というのは欠かせないんですね。

それですから、そのようなことを考えてみると、どうしても、それは体育館があるから運動場の整備はしなくていいんだということではなくて、やはりこの基本構想にもあるように、校庭の整備ということを考えてみると、どうしても一番先に第一小学校の校庭を整備していただきたいということを私は切望して、きょう、この第一小学校の校庭を整備せよということで質問をいたすわけでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　谷　長一君の質問についての答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　今、御質問の中にもありましたように基本計画の中でも計画期間中に10校整備する予定でありまして、前半期で２校、後半期で８校の計画で進める予定です。

御質問の一小につきましては、来年度建具改修の工事を予定しておりますので、これらと並行して校庭の整備もしたいというふうに考えております。

○議長（市川資信君）　谷　長一君。

○25番（谷　長一君）　ただいまの教育次長の答弁で十分であります。（笑声）

以上で質問を終わります。

○議長（市川資信君）　これをもって７の２、第一小学校々庭を整備せよの質問を終わります。

本日の日程はすべて終わりました。

明日の本会議は午前10時より開議いたします。時間厳守で御参集願います。

本日はこれにて散会いたします。

午後５時３分　散会

12月14日　水曜日　（第４日）

昭和６３年
第４回定例会　日野市議会会議録　（第44号）

12月14日　水曜日　（第４日）

出席議員　（30名）

１番	奥住日出男　君	２番	宮沢清子　君
３番	高橋　徹　君	４番	土方尚功　君
５番	山口達夫　君	６番	天野輝男　君
７番	福島盛之助　君	８番	福島敏雄　君
９番	中谷好幸　君	10番	小俣昭光　君
11番	川嶋　博　君	12番	馬場繁夫　君
13番	夏井明男　君	14番	小山良悟　君
15番	馬場弘融　君	16番	高橋徳次　君
17番	旗野行雄　君	18番	一ノ瀬　隆　君
19番	板垣正男　君	20番	鈴木美奈子　君
21番	中山基昭　君	22番	秦　正一　君
23番	黒川重憲　君	24番	古賀俊昭　君
25番	谷　長一　君	26番	市川資信　君
27番	石坂勝雄　君	28番	名古屋史郎　君
29番	竹ノ上武俊　君	30番	米沢照男　君

欠席議員　（なし）

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	長谷川暢男君	総務部長	坂本金雄君
市民部長	大貫松雄君	生活環境部長	藤浪竜徳君
清掃部長	小林修君	都市整備部長	前田雅夫君
建設部長	永原照雄君	福祉部長	高野隆君
水道部長	橋本栄萬君	病院事務長	大崎茂男君
教育長	長沢三郎君	教育次長	砂川雄一君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	佐藤智春君	次長	土方留春君
書記	田中正美君	書記	濃沼哲夫君
書記	佐々木茂晴君	書記	小林章雄君
書記	斉藤令吉君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3
立川速記者養成所　所長　関根福次
速記者　佐伯実和子君

議事日程

昭和63年12月14日（水）
午前10時開議

日程第1　一般質問

本日の会議に付した事件
日程第1

午前10時10分　開議

○議長（市川資信君）　おはようございます。

本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員22名であります。

一般質問8の1、市民本位の民主的な行政のいっそうの前進をめざし第5期革新日野市政の実現を！の通告質問者、米沢照男君の質問を許します。

〔30番議員　登壇〕

○30番（米沢照男君）　市民本位の民主的な行政の一層の前進を目指し第5期革新日野市政の実現をと題しまして一般質問を行います。

私は、この3月の定例市議会で、15年にわたる革新日野市政の成果と今後の政策的課題について一般質問を行ってまいりました。その際、15年間の革新日野市政を振り返って、特徴点として5点を列挙いたしました。

第1に、市民本位の民主的な行政を押し進める原動力として、かつてない勢力的な市民運動、市民のエネルギーが結集されたこと。第2に、自民党など野党からのためとする革新市政森田市長攻撃が目に余る数多くの妨害が繰り返されてきたこと。第3に、自民党町政、市政時代に当然に解決しておかなければならない諸問題が未解決のまま、約束不履行で革新森田市政に引き継がれたこと。第4に、自民党政府による経済政策の破綻によってもたらされた地方財政危機、国民犠牲のにせ行政改革、福祉、教育の切り捨てなど、深刻なマイナス影響がもたらされたこと。第5に、清潔、公正、民主の森田市長自身の政治姿勢が一貫して貫かれてきたこと。

以上、五つの特徴点を明らかにしてまいりました。

私の今回の質問は、市民本位の民主的な行政の一層の前進を目指し第5期革新日野市政の実現をという表題でありますけれども、4期16年の革新日野市政をなぜ継承、発展させていかなければならないのか、その理由を明らかにしながら、森田市長の見解、決意を伺いたいと思っています。

地方自治体の行財政や市民の暮らしを取り巻く情勢は、この数年来、ますます厳しいものになってきております。63年度予算に示された地方行財政や福祉、社会保障などへのマイナス影響は極めて大きなものがあります。ここ数年の最大の特徴は、国庫負担金、高率補助金の削減による財政負担の地方への押しつけであります。1年限りの約束を強調した60年度の5,800億円のカット、61年度にはそれをあっさりほごにして3年間の時限措置にし、カット額も1兆2,800億円に拡大いたしました。これ以上のカットは行わ

ないとの文書による約束さえ投げ捨てて、2,170億円ものカットを上乗せした62年度、そして、このカットの継続と国民健康保険制度の改悪が63年度予算で強行されたわけであります。

補助金カットによる日野市のマイナス影響は、この４年間だけで17億1,000万円を超えたわけであります。

こうした財政負担の地方へのしわ寄せによって、63年度における地方の借金総額は地方財政規模をはるかに上回る、約67兆円に達していると言われております。

さらに社会保障の当然増の経費は、年金受給者が毎年100万人ふえることなどによって、63年度7,000億円と言われていましたけれども、予算化されたのはわずか3,000億円にすぎません。ここ五、六年の間に老人医療の有料化、健康保険本人１割負担の導入、給付の３割以上切り下げ、保険料増加への道を開いた年金制度の改悪など、一連の改悪がごり押しに実施された後、老人医療の再改悪、国庫負担カットによる地方への負担転嫁が行われてまいりました。

こうした一連の経過を経て、63年度は国保制度と生活保護制度への攻撃を集中してきているわけであります。生活保護受給対象者は過去３年間で、何と15万人も切り捨てられてきております。

こうした自民党政治による地方財政へのさまざまな干渉と圧迫、国民、市民の暮らしへの負担のしわ寄せはますます強化されようとしております。こうした自民党の悪政から地方自治、民主的な行政をどう守っていくのか、福祉や医療、教育など、市民の暮らしをどう守っていくのか、ここに革新日野市政の当面する重要な課題があるわけであります。言いかえれば、革新日野市政を第５期へと継承、発展させていかなければならない第１の理由がここにあるわけであります。

第２の観点として、まちづくりの問題に触れたいと思います。

11月の４日、御承知のように「マイタウン東京’89東京都総合実施計画」が発表されました。現在の総合実施計画が昨年策定されたばかりにもかかわらず、１年もたたないうちに計画の見直しが行われたことは極めて異例なことであります。見直しが行われたこの計画では、市街地再開発地区が一挙に倍増され、東京湾連絡橋やテレコムセンター建設など、日米多国籍企業のための臨海部副都心開発の本格的な具体化が進められています。でたらめなアセスが問題になっている首都圏中央連絡道路を初め外郭環状道路、第二東京湾岸道路、中央環状新宿線などの幹線道路建設の促進などが最優先に取り上げられております。

さらに事業手法についても第三セクター、土地信託方式など、民間活力の導入を一層促進する、また用途地域の見直し、大規模建設への容積率のボーナス制度の拡大など、さらに規制緩和を図るものになっております。都市再開発を通じて、大企業によるもうけ本位の方向がさらに強化されたものになっております。この計画の実施は、東京一極集中をさらに強め、地価高騰、住宅難、通勤難、公害、環境破壊、災害危険度の増大など、都民の暮らしや願いに逆行して、深刻さを一層進行させるものになっております。

そして一方、都民が切実に求めている住宅や福祉、教育の充実などは冷たく押さえ込まれているのが実情であります。例えば養護老人ホームの建設はゼロ、鳴り物入りで宣伝されているシルバーピア、高齢者集合住宅は、東京都が直接供給するものは年間わずか45戸にすぎません。高齢者向け公営住宅の建設も、現計画よりもわずか20戸ふやすだけという極めてお粗末な内容になっております。

障害者のための生活実習所、福祉作業所の新設は引き続き拒否したものとなっております。しかも障害者通所施設建設助成は現行計画よりも大幅に後退をさせ、一人親家庭への医療費の助成も今後の検討課題として退けられております。

さらに教育については、都民の大きな運動が進められている小中学校の40人学級の即時実施を初め、都立普通高校の増設、公立高校標準教育費の２分の１を目指す私学への助成の充実にも全くこたえようとはしていません。

これらは、いずれも福祉や教育に冷たく、大企業に奉仕する鈴木都政の姿を改めて浮き彫りしたものになっております。

自民党政府による第四次全国総合開発計画、民活路線と鈴木都政によるマイタウン計画、すなわち東京集中政策は東京の地価暴騰、住宅難、公害、交通難、災害危険性の激化をもたらすものとなっています。鈴木都政の都市再開発方針によりますと288地区、8,700ヘクタールもの再開発が予定されており、23区内、三多摩26市の主要駅はすべて再開発計画が計画、検討されております。高尾山をトンネルでぶち抜いて貴重な自然、緑を破壊する圏央道沿いでは大規模なハイテク団地開発計画、リゾート開発計画により大企業の土地買い占めが進み、緑と生活破壊が重大な問題化しつつあるわけであります。さらに、都政新報11月25日付報道によれば、圏央道、外郭環状道に次ぐ第３の広域幹線道路構想が浮上してきております。

こうした、いわゆる東京改造計画が財界主導のもとで、大企業本位にどんどん強行されつつあります。市民の暮らしや住環境を優先した立場から、きちっと対応していかなければならないことは言うまでもありませんが、国の四全総や第２次マイタウン計画に

対してどう対応していくのか、革新日野市政にとって重要なまちづくりの課題であります。市民本位の民主的なまちづくりを進めていく上で、革新日野市政の継承、発展は不可欠の条件になっていると私は確信をいたしております。

革新日野市政を継承、発展させていかなければならない３点目の課題、理由は、平和と民主主義を守る課題であります。先ほど紹介しましたマイタウン’89東京都総合実施計画では、平和と民主主義の課題がどう位置づけられているでしょうか。三宅島や硫黄島の基地問題を初め、米軍核ミサイル積載艦の横須賀母港化など、東京を含む首都圏が米核戦略の拠点にされようとしている事態が進行している今日、都民の平和と安全を守る課題は極めて重要な課題であります。ところが、この計画では、いわゆる平和事業については何一つ計画化されていないのが実態であります。日米核軍事同盟を優先をする自民党政府に追随をし、首都の平和と安全を顧みない鈴木都政の反都民的な姿勢を強く示したものになっております。

憲法を市政に生かそうのスローガンのもとに市民参加の民主的な行政を貫きながら、「核兵器廃絶平和都市宣言」を行い、基金を設けて市独自の平和事業に取り組んでいるのが今日の革新日野市政であります。この革新日野市政のもとで、さらに一層平和と民主主義を守り抜く、そういう行政の展開が求められているところであります。

革新日野市政を第５期へと押し進めなければならないという立場から、第１に自民党の悪政から市民の暮らしと地方自治を守るために、第２に大企業本位ではなく、市民の暮らしを優先をしたまちづくりを進めるために、第３に平和と民主主義を守るために、以上３点に絞って指摘をしたわけであります。この点について、まず市長の見解を伺いたいと思います。

なお、革新日野市政のもとで、行政的なさまざまな分野でのやり残した仕事は山積いたしております。この場ではあえて触れません。３点に絞って指摘をし、市長の見解を求めるところであります。お願いをいたします。

○議長（市川資信君）　米沢照男君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　御質問に対してどの程度お答えができるか、必ずしも用意をしているということではありませんが、まとめて申し上げますと、昭和63年度の所信表明で申し上げたことがそのままお答えになることではなかろうかと、こういうふうに受けとめておるところでございます。

革新市政という言い方もあるわけでありますが、私は日本国憲法を最も正しく守る、そして地方自治のあるべき権能を最大限に発揮して、そして自治体、日野市民の命と暮

らしを守り、あわせて環境のいい自然と人間の調和のとれた快適なまちづくりをするということに尽きるのではなかろうかと、こう思っております。それが革新市政と言われるならば、まさにそのとおりだというふうに考えるわけでありまして、確かに急速な経済成長経過の中で、国内全体には地方を過疎化し、そして都市を過密化した、そして本来の自然のサイクル、あるいは人間の営みのサイクルがすっかり変化をして、果たしてその経済成長の成果なるものが正常に福祉や教育、そして国づくりのために機能しているかどうか、ということには多分に疑問があるのではなかろうかと思うわけであります。つまり経済成長を急ぐ余り資源を浪費したり、あるいは海外からの批判を受けたり、これは本来の日本国民が目指したこととは多少違う、地球上の資源は限りがありますから、そのトータルを早く消費すればするほど先の見通しは短くなる、資源を大切にして、そして先長く、国民といいましょうか、民族の子々孫々にまで、毎年だんだんと向上しながら平和な地球社会をつくっていく、これこそ賢明な最善の手腕ではなかろうかというふうに考えるわけでありまして、そういう基本理念のもとに、狭い範囲の地方自治ではありますけれど、人間を尊重する、そして自然環境を大切にする、余り開発、いわゆる開発を急ぐということよりも、かじ取りを間違いなく進めていって、我々の責任範囲であります日野市を子孫のために一番いい状態に建設をし、また保っていくということが我々にかせられた行政のすべてと言ってよいように思っております。

そのことに対しまして、大きい能力を持つわけではありませんが、誠実、真摯に努めてきたというつもりでございまして、この背景には市民の方々の数多くの御提言をいただき、また議会の適切な御指導もいただいて、今日の日野市政の将来展望が成り立っておるというふうに考えたいところでございます。

御指摘のとおり、確かに臨調と言われる背景のもとに、本来の国政の目標が経済成長を福祉や教育、そして国づくりの手段として最も正確に機能させる、そうあるべきところ財政の運用が、いろいろ理由はあったと思いますけれど、膨大な国債発行を行い、今日では恐らく100兆円に近い、そういう額になっておると思いますし、そのための、いわゆる金利の負担だけでも十数兆円になるというふうな非常に変則的な財政運用がなされ、それらの理由のもとにまた臨調が強いられたと、本来の正常な社会成長を大きく阻害もしたということは言えるのではないかと思っております。

我々の地方自治体に対しましても、本来国が負担をした補助金が大幅にカットされて、その累積が17億にも達する、行政改革そのものは、これは自主的に、つまり市民の負託にこたえる、こういう意味で絶えず最も正確に、また最大の効果を上げるための施策が

当然とられるべきでありまして、我々はなるべく自主的な行政改革をやろうということで取り組んではまいっておりますけれど、必ずしも十分な成果に到達しておるというところではないわけでありまして、幸いに日野市の行財政、それから基本構想に続きますところの総合的基本計画、これらが議会の承認もいただきまして確立をいたしております。このときこそ、つまり人口急増の時期を終えたこのときこそ、まず都市計画道路、あるいは公共下水道等の基盤整備を、将来社会に残すために十分力を入れて、なるべく短期間にこれを達成させておく、そして高齢化社会を迎えるわけでありますから、それに対します財政の配慮ももちろんでありますし、一番効果があり、また的確に対応できる、そういう福祉をいろいろな手段を通じて確立をさせておく、こういうことが今日に求められる一番大きい日野市の課題だというふうに思っております。

おかげさまである程度の手順を経て、今それらの仕事をそれぞれ軌道に乗せつつございます。その仕事をなるべく達成を早くさせる、これはまた我々にかせられた責任でもあるというふうに感じております。

これまでも私の立場として申し上げておりますとおり、一番基本姿勢といたしましては、まず市民の御理解を最も大切にして、そして本当の住民自治といいましょうか、市民自治に依存をして、地方自治の将来の発展を期するエネルギーを絶えず盛り上げていく、このことこそまちづくりの大切な前提だというふうに感じております。

御質問にありました地方自治に対します基本姿勢といたしましては、参加と連帯でつくる市民自治のまちと申し上げておりますような、そういう基本的な考え方で臨みたいと考えております。

また市民の一番求められておるものは、今、日常的な健康を維持しながら、そこにまた生きがいと張り合いを持てる、そういう一人ひとりの生活、また地域の生活、これはともに通ずるものがあるわけでございますから、基本構想の柱になっておりますとおり、生きる喜びをつくり出すために健康と福祉を進めていくと、そういうまちづくりをするということに尽きるかと思っております。

それから平和ということは、これは最も基本になることでありまして、特に我々、四十数年にもうなりましたけれど、長い間の戦争の期間を極めて反省をするということで今日の憲法が成り立っておるわけでありますので、本来の恒久平和を絶えず求めていくと、またこれが国民の目的でありますとともに、あわせて世界共通の目的になると、こういう立場から自治体としての役割もおのずからある、それが我々のところの核兵器廃絶平和都市宣言の精神でもあると思っております。

そして、それらの基盤をなすものは、常に民主主義に立脚をした市民の一人ひとりがその気になってもらう、そういうことから発展をすべきものだと思っておりますので、そういう見解に立って平和運動、あるいは平和行事にも取り組んでいくようにいたしたい、このような見解でございます。

質問に対して、必ずしもすべてを答えておるというわけではありませんが、一応のお答えとして私の決意を申し上げておきたいと思っております。

以上です。

○議長（市川資信君）　米沢照男君。

○30番（米沢照男君）　再質問をいたします。

一つは、先ほど指摘したところでありますけれども、国の当然支出すべき負担金、それから補助金が年々カットされているということから、毎年のように地方６団体を初め各自治体、そして議会からもさまざまな形で国に向けての意見書の提出などが繰り返されてきているわけでありますけれども、来年度の予算編成に向けて、今、地方６団体でもこの必要な負担の国の負担金の支出、あるいは従来支出されていた補助金、これの復活などを求めての働きかけが進行しているようでありますけれども、今日の時点で、来年度の予算編成にこの重要な課題がどう反映されようとしているのか、もしわかっていれば、この１点お伺いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　たしか60年から１年間ということで、国の地方に対する高額補助金のカットが始まりました。それが約束を破られて３年間に及び、ことしで４年目を迎えようとしている。ほんの数日前ですが、議長も出席をされて、我々のいわゆる地方６団体――知事会、都道府県議会、全国市長会、それから全国市町村会、それぞれのまた議会、地方６団体と言っているわけでありますが、先般、その補助金削減に対します復元の決起大会というのを行いました。私も出席をいたしましたが、そこで決議が行われて、何が何でも64年度は約束を正しく守って、もう既に今までも破ってきたわけでありますが、その復元、復活に最善の努力をされたいという決議を行い、また、きょう、私はその決議文を11区の国会議員の方々にお送りをすると、そういう指示をいたしたところでございます。

ただ、政府はまだはっきりした応答は行われていない、今までのところでは、むしろことしも延ばしたいというふうな、多分大蔵省だと思いますけれど、そのような態度が新聞にも報ぜられておる、こういう状況でありまして、いかに、つまり地方自治に対し

ます政府の態度というものはまじめとは言えないんではなかろうかというのが受けとめられておる地方側の見解であります。これからもなおこの運動を強めて、そして国民の世論にして、政府に十分な反応を示してもらいたい、こういう考えであります。

したがいまして、予算そのものにはまだ、つまり復元という形の歳入予算を組むわけにはまいりません。なるべく予算編成も満を持しながら、そういう態勢の中で新しい予算に取り組めると、こういう状況で期待をいたしたいというところでございます。

○議長（市川資信君）　米沢照男君。

○30番（米沢照男君）　都市整備部長にお伺いいたします。

先ほど私は都の計画で、１年もたたないうちに計画の見直しがされたということで、11月の４日にマイタウン東京’89東京都総合実施計画が発表された、その見直しされた重要な部分は、市街地の再開発地区が一挙に倍増されたというふうに紹介をいたしましたけれども、「経済」という雑誌に次のような指摘された部分があります。「東京23区全体では、自公民連合都政の都市再開発方針に基づき280地区、8,700ヘクタールもの再開発が予定されており、23区内と26市の主要駅はすべて再開発計画が計画検討されている」、こういう記事が載っております。つまり、もうけ本位の再開発事業が速いテンポで三多摩を含めて進行されようとしているというわけであります。この問題についてどのような情報を得ているのか、１点伺いたいと思います。

それからもう１点は、これも先ほど紹介しましたけれども、「都政新報」の11月25日付の報道ですけれども、「圏央道外郭環状道に次ぐ第３の広域幹線道路構想が浮上」という見出しで報道されております。これは略図も載っておりますけれども、立川から八王子に抜けるコースが書かれております。したがって、日野にも当然これはかかわってくる問題でありますけれども、この急に浮上した第３の広域幹線道路構想、この内容についてどの程度情報を得られているか、この点。

２点伺いたいと思います。

○議長（市川資信君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　第１点目の都の総合実施計画によるところの都内の再開発の事業計画の件でございます。現在、都の計画した内容を今、調査をしておりますけれども、具体的な御質問ありました地区、面積等について、整合するようなちょっと資料が出てまいりません。今後引き続き調査をいたしたいと思います。

それから２点目の広域幹線、第３の広域幹線道路ということでございますけれども、現在私の方でつかんでおりますのは、国土庁等が中心になりまして、首都圏の将来の道

路の構想を出しております。その構想の中に立川基地跡地内、これは防災基地と、それから昭和記念公園の間に60メートルの道路を南北につくる、それをさらに南の方へ延伸いたしまして、奥多摩街道までは40メートルということで現在都市計画決定がされている、一部道路も完成をしているということでございます。それをさらに南の方に延伸をする計画で、国道20号線まで40メートルで絵がかいてあるものもございます。まだこれはあくまでも国の構想の段階でございまして、日野市内の都市計画道路の、現在２・１・１号線でございますけれども、この幅員の変更等については全く協議はなされておりません。その程度の情報は承知しておりますけれども、ただいまの第３広域幹線につきましては掌握をしていない状況でございます。

○議長（市川資信君）　米沢照男君。

○30番（米沢照男君）　今質問いたしました東京、いわゆる東京改造計画の一環として土地再開発計画が、地域的には倍増されて進められようとしております。新たに幹線道路の構想も浮上してきておるという、この２点についてはひとつ積極的に情報収集をしていただき、早い対応を要望しておきたいと思います。次の機会にこの点については詳しく伺っていきたいと思います。

最後に、市長に１点、見解を伺いたいと思います。

今日、大変高齢化社会が進行いたしております。来年の４月に市長選挙が行われることになります。共産党は、今度の４月に行われる日野市長選挙については、森田市長の健康が許す限り、引き続き市民のために頑張ってもらいたい、こういうふうに思っております。あえてこの場でその５選出馬の表明は求めませんけれども、高齢化社会を迎えて全国的にはどういう状況かをちょっと調べてみました。

全国の市区長の年齢でありますけれども、江東区の小松崎という区長さんは86歳であります。現職です。ずっと各市の市長さんの年齢など、自治省の調査でありますけれども、20番目に明治44年４月25日生まれ、これは南国というんでしょうか、小笠原という市長さんが現職で頑張っておられます。町村長を見ますと相当数多くおります。年齢で言いますと、市区長では森田市長よりも高齢な方は20名おります。町村長では50名いらっしゃいます。つまり合わせて70名の現職の市区町村長が現職として頑張っておられるということで、これも高齢化社会の一つの反映であろうかと思います。

当選回数を調べてみました。市区長では９期が１人、８期が３人、７期が２人、６期が11人、５期が39名、５期以上が市区長では56名もいらっしゃいます。かくしゃくたるものであります。町村長では11期が２人、10期が１人、９期が７人、８期が９人、７期

が35名、６期が67名、５期以上は相当数がいらっしゃるらしくて、あえて記載されていません。つまり６期以上だけで町村長さんは118名もいらっしゃいます。

そういう点では、私はお見受けしたところ森田市長もこれまで４期16年間頑張ってこられましたけれど、まだまだ頑張れるというふうに伺っております。ぜひひとつ引き続き市民のために、先ほど申し上げた３点の重要な課題、理由からいっても引くに引けない、そういう立場にあろうかと思います。私はそういうふうに思っておりますけれども、この点について一言森田市長の感想なり見解を伺っておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　高齢化社会が到来しているということは事実ですけれど、客観的に言えば私もその中の１人ということになるわけであります。しかし、そのことと私の能力とは別段直接の関係があるわけではございません。私は私と――もちろん健康のことも大切でございます。仕事に対する意欲も、やりかけたことはやりおおせなきゃならないという責任感は持っておるつもりであります。

来年の選挙のことを今どうこうするという時期でもなく、とにかく任期を全うするということが当面の私の責任であります。余り先走ったことを言うべきではないと思いますけれど、主権者の方々がぜひやれとおっしゃるならば、私は主権者の御意思に沿うという気持ちは持っておるつもりであります。（「後継者も育成しなけりゃいけませんよ。自分だけやっていちゃだめ」と呼ぶ者あり）

おかげさまで、あまり先頭に立って指導するということではなくて、市民の御意見を十分聞いて、そしゃくをして、一つ一つ積み上げていくということが、もし今までの市政の評価として認めていただき、あるいは現在進めようとしておる仕事が市のために必要であるというふうにお考えをいただくことができれば、私もまたその気持ちになれるというふうに申し上げておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　米沢照男君。

○30番（米沢照男君）　　ありがとうございました。あすには「森田市長、４期16年本当に御苦労さまでした」、こういう表題の一般質問で勇退を迫る、こういう質問もあるようでありますけれども、今決意が表明をされました。こういう揺さぶりにめげることなく、胸を張ってひとつ一緒に前進をしていただきたいということをつけ加えて、この質問を終わります。

○議長（市川資信君）　　これをもって８の１、市民本位の民主的な行政のいっそうの前進をめざし第５期革新日野市政の実現を！の質問を終わります。

一般質問８の２、都保健医療計画策定に市民の切実な要求を反映させよ！の通告質問者、米沢照男君の質問を許します。

○30番（米沢照男君）　　都保健医療計画策定に市民の切実な要求を反映させよについて質問をいたします。

私はこれまで、この課題について再三再四質問をしてまいりました。いよいよこの問題はせっぱ詰まった重要な段階に差しかかっております。日野市が必要な病床を確保できるかどうか、今、都が取り組んでおります地域医療計画のこの策定に重要なかかわりがあるわけであります。

御承知のように、７月の15日に東京都の保健医療計画調査会の報告がなされました。そして、それを受けて年内に都知事の原案が策定される、あわせて各市町村自治体の意見の聴取がされると伺っております。この医療計画の策定に向けて、今日、どういう段取り、実務が進行しているのか、１点伺っておきたいと思います。

それから２点目は、これまで長年にわたって「浅川南部地域に総合医療機関をつくる会」の運動組織がつくられまして、駅頭宣伝、あるいは署名運動等々、粘り強い市民運動が展開をされてきております。東京都が行おうとしております各自治体の意見聴取、この一つの手続でありますけれども、これに長年、この医療問題に取り組んでこられた市民代表の皆さんの意見が直接反映できないのかどうか、そういう場を与えることができないのかどうか、この点、２点目として伺っておきたいと思います。

３点目は、「日野の南部地域へ総合医療機関をつくる会」の皆さんが、ことしの２月以降、過去４回、衛生局に日野市の地域医療の実態を訴えながら、最低限日野は300の病床が必要なんだということで訴え続けてまいりました。この衛生局への働きかけ、今一番大事な時期であります。市民のつくる会としても、この段階で衛生局にこの計画策定の最後の詰めとして、少し大がかりに取り組みましょうということで相談が進められております。ぜひこの段階で市民の皆さんが衛生局に駆けつける際には市長もぜひ同行していただけないかという希望が出されております。ぜひその点についても積極的に受けとめていただきたいと思っております。この点についてお答えをいただきたい。

それから４点目は、南部地域への総合医療機関の誘致でありますけれども、これまでも議会の場で、あるいは地域保健協議会、あるいは厚生委員会などで理事者の方から高幡の区画整理事業区域内に用地を確保したい、積極的に誘致したいという意向が示されました。今後の取り組みでありますけれども、あれこれまだはっきりした取り組みの方向が答弁できる段階ではないかもしれませんけれども、今日、市長として考えられてい

る今後の誘致に向けての取り組み、答えられる範囲で結構ですけれども、お答えをいただきたいと思います。

５点目は、市立病院の建てかえ計画であります。これまで市議会の各委員会の場で種々論議がなされてきたところであります。適地への新しい病院の建設という意見も出されました。市長は、適地といっても、その用地が全く確保の見通しがない段階で、そのことだけこだわっていると病院の増床計画そのものがおくれてしまうことになる、ということで懸念を表明した経過もありますけれども、今日のこの時点で、この市立病院のいわゆる増床計画が、将来計画として今日示せる範囲の取り組みの方針といいますか、市長の立場から答えられる範囲で結構ですけれども、今後の方針について、この機会に改めて伺っておきたいと思います。

以上、５点について質問をいたします。

○議長（市川資信君）　米沢照男君の質問についての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　それでは、地域保健医療計画の策定についての都の動きでございますけれども、これについてお答えしたいと思います。

医療法の改正によりまして、現在東京都が医療計画の取り組みをしているわけでございますけれども、現在東京都の保健医療策定委員会で、今必要病床数のカウントの作業に入っているということでございます。当初の予定から大分作業がおくれております。基礎資料の調査ということが大分おくれているわけでございますけれども、年を越しまして来年になるという情報が入っております。

それらの中で、これらの対応でございますけれども、市の地域保健協議会に地域医療と病床確保の進め方ということで諮問をして、現在検討をしていただいております。現在まで４回の協議会を開いております。その中でいろいろ御意見を聞きながら、現在、都の情報等をあわせて検討しているところでございます。今後とも都の状況に合わせまして対応に努めたいと、こういうふうに考えております。

以上です。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　この定例議会でも他の議員から御質問があって、ある程度答えた部分もあるわけですが、今進んでおりますところの東京都保健医療計画、その中の病院、いわゆる病床の配当といいましょうか、そういう内容がかなり今後の地域医療にも深いかかわりを持っておるということは我々もよく知り、そのために東京都に対しても日野市の意見というものを都知事あてに要請をしておると、こういう状況でありまし

て、これの要請を最も正確といいましょうか、最小限の要望でありますので、この確保にはあらゆる方法を講じて確保を図る決意であります。

約300床の確保が配慮されるようにという要請の内容になっておるわけでありまして、そのまた300床の配当も、一応市立病院プラス100床、南部地域病院150床、民間病院プラス50床、こういう内容で考えておるわけであります。その中の南部の地域病院、これはかつては場所の選定に多少時間がかかったわけでありますから、また地域から出されておりました請願の採択のこともございまして、場所を明らかにする必要がある、そしてまた、たまたま高幡区画整理地の中に既に市が先行取得をしておる相当の面積もございますし、2,000坪といいますか、六千数百平米になるわけでありますが、この地籍を公共用地として確保しておこうということを区画整理事業に指示もし、それから、その必要な手続として区画整理審議会にもお諮りをして一応の同意を得たと、このことを今回の行政報告に申し上げたところでございます。それらの区画整理上の作業の期間と、それから、そこには誘致すべき医療機関ということになりますと、また同時並行でもやれるわけでありますけれど、建前としては公募し、地元の医師会との協議の中で一番すぐれたものを決定をするというのが原則になるものだと思っております。

見通しとして２年ないし３年という言い方をしておるわけでありますが、区画整理の上では使用収益が開始されて、そのころに、我々が考えますところの日野市の土地を提供し、民設民営の形で事業が進めばということに対しまして一定の見通しが整うのではなかろうかと、こう思っております。

問い合わせ等におきましては、既に数件は情報として持っておるわけでありますけれど、そういう範囲にこだわらずに、もっと一番望ましい方法、また望ましい医療機関を迎えたいものだと、こういう見解でございます。

そのこととあわせまして市立病院の改築の見通しがずっと具体的に進んでまいると、こういうふうに思っておるところでございまして、なるべく市立病院は、建設期間は建物を建てかえるといたしましても相当期間かかりますから、病院の機能としてはそのまま存続をさせつつ、しかも改築、改造が成り立つ方法を今内々で検討を進めつつございます。その方法は、私は可能であるということだけ申し上げておきたいと思います。年次のことはまた今後の推定の中でだんだんと御意見を聞きながらかためていくと、こういうことにさせていただくべき課題だと思っております。

○議長（市川資信君）　米沢照男君。

○30番（米沢照男君）　再質問いたします。

衛生局へのこの段階での働きかけ、これは大変大事であります。全都的にもそういう立場からの運動が今展開されつつありますけれども、先ほど申し上げましたように、南部地域へ総合医療機関をつくる会として、特に多少の事務上のおくれが先ほどの答弁でもありましたけれども、各自治体の意見聴取というのは過去４回、私は直接衛生局に行って陳情もし、訴えもする中で感じとったのは、単なる事務的な、極めて形式的な意見聴取にどうもなりそうだという、そういう懸念がいたします。したがって、直接衛生局への働きかけということが、この段階、大変大事な取り組みになろうかと思います。そういう理解でつくる会の人たちも、この段階で改めて衛生局に出向いて、過去４回繰り返してきたわけでありますけれども、さらに策定間近のこの段階で、もう一度300床の絶対必要数ということで陳情しよう、働きかけてこよう、こういう計画であります。これにぜひ市長も先頭に立って、15万市民を代表してのひとつ働きかけをしていただきたい、こう思っております。この点についてお答えをいただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　そのことについてのお答えを落としておりました。

事業は多少延びておるわけでありますが、また日野市の要請が内部の理事の方に反映をしておるということは確認しておりますけれど、なお一層確かなものにするために、議会を終えたら私も早速衛生局に直接の要望も展開したいと思います。

それから、あわせて市民運動が相当な有効な効果を持つことも本来の、立川の総合病院の場合にもそういう実績があらわれておりますから、市民運動の方々にも極力応援をお願いをしたい、行政の立場と市民運動と調和、両面作戦という形が望ましいと思っておりますが、場合によって私もともに行動するということも将来のこととして予定をいたしたいと思います。

○議長（市川資信君）　　米沢照男君。

○30番（米沢照男君）　　これをもって私の質問を終わります。

○議長（市川資信君）　　これをもって８の２、都保健医療計画策定に市民の切実な要求を反映させよ！の質問を終わります。

一般質問９の１、天皇問題は主権在民と地方自治を守る立場での対応を貫けの通告質問者、竹ノ上武俊君の質問を許します。

〔29番議員　登壇〕

○29番（竹ノ上武俊君）　　昼食時間の前ではございますが、せっかくの議長の御指名でございますので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。御協力をお願いを

申し上げます。

天皇問題について、今一般質問を取り上げたのはなぜか。今の天皇の病気の問題はマスコミ等で大きな話題になっている、だから取り上げたというものではございません。日本共産党は一貫して、御承知のように天皇制の問題を取り上げてきております。そして、今日の問題として取り上げている観点は、主権在民、このことが今の天皇問題を悪用して侵されようとしている、こういう重大な事態にありますので、そういう立場で日野市民、日野市の自治体というかかわりの点から取り上げたわけでございます。

御承知のように、日本共産党は侵略戦争反対、天皇制廃止を不屈に掲げて闘ってまいりました。既に1922年の日本共産党の綱領の草案の中でも、政治的民主主義を達成するために、要求の第１として君主制の廃止、このことを訴えたのでございます。そして国民の民主的自由が真に保障されることを訴えてまいりました。

また1927年におきまして、「27年テーゼ」というものが発表されておりますが、そのことでもこのことを強調するとともに、日本帝国主義が中国へ侵略することを予見をいたしまして、既にこのとき、これを厳しく糾弾をしてきたわけでございます。

また1932年のテーゼにおきましても、こういう見地をさらに進めて闘いを行ってまいりました。「帝国主義戦争と警察的天皇制反対、米と土地と自由のため、労働者、農民の政府のための人民革命」、こういうスローガンを内外に明らかにしてきたわけでございます。

この戦前の日本共産党の活動については内外から評価をいただいております。最近、発行されました「日本共産党の65年」という書物の中でも次のように述べております。「戦争の悲惨な結果は、あらゆる弾圧にもかかわらず死をとして絶対主義的天皇制と侵略戦争に反対した日本共産党とその党員たちこそ真の愛国者、民主主義者であったことを示した。すべての政党が侵略戦争に協力、加担した中で、人類史の進歩への確信に燃え、理性の光に照らされて、あくまで侵略戦争に反対し、主権在民の旗を掲げ続けた党が存在したことは日本の戦前史の誇りである」、また終戦前後のときも、日本共産党はこの天皇制の問題を、天皇制廃止、こういうことで訴えをしてまいったわけでございます。終戦直後も、どのような世論調査でも「天皇を政治に関与させるな」、そういう回答が当時も多かったというふうに記録をされております。しかし、その後の政府等の策動、また天皇制をしつこく温存しようとした勢力、こういうさまざまな動きの中で、条件はありましたけれども、日本の国が天皇制廃止、これができなかったという事態にあのときは終わったわけでございます。

このようにいたしまして、天皇制という問題を日本共産党は対応をしてまいりました。これらのことについて、日本共産党の綱領の中でも明確にしております。

「世界の民主勢力と日本人民の圧力のもとに一連の民主的措置がとられたが、アメリカ帝国主義者は、これを彼らの対日支配に必要な範囲に限り、民主革命を流産させようとした。現行憲法はこのような状況のもとでつくられたものであり、一面では平和的民主的諸条項を持っているが、他面では天皇の地位についての条項など、我が党が民主主義的変革を徹底する立場から提起した人民共和国憲法草案の方向に反する反動的なものを残している。戦前の絶対主義的天皇制は、侵略戦争に敗北した結果、大きな打撃を受けた。しかし、アメリカ帝国主義は日本の支配体制を再編する中で、天皇の地位を法制的にはブルジョワ君主制の一種とした。天皇はアメリカ帝国主義と日本独占資本の政治的思想的支配と軍国主義復活の道具となっている」、こういうふうに規定し、今後の問題といたしまして、「天皇主義的軍国主義的思想を克服し、その復活と闘う」というふうに定めております。

そして、今の状況の中でも赤旗新聞等を通じて私どもの立場、またさまざまな取り方もありますけれども、国民の多くが望んでいる主権在民の主張、これを繰り返しキャンペーンをしてきたわけでございます。冒頭にこのことを明らかにしておきたいと思います。

次に、現在の天皇問題の性格でございます。

今、天皇制が日本の国におきましても絶対主義的天皇制から立憲主義的天皇制、議会主義的天皇制というふうに歴史が発展してまいりまして、象徴天皇制ということになっております。こういう中で、天皇問題の本質が国民にいろいろとわかりにくい、そういう点があるわけでございます。こういう状況の中で、天皇の病気を利用して政府、財界、右翼団体等が今さまざまなねらいを持って天皇問題を利用し、天皇元首化などの策動をしてきている、これが今の天皇問題の本質ではないかと思います。

そして、これから天皇の代替わりが予測されております。今度の皇太子については、私どもも子供のころの記憶がございますが、ヴァイニング夫人などという方が教育をしたということで、いかにも民主的な代替わりになっている、こういうことまで宣伝をしております。しかし、代替わりになっても、天皇制が象徴という形で残ったにしても、その本質は変わっていかないというふうに私は思うわけでございます。そして今、こういう天皇問題を利用する中で、（「利用しているのはだれだ、赤旗新聞をふやすために」と呼ぶ者あり）私たちの憲法に明記した主権在民、これを何としても取り外そうとする、

この新たな重大な段階に立ち至っているわけでございます。

天皇問題について、国民はどういうふうに感じているかという世論調査が数年前に行われております。これを最初に引いておきたいと思います。これは今、竹下自民党内閣等が天皇尊敬の国民感情というものをいろいろ宣伝をしております。ところが、1984年12月、共同通信社と日本世論調査会が世論調査をいたしました。その結果は、天皇に対する感じについて、とうとくて恐れ多いと答えた人は13.3%、何とも感じないと答えた人が46.1%、今後の天皇制について、今のままでよいとする人が77.3%、天皇に少し政治的な力を与えるとする人は8.6%、戦前のような主権者にするとする人はわずか1.6%だったわけでございます。国民は、今の天皇制の問題についても健全な考え方を持っているということが、この世論調査の結果にも大きくあらわれているのではないかと考える次第でございます。

ところが、次に第3に申し上げたい点がございます。今、天皇問題を利用して政府等が自粛ムードを打ち上げております。このような中で国民生活にはどういう問題が起こっているか、日野市内などでも電気屋さん等が今音楽を大きくかけて宣伝ができない、静かに営業しなさいとさる筋から圧力がかかっていることは皆さんも御存じだと思います。ある料理店などは開店祝いをしたいと思ったのに、あと一、二カ月開店を待ってくれ、こう言われて困っている業者の方もおられます。例えば東京新聞の最近のものにも「自粛列島師走版」、こういうふうなのが出されております。「大口注文がた減り年賀状、売れ残りが出かねない状態」、こういうことでございます。ボーナスも出せぬと印刷業者、またしめ縄も昨年の半分の注文である、こういう業界の人は大変な痛手になっているということが、この東京新聞にも詳しく2面を割いて載っているわけでございます。（「共産党はもともとしめ縄なんか使わないだろう」と呼ぶ者あり）、（「共産党のことを言っているんじゃない」と呼ぶ者あり）鏡もちに飾るダイダイも注文はさっぱり、また全国和菓子協会、これも大変だと、こういうことでため息をついているということでございます。おめでた魚も売れ行き不振、タイ、エビなどですね、これも大変で仲卸業者、これから先どうなるかと、こういうふうに嘆いているというのでございます。キャンセル続く熱海温泉街、こういう状態も出ております。

結局、東京新聞が書いていることはこういうことです。こうした自粛の日本経済に与える効果はどうか。香港の英字紙「ファーイースタン・エコノミック・レビュー」は経済企画庁職員の見解として「国民総生産の伸び率が下がるだろう」、これについて経済企画庁は、「あの記事は個人の見解だ。経済関係の各種の数字を見る限り好況を示すも

のばかりである」、こういう見解を言っております。そこで東京新聞としては、どうやら自粛の影響は弱者にしわ寄せされているということのようだと結論づけているわけでございます。これが現在の天皇自粛によって起こっている事態です。

きょうの東京新聞にも記事が出ておりました。これも参考までに御紹介しておきたいと思います。「右翼名乗る男が不謹慎、商店街、しめ縄外す、横浜市中区の商店街で、こんなときにしめ縄とは不謹慎だ。外さないと街頭宣伝車で乗りつける」、このため、この地域の商店街はしめ縄飾りを外したということでございます。

こういうような状況が現実に起こっているということは、主権在民の憲法下の我々日本国民として許せない状態でございます。

赤旗新聞には、最近右翼団体の方からも投稿や電話が相当来ているようでございます。その一部が発表されております。「かねがね上の命令で共産党の事務所に宣伝カーを乗りつけているけれども、私たちは日常お祭りや集会でいろいろなものを売って商売をしている。最近はあがったりだ。何とか共産党の力でこの自粛ムードが解けるようにしてくれ」、中には「赤旗新聞を読みたい」、こういう申し込みも多いという、そこまで深刻に天皇の自粛問題は広がってきているわけでございます。（「さくらだ、そんなことで天皇制が廃止できるか」と呼ぶ者あり）

子供たちの教育の世界にも及んでまいっております。ある小学校では校長先生が天皇を平和主義であると言ったり、戦争中の言葉で「崇める」話を朝礼の席でされたという話題も出ております。また運動会のときに花火を上げない、ピストルを撃たない、音楽を演奏しない、ここまで締めつけているところも出てきているわけでございます。

また、地方自治体も御承知のように記帳所を設けたり、記帳を強制、職員にさせたり、こういうところがあらわれてきております。また議会に対しても、うわさによると議会での自粛、こういうことが言われているということも聞いているわけでございます。

このような中で、マスコミ労働者の皆さんなどが立ち上がって、天皇問題の報道については主権在民の立場でやろうではないかという大きな運動も盛り上がっております。しかし、そういう中で天皇の取材のために強制労働が行われて、大変な労働強化の時代になっているということも発表されているわけでございます。職場では、天皇死去の際には黙禱をせよなどという通達がほとんどの企業に回っているわけです。あるいは会社を二、三日休む、そういうところまでいっております。

しかし、もちろんこういうような自粛ムードを打ち破って進む国民の健全な世論というものは非常に大きなものがあるのは当然でございます。天皇問題についても、天皇は

平和主義者であったとか、第２次世界大戦を早く終わらせたとか、さまざまな美化する宣伝がなされております。この点についても、これが歴史的にいかに事実に反するかということを時間があれば後に申し上げたいと思うわけでございます。

いずれにせよ、主権在民と君主制というものは相入れないものでありますので、日本においても、世界の圧倒的多数の国が共和制に進んでおりますように、そういう方向に歴史が進んでいくのは当然である、こういうふうに私は確信をいたしております。

戦前戦後を通じ、特に戦前の絶対主義的天皇制のもとで民主運動が弾圧され、天皇の名によって320万もの日本国民が犠牲者となり、アジア地域では2,000万人の犠牲者を出しているわけでございます。そして、ついに戦争中は宗教者まで虐殺などされるという、こういう事態が大きく広がるに至っております。そういう方々が天皇の戦争責任、このことを厳しく追及する立場で今も生活をし、営業されているのは当然です。私はそういう立場で日野市議会も、また日野市も主権在民、これを守り抜いて、天皇問題に対し対応をしていただきたい、そういうことでこの一般質問を行いました。

それでは、具体的な質問をさせていただきます。

第１は、自治体に対して東京都あるいは政府関係筋から、天皇問題にかこつけた自粛ムードの強制、こういうものがあったのかどうか、なかったか、この点についてお答えをいただきたいと思います。あわせてもし――これは最後で結構ですけれども――市長なりの今の天皇問題に対する御認識があれば披瀝していただきたいと思います。

また、第２番目は教育委員会へ質問でございます。同じような趣旨で文部省などを初め上部機関から教育委員会等へ天皇問題を利用した自粛、そのほかの締めつけ的な行政指導が来ているかどうか、お答えをいただきたいと思います。あわせて、これも再質問の場で結構です、教育長の天皇問題に対するお考えがあれば一言披瀝していただきたいと思います。

第３点は、もしそのような締めつけが来ている場合、あるいは今後なされた場合、日野市としてはどういう対応をしていくか、あくまでも主権在民と地方自治を守る立場に立って行政を執行していくかどうか、お答えをいただきたいと思います。小学校、中学校、幼稚園、保育園等に対してはどういうふうに指導していくか、また業者や市民団体等には、この自粛問題については、どういうふうに今後問題が起こったら指導していくか、あるいは過去どうであったか。これは教育委員会についても同じような趣旨で質問をいたします。（「共産党の考えを押しつけるな」と呼ぶ者あり）

とりあえず以上３点についてお答えをいただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　竹ノ上武俊君の質問についての答弁を求めます。総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　御質問の第１点にお答えを申し上げます。

御質問は、自治体に自粛ムードを内容とする国あるいは都からの通達があったかということでございますけれども、現在、ただいま現在までそういった通達はございません。（「あるわけがない」と呼ぶ者あり）

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　同じように、文部省あるいは都教委から自治体に対しまして、天皇問題に関しての通達、その他は一切ございません。

○議長（市川資信君）　竹ノ上武俊君。

○29番（竹ノ上武俊君）　マスコミ等の報道によれば、さまざまな形で天皇問題を利用した自粛の指示、指導があるということでございます。今後、そういうことが日野市においてもなされた場合には、速やかにそういう事実を市民に明らかにして、主権在民、地方自治、教育基本法、これを守る立場でひとつ御努力いただくよう要望をしておきたいと思います。（「共産党が騒いでいるだけだ」と呼ぶ者あり）

それでは、再質問に移る前に若干の点で、今この機会に私は天皇問題の本質を明らかにしておかなければいけないと思うわけでございます。

私たちは去年、日本共産党の党大会というのを開きました。その中で、どういうふうに今の天皇問題をとらえているか、ごく一部分でございますけれど引用をしたいと思います。「また我が党は昨年、反動勢力による天皇在位60年祝賀キャンペーンに対して、それが侵略戦争の最大、最悪の責任者である天皇の美化や皇国史観の押しつけ、天皇元首化への地ならしなど、憲法改悪に道を開くねらいを持っていることを全面的に批判して闘った。皇国史観の宣伝者、中曽根前首相の人種差別発言は世界じゅうの激しい批判を呼ぶとともに、国内では少数民族というべきアイヌの強い憤激を呼んだ。天皇の美化と元首化は、主権在民の原則と歴史の進歩に反するものであることが明白になっているにもかかわらず、今日、天皇の病気、皇太子の代行と関連して、再び天皇キャンペーンが大々的に展開されており、我が党の理論的、政策的対決点に立った宣伝を積極的に展開することが必要になっている」、党内のことを決めたことでございますので、こういう闘いの方針を決定したわけでございます。

先ほど不規則発言などがありまして、この際、何か赤旗新聞でもふやすためという言葉が聞こえてまいりましたけれども、そういうことではなく、冒頭にも申し上げましたし、去年の党大会でもこのように既に我々の系統的な活動として展開をしてきている事

実でございますので、一言このことは追加したわけでございます。

天皇については、第２次世界大戦、1931年からの15年戦争、この中で太平洋戦争の部分について、軍部に利用されて、天皇自身は余り積極的ではなかったかのごとき宣伝もなされております。しかし、それらのことは歴史学者の皆さんが、そうではなかったということを相当正確な記録などに基づきましてはっきりとさせてきております。天皇自身が侵略戦争の遂行促進論者であったというのでございます。これも歴史学の関係の方々がたくさんの本を発行されておりますので、そういう中から一、二例を引いてみたいと思います。

例えば1931年の中国東北部侵略のときに天皇がとった態度、天皇が「勅語」というものを発表をいたしました。「曩ニ満州ニ於テ事変ノ勃発スルヤ自衛ノ必要上関東軍ノ将兵ハ果断神速寡克ク衆を制シ速ニ之ヲ芟討セリ……朕深ク其忠烈ヲ嘉ス」と褒めたたえているわけでございます。

そして、中国全面侵略のときはどうであったか。「中華民国深ク帝国ノ真意ヲ解セス濫ニ事ヲ構エ遂ニ今次ノ事変ヲ見ルニ至ル」、こういうふうに帝国議会の開院式で述べているわけでございます。

そして1940年、ドイツ、イタリア、日本の三国軍事同盟、このときにおきましても、「帝国ト其ノ意図ヲ同ジクスル独伊両国」というふうに条約の成立を「深ク懌ブ」、こういう勅語を発表したわけでございます。

そして杉山メモとか、木戸日記とか、いろいろなものが発表されております。その中で、いわゆる太平洋戦争、大東亜戦争が始まる1941年９月から12月に至る御前会議の前のさまざまな記録、こういうものが資料として戦後、公表をされてまいっております。その席でもこういうことを言っております。大声にて「絶対ニ勝テルカ」、こういう質問を大臣などにしているわけでございます。「大丈夫です」という答弁があると、「アア分カツタ」と言って天皇が納得し、そして承認がされて、御前会議、その他から太平洋戦争に突入をしていったわけでございます。

このように天皇が対米開戦に一定の慎重さを見せたやりとりなども発表されておりますけれども、その本質は勝てるかどうかの懸念があったためで、平和主義者だったからなどということではないわけでございます。

また、戦争を早く終結させたという宣伝をする、私から言えば御用学者という感じがいたしますが、そういう書物や文書なども最近目につきます。しかしどうか。1945年、敗戦の色濃きころ、近衛文麿が２月段階で上奏をしたことがございます。そのときにも

こう言っております。「梅津は米国が皇室抹殺論をゆるめざるを以て、徹底抗戦すべしと云い居るも、自分も其の点には疑問を持って居る」というんですね。「梅津及び海軍は、今度は台湾に敵を誘導し得ればたたき得ると言って居るし、その上で外交手段に訴えてもいい」と、こういうことで戦争を長引かせたために、多くの犠牲を出しました沖縄戦、そして原子爆弾の投下、こういうことが行われたわけでございます。

この原爆について戦後、天皇はどう言っているか。1975年の記者会見で、「原子爆弾が投下されたことは対しては遺憾には思っていますが、こういう戦争中であることですから、どうも、広島市民に対しては気の毒であるが、やむを得ないことと私は思っています」、こういう考え方の持ち主であるということが具体的な事実によって明らかになっているのでありまして、平和主義者だというようなことは到底言えないわけでございます。

そして、天皇は終戦直後、天皇制廃止の世論などがさまざまな地域でありました。しかし、1945年９月27日、マッカーサー元帥を訪問して、いろいろ話し合いをしたわけでございます。そして、マッカーサーが日本の統治に関して天皇にいろいろ意見を言えと、そういうふうに言った中で、天皇は直接我々国民としては許せないようなことを提起したのではないか、このように考えるわけでございます。そのような結果、戦犯をだれにするか、沖縄をどうするか今後、そういうことなどの意見交換があった結果、天皇はマッカーサーの忠実なしもべとなり、マッカーサーは十分にこれを活用した。これは日本共産党だけだという不規則発言もありますが、そういうことではなく、日本共産党が綱領などでも規定しておりますように、アメリカ帝国主義と日本独占資本の政治的思想的支配と軍国主義復活の道具として天皇がなっていったことがこれらのさまざまな事実から明らかにされております。

また、じゃあ皇太子はどうなのか。ヴァイニング夫人などの教育を受けて、少しは民主的な次の天皇になろうとしているか。これもさまざまな皇太子の発言の事実などがございます。去年でしたか、毎日新聞、そのほかの三大新聞等の記者会見がありましたし、その前にも外国記者団との記者会見等もあったわけでございます。具体的にマスコミが質問をいたしました。

第１問、天皇の地位や、あるべき天皇像について。それから伝統的な天皇制の姿についてどう皇太子は考えているか。第３問は、明治憲法下の天皇のあり方をどう評価しているか。第４問は、天皇機関説について。このようなことで質問をしておりますが、これはその当日の毎日新聞等に詳しく皇太子の発言が出されております。

結論的に皇太子が述べていることは、歴史的な真実を語るのではなく、「天皇は歴代政治に直接タッチをしてきていない。昔から象徴のようなものであった。そして明治憲法も立憲君主、議会制民主主義、こういう点もあるのであるから、戦後も明治憲法と同じような形で昭和憲法、こういうものも運営をされているように理解している」、そういった立場の発言があったわけでございます。

ですから私どもは、天皇についてはこういう事実を通して、平和主義者でもなければ、戦後もやはり国民が望んでいるような政治的立場、政治的な活動はできませんけれども、平和の問題や民主主義の問題についてこういう発想をしている、このことを私たち国民、市民は正確に知っておくことが必要だというふうに考えるわけでございます。

そして戦後の、終戦直後の憲法論議のときに、戦前の侵略戦争や国内における人民に対する弾圧、これらを反省をして、主権在民が明確にされてきたわけでございます。そして戦後、憲法をつくるときにさまざまな、天皇制を存続させようという意見があったわけでございます。しかし、それらの中で明確に、天皇は単なる象徴である、天皇はあらゆる点で日本の政府や国民を代表する代表者ではないということが学問的にも明らかになったわけでございます。

ところが、戦後に至りまして天皇の国事行為等を悪用いたしまして、天皇が外国に対しては元首と呼ばれてもいいのではないかとか、さまざまなことを政府は国会の中においても行ってきております。しかし、御承知のように、天皇は戦後憲法をつくる際に、すべての政治的な発言、行動はさせないように規制がかかったわけでございます。そして明確に天皇は憲法に規定された国事行為、これを行うにとどめたわけでございます。例えば外交官に対する接受などというのが国事行為の中に入っております。外交官が大使などとして外国から来た際には内閣に書類を提出をする、これが憲法上の正しい解釈でありますが、これを天皇に最初渡して、天皇がそれを承認するかのごとき行為を政府が現在行っているために、外国の大使などは天皇が元首である、こういうふうに勘違いをする仕組みに今なっているわけでございます。政府自身、外務省等がこういうふうにして国事行為の一部を拡大解釈をして、例えば日本から大使などを外国に派遣する際も、天皇が許可をして大使を任命したように書類ができているわけでございます。これらのものはすべて憲法から逸脱をした戦前の書式を用いているために、天皇の印鑑、サインが重要な場所にあるために、今、外国等の一部では天皇を元首というふうに呼びましたり、そういう立場でとらえたりしているわけでありまして、今の日本国憲法の中では元首、あるいは日本国民、行政を代表をする代表権というものは一切禁じられているわけ

でございます。ですから「元首」という言葉を政府等が用いることは即憲法違反でございます。天皇はあくまでも私から考えれば、現憲法、そういう点で、民主主義の点で制約がありますが、「象徴」という範囲にとどめなければならないわけでございます。

本来、人間は象徴には余りなりにくいものではないかと私は思います。例えば平和の象徴はハトであって、ハトが平和の発言をしたり、いろいろするとかいうわけではございません。また日本の象徴、シンボルは富士山、富士山が外交したり、いろいろするわけではございません。そういう意味で「代表」とか「元首」という言葉を使えなかったために、天皇に対して苦心して「象徴」という言葉を憲法にはおいたわけでございます。ですから、ここらあたりを正確にやっぱり私ども議員なり公務員は研究し、勉強して、天皇という問題の位置、これを現憲法下でも明確にしながら行政を行ったり、社会生活を行っていく、このことが私は重要ではないかと思います。

また、人間はどのような立場にある方でも個人の病気、死というものは厳粛なものでございます。そのことをとやかくは申しません。天皇も死去することが近くあるでしょう。その際に、代替わりに伴うさまざまなまたキャンペーンが計画をされているわけでございます。これが今までの天皇の病気に関するマスコミの持ち上げ方、天皇美化のキャンペーンなどに比べまして、いかに異常になっていくかということが既に予測をされております。赤旗新聞等でもさまざまな資料を入手いたしまして、公表をいたしてまいりました。このときには、今まで以上に自治体、教育委員会はしっかりしていないと、私は政府やマスコミの宣伝に惑わされて、主権在民、地方自治の本旨、これを守り抜けない事態も出てくる可能性もあると思うわけでございます。

そこで、この点についても私の知り得ましたことの、ごく一部ではございますが、どういうふうに代替わりの儀式が行われていくのか、明らかにしておきたいと思います。

竹下自民党内閣は現行の皇室典範、これに規定をされております「大喪の礼」、「即位の礼」、こういう諸儀式を挙行するということを一応公表をし、そういう立場で準備を本格的に進め、既に完了していると思います。これらの式はどういうものか。新天皇の「践祚」の諸儀式――「剣璽渡御ノ儀」、こういうのをやるというわけでございます。「剣璽渡御ノ儀」というのは、私どもが軍国主義の教科書で戦争中教育を受けました三種の神器（剣、曲玉、鏡）、これを引き継ぐ儀式でございます。そして「賢所の儀」、「皇霊殿、神殿ニ報告ノ儀」、「践祚後朝見ノ儀」、こういうものを行おうとしております。これらは全て神道に基づいた儀式でございます。

こういう点から代替わりの諸儀式が、主権在民を根本原則とする日本国憲法において

許されるはずはないわけでございます。ましてや、それを国民に押しつける、このことはできないわけでございます。そのことを私どもは確信を持って知っておくことが必要だと思います。

ＮＨＫは天皇死去の際には連続74時間、天皇だけの追悼キャンペーン、民放もそれにあわせてすべてのＣＭをストップ、こういうことでキャンペーンを行い、約２年間このことを続けようとしております。これは大正天皇が葬儀を行った際にさまざまなマスコミの動きがありました。全くそれを踏襲いたしまして、現下のこの民主平和の憲法のもとでも行おうとしているわけでございます。

大喪の諸儀概要というものも共産党などが公表をいたしておりますが、これは「崩御」という言葉を使っておりますけれども、その１年目に至るまで連日、さまざまな儀式を行うわけでございます。そして、どういうことを考えているか。今、マスコミや政府、財界がねらっているのは、現天皇の即位したときの諸行事でございます。国民を100万人以上も強制的に動員をして、天皇が通るところにひれ伏しさせる、こういうことをさまざまな手によって行ってまいりました。今度の代替わりにおいても、そういうことを行おうとして既に計画がされ、その一部などが暴露されつつあるわけでございます。ですから、私どもはそういう代替わりのことも見抜いて、確固とした立場で主権在民の立場、地方自治を守る、こういう立場で今後貫いていくことが必要でございます。

そのような立場から再質問を行いたいと思います。今までは担当部長及び教育長から、過去における天皇問題の地方自治体への影響についてのお答えでございました。今後、もしそういうものがあった場合には、上級機関から憲法違反の締めつけ等があった場合には、どういうふうに対応しようとされているのか、発言できることがあればぜひそれぞれのところから御答弁をいただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　竹ノ上武俊君の再質問に対する答弁を求めます。総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　今後の対応でございますけれども、年内から正月にかけまして市で行います事業につきましては恒例の新年会がございますが、これにつきましては既に新しい年の７日に決定をいたしまして、担当課におきまして準備を進めているところでございます。

○議長（市川資信君）　教育長。

○教育長（長沢三郎君）　天皇問題に関しましては今、竹ノ上議員がおっしゃったように、現在の日本国憲法は主権在民の憲法でございまして、天皇の地位に対しましても天皇は日本国の象徴であり、日本国民統合の象徴であって、その地位は主権の存する日本

国民の総意に基づくと、そういうように明確に規定されております。一応そういうことは考えたくございませんけれど、もし万一のことがあった場合につきましては、象徴天皇に対する礼を失わない範囲で対応していきたいと、こう考えております。

○議長（市川資信君）　竹ノ上武俊君。

○29番（竹ノ上武俊君）　ただいまの答弁を推測しますと、憲法違反の自治体、教育委員会等に対する締めつけがあった際には、現憲法の立場から、主権在民の立場から、日野市はそういう動きに迎合することなく基本点を貫いていく、こういうふうに聞き取れたわけでございます。私は心からそういう立場を貫いていただくように要望をいたしておきたいと思います。

それでは、最後に市長に、天皇問題に関する地方自治体の首長として、あるいは市長個人でも結構です、そういう立場での御披瀝する御見解があれば申し述べていただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　今世紀の日本が歩んだ道、私自身もほとんどその経過を経験をしておるという立場でもありますが、いわゆる太平洋戦争の完全敗北によって、その時点を境として、いわゆる戦前の欽定憲法、戦後の主権在民を主眼点とした、その憲法は天皇問題においても対照的であります。現在の憲法こそ我々の遵守すべき基準でありますから、何ら惑ったりすることはないということは明らかであります。したがって、今伴う諸問題につきましても、全く主権在民、この立場からの憲法を、第99条の示すごとく、天皇、摂政、及び内閣、裁判官、国会議員、及び公務員は日本国憲法を尊重し、遵守する義務を負うと、もう明らかに示されておるとおりでありますから、このとおりに振る舞うと、それでよろしいんではないかと思っております。

○議長（市川資信君）　竹ノ上武俊君。

○29番（竹ノ上武俊君）　ありがとうございました。

先ほどまた不規則発言で、共産党の考えを押しつけるななどというのがございました。しかし、これは物事の真実を知らない方の不規則発言ではないかと考えます。現に、マスコミ等でも報道されましたように、長崎の市長さんの市議会一般質問における答弁などは見事なものでございました。本島　等長崎市長は市議会本会議で、「天皇に戦争責任がある」と明確に発言をしたわけでございます。その後、右翼団体が長崎市等を訪れて、宣伝カーを流して、本島市長を脅迫をいたしております。また自民党の長崎県連がさまざまな圧力を本島市長に迫りまして、発言を撤回するよう要請をいたしました。これに対し同市長は、新聞記事によりますと「自分の心を裏切ることはできない」として要請を拒否した。自分も自民党員なんですね、自分が務める自民党の長崎県連顧問を辞任させるなら、それも仕方がないということで、辞任する意向を明らかにしたわけでございます。「党顧問、これは除名をする」、こういうことも言って自民党は脅かしております。再三こういうことを申し入れているわけでございます。それに対して市長は、「天皇について発言すると感情的になる今日の政治情勢は異常だ。言論の自由は時や場所によって制限されるべきものではない」というふうに述べておられるわけでございます。

もし、今の状況を利用した反動勢力、あるいは戦前の報道の姿勢、侵略戦争を賛美したマスコミ等が、天皇問題については深い検討、分析、反省をしていない立場から、そういう反動勢力に乗って、ともに天皇制、絶対主義的天皇制の復活、あるいはまた天皇元首化、天皇の神格化、こういう道を進んでいくならばどういうことになるか、これは先ほどの世論調査でも示しましたように、多くの国民の反対を受けるのはもちろんです。

そして、もちろん共産党議員だけがこういうことを訴えているわけではございません。例えば共産党発行の写真、雑誌に、日本基督教団議長・牧師、辻　宣道さんという人が３ページにわたって登場をされております。この方はお父さんが青森県の弘前市に住んで、戦前、牧師をされておりました。辻　啓蔵という名前の方だったそうでございます。この人が、共産党などを弾圧するということでつくった治安維持法のもとに、違反ということで捕らえられ、獄死をしたというのでございます。

こう言っておられます。1942年６月26日の朝６時――今のこのキリスト教の教団の議長さんが小学６年だったそうでございます――目を覚ますと、周りを見知らぬ男たちがドタドタと駆け回っていた。20人の特高たちは、この牧師さんが住む牧師館の本という本をかき集めてトラックに積み込み、父を連れ去った。何が何だかわからなかったというのでございます。しかし、１カ月後、父の着ていった着物が拷問のためかビリビリになって戻された。不安が幼い胸をかけめぐったというふうにおっしゃっております。

宣道さんは進学した中学の手前にあるその建物を――弘前警察署ですね――悲しみをこらえて見る毎日が続いた。通学していたわけです。こう言ったというんですね、周りの人たちが、ヤソ――ヤソというのは耶蘇教のヤソ、「ヤソ、ミソ、クソ、スパイ」、こういっていじめられた。父が捕まったことによって教会にはだれも寄りつかなくなった。貧乏な生活をお母さんたちと続け、だんだんと父が捕まった理由がわかってきたわけでございます。

1943年末、懲役２年の実刑判決がお父さんに言い渡されたそうでございます。

そして青森刑務所に投獄されて半年、1945年１月18日、夕食時、電報が届いた。「ツジケイゾウキトクシボウノサイハヒキトリニクルカ」、こういうことで、お母さんが電報を握って、子供たちを連れて刑務所に向かったというわけでございます。

いろいろしゃべっておられますけれども、こう言っているんですね、「天皇に一言、済みませんでしたと謝ってほしかったですよ」と。一家をどん底に陥れた天皇制というものを子供心にも恨んだ。海外では戦争犯罪が今も追及されているのに、日本では天皇の戦争責任は免罪にされてきた。そして再び、あの暴虐な天皇制が頭をもたげてきた。そういう中で辻さんは現在、教会でのお祈りや説教の中で、「天皇制はいつも弱者を虐げてきた」、このことを織りまぜるというのでございます。「天皇の問題には触れない方が……」などと言ってくる人もいるが、辻さんは歴史を繰り返さないために、強い覚悟で天皇制を批判し続けているということです。

辻さんは、日本のキリスト教会が戦争に協力させられた苦い歴史を反省する。教会の講堂に日の丸を掲げ、戦勝祈禱会までやった、婦人会のつくった慰問袋が教会の中に山と積まれる、そういう意味で、同じ治安維持法で弾圧された共産党の天皇制打倒を掲げた、歴史に対する深い洞察には敬意を表します。

それで、辻さんが議長をされている日本基督教団というのは、今全国で「天皇制の美化に反対する」、こういう声をあげていらっしゃるわけでございます。そして、「クリスマスの賛美歌は高らかに歌いますよ、自粛なんてとんでもない」、こういうふうにしゃべっておられます。

これは、ひとりこの日本基督教団という教団だけではなく、多くの宗教者の方々が天皇制のもとで弾圧をされてきたわけでございます。ついには宗教まで弾圧をする、あるいは虐殺をした天皇制、こういうものの復活を許さないためには政府段階のさまざまな活動、国会での活動、さまざまなことが必要です。しかし、何といっても私は、我々が活動しているこの地方自治体、市民の中、草の根の中でこそ主権在民、こういう立場で活動を広げる、このことが今まさに非常に重要な問題であるというふうに思います。

どうか市長を先頭にして、日野市の行政あるいは教育委員会が主権在民の立場で、今後、市民に対して憲法違反の押しつけをしたり、自粛ムードを宣伝したり、またその波に乗ってしまったりすることがないよう、心から要望をいたします。そして、子供たちには歴史の真実を何としても正確に教える、この点でも教育委員会が頑張っていただくようお願いをいたしまして、この件に関する質問を終わります。

○議長（市川資信君）　これをもって９の１、天皇問題は主権在民と地方自治を守る立場での対応を貫けの質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって、暫時休憩いたします。

午後０時24分　休憩

午後１時33分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問９の２、百草台小学校周辺緑地への７階建てマンション建設について問うの通告質問者、竹ノ上武俊君の質問を許します。

〔29番議員　登壇〕

○29番（竹ノ上武俊君）　それでは、引き続きましてマンション建設計画について若干の質問をさせていただきます。

昭和63年の第４回の行政報告書にも日野市内の共同住宅開発行為がメジロ押しに報告をされております。近年、開発の技術等の進歩もあるのか、あるいはまた地価暴騰に伴う乱開発が日野市などを目指しているという背景があるのか、この行政報告に載る開発行為はすさまじい量に達しております。

私が一般質問で何回も取り上げてまいりました「緑地を守れ」、こういうテーマでの質疑の中で市側が、私が指摘したその点については大丈夫ですよ、あそこの緑は保存されます、そういう形の答弁が今まで続いてきていました。この場所に、いよいよ開発業者がマンション建設をする、こういう立て看板が出たわけでございます。住民の間でいろいろ話題になっておりますので、この件についての市側の考え方を問いたいと思います。

今回取り上げました場所は、日野市三沢884番地から程久保900番地に及びます地域でございます。この地域は斜面になっておりまして、あの地域でも緑豊かな場所となっております。わき水がわき、鳥たちが訪れ、子供たちが小学生あるいは学童クラブなど、この山を、他人様の山ではございますけれども、「冒険地域」というような呼び方などもしまして、自然に親しむすばらしい場所になっているのでございます。まさかここは、私有地ではございますけれども、最後まで緑が残るのではないか、こういうふうに住民は安心していたわけでありました。

ところが、11月21日付で建築計画のお知らせなる看板が立ったわけでございます。この看板を見ますと地下１階、地上７階の極めて大きなマンション建設であるなということがうかがえるわけでございます。日野市の住みよいまちづくり指導要綱、これに基づいての立て看板であると思いますので、市側もこの件につきましていろいろ調査をされていることと思います。

そういうことで、二、三具体的な質問をさせていただきます。

今までの市議会本会議あるいは委員会等におきまして、この地域は緑地として守ります、そういう答弁があったわけでございます。しかし、緑地を守るには黙っていて守り抜けるわけではございませんので、市側でも地主さん等との話し合いとか、何らかの努力をされてきたに違いないと思っているわけです。

また私が、この住みよいまちづくり要綱をさらに一層権威あるものにして、日野市の力で、行政力で開発行為に対して規制をなし、緑を守る、そういう点での改善もお願いしておきましたので、そういうことなども含めてさまざまな努力がなされたものと推測しているわけであります。

第１問は、この地域について緑を守り抜く手立て、市側としてはどういうことを今まで行ってきたか、その経過をお知らせいただきたいと思います。

第２点目は、今回のこの立て看板の建築計画の内容について、つかんでいたらお答えをいただきたいと思います。

そして第３点目、もし市側に何らかのこの件についての申し入れ、届けなどがあったとするならば、市側としてはどういう態度でこの開発業者等に臨んでおられるか、今後またどのような指導をされようとしているか、この点についてお伺いをいたします。

私ども住民としてはあの地域はできることなら永遠に緑として保存をしてもらいたい、こういうふうに願っているわけでございます。この建設計画のすぐ近くには民家はほんの数軒しかございません。そういう点で、もちろんこの人たちの御意見も市側なり、開発業者は拝聴をしなければいけないと思います。しかし、先ほども言いましたように、あの地域に住む広大な団地や分譲住宅、こういう中の何万人という住民、そして子供たち、また日野市全体にとっても、程久保の丘陵地から百草園にかける緑の線という形で非常に大切な緑地であると思います。関係する住民にはさまざまな形で今後かかわりが出てまいりますし、こういう住民の意見を市が酌み取って、行政指導していただかなければならないわけでございます。そういうことについていかがお考えか、第３点目としてお聞かせを願いたいと思います。

以上。

○議長（市川資信君）　竹ノ上武俊君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　お答えいたします。

第１点目の緑を守る努力をどうしたかということでございます。今問題になっております、この土地でございますけれども、三沢の884番１ほかでございます。面積にいたしまして6,389平方メートルでございます。

この土地につきましては、昨年の夏でございますけれども、地元の方が所有をしておりまして、相続の関係もございまして売却をする、そういう情報が市に入ったわけでございます。市といたしましては特定の行政目的を持ちまして、これは市の土地開発公社でございますけれども、地主さんと用地交渉をしたわけでございます。結果といたしましては価格の点で折り合いがつきませんで、市の公社が買収できなかったという経過の土地でございます。

２点目でございますけれども、計画の内容でございますが、私の方でつかんでいる内容を申し上げますと、まず建設主でございますけれども、ハイネス恒産株式会社でございます。これは本社は新宿区西新宿４の32の４でございます。この土地に分譲住宅といたしまして70戸、階数にしては４階から７階ということで、地形の傾斜地を利用いたしまして、若干ずらすような形で建物をつくるということでございます。駐車場につきましては地下駐車場が主になりますけれども、38台設置したいということでございます。

今後の市の指導でございますけれども、御指摘もありましたけれども、現在は一部樹木がないところがございますけれども、ほとんどの土地につきましては松でありますとか、コナラ等の落葉樹林がございます。この土地の開発につきましては、指導のポイントは、この緑地をいかに残すかということではないかと思います。切り土、盛り土をできるだけ少なくするようなこと、あるいは現在の緑地をそのまま残すこと、さらには最小限度その切り土、盛り土をしたところをさらに復元をするということでございます。こういったことに重点を置きまして指導をいたしたいというふうに考えております。

○議長（市川資信君）　竹ノ上武俊君。

○29番（竹ノ上武俊君）　経過についてはわかりました。市側が去年公共用地として買収をしようと接触をした、こういうことでございます。この点については私も評価をしたいと思うわけです。

しかし、最初に申し上げましたとおり、今開発行為が極めて頻繁に行われております。そういう中で、地主さんが売らねばいけない状況、こういうものをつかんで、そして交

渉をされたのが去年であったという点が、私は不十分ではないかと考えます。緑を守るためには、今まで議会でも何回も問題にした場所でございますので、そういう点ではもっともっと早くから私は市当局が地主さんたちと話し合いをして、いかに緑地を守るか、こういう点での努力をもっともっと早くからしていただきたい。もちろん市の担当課の職員数、その他にも制限があるかもしれません。そして、残さねばいけない日野市内のいわゆる傾斜地、がけ地、こういうところの緑地というものは数多いわけでございます。それらをすべて事前に交渉して、できれば市で買収して保存していく、なかなか大変な事業です。しかし、もっともっと早くから話も詰めなければ、いろんな今地主さんには誘惑が来ているわけでございます。もう既に程久保、百草、こういう地域には業者の人たちがさんざん調査をいたしまして、開発のことでねらいを定めております。京王線から近距離にあって、今の技術で住宅にしてしまえば平地と同じような値打ちが出てくる、こういうことで業者がウの目タカの目でねらっているわけでございますので、これに対応するためには、市はもっともっと早いときから対策を講じていただきたかった、こういうふうに考えるわけでございます。

２点目のこの計画でございます。駐車場については38台という計画を業者が持っているようです。指導要綱等ではその程度でもいいのかもしれません。しかし、このようなマンションの場合は、必ず１世帯１台の自家用車というものは最近の方々は所有をされている、また必ず入居者は所有をされる、こういうことも明らかでございます。

御存じのように、あそこはカーブの多い地点でございまして、非常に交通上も事故が起こりやすい現状になっております。残念ながら、この計画の地から少し下の方、川崎街道の入り口にもライオンズマンションが既に建設をされ、多くの方が入居されているわけでございます。こういうことで、今後の交通の危険なども生じてまいります。そういたしますと、今でもあの付近の空き地は既に駐車場となっておりまして、満杯の状況でございますので、そういう点で私はまだまだこれは看板を立てた状況、日野市へ申請をするという段階にはなっておりません。しかし、今のうちからそういう点についても、もし建築を認めざるを得ないというのであれば、その辺のことを具体的に手を打っていただかなければいけないのではないかと思います。

そして、これは７階建てです。あそこの地域は海抜で言いますと百数メートルのところが下になっておりまして、130メートル代がちょうど百草台小のグラウンドの高さになっているわけでございます。この建築の高さは21メートル05ということが表示をされております。百草台小に日陰が及ぶというところまではならないように予測されますけ

れども、今申し上げましたように、あそこには第六幼稚園があるし、あるいは湯沢会館があるし、幼児教室もある、その奥には七生福祉園、七生養護学校もある、百草団地、高幡台団地がある、梅ケ丘の住宅がある、非常にさまざまな住民、特に障害者あるいは子供、こういう人たちが多い地域でございます。そういう点で緑が必要でございますし、また交通安全対策が必要なわけであります。そういう点については今から相当構えて、厳しい指導を業者に行うようにお願いをしておきたいと思います。

３点目の行政指導の点についてでございます。西松建設というのは日野市の仕事もされた企業であります。そういう点で私どもも若干は知っておりますが、大きな企業である、こういうふうに思うわけでございます。そして、現在の建築主であるハイネス恒産、これについては余り承知しておりません。何とか何とか恒産というので地上げなどで問題になった、そういう不動産会社等も今までございました。こういう点では、こういう建築主、それから施工者、こういうものについて、今後日野市はよく事前に調査をして、今私が申し上げましたようなさまざまな住民に対する障害がないように、こういう点でのきつい指導を今から準備しておいていただきたい、こういうふうに願うわけでございます。

そして、付近の住民との協議ですね、例えば自治会等が業者なり市に話し合いなどを申し入れた際、そういう場については大いに日野市としては努力をしていただくのかどうか、これらの点について再答弁があればお願いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　私の方から、施主の方から市の方に開発の手続が正式にされますれば、できる限りの業者指導はいたしたいというふうに考えております。

今御指摘の付近住民への問題でございますけれども、この範囲が問題になりますけれども、できる限り業者の方から建設計画につきまして、地元の方に説明するよう指導いたしたいというふうに考えております。

○議長（市川資信君）　竹ノ上武俊君。

○29番（竹ノ上武俊君）　わかりました。ただいまの部長答弁に基づいて、ひとつ住民が納得するような立場で開発業者に指導をお願いしたいと思います。

既に百草台小のＰＴＡの関係者とか、学童クラブの父母会の関係者、こういう方々の中には、組織だったものではございませんけれども、ここが開発されては困る、反対だ、マンションが建たないようにしてもらえる方法はないか、こういう住民の声が出始めております。これらはどの程度広がるかどうか私も予測はできません。しかし、今部長が

範囲の問題があるとおっしゃいましたけれども、本日の私の質問の中で挙げた住民、あるいは住民組織、こういうものについては利害関係が生ずると思いますので、ぜひ特段の配慮をして、住民要望を行政指導の中に生かせていただきたいと思います。

時間がないんですけれども、最後にもし時間が許せば市長の方に一言だけ御答弁をいただきたいと思います。

それは、今取り上げました土地につきましては、歴代都市整備部長等が、この緑の場所は守っていきたい、こういうふうに、あるいは守れます、こういうふうに答弁をしてきた地でございます。ほかにもそういう地域がもちろんあると思います。ところが、合法的だということで、次々とこのようにマンション等の建設によって日野市の住民、あるいは近辺住民も含めまして、日野市の豊かな緑、特に住環境として精神的あるいは景観、こういう点で日野市の緑は豊かだ、ちょうどこのがけなどに緑がありまして、景色としてもすばらしい、こういうふうに言われてきているわけでございます。この緑がこのような形で次々と侵されていくということは、本当に嘆かわしいことであります。

そういう立場から、住みよいまちづくり指導要綱、これの改善、そしてまた緑地の信託制度、そのほか市長がさまざまな緑地を守るための手立てをされております。こういう点で、今取り上げましたこのテーマなどに関係いたしまして、今後市として何らかの、もう少し一歩進んだ御努力をいただきたいと願っているわけでございます。もし御答弁があればお願いをいたします。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　この場所は、かつて七生村当時議員もされた小川市雄さんの持たれた土地であります。いずれ相続の問題が生ずるということを推測をいたしまして、申し出をしていた経過がございましたが、ちょうど土地の異常高騰の時期とぶつかって、目的を達成するまでに至りませんでした。今から考えると残念だという感じもいたしております。その場所を民間の開発企業が求めて、新たにマンション計画を持ったという現実でございますので、行政は行政サイドからの、もちろん日野市民の立場に立っての可能最大限の指導をいたします。また周辺で意見が伴うものであれば、それらに対しましても十分措置をいたさせる、こういう姿勢で臨みたいと思っております。

ちょうどこの議会に緑地信託等の条例、これはつまり先買い権をまず確保しようということが主なる内容でございますが、そのことにも該当させ得なかった、返す返すも惜しい土地であります。今後十分な指導を試み、なお態度を見きわめて、しかるべき措置をとりたい、このような考えでございます。

これからいずこに限らず、いわゆる残留緑地を何らかの方法で、金もうけの手段に開発をするという事例が発生することは当然見込めますので、厳しい基本姿勢を持って対処していくことを、また改めて行政自身が決意を持たなければいけない、こういう感じでございます。

○議長（市川資信君）　竹ノ上武俊君。

○29番（竹ノ上武俊君）　ありがとうございました。ぜひ市長の努力を期待をいたします。でき得るならば、今からでもあの緑地を保存することに努めていただきたい、そしてさまざまな努力をしても開発をせざるを得ない、こういう事態になった場合につきましては、今私がるる申し上げたことをぜひ酌み取っていただいて、その方面での努力をお願いしたいと思います。

今回の開発業者も、一応既存林の保全区域というものを設計図として住民に表示しておりますが、この中に既存林を残す部分もうかがえます。こういう点の拡大ですね、こういうことをぜひそういう段階になった指導の中では強めていただきたいと思うわけでございます。

そのほか交通安全対策、また近隣住民諸団体がさまざまなことを要求した場合には、ぜひこの開発業者にそういうことを伝えていただきまして、住民要望が実る、そういう方向で市当局の格段の御努力をお願いいたします。

以上でこの件の質問を終わります。

○議長（市川資信君）　これをもって９の２、百草台小学校周辺緑地への７階建てマンション建設について問うの質問を終わります。

一般質問10の１、土地区画整理事業の推進と当局の対応問題点の通告質問者、福島盛之助君の質問を許します。

〔７番議員　登壇〕

○７番（福島盛之助君）　通告に従いまして一般質問、土地区画整理事業の推進と当局の対応、また問題点と題しましてお尋ねをいたしたいと思います。

市長におきましては４期16年、福祉施策の充実を最重点課題に、緑と清流をうたい文句に４期16年、いろいろと御苦労はあったにせよ、日野市始まって以来、長期間、市長の座にあったわけでありますが、来年の４月には好むと好まざるとにかかわらず任期を迎えるわけでありますが、まちの声などを総合をいたしますと、市長の在任期間余りにも長過ぎたので、ひなたの部分よりは、むしろ日陰の部分が目に余るようになったので、この辺で立派な実績を誇りに、後進に道を譲るのが賢明ではないか、そんな声もござい

ますが、また反面、せっかく築いた革新のとりで、守り抜かなければならない、そんな声もあるんではないでしょうか。

本年は既にふるさと博物館もでき上がりました。高幡特養老人ホームの建設も本決まりに、一番橋、南平公園、そして本議会に提案をされております南部地区病院、安養野に保養所と、やる気満々、５期目を目指して意欲を燃やしていると思われます。

また、先ほど米沢議員の方からの質問に対しまして、市民の負託があれば引き続きやりたいというようなお言葉もありますが、これからも引き続き市政を担当される気ではないか、そんな予想をいたしまして、この質問をお願いするわけでございます。

まちづくりの基礎は、何と申しましても土地の基盤整備にあるんではないかと思われます。幸いこの日野市では、最近急速にその方向に動き始め、万願寺区画整理地区では完成に向け工事も着々と進められておりますし、豊田南、高幡、西平山、そして第２万願寺、東町、それに南平、三沢地区につきましては組合施行で行われるとのことですが、完成までには莫大なお金と幾多の困難が予想されると思われますが、今世紀、やり遂げなければならない事業ではないでしょうか。

そして、その完成の暁にはすばらしいまちに、そして他市に比べ大変おくれを来しておると言われております下水道も同時進行という形で完成を見、まさに緑と文化、快適な市民生活が送れるのではないか、夢物語でなく、現実になってきたのではないか、そんな感じもいたしますが、残念ながら私の住む新町、栄町地区には行政の手が差し伸べられのが大変おくれております。大分先になるんではないかとのことですので、私は昨年の８月の10日、東光寺上の農地について、また本年６月27日、四谷前薬王寺付近の問題について市長に出席を求め、地区懇談会を開催をさせていただきました。と申しますのは、一般市民も市長の考えを、また担当の課長なり部長なりの責任者より直接話を聞き、理解を深めることが必要であろうとお集まりいただいたわけであります。

その結果、前々から準備は進められておりました四谷前区画整理の話が現実を帯びてまいりまして、その後、再三の会合の結果、行政指導のもとに区画整理事業に踏み切ろうということになり、とりあえず農地部分約４ヘクタール、関係地主32人中30人の仮承諾をいただいたところでもありますし、東光寺上農地につきましては、役員とまではいかないまでも連絡委員という形で数人お集まりをいただき、時代の要請と今後百年の計を立てなければならない、そんな話がまとまりかけてきたところでございますので、この質問になったのでございます。

それでは、まず第１点目といたしまして、区画整理の方法として、市施行と組合施行

とがございますが、どのような場合に市施行が行われるのか、面積なのか、まちづくりに必要な重点地区なのか、市施行と組合施行の相違、また損得について教えていただきたいと思います。

次に、第２点目といたしましては、区画整理課の対応は十分なのかということであります。去る10月の21日付で機構の改革と人事異動により都市整備部より独立というような形で１課、２課とに分かれ、既に区画整理が進められておる地区、これからの地区、また組合施行相談係というふうに改正が行われたようでありますが、これからの日野市の将来へ向かってのまちづくりの基本であります区画整理への対応に人員、人材ともに十分こたえられるだけの体制ができ上がったのかどうかということでございます。

続きまして第３点目でありますが、日野本町北地区整備計画調査報告書が61年度作成されておりますが、この計画に（仮称）四谷前区画整理との関係でありますが、先ほど前段で申し上げましたように、この地区は日野駅から歩いて四、五分、いまだにホームから昔のままの水田風景が見られる貴重な場所でございますが、将来展望に立ったとき、このままでいいんだろうか、数年前から話が始まり、最近に至ってようやく事業化に向かって歩み始めたところでありますが、既に日野本町北地区基本計画書も作成されておりますので、その線に沿った形でのまちづくりをなされるのか、薬王寺の樹木は年輪を経たケヤキ等がございますが、寺の造成はどのような形で進められるのか、これからもいろいろと紆余曲折が予想されるが、市当局の基本とするお考えをお聞かせをいただきたいと思います。

次に、第４点目でございます。計画道路２・２・11との関係でございますが、先日７日、南多摩西部建設事務所の工事課長、設計係長さんが庁舎においでになりまして、私と福島敏雄議員に面会を求め、立日橋の開通に伴い、この地区への車の乗り入れ増大が当然予想されますし、また宇津木台団地の造成により、東光寺169号線も通行量も増加の一途をたどってまいりましたので、この計画道路２・２・11の事業に着手せねばならないと、63年度で日野本町４丁目27番地あたりから栄町２丁目18番地ぐらいまでを、またそこから以西栄町５丁目16番地ぐらいまでを、64年度後半ぐらいまでに現況測量をしたいので御了解をいただきたいとの話でございましたので、長い間の懸案も具体化してまいったようにも感じられますが、前途幾多の障害もございます。住居の移転先を考えなければなりませんが、市長は神鋼跡地をこれに充てたい意向もおありのようですが、見通しはどうなのか。また、ただいま申し上げました四谷前区画整理内の保留地を確保することなどできるのか、法に照らして可能なのかどうか、教えていただきたいと思い

ます。

続きまして５点目でございます。計画道路２・１・１の幅員についてお尋ねいたしたいと思います。

区画整理を行う場合、権利者はまず公共減歩は幾らかと関心を持たれるところでありまして、道路の幅員も気になるところであります。この２・１・１計画によりますと、20メートルとのことですが、私、うわさに聞いた範囲内で、確かではございませんが、この道路は横田基地、立川飛行場を経由し、厚木、横浜に至る軍用道路の可能性があるので、建設には反対との声があったやに聞いておりますが、行政といたしましてはどう指導していただけるのか、お聞かせをいただきたいと思います。また、幅員は何メートルぐらいにするお考えなのかということでございます。

続きまして第６点目でございます。日野市のまちづくりの中における東光寺上農地の位置づけでありますが、私、61年の９月、初めてこの壇上に立たせていただいたときお聞きしていることでございますが、自然に恵まれた肥沃な農地、これをいかにすべきかが私の使命でもありますので、再度お尋ねするわけでありますが、農業者の高齢化に伴いまして区画整理事業を起こしたらどうかという意見も最近出てまいりましたので、意見調整をしなければと思っておりますが、市当局のお考えはと尋ねても、それは権利者の意向次第というお答えになろうかと思いますが、大きく日野市のまちづくりの中から見た最も好ましい未来像をお聞かせをいただければありがたいと思っております。

続きまして最後の第７点目でございますが、計画道路２・２・９の建設見通しでございますが、第１回目の一般質問のときお聞きいたしたときには、既に測量も終えてはいるが、一部の人の意見で、ただいま申し上げました東光寺上農地の区画整理事業と並行して行うとのお答えでありましたが、先日、東光寺の火の見やぐら下の交差点で、とうとい人命が失われるという痛ましい事故が起こりました。このところは変則的な交差点で、車の接触事故などは日常茶飯事のように起こっておりますが、お答えのように東光寺上農地の区画整理事業とあわせて行いたいとのお考えに変わりはないのか。

以上、７点について教えていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　福島盛之助君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　お答えをいたします。

第１点目の市施行と組合施行との相違等でございます。これは土地区画整理法の中で、それぞれ事業主体を分けまして規定をされております。事業の結果につきましては全く同じでございます。

組合施行ということになりますと、今までやってきた形を見ますと、特に日野市の場合でございますけれども、比較的家が少なく、田んぼとか、あるいは畑の農地の面積が多いところでございます。要するに家のできるだけ少ないところの地域を行う。それからさらには都市計画施設の大きなものがないところ、これは特には公園等でございますけれども、小さい面積をやるのに大きな公園等を設置するということになりますと、非常にその区画整理がしにくくなるということでございます。

それから、組合施行は法律の中で権利者の同意が４分の３以上という規定がございます。市施行につきましてはその割合がないわけでございます。したがって、この同意の４分の３以上と言いますのは、組合というものをつくりまして、権利者が合意の上で進めるわけでございますので、その辺にかなり重きを置いているということでございます。したがって組合施行をいたしますと、ただいま申し上げましたような理由の中から、非常に事業の期間が短くて済むということでございます。過去の例からいきまして大体４年ないし５年で事業が完了するということでございます。

それから大多数の権利者の同意を得てスタートするわけでございますので、権利者間のコンセンサスが非常に得られやすいということも事業の短縮につながっているということでございます。

本市といたしましては、組合施行で可能なところはできる限り組合施行で実施していただきたいということで、現在でも日野市土地区画整理事業助成要綱というものを制定いたしまして、組合施行の事業についての人的、あるいは予算関係の援助をしていくということでございます。認可までの経費につきましては約10割、あるいは事業費につきましては10分の１を限度といたしまして助成を行うということで考えております。

現在、この要綱に基づきまして南平の組合施行、あるいは落川の農住の組合施行、こういったものにつきまして、この要綱の適用を行い、事業の進捗化を図っているということでございます。

２点目は区画整理課の対応、いわゆる執行体制の問題でございます。過去、区画整理課がどのような執行体制をとってきたかということを若干触れてみたいと思います。

昭和55年でございますけれども、区画整理課の職員が課長以下10名でございます。それから途中ちょっと飛ばしますけれども、58年が18人、それから61年にまいりまして20人、62年が21人、63年が23人ということになっております。必ずしも事業量と比較いたしまして十分ではございませんけれども、一定の努力はしてきたわけでございます。

この執行体制の中で大事なことは、一つは職員数のこと、それから２点目は職員の能

力の向上、それから３点目は組織の充実ということになるわけでございます。職員数につきましては、先ほど申し上げましたとおりでございます。今後さらに努力をいたしたいというふうに考えております。組織の関係でございますが、これは本年10月21日をもちまして日野市組織規則の改正を行いました。現在区画整理１課23人の体制で行っておりましたけれども、これを１課、２課に分けまして、課長それぞれ１名、課長補佐１名、それからさらには執行権限を委譲するということで、参事制度を導入をいたしました。これは部長クラスの参事を置きまして、今まで都市整備部長に先決権があったものを区画整理事業関係につきましては参事に委譲するということで、いわゆる意思決定の迅速化を図るような、そういう措置をとったわけでございます。今後は、この事業量の増大に伴いまして、さらに組織、それから組織の変更、あるいは職員の増員の問題、資質の向上、こういったものに努力をいたしたいというふうに考えております。

それから、３点目の本町北地域整備計画と四谷前区画整理との関係ということでございます。この整備計画につきましては主には駅の問題、それから本町の北地域の問題、それから日野桑園の留保地、さらには東町地域の整備の問題、この辺にポイントを置きましての整備計画でございます。

御指摘の四谷前につきましてはＪＲの中央線沿いということで、この調査報告にも若干載っておりますけれども、この四谷前の区画整理は、この整備計画からは切り離すような形で市は考えております。しかしながら、この整備計画の中にもございますように、駅と四谷前との関連というのは非常に深いわけでございます。この北地域の整備計画の内容ももちろん踏まえながら、四谷前の区画整理を進めてまいりたいというふうに考えております。

この中でお寺の問題が提起をされましたけれども、これは薬王寺でございます。高幡不動尊の末寺といたしまして薬王寺がございまして、最近ではこのお寺の再興をしたいということでございます。本堂、それから庫裏を建設すると同時に墓地をつくりまして、いわゆる分譲をすると、そういう計画でございます。この薬王寺につきましては、都市計画道路２・２・11号線、それから２・１・１号線にかかっているわけでございます。ただいま申し上げましたお寺の本堂、あるいは庫裏、墓地が、この現在のお寺の敷地に建設されますと、今後のこの道路の整備に大きな支障を来すわけでございます。したがって、区画整理とは現時点では別に隣接地を市が中に入りまして確保をし、道路の上に建物、その他の施設ができないような、そういう今話し合いをし、地主との折衝を進めているということでございます。このお寺は、仮に都市計画道路をよけてつくりましても、

四谷前の区画整理がまとまりますれば区画整理の１権利者として、この事業の中に入っていくというものでございます。

それから、４点目の都市計画道路２・２・11号線の問題でございます。これは議員さんからも御説明がありましたけれども、東京都はＪＲ、いわゆる中央線の東の部分でございますけれども、多摩自治会内の道路は四谷下の区画整理で完成しておりますし、それから市民の森スポーツ公園の北側の道路は64、65で完成する、２・２・10もその年度で完成する、さらには２・２・11のこれから東でございますけれども、区画整理で道路をあけていくということになりますと、どうしてもこの道路のＪＲから西の部分の開通が急がれるということでございます。いろいろ市の方からも都の方に要請をしてまいりましたが、今回――今年度でございますけれども、これは全長にいたしますと約1,400メーター東光寺までございます。この東半分を63年度に現況測量、あるいは事業団の測量をいたしたい、残る分につきましては来年度実施するということでございます。測量の結果、都市計画道路の法線を定めまして、地元に説明会という順序で入るということでございます。

この道路は、御承知のように八王子方面に参ります幹線道路ではありますし、また市が考えますと汚水の多摩川中央幹線の布設を予定する道路でもございまして、非常に日野市にとりまして重要な道路でございます。

それから、５点目の都市計画道路２・１・１号線の問題でございます。これは甲州街道が現在都市計画道路２・２・１号線でございます。計画幅員が16メーターでございます。２・１・１号線につきましては現在の計画が幅員20メーターでございます。私ども今後のこの四谷前の区画整理等にかかる市の立場といたしましては、現計画をもとに進めていきたいというふうに考えております。

それから、６点目の東光寺上の農地の問題でございます。これは将来のいわゆる未来像をということでございますが、この東光寺上の地域につきましては、面積といたしまして約20ヘクタールございます。この中に、現在都市計画施設といたしまして計画決定がなされておりますのが都市計画公園の七ツ塚公園7.5ヘクタールでございます。それから都市計画道路といたしまして２・２・９号線がございます。

それから最近のこの地域の状況でございますけれども、一部宅地化が進みつつあるという、そういう状況でございます。この土地につきましては、御承知のように、市内でも有数の野菜の供給地になっております。市の都市計画、まちづくりを考える上で、産業面から見たバランスを見ますと、やはり１次、２次、３次産業というものの調和とい

うものが非常に大事だというふうに考えております。しかしながら、先ほど申し上げましたように、一部宅地化が進んできているという現状を考えますと、現時点あたりで土地利用計画をいま少しきめ細かく定めまして、さらには農地としての機能を持たせながら今後の整備を進めなければならないというふうに考えている次第でございます。

それから、７点目の都市計画道路２・２・９号線でございますけれども、これは単独で事業をということの発想も若干あったわけでございますけれども、最近に至りますと、ただいま議員さんからもお話がございましたように、区画整理の気運も盛り上がりつつあるわけでございますので、これはかえって区画整理の事業の中で考えた方がいいんではないかというふうに現時点では考えているところでございます。

○議長（市川資信君）　福島盛之助君。

○７番（福島盛之助君）　ありがとうございました。第１点目の区画整理を組合で施行した場合には、４分の３の賛成があれば実施に踏み切れるということのようでございますが、この同じ同一の権利者であっても所有している土地の状況、お仕事の内容、また家族構成、おまけに感情論も入るという大変難しいこともございますので、意思統一には相当時間を要すると思われますが、これからもその辺を十分説明をしていただきまして、実施に踏み切れるように、これらあたりをお願いをいたしたいと思います。

また２点目の区画整理事業をスムーズに進む上においての、この課の持つ役割でございますが、大変重要かと思われます。担当官はただ事務を処理するでなしに、人の心をつかみ、その人の身になって物を考え、大所高所から広く物を見る目を持ち合わせ、その上、夜の会合などにも出席をし、全くまことに御苦労の多いことでございますが、人材、人づくりもこれから課題があろうかと思われますが、十分対応していただくことを要望をいたしたいと思います。

次に第３点目でございますが、予定されております（仮称）四谷前区画整理でありますが、先ほど御説明をいただきましたように、当然市当局といたしましてはまちづくりの理想に従って設計を立てたいところでありましょうが、この事業、余り理想を追うがために今後10年、15年とおくれを来すよりは、むしろ現実問題として実現可能な方策をとるのも必要ではないかと思われます。また住宅地の方々にも御協力を願わなければならないと思いますが、現在のところで関係する家屋は何戸ぐらいを予定をしているのか、進行状況によっては区画の決定、柔軟に対策を立てることも可能なのかどうか、これは再質問でございます。よろしくお願いいたしたいと思います。

第４点目でございますが、この計画道路２・２・11早期実現、どなたも願うところで

ありますが、総論においては賛成でありますが、さてそれが我が家に関係をしてくるとなると、また話が別になるのが人情でございますが、さりとて不協力というわけにもいかないのが、これがまた浮世の義理でございます。住民相互の立場からいって、お互い痛みを分かち合うことから考えた場合、区画整理を起こして用地を出し合う方法は考えられないのか。また市長の考えておられる家屋の移転先、神鋼跡地、私たち行政に暗いものにとっては都道の新設であり、都の所有地でありますので、スムーズに事が運べるのではないかと思われますが、建設局、住宅局、この局の差が大変大きく不可能ではないかと聞いておりますが、その辺、市長、いかがでございましょうか、お答えをいただきたいと思います。

次に第５点目でございますが、計画道路２・１・１の幅員についてでありますが、６月の27日、四谷の日野宮神社拝殿で開催をいたしました説明会の席上、どなたかの質問に答えて市長は、２・１・１の幅員は６メートルでもよいとの答弁がありましたが、それに対して再質問はしませんでしたが、この答えは何を意味するものなのか、地権者受けをねらった安易な答えなのか、それとも本気で６メートル道路でもよいと思っているのか、市長、これはお答えをいただきたいと思います。

また６点目でございます。東光寺上農地の未来像について、市長は昨年の８月の10日の晩の懇談会の席上、家庭の事情等により農地を手放す方がある場合、これを１カ所に集め、ハイテク産業を誘致したい、そのほかの部分については区画を整え、できるだけ農業を続けていただきたいとのことでしたが、本年９月議会の中ごろ、私、呼ばれまして、ハイテク産業にかわり私立高校を将来誘致したいんだが御協力を願いたいとのことですが、現在児童数が減少し、幼稚園、保育園、また小中学校まで飽和状態になっているときに、高校の将来性はどうなのか、それとも全く特殊な学校を考えていられるのか、以上、お答えをいただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　１点目の２・２・９号線のいわゆる道路事業としての施行でございます。この東光寺上の区画整理が見込みが全く立たない、区画整理が実施不可能だということになりますれば、都市計画事業、あるいは道路の単独事業で道路だけつくるということになるんではないか、現時点では、この地域の権利者の皆さんもかなり区画整理には関心もあるようでございますので、その辺の動向を見守ると同時に、また市の方もいろいろ相談に乗っていきたいというふうに考えております。

今、２・２・９号線をつくる場合の家が何軒かかるかということでございますが、ちょっ

と本日資料を今持っておりませんが、わずかな数だというふうに思っております。大変恐縮でございます。

それから、２・２・11号線の、今後都道として事業を進めるわけでございます。この予定地にはかなり民家がございまして、この民家の生活再建が非常に大事なことでございます。その代替地といたしまして、神鋼電気の社宅の跡地を現在都の住宅局が保有をしておりまして、移籍調査をもうほぼ完了する時期ではありますけれども、そういう状況でございます。過去、落川の第二関戸橋、関連道路と称しておりますけれども、この道路も都が事業化をしておりまして、この道路にかかる居住者の代替地として都営住宅の用地をということで、これは落川のこれから建設をいたします市営住宅の用地を一部割愛をして、住宅用地から、この道路の代替地として、いわゆる道路にかかる居住者の住宅用地として一部提供するという、そういう成果も上がっているわけでございます。今後、神鋼電気のこの跡地の用地につきましてもそういう努力をいたしたいというふうに考えております。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　御質問にお答えをいたします。

ことしの前半だったと思いますが、私は、広報の「市長室から」という欄に、日野市内も多摩川に近い地域にいよいよ都市計画時代が来ます、立日橋、２・２・10号線の都道開通に伴いまして、将来の東に向かってはモノレール構想、それから２・２・11、西に向かっては中央線以西の下水を通したり、それから下水幹線も用地としても確保しなければならない、こういう事業がだんだんと現実化に進みつつあります。

そこで、今日の話題として提供されております栄町、新町方面、都市計画道路並びに下水道、その中でまた部分によりまして区画整理事業、これらがだんだんと具体化に向かいつつあります。何か最初のお話ではおくれたというふうにも言われますが、私は順序が来たと、このように申し上げたいわけであります。

たまたま、特に２・２・11号線に伴いましては、これは16メーターということでございまして、私が６メーターでいいと言ったというのは２・２・９の方ですか。

○議長（市川資信君）　　福島盛之助君。

○７番（福島盛之助君）　　２・１・１です。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　わかりました。失礼しました。ちょうど、つまり薬王寺の用地を中心といたします、どういう名前になりますか、組合施行の区画整理事業のお話が、

準備会が行われまして、その際に私もごあいさつに参ったわけでありまして、ぜひあの事業を促進していただくと、これが大きなきっかけになる、こういう期待をいたしておるわけでありまして、その際、２・１・１のことにもあるいは触れたと思いますが、将来のまだ明らかにならない南北道路、中央線に並行する、中央線にごく近い南北道路でございますが、その中の区画整理といたしましては、都市計画として幅員20メーター、これが現状の都市計画道路としての幅員でございますが、何となく40メーター道路になるというふうな風聞も耳にするわけでありますけれど、私はその道路は全く今のところ具体性もございませんし、一般街区道路として６メーターでもいいんではないかというふうに考えたのが当時の事情でございますが、都市計画として存在いたしますので、やはり20メートルとして都市計画道路の位置決定をしないと、今、当局の認可にも支障を来すということになると思います。その点は訂正させていただきます。

それから、伴う問題といたしまして、いわゆる東光寺農地、これは日野市の今貴重に残る優良生産団地ということで東京都の指定を受けておる状況でありまして、その期間があと３年あるというふうに聞いておりますので、その３年の間に一定の方針をつけ、農家の方々がいろんな御事情があろうと思っておりますが、農業は意思のある限り存続の可能なようにということを考えながら、一定の方向づけをしておく必要がある、そのように申し上げた次第でございました。

そして、その後、いろいろな考えがだんだんと具体化してくるわけでありますが、その中の一つの情報として、日野市内に、ある有力な私立の高校が場所を得たいと、こういう要請もございますので、場合によって地元の賛同が得られるならば、日野市にも１校ぐらい高校が欲しいという事情とあわせて、積極的にまた土地を提供される方、というよりも相続とかその他で処分をされたい方の用地を、区画整理前のばら買いでも結構ですから確保をしておきたい、このような考えを持っております。

その高校のことも、その後具体的に依頼があった、依頼が進んでおるというところまでは来ておりませんが、こちらの状況を見守ってといいますか、期待をしておられるというふうに受けとめております。これは東光寺の農地は交通も利便でありますし、日野市の指定のためにも、あるいは将来の地域の発展のためにも、有益ではなかろうかという考えは持っておるところでございます。

すべて完全にお答えをしていないかもしれませんが、御質問には以上のように一応お答えをさせていただきます。

○議長（市川資信君）　　福島盛之助君。

○７番（福島盛之助君）　　３点目の（仮称）四谷前の区画整理のことですが、実は19日の晩に関係者にお集まりをいただきまして、その説明会をするという手はずにはなっておるんですが、先ほども申し上げましたように、日野市では理想的なまちづくりをしたいということだろうと思うんですが、関係者、なかなかそういう意思の統一までいかないと思うんですが、その辺で区画は多少柔軟性を持って対応していただけるのかということと。

それと、お答えをいただかなかったと思うんですが、ここに住宅地はどのくらいあるのか、ちょっと教えていただきたい。四谷前区画整理に予定をされておる……。

○議長（市川資信君）　　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　　細かい資料は今持ち合わせておりませんけれども、この四谷前の区画整理の区域の周辺を見ますと、一方はＪＲのいわゆる中央線、それから北側につきましては現在ＪＲに接した部分につきましては若干まだ空き地がありますけれども、その西側につきましてはかなり住宅がございます。それから、このお寺を中心にいたしまして西の方でございますけれども、これは西町の方から四谷の方へ行く道路がございますけれども、できるだけこの道路に接するような区域をとらざるを得ないだろう。それからあとは南側でございますけれども、都道に面したところでございますが、これはかなり住宅が密集をしている。それから先ほど申し上げましたように、この四谷下の区域の中には都市施設として、都市計画道路でございますけれども２・１・１号線、２・２・11号線があるわけでございます。この区画整理の区域を定めるにあたりましては、この区域の道路のアクセスが整っていませんと、この開発はなかなか、そういう将来開発いたしましても使いにくい土地になるわけでございます。できるだけその辺の周辺の諸問題を片づけまして、いわゆる東西南北からその区域に出入りがスムーズにできるような、そういう形での区域設定をしなきゃいけない、そういうふうに考えております。

南平の組合施行の指導も市の方で今行っているわけでございますけれども、これは一番橋の通りから東で、いわゆる南平小学校の西側でございます。これも２・２・５号線、いわゆる都市計画道路の問題、それから川崎街道でございます２・２・12号線の道路の拡幅の問題、この２本の都市計画道路をよけて区画整理をしますれば、作業としては非常にしやすいわけでございますけれども、この２本の都市計画道路をよけるような形でもし実施いたしますと、将来、この道路の実現が非常に心配されるということでございます。地元の方にもいろいろ説明をし、また市の方から直接付近にお住まいの方に、区

域のお住まいの方に事情を話しまして、区域に取り込むような指導、同意をいただいているということでございます。

今後、四谷前につきましてもそういう観点に立ちまして、周辺の区域への編入と状況を踏まえまして努力を市の方もいたしたいというふうに考えている次第でございます。

○議長（市川資信君）　　福島盛之助君。

○７番（福島盛之助君）　　市長は、この２・２・11号の建設につきまして住宅地が42戸あるということで、それを神鋼跡地へいとも簡単にお移りいただくんだというようなお話のようでございますが、先日の７日の西部建設事務所の方のお話などをお聞きしますと、やっぱり建設局と住宅局のその差というのは、もうお他人様以上の関係なんで、そう簡単にはいかないよというようなお話を聞いたんでございます。また市長は、都の建設局ですか、へも行ってお話がしてあるということですが、その辺はどうなんでしょうか、再度お聞かせをいただきたいと思います。

そしてまた２・１・１の幅員のことですが、市長は計画が20メートルだということで訂正をしますということでございますが、あの晩の説明ですと６メートルでもいいんだというようなことを市長の口から聞きましたが、地権者の方といたしますと、それは本気にもしていなかったんで再質問はしなかったということでございますが、これでは余りにも地権者受けをした安易なお答えではなかったか、その辺はこれからも気をつけていただきたいと思います。

それでは、神鋼跡地への移転のことについて、もう一度お願いをいたしたいと思います。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　中央線から西に向かいます２・２・11、都市計画路線、御承知のとおり、都道として管理される計画道路でありますが、これも市内の下水の多摩川幹線という意味からももちろんでありますし、いろんな意味で非常に日野市としては重要な道であります。そのことを東京都によく理解をしておいていただくつもりと、それから、その道路の上に、道路予定地に現在相当数の大きいお家がある、農家も含めてお家がある、これの移転先といいますか、そのことが一番、一つの方法として見通しを持たないと説得の材料も整わないということになるわけでございます。

東京都と我々自治体との関係はもちろん、持ちつ持たれつでありますが、特に２・２・10、いわゆる立日橋通りですか、これはまた他市との関係においても重要な意味を持つことはもちろん、東京都もまた大きな事業としての南北交通、モノレールコースになる

わけでありまして、特に東方で、市民の森スポーツ公園のあの角になります部分から東方、つまりニュータウン方向に９キロということでつながる路線でありますが、これは東京都としてもちろん、恐らく最優先に近い事業として考えられておるわけでありまして、日野市がそのことにまた積極的に協力をするわけでありますから、それとの相互理解によって市の言うことも聞いてもらわなければならない、貸し借り関係で考えるわけではありませんけれど、日野市としては大きな都に対します言い分を持っていると、そういうことで、ぜひこのこともあわせて解決をするという絶好の機会だと思っております。そのようなことを含めて、いろいろ描いておることがあるわけでございまして、都に対しましては言うべきことはもちろん申し上げる、神鋼跡地に四十数戸がそっくり移れるということは、これは無理かもしれませんが、その他の土地も確保できるものは積極的に確保いたしまして、地域の方々に積極的にまた御理解のいただける条件を早目に取り組んでおくと、そのことが御理解をいただく、また一番誠意の手段だと思っておりますので、それらに積極的に取り組もうというのが多摩川方面の新しい都市計画時代の一番中心の問題だというふうに考えております。

○議長（市川資信君）　　福島盛之助君。

○７番（福島盛之助君）　　それでは、市長さんにもう１点お伺いをいたしたいと思いますが、東光寺上農地区画整理をする場合に、私立高校を１校誘致したい、日野市では初めてなのでということですが、これから学校も飽和状態になるというので、見通しとしては大丈夫なんでしょうか。といいますことは、これから組合施行で区画整理を起こそうというと、地権者の人としては先行き不安もありますし、気持ちもはっきりしていないということで、やはりある程度正確な情報というか、しっかりしたものをお話ししないと、皆さんがこれに乗っていけないんじゃないか、そんなことを思いますので、正確というか、自信を持った答弁をひとつお願いをいたしたいと思います。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　まだ具体化にまで届いていない問題なものですから、公表的なことは申せないわけでありますが、相当有力な高校が越してきたいということであります。用地も五、六ヘクタール欲しい、こういうことでございますので、かなり問題は大きい。もう一遍年内にも――毎月ある程度の情報をいただいておりまして、専門機関によって、今調査中だということも聞いているわけでありますが、それらの将来の考え方については確認をしてみたい、このように考えております。

なお、東光寺農地、日野市としましても非常に位置の上でも、あるいは最後に残る、

何といいましょうか、市街化のできる場所ということで考えます場合に非常に大切な場所でもありますので、地元に、つまり農業にかわって働ける場所もやっぱり欲しいという感じもいたしますのが、工場誘致というふうな考え方にもなるわけでございます。また地域に一定の文化的な風格をつくるためにも学校の存在ということも、日野市民にもまた役立ち、地域としても可能性があるんじゃなかろうか、こういう考え方は持っているわけでありまして、なおこれらをより明確にしながら、正確な情報をお伝えしていきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　福島盛之助君。

○７番（福島盛之助君）　　ただいま質問いたしました問題とはちょっとかけ離れておるかと思いますが、せっかくの機会でございますので、ひとつ要望させていただきたいと思います。

先ほど申し上げましたとおりに、東光寺の火の見やぐらの下の交差点は大変危険な箇所でもありますが、先ほどの９月議会におきまして認定をいただきました新町７号線の早期着工をいただければありがたいと思っております。これが開通をいたしますと、多摩大橋へ向かう車は大方ここを利用するんではないか、そうしますと火の見やぐら下、またあの坂の危険箇所は大分緩和されるんではないかと思いますので、ひとつよろしくお願いをいたしたいと思います。

ただいま懇切丁寧な御答弁をいただきまして、土地区画整理の持つ意義、必要性、強く感じるところでありますが、私たちの住むこの日野市、遠いいにしえの昔から豊かに水をたたえ、四季折々に変化する自然の営み、それを生み出す母なる大地に人工的に手を加えることは、まさにかわいい我が子の体にメスを入れる、そんな気持ちもいたしますが、戦後の混乱期、ただ食わんがために働き通してまいりました結果が高度の経済成長となり、世界のＧＮＰ第何位と言われるようになり、人は都市へ都市へと集まり、この日野市も御多分に漏れず都市化の波に洗われ、地価の高騰を生み、狂乱地価がまさに諸悪の根源であるかのように言われるようになってまいりました。古くからその土地に住み、かけがえのない大地を耕し生活してまいりました人たちこそが、この最大の被害者でございます。まさにアメリカのインディアンの気持ちもいたしますが、先日、米の自由化反対請願も不採択となり、いよいよ国際化身近に迫ってきたんだなという感じがいたすわけでございます。

現代に生きる私たちは次の世代を考え、おやじは、おじいちゃんはよくやってくれたんだなと言われるような施策を行わなければなりません。ましてや土地区画整理という

難事業に至っては、よほど慎重に、そして地権者の方々の意見を十分に聞き、御協力いただかなければなりません。

行政当局といたしましては職員定数、限られた人材の中、御苦労とは思いますが、日野市百年の計のために、よろしくお願いを申し上げて質問にかえさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○議長（市川資信君）　これをもって10の１、土地区画整理事業の推進と当局の対応問題点の質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって、暫時休憩いたします。

午後３時２分　休憩

午後３時37分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問11の１、昭和64年度予算編成の基本方針を伺うの通告質問者、石坂勝雄君の質問を許します。

〔27番議員　登壇〕

○27番（石坂勝雄君）　議長から許可が出ましたので、通告の質問のタイトルによりまして伺いたいと思います。

私は、あらかじめお断り申し上げておきますが、我が方の福島盛之助君議員のように非常に敬語は使えないんで、ずばりというようなことを申し上げる点もあると思うし、そうかといって、本会議場ですから議会の品位を傷つけるようなこともいたさないように、もし何かありましたら御注意いただければ結構ではなかろうかと、こう思います。

私に、４年に一度ずつ、私が政治を志してきたというのは合併と同時と言ってもいいんですが、私も37年の選挙で、恐らく共産党の米沢議員が共産党で初めて議席をされたときではなかろうかと思うんですが、そのときに私は出まして、自分の努力が足らないで、何というか、落選をいたしました。それで、自後、市政に対しては多少、何というか、関心を持っておりまして、特に森田市長さんが議員に出られたのは昭和41年だと私は記憶しております。それでそのまま、日野というのは議員の前の年には市長選が必ずあると、こういう形になっておるんで、たまたま市長は恐らく７年間議員をやられて、48年に市長の座につかれたと、こういうふうに私は記憶しております。

その中で、私も１年おくれて49年の２月の選挙に私も出まして、そのときが同期の桜の人が非常に多いんですが、10人、いわゆる当選してきました。そういう中で、私、ずっとそれからのことは自分みずからが携わっておって、いわゆる目標は森田市政に対する、我々はどっちかと言えば批判的な立場に立つと、こういう中で議会活動を続けてきて、先輩の、いわゆる御指導もいただいたし、ある場合には市長に何か言いにくいことも申し上げたり、自来、私もいま少したてば２月で満15年を経過します。そういう面でいけば、市長は４月になれば満16年と、こういう長きにわたっての市政の担当だという面では、一面では、私は決して市長の功績を認めないということではございません。

その中にありながら、私も４年の、だからいわゆる改選の前の12月には必ずその後の３月議会に行われる年度の、今年度で言えば64年度の予算についての基本方針を、今までは問うてきたんですが、今度は伺いたいという気持ちの中で、私も今度はタイトルを出しました。

そういう中で、市長も議員でいるときには、いわゆる改選期のときには、骨格予算で、何というか、年間予算は組まない方がいいんではなかろうかということを前任者に申し上げたという経緯があるので、私もお伺いしたことがあったんですが、やっぱり理事者になるとそういことはできないと、やはり年間予算はきちんと組んで、市民の要望を一日たりともないがしろにはいたさないと、こういうことも、私は二度とそういうことが繰り返されるような質問はいたしません。

ただ問題は、私がここできょうの基本方針を伺うという中で、質問の事項にもありますが、非常にこの数年間、予算の60年、61年、62年の一般会計の予算だけを申し上げますと、非常に予算総額は330億台、それから大体330億前後を当初予算で組んできている、こういうことですね。それから大体翌年度に繰り越す、これは必ずしもいろんな税収の伸びということもあるだろうし、一面で見れば、市税収入が使い切れなかったという、仕事のし残しという問題もあるかもしれないが、大体６億から８億、大体平均で６億ぐらいが次年度へ繰り越して、６億ないし８億の間を繰り越していっていると、こういうことなんですね。

それで、一番私が、年々固定資産というのは３年に一遍の見直しが行われて、そして市税収入というのはなかなか、いわゆる日野には働く人というか、いい人がお住みになっているんで、個人の市税収入も着実に伸びております。税法のきついというような問題もあるかもしれませんが、着実に伸びている。

こういう中で、ただ非常に何か不安定な要素を見るというのが法人市民税です。あの

場合には、最高だったときは、私の記憶では45億近い法人市民税もあったかと思えば、いわゆる二十二、三億の法人税も減ってくるということもある。だから、年度で申し上げますと、今年度みたいに法人市民税、個人市民税で20億を超える、20億もふえるときもあると思えば五、六億減額になった年度も、61年度ですか、あると思います。61年ですから、減額、逆に歳入欠陥になった、こういうこともありますね。

ただ非常に、だから、そういう面でいけば、法人市民税というのは私、何というか、とらえ方というのは好、不況という会社のこれによって難しいということもわかります。しかし、ここのところへ来て、内需拡大という中で、国は63年度の一般会計の歳入が当初見込みより３兆円多い、東京都は3,500億歳入超過になるという、そういう点でいけば、私も予算規模からいって、日野のいわゆる法人等が多い中でいけば、決して当初の見積もりというか、算定額が誤りではなかったんではなかろうかと、こういうようなことも認めますけれど、しかし、執行者というのは絶えず甘い歳入の見方をしておる点も今までの経緯の中であったということなんですね。いわゆる何というか、ある年度で見ると、12月へ来てどかっと補正をやってみても、もう何にも仕事ができるわけがないんですね。そういう面でいけば、今年度（63年度）の場合にも９月の補正だったんで、第３回の９月補正だったんで、半分は充当して、半分は基金に繰り込んだと、こういうことは私は全部がよいとは言いませんが、適切な措置ではなかったかと、できもしないことを組んでみたって、繰り延べにいくだけだと、こういうふうに思うんです。

その中で、63年度の予算も、なかなか私は編成の方針に難しいんではなかろうかということで、まず１点として伺いたいのは、総予算額というのは、今年度に比べて、62年度の決算の、何というか、ことし62年度の決算委員会も９月議会でやりましたが、歳入歳出の決算額というのは62年度が329億6,800万3,760円、こういう額が決算額で出たわけですね。この決算額より何％ぐらい上回るのか、さもなければ来年度、私は先ほど指摘したように、いわゆる額としては伸ばしていくけれど、その内訳として新規事業とか、そういう政策的な経費は選挙戦の結果を見てやると、こういう形のことで、どのぐらいの額を置くのか、その辺のところを予算編成上の考え方というのは、企画財政部長がおやりになっていると思うですが、いわゆる予算の大枠の組み方の方針というのは市長がお考えになっているんではなかろうかと、こう思うんで、まだ国の予算、これも今消費税等の参議院で審議している関係上から、まだまだ国の予算も、恐らく17日か、遅くも20日ぐらいに内示が出て、１週間以内で国の予算が決まるのではなかろうかと、こういう見通しになっている。大体東京都の予算というのもそう幾らも変わらないで、遅くも

１月末には決まってくるだろうと、恐らく日野市の予算もそんなに延びないで決まっていくんではなかろうかと、こう思うんで、いわゆる企画財政部では各課のいろんな予算を集計して、前向きの形の中で組まれているんではなかろうかと思うんで、この辺の、第１点が予算の総額と、前年対比、どのぐらいの伸び率があるのか、減があるのか、中身としては何か政策的なものは、こういうものは留保してやる、予備費に充てておくんだと、こういうことが、等をお知らせ願いたいと、こう思います。

それから２番目は市税収入、特にこれは普通、特に私が心配するのは、これはこの辺の１点を先に分けて聞きたいと思うんですが、市長に、今参議院で審議している消費税、これは私なんかも見方によれば自民党政権の中でやっているんで、全部が、私もこの消費税に対して賛意を表しているというわけじゃありませんが、しかし、高齢化社会と、シャウプ勧告以来の税制改革ということで、いわゆる国民の今後の高齢化社会を迎えたり、いろんな施策の中でやむを得んではなかろうかというのが私のとっている立場だけれども、市長はその点で、消費税に対しての国会の、いわゆる通過の見通しですね、法案が成立するかどうか、私は成立するんではなかろうかという観点に立っての質問なんですが、そういう点で市長の消費税に対する見通しですね、どういうふうな見通しをお持ちになっているのかどうか。

それで、この税制というのは参議院の審議中なんで、軽々に物を申すということは、我々末端の市議会議員の段階で、私は口はばったいんで申し上げにくいんですが、ある審議の過程では、この税制を実際には、例えば実施を４月１日でなくて半年間延ばすんだとか、いろんなことがまだ言われているんですね。非常に不特定要素が多いと思うんですが、しかし、この税制改正になった場合に、去る９月議会かなにかで秦議員さんのことに対して市民部長さんがお答えになっているのを聞いて、この辺の対応をしての予算編成を組まれるのかどうなのか、それでまた、いわゆる消費税を導入された場合の変化がどのぐらい及ぼしてくるのか、これを２点目にお聞きしたいと思います。

次は、３点目に、これは私も経常的な経費も当然組まれるのはやむを得んではなかろうか、どういうわけで私もこのごろその点を了解してきているというのは、森田市長が48年に当選されたときは、恐らく前の古谷　栄市長が組まれた予算を１年間おやりになったと、こういうことからいけば、４期やられて16回市長の手で組まれているんだということでいけば、ある程度やむを得んでは――いいとは決して私は申し上げませんけれども、やむを得んではなかろうかというのが通例の考え方だと、こういうふうに了解しているんで、いわゆる福祉重点ということは、これはもう森田市長さんの一枚看板にされ

ているが、これはどこの市でも福祉に重点を置かないなんていう、保守の市長だろうが、革新の市長だろうが、私はないと思っているんですね。ただ問題は、見方によればＰＲの仕方というか、実際に市民に向ける宣伝の仕方というか、言い方に対して、例えばハードな面をとらえる場合と、一般的な考え方でいくということの差だけのものであって、福祉に重点を置かないなんていうことは私はないし、またもっともっと福祉というのは押し進めていかなければならない、特に高齢者社会が来るということはもう目前に迫ってきている、いわゆる火を見るより明らかになっております。

そういう中で問題は、ただ過去にこういう質問もなされたことを私は聞いております。教育予算は、森田市長が、学校、恐らく10校は市長になられてから建てられているんではなかろうか、そういう面でいくと、私も大体議員になってから学校の落成式に、市長と１年――市長は市長という立場で、私は議員という立場で加わってみますと、10校くらいに私も加わっている感じを持っております。そういう中で、しかし、それが人口は沈静化して、トータルでは3,500人ぐらいにもう生徒数が減少してきているということですね。そうなれば、私は決して教育予算を中身を圧縮しろというようなことを、私は決して申し上げているんではございません。いわゆる中身を濃くしても、余るところは余ってくる問題もあるんではなかろうかと、こういうことですね。例えばいつも問題になるのが給食だとか、用務員だとか、こういう問題が出ると、その人に、当たっている人に何か恨みつらみでもあるんではなかろうかと、こう思うんですが、適正に人員を使って、もう充てなきゃならんところへやるのが当然ではなかろうか。私も前の総務部長等のお話を聞いていると、実は市でも前向きの姿勢の中で、例えば議会が非常に職員増を認めない場合には、ほかのところから、ほかのところを押さえて減員して、今区画整理事業を、市長も申し上げていましたが、いわゆる区画整理事業というのも万願寺なり、豊田なり、高幡なり、こういうのをやっているところへ充当していっているんだと、これは私は決して、認めております。

そういう中なんで、問題は効率的な使い方をするためにはどうしたらいいんだという施策というのは、いわゆる役所というのは、ものを始めて、なかなか先が見えていると、いわゆる効果が見えてくるのは半年や１年では見えるものではない、少なくとも私は最低でも何か計画を立てて、実施に移しても何か出てくるというのは３年か４年、そのぐらいたつんじゃなかろうかという点で、いわゆるそういう施策を今お考えになって、年間予算を組まれるには、そういうお考えがあるのかないのか、いわゆるどうもこれは私、言いにくいかもしれないんですが、選挙前だから、なるたけ出すことや景気のいいお話

はなるたけするけれど、耳ざわりの悪いような話はなるたけしたくないというようなことは、いわゆるそういう気持ちでいった場合には、よく言われる行政改革だとか、財政の硬直化を直すかというようなことはなかなかできないんではなかろうか。やっぱり市民にわかりやすいお話をして、真向からこういうことはこうしますよと言って、やっぱり批判も受けるのが当事者であってしかるべきではなかろうかと、こう私は感じているわけですね。

私は、先ほどのお話で、市長も健康であれば云々という、これは私、市長に別にぜひおやりになりなさいとも申し上げないし、おやりにならない方がいいとも申し上げませんが、これはもう全く市長のお考えで、いわゆる支持者の中で人がどう決断されるかという、当然ではなかろうかと思っております。

そういう中で、ぜひそういう点を踏まえての、こういう点を、入るをはかって出ずる、出ていくものを制するんだというお考えがあるとすれば、ひとつ高齢化社会に向かって、こういうものは蓄積していくんだとか、高齢化社会に向かっての――市長も昨年は老人特養ホームを、びっくりするほど我々の方も、いいことなんで、私も検討委員会に加わらせていただいて、メンバーに入って、いわゆる市長の意に沿うような形に同意をいたしました。そういう中で、いわゆる今後のこういう課題が何かあるとすれば、やっぱり少なくとも３月議会の前にきちんとやっぱり私は議会に申し上げて、また議会に言うべきではなかろうかと、こういうふうに思います。何か、目新しいことだけぱっぱっぱっと言って、どうも何か言いにくいことは言わないと、こういうことは市長である限り、私はないと信じますが、そういったことがあったらお示し願いたい、こう思っております。

それから４点目に、これも予算の中で、これはちょっと私の見解が違うか、適切かどうかはわからないんですが、何年に一遍ということではないんですが、一番――私がきょうここに持っているのは、市制要覧というのを、これは市制17年目を迎えたという市長の言葉ですから、昭和55年に出ているんですね、要覧が。その次は、これは1985年ですから、20周年を迎えた、一昨年20周年というんですから58年、私が図らずも議長をやらせていただいたときが20周年だったんです。一昨年と書いてあるから62年に出たものなのか――60年ですね、60年なのかもしれない、1985年というんですから、これの読本を私も拝見しました。それから市制20周年は、いわゆる日野市の歩みということで大体が、市長はもちろん巻頭の言葉を述べられているんですがね、いわゆる写真集なんですね。それで、ごく最近に配られたのが1989年版という、1989年というと恐らく来年ではなか

ろうかと、もっともこれの中をずっと開いてみたら、中の市長の言葉は、いわゆる63年11月としてあるんですが、日野市の「市民読本」、この日野市の「市民読本」はことし市制25周年を記念し、発刊したものであります。市民自治の中に、発展する市の姿と市の行政サービスを紹介するガイドブックです。市民の皆さんの身近な暮らしの便利帳として活用されれば幸いですという市長の、いろんな前のお言葉があるんですが、こういうふうになっております。

ただ私、こういうことを出されるというのは非常にいいことで結構です。この中で、私、少し、私も余り人間的にはひがまない性格なんですが、20周年の市制の歩みのことにちょっと触れてみたいんですが、そのときに市制20周年という、あえて自分のことを言うときは、それを持ってこなかったんですけれども、ときには市長はいろんなことで、市長はもちろんごあいさつをされていて、あとはずっと大体戦前戦後の写真集、それで議会のことは――もちろんだから私も図らずも皆さんに御推薦いただいて、議長をやっているけれど、私の写真の陰すらない。私、これでひがんでこういうことを取り上げたということではないんですが、少なくとも、いわゆる日野市というのは市長が執行権者、我々30名が議決権ということで、早く言えば車の両輪ですね、国で言えば三権分立ということがもうはっきりしている中で、いま少しこの何かことしの――これの古い話は私はさておいても、こういう編集にあたっての配慮が足らないんじゃないのかなあという感じを持っているわけです。ひがみじゃありません。あえて指摘したいという考え方でこの問題を取り上げております、私。

ひとつ、何というか、中で、一貫性がないというような形で言えば、議会のことは本当に――その前にも出ておるんですが、議会のことを本当、ちょっぴり１ページですかな、１ページ、どっちのにも、前のいわゆる1985年の方は議会のいろんな、ちょっと大ざっぱなことが書いてあって、議場は空っぽなんですね。日野の議場というのはここにありますようということだけだったわけですね。今回のはここにあるんですが、何というか、後ろから写真を撮られておって、このことは私は余り好ましいことではないなということを指摘したいわけです。何か、その前のときは全く空っぽ、それから今回のは２人の議員がおりません。しかも我が自由市民会議のメンバーが２人いない。

私はこういうことだから、この問題だけを強く取り上げたということじゃありません。最大のねらいは、こういう「市民読本」とか、「市制の歩み」というのは、少なくともいわゆる市長部局がいろんなことをＰＲしたり、いろんなことを言うのも７割あるなら、少なくとも３分の１は議会活動を取り上げてもしかるべきじゃないかと、さもないとすれば、いわゆる何というか、議会には別にそういう面では私は、後ろに議長も議会事務局長もお聞きになっているんで申し上げたいんですが、日野の議会、私も責任を強く感じているんですが、いわゆる議会がこういう予算を、少なくとも20周年なり25周年なり、こういうときに、節目のときに予算要求をしないのがいけないのかどうか、こういうことも考えるんですが、私はその以前の問題として、これだけのものを、立派なものを市民に配るんであるなら、少なくともこの編集である広報委員会、今、広報課がやっているんで、広報課の監督というのは、恐らく今の所管というのは企画財政部でおやりになっているんですか、と思うが、そういう点の所管が、議長なり、特に議会事務局長と綿密な連携をとってもしかるべきではないんじゃなかろうか、こういうふうに私は考えられるんですね。

その中で、私、今感ずるのは、今までの私、ずっと、先ほども申し上げましたけれども、昭和45年、私が49年に出る前の45年というのが一つの保守政治の、いわゆる48年に市長が誕生したんで、議員としては45年組の人が――我々は49年なんですが、ずっと見てきている中で、議席の倍増されたのは私も、共産党さんなんですね。いわゆる何というか、私が出てきてからだけでも、竹ノ上議員は同期なんですが、いきなり現在は倍増されている。あとは公明党さんは着実に伸ばされてきている。多少じり貧というのが我々保守系と中間派である。こういう中で、良識が、いわゆる良識の人が伸びているんだというので、我々のふだんの努力が足らない、これは甘んじて自分に叱咤激励したいと、こういうふうに感じておるんですが、ただし、私が49年から出てきた以後は、会派は二つなら二つになったことはありますが、大体13名というのは確保してきているんですね。15名いたんですが、その後のときに13名になっているのが変わらないできているんですね。そういう議会の勢力を云々ということではないんだが、やはり絶えず相手方の意見ということも尊重されなきゃならんのが議会制民主主義ではなかろうか、自分のいわゆる何というんですか、やりいい体制だけを考えていくということは議会制民主主義ではない。少なくとも森田市長が――私なんか初めて出てきて、49年の３月議会、先輩の人が市長に質問して、市長の答弁を、今見ると全く何というか、三回りぐらい大物になられたなというような感じを、これは否めない事実です。その反面、何か心の隅に、市長に邁進という言葉は私、申し上げたくないんですが、いわゆるおれがやることは何でもいいんだということがあるとすれば、これはやはり私は考えていただきたい、こういうことを申し上げたい。それというのは、私もたび重なることで申し上げましたんですが、議会制民主主義というのは、特に議会に出してくる予算、それから議会の同意というの

は、条例だとか、それから人事案件、こういうものというのは少なくとも今の私は国と――市で言えば条例というのは国の法律と同じだと思うんですね。ただ、市の条例というのは法律に基づいてつくっていく場合と、市独自でつくる条例の場合があるんですが、特に私は日野市でだけ特につくる条例のような場合には、議会のやはり話し合いというか、コンセンサスが必要ではなかろうか。自分で出してきて、いいか悪いかだけを言う、例えば一つの例でいけば、幼児教育センターの条例が３年間の時限立法であるものが、来年切れるから云々という、それから人事案件で本当に何というか、教育というようなものをつかさどる教育委員の人を、我々に薄氷を踏むような気持ちで賛否をかす、こういうことは私、議会制民主主義であるなら、もっといま少し話し合いということも必要ではなかろうか。国会で必ずしも本会議で、私は初めて最初、知らないうちは本会議、本会議に入って、反対をしている人は本当に反対だと思って、本会議に入っているということは、ある程度多数が通している場合はやむを得んではなかろうかというのがどうも国会のようなんですね。ところが、もう日野なんかの場合は、13対、例えば16とか、こうなれば、おのずから答えが出てくる。しかし、恐らく良識ある党の方も、私は自共だけの対決ということは好ましい姿ではないんではなかろうか、こういうことを率直に申し上げたいわけですね。その前にもっともっと、いわゆる議会運営委員会もあれば代表者会議もあるんで、そういう場で話し合う必要があるんではなかろうか、こういうふうに私は感じるわけですね。

どうですか、そういうことで、市長、何か、いやあ、おれはもう16年間やってきた経験の中で、全く見直す必要はないんだと、こうおっしゃられるのか。私はこの点に対しては前にも指摘したことがあるんですが、こういう契機を通して、少なくともやっぱり何というか、特に人事案件のうちに、教育委員なんかの場合は、私は考えてもらいたい、そういうことを踏まえてのお答えをしていただきたいと思っております。

それから、ずっと先に、後でお答え願うんで、余り再質問はしないから、私の言うことだけ先に申し上げるんですが、いろんな――きのうも我が会派の格調高い谷議員の、いわゆるこどものしつけの問題、こういう問題、それから公共用地の取得の問題、高幡のいわゆる区画整理内に、こういう取得の問題、私もずっといろんなことを聞いてまいりました。その中で私も――これはお答えがなければ、私は決して、あえて答えをしてもらいたいということではないんですが――非常に、一つ取り上げれば、いわゆる市立病院の、今、市立病院等検討委員会、特別委員会で検討しているんですが、中間報告を委員長もされたんですが、きょうの新聞、読売新聞を見ますと、大型病院半数を超すと

いう厚生省のまとめということの記事も載っております。これも私、けさ出がけに読んでまいりました。あえて内容は申しません。

それから、この付近を取り巻く、いわゆる交通事情、また今後の交通の変化ですね、一つ挙げれば、立川からモノレールが10年の歳月の後に、恐らくモノレールが通るんではなかろうか、こういうことで立川から多摩センターにかかる道路網、交通網というのは飛躍的な改善がされるんではなかろうか。もちろん立日橋の開通、そのころには第二関戸橋の開通というものも恐らく10年後にはなると思うんですね。そういう中で私は、病院の受け入れ、特に公立病院を直すんだということで、特別委員会でも、もういわゆる中間答申は出ているんですが、いわゆる民間の病院の受け入れ体制ですね、この問題に対して、私は決して高幡地区に医療施設が充実していくということに全く異存はない。ただ、ただしかし、無条件で異存がないということでなくて、これも降ってわいたようなやり方でなくて、熟慮してもらいたい、こういうことを、来年度予算をどうしますかという中で私は申し上げておきたいと思います。

よく米沢議員が厚生委員長で、地域医療のベッド数の問題、衛生局、いろいろ都に働きかけている問題、これは非常に可とするんですが、私は私なりに多少いろんなことを考えて、その筋からもいろんなことを聞いております。私の根本の考え方というのは、いわゆる市民、よく言うんですが、国家、国民のためならどうなるんだということを言う人があるように、我々、市というのは市民、いわゆる行政というのは絶えず市民の上に立つと、こういうことであって、市民の上に立つということは、必ずしも無条件でどこへ病院を受け入れるということだけがいいのかどうかということを、やはりこれも一番いいことだと思うけれど、ほかの、いわゆる森田市長が考えている、例えば方向は直球を投げ込むということだけだとすれば、私の考えていることは、例えば迂回して行っても入れば、カーブを投げていってもいくんだという方法もあるわけですね。そういう数点のものを議論して決めていくことが政治ではなかろうかと、私はそういうふうに感じているんですね。

そういう点では、何かこの市長の、何というか、先ほども申し上げた、自身のことがそういうふうにさせてきているのかしらんけれど、私が考えたことは全く問答無用だというふうに近い考えが出てきて、私も心配でならないわけですね。されど、これを知らしめるというのは我々議員なんですね。市長もいわゆる広報を通してＰＲするかもしらんけれども、我々もこういうことの論議を、いわゆる市民にＰＲする、市民に問うのは我々議会人の責任だと私は思うんですね。

私、ここにも出ていますが、羽村にも公的な病院をつくろうという問題、それから特に我々市民、旧浅川の南側に関係あるのは三井の記念病院を移転することに、東京都はこういう構想が出たときに、地域医療圏のベッド数の問題で、恐らく相ならんと、こういうことを言ったそうです。しかし、私はこういうところで何か、だれだれの断だというとなると的確性を欠きますので申し上げませんが、あるところの市長さんは、いわゆる市民のためなら、医師会にはまげて協力してもらっても、いわゆるこういう問題を東京都に対して説き伏せても三井の記念病院をつくることに全力を尽くすと、しかし、この三井の記念病院というものを、用地を決して無償提供するとかなにかするんじゃないと、ちゃんと所定の価格で買ってもらうんだと、きょうの新聞に出ている、これをちょっと読み上げたいと思うんですが、多摩市の医療を推進する会、加藤重昭さんという人が代表で13日、社会福祉法人、三井記念病院、千代田区神田泉町の多摩ニュータウンへの移転の促進を求める陳情を３万3,000人の署名をつけて都議会へ提出したと。私は、先ほども米沢議員がおっしゃられたように、私は事を起こすというのはやはり最終的には議会人、もちろん市長が先頭に立つということも、これは重要です。しかし、議会、そして、その市民が一体になってやって行動を起こしたときに、そんなに東京都にしてもどこにしても無視するということはできないんではなかろうか。ただし、従前の話し合いですね、ベッド数がきちっと決まらないうちに、こういうことですよということは、これは言う必要は十分あると思いますが、こういう点を踏まえて、いわゆる非常にこの地帯が移り変わっていく、特に多摩ニュータウンを控えて、この隣接する日野市というのは、一説によると三多摩を県にしようじゃないかとか、三多摩のいわゆる何というか、もとの我々のこの辺は南多摩というんですが、南多摩を一つの政令都市にしようじゃないかとか、いろんな大きな構想が、私は決してそんなまだ頭もないから、それに云々ということじゃないが、ある程度の広域行政ということはやらざるを得ないし、やる時代が来ると思うんですね。そういう中で、余りにも自分の、いわゆる何かことのみに走って、ぽんとやる、花火をあげたりなにかしないで、私は十分時間をかけて――我々は決して反対、だめだとか――用地確保というのは大賛成ですよと言っているわけですね。しかし、使用の目的とか、受け入れ体制だとか、どうだということに対しては時間をかけてゆっくりやるべきではなかろうかと、こういうことを、これは別に何かお答えがあればしていただきたいと思います。

以上です。ひとつお願いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　石坂勝雄君の質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　新年度予算、64年度の予算編成に基づいての質問事項でございますので、私の方から答えさせていただきますが、まず１点目の関係でございます。既に市の方針を決めまして、64年度の予算編成の方針として11月４日付をもちまして、各部局の説明等を終わった経過があるわけでございます。

一つは、その予算編成にあたって、予算編成と財政環境というような問題の中での国の予算編成と自治体財政の受ける影響と、現行の国際的な経済動向等をうたったものでございます。また、国の64年度の概算要求の状況等も含んだ内容等を記したものでございます。もちろんそれに関連しての国の動向の中では、現在議員さんからもお話がありましたとおり、税制改正の問題、あるいは国庫補助金の負担率の今日にきている現行の引き下げの問題、これは復元問題も含んで運動は展開しているわけでございますが、11月14日時点におきましては、一応国の関係ではこういう影響があるというような一定の方向づけをしたわけでございます。

もう一つは、２点目として、当然こういう環境の中での当市が受ける財政の環境ということでございます。確かに歳入関係では63年度の各企業の業績の回復、そういったものの回復はあったわけでございますが、なお一層慎重、あるいは国庫支出金の引き下げ等の問題を十分精査した中での予算の要求を求めたわけでございます。

そういう中で、大きな問題としては基本計画の中でも示しておりますが、都市整備基盤の問題、高齢化あるいは情報化への対応というような事業の山積されているような状況等を本市の状況として記しました。

内容的には国の関係、市の関係、また３点目としては、この予算編成にあたっての施策の考え方として、これはもう基本的に申すまでもございませんが、日野市の基本計画をもとに、適切な各部局の予算化を図るというのがもう大綱でございます。そういう一つの64年度の予算編成方針を起立いたしまして、現在作業中でございます。

特に予算編成につきましては、現行の状況といたしまして、各課の経費別に提出を求めているところでございます。やり方としては３回に分離して、Ａ経費、Ｂ経費、あるいは新規というような形の中ですべての提出が11月の９日に、現在各部から財政の方に出たところでございます。よって、そういう中での精査はまだ十分できておりませんが、当然その中には一連の税制改革及び国庫の支出金の復元の問題等を含んだ問題があるわけでございます。

よって、こういう中での御質問の１点目の中で、自治体の64年度の予算の方向づけはどうあるべきか、どうすべきかということで、総額の概算はという御質問について、本

当の概算でございます。そういった前段の中での動向等を踏まえた中での私の方の算出でございますので、その点を十分御理解いただきまして、現時点の概算としての一般会計予算の総額としては約345億から350億、そういう一般会計予算ができるだろうということでございます。これを前年度当初対比で申し上げますと、前年度ということ、63年度当初ということでございますので、パーセント的には９％から10％、11％ぐらいというふうに私の方は見込んでおります。もちろんこの中には、質問の中にありました９月議会に御承認をいただきました20億9,800万というような大きな数字が本年度あるわけでございます。できれば64年度の当初予算、一般会計におきましては計数的には10％台に乗せていきたいというのが私の方の現状の考え方でございます。

なお、それに関連いたしまして、当然繰越金の問題の御質問でございます。例年ですと６億から８億というふうに議員さんから御指摘がありました。この問題につきましても、各当然予算執行、あるいは節約等も含んで、今年度相当、７億ぐらいの財源は出るだろうというふうに想定しております。ただ、現行の行政報告の中にもいたしましたが、執行状況の率等を勘案した中では、あくまでも見込みで私は今お答えしているわけでございます。

なお、64年度の予算編成にあたっての予備費と申し上げましょうか、その問題については後ほど市長の方からお答えしていただきます。

なお２点目の市税関係でございますが、これは市民部の方から計数だけいただいておりますので、その数字だけについて申し上げます。もし消費税等がという、税制改正がなされた場合に考えた場合には、25億程度の、当然現行から五、六億程度のマイナスになるだろうというふうに現在見込んでおります。

なお３点目の、当然この消費税の見込みを今数字で申し上げましたが、64年度の予算編成にあたっては、今後の動向等を十分見きわめませんと新年度の歳入と歳出の予算編成には至らないというふうに考えています。これからの動向を見きわめた中で対応していきたいというふうに思っております。

なお３点目の質問でございますが、３点目につきましては、当然高齢者社会への対応、そういった中での基本的な考え方としては、64年度は基本計画を中心とした事業を進めていくというのが基本でございます。そういう組み立ての中で、これから作業をし、１月にかけての整理をしていきたいというふうに現状考えております。

なお４点目でございます。市民読本でございますが、今議員さんからも御指摘をいただきました。確かに編集の配慮等の問題、また議会の内容等につきましての御質問でご

ざいます。御承知のとおり、便利帳あるいは市政要覧にかわって59年度に市民読本として１回目を発刊しております。ことしを２回目として89年版として出したわけでございます。その中での内容等につきましても誤りも多少、誤りが二、三カ所ございます。これについてもあしたの広報の中で訂正をさせていただくということが１点。また先ほど指摘の中でのいろんな議場の関係の配慮の問題、あるいは内容の問題、私の方も所定の手続を口頭では申し上げましたが、今後十分気をつけまして、そういった写真等の掲載等につきましては文書をもって議会に申し入れをし、対応していく所存でございます。十分この内容等につきましては議会と相談の上、対処していきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　御質問の64年度の予算編成についての基本的考え方ということで御質問をいただいたわけでありまして、私の方から初めに、その姿勢と大枠についてお答えをすべきだったというふうに感じております。一々私の得心のできる御指摘をいただきまして、市政の責任の衝に立つものとして、議会のいろいろな意見、立場を尊重することはもちろんでありますし、欠ける点も多々あったかと多いに反省もし、またより一層謙虚に務めをしなければならないということを痛感をしておる次第でございます。

予算編成の考え方といたしましては、年度丸予算を組むという考え方でございます。それから、ありがたいことに基本構想に基づく総合的基本計画も一応できておりますので、その基本計画に沿って積極、果敢に事業の執行ができる、そういう予算をつくりたい、こういう考えでございます。ただし、来年度は市長選挙の年でもございますので、新しく就任をされる、そのことも十分配慮をして、少なくも３億円以上の予備費を留保しておきたいと、こう考えております。

今、担当部長もお答えいたしましたが、来年度の予算編成に臨みましては、特に国会で審議中の消費税の問題、それから先ほど御質問のありました政府の本来支出されるべき予算が復元できるかどうかということも、まだ未定であります。ただし、市税収入そのものは過去３年間、低迷期間をくぐり抜けて、ようやく税収の伸びが見通せる、そういう状況になったという背景がございますので、この時期にこそ、特に都市基盤の整備、これらに対します執行能力の最大限に必要な予算計上をいたしたい、こう考えております。

また、高齢化社会の到来が当然のことでございますので、お願いをいたしております特養老人ホームの計画でありますとか、またその次に市営住宅の今の第２期と申しましょうか、そういう計画も想定の中において将来の、今日果たしておくべき準備も具体化していきたいと、このような考えを持っております。

教育関係は、確かに児童生徒の減少ということで、かなりゆとりができてまいるわけでございますので、なお内容の充実と、それからやりかけておる事業の完成を図っていこうと、こういう内容が伴うと思っております。

御指摘のとおり、「入るをはかり、出ずるを制する」という本来の会計業務の理念に立ちまして、積極、果敢という精神で取り組もうということでございます。

なお、いろいろな行政改革ということも一方にあるわけでございますし、定員数の管理、あるいは事務事業の委託化、これらのことにも当然進んでいかなければならない大きな課題を持っておることは事実でございます。

税のことは今申し上げたとおりでありますが、例えば使用料等でありますとか、それらに類する課題といたしましてはグラウンドの使用料でありますとか、あるいはテニスコートの使用料、これらは使用料として一定の負担をしてもらう、受益者負担という立場の考え方を実施していきたいと、こう思っておるところでございます。

見直しは、今までもう既に取りついておるものもありますわけですが、なお行政改革という観点から「入るをはかって出ずるを制す」、そういう基本的な考え方に立ちまして取り組むことは申すまでもございません。議会でかつて御質問もありましたわけですが、今、京浜工事事務所等と河川の直接国の管理する部分、あるいは流域ということで日野市の取り組むべき、そういうことがだんだんと進行してまいりますし、今、手を打つべきことの一つとしては市民プールの駒形公園を含めた改造計画ということに検討をほどこしておくべきことだと、このことも新しい事業として展望を図っておきたい、こういう考えがございます。

個々には言い尽くせない部分もあるわけでございますけれど、特に御指摘の点につきましては十分反省をいたしまして、そうしてコンセンサスを図れ、あるいは人事についてより合意をとれと、こういうことにつきましてはおっしゃるとおりでございますので、謙虚にこれからも御指導いただきたい、こう考えております。

これから財政運営にあたりまして一番大きく課題になりますのは、やはり国有地の取得、あるいは鉄道用地の取得、これらのことがありますので、話がつき次第、それらも将来に向けて確実に確保できると、こういう手順を図りたいと思っております。

なお、諸事業をなるべく十分情報として事前の了承をいただく、そういった手順が確かに欠けておることは反省をしなければならない、こういうこともございますので、何分とも積極的に御指導をいただきながら市民要望にこたえていきたい、これが私の果たすべき任務だと、このようにも考えておるところでございます。

不十分かもしれませんが、誠心誠意任期を全うするということを大前提として取り組んでいきたいと、こういう気持ちでございます。

消費税は今、国会で審議中でございますが、基本的には自治体財政に非常に大きい影響をもたらす、市民生活にまた多くの負担をもたらす、こういう意味では賛成できないという気持ちはございますけれど、国会で決まることでありますならば、これも対応しなきゃなりません。しかし、当初予算には、現在のところではまだそういう要素の指導もございませんので、消費税の問題はこれからの課題として、年度間の予算編成にあたっていきたいと、こういうことであります。

なお、東京都下の市は不交付団体が多いわけでありまして、いわゆる税収面にあらわれる減収、これに対しまして補てんをされるという保障は全くないようであります。しかし、それでは大変打撃が大きいわけでありますから、同じ立場の諸団体と一層協議を開き、また運動も展開をしていかなければならないことがあると、このようにも思います。国保会計も同様であります。

それから、竹下総理が近ごろ「ふるさと創生」ということで、各全自治体に１億円を配当されるというううわさもありますが、不交付団体には、それは来ないということだそうですから、これも全く何といいますか、おいしいにおいが鼻の前を通ったというようなことではなかろうかと思っております。

財政の税収の減るということはもう基本的な大きな課題でございますので、これからもっと勉強もし、積極的にお願いをしてまいると、こういうことが大切だと思っております。

○議長（市川資信君）　石坂勝雄君。

○27番（石坂勝雄君）　何か非常に丁寧な御答弁でかなり時間を食ったので、私もとうに１時間ぐらいでやめたいというのが私の当初からの考え方だったんですが、数点要望と、私が今まで聞いてきた一般質問の中で、私、反論ではないが、やはり何というか、自由市民会議としてこういう考えで石坂はいるということを申し上げて、要望して、私の質問を終わらせていただきたい。

一つは、保育園の全面条例改正というのは、恐らく委任事務が団体委任になるという

形の中での条例改正ではなかろうかと思うんで、その中で私はだんだん国というのは、いわゆる地方自治体の権能でやれるところはいろんなことを移してくるという考え方、これは是とするいき方と、国保の問題もそうなんですが、いわゆるそれがいいという、悪いという、一面では、いわゆる地方の権能を強くしてくれという要望とともに、そこには責任を果たしなさいよという問題もある、こういう私は論点に立ってのことなので、私、厚生委員会にいるんで、その問題等は厚生委員会等でお話をしたいと、こう思うんですが、ただ言えるのは、過日に言われたこと、前にずっと質問したときに、ある議員に言われたことがあるんですが、私は今、私学助成を充実、いわゆる私立の幼稚園から大学まで、私学助成を充実していくというのは自民等から始まって共産党まで全く同じです。さっき言ったように、直球で投げるか、カーブでいくかということに対しては多少違うかもしれませんがね。ただ問題は、私はいわゆる１人の、一つの例えば学校と言った方がいいかもしれんが、何かあったから私学助成を削ってくるという、こういうことは全く相ならんというようなことが、この間の議論、私も大会へ行きまして、そのときに議会を実は中座をしたんですが、行って、いろいろ感じております。

そういう中で、今言うとおり、日野でも少なくとも消費税等を導入すると、ある階層の、いわゆる逆進的な税負担になるということが流布されております。そういう中でいけば私は声を大にして、保育園に行く園児も幼稚園にいく園児も、私は市の責任においてなるたけ、よく言う弱者と称される人であるとするなら、等しく父母負担というのは軽減を図るべきではなかろうかと、そういう点で特に私は――日野では公立の幼稚園を持っておる、全くそれは保育園に対しては、私立の保育園にもある程度のいろんな手は差し伸べているかもしらんけれど、ただ、しかし人員配置とか内容に対しては、やはり公立より劣るようなことがあってはならんわけなんですね。そういう点では、今の私学というのは、恐らく教育長にもお答えはいただかないで、私は要望ですから、申し上げていますが、今非常に私立の中学なり高校なり大学というのは、全部とは私は言いませんが、非常に、何かいわゆる生徒、学生が、目先に、何年か先に減ってくるのがわかっていて、内容の充実に全力を挙げているわけですね。こういう点では、私はまだ上の方はいいけど、まだ良とする問題があります。私学振興というものができておって、かなり手厚いものがこれからされなきゃならんし、すべきだということが、この間の大会の様相だったわけです。

そういう中で市長は今まで幼稚園に対しての――私は園に対する助成は余り、何というか、求めない、いわゆる直接の父母に対して助成をして、少なくとも全く公立と、入

園金を払おうと保育料を払おうと、全く同じだと、こういう形にもっていくことがもう急務ではなく当然ではなかろうかと、きょう私はだめを押したい、こういう強い要望をお願いしている、そういう中で、いわゆる先ほどの幼保一元化という中で、幼児教育センターの問題、私は、あるこれも議員の人が幼児教育センターのいろんな取りまとめの、すばらしいものだと、私もこれも決して褒めもしませんが、良とします。しかし一面、やらなきゃならん問題がまだ山積しているわけですね。こういう中で、どう進めていくかということを強く要望しておきたいと思います。

それからいま一つ、いわゆる道路管理、ハードの面というか、日野は今区画整理が非常に花盛りだけれども、区画整理をどうやっても行えないという地帯の道路が狭いところがあるわけですね。こういう道路の、例えば一つの例を挙げれば、水路の、今乗用車が2,000ＣＣぐらいの乗用車が交換もできないと、こういう道路ではもう――だから、片方のＵ字溝へふたをするとか、片方の川の方へ、川というのは非常に何というか、はんらんするような川でないとなれば、もう当然ふたをしなけりゃならんじゃなかろうか、何よりも優先してですね、そういう形のことを、こういうことはもう積極的に議員が要望するとか、要望しないとかの問題じゃない、やはり年次計画でもってきちっとやっていくということを、これも強く要望しておきます。

それからいま一つは、よく民間活力の導入ということが叫ばれております。それから、これは党によっての考え方が違う、私は委託制度を引いたから、民間の施設を借りたから何か質が低下する、こういうことはこれからの日本という――あえて申し上げます。共産党さんの考え方にも、日本みたいな自由社会ですね、自由社会にいる共産党の考え方というのは、私は少なくともこの自由社会を是としての中の、いわゆる体制内をもっとよくしなさいと、こういう意見でなければ建設的な意見ではないということを私はあえて指摘したいわけですね。

こういう中で、民間の活力と、駅周辺のこういう民間の施設が借りるべきものがあるんなら、貸してくれるものがあるんなら、どんどん利用すべきだと、こういうことを私はこれも強く要望をしておきます。

それから、先ほどの前かその前のときにもあったんですが、一つは、いわゆる天皇制の問題の云々というお話もありました。それからうちの方の議員だったんですが、府中の云々という、私は府中の方から来た、府中は確かに不労所得というか、いわゆるギャンブル収入というか、そういう不労所得的なものが全くあります、府中だかとか青梅は。しかし、歳入的ないわゆる例えば使用料だとか、そういう手数料だとかというものは、

決してよその市より少なくとっているというわけじゃないんですね。蓄えるところは蓄える、市で、責任の支出するところはきちんと、とるものはとっていると、こういう姿を私はみならっております。私が言うのは、「入るをはかって出ずるを制する」というのは、ただ単にけちんぼにやれということを言っているんじゃない、そういう中で英断をもって、やっぱり入ってくることもはかるべきだろうかなと思うんです。当然これから節約していかなきゃならんということは、当然節約すべきだということを強く要望しておきます。

それから天王星の問題なんですが、私、過日の――たまたま私、遺族会長をしているんで、確かに10月のこの間の慰霊祭にしても、日野というのは、私、これは決して森田市長だけが偉いということじゃないんですが、歴代のいわゆる市長なり、歴代の遺族会長が、そういうことを市長を非常にタイアップしてきたということがいいんではなかろうかと思うんですが、議員団が、ほとんどの議員が出席するという慰霊祭もありません。私は多摩なり町田なり八王子も行っております。そういう中で、いわゆる宗教的色彩を抜いて、市が行われるならば、私、死んだ人に何かを言ったりすべきではないんじゃないかということで、そういう点では、私は字が下手だから、うつものでうって、なかなか毛筆で書くなんてことはしないような簡便ないき方をことしからとりました。

そういう中で、きちっと、いわゆる市の理事者は非常に何というか、こういうことをずっと継続してありがたいということを申し上げたけれども、天皇制の問題に対しても宗教と同じだとは言いませんが、私は別によその、いわゆる靖国神社だって、別に殊さらに深く頭を下げろとか、伊勢の皇大神宮だから殊さらに頭を深く下げろとか、明治神宮だから云々だということじゃありません。やはりその個人が、信仰というのは自由ではなかろうか、言論に対しても自由ではなかろうか、こういう中で、竹ノ上議員としての天皇に対する考え方は、これはもうそれは傾聴に値しますがね、私は、いわゆるこういう日野の本会議場で堂々とああいうことをぶたれたことに対しては、何かしら自分に考えさせられることができてきたということを、我が会派としてはああいうことはしない方がいいんではなかろうかということを、断定はしません、そういうことをここで申し上げておきます。

そういうことで時間が大分、私の持ち時間はまだあるんですが、これで私の質問を終わりたいと思うんですが、どうか私は、こういう議場というのは理事者と我々議員の堂々と論戦の場だと思うんですね。各議員としても、別に関連質問はできなくても、ほかの場で、私が言ったことに対して悪いなら、またほかの場で堂々とやるべきだというのが

私の考え方です。いわゆる私は人の言論に対しても尊重をしますが、私の言論に対しても尊重してもらいたいということを申し上げて、この質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（市川資信君）　これをもって11の１、昭和64年度予算編成の基本方針を伺うの質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により、あらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって、会議時間を延長することに決しました。

一般質問12の１、豊田南区画整理事業の進捗状況について問う（住民意思を尊重するルールづくりはできないか）の通告質問者、山口達夫君の質問を許します。

〔５番議員　登壇〕

○５番（山口達夫君）　議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして質問をさせていただきます。

豊田南区画整理事業の進捗状況について問うと題しまして、何点か質問をさせていただきます。

最近、都道の高幡橋から平山橋に抜ける道路をお通りの方は気づいておられると思いますが、一番橋の西側に１・３・１道路予定地のところを借り上げまして、区画整理のための仮道がつくられ始めました。いよいよ始まったんだなという実感を強くしている市民が多いわけです。

平山橋から一番橋まで、そして中央線から浅川に至るまでの87ヘクタール、豊田南土地区画整理事業はかつてないＪＲ豊田の駅の至近にあるというような中で、大変多くの住宅地の中を区画整理するということで、当局の理事者の皆様方の御苦労はいかばかりかと思うわけですが、その中で、道路ができてきますと、市民の皆様方が、いやもうどこまでいくのかな、もうそろそろ仮換地指定も近づいたのかな、田んぼが埋められる時期はどうなんだろうなというような声が聞こえてくるわけであります。

そのような背景を前提にしましてお聞きするわけですが、61年の８月の25日の公告のこの事業計画書にのっとりまして、まず街区測量、そして、その後各筆の基準面積を定め、そして、それに対する評価をする、そして、その後は仮換地の計画に入っていくんだと思うわけですが、今までお聞きしておりましたところでは、仮換地の決定が明年、

64年の10月ごろではないかというお話でございました。今、この時点で、この時期がずれるやにもお聞きしているわけでありますが、もしずれるといたしますと、どの程度までずれるのか、そして、そのずれるという理由はどこにあるのか、それを第１点としてお聞きいたします。

また、この１・３・１の道路のところに、借り上げまして仮道をつくっているわけでありますが、すぐ北側が日野の二小にあたっておりますので、いろいろなことが心配になるわけであります。例えば通学路との関係は、児童の通学の際の安全を含めて、どう配慮される予定なのか。またその浅川べりにグラウンドがございます。通常道路のこのグラウンドの使用と、仮道との関係はどうなるのだろうかな。そしてまた、土を運搬、搬入して、この仮道をつくっていくわけでありますが、万願寺の例で見られますように、これは今見ますと関東ローム層のようですので、大変ほこりがたつのではないかなと予測がされるわけですが、この辺のところについては近隣の住宅街とどういうような――に対する影響をどのように考えておられるか。また仮道を砂利道としたままなのか、それとも舗装にまでしていく予定なのか、その辺のところを幾つか気になるところがございます。周辺住民の心配に対して、理事者からの御説明が得られればありがたいわけです。

そして次に、この関東ローム層をどこから運んでまいりますのか、その辺のところに関連してですけれども、この議会の場でもたびたび質問が出るわけですが、２・２・５号線がまだ開通、一番橋までされておりません。幾つか買収がスムーズにいかないところがあるやにも聞いていたわけですが、現状はどのようになっておりますでしょうか、見込みはどうなのか。区画整理がそろそろ始まろうというときに、一方で買収でやる２・２・５号線がスムーズでないとしますと、行政の統一的な面からかなり住民もまた不満に思う面が出るのではないかな、そんな気がいたすものですから、これについても御説明をいただきたいと思います。

そして、区画整理のまちづくりというのは、先ほど福島盛之助議員からも一般質問がございました中でお話がありましたが、今日野市においては、この区画整理によってまちづくりを進めていくということについて、おおよその市民の御理解もいただき、また賛成も得ていると思います。豊田においても全くしかりでございます。私も、この区画整理が事業決定になった上、１日も早い完成を目指すことが大半の市民の願いではないかと思っているわけであります。

ところが、事業が次第に進むに従いまして、具体的な姿が見えてきますと、いろいろ

な問題が気にかかってくるのではないでしょうか。考えてみますと、遠いところまでも豊田の駅から歩いて十二、三分で着くような大変便利な地域なわけであります。そのため、駅前などは地価が幾らしているかわかりませんけれども、かなりの高額であると聞いているわけであります。そうしますと、この地域に区画整理をしますと、当然減歩ということで、この高価な土地が公の公共減歩、あるいはその他の目的の減歩で減っていくわけですので、そしてまた、自分の家が移動していくということで、かなり心理的にいろいろな葛藤も生じてきているのではないかと思うわけです。

そうなりますと、今まで日野市で行ってまいりました、あるいは組合施行で行ってきました区画整理と比べますと、かなり状況の変化が起こっているのではないかな、そんなふうに感じるわけであります。今までは区画整理法によります土地の面積を過少宅地、余り小さな面積の宅地をつくりますと、そもそも区画整理をした目的に外れてくる、30坪、20坪というような土地になりますと、まちづくりの面では良好なまちとは言えないということで、一定の面積以下は減歩をしないということをとってきたわけであります。その中で、このような状況を迎えてきますと、今までのやり方をそのままに踏襲することが果たしていいのかどうか、この辺について何か角度を変えて考えてみる工夫が必要なのではないかなと、こんな感じがいたしているわけでありますが、どのようなお考えをお持ちかお聞かせを願いたいと思います。

私はきょう、自宅のポストに、あるビラが入っておりました。お聞き及びの方も多いわけですけれども、この豊田南区画整理では、ある地域については、一切そこに手を触れずに減歩もないという理事者側の考え方が示されております。他方、他の地区はすべて場所も変わり、減歩も一定限度の面積のものについては当然あるんだということの中で、公平感が損なわれているという指摘がなされております。

きょうのビラによりますと、このようなビラでございます。「住民に何一つ相談なく、突然四大新聞に、豊田南口駅前４ブロックに再開発ビルを建てると大々的に（59年の８月２日だそうですが）発表し、多くの地権者の怒りを買ったことは記憶に新しいところであります。これは住民の強力な運動の結果、白紙撤回となりました。今また新たに駅ビル構想が既に具体化の段階に入っているとの有力筋の情報があり、当会としても情報収集に全力を挙げています」と、これは「公平な区画整理を推進する会」という名前でビラが出ているわけであります。私もこれは初耳でございますが、今議会におきまして、今までさつまそばというんでしょうかね、多摩平のあの駅頭のところにございました住宅公団の土地が、日野市の旭が丘の千代田自動車の跡地との関係で日野市のものになる

という、そういう方向で進んでいることをお伺いしたわけですが、現実にあの地域へ行っておりますと、何というんでしょうね、鋼板というんですかね、鋼板でもって区切られまして、もう既にさつまそばは営業ができないようにできているわけであります。地元の商店街の人たちも、一体ここはどうなるのかなということを大変興味深く、また心配もしているわけでありますが、これだけの立派なすばらしい土地を、市としてはどのように活用される予定でございますか。私はできますならば、今ちょうど豊田の南にまちづくりを新しく展開しようとするとき、これと関連させて、この土地を使うことはできないだろうかな、こんなことも感ずるわけであります。

多摩平ができましたのが昭和32年からでございますが、もう当時、私も子供のころでございましたが、大変周りの住んでおります私の自宅などと比べますと、文化度といい、そのまちのきれいさといい、これは別天地に行ったような気持ちがいたしました。当時広いと思いました北口の大通りの道も、そして駅前のロータリーも、しかしそれから30年たちますと、今はもう少し狭いかなと感ずるほどに時代は変わってまいりました。

そこで、いよいよ南口が開発されるにあたって、この北口の問題も含めて、南、北をあわせて長期的な視野から展望を図るということが大切ではないかなと、かように考えます。どうぞその辺のところについてのお考えがございましたらお聞かせいただきたいと思います。

そして、このようなビラが入るということは、実は私は住民に、今まちがどの方向に行こうとしているのかなということが示される機会が意外に少ないんではないかな、住民はもっともっと多くの情報の提供を望んでいるのではないかな、こんなふうに感ずるわけであります。

豊田南の区画整理の中でのそのある団体と、そして滅歩がないという地域とのいがみ合いといいますか、精神的なあつれきといいますか、それはかなり高まっているように思います。私はこういう問題をどのように解決したらいいかについては、まさに市長初め皆様方、御苦労なさっていると思いますけれども、一方的に団体と市と、あるいは地域と市とやっているだけでは本当の解決はできないんではないか、やはり利害相反する方々も含めて、一つのテーブルに乗せるルールが必要なんではないだろうか、そうすることの中で、直接民主制になぞらえた、ある意味で地方自治というのは最小の自治単位でございますので、この中で民主主義の発言をできるだけ図るということは、かねがね市長も同じような御意見だろうと思いますが、ぜひそういう意味で直接にビジョンを語れる場、市民とともに職員が語れる場を設けることによって、私の利益からだけする議

論ではなく、そこに公の立場からの理解もし、議論もできるような、そんな住民と市との一致したテーブルが必要なんではないだろうか、それへ向けてのルールづくりが今後、この高騰した土地の中での区画整理を図っていく上に大事なんではないかな、私はそんな感じがいたしているわけであります。

そこで、今現在、この問題に対して市としてどのような対応をし、今後どのようになさるおつもりなのか、その辺についてもお聞かせを願いたいと思います。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　山口達夫君の質問に対しての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　まず、第１点目の仮換地発表の時期でございます。当初の計画では仮換地の発表を64年の10月ごろというところにめどを置きまして、作業を進めてまいったわけでございます。

区画整理の換地設計を行う上で一番大事なことは、各権利者の土地の面積の確定でございます。いわゆる基準面積の確定をすることが換地作業のもとになるわけでございます。この基準面積につきましては、事業が始まる以前に地籍の訂正を法務局の方にしたもの、それから事業認可をとりまして、その後にいわゆる事業者、市の方にこの基準面積の変更の届けを出していただくわけでございます。これは、今前段に申し上げました法務局に出す地籍訂正と全く同じような手続をとるものでございます。民地でありますと、周辺の権利者の同意でありますとか、あるいは公共用地がありますと公共用地の確定をして、その面積を決めていくということでございます。この基準面積の確定の作業がかなり件数としてたくさん出てまいりまして、時間を費やしたということでございます。

現在考えておりますところの仮換地の発表の時期といたしましては、64年度の後半、いわゆる65年の２月ないし３月になるのではないか、そのように今考えているところでございます。

それから、２点目は工事用の仮道路の件でございます。これは一番橋通りから第二小学校の前を西側に建設をしようというものでございます。築造にあたりましては周辺の住民の方、あるいは学校にも事業説明をいたしまして、行う予定でございます。

この道路の土の搬入をする際には、監視員等もつけまして安全対策は十分とる予定でございます。

この道路の舗装でございますけれども、工事用の車両の通行に耐えられる程度の舗装をする予定でございます。

この道路の完成後の使用形態でございますけれども、これはあくまでも工事用の通路でございますので、工事に使わないときは車どめをいたしまして、一般の交通には供さない予定でございます。

さらに、この道路を使って来年度、一部道路の工事に入るわけでございますけれども、そういったときには監視員等もつけまして、安全対策につきましては十分配慮をする予定でございます。

それから、３点目の土の搬入でございますけれども、ちょっと土の発生の地点でございますが、これはちょっと掌握をしておりませんので、また後日御報告を申し上げます。

これから、いわゆる本格的な道路の建設、それから水田地帯の埋め立て等の作業が今後出てくるわけでございますけれども、これらの通路といたしまして考えられますのは２・２・５号線、いわゆる一番橋を使う方法、それから市民プールの北側に都道がございますけれども、それを東側から入る方法、あと一つは２・２・６号で平山橋の方から入る方法があるわけでございます。交通量、あるいは安全対策等の問題もございますので、今後、その使用時期によりまして地元あるいは警察当局と協議をいたしまして設定をし、その通路の使用に際しましては安全対策に万全を期す予定でございます。

２・２・５号線の改良の問題が出ましたけれども、これは京王線から南側につきましては南平の組合施行で用地をあける計画でございます。まだそれ以外につきましては見通しがまだつかないわけでございます。さらには、この道路につきましては京王線との立体化の問題もございまして、この立体化をどうするか、計画決定をどう変更するか、そういう問題もございまして、それらの手順を踏みまして、今後検討をしていきたいというふうに考えております。

それから、４点目の社会情勢の変化に伴うところの区画整理事業への取り組みでございます。御指摘のように、昨年来、地価が高騰をいたしまして、非常に事業の内容も変わってきております。特に地価が上がったことによりまして、土地を持っている権利者の方の意識も変わってきております。具体的に今後の区画整理をどうしたらいいかという答えまでもちろん出ているわけじゃございませんけれども、今後その辺を踏まえまして、十分研究をいたしたいというふうに考えております。

それから、５点目の豊田駅北口の公団用地の件でございます。これは多摩平団地ができましたときに公団が、いわゆるテナントと、あと利用者のサービス施設としてトイレ等を設置しまして、公団がつくった施設でございます。この土地につきましては、面積が333平方メートルございます。現在旭が丘に千代田自動車工業株式会社の跡地に住宅

公団が住宅の建設と、それから一部ヨコカワメディカルシステム株式会社が工場をつくっておりますけれども、この公団が住宅をつくる敷地の北側でございますけれども、高圧線がございまして、高圧線の下に約1,100平方メートルの土地が、市有地がございます。これは平山台の土地区画整理事業の中で市が取得をしておいた土地でございます。住宅公団に今現在賃貸借で貸している土地でございますが、この土地と、それから607戸できます公団の建物の行政協力費の公団負担の問題がございまして、その辺を財源といたしまして、この北口の333平方メートルを取得をしたいということで、今公団と詰めているところでございます。事務的な作業といたしましては、本年、年内に基本協定等を結びたいというような、今手はずになっているところでございます。

この土地の取得の目的でございますが、これは前から市長がおっしゃっておりますけれども、南口の開発のいわゆる関連用地として活用したい、そういう目的で確保する予定でございます。

それから最後に、区画整理を進める上でのルールづくりでございますけれども、事業を進める上で大事なことは、事業認可をとりまして、事業認可をとった後にいろいろ権利者との問題が出てくるということになりますと、非常に将来に問題を残すわけでございますので、今後できるだけ権利者との話し合いをしまして、事業認可前に諸問題については解決するような、そういうものをきちんとやっていかなければいけないんではないかというふうに感じているところでございます。

○議長（市川資信君）　山口達夫君。

○５番（山口達夫君）　おおむね了解いたしました。ありがとうございます。

幾つか再質問をさせていただきますが、その前に仮換地の時期が半年おくれると、そして、そのまた理由が増量申請とか、地籍更正がたくさん出たために時間がかかっているんだと、こういう説明でございました。最初のおくれが後にだんだん響いてまいりますので、ぜひ鋭意御努力をいただきますようにお願いいたします。

また、工事用仮道路につきましては十分な安全対策をなさるということですが、優先の順位を通常道路にきちっととっておいていただきませんと、グラウンドの使用、その他につきましていろいろと問題が起ころうかと思いますので、その辺の配慮をお願いしますと同時に、ダイクマがここでできたわけですけれども、多分う回道路をたくさん探されるようになるだろうなと思うんですね、来る車の方が。そうしますと、あの仮道というのが、七生中学の方から一番橋を渡って、そしてすぐ左に入りますと、そのままいい道が工事中でずっとできてきて、途中から右に入れば、また都道に出られるというこ

とで、案外、そこに車が入る可能性があると思います。

また、反面、そこでオートバイ等の練習をする子供、青年もあるいは多くなってくるかな、こんな予測もありますので、あくまでも工事用道路ということでございますので、その辺の管理、運営についても十分な気配りをお願いしたいと思います。

２・２・５号線についてはまだ無理なんだと、こういう御説明で、今までも予算に上げてはうまくいかない、予算に上げてはうまくいかないということがもう数年続いているわけでありますけれども、ここで区画整理ができてまいりますと、さて、私たちのところは区画整理で減歩を得てやっている、ここは買収なんだと、同じ地域ではないかと、こういうような考えが出てくるんではないかなという心配があるものですから、できるだけ早期に解決するようにぜひやっていただきたいと思います。現状について、どういう点が問題なのか、お聞かせ願えれば幸いですが、難しければ結構です。

それから、先ほどの公団用地の件につきましては、南の開発の関連として考えていくんだということは、当然に南に再開発なり、いろいろな盛り込みを検討してのお話だと思うわけです。それで、それに関連してなんですが、先ほど都市整備部長は認可前に諸問題を解決することが大事だと、こういうお話をされていました。実は、今起こっているものはほとんど認可前に解決しなければならないものがそのままになっているために生じている問題ではないかなという気がするんです。今、ここの時点になって、認可前に諸問題をという、他の区画整理に対しての一つのこれからの検討事項としてはわかるわけですけれども、現在の豊田南の区画整理については、このことだけではなかなか解決が難しいんではないか、ぜひ現状を踏まえた上で、どうすれば多くの方の市民の理解が得られるか、御検討をいただかなければいけないと思うわけですが、そこの点をもう一度再質問したいわけです。

そして、実は認可後の問題ですが、私が提案していますことの一つに、やはりハードの面だけでなくて、まちづくりをトータルに考えていきますと、さて道路は入った、下水も入った、歩道には緑も植栽も、モールもできたという中にあって、それだけではまちが生きてこない、ここに一体市はどんな施設を持ってこようとするのか、あるいは先ほど市長から南の病院の関係で、高幡に用地を確保するようなお話がございましたけれども、一体豊田南では何を確保されようとするのか、その確保されるということが一体何の目的でやられるのかがそろそろ論議されませんと、私はいけないんではないかな、本来は、これはもっと前に論議されてしかるべきではないかなと思うわけです。京王線と中央線を結ぶ最短距離は豊田南から南平にあります。私は日野の南北交通を考えるときに、ここにいかにして交通路を確保するかが今後の日野の市政にとっては大変大事になるだろう、それには橋の問題も一つございます、またバスであるとか、新都市交通機関であるとか、いろんな検討が必要だと思うんですが、それには、その沿線に何を張りつけるかによって企業経営が成り立つかが決まる、つまり何にも用意しないで、ただやろうとしても経費倒れになって、ここにはなかなか施策ができないんではないだろうか、やはりやるんであれば、そこに新しい公害を出さない工場群を配置することによって昼間人口をふやす、ならばバスを回すことが可能になるのではないだろうか、あるいは南平からも労働人口を集めることができるんではないかという形で、都市が機能をしてくると思うわけです。

今、まだ私どもに提起されておりますのは、ハードのこういう形で道路をつくりますよ、水路をつくりますよ、それにとどまっている状態です。これから先、そのような問題を考えるときには、やはり事前に市民と相談する場が、10の目で考えたり見たりするよりも、より多く市民を巻き込んでの検討をすることがよりよいハードとソフト、あわせたまちづくりのきっかけになるんではないかな、そんなぐあいに考えるわけであります。その点を含めまして、住民とともに検討するルールづくり、そんなことについてのお考えがあれば再度お聞かせをいただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　大体お説には同感であります。これまでも申しておりますとおり、まちづくりのハードな仕事は将来のソフトを目指して行うんだということでありまして、豊田の南区画整理事業は、たしか水と人の生活とを勇気づけ、そして近代的な本当の文化とか潤いとかいうことが十分内容に込められた、そういうもとからの条件もありますし、それらを生かすということで取り組むことは、もう全く基本的な精神でなければならないと思います。

そして、先ほどのビラの中に「南口再開発は白紙に戻った」と、こう書いてあると読まれましたが、再開発に戻したということはございません。再開発はいたさなければなりません。一つの、何といいますか、たたき台として提案をした理由もございますから、なお一層地域住民、あるいは全体の配慮の中から、よりよいものを目指すということはまた当然の課題であります。

そして住宅公団の、つまり豊田北口の公団が持っています土地をあえて積極的に確保するというには、南側とのアクセス施設にあてる、こういう考えでございますから、今、絵を構想するまでには至っておりませんが、当然南口との有機的な北との関連をつくり

出す、つまりよりよい日野のまちの大きな要素になる、このようにかけておるところであります。

そして、南口はお話のとおりＪＲと、それから京王線との川を挟んでの至近距離にあるわけでありますから、それらをうまく連携をつけまして、そして豊田の一定の好配置を形成をし、南口が大いに市民生活に寄与し、また環境もいいという状況の中で、日野市内にあります企業や学校のいろんなまた役目も果たせる、そういう設計をなすべきだと、それらの再開発のまた大きな要であるというふうに御理解をいただいておきたいと思います。

その中に建物が幾つか考えられるわけでありますし、将来、地域発展のために、ある程度の資本の導入、あるいは企業の参加、これらを求めてまいらなければならないということも当然であろうと思います。近代の、21世紀にふさわしい、そして豊田の最も条件、環境を生かした、そういうことが課題になってまいりますので、いろいろな意見を承りながら完成を図っていると。そして、今地元に一部いろいろな意見を提案をされる方があるわけでございますけれど、これは区画整理を必ずしも正確に理解をされていないという面も感じられますので、十分お話をし、むしろ将来へのエネルギーになってもらって、大きな役割もまた強力にしていただきたいと、こんなふうに考えております。

市民とのルールづくりは、これはもう当然のことでございますし、これから積極的にお話もしたり、そういう機会を設けていきたいと、こう思っております。

ただ、部分的な折衝のみでやっておりますと全体を見失ったり、あるいは全体から誤解をされるということもありますので、それらのことを十分配慮した上で、本来の区画整理というもののすべての権利者がみんな受益者である、そのことをよく理解をしていただくならば全体の理解もまた得られるものだと、こう思っております。

一層の御支援を各方面にお願いしたいと思っております。

○議長（市川資信君）　山口達夫君。

○５番（山口達夫君）　概略御答弁をいただきましたので、最後に、やはりまちづくりにはテーマが非常に大事だと私、感じているわけですが、今のお話の中にも幾つかお聞かせをいただいたわけでありますが、豊田南地区に限らず、各地区、各地区で、このまち、この地区はこういう形でやれば、こんなふうに変化するんだ、こんなふうにできるんだということを、やはり市民に提案することの中で、その提案をもとにして、市民とともにたたき台をつくっていくような形が、私はぜひとも欲しいなと思うわけです。例えば今、高幡の区画整理の中に突然病院の問題が出ました。高幡の地区は一体どんな地

域イメージなんだろうかなと、こう考えたときに、素直に感ずるのは、やはり高幡不動尊を中心とした歴史と、そしてあの地域の自然環境のまちなのかな、地区なのかな、日野はと言えば、やはり宿場町を中心にした、発達した、あの商業街と、そしていろいろな醸し出す歴史のふるさとといいますか、そのようなものがあろうかと思います。豊田はまた一つの商業地域としての発展の余地があるわけですが、そういうぐあいに地域ごとのイメージを市民に提案し、そして市民とともに積み上げていって、それで、それならばここにはこういうものやるべきではないかという、一定の時間と長期的視点を持って、全員市民を巻き込むような、そんな行政が望まれているわけです。

私自身はぜひそういったような形を今後とも行政の立場から御検討いただくことを切に願いまして質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（市川資信君）　これをもって12の１、豊田南区画整理事業の進捗状況について問う（住民意思を尊重するルールづくりはできないか）の質問を終わります。

本日の日程はすべて終わりました。

あすの本会議は午前10時より開議いたします。時間厳守で御参集願います。

本日はこれにて散会いたします。

午後５時24分　散会

12月15日　木曜日　（第5日）

昭和63年
第4回定例会　日野市議会会議録　（第45号）

12月15日　木曜日　（第5日）

出席議員　（29名）

1番	奥住日出男君	2番	宮沢清子君
3番	高橋　徹君	4番	土方尚功君
5番	山口達夫君	6番	天野輝男君
7番	福島盛之助君	8番	福島敏雄君
9番	中谷好幸君	10番	小俣昭光君
11番	川嶋　博君	12番	馬場繁夫君
13番	夏井明男君	14番	小山良悟君
15番	馬場弘融君	16番	高橋徳次君
17番	簇野行雄君	18番	一ノ瀬　隆君
19番	板垣正男君	20番	鈴木美奈子君
21番	中山基昭君	22番	秦　正一君
23番	黒川重憲君	24番	古賀俊昭君
25番	谷　長一君	27番	石坂勝雄君
28番	名古屋史郎君	29番	竹ノ上武俊君
30番	米沢照男君		

欠席議員　（1名）

26番　市川資信君

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	長谷川暢男君	総務部長	坂本金雄君
市民部長	大貫松雄君	生活環境部長	藤浪竜徳君
清掃部長	小林修君	都市整備部長	前田雅夫君
建設部長	永原照雄君	福祉部長	高野隆君
水道部長	橋本栄萬君	病院事務長	大崎茂男君
教育長	長沢三郎君	教育次長	砂川雄一君
病院長	三田盛一君		

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	佐藤智春君	次長	土方留春君
書記	田中正美君	書記	濃沼哲夫君
書記	佐々木茂晴君	書記	小林章雄君
書記	斉藤令吉君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3
立川速記者養成所　所長　関根福次
速記者　保木シゲル君

議事日程

昭和63年12月15日（木）
午前10時開議

日程第1　一般質問

本日の会議に付した事件
日程第1

午前10時6分　開議

○副議長（一ノ瀬　隆君）　本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員23名であります。

本日議長所用のため、私、副議長がその任を務めさせていただきます。特段の御協力をお願いいたします。

これより日程第1、一般質問を行います。

一般質問13の1、森田市長、4期16年間本当にご苦労様でした。勇退の時期と思うがその考えを問うの通告質問者、小山良悟君の質問を許します。

〔14番議員　登壇〕

○14番（小山良悟君）　おはようございます。

通告にしたがいまして一般質問をさせていただきます。

今回の定例会、非常に日程がハードでございまして、議運の委員長としても大変責任を感じているわけでございまして、日程消化にも、私もとにかく先頭に立って御協力を申し上げなきゃならん、というふうに思っておりますので、極めて短い時間でこの質問を終わらせたい、というふうに思っております。

また、きょうは、私のこのつたない質問のために三田市立病院院長先生に御出席いただいているわけでありますけれども、市民の命と健康を守る大事な役割をなさっているわけで、また、本日診療日というふうにも伺っておりますので、本当に市民の皆さんにも申しわけございませんし、できるだけ早く終わらせたい、このように思いますので、御答弁の方もそういった質問者の気持ちを酌んで、簡略に御答弁をいただきたい。短くやったからといって、決して木で鼻をくくったような答弁なんて怒りはしませんので、ひとつよろしくお願いしたい、というふうに思います。

さて、森田市長に対しての質問でありますけれども、件名に掲げたこのことは、全く私自身、素直に森田市長に対しての思いを件名にあらわさせていただいた、ということでございまして、あえて、この表題を出しただけで私の方も一つの目的が果たせる、というふうなぐらいの、極端な話ですけれども、そんな気持ちすらあるわけでございまして、森田市長にひとつお考えを伺いたいと思います。

一口に4期、足かけ16年でございます。私は、十分に任期を全うされる、というふうに思いますので、16年間、簡単に言いますけれども、大変長い年月であったと思うんです。

私も議員になりまして足かけ8年目というか、途中8カ月のブランクがございました

けれども、いろいろ、おつき合いいただいている中で、確かに森田市長、大した市長だな、全国の市町村が幾つあるか、ちょっと数を覚えておりませんけれども、立派な首長だな、首長としてはもうピカーだな、特に議会の答弁なんていうのは右に出る人はいないんじゃないか、と思うぐらい、私は最近、非常に素直に評価するようになってきまして立派な市長だな、というふうに思うわけであります。

ただ、一面で言いますと、その議会答弁が実際に現実の行政の場で、行動の面でそれを伴っていれば本当に両手拍手で、それこそ死ぬまでがんばってください、というふうに申し上げたいところでありますけれども、残念ながら実績の面が議会答弁ほど伴っていない、というのも、これも正直なところでございます。

まず最初に、森田市長に単刀直入に５期目の挑戦の気持ちがあるやなしや、ということを、まず、それを伺ってから質問を続けたい、というふうに思いますので、率直な今のお気持ちをぜひお伺いしたい、このように思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　小山良悟君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　　多分、御親切な配慮だという気持ちだろうと思いますが、私は公職にあります経験から物事を私心で律する、ということは、もうほとんど考えられなくなっております。そういう気持ちでございますので、当面のところは任期いっぱいを立派に全うする、そうして今後の日野市の発展のため、市民の幸せのために整ったレールを敷いておく、ということが仕事だと思っております。

なお、選挙は１回、１回、一任期で終わっているわけですが、続けてやれという声も少なくないことを感じております。したがいまして、その判断は、これからの課題として考えていく、こういうつもりでございますので、またそのようにおつき合いをお願いしておきたいと思います。

口幅ったいことを言うわけじゃありませんが、私心で自分を律するということは、もう卒業したつもりでございまして、誤りのない行動をとりたい、このように考えております。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　大変謙虚な答弁というふうに一面では聞こえるわけでありますけれども、また一面では、随分ある意味では自信たっぷりな答弁だな、というふうにも聞こえるわけであります。

今、任期をとにかく全うするだけだ、という答弁だと大変私も、じゃあ来年、再来年の展望をこういうことをやりたい、という意欲はお持ちでないのか、というふうにも反

論もしたくなるわけでありまして、ちょっとお体裁過ぎる答弁だな、というふうに思うわけであります。

これは、改まって５期目の挑戦あるやなしや、というふうに問われるからそういう答弁になるかもしれませんが、きのう、あるいはその前に森田市長の答弁を聞いておりますと、例えば体力の続く限りがんばりたいとか、あるいは主権者がやれと言えばやる、というふうな発言をしておりました。その言葉を聞きますと、やる気十分だな、というふうに感ずるわけでありますけれども、体力の続く限り云々、これも森田市長個人の問題であります。体力が続くか続かない、とかいう問題ですね、森田商店の個人の家業をやるのかやらないのか、隠居するのかしないのか、ということであれば、体力が続く限りやるとかどうとかいう、森田喜美男個人としての問題として考えていっていいと思いますけれども、日野市政は森田喜美男個人の問題じゃありませんから、体力が続く限りやるとかやらないとかいう次元の問題ではないんじゃないか、というふうにも一つ指摘出来ると思います。

それから、主権者がやれと言うならやる、というふうなことも、きのう、たしか答弁されておりましたけれども、主権者がやれということは、つまり選挙で当選したらやる、ということになるわけですから、主権者がやれということは、そういうことなんですね。ですから、選挙に当選するということは、要するに立候補の意思がなければそれができないわけでありますから、主権者がやれと言えばやる、ということは、つまり５期目の挑戦をするのか、ということにつながってくるわけでありますね。本音の部分と建前の部分がおありでしょうけれども、できれば本音の部分で気持ちを表明していただきたい、というふうに思うわけでありますけれども、私は、市長の意思がどうあるかわかりませんが、個人的には、４期16年間、とにかく、つつがなくこの任期を務めてこられた、ということで、個人的には勇退をお勧めするわけであります。

１人の人間の能力を発揮するには、限度があるわけでありまして、普通３期12年間も全力を出し切って能力を発揮すれば、それなりの成果も出ますし、また限界も出てくると思うんですね。これが人間の能力じゃないか、というふうに思うわけであります。

まして、４期16年間もやってきたわけでありますし、その間、決して手を抜いて楽をしてやってきた、というふうには思えません。森田市長の性格からすれば全力を出し切って、普通３期で、普通の人だったら３期12年で燃焼し尽くすところを超能力的な実力を発揮されて、また闘志を持って超人的な働きをした、４期16年、しかも77歳という御高齢にもかかわらず本当によくがんばってきた、というふうに思うわけでありまして、そ

ういう限界といいますか、そういうものがある、ということは、ぜひ市長に知っていただきたい、というふうに思うわけであります。

そしてまた、引退と勇退というのがあります。私は勇退をお勧めする、というふうに申し上げているわけです。引退と勇退、これは、ちょっと意味が私なりに違う、というふうに受けとめているわけでありまして、森田市長に、素晴らしいこの４期16年間も務めた立派な市長でありますから、引退という形ではなくて勇退という形をぜひとってほしい、これは、本当に15万市民を代表しての心情を申し上げているわけであります。

勇退というのは余力を残して後進に道を譲る、これが勇退だろう、引退というのは、限界に来て余力がもうない、限界に来たということで退くのが引退、というふうに受けとめるわけであります。

森田市長が、このまま――残念ながら後継者を育成してない。助役も選べない、というふうな状況の中で、森田市長がさらに５期目に挑戦して後継者も育ってない段階で、もし次の選挙で取りこぼしをした、ということになりますと、後の市政のかじ取りが森田市長としては大変心配ではないか、というふうに思うわけで、余計なことかもしれませんが、そういうことも懸念するわけであります。余力があるうちに勇退しておけば、自分の４期16年の豊富な市長経験を生かして後進に指導することもできます。市政のかじ取りに誤りなきよう指導もできるわけでありまして、ぜひ、そういった形をとっていただきたいな、というふうに思うわけであります。

それから、恐らく政治家、私ども議員なんかは特にそうなんですが、政治活動とか、そういったものについて、家族の理解というのは大変苦労するわけであります。森田市長の御家族も多分、今まで一生懸命走り続けて来たから少しは一息つける生活をしてほしい、というふうに思っているんではないか、というふうに推察するわけであります。そろそろ俗世間に心を向けられて、晴耕雨読の落ち着いた生活をされる、ということも森田市長の一生にとっては大事な期間ではないか、というふうにも思うわけであります。御家族の方は、恐らくそういった姿といいますか、生活をそろそろほしい、と思っているんではないか、というふうに私自身も感じているわけでありまして、まさに、そういった森田市長の家族の心情からも、一生懸命走り続けてきた４期16年に終止符を打って悠々自適の生活もぜひ味わってほしい、ということを、森田市長に感謝の気持ちを込めながらお勧めを申し上げる次第であります。

私が、あえてこういうことを申し上げる必要もないのかもしれません。私どもは、既に私自身がこの人物に市長をやってほしい、という立候補予定者を決めております。し

たがって、これからの市政については、私どもの陣営の者にいろいろ、あれこれしてほしい、という強い要望を出すつもりでございまして、森田市長に対しては本当にご苦労さん、もうその気持ちしか持ち合わせていない。あれこれ、これ以上やってほしいという気持ちは全く持っておりませんので、恐らく、私も森田市長に対して一般質問の形で質問するのは、きょうが最後だ、というふうに万感胸迫るものを持ちながら、きょう森田市長に質問をさせていただいたわけであります。

重ねて森田市長に問いますが、いわゆる体力の続く限り云々、それから主権者がやれと言えばやる、というふうな心情ということは、５期目の挑戦に強い意志を持っているな、というふうに私自身は感ずるわけでありますけれども、しかし、先ほど申し上げましたように、一方で、やっぱり人間というのは限界がある、ましてや厳しい市長職でありますから４期16年もその任にありますと、体力も精神力も消耗してきているのは当然だろう、というふうに思うわけであります。

そして、かてて加えて77歳という御高齢でもありますので、そういった点で勇退をされたらいかがか、ということを私自身だけが思うわけじゃなくて、恐らく今まで森田市長を支持されてきた中にも、そういった気持ち、お考えを持っている方もいると思うんです。

そしてまた、もう一つ大事なことは、４期16年も森田市長のもとで日野市政が執行されてきたわけでありますけれども、行政の活性化ですね、活性化はいろいろ言われるわけでありますけれども、やっぱり一番効果的なのは、トップがかわることが一番組織の活性化につながる、というふうに思うわけでありまして、そういうチャンスもぜひ若手にも与えていただきたい、そういった、また願いは、部長さん方も課長さん方も市の職員にも数多く渦巻いている、ということも、私自身も承知しておりますので、そういった意味からも勇退のお考えは全然お持ちにならないのかどうか、改めて重ねて質問をさせていただきます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　勧告は、ありがたく伺っておきたいと思っております。それ以上のことは、先ほど答えた中に込めたつもりでございますので、簡潔な答弁でお許しを願いたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　大変簡潔な答弁をいただきまして、ありがとうございます。改めて私も感ずるんですが、４期16年のベテラン市長と２期足かけ８年の駆け出し議員の貫祿の差が、ここで出たな、ということを率直に感ずるわけですけれども、しかし森

田市長に対しての心配は、これは森田市長個人の身のかかわり方の心配だけじゃなくて日野市政の今後の行く末もいろいろ心配する立場から、ここらで人心一新といいますか、世代交代をして、また新たな21世紀に向けての困難な行政の課題を乗り越えていく体制をつくる時期に来ている、ということを強く感じております。

これは、決して私自身の個人的な感情だけじゃなくて、最大公約数の市民の声じゃなかろうか、というふうに思っております。その答えは、来年の４月に市民の皆さんが出してくれると思いますけれども、できることなら、その答えが出される前に、みずから意を決して後進に道を譲られるのが一番ベターじゃないか、ということを心配して、森田市長に御進言を申し上げたわけでありますけれども、それをどのように受けとめていただいたかは森田市長自身の問題でございまして、また、その森田市長の決意、そういったものに伴って私どもは私どもなりの考え方で、また新しい日野市政の体制づくりに全力を尽くしていく所存であることを強く申し上げまして、この質問を終わらせていただきます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　これをもって13の１、森田市長、４期16年間本当にご苦労様でした。勇退の時期と思うがその考えを問うの質問を終わります。

一般質問13の２、市民の健康維持向上に市立病院の積極的な役割を望むの通告質問者、小山良悟君の質問を許します。

○14番（小山良悟君）　前定例議会で、私が自分の病気の体験をもとにしまして、標準体重維持運動というものを提唱させていただきました。いわば健康シリーズといいますか、第２弾というふうな受けとめ方をされて、大分期待されたわけでありますけれども、きょうは本当に簡単に、特に何かを仕入れてきたネタを披瀝するというふうな、そういうことじゃなくて、自分自身の気持ちの中に定着しているその気持ちを一言二言申し上げ、そして院長先生にお考えをお聞かせいただきたい。そういうことで、きょうは取り組みさせていただきたい、というふうに思います。

この間、私がこの病気の問題を取り上げまして、その後、私と顔を合わせる皆さん、病気だったんですね、とか、とにかく健康談義といいますか、そういったことが非常に多くなりました。

そういう話の中で、こういう切ない話も聞かされたわけでありますけれども、女性の方ですが、その方も糖尿病になっておりまして、だんだん進行してまいりまして、何か片足を切断しなきゃならない、というふうな状況まで追い込まれた。その片足で自転車なんか乗って、こいでいてがんばっていたそうですけれども、ついに片足を切断しなければならない状況になって手術をした。そのときに残念ながらお亡くなりになった、ということであります。

まだ若い年齢だそうでありますけれども、その亡くなった方の後にわかったことが、押し入れの中にお菓子類とかアルコール類が隠されておった、ということであります。つまり、お医者さんに甘いものはだめですよ、アルコールはだめですよ、ということは当然言われているわけでありますけれども、そういったものをわかりつつ――しかし、体の調子が悪くなると、また体が要求してくる、甘いものを食べたいとか、アルコールを飲みたいとか、体が要求してくるわけです。それとの戦いなんですね、この病気というのは。その戦いに敗れて、といいますか、食べちゃならないものを家族の目を盗んで、家族には怒られるから結局家族の目を盗んで、という形で、夜中にアルコールを飲んだり甘いものを食べたり、というような形で自分が負けていたわけです。

その結果、そういう悲惨な結果になって惜しい命を落としたわけでありますけれども、そういったことを聞かされますと、改めて健康の問題というのを、本当に大事なテーマだな、だれでもが大事なことだとわかっていて、なかなか実践できない大事なテーマだな、難しいテーマだな、というふうに思うわけであります。

そういった、非常に健康に関心を持つようになりまして、前回ああいうふうな形で一般質問させていただきましたけれども、その後、ぜひまた、これも取り組んでいただきたいなと思うことは、私自身が本当に痛切に、自分自身で実践してみて感ずることは、人間の健康を維持する基礎は何か、というと、源は何か、というと毎日の食生活だ、これに尽きる、というふうに感じました。

ちょっと、人の書いた本をコピーしてきて大変申しわけないんですが、アメリカの上院の栄養問題研究会のレポートという中で、こういうふうなことも書いてありますのでちょっと読ませていただきますけれども、「がんとか心臓、脳卒中などアメリカの六大死因となっている病気は、現代の間違った食生活が原因になって起こる食源病、源ですね、食源病である。この間違った食生活を改めることで、これらの病気を予防する以外に先進国民が健康になる方法はない。現代の医学は、薬や手術といったことだけに偏り過ぎた栄養に盲目な片目の医学であった。栄養に盲目でない医学につくりかえる必要がある」ということが書いてあります。

また、こういうことも書いてあります。「成人病は二つの大きな特徴がある。それは風邪やその他のような細菌性の病気と違って、長い間の食事の間違いによって起こる食源病だ」ということが一つ。もう一つは、「少なくとも従来の医学では，原則的には治

せない病気であり、予防によるしか手がない病気だ」ということであります。

結局、三田先生が御出席になっていますけれども、前回も私も申し上げたかもしれませんが、極論すれば食べ物で治せない病気は医者にも治せない、ということが指摘できる、というふうに、結論づけると言えると思います。したがって、この食べ物の、食生活のあり方というものがどんなに大事なことか、例えば、がんの家系、家系といいますか、お父さんががんで息子ががんで、とか、あそこは、がんの家系だとか何々の家系だとよく言われることがありますけれども、それは考えてみれば、やはり同じ食生活、似たような食生活をしているからそういう体質ができ上がっていく、ということになってくるんだろう、と思うんです。

したがって、食生活の重要さというものを市民の皆さんにも、ぜひ知っていただく必要がありますし、また知るだけじゃなくて実践をしていただかなければならない、というふうに思うわけであります。そういったときに、どういう形でこの食生活の大事さを知らせ、そしてまた実践させていただくか、というふうに考えたときに、行政としても例えば広報なり何なりでの啓蒙という方法もありますけれども、最も効果的といいますか、私自身が病院に何回も通っていて感じたことは、患者さんはお医者さんの話を聞きたがっているんですね。だけれどもお医者さんは忙しいから、特に大きな病院のお医者さんはたくさんの患者さんを抱えているから、とにかく数をさばかなきゃならない、というふうなことで、患者との対話が非常に少ないといいますか、患者自身は、いろんなことをもっと聞きたい、話したい、それを打ち切られて、はい、これでいいですよ、という形で、次の方、という感じになっていますけれども、あの姿を見ておりまして、お医者さんに対する信頼度というのは、ものすごく強いな、今は学校の先生や、ましてや政治家の話なんていうのに耳を傾けてくる人というのは非常に少ないですけれども、お医者さんに対してこの病気に関するについて、やはり市民は、患者さんは絶大な信頼をしている。そうしますと、お医者さんの役割というもの、これを考え直す必要があるんではないか、というふうに思ったわけであります。

本来の役割である治療行為といいますか、そういったものを――これは、いわば20世紀までのお医者さんのあるべき姿としてはよかったかもしれないけれども、これからの21世紀のお医者さんのあるべき姿、役割といいますか、そういったものを、治療行為をむしろ従として、予防医療といいますか、病気にならないための食生活、体質強化といいますか、体質改善、食生活を改善し体質を改善するというふうな、そちらの方に大きな役割を果たす、それが医者だ、というふうな位置づけにするように変わっていかなければならないんじゃないか、というふうに私は強く感じたわけであります。

まして市立病院でありますから、民間の、ある程度の経営成績というものを上げなきゃならないのは、これは公立についても当然求められるわけでありますけれども、しかし、そういった中でも、ある程度の採算性を無視した取り組みというのが許されるのもまた公立病院のよさではないか、というふうに思うわけでありますから、これは市立病院が、まずそういった新しい医者のあり方、というものをぜひ日野市から、のろしを上げて日本全国に広めていただきたい、こういうふうに考えて、お忙しいところを大変恐縮でしたけれども、ただ、この一言を申し上げたくて院長先生に御出席をいただいたわけでございます。

ほかに気のきいたことをあえて申し上げるような知識も何も持っておりません。私自身が率直に感じたことを、きょう、ぜひ院長先生にわかっていただいて、そして市立病院としても、例えば市立病院便りとか、市も「ひの」広報を出しておりますけれども、病院も市立病院便りとか、何かそんなようなものを定期的に発行して、内科の先生なり外科の先生なりが、病気になってからの――今までは病気になってからの注意とか、心得といいますか、そういったものに対する啓蒙というのが非常に多かったんですけれども、病気にならないためのそういうふうな啓蒙といいますか、そういった記事というか、そういったものをぜひ書いて、そういうふうなものを出すということも、市立病院としてもそういう役割を果たす一つのいい手段になるんではないか、というふうに考えているわけでありまして、あそこの建物にとどまっての治療行為から１歩抜け出て、市民の方へお医者さんの方から飛び込んでいっていただく、お忙しくて大変でしょうけれども、その一時の大変さが努力すれば患者さんも減ってきまして、そういった面での取り組みもさらに充実していく、というふうに思うわけです。

最初は本当に大変なことだ、というふうに私も理解しますけれども、しかし、本当に健康な市民をつくるためには、そういった取り組みが極めて大事だ、というふうに痛切に感ずるもんですから、そういった意味で私自身の考え方について、院長先生にどのように受けとめお考えになるか、お答えををいただきたい、というふうに思うわけでありまして、質問としてまとめますと、最近の有病率といいますか、そういったものの傾向、それから医療費の傾向、そういったもの、そしてまた、今後予測される傾向、それについても教えていただきたいし、それから三田先生には、体質改善とか食生活改善についての考え方について、ひとつお考えをいただきたい、というふうに思いますし、また、私が今申し上げた市立病院の役割ですね、新たな役割というふうなものについての取り

組みについてもお考えをいただきたい。

以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　小山良悟君の質問についての答弁を求めます。病院長。

○病院長（三田盛一君）　市立病院の三田でございます。

ただいま議員さんから大変、非常にはっきり申しますと頭の痛い御指摘をいただきました。今、御指摘にございましたように、従来の病院というものは医療が主でございます。医療と申しますか、治療が主体というのが病院の実態でございます。

今、最近のある相当レベルの高い病院では、今、小山議員さんの言われたようなヘルス、健康を予防するということに病院全体が取り組みつつあって、それを大きく提唱しているところがございます。そういうところですが、残念ながら日本の全体の病院としては、まだまだそちらの方に取り組むゆとりよりも治療をいかに有効にするか、ということの方が目前の焦眉の急でございまして、どうしても現在のところは、治療の方が主であり予防の方は従になっている、というのが実態でございます。

今、小山議員さんが、御自分がいろいろ病気をなすった御経験からそういう問題を考えられた、ということに対しては、大いに敬服いたします。実際問題として日本でも、多分、今までは保健所がその保健行政のことに、ある程度の分野を持ってやっておられる。病院は治療の方に主体を置く、ということが今までの形だったと思います。

しかし、今御指摘のように2時間待って3分医療というようなことがございまして、患者さんにとっては大変痛しかゆしのいろんな問題があろうかと思います。そういうところでは大いに反省をし、何らかの方法を講じなければならないだろう、かようには思っております。

先ほどの食生活とか体質の問題になってまいりますと、これは、最近の日本の食生活は欧米化しつつある、こういうふうに言われております。しかし、先ほどのアメリカの報告もございましたように、アメリカの方では、むしろ食生活は、簡単に言いますと日本的にした方がいいであろう、というような反省の声も聞かれているわけです。

つまり、脂肪、肉、そういうものの量を減らして、むしろ繊維の多い穀物を余計に食べたらどうだ、それが、死亡原因の大変多い脳血管障害とか心臓疾患とか、そういうものを予防することになるんではないか、というのが、やはり向こうの文献にも出ております。

そんなところで、これからの食生活の問題は日本は欧米化をしつつありますし、向こうでは、むしろ日本的な食生活に移行しようとしている、ということがございますので、

その辺は、これから先大きな課題になるであろうと思っております。疾病に関しては、そういうふうに食事の問題と絡ませて考えるべきであろう、かように思っております。

今後の、先ほど議員さんのおっしゃった疾病の有病率、あるいは今後の予測の問題ですけれども、これは残念ながら現在のような脂肪、あるいは蛋白、そういう摂取率が多い状況では、やはり脳血管障害、あるいは心臓病というものはトップの座をやはり占めるであろう。それから、もう一つの悪性疾患、がんですが、これも残念ながらトップの座は崩れないであろう、というふうに思っております。先ほどのがんのことですが、先ほどの欧米化した食事摂取の傾向になりますと大腸がんがふえてまいります。日本的な穀物を主体にする国民の間では、胃がん、上部消化がんが多くなる、というようなことで、これは、なかなか血管系の障害と、それからがんという特殊な一つの原因が、まだ定かでない疾病とでは多少違いがございますが、いずれも食品によって大分疾病の発生率を抑えることができる、ということは現実に事実です。糖尿病については、言うまでもございません。

体質改善の問題なんですが、これに関しましては一般的に我々は、一般的な体質というものと難しい意味で言う体質とは、ちょっと間違った理解の仕方をしておりますが、難しいことはさておいて、この体質というものは遺伝的体質が主体でございますので、これは残念ながら改善することはできません。ただ、いろいろな予防、あるいは食事のコントロール、あるいは場合によっては薬品、こういうものを使うことによって、その遺伝的に持っている体質を疾病の発症に結びつかないように、病気にならない、結びつけないように予防する、こういうことが、大変にこれからの重大なファクターだろうと思っております。

そんなところで、例えば先ほどちょっと申し上げました、家系というふうなことをおっしゃいましたが、現実にそういう遺伝的な体質は、残念ながらみんな持ち合わせております。しかし、それが病気につながるかどうかということは、これはおのずから別でございまして、その辺が、今、議員さんが大いに強調なさっている食生活の問題で疾病になる前の予防を、という力点だろうと思っております。

そんなことで、市立病院もそういうことを踏まえた上で、これからの市立病院の役割はどうなのか、こういうことに相なりますが、御承知のように一般的な予防、いろいろな健康診断というものは市立病院も細々ながら続けて、現在までも続けております。ただ、もっとこれを積極的にどうするか、ということになりますと、私は、これはどうも、つい医師の立場から申し上げますが、そういう予防医学をやる前に、治療をもっと、き

ちっとレベルを上げなければ、その予防医学へのゆとりはない、というのが日野市立病院の実態ではないか、かように思います。

ただ、だからといって手をこまねいているわけにもまいりませんので、今、医師会の先生方ともいろいろと連携をとりながら、日野市としても胃がん検診、あるいは今までやっていない乳がん検診、肺がん検診、あるいは大腸がんの検診というような方向に恐らく次年度あたりからは、何とか取り組んでいこう、こんなふうに考えております。

そのほかには、今まで一、二度試みたようですが、なかなか続かなかった問題として短期ドックを何らかの形で形をつけてやっていって、多少とも小山議員さんの御要望にこたえてみたい、かように思っております。

もし、ほかにございましたら、またお答えをいたします。

以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　　御質問の中に、医療費の推移ということでございますけれども、そのことにつきましてお答えいたしたいと思います。

日野市に集約された数値じゃございませんけれども、厚生省の動向調査によるものでございますけれども、これによりましてお答えしたいと存じます。

国民医療費と言われておりますけれども、年間１兆円ずつ増加が見られております。61年度では17兆円台に至っております。国民１人当たりでは、59年度では12万5,000円、60年度では13万2,000円、61年度では14万円、と年々7,000円から8,000円ふえている状況でございます。

それから、有病者数ということで御質問がございましたけれども、これについても、ちょっとお答えしたいと存じます。これも厚生省の国民生活基礎調査の中でございますけれども、これは、国民の保健、医療、それから年金、福祉、それから所得までの国民生活の基礎事項を世帯面から総合的に調査したものでございますけれども、昭和61年度を初年度といたしまして、３年ごとに実施するものでございます。

初年度の調査でございますけれども、全国で24万世帯を対象にしたものでございますけれども、有病者という考え方でございますけれども、これは入院している者、それから通院している者、それから日常的な就床者、床についている方、それから自覚症状があって生活に影響がある者、例えば風邪で寝ているとか、行動の制限、それから売薬等を服用している者、これらを有病者といたしますと、61年の９月では全国の有病者数は3480万400人と推定されます。人口1000人当たりで有病者率は、287.8人になるわけでございますけれども、国民3.5人に１人の割合となっております。

それから御質問の中にございましたけれども、予防関係でございますけれども、これにつきましては生活保健センターの中の健康センターで、市民の健康づくりという施策を対応しているところでございます。健康審査の研修事業の拡大、それから検診内容の向上、受診率の向上とか健康管理の面、それから、いわゆる広報活動といたしまして保健広報の充実、そういったものを今後とも進めているところでございます。

以上、私の方からお答えいたしました。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　先ほどの院長先生の御答弁でおわかりのように、食生活と病気のかかわりは、非常に大事なかかわり合いを持っているという御答弁をいただきました。その話の中で、いわゆる体質という問題でありますけれども、私自身も、いわゆる先天的な疾病を持ってこの世に生を受けたものと、後天的な疾病というものとの違いをはっきり分けて考える必要がある、というふうに思っているわけですが、先天的な疾病の人、つまり私も、例えば糖尿病の家系であります。遺伝体質といいますか、というものを持っておるわけであります。

先ほどもお話にあったように、それを病気にまでならせるか、ならせないかというのは、体質は変えようがない、持って生まれた遺伝の体質は変えようがない。ですが、その病気にならせないで済むか、済まないかの差は、どこに出てくるか、というと食生活だ、がんの体質の人でも食生活によってがんにならなくて済む、糖尿病の家系の者でも正しい食生活をすることによって糖尿病にならなくて済む、ということを私自身が実際に痛い目にあって、痛切にこれを感じたわけであります。

そういった中で、今、生活環境部長からも報告がされたように、医療費も年々、個人当たりの負担も12万、13万、14万というふうに、医療費の負担も増加する一方でありますし、また有病者といいますか、3.5人に１人は病気持ちだ、というふうな、そういう日本は病気の先進国でもあるわけであります。

よく医療費の負担を下げろとか、いろいろな、そういう行政に対する助成を求める要望が強いわけでありますけれども、私は、そういったこともちろん当面の対応としては必要ですけれども、行政としては、もっと肝心なことに足元に目を向けて、そこら辺からの改善を図っていかなかったら、根本的な、抜本的な問題解決にはならない、というふうに思うわけでありまして、いかに食生活が、その後の私たちの人生に大きな影響を与え、あるいは行政に財政負担とか、いろんな形で与えているかを、つくづくこの重

要さを感ずるわけでありまして、したがって私は、正しい食生活というものは子供のころから、乳幼児のころからそういう指導を行政も真剣に取り組んでほしい、乳幼児の若いお母さん方に対する啓蒙、そして幼稚園、保育園での正しい食生活の指導といいますか、啓蒙といいますか、そして学校でもそうです。絶えず、どの年代でも正しい食生活ができるようなそういう取り組みを、例えば教育委員会なんかも、真剣にそういう問題についても取り組んでもらいたいし、行政としても取り組んでもらいたい。

また、予防医療というか、そういった面では保健所の役割ということも、私も承知をしているんですけれども、やはり、これもどちらかというと行政の仕事というか、保健所というのは、いわゆる行政サイドの仕事というふうな受けとめ方がありまして、信頼度といいますか、病気に対する信頼度とか予防についての信頼度も保健婦さんが言うよりもお医者さんが言う方が、はるかに信頼度が違うといいますか、そういうのも否めない実態でありますので、したがって、今、確かに治療行為を充実させなきゃならない、そのことも大変焦眉の急だということで取り組まなければならない、ということも、また、それはわかるんですが、いつの段階にかその悪循環を断ち切る勇気ある行動をとらなければ、いつまでも治療行為だけに追われてしまう医者のあり方になってしまうんじゃないか、というふうに思うんです。

したがって、いろんなことは申し上げませんから、つまり食生活の改善、これだけですね。病院としても食生活の改善に、市民に意識を持ってもらい実践してもらうためには、どういうふうな取り組みをしたらそれなりの成果が出るか、ということをぜひテーマとして、今までの従来の治療行為の中に、ただ一つ予防医療の――検診なんかも、がんとか、いろんな検診なんかも、あるいは健康診断というのも大事な行為でありますけれども、私の言うのは、いわばその検診とか健康診断以前の問題に取り組んでほしい、ということを申し上げたんです。それを今までの考え方と変えて病院としても、特に市立病院だからその辺のところをぜひ取り組んでいただきたい。

お忙しいでしょうから、なかなか時間がとれない、というようなことの中で、例えば今言った正しい食生活のあり方云々、糖尿病体質の家系の人には、こういうふうな、どうだ、というふうなことを内科の先生が書いたものを市内全戸に、そういったものを配るだけでも、それを見る信憑性というのは信頼性が高いわけですから、いろいろな人が何か言う、というよりも、とにかくお医者さんの信頼度というのは高い、というふうに私自身が病院に行っていて患者さんの姿を見て、もう痛切に感じました。

ですから、お医者さんが言うことが非常に患者に影響を与える、ということは前回も

申し上げましたけれども、ぜひ一つのテーマを、何か押しつけられたということで大変恐縮ですけれども、食生活改善というものについて市立病院としても取り組んでいただきたい、ということを強く要望しておきたいと思います。

お忙しい三田先生でありますので、これ以上の拘束は御迷惑かと思いますので、以上を強く教育委員会、行政サイドにも、幼少のころから、学校生活の中から、そして日常の社会人としてのアルコールやら、いろんな、もろもろの、そういったような食生活についての啓蒙、警告、そういったものを行政としてもしつこいぐらい絶えずやってほしい、意識を持つだけじゃなくて実践に持っていくまでには、どうしたらいいか、ということをぜひ行政側も取り組んでいただいて、そのことが徹底されてくれば、おのずと病気になる人も減ってきますし、そして医療費も下がってくる。もうこれしかないんですね、これからの高齢化社会で対応する有効な手段というのは。

これは効果が出るまでには20年、30年かかるわけであります。かかりますけれど、例えば私みたいに、私自身は３月から、厳しいというか自分自身に厳しく律して食生活というものを変えました。半年ぐらいで私自身もそれなりの成果が出たわけでありますから、このことは、やっぱり食生活というのは本当に効果のある意義のある取り組みだと思いますんで、行政側も病院側も真剣に正しい食生活のあり方というものを普及をさせることに努力をしていただきたい、ということを強く要望して質問を終わります。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　これをもって13の２、市民の健康維持向上に市立病院の積極的な役割を望むの質問を終わります。

一般質問14の１、「日野市行財政改革に関する基本方針」は推進されているか（給料表の適正化、定数管理の適正化、ＯＡ化推進を中心に）の通告質問者、古賀俊昭君の質問を許します。

〔24番議員　登壇〕

○24番（古賀俊昭君）　　それでは、一般質問を市長並びに教育委員会に対して行います。

９月19日、不意の天皇陛下のご不例から、はや３月が経過しようとしております。想像を超える御気力と数多くの国民の必死の祈りによって幾たびかの危機を脱せられながらも、なお予断を許さない状態が続く御闘病中の天皇陛下の御快癒を心を込めて祈念申し上げる次第であります。

私は、陛下の御容体を案じお見舞いの衷情をしたためるために全国各地に設けられた記帳所を訪れた国民の数が800万人に上っていることを承知をしております。

ことしの９月下旬は、特に雨天の日が続きましたが、皇居坂下門の記帳所には、傘を

差して整然と並んだ記帳者の長い長い列が連日マスコミ等でも報道されていました。だれに強制されたというわけでもない、だれに求められたものでもない、霖雨の中にもかかわらず、これだけの多くの世代を超えた老若男女の国民が、おのずからなる意志によってこの全くの無償の行為に参加をしたのであります。

改めて、皇室と国民とを結ぶ絆の確かさと、その心情の温かさを感じ取った人たちも少なくなかったであろう、と思うわけであります。

また、日野市では実現を見ておりませんが、全国の地方自治体でも約1200の市町村が御平癒祈願の記帳所を設置したことも挙げておきたい、と思います。

先日、本会議場の一般質問で触れられておりました長崎市の本島市長は、12月７日に開かれました長崎市議会定例市議会で、共産党議員からの一般質問で天皇に戦争責任がある、という問題発言を行いました。これに対して長崎市議会では本島市長に、自民党、民社党など４会派からなる発言取り消しの要請も行われているわけでありますが、今のところ、これらの要請も無視をされております。

共産党は、これに味をしめて全国各地の自治体や、また、あらゆる場を利用して、こうした発言の引き出しに躍起になるものと思われますので、簡単に、天皇の戦争責任という件について触れておきたいと思います。

そもそも、戦争責任という概念は存在をしないわけであります。戦争責任という言葉が初めて登場したのは、日本の戦争行為を犯罪として連合国が我が国を一方的に裁いた極東国際軍事裁判、東京裁判の時点で初めて使われた言葉であります。このことは、先般封切られた映画「東京裁判」でも、ごらんになった方はそのフィルムの中から、上映の模様の中から承知をされたことだと思います。

この東京裁判以前には、戦争行為それ自体を犯罪とみなす国際法はなかったのであります。日本の敗戦後、その行為の責任を問う新たな法律、つまり平和に対する罪というものをつくって、連合国が日本の行為のみを裁いた東京裁判の法廷で用いられた用語でありまして、連合国側の責任、つまり原爆投下や、ソ連の日ソ中立条約を蹂躙しての参戦等の連合国側の責任は、全く問われなかった裁判での用語であることを認識しておかなければなりません。

その後、この東京裁判での戦争責任の法理は国連、国際連合国際法委員会によって否認をされております。世界の国際法学会でも確認をされている事実であります。したがって、現時点での法的な戦争責任という概念は全く存在をしない、ということを私どもは肝に銘じなければならないわけであります。さらに、天皇に法的な政治的責任があるか

どうか、という点であります。御承知のように帝国憲法の第55条では、「国務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責任ニ任ス」と規定されており、すべての政治的責任は内閣が負うことになっていました。すべての法律や詔勅は、この帝国憲法第55条で「国務大臣ノ副署ヲ要ス」とされております。内閣の署名同意がなされて初めて実際上の効力を持ったのであります。いわゆる御前会議も最終的決議機関ではありません。その後、正式な閣議が開かれて政府としての意志決定がなされたのであります。このように天皇は憲法上、無答責の立場にあり、法的政治的責任はない、ということをこれまた銘記しなければならないと思います。その他、開戦、終戦時の御前会議の性格等についても、内容等についても触れたいわけでありますが、あえて、この場では省略をし、以上を申し述べておきたいと思います。

今、森田市長に求められております市民の要求は、さまざまなものがございます。先ほど申し上げましたとおり、記帳を行うための場所を行政が地域住民に提供する、こういったことも行政サービスの一つと考えれば、そうしたこともやはり考えてもらう必要があろうかと思います。

しかし、さらにさかのぼってみますと、行政に基本的に求められておりますのは、納税者市民の立場に立って物事を処理をしていく、つまり特定の政治団体や職員組合等の立場に立って迎合を強めることではなく、納税者の立場、市民の考え、感覚に沿った、立場に立った行政運営が常に心がけられて行わなければならないわけであります。

森田市長は、今回、私が通告してあります、質問で上げました日野市行財政改革に関する基本方針というものを、みずから昭和62年２月に策定をいたしました。しかしながら、今日これがどのように実行されているのか、前回の議会でもお尋ねをしたところでありますが、何か棚上げが決め込まれ、今日、果たしてどのようにこのみずからが策定をした行財政改革に関する基本方針が執行に移されているのか、甚だ心もとない気がするわけであります。

この基本方針が、おおむね３年間、つまり昭和62年度から昭和64年度を実施期間としていることからいたしますと、来年４月で市長交代となれば全く単なる作文に終わってしまうわけであります。果たせるかな、給与も職員定数も行財政運営も、また職場の士気高揚も全くの手つかずか未達成のものばかりであります。市民の納得が得られる満足な是正と改善はほとんどなされていない、と言っても決して言い過ぎではありません。

私は、ここで、市長が現在この基本方針といかに取り組んでいるか、また任期切れまで残り３月となりましたが、今後の対応はどのようにお考えになっているか、について

以下数点にわたって質問を行います。

最初に、日野市行財政改革に関する基本方針を実行する機関として、組織として市長を本部長とする日野市行財政改革推進本部が昭和61年７月に設置をされております。この組織は、現在どのように機能を果たしているのか、開催状況とあわせてお答えをお願いをいたします。

２番目に、ちょうど１年前の12月議会でありますが、職員の給料表が一部手直しされました。従来の違法な通し号俸制が準通し号俸制へと一部改められたわけであります。ここでは課長補佐の３等級を新設して計６等級までつくりました。しかしながら職務給のシステムの導入は、１等級から３等級まででストップをしております。４等級以下、係長以下は従来のまま、という中途半端なものでありました。議会では、あるべき職務給制度へ可及的速やかに到達するよう市長以下一丸となって努力されることを強く要望する、と附帯意見をつけたのであります。

その後、経緯もいろいろあろうかと思うわけでありますが、今、係長以下への職務給導入については作業が進みつつあるのかどうか、また市立病院の助産婦、看護婦等の医療有資格者の給料表を一般職から分離させるべきではないか、ともかねがね指摘をいたしておりますが、この点についても、あわせてお答えをいただきたいと思います。

３番目に職員定数について質問をいたします。

通告の質問内容は、自治省が定めます人口段階別標準団体定員モデルに基づく市の職員定数について、と通告をいたしておりましたが、第三次の人口段階別標準団体定員モデルの数値がまだ発表されておりませんので、この点については割愛をいたします。

そこで、職員組合のビラ等を見てみますと、来年度職員定数の増員が既に決定されているかのごとき内容のものが配付されているわけでありますが、この件については、実際にはどのような市側の取り組み、また決定したことがあれば、その点についても議会の場に御報告をお願いをしたいと思います。

第４点目は、事務のＯＡ化に伴う人的、財政的効果測定の検討はなされているか、ということについてお尋ねをいたします。

基本方針の中でもＯＡ化の推進がうたわれております。昭和60年11月から事務電算化の第１段階として住民登録電算化がスタートをいたしました。ことしの１月からは印鑑登録事務も電算化が進んでおります。この間に費やされた費用は、９月議会での決算資料でやっと当局によって示されたわけでありますが、それによりますと、昭和60年度から今年度までの４年間に事務費、維持管理費、施設費、そして開発費まで含めて、すべ

ての累計額は５億4,322万円となっております。この膨大な費用、つまり税金でありますが、これらのお金を投入をしたことにより、いかなる財政的効果が生じているのか、また人的な定員配置の面での効果が生じているとは報告されておりませんが、検討されたことがあるのかどうか、具体的に御答弁をお願いをいたします。

最後に、ことしの７月に自治省が公表いたしました、国を上回る給与、退職金の水準を持つ自治体、いわゆる指導団体を指定をいたしました。第三次の指定であります。これに多摩16市、日野市ももちろん含まれているわけでありますが、指導団体として不名誉な名を、これまた一次、二次に続いて連ねているわけであります。

この指定団体になったことによって是正計画というものを自治省に、東京都に出すわけですが、提出をすることになっております。期限は10月末となっていたわけでありますが、今日、この是正計画についてはどのようなてんまつになっているのか、この点についてお尋ねをいたします。

以上、５点について質問をいたします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　古賀俊昭君の質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　１点目と４点目について私の方からお答えしたいと思います。

まず１点目でございますが、行財政改革の基本方針に基づいての状況、あるいはその取り組み姿勢ということでございます。

御承知のとおり、今、御質問の中にありましたとおり一つの行財政改革に対する基本方針を立てているわけでございます。その中で経過としては、推進本部という会議については過去４回でございます。しかし、その間に一定の経過を進めまして、本部の中で方針を確立し、62年の２月の６日のときの本部会議としては、大きな問題としての組織の改定というような問題を方向づけをいたしました。当然その中で、各部所の10回からにわたる調整、あるいは庁議、部長会、そういった経過もあるわけでございますが、これは既に63年４月１日に、一部、組織改定についてお願いした経緯でございます。

現在の状況といたしましては、やはり本部会議の決定に従いまして一つの方向としては、大きな問題として事務事業の外部委託の問題でございます。既にこの問題も本部会議で決定し、現在は庁議の中の報告、あるいは各部所においての対応等を進めまして、６項目にまたがる外部委託についての提案を本年９月３日に組合に提示した、という経緯があるわけでございます。その間、10月の庁議、11月の庁議等におきましても経過、

あるいは各部に対しての要請等を行ってきた状況でございます。

御質問の中の推進本部の会議は、過去４回でございますが、それに関連する庁内の調整、あるいは庁議、部長会等の回数等について重ねながらこの推進を図っている、というのが実態でございます。

なお、４点目の関係でございますが、ＯＡ化に伴う効果と数値、というような問題でございます。２番、３番飛ばさせていただいて申しわけありませんが、４番目をお答えしたいと思います。

御承知のとおり、60年の11月からＯＡ化の推進を図ったわけでございます。御質問の中にもありましたが、第一段階の開発としては漢字住民記録というような考え方で今日に至っております。第二段階については、税関係の開発システム、現在は、先般も議会の中でお答えいたしましたが、第三段階としての財務会計のシステムの開発に努力しているところでございます。よって、その間、60年から63年度まで、すべての経費を含めて５億4,300万というような数字になっているわけでございます。当然、各議員さんからもいろんな委員会の席、本会議の席を通して御質問もいただいております。当然、第一段階の漢字住民記録、第二段階の多少の事業がやや終わっております。

そういう中では、人的な問題というような問題があるわけでございますが、まず第一は住民関係のことを考えますと、本庁、七生、多摩平の職員を考えた場合には、60年当時には52名というような職員の定数であったわけでございます。現行におきましては、63年の今日の時点で45名ということで７名の減員を図っております。しかし、この７名の中には、一つは大きな問題として「動く窓口車」の廃止もしておりますので、その中には３名も含まれている、という御理解を賜りたいと思います。よって、ＯＡ化に伴う職員の減員については、そういう数字の中に今日至っているわけでございます。

中心的な内容としては、本庁の市民課、七生支所、多摩平というような市民部を中心とした部分でございます。当然これに伴いまして、職員の削減に伴った財政上の問題として他の部局への移動、それによってＯＡ化に伴った財政負担の還元に努めている、というような内容が実態でございます。また効果的には、このＯＡ化に伴っての市民サービス面の短縮、住民票あるいは印鑑証明等の交付事務に対する短縮事務がされている、というふうに我々は認識しております。

以上、１点、２点についてお答えいたします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　残された３点の御質問は総務部長からお答え申し上げます。

第１点目の職務給の御質問でございますけれども、御案内のとおり、本年５月１日から完璧な姿ではございませんけれども、導入をいたしてございます。もう１歩踏み込んだ職務給のあるべき姿に向けまして、目下、組合と交渉を重ねておるところでございますけれども、いまだ了解点に達しておりません。協議を続けておりますが、まだ平行線の状態でございます。今後、粘り強く交渉を重ねていく所存でございます。

御質問の中にもございましたけれども、昨年の12月22日、原案を可決していただきました給与条例の改正の附帯意見につきましては、私ども重く受けとめております。今回の職務給は第１段階である。今後、係長職などの導入を初め、すべての職員に当たるあるべき職務給制度へ可及的速やかに到達するよう、市長以下一丸となって努力されることを強く要望する、この附帯意見につきましては常々私ども見直しをいたしまして、重く受けとめております。可及的速やかに、という表現にはちょっとほど遠いものもございますけれども、相手のある交渉でございます。今後も粘り強く交渉に当たってまいりたい、と思っております。

あるべき職務給制度、これにつきましては、事務当局といたしましては行政職１、２表を考えるとともに、御質問にございました医療職を別個に、一般職から別個に考えております。

行政職１表の方につきましては、１等級から７等級まで考えておりまして、このうち３等級の課長補佐職までは、これは実現をしております。４等級の係長職以下について今後進めてまいります。

さらに、行政職２表といたしまして、技能労務職員、これの給料表を考えておりまして、等級は１から３まで考えております。さらに医療職といたしまして、医師、それから薬剤師、医療技術職員、それから保健婦、助産婦、看護婦、このグループに三つに分けました給料表の案を持って、今後も交渉に進んでいきたいと思っております。

それから２点目の職員定数の問題でございますが、63年、本年の５月１日現在、職員の定数は1444人でございます。現在、各職場の所属長から人員増の話も出ております。こうしたことから、市職員の定数の見直しを図っていくことが必要でございますけれども、今後、財政事情がどうなるか、これも非常に不安定な要素でございます。

しかしながら、増大、多様化いたします事務事業、こういった問題も抱えなければならない。そういたしますと、現在の職員の定数の中に余裕はないか、そういう見直しをまず第１段階としてやっていかなければならないと思います。

手順といたしまして、各市の状況でございますとか、あるいは人口段階別の標準団体

定員モデル、これが来年１月ごろ公表される予定でございますので、そういったモデルの数値、それから団体別の定員試算式、こういったものを参考にいたしまして、日野市の職員数を算出いたします。そして、この新しい数値をもとに各職場からの人員要求について、来年の１月から精査をしたいと思います。そして各課における定員について見直しをしていく、そういうような手順を踏んで作業を進めていく所存でございます。

それから３点目の、いわゆる給与の是正団体でございますが、日野市は16市の中に入っております。第三次是正計画についてのお尋ねでございますけれども、いまだ出しておりません。これにつきましては、第一、第二是正計画におきまして、不完全ながらこの職務給の問題を残すのみで、後の件につきましてはすべて達成をしております。

そういうことから、東京都の行政係長と職員課長が口頭でやりとりしたことでございますけれども、日野市は、９項目のうち８項目は既に終わっている。そういう情勢にありますので、第三次の是正計画は文書では提出しないで、口頭で第二次の残ったものについて、積み残したものについて今後努力していく、こういうことで了解をいただいております。

以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　簡単に再質問をいたします。

最初の行財政改革推進本部の現在機能しているのかどうか、という点についてですが、61年から63年まで、今までに４回開かれた、年に１回開かれるかどうかということですね。それで、そのほか庁議や部課長会議等がそれにかわるような役割を果たしている、という意味の御答弁だったと思うんですが、推進状況は、やはり基本方針というものが処方箋ですから、それがうまく機能しているかどうか、実行されているかどうかというのは、その推進本部で見ていかなくちゃいけないわけです。ほかの代替する会合があるからそれで実際には行って、あとは形式的に推進本部の会合が開かれている、ということだと思いますが、まだまだ達成されていない事項が多いわけです。

こういう点からしますと、やはり活発に――市長が本部長ですから、市長が開く気にならなければ開会はできないのかもわかりませんが、お蔵入りするのではなくて積極的に推進本部の役割を果たしていただきたいと思います。この点は結構です。

２点目の職務給の件でありますが、完全な地方公務員法に定められた職務給の形に抜本的に是正をするべきだ、ということは、かねがね議会でも決議もなされ、また先般は１年前、ちょうど１年たつわけですが、本会議で条例可決の折に附帯決議も同時に出さ

れて可決をされた、という経過もあります。

今、総務部長から御回答あった中で、ちょっと確かめておきたいと思うんですが、今のところ、完全に職務給にするのは組合の反対があって、いまだ平行線だ、というお話でありますが、市の考えとしては一般職を行政職、それからいわゆる技能労務職とに分けて２本にする、ということのお話がありました。この点も、私どもかねて主張している大きな柱になるわけですが、ここまで一度に実現できれば、それに越したことはもちろんないわけであります。

また、医療職等についても医師、薬剤師、それからいろいろな技師の方ですね、それから看護婦、助産婦、保健婦、そういった方の給料表も別立てで考えていく、ということで、掲げておられる目標は、一応これでだれが見ても是とするのではないかと思います。ただ、そこまで、果たして一度に着地点まで行くことが可能なのかどうかということです。

といいますのは、これは11月10日の、坂本部長が回答を組合の方に出しておられる回答書というのがあるんですね。「63年度現業労働者にかかわる統一要求回答書」というものですが、これによりますと、５番目にこういうことが書かれております。「当市の給与体系は、現業職、一般行政職の区別は行っていない。今後についても一般職との関係等、十分考慮し慎重に対処したい」――非常に若干の言い回しを含んだ回答にはなっておりますが、やはりこうした回答をお出しになると、給与の現業職と一般行政職の分離というのは、この回答を盾に組合の方もそう簡単に首を縦に振るということもないのではないか、と思うわけです。この点、あくまで一度に給料表の分離、それから完全な職務給の導入を一気におやりになろうとするお考えで望んでいかれるのかどうか、この点、もう一度お尋ねをいたします。

それから、職員定数につきましては自治省の第三次のモデルが来年早々に出されることになっておりますので、現在の職員定数1444名の多寡については、多いか少ないかについては、これはこのモデルの数値が示されてから、ということで後日に譲らざるを得ないわけでありますが、職員定数の増があるのかどうか、ということを私はお聞きをしたわけですが、来年度ですよ、来年１月から精査に入って各課からの要求を検討する、ということですので、増員を前提としたこれは作業かと思いますので、この点、定数増を考えておられるのかどうか、もう一度お聞きをいたします。

それから、ＯＡ化に伴う効果の測定の件でありますが、今後、企画財政部長がおっしゃいましたように財務会計のシステムが開発をされるということで、さらに経費の投入が

行われるわけです。そういった、３年以上経過した時期に新たな事業も進行していくわけでありますが、今までの60年から今日までの３年間を見てみますと、今、企画財政部長がおっしゃったのは、具体的に数字としては市民部関係の動く窓口車の廃止を含んで７名の職員が、一応定数はそのままでありますが、実際には減員することができた、というお答えだったと思いますが、５億円以上のお金をつぎ込んでその効果をはかる場合には、年次ごとにこれだけの財政効果があります、定数配置の面では、こういったことが予測できます、とこういうものが普通、民間でも当然そうでありますが、東京都の導入計画等も見てみますと、きちんと数字が示されているわけです。

日野市の場合には、私が何度もこれは、もう恐らく三、四回は指摘をし、お聞きをしていると思うんですが、全くそういったものが示されていない。何か高級な、子供にファミコンか何かを買い与えて、ただ、ぱちぱちキーを叩いてゲームをやってお金だけかかって、それで終わった、というような感じがするわけです。市税を５億円以上投入して、５億5,000万ですよ。果たしてどれだけの効果が期待できるか。事務処理については、例えば住民登録、印鑑登録等は何分の事務短縮ができる。それに伴って年間の作業時間の縮小がどれだけだ、それに費やされる人員はこうだろう、ということで、当然さまざまな測定が数値としてなされていなければ、私はおかしいと思うんです。聞いても問うても出ないわけでありますので、やっておられない、できていないというのが実態だろう、と思うわけでありますが、その点、ないならないで結構なんです。何かあるような、ないような、出るか出ないかわからないような形で、わずか７名という数字だけでお答えになるというのは、ちょっとお粗末ではないかと思うんですが、この点、もう一度お尋ねをいたします。

そして、今回までの印鑑登録事務の電算化までで、幾つの課で幾つの個別事務が電算化の対象となって、その効果が上がっていると判断されるのか、こういったことぐらいは、せめて精査しておられると思うんですね。お答えをいただきたいと思います。

それから最後の、自治省の第三次指導指定団体の件でありますが、是正計画は口頭のみで提出しない、と総務部長は今お答えになったんですが、提出はどの自治体でも同じように求められていると思うんですが、これは本当に口頭だけでいいのかどうか。それから、日野市の残りの課題は職務給の導入だけだ、というお話でございましたが、これはちょっと違うのではないかと思います。給与の場合、指定団体の基準はラスパイレス指数と給与の仕組みになっておりますので、ラス指数でも日野市の場合には、まだ110を上回っているという現状であります。ということからいたしますと、国家公務員の給

与水準を100とした場合の地方公務員の水準を110以上というのが、指定団体の条件になっていましたので、ラスの面での是正もあると思いますが、この点はもうクリアしている、ということで東京都は不問に付しているのかどうか、この点、もう一度お尋ねをいたします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　再質問への答弁を求めます。総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　再質問の３点のうち１点目が、望ましい職務給のあるべき到達目標について一度にこれを実行するのか、こういうお尋ねでございましたけれども、私どもは、一度にこれを実行に移す考えは持っておりません。まず行政職１表の４等級、係長職、これを職務給に切りかえてまいりたい。そしてさらに、それと同時に医療職の医師、薬剤師、医療技術職員、それから保健婦、助産婦、看護婦、この三つのグループの医療職の給与表をつくってまいりたい、このように考えております。

それから、２点目の定数増を考えているかどうか、これにつきましては先ほどお答えしたとおりの手順を踏みまして、３月にはその定数の結論を出します。その結果をみませんと定数増の問題は、はっきりしてまいりません。私どもは、定数増を前提に、ということなしに現在の職員数を精査してまいる、そういう考えでございます。

それから、是正計画は計画書を出さなければいけないんじゃないか、こういうお話でございますけれども、今までの都とのやりとりでは、口頭で了解点に達している、このように私どもは受けとめております。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　３点目の、ＯＡ化の関係につきましての再質問にお答えしたいと思います。

確かに議員さんからの御指摘があるように、当然ＯＡ化の促進をする場合の考え方としては、当初にある程度の効果、そういった基本的な計画は立てるべきだろう、というふうに思っております。

ただ、この中で第一次の開発は、割合市民サービス面での効果部分でございます。そういう中では非常に事務量の把握、その実態等の掌握については、なかなか困難なものがありますが、実際の状況としては、市民サービス面における時間の短縮、市民を待たさないでいろんな書類を交付できた、という点では、半分くらいの削減ができている、というふうに考えております。

そういった状況の中では、今後財務会計の中では、やはりこれは庁内の業務量の短縮でございます。そういう中では事前に組み立てて、そういった計画を立てた中での基本

的な考え方で進めていきたい、というふうに現状考えております。

なお、当然効果等につきましての各部局の事務量の問題でございます。この事務量は全体的に何％だ、というところまではいきませんが、例えば今までやっていたものをＯＡ化の導入によっての市民部での関係で26件程度がＯＡ化によって導入されている。なお、それ以外には全体の中で福祉部、教育関係、選挙関係等を含んで11件ほどの電算化の事務的な導入がなされている、という把握だけはしております。

以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　職務給の導入につきましては、議会のたび重なる議決、それから指摘、こういったことがございました。そして、市長みずからが提出をいたしました第二次の是正計画では、昭和62年度に職務給を導入する、ということになっていたわけであります。これが一年たってもまだ果たされていないという現状にあるわけでありますので、この職務給の導入については、職場の活性化のためにも早急にやらなければならない行財政改革の中でも最高の柱であろうと思います。この点の進捗がないということは非常に情けなく不満に思うわけでありますが、これからも一層の取り組みをお願いしておきたいと思います。

そして、できれば、一度にやることは困難かもわかりませんが、先送りに、宿題を後々までに積み残すのではなくて、十分なる話し合い、また腹を据えた対応で、できればあるべき職務給の姿に１日も早く是正されることを求めておきたいと思います。

それからＯＡ化の効果については、はっきりしないわけですね。これから財務会計のシステムの開発、それから導入についてはそういったことを少しは考えていきたい、ということでありますので、今までの分を、私どもがわかるような何か資料で提出していただければありがたいと思うんです。待ち時間が、ただ短縮されました、というだけでは、５億円以上のお金です、何か、いま一つ物足りなさをだれしも感じると思いますので、その点の資料の作成、提出をお願いをしておきます。答弁は結構です。

最後の、自治省の公表いたしました指導団体の件で、是正計画の提出の義務を負っていると思うんですが、私が東京都の担当者の方に聞きましたところ、口頭でいい、というようなことはちょっと聞かなかったんです。その点、多少疑問も残りますが、総務部長の本会議での御答弁でありますので、それはそれとしておきたいと思います。

ただ、残されている案件は職務給のみだというのは、これは間違っていると思うんですね、答弁がなかったんですが、ラスも当然対象になっていると思うんです。この点、

はずされているのかどうか、もう一度お答えをいただきたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　ラスにつきましては現在110でございますので、国家公務員の100に比べると高い状況にございます。

それから、先ほどの東京都とのやりとりでございますけれども、口頭で了解していただくような努力をしている、このように訂正をさせていただきたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　ラスの数字もちょっと、62年の４月１日現在では110を超えておりますので、その数字も正確に掌握しておられると思います。当然、110を超えているわけでありますので、これも是正の内容の中に、是正すべき内容に含まれているわけであります。自治省も東京都も口頭で結構ですよ、とは、まだ言っていないということでありますので、その点、くれぐれも御注意いただいて鋭意取り組みをお願いしておきたいと思います。

市長にもお答えいただきたかったんですが、行革ということが叫ばれて久しいわけですが、市民に向けて市独自でやる、ということは、かねがね表明されてきました。しかし、やる、やると言いながら食言を繰り返すといいますか、議会での発言だけはそれなりの御答弁があるわけですが、実際には、今私が申し上げましたように定数の面でも３月議会には定数増が提案されるかもわからない。是正計画はいまだに提出をされていない。給料表の職務給への移行は、まだなされていない。準通し号俸制のまま、いまだ現下、続いているわけでありますので、こういった点、ひとつ３月議会が勝負でありますので、それまでにできるだけ責任を果たしていただくようにお願いをして、この件の質問を終わります。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　これをもって14の１、「日野市行財政改革に関する基本方針」は推進されているか（給料表の適正化、定数管理の適正化、ＯＡ化推進を中心に）の質問を終わります。

一般質問14の２、小学校校長の「米飯給食の回数を週二回にして望しい」との給食調理員への申し入れが、不当労働行為だとする職員組合の主張についての通告質問者、古賀俊昭君の質問を許します。

○24番（古賀俊昭君）　　これは表題のとおりでありますが、日野市職の現業評議会学校給食調理員部会が発行をいたしました11月30日付の「エプロン」というビラに「不当労働行為は許せない、米飯給食の回数増について」ということで、長沢教育長に職員組合

の執行委員長と現業評議会の議長名で申し入れた文書が掲載されております。

これは、御承知のように市内の小学校の、複数の学校でありますが、学校長や教頭も含む、と書いてありますが、米飯給食、つまり御飯の給食回数を週２回にしてもらいたい、ということを、これは口頭でありますが、調理員の方だと思います。そういう給食現場の職員に対して希望を述べた、ということに端を発しているわけであります。ところが、この校長の要求といいますか、申し入れが不当労働行為だということで、まさにいたけだかにかみついているわけであります。しかも文書の最後には「学校長等が行った行為については東京都労働委員会に12月７日をもって提訴するので通知します」――こうなっているわけです。随分、交渉、話し合い等も持たずに、いきなり宣戦布告の形に出ているわけでありますが、まるで――話し合い、また調整が難航し決裂、妥結に至らずという場合には、東京都労働委員会では一度いい結果が出たということもあったのでしょう。すぐさま提訴をするというのは甚だ短絡ではないか、と思うわけでありますが、この件について教育委員会に、何点かについて質問をさせていただきます。

まず、この職員組合が不当労働行為だ、と学校職場での校長、教頭の行為に飛びかかって、かみついているような格好になっているわけですが、この件についての経過をまず簡単に御説明いただきたいと思います。

また、米飯給食の回数をふやしてもらいたいというのは、これはかなり広範な給食関係者の声だと思います。先ほど小山議員も食事は非常に大切だ、ということで質問されておられましたが、学校給食の中で米飯給食の回数をふやしていく、現在の１回を週２回にする、というのは一つの時流のようにも思えるわけでありますが、こうした学校給食の現場で、学校で献立を作成するのは、一体だれがその責任を持って行うことになっているのか、この点についてお尋ねをいたします。

次に、最近よく見かける職員組合の中の団体名称でありますが、現業評議会というものが登場しております。この略称「現評」と言われる、この提訴をすると言っております職員団体現評というものは、どのような性格のものか、この点も御説明をお願いをいたします。

それから、このビラの中には「確認書違反」ということで記述がございます。この確認書というものはどういうものなのか、その内容を教えていただきたいと思います。

それから、今回の米飯給食の回数を週２回にしてもらいたい、お願いしたいという学校での校長や教頭の要望というのは不当労働行為だ、ということは、労働条件の変更だということが頭に、脳裏に焼きついているからだと思うんですね。これは労働条件の変

更だ、と教育委員会は組合の主張を認める立場なのか、この点についてお尋ねをいたします。

それから、実際に米飯は現在週１回、小学校で行われているわけでありますが、学校給食施設の中で米飯給食を週２回にするための厨房施設、つまり炊飯設備等は現在完備をしているのかどうか、この点についてお尋ねをいたします。

以上５点だと思いますが、御回答をお願いいたします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　古賀俊昭君の質問についての答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　お答えをいたします。

まず経過でございますが、組合から11月の29日付で文書を送りつけられまして、私どもとしても大変びっくりいたしました。通常ですと、この種の問題がある場合には、まず口頭で話があってそれで話し合いをしていく、というのが普通のことでございましたので、文書でこれがございましたので大変びっくりしたわけでございます。

私どもの方で早速、各指摘をされました学校等について調査をいたしましたらば、確かに各学校で米飯週２回の実施を試行をしたい、試みに行いたい、という話を校長、あるいは教頭の方からされていた学校があった、ということはわかったわけであります。

これについては、実は既に本年の５月に、教育委員会として米飯週２回実施の方針を出しまして、それを組合に提示をして労使間で協議中でございました。このまま放置をしておきますと、せっかく労使間で合意に向かって動いているところでございましたので、今後の推移に重大な支障になりかねないと感じましたので、私どもの方では校長会の席で現在の状況について説明をし、配慮を求めたわけでございます。

さらに校長会の役員会とも率直な意見交換を行いまして、現状についての正しい見識を持っていただき理解が得られた、というふうに考えております。

こうした事態になったについては、米飯週２回実施についての教育委員会と組合との協議の過程や、あるいは現業評議会という組合の性格、あるいは事前協議に関する協定の存在など、教育委員会として十分な情報を校長さん方に提供していなかった、という点もありますし、校長会等、その点で十分な意思疎通が図られていなかった、というようなこともありましたので、私どもは、その点については反省をしているところでございます。

なお、現在組合は、この文書では12月７日に提訴をする、というふうに書いてございますけれども、組合は現在のところ、労働委員会に対して不当労働行為救済の申し立ては行っておりません。

それから、献立の作成にかかわる問題でございますが、校長の権限というのは、学校教育法に規定されておりますように、公務をつかさどり所属職員を監督する、という形になっております。一般的に学校給食の問題についても、これは文部省の考え方としては、学校給食の運営は教育委員会の指導、助言により当該学校の校長が計画し管理し、職員を指導監督して行う、というのが一般的な考え方でございます。

したがいまして給食の献立の問題で言えば、もちろん校長の指導監督下に入るわけでございます。実際には学校給食会の栄養士部会が、都の栄養摂取標準に従いまして、各校共通の基本献立というのをつくります。それの80%は、それぞれの学校が実施をしている。20%については、それぞれの学校の実情を加味してそれぞれ実施する、という取り決めになっております。これは校長会の確認でございます。そういう形で実施をしますので、栄養士部会の方でつくられた基本献立の80%は各校とも共通というような形になっております。各学校には給食委員会があって給食主任も置かれておりますので、日常的には栄養士が献立をつくって、それを給食委員会、あるいは校長が報告、承認を受けて実施をする、というのが日常的な姿ではないか、というふうに思っております。

それから、現業評議会という組合の問題でございますが、現在日野市では、日野市職員組合現業評議会という組織がございまして、単純な労務に雇用される一般職の職員で組織されている労働組合でございます。これは地方公務員法の57条によりまして、特例措置として別の法律が適用されることになっております。その法律というのは、地方公営企業労働関係法という法律でございます。この法律の規定が準用をされまして、この法律に定めのないものは、労働組合法より労働関係調整法が適用さる、という形になっております。

この地方公営企業労働関係法によりますと、団体交渉の対象となる事項が掲げられております。これは、賃金とか労働時間とか休憩とか休日とか、いろいろございます。その中に労働条件に関する事項というのも当然含まれているわけです。これらの事項は、その労使間の団体交渉の範囲となっております。これに関して労働協約を締結することができる、という形になっております。

労働協約というのは、協定とか確認書とか、いろんな文書の形がありますけれども、いずれにしろ文書でそういう協約を締結することができる、という規定になっております。また、労働組合法の７条の不当労働行為に関する規定も適用されます。この７条で使用者側がやってはならない、というふうに禁止をさている行為があった場合に、その現業評議会は労働委員会に対して、不当労働行為救済の申し立てができる、という形に

なっております。その点で、いわゆる一般の地方公務員法の適用をされる職員団体とは違った性格を持っております。

それで、現在、市と現業評議会との間で事前協議に関する協定というのがございます。この協定の中で、職員の労働条件が変更されると思われる場合については、労使間で事前協議をする、という取り決めになっております。したがいまして、明らかに労働条件を変更する場合はもちろんですけれども、労働条件を変更すると思われる場合についても協議する、という形になっておりまして、円滑な労使関係を維持していくためには、そういうふうな形で協議を進めていく、というのが実態でございます。

それから、確認書違反ということでございますが、これは、先ほど議員さんも御指摘を質問の中でされておりました、63年度現業労働者にかかわる統一要求に対する市側の回答書、というのがございますし、これとほぼ同じ内容のものが、昨年1987年には確認書という形で結ばれておりますので、それを指しているものだ、というふうに理解をしております。

それから、労働条件の変更に当たるのかどうか、ということでございます。小学校においては、従来週１回の米飯給食を行っておりまして、それが週２回にふえた場合にどうか、ということなんですが、初めて米飯給食を実施する場合と、週１回やっていたものを２回にする場合とは、いろいろ１人１人によって考え方は変わってくるかというふうに思いますけれども、例えばパン食の場合ですと、学校に納められたパンをクラスごとに数だけ仕分ければいい、というそういう作業内容で済むわけですが、米飯の場合は、例えば610人程度の小学校の場合ですと、大体１人80グラムのお米が必要になりますので約48キロのお米を炊くことになります。

そうすると、現在、炊飯用のなべ一つでは大体６キロと言われておりますので、なべは８個必要になるんですね。現在、炊飯設備としては六つのなべが同時に炊ける設備が整えられておりますので、612人になりますと同時には炊けませんで、まず６個炊いて、それから次に２個を炊く。大体炊き上がるのに40分ぐらいかかりますので、２回に分けて炊きますから80分ぐらいかかる、というような形になります。なべが大体19キロぐらい、なべの重さと米を入れて水を張りますと、そのぐらいの重さになるわけで、それを三段重ねの炊飯器の中に入れて炊き上げる。しかも炊いたものを学級分のバットに分ける。その後、今度は一つ食器がふえますので、その食器の洗浄その他という問題も伴いますので、こうした作業が週１回から２回にふえる、増加をするというのは、労働条件が全く変わらない、と言い切るのは少し無理のような感じもいたします。

いずれにしろ先ほど申し上げましたように、労働条件が変更すると思われる場合については事前協議をする、という形になっておりますので、教育委員会としても、この週２回実施を可能な限り円滑に進めるためには協議を行っていくのが妥当な方策だ、というふうに考えて、本年の５月に提示をして話し合いをずっと進めてきたわけでございます。

いずれにしろ、この問題は東京都の栄養摂取標準の改定に伴って、市の栄養士部会が検討委員会を設けて検討した結果も、米飯をふやす、という方向を出していますので、本来、労使間でそう大きな争点となるほどの問題ではなくて、労使間の話し合いで十分解決できる、というふうに考えていた問題だったわけでございます。

以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　現評の性格というものもわかりました。いわゆる地公労法の適用があるということで、労働条件等協定を結ぶことは当局との間で可能だ、ということでありますので、今回の米飯給食の週２回についての校長先生方の希望について、いきり立った、ということになろうかと思いますが、わからないじゃないわけですが、組合のこのビラを見てみますと、組合の方の主張の中にも「小学校における米飯給食の週２回化に向けた具体的な対応をとりますが」とあるんですね。関係者も米飯給食を望んでいる。また、献立を責任を持って作成するのは、学校においては実際は栄養士の人がつくるけれども、校長が最終的にはそれに責任を持つ、ということでありますので、校長の考え方が、米飯について週２回ぐらい何とかやってもらえたらどうか、ということであります。

今年の５月には、教育委員会も職員組合に対して週２回を提案をして協議しているところである。お互い余り隔たりはないんですね、ないんですが、いきなり――教育委員会もびっくりしたとおっしゃっておりますが、東京都労働委員会に提訴をする、と文書を送りつける。持った刀は抜きたくなると思うんですが、当事者能力がないときに初めて、お互いに話し合ってもおれたちじゃどうしても解決つかんわい、ということで第三者に、ひとつお願いをしたい、というのが東京都労働委員会に持ち込む場合だろうと思うんです。お互いに解決能力がないということを認めたようなものでありますので、余りこういう形を最初から掲げて何か交渉に臨むというのは、ちょっとアンフェアな気もいたします。また、大人げないという気もするわけです。

そこで、今、教育次長のお話では、原因は校長先生方がそういう労務に関するさまざ

まな公務員関係法の知識とか、労働条件についての現業評議会との取り決めとか、そういう細かい教育委員会と組合との間の約束ごと、そういうものについて十分な情報と知識がなかった、あくまで校長や教頭の方は善意で、早く確実に64年度からは、ひとつ週２回に向けて今から努力をして実現をしたい、という善意であったろうと思うわけですね。ですから、その点をとらえて、駆け込み寺といいますか、東京都労働委員会に、いきなり持ち込むというのは、みんな同じ考えでいるにもかかわらず、何かそれを逆に組合が否定をするような、つまり自己矛盾といいますか、自己撞着、こういったことにもなろうかと思うわけです。

こういった点、教育委員会も十分に、無用の摩擦が起きないように情報の提供も学校現場にしていただいて、米飯の週２回ということが実現するように取り組んでもらいたい、このように考えます。

学校給食も終戦後からスタートをしまして、最初は栄養補給ということでその役割を担ったわけですが、40年以上経過をするということで今度はデザートをつけたり、給食にもかなり幅と余裕が出てきた、という中での今回の米飯給食の問題であります。

その点もう一度、お互いが大体同じ視点、同じ考えに大体立っている――大まかにですよ、現状にあるにもかかわらず、こういった問題が起きる。また、校長や教頭の立場にすれば、何か、いきなりこぶしを振り上げられたような格好でありますので当惑されただろうと思うんです。こういうことがないように、ひとつ十分に注意をしていただきたいと思いますが、64年度からの米飯給食、小学校で２回行っていく、ということについては、合意が得られる見通しなのかどうか、幸いに12月７日に宣戦布告をする、といったにもかかわらず持っていってないわけでありますので、何とかうまくまとめていただきたいと思うわけでありますが、その点、教育委員会の見通しはどうか、もう一度お尋ねをいたします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　　お答えいたします。

昭和64年度の年度当初から米飯の週２回実施を実現をしたい、ということで今努力をしておりまして、必ず実現できるだろう、というふうに思っております。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　この件は、ビラに書かれたほど、さほど大きな問題でなかった、と言えば組合に叱られるかもわかりませんが、そういうことも可能ではないかと思うわけです。

ここで、先ほど小山議員の方から、いろいろ、また三田病院長の方からも食事のことでいろいろお話がありましたので、ちょっとだけ、時間もありますので触れさせていただきたいと思うんですが、日本食が見直されている、健康食であるということで、欧米型の食事のパターンから日本型の食事へと、その献立の内容も改善をされてきている中で、今回の米飯給食の回数をふやす、ということに時流としてはあると思うんですね。

米飯給食の回数をふやしてもらいたい、というのは子供たちだけの要望だけでもないようです。いろいろな資料を見てみますと、例えば給食の試食会などを行いますと父母の声の中にもそういった要望が強い。給食も主食が御飯だったらいいと思う、というような意見も多いそうです。また、日本人の食事であるから和風の献立をふやすのがいいのではないか、また、朝は大体パンを食べているので昼はぜひ御飯にしてもらいたい、こういうことが大体父母の御意見としては多いようです。ですから、米飯給食にできるだけ切りかえていってもらいたい、というのは子供たちだけの意見ではない、ということであります。

また、給食で和食、つまり日本食を食べますと、御飯は当然はしをつかわなければならないわけです。最近は、はしの持ち方がうまくない、というようなことも子供たちを見てよく指摘をされるわけでありますが、そうした米を中心に発達してきた日本の食文化、こういうものを守っていくためにも一つの意義があるのではないか、と思うわけです。

また、国の方でも米飯給食の普及を図るということで、米の消費拡大ということも、もちろんあるわけですが、昭和51年度から米飯給食にかかわる普及計画をつくって、昭和56年度を初年度として新計画を立てております。昭和60年代初期までに米飯給食回数を週３回程度に普及定着させる、ということを目的にしているそうであります。

また、米穀については米飯給食の普及を図っていくということで、昭和51年度から政府売り渡し価格をさらに値引きをして、日本学校健康会に売り渡しているということで文部省、国の方でもこの米飯給食に力を入れている、ということでありますので、そうした背景をよく承知をして、これから対応していっていただきたいと思います。

なお、先ほど教育長のお話にもありましたが、東京都の学校給食の実態というものを見てみますと、都でも米飯給食をやはりふやすということで、週２回をやはり目指して昭和56年度以降その促進に努力をしている、ということが書かれております。また、昭和61年度に新たに栄養摂取基準の検討を行って、昭和62年度から新標準を適用しているということで、この中にも米飯給食が盛り込まれているわけであります。これは先ほど

教育長の御答弁であった内容であります。

ここで給食というものが果たしている役割は、大体、それぞれ皆さん御承知のとおりでありますが、私が今回いろいろ調べてみました中で、幾つか勉強させられることがありました。米というのは、非常に昔から私ども日本民族が主食として稲作を行い、米を食べてきたわけです。最初は、玄米を蒸す方法で食べていたということであります。これをおこわと言ったそうです。おこわというのは強い飯と書くんですね。非常に固かった、固いので一生懸命かまなくてはいけない。かむと目尻と耳との間にある筋肉が発達をする、ここが痛くなる、痛くなるのでここを「こめかみ」、米をかむ筋肉ということで「こめかみ」と言うようになった、ということも知りました。

また、私たちの体は蛋白質でできているということで、その供給源でもある。我々人間が活動する場合に直接エネルギー源になるのが糖質と呼ばれるものでありますが、それらが精白米にはふんだんに含まれている。つまり、我々が生活活動を営むために必要な基本的な栄養を提供するのが米である、ということであります。

さらに、こういう話もございました。

話は少々古くなりますが、明治９年、1876年にドイツの医学者でベルツという人が東京大学に講師として参りました。この人は、約30年近く日本で医学の指導に当たるわけでありますが、この人がベルリンに、ドイツに帰って講演をしております。その講演が明治34年の中外医事新報というものに出ているわけでありますが、その講演の内容というものは、明治20年ごろ、日光見物に人力車の車夫と一緒に出かけた。その車夫の食事について書かれているのであります。この日本人の車夫は、54キロの男子を乗せて朝早く東京の上野を出発して、14時間半で110キロを走ってその日のうちに日光に到着をした。ベルツは非常に驚くわけです。

何が原因でこのような能力を、この人力車を引く車夫は持っているのだろう、ということで、食事を調べるわけであります。そうすると、その車夫の食事は多量の御飯と野菜であった、ということであります。このことに興味を持ったベルツは、さらに２人の人力車を引く車夫、22歳と25歳の人に同じ食事内容で80キロの荷物を乗せて、１日に40キロを走ってもらったわけです。そうすると車夫の体、健康状態は非常によくなって体重もふえるわけであります。さらに今度は、一方には御飯を減らして肉をたくさん与える。肉食を車を引く人に食べてもらって、同じ条件で走ってもらったところ、３日間で体調を崩して疲労が激しくなって、もう車夫はこの食事を食べなくなった、ということであります。

こういったことを日本で明治、日本の医学の発展に貢献をしたベルツという人が米の持つ効用というものを当時ベルリンに帰った後、ドイツでこういう話をしているものが記録にございます。お米を食べてがんばれば、かなりのエネルギーは出てくるということでありますので、日本のこの米食というもの、今、自給できるのは米だけでありますので、ぜひ瑞穂の国、日本の主食を大事にして日本人の食生活を守っていきたい、と思うわけであります。

４月からの米飯の給食、週２回になりそうだという明るい見通しもありますので、ひとつ日本民族の融和の精神を持って、何か訴訟を持ち込むとか、こぶしを振り上げるような大人げないことはやめにして、ひとつ、きちんと指導をして教育委員会も対応していっていただきたい、このように思うわけであります。

質問を終わります。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　これをもって14の２、小学校校長の「米飯給食の回数を週二回にして望しい」との給食調理員への申し入れが、不当労働行為だとする職員組合の主張についての質問を終わります。

一般質問14の３、市役所の「赤旗」を撤去せよの通告質問者、古賀俊昭君の質問を許します。

○24番（古賀俊昭君）　　これはもう議論の余地のない問題であります。何回も本会議場で私はこのことを求めているわけでありますが、御承知のように日野市庁舎管理規則に、きちんと第５条６項に規定もございます。また11条にも、この「赤旗」の掲示はやはりだめなんだな、ということが明らかにわかる条文がございます。これを撤去してもらいたい、ということが私の質問の内容でありますが、難しいことを言ってもどうかと思うんですが、いろいろ判例等を見てみますと、ビラ等も同じなんですが、市長や庁舎の管理責任者には公物管理権、公の物を管理する権利があるんですね、こういうものが判例でもきちんと確立をしている。市長が御自分で職員組合の事務所のベランダにある旗を撤去しても、もし、何で勝手に取った、というふうなことで所有権がどうのこうの、という騒ぎを起こされても法律はきちんと市長を守ることになっております。撤去される御意思があるかどうか、お伺いをいたします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　古賀俊昭君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　　市民の公有財産という意味もございますので、一つの規律としては私物は、なるべく持ち込まない、ということが適切だ思っております。

そのような観点から指導もいたしてまいりましたし、これからもいたしたいと思っております。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　その答弁は、何回となく聞いてきたわけですが、革新市政だからああいったことが許されるのか、革新政党の人は一言も言わない。むしろ愉快に思っているのではないかと思うわけです。

我々は、やはり法律を守る。公務員法や、それから憲法も含めてそれぞれ守らなければならない法律は、いろいろあるわけです。議員は選挙をやれば公職選挙法の遵守に心がけるわけでありまして、そういったことを全くお構いなしにやる人たちもいるわけでありますが、市長がやはり、そうしたものに手をかすということは好ましいことではないわけです。３月任期中までに撤去の可能性があるかどうか、重ねてお尋ねをいたします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　指導してまいりたいと思っております。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　16年間翻ってきた赤旗が、快く思わない市民の方も多かったと思うんです。前にもお話ししましたが、市民会館が落成をしてつくられた記念パンフレットには、その赤旗が写っております。こういったことが市の当局から見れば余り、さして問題に感じておられない。感じていても感じない立場をとらざるを得ないのかもわかりませんが、市の建物は市民の共有の財産でありますし、これを特定の人や特定の団体が勝手に規則や法律をねじ曲げて使用をする、またその建物本来の目的を逸脱するということは、本来、建物の管理責任者として、市長は厳しくその挙に出なければならないわけです。この問題は市政の基本から、根本から抜本的に、根本から覆して取り組んでいかないと今の森田市長のもとでは解決は難しいのではないか、と思うわけです。

市長は、努力をするということを議会の場で今おっしゃいました。市長の任期は４年間、森田市長の場合は来年の３月で、４月に多少入り込むわけですが、任期は終わるわけです。みずからの言動というのは、議員もそうでありますが、任期中にやるかやらないか、当然それが条件として一つの枠があるわけです。

口先だけの市長なのか、はたまた、そうでない誠意のある森田市長なのか、じっくりと見届けたいと思いますので、言葉に偽りのないことを期待して、この質問を終わります。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　これをもって14の３、市役所の「赤旗」を撤去せよの質問

を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（一ノ瀬　隆君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後０時27分　休憩

午後１時34分　再開

○副議長（一ノ瀬　隆君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問15の１、東西平山区画整理の見通しとその間の問題点の対応についての通告質問者、高橋徳次君の質問を許します。

〔16番議員　登壇〕

○16番（高橋徳次君）　それでは通告に従いまして、東西平山区画整理の見通しとその間の問題点についての質問をさせていただきます。

今回の質問は、区画整理そのもののことよりも、むしろその間に$_{33}$いずれにしても区画整理というのはかなりの歳月を要しますので、その間におけるこの地域の生活環境整備等の考え方について伺いたいと思います。

そこで、まず質問いたしますけれども、この地域の区画整理の今後の見通しと、大体いつごろ完了するか、その点を質問いたします。お願いします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　高橋徳次君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　お答えいたします。

西平山の土地区画整理事業でございますけれども、現在92ヘクタールを予定をいたしまして準備をしているところでございます。現在、現況の測量でありますとか、環境アセスメントの評価でありますとか、それからどのようなまちづくりをするか、現在その準備をしているところでございます

当初の計画では、地元説明会を本年の10月ごろ開く予定でありましたが、この区域内に住んでおります権利者の方から道路の問題でありますとか、環境問題、それから減歩の問題等もろもろのことにつきまして、意見、要望等が出ているわけでございます。現在その辺の話し合いをしておりまして、10月ごろ予定をしておりました説明会が来年になる、ということでございます。

その後の予定になりますと、いわゆる計画決定、それから事業認可をとりまして事業

の着手、ということになるわけでございます。順調に行きましても事業認可をとるまでには、まだこれから、およそ２カ年ぐらい必要になるわけでございます。

それで事業に着手いたしまして、当初事業認可をいただける段階での事業期間は、約８年ということになります。したがって、順調に今後進めば昭和74年ごろ完了ということになるわけでございます。これは、あくまで現時点での予定といいますか、計画でありますので、今後いろいろ地元との話し合いの中で時間を要するということなりますれば、その分だけ先に行く、というようなことになろうかと思います。

以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　高橋徳次君。

○16番（高橋徳次君）　これは、再々この席でも申し上げたとおり、この地域は非常にへんぴなところで、これといった公的な施設はほとんど、川北地区センターですか、今回増改築されますけれども、ただ一つで、あとは要するに満足な道路もない。また、その他の公的施設は全然なし、というようなこ状態で、かろうじてあった少年野球ですか、これの２面あった河川敷のグラウンドですね、それからサッカー場ですか、これも建設省の河川改修ということで使用不能になってしまった、というようなことでございます。

また、道路といっても東西に抜けられる道路というのは、電車区の東側を通っている補助12号線ですか、これが１本東西に通っているというだけで、あとはほとんどが農道に近いような道路きりない。したがって、側溝の整備ですとかというようなことも、なかなか行き届かないということで、この地域には下排水でほとんど吸い込みが多い、というような状態でございます。

この補助12号線にいたしましても、前からこの拡幅を、ということはお願いしていたんですけれども、検討します、ということで現在に至っておりますけれど、ついせんだっても循環バスですか、これも結局補助12号線が、幅が３メートル、ないし広いところで４メートルぐらいきりない、ということで警察の方では危険だということで、この間の循環バスの通行は不能になってしまっております。

しかし、反面、朝晩――この件は２番目の質問にも関連してくるんですけれども、平山工業団地へ向かう車ですね、これが非常に数が多い。そこへもってきまして朝１時間の通行制限がある、というような片側通行な状態で、地域にとっては非常に、あって不便な道路ということで、前にも一度この朝の車禁ですね、これを解いてもらいたい、というふうに警察の方にも申し入れたんですけれども、なかなか思い腰を上げてくれないということで、やむを得ず八王子警察へ頼んでこの道路に通じてくる――長沼橋を渡っ

て通じてくるわけなんですけれども、ここに湯殿川という橋がある、その堤防を朝の一方通行にお願いした。その結果、長沼橋の車の量は減ったんですけれども、それがそっくり滝合橋へ回って、やはりこの12号線へ来てしまう、というような形に現在なっております。ですから、朝７時から８時半ごろですか、この間は、この道路はほとんど地域住民は使用ができないくらいの混雑の状態でございます。

そういった中で、しかもこの12号線には平山大踏切という踏切がございます。これはやはり幅が３メートルあるかなしかの幅で、非常にここでは、過去において何度か大きな電車と自動車の事故も起きております。

そのほかの道というと、結局もう農道へ仮舗装したというようなところで、その辺の道を車が多く通るということで、せっかく舗装してもすぐ痛んでしまう、というような状態です。

そのほかに、先ほども申し上げたとおりセンター以外にほとんど公的施設がないというので、今、部長の方から説明がありましたとおり、大体、完成が８年後というようなお話しでしたけれども、せんだって、先ほどの話もありましたとおり昨年10月末ですか、滝合小学校で二度にわたって説明会を開いて、その時点では本年の10月またやるということ、そのこと自体が既にもう来年になる、というような状態で、この８年が遅れこそすれ早まることはない、というような中で、この地域に住まいする人は非常に不便をかこっている。もう長い間、不満を漏らしながらもどうにもならない状態で今日に至っている。またそれをさらに長い間、我慢しければならない。

それで、いろいろな問題が持ち出されてくるんですけれど、いずれにしても、区画整理をやるということで逃げられてしまう、といった中で、せめてその区画整理が完了するまでに最低限の生活環境関係の整備ですね、これは、ぜひ行っていただきたいと思うんですけれど、いずれにしても、この辺をどのように考えておられるか、その点、伺います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　再質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　建設部長、御答弁申し上げます。

ただいまおっしゃいましたように、建設部関係といたしましては区画整理をするというところは、危険であるとか、防災上どうしても必要であるというようなものを除いては、なるべく手をかけない、という方針でございます。

今、話を聞いておりますと、補助12号線ですか、これは幅が３メートルないし４メートルよりないし、あとは農道である。公的施設もない、というようなことでございます

が、しかも、今都市整備部長の発言によりますと、あと８年もかかって完成してくる。しかし、８年の間に逐次区画整理をやっていくわけでございますので、部分的には改良されていく、というぐあいに見ております。完成するのが８年後である、ということでございまして、基本的には建設部としては、区画整理に――議員さんもおっしゃっていましたけれども、何と言ってもすぐ区画整理、区画整理ということで逃げていく、ということでございますけれども、原則といたしましては、やはり区画整理に委ねたい。しかし、どうしてもという場所がございますれば、ひとつ建設部の方にお知らせいただければ幸いである、というぐあいに考えております。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　高橋徳次君。

○16番（高橋徳次君）　　今、部長に返答をいただいたんですけれども、この点について市長はどのように考えていられるか、市長の意見を伺いたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　西平山区域の都市整備を図りたい、ということを考え出してからでも既に10年はたったと思います。

最初は、住宅局の取り組みがございましたし、それから、その後日本住宅公団に、ある一定戸数の住宅を建てるための開発を芯にしてまちづくりに取りかかろう、ということを始めたわけでありますが、それぞれ土地の確保が得られなかった、つまり地主さんの協力が土地を手放すという形では得られなかった、ということで成立をすることができなかったわけであります。

そこで、市施行によって区画整理手法を本格的に取り組もう、ということで始めて、今、若干のにち日がたち、昨年は第１回目のごく初歩といいましょうか、初度の説明会から始まった、こういう状況であります。

その区域は、92ヘクタール、つまり2・2・6号線路線以西、鉄道の南、そしてあそこにあります滝合団地と、それから平山住宅を除いた範囲を区域として都市計画に取り組もう、ということが筋道でございます。その中に大きな公共事業としては、言うまでもなく都市計画道路としては1・3・1路線、またその1・3・1路線は、その地域の公共下水を処理するためにもぜひ必要である、こういう性格を持っておるものであります。

そのほか小学校用地１校、それに加えて西豊田駅というべき駅の新設を目指そう、こううことが、今総合的な内容となって、骨組みとなってまちづくりの核が考えられておる、こういう事情でございます。

全体の説明会を開き、10月ごろに次の第一歩の説明会をするということになりました

が、地域の部分的な意見が二、三出てまいりまして、それとの対応を今やっておる、こういう状況であります。

しかし、地域問題で余り深く取り組んでいると全体をまた遅らせたり、あるいは情報の不十分なための不信をつくり出す、ということもありますから、全体の中で部分的な問題は判断をする、協議をする、こういうことで取り組むのが成功法である、ということを今、指示をし、そういうふうな考え方でこれからも進む。私もまた、地域に出向いてしっかりと御相談もさせていただいて積極的な取り組みを進めていこう、これが現在の西平山地域に対します状況であります。

西平山に文化施設を、という住民運動もございまして、この間おいでになっていただきましたので、その次第をよくお話をいたしまして、つまり公共事業は公有地なしにはできない理由、その公有地の確保は、また区画整理によらなければ成り立たない理由、このようなことをよくお話をいたしまして、一応の了解もいただいた、と思っております。あと、手順を正確に進めまして事業を本格化し、なるべく年次を詰めた形で実施をしていこう、こういうことになるわけでございますので、よろしく御理解をし、また御支援御鞭撻もお願いをしたいと思っております。

以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　高橋徳次君。

○16番（高橋徳次君）　　いずれにいたしましても、この地域、区画整理が早く進んでくれればそれにこしたことはないんですけれども、そういった中で住民の方が一番心配しておりますのは、やはり机の上でどんどん、どんどん線を引いていってしまって、そこに住民の要望なり考え方なりが無視されてしまっている、というようなことで、これでは困る。第一回の説明会の会合の結果、大分あちこちでいろんな意見が出てまいっております。

いずれにしても、区画整理ということは非常に大変なことで、広範囲にわたりますので総論賛成、各論反対、また呉越同舟しても、また呉越同舟した人がまた同じ同舟をいく、というような形になりがちなので、大変だとは思うんですけれども、この地域は本当に長年不便をかこっておりますので、区画整理の方も鋭意、極力進めていただきたいと思います。

そういった中で、関連してちょっと一、二聞きたいんですけれども、区画整理にあわせて行えば、という考えからしますと、この地域には本当に、先ほども申し上げましたとおりグラウンドがない、かろうじて滝合小学校ですか、ここを借りて少年たちが多少

やっている。しかし、これもなかなか不便だからというようなことで、一時、公社が買い上げた電車区の西側の土地ですか、ここもお借りしたい、ということであれしたんですけれども、既に老人農園になってしまった、といういきさつがありまして、ただ、ここに滝合小学校と平山橋の中間の堤防のところに霞堤があるんですね。ここに多少の広さがあるんですけれど、ここは区画整理の中でも公園用地として予定されている土地だと思うんです。ここを整備して、子供たち、ないしは老人の方のゲートボールなりというものに整備できないかどうか、という１点と、それから先ほどちょっと話に出ました長沼橋、これは一車線きり通れない、という狭い橋で老朽化もしているし、建設省の方から八王子の方へかけかえたい、というような話が来て、また八王子と日野市も、話を多少しているように承っているんですけれども、その辺を教えていただきたいと思います。お願いします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　お答えいたします。

滝合小学校と滝合橋の間の霞堤になっているところがございます。そこは現在、霞堤から上流の方に向かって堤防の改築をいたしまして、階段堤防というようなものもでき上がって非常に景観もよろしくなっております。

そのところには、霞堤から水路が流れ出しておりまして、これの処理をどうするか、また建設省では、いつごろ、そこをふさいでいくのか、ということが問題でございまして、今のところ、65年までには長沼橋ですね、あそこのところまで持っていきたい、ということを言っておりますが、やはり堤防をふさいでそこに樋門をつくる、という後に――あそこは建設省用地でございますので、そのような、建設省は方針を示しております。

それからもう１点、長沼橋は、これは行政区域は八王子市でございまして、建設省の京浜工事事務所の方から八王子市に問いかけを、どうしよう、稼動の掘削をいたしますので、どうしても橋梁を補強するんならばかけかえた方がいいだろう、ということで八王子に相談があったそうでございます。八王子の方から日野市の方に、正式にはまだ文書はいただいておりません。ということは、口頭だけでは困るので八王子市長から日野市長あてにひとつ協議書、どういうことを協議したいんだ、ということを明確にした、協議したい、という申し込みをしてほしいということを八王子に申し込んであります。

そして、いろいろと八王子市の方も区画整理というような話もございますし、また、こちらは西平山の区画整理ということもございますので、その辺の整合性も持たせなく

てはならんだろう。幅員は12メートルにしたいんだ、ということでございます。ですから、まだ正式には――建設省は八王子に相談を持ちかけ、八王子から日野市の方に協議が来る。まだ、その協議書はいただいておりませんので、今後よく協議していきたい、というぐあいに考えております。

以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　高橋徳次君。

○16番（高橋徳次君）　いずれにいたしましてもこの長沼橋ですか、これは本当に狭隘で老朽化しているし、車１台きり通れないような状態なので、早く、また今度は、むしろ日野の方から積極的に八王子市や建設省へ働きかけて、１日も早くつけかえができますようにお願いしたいと思うんです。

ただ、聞くところによりますと水流の関係で、これは、今度の橋は直角ではなくて斜めにかける、というふうな建設省の意向のようですけれど、そうしますと、今度は区画整理の中の橋へつながる道路ですね、これもあわせて考えておいていただきたい、と思うんです。

それから、その霞堤にある河川敷ですか、これは早く建設省の方へ話して、ここのところ、あちこちで工事をやっています。その残土の捨て場所がなくて困っている業者が多いようですから、こういうところを埋め立てて早く公園等にして活用していただきたい、ということを要望しておきます。

最後に、ちょっと１点だけ伺いたいんですけれど、西平山四丁目の浅川の鉄橋の下流の北側ですね、そこにかなり広い用地があるんですけれども、これは、一部建設省の河川敷が入って、３分の１くらいですか、入っているようなんですけれど、この前、この地権者を集めて、ここを組合施行で区画整理したいんだ、というふうな話があって、その地権者の会合を持ったということなんですけれど、その中の地権者の１人の方が、なぜ行政区域が八王子で、東西平山ないしはその他の多くの区画整理を抱えている中で、八王子の行政区域のあれを組合施行でやってくれ、という市の要請の真意がわからないんだけれど、その辺がどの辺にあるのか確かめてくれ、というふうな質問が来ておりました。

それで、ついでにお伺いするんですけれども、そういったことがあったんでしょうか。また、あったらどういうあれでやられたのか、その点をちょっと教えていただきたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　お答えいたします。

本件につきましては、過去の一般質問の中でお答えをしたような気がするんですが、西平山の区画整理にあわせて浅川沿いの八王子市域分の土地についても一連として基盤整備ができないか、という御質問があったわけでございます。そのときにもお答えした内容は、現在の区画整理法の中では、市域をまたがって市施行で行うことは不可能である、ということが大原則でございます。

そうしますと、その隣接地をどうするかということになりますと、八王子市域分を八王子市あるいは組合施行で区画整理をするか、あるいは都市計画法に基づきまして開発行為の形で整備をするか、ということになるわけでございます。この件につきまして、日野市の方から八王子市の方に市の計画の概要と将来の構想も話しまして、この浅川沿いの細長い地域の八王子市分につきまして基盤整備の要請をしたわけでございます。

八王子市としては、本来なら八王子市が直接乗り出しまして、各権利者に基盤整備の必要性を説明するわけでございますけれども、差し当たって日野市との関連も深いわけでございますので、日野市の方から、まず話をしていただきたいということで、１回目のアプローチを日野市がした、ということでございます。

それで、地権者の意向によって次回からは八王子市が乗り出す、そういう経過のもとに日野市が、一度でございますけれども説明会を開いた、ということでございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　高橋徳次君。

○16番（高橋徳次君）　この方には、前にも、私はそのように御説明申し上げたんですけれど、とかく行政というものは面倒くさいこと、難しいことは避けて通るというような中で、こういう面倒なことをなぜ持ち出したのか、何か裏があるんじゃないか、私自身は、いや、そんなことはない、ということで説得はしたんですけれども、なかなか納得してくれない。いや、これはきっと何かある、というようなことで再度お聞きしたわけです。

いずれにしましても、この地域は本当に不便な地域でありますので、なるべく区画整理は区画整理として、可能な限りは日常の生活環境整備ですか、これは前向きにやっていただきたいということを要望して、この質問を終わります。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　これをもって15の１、東西平山区画整理の見通しとその間の問題点の対応についての質問を終わります。

一般質問15の２、旭が丘千代田自動車跡地の公団住宅建設と横河メディカル建設に伴う旭が丘小・四中学区の通学路及び周辺の交通等の整備についての通告質問者、高橋徳

次君の質問を許します。

○16番（高橋徳次君）　それでは、旭が丘千代田自動車跡地の公団住宅建設と横河メディカル建設に伴う旭が丘小・四中学区の通学路及びその周辺の交通の整備について質問をさせていただきます。

まず、この地域の交通状態を申し上げますと、私、前に交通対策特別委員会でも、この点には、ある程度触れていたんですけれども、朝７時半から８時半ごろですか、この間、先ほどの長沼橋から工業団地、また滝合橋から補助12号線を通って工業団地へ向かうという、主として八王子、相模原方面の車ですね。この間、要するに工場の方へ向かってくる方は一方通行で許されていますけれど、逆に西から東へ入る方は車禁になってとめられていますので、便利なのは市外の方で、市内の方はどちらかというと不便をかこっている、というのが、この補助12号線でございます。

この補助12号線は、豊田団地を抜けて工業団地へ向かっていくわけなんです。それと同時に今度は、片や20号から国道16号のバイパスの石川入口というのが坂の途中にあるんですけれども、そこから右折して2・2・6号線ですか、平山橋へ抜ける道ですね、これを通って旭が丘小学校の校門前を通って、やはり工業地帯へ向かってくるということで、朝晩この道路は非常に混雑する。その上、今度は16号の国道のバイパスが開通して、その入口がやはり浅川のすぐ下にできたもんですから、これが要するに、やはり私どもの大和田自治会というんですけれど、その12号線の続きですね、それを通って豊田団地を抜けて、この工業団地へ……。それで、一切がその工業団地で合流する、ということで、朝晩の自動車ラッシュというものは非常に数が猛烈に多いということですね。

そこへ持ってきて、今度はここへ公団ができ、横河メディカルができ、この車が相当数入ってくる。恐らく、最終的には600世帯ということで、せんだっての行政報告にもありましたとおり、もう来年の３月だか入居者募集、また横河メディカルも操業を開始する、というような中で、さらにその車の台数は増加していく。

時を前後して、４月からは小学生にしても中学生にしても新入生の入学時期を迎えるということで、その上、今度は旭が丘六丁目ですか、それから2・1・3号線ですか、帝人の前の通りですね、これはトムスポーツですか、ここへ来る車がこの両側へびっしり駐車してしまう。これがまた長時間の駐車ということで、さらに公団の方自体としては、駐車場を230だか300だか駐車場そのものは確保しているようですけれども、恐らく全部が入り切った暁には、とても収容しきれないんじゃないか、というようなことで旭が丘小学校、それからまた四中にしましても、非常にこの点心配して、また地元の自治会も

非常に心配しまして、関係の３自治会、それから旭小と四中で、もうこの７月ごろから話し合って、いろいろ案を練ってきたんですけれど、一応５項目にわたって善処方を教育委員会の方へ申し入れてあります。

そういった中で、一応その後、それがどのように図られたか教育委員会の方から御答弁をお願いしたい、と思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　高橋徳次君の質問についての答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　ただいま御質問の中にもありましたように、旭が丘、上野原自治会、それから大和田自治会、豊田団地自治会、それぞれ会長さんから11月の５日に「小学生の通学路安全対策についての要望」というのを教育長あてにいただきました。この中では５項目ありまして、信号機の設置とか速度制限とか、あるいは車の通行規制だとか、ガードレールの新設だとか、あるいは違法駐車の取り締まりだとか、こういったような内容が含まれております。

確かに環境が変わりますと、それに伴いまして通学路の安全性の問題にも全く影響がない、というわけではございません。今いろいろ御指摘がありましたように、いろいろ変化もありますので、私どもとしても通学路の安全を確保する上で必要でございますので、関係するそれぞれの課に文書をもって、善処方について御依頼を申し上げました。

以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　高橋徳次君。

○16番（高橋徳次君）　この中で警察関係ですか、速度制限ですとか、それから違法駐車ですね。信号機の設置ですか、こういったことは警察関係のことになりますので、教育委員会の方へ要望書を出すと同時に関係自治会と、また学校の関係者とで警察の方へ行ってまいりました。警察の方は、何とか善処したい、ということでございます。

それで、この中でちょっと聞きたいのは、これは都市整備部の方になると思うんですけれども、今、次長の答弁の中に、この出入口の件ですけれど、要望の中には、少なくとも朝晩この駐車場、300台ぐらいの駐車場が、この中に設置されるということのようですけれど、これにメディカルの車の出入り、出入りが２カ所ばかりあるんですけれども、相当、朝晩の出入りの混雑、それから日中の車の出入りが多くなると思うんです。それとガードレールですね、これについては公団の方へ話し合ってくれ、というふうな要望をしてある思うんですけれども、その点、どうなっていますでしょうか。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　お答えいたします。

駐車場でございますが、入居者用といたしまして293台設置するということでございます。この車の出入りでございますけれども、この団地の東側のいわゆるメイン道路が工場関係の従業員の車との、かなり競合が出てまいりますので、できるだけこれを避けるために、この団地の車につきましては東の方から入りまして、出口につきましては公園側の方の出口を使う、というふうに指導をしているところでございます。

それから、ガードレールの関係でございますけれども、これは団地の北側でございますけれども、１メーター50の歩道を設置するとともにガードレールを設置するよう、公団の方に要請をしております。

以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　高橋徳次君。

○16番（高橋徳次君）　　今の返答を聞いた中で、そのガードレールですね、要望していますのはガードレールなんです。ところが公団の方では、これを植木の垣根にしたい、というふうなこともちらっと耳にしたんですけれどもね。この歩道ですか、これは本当にあんまり広くない狭い歩道、そこへ植木ですと幅をとってしまうということで、やはりガードレールにしてもらった方がよろしいんじゃないか、というふうに思うんですけれども、その点、また今後の煮詰めの中であれしていただきたいと思いますし、一度、公団並びにトムですか、このトムの違法駐車が非常に多いんですね、それで中央公園ですか、こちらの方へもずらり並んでしまう。先ほど申し上げたのかわかりませんけれども、帝人の前へは教習所の練習車がずっと十何台、ほとんどとまって出入りしている、というような状況ですね、これは市の方からも再度具体的に、強く警察の方へ要望していただきたい、このようにぜひお願いいたします。

それで、関連してこのときに出てきた話なんですけれど、四中ですか、四中の東側にある道路ですね、ファナックの前からずっと北へ抜ける、真ん中にグリーンベルトがある道路です。ここの片側には街灯がずっと、街路灯があるんですけれど、学校側、四中の東門ですね、ここには街灯が一つもないんです。それで夜間通ると真っ暗で、ついせんだっても子供が縁石を踏みはずして、ひざ小僧をすりむいた、というようなことがあって、ぜひここへ街路灯を設置していただきたい、というふうに管理課の方へは申し入れてあるんですけれど、その辺わかりましたら、ひとつお願いいたします。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　建設部長、御答弁申し上げます。

ただいまの四中の東側の緑道の部分、その緑道のセンターから東側については、街路

灯がずっとついております。それのセンターから西側、すなわち学校寄りの方に二つだけ、今現在ついておりますけれども、暗いということはよくわかりましたので、64年度で一応設置する予定でございます。

これにつきましても、街路灯というのは明るいということ、機能性が最も大事でございますけれども、ちょっと情緒のある、景観にもマッチした街路灯というものもそろそろ考えていかなきゃならんだろう、というぐあいに考えております。

以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　高橋徳次君。

○16番（高橋徳次君）　　街路灯は来年度予算でつけてくださる、ということでございますので期待して待っております。

そういった中で、いずれにしましてもこの地域の交通状態、また駐車状態、もうかなりひどいものがある、というような中で、とにかく今度は教育委員会でも、また都市整備部でも、どちらでも構いませんから一応――また、トムスポーツですか、ここの車が困るんですね。トムスポーツそのものが全然駐車場を持たずに職員の駐車場ぐらいで、それで、だあっと両側へ、また中央公園の方へも置いてしまうというような中で、一番迷惑されているのは東芝さんじゃないかと思うんです。さも東芝さんが置いているような格好になっていますけれど、これはみんなトムの車ですね。

ですから、そういった中で要するにその関係者と、またその学校なり、また地元なりの関係者と、よくこの点、また話し合う必要があると思うんです。そういう場をぜひつくっていただきたい、ということと、また警察の方も、なかなか腰を上げないと思うんですけれども、教育委員会なりの方からも、また折にふれ警察の方へ督促していただきたい、ということを要望して、この質問を終わります。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　これをもって15の２、旭が丘千代田自動車跡地の公団住宅建設と横河メディカル建設に伴う旭が丘小・四中学区の通学路及び周辺の交通等の整備についての質問を終わります。

一般質問16の１、行政改革の進捗状況について問う――推進事項の具体的な取り組み内容とその実施率――の通告質問者、奥住日出男君の質問を許します。

〔１番議員　登壇〕

○１番（奥住日出男君）　　議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして質問させていただきます。

午前中、古賀俊昭議員の方からも関連の質問が出ておりますので、重複を避けまして

お聞きしたい、というふうに思います。

日野市の行財政改革に関する基本方針、これが作成されて、ちょうど１年10カ月が経過をいたしました。この行政改革につきまして、森田市長は昨年の所信表明の中で、行政改革の主眼は行政機能における生産性を高めることである、というふうに考えている。行政機能の生産性とは市民の満足度を高めることである、というふうに言われております。しかし、行政の合理化を唱えて質を落としては何にもならない。市民の不満を買うだけである。したがって、そういう手段はとるべきではない、というようなことを言われました。

さらに今年度の所信表明の中では、あすのまちづくりにつながる行財政の改革を行ってまいる所存でございます。そのために推進事項の実施を進めていく、というふうに表明されております。高齢化社会を迎える中でもっともな取り組みだ、というふうに思いますし、当然、質を落とすような行政改革であってはいけない。市民に対して親切丁寧に対処するということは当然でありますので、その辺も踏まえながら質問をさせていただきたいというふうに思います。

この推進事項につきましては、全庁上げて取り組むということでございますので、かなり進んでいる、というふうに確信をしているわけでございますけれども、お答えは、ひとつこれまでどのように取り組んできたのか、その結果どうであったのか、効果も含めて。そして、今後どう取り組んでいくのか、こんなストーリーを持ってお答えをいただきたい、というふうに思います。

具体的には、次の８項目について質問をいたします。

まず１点目、給与の適正化について。職務給導入についてどのような検討を加えてきているのか、ということがその中身でございます。これは私、職務給の導入がいいのかどうかわかりませんけれども、その辺も含めた検討の内容をお聞かせいただきたい、これが１点です。

それから２番目の質問は、人事管理の適正化について中身は二つございまして、一点目は昇任制度の確立についてどんな検討を行ってきたのか。二つ目は、職員の資質向上のための研修内容、どういう研修をしてきたのか、この内容についてお聞きをしたいと思います。

それから３点目、組織の簡素機能化、この中身の１点目は、これまで進めてきた具体的な取り組み内容、どういうことをやってきたのか。それから二つ目は組織改革に至るまでのステップ、いろいろと部長会議等々やっているようでございますし、また先ほど

答弁では、これまで４回そういう会議をした、ということですけども、どんなそれがステップで来ているのか、例えば職員の声がそういう中に届いているのかどうか、あるいはそういうものも反映されているのかどうか、その辺も含めた御答弁をいただきたい、というふうに思います。

それから４点目、職員定数の適正化について。これも二つございまして、これまで進めてきた具体的な取り組み内容、それから二つ目が基本計画実施に当たっての人員計画、どのようになされているのか、68年度までの計画を教えていただきたい、というふうに思います。

それから５点目、外部委託について。これも二つございまして、これまで進めてきた具体的な取り組み内容、それから二つ目が全体業務に対する委託業務の割合、これは金額も含めて教えていただきたい、というふうに思います。

それから６点目、事務事業の見直し、これの中身は、これまで進めてきた具体的な取り組み内容だけで結構でございます。

それから７番目、自主財源の確保について。大変重要な項目でございますけれども、これも二つございまして、１点目は、これまで進めてきた具体的な取り組み内容、それから二つ目が重点課題は何なのか、これを教えていただきたいというふうに思います。

それから、最後の８番目でございます。国並びに都への要望について、かなりいろんな面で財政面で要望しているようでございますけれども、主要な内容についてのみ教えていただきたい、というふうに思います。

以上、８項目についてお答えをいただきたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　奥住日出男君の質問についての答弁を求めます。総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　総務部長から、お答えさせていただきます。

第１点の給与の適正化でございますけれども、地方公務員法に定めます給与決定原則というのがございます。この原則は職務の内容、それから責任に応じた職務給、こういうことがうたわれておりますけれども、この原則趣旨に則りまして不完全ながら職務給の給料表をつくりました。そして、１等級から３等級までにつきましては組合との合意に達しましたので新たな給料表をつくり、本年５月１日からその給料表を使っております。

しかしながら、係長職以下、あるいは単純労務職の行政２表、それから医療職、医療技術職、看護婦などの独自給料表と職務給以下については、望ましい職務給の姿を描きながら、それを目標にしながら現在交渉を続けている段階でございます。

それから、人事管理の適正化ということで、昇任制度の確立についての検討内容ということでございます。昇任制度につきましては、人事管理政策として大変重要な意味を持っております。昇任政策の中に取り入れていったらどうか、ということで、すぐ考えが浮かびますのが試験制度の導入でございます。

しかしながら、この試験制度にも短所長所がございまして、慎重に検討しなければいけないな、という、こういう結論に達しておるわけでございます。試験制度のいい点につきましては客観性、公平性が非常に高まってよろしいわけですけれども、ペーパーテストだけの試験制度になりますと、いろんな弊害も出てまいります。試験制度をとっておりますある官庁からは、この試験制度の弊害として手直しをしなければならない、というような声も出ておりますので、一番いいのは、この公平性、客観性が高められるような選抜の方式が何かないか。具体的には複数の昇任委員、昇任候補者選定委員とでも申しましょうか。そういった委員会をつくりまして、そこで協議をして候補者を選び出す、そういうような方法もあろうかと思います。

現在、日野市におきましては、年功序列制を基本ベースにいたしまして、それに能力主義、成績主義を加えました人事管理をしておりますけれども、日野市程度の規模の団体でございますと、大体その人の能力とかなにかは、日ごろの仕事ぶりなどで伺い知れるわけでございます。特別に試験制度を取り入れなくてもその把握は十分できるような情勢になっておりますので、試験制度の導入については慎重にやっていきたい、そういう結論でございます。

それから、その次の職員の資質の向上のための研修内容でございますけれども、職員の研修につきましては、職能別の研修制度と職階別の研修制度に分けまして、それぞれ資質向上に向けて実施をしております。

職能別研修制度につきましては、東京都市町村研修所におきまして実務研修と専門研修に分けて研修が進められております。内容的には、税関係でございますとか予算関係、契約関係、調理関係など、約20項目にわたって実施をしております。また、階層別研修制度につきましては、部長研修とか課長研修、係長研修、それから一般職員の初任者研修でございますとか、そういった分け方によりまして研修を進めております。

特に本年度からは、世代対応型生涯研修、つまり55歳以上でございますとか、あるいは50歳代ですとか年代層に分けて研修を加えております。

さらに、このほかに日野市独自の研修というのがございまして、生涯学習の見地から一定の決まりを持ちまして、社会通信教育を受講する者には、その費用を補助をしたり

しております。さらに研修というのは、与えられる研修よりも、みずからつくり出す研修、こういった見地から参加するのが最も重要だと思います。みずからテーマを決めまして複数のグループをつくりまして、そのテーマの解決のために研修に出かけていく、というような制度、こういう制度も、今後さらに力を入れて充実していかなければならない、このように考えております。

それから、職員定数でございますけれども、定数の具体的な手法といたしまして、類似団体別、部門別職員数、さらには人口1,000人あたりの部門別の職員数の数値を算出いたしまして、各課の職員数をチェックしているところでございます。

具体的な取り組みにつきましては、本年の５月の人事異動の際に各課より11人の職員を削減し、その職員を事務量の増大をしている部所に配置をいたしました。このような内部努力をいたしたところでございますけれども、来年以降につきましても、この線でさらに一段と努力をしてまいりたい、と考えております。

いずれにしても、できる限り科学的な数を根拠にいたしまして、この問題に取り組んでまいりたいと思っております。

それから、基本計画実施に当たっての人員計画でございますけれども、新しい施設ができる、さらに現在ある施設の中で新しい事業を始める、こういう場合には、どうしても必要な職種の確保とか、あるいは人員増とか、そういうことも考慮していかなければならないわけでございます。差し当たって、64年度から市立病院で始めますミニドックでありますとか、それから一般健康審査の第二次検診、このためにはレントゲン技師でありますとか、それから検査技師、さらには薬局、こういうところの人員も問題になってまいりますし、新しくできるて施設としての東部会館につきましても、その管理体制をどのような形にするか、それを早急に決めて、それに見合った人員を考えていかなければならない、このように考えております。

以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　それでは、３点目の組織の簡素機能化というような御質問でございます。

この問題の具体的な取り組みの内容でございますが、私が申し上げるまでもなく、これは組織を改正する、また充実させるということについては、市民への行政サービスを目的とした組織改正を図るということが念頭であろう、というふうに思っております。

そういう中で、具体的には63年４月１日に組織の規則の一部改正を行いました。一つ

は、大きな問題としては福祉部の内容の精査、その中には老人福祉課の新設、あるいは土地監視制度の新しい業務が発生いたしましたので、その臨時的な対応をしていた課の中での一本化を図った、というのが具体的な内容でございます。また、今年、先般10月21日付で行政報告でも申し上げたとおり、都市基盤の整備の事業量、あるいは事務量の増加等によっての区画整理の中での組織改定をお願いしておこう、というのが内容でございます。

また、この組織改正に至るまでのステップということでございますが、当然組織の改正の部分につきましては、企画財政部が中心になって方針をいろいろ精査した中での決定、考え方を打ち出し、各部課に提示をする、というようなステップでございます。もちろん、課、部を中心とした中で職員の意見を聴取しながら、各部課での内容を検討していただき、当然その組織改正を作成する、というようなステップを踏むわけでございます。当然その中には、人員の配置、あるいは労働条件の変更にかかわる問題等もあるわけでございますので、組合にも提示をし再度庁議、あるいは機関決定をした後整理をしていく、というようなステップで組織改正をお願いしている状況でございます。

なお、５番目の外部委託の関係でございます。具体的な取り組みということでございます。午前中の古賀議員さんからもありましたが、全体の推進会議の中での方向づけをし、９月３日に組合に提示をいたしました。もちろん、これにつきましても６項目というような内容で、具体的な問題としては多摩平下水道の管理、スクールバスの運行、庁内の交換便の問題、湯沢会館の管理、南平体育館の管理、学校用務員等の業務の問題等の６点にわたっての提示を今年９月３日にいたしました。

なお外部委託の中での数字的に、と全体業務に対する業務委託の数字の御質問があるわけでございますが、現行の数字といたしましては、63年度では予算総額に対する委託料が39億2,000万、端数は切り捨てさせてもらいますが、12.4％の割合になります。２年さかのぼって61年度を見ますと、予算が316億3,300万に対して委託料が33億1,300万という数字ですので、10.5％、61年度は10.5％、63年度は12.4％というふうになっている数字でございます。

なお、６番目の事務事業の見直しということでございます。内容ということでございます。過去の事務事業につきました補助金、負担金の見直し、あるいは病院事業の経営改善の問題とか、何点かあるわけでございます。

具体的な問題としては、補助金、負担金の中での過去の廃止の問題は、廃止あるいは縮小したものが11件あるわけでございます。最近の問題としては、特に具体的には納税

貯蓄組合の納税補助金の見直し、補助率の改定、引き下げを行ってきた、ということでございます。なかなか補助金の問題につきましては、予算編成時に主管課を通しながらいろいろ精査をしているところでございますが、なかなか実情として沿わない部分がある、ということでございます。

なお、７番目の自主財源でございます。自主財源につきましては、当然この確保にはいろんな支障があろうかと思いますが、行政の立場の中では、やはり市税についての的確な把握をした中での収納体制の確立、市民に対する便宜を図る、その中では、やはり納税者に対しての納めやすいような利便方法を考えた、ということでございます。

割合、26市に先駆けまして郵政省、郵便局の納税ができる制度を60年度から開始したというような問題、あるいは市民部の中でも日曜に出勤をし、勤め人が多いために電話での対応、納税に対する協力要請、あるいはその中での分納相談、分割の相談、納付制度の相談、そういったものを具体的に考えてきたわけでございます。

なお、この自主財源確保、納税だけでなくして、また行政の中におきましては御承知のとおり国民健康保健税の改定、61年、62年ということでお願いした経過もあります。児童措置費の保育負担金の問題、62年の10月に改定をしております。使用料、手数料等につきましても26市等をあわせまして検討を重ねた経緯はありますが、改定までには至っておりません。ただ、新しい印鑑登録の使用料だけを改定した経緯でございます。また下水道使用料につきましては、63年４月１日から改定を行いました。

なお、現在検討している部分としては体育施設、あるいは体育関係の整備に伴いましての有料化等の問題を現状では検討をしている状況でございます。

特に、この中での重点課題ということでございます。いずれにしても各事業における使用料、手数料等の増額、あるいは納税者から見たやはり均衡を保つ中では、自主財源確保ということになりますと料金改定であろう。しかし、これに向けては、市民に対する理解をどう求めて、理解を、コンセンサスを得るか、ということが、これは行政としての与えられた重点課題ではなかろうか、というふうに思っております。

なお８番目の、国、都への要望でございます。これは例年でございますが、各自治体とも行政としての考え方を市長会に上げ、市長会から全国市長会等の組織、あるいは企画財政部分の中でも別の角度でもあるわけでございますが、大きな問題としては、やはり国庫支出金の負担率の復元、国保事業への国庫負担の適正化の問題、３番目としては40人学級の早期実現というような形、４点目としては国有地の払い下げについての自治体の考え方を十分取り入れる方法というような、具体的にいたしております。なお５点

目には、福祉関係の学童クラブ事業に関する補助率の制度化というような問題、ほかにも細かくはあるわけでございますが、当然それ以外は緑地保全の充実の問題、都道整備の促進、社会教育、文化施設、体育施設の補助制度の増額、あるいは整備促進というような問題も含んで幾つかございます。

全部、御回答したつもりでございますが、なお一層この基本方針に基づいて今後努力をしていく所存でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　奥住日出男君。

聞いていまして、これだけ大きな仕事なんですね、推進事項、行政改革。まちづくりと並行して、やはり行財政運営というのは大変な仕事であるわけですけれども、問題はこういう仕事を、62年の２月に発足して来年度でちょうど３年が終わるわけですけれども、現在、全庁上げて、というような取り組みをされている。特に基本方針の中では職員ぐるみでやるんだ、ということまで、はっきりうたっている。にもかかわらず市民の目に映るのは、「委託は反対です。職員の大幅増員」こういうビラが目につくわけですね。果たしてああいうのを見ていて、市民の協力が得られるのかな、あるいは理解が得られるのかな、ということを時々疑問に思うわけですけれども、ただいま総務部長、あるいは企画財政部長が御答弁なさったようなことを整理して市民に、こういう取り巻く環境が厳しい中でもこれだけのことをやっているんだ、こんな効果を上げているんですよ。当たり前といえば当たり前ですけれども、そういうことを市民に対して発表してもいいんじゃないかな、そういうことも一つの理解を求める方法だ、というふうに思うわけでございます。

自分自身、もう少し理解を深めるために再質問させていただきます。

まず、１点目の職務給導入の検討でございます。公務員法に基づいてやられるのは、当然わかるわけですけれども、市長が昨年の所信表明の中で、行政機能における生産性を高めるんですよ、これが結果として市民の満足度を得るんだ、というふうなことを言われた。行政機能の生産性を高めるというこの意味、この辺がこれからの高齢化社会において一番重要なことになるんじゃないか、というふうに思うわけです。

例えば、今、高齢化社会における賃金制度の見直しというのがされております。職務給というのは妥当ではない、というふうに言われているんですね。なぜだめなのか、というと、職務給というのは仕事給であるということ、そこには魂が入ってない。これから高齢化社会に向けて豊かな心を持ちながら市民に接触をしていく、職員の資質もそういう意味で、そういう心のこもった――こもってない、ということじゃないですよ、そ

ういう仕事をしてもらうんだ、そうなると、ただ仕事をやっていればいい、というんじゃない。持っている能力を今度は逆にトップの方が引き出す、というような、こんなことから職務給は余りよくないんじゃないか。

じゃあ、職務給はどこに当てればいいか、というとパートタイマーとかアルバイトとか、そういうところに当てる。つまり短期的な雇用者にそういう制度を当てるんだ、長期的な雇用者には職務じゃなくて職能である、というふうに言われているんですね。職務給というのは、これはアメリカでもって最初にやられて、日本でも昭和30年代から40年代導入したわけですけれども、ほとんどの企業が失敗をしてしまった、という例がございます。現在では職能給に取りかわっている。

なぜ失敗したか、日本人には向かないということなんです。いわゆる職務給というのは仕事基準なんですね。仕事基準の給料体系である。職能というのは人間基準なんです。仕事というのは、いわゆる労働、労働だけしていればいい。職能というのは人間基準ですから、そこに力が入ってくる。労働力というものが入ってくる。こんな見方が今されてきているわけです。

市長が生産性のことを大変言われましたので、生産性向上、今、何が生産性向上なのか、こういう地方自治体にとって。その辺をお聞きしたい、というふうに思います。

ちなみに、今、民間企業では生産性向上というのは、ただ技術革新があってそれを実直にやっていればいい、ということじゃないんですね。付加価値が必要な時代になってきているわけです。生産性向上の中に技術プラス付加価値。この付加価値というのは何かというと、人間の幅広い創造力を生かしていく、というこういうことが今言われているわけです。したがって、地方自治体にとってもそういう付加価値を求めることが大切ではないかな、というふうに思うわけでございます。

職務給導入については、午前中の古賀議員の答弁にもありましたように、組合に今交渉しているんだけれども、組合とは平行線をたどっている、という。多分組合側は、職務給というのはそういうきちっとした基準がないんじゃないか、例えば、こういう仕事だったらこういうお給料をもらうとか、そういう整理がされてないから、とても受け入れられない、というふうに多分言っているんじゃないかな、というふうに思うわけですけれども、理事者側の考えが、その辺をどういうふうに説明しているのか、もう少し突っ込んでその辺をお聞きしたい、ということ。

それから、２番目の人事管理の問題の昇任制度の確立、試験制度は余りよくないから慎重にやりたい、ということですけれども、昇任というのは昇格と違いまして、どっち

かといったら、それなりの腕を持っている人にそれなりの資格、級を与えようじゃないか、という、これが昇任制度だと思うんです。結果として、それにある程度何かプラスしてくると昇格ということで、課長になったり、あるいは部長になっていくんじゃないか、こんなふうに考えるわけです。職能別にいろいろと、またあるようでございますけれども、ただ、私、昇任制度というのは余り賛成はできない。というのは、能力に見合った処遇をする、言ってみれば事後評価であるわけですね。あいつはよくやったから、じゃあ少し上の方に上げてやろうじゃないか、という、これが多分昇任制度の根本にあるもんじゃないか、と思うんです。

私は、そうじゃなくて、その前に職員個人の能力をアップして、結果として全体の、日野市役所なら日野市役所のレベルアップにつながる、これが先決ではないかと思うんです。いわゆる有能な職員を育てるために何をやるのか、この辺にもう少しメスを入れて考えていただきたい、というふうに思います。果たしてそういうふうに――確かにこういう制度を確立して、ペーパーテストでも何でもいいんです。やってかかって、ようし、おれも一生懸命やれば上の方に行って給料が上がるな、とそういう面のやる気は起こるんでしょうけれども、そうじゃなくて、もっと違ったあったかいやり方で昇任制度の確立をしていただきたい、こんなふうに思います。その辺をどうお考えになるのか。

それから、職員の資質向上のための研修内容でございます。当然、職員ぐるみで行財政改革に取り組んでいるわけですから、研修内容の中にも、私はその点が考慮されたものがあったんじゃないかな、というふうに期待をしたわけですけれども、職能別、階層別ということで、中身はちょっとまだ、よく理解できません。

１点お聞きしたいのは、自治体にとって必要な人材像というのはどういうものなのか、これをお聞かせいただきたい、というふうに思います。

先ほど総務部長が、これだけの組織だから、大体組織の職員の動きはわかるよ、というふうなことを言いました。12月の13日午前９時20分、私、ちょうど地下から上に上がるときに職員がタイムカードを出勤の方から７枚とりました。だあっと打刻しているんです。７枚、７人分でしょうね、多分、７枚だから。それを退庁の方にすっとつけていくんです。カードラックに入れている。この例規集を見ると、「タイムカード」をずっと見ますと「日野市タイムカード整理規定」というのがあるんです。他人のタイムカードを押していいと書いてないんです、この中には。どこを見ても書いてないんですね。ああいうことをやっていて、これだけの自治体だから、日野市役所だから大体わかるんだ、職員の動きは。――本当に管理監督者、よくわかっているのかな。勤務評定を見ると、部下に対する管理及び指導は適切だったか、というのがあるんです。上司がこういうところをどう評価するのか、そういうことをやっているんですよ。

そういう資質向上のための私は――それはもう、それ以前の問題ですけれども、研修をやればあんなものはいいというものじゃないし、あんなものを研修をやる必要はない。本当の規律です。子供じゃないわけですから、もう立派な社会人ですからそういうことを、ルールを守らないようなことをやってもらっては困る。もう少ししっかりと教育をしていただきたい、というふうに思います。

そういう事実に対して、どう御見解があるのか、お聞きしたいということです。

それから、３番目の組織の簡素機能化、先ほど部長が職員のもちろん声も反映させています、というような御答弁がございました。これは、それなりにやっぱりきちっとやっているんだな、というふうに思うわけですけれども、私、10月でしたか、機構改革のことでちょっと気になったのは、企画財政部の企画課の課はあるんですけれど、課長がいないんですね。兼務なんです。部長兼務。重要なポストじゃないかな、というふうに思っているんですけれども、もう役目は終わったから課長はいらないという、部長が兼任すればいいのかな、そういうふうに理解していいのかどうか、いまだにまだ迷っているんですけれども。企画というのは大変重要な課じゃないかなと思うんですけれども、課長がいない。いるんですけれども兼任。今までは課長がいたんですね。あれは行革なのかどうか、これを１点お聞きしたいんです。

それから、職員定数の適正化、午前中の古賀議員の質問に対して、自治省の第三次のモデルが64年の１月に出る。それが出てからいろいろと見直しをしたい、というふうに言われました。ふえるのか減るのか、よくわかりませんけれども、この基本方針を読みますと、日野市は基本方針の中に独自の行財政改革を行う、というふうに言っているんです。言い切っているんです。独自にやる、これは結構だと思うんです。

ただし、職員定数の適正化の項では、類似団体の職員数等を参考にしながら適正化を図る、こういうふうに書いてあるんです。類似団体というのは多分26市とか、そういう国の基準になるんですけれども、これはもう部長は御承知だと思うんですけれども、東京都が64年から３年間、事業量拡大でもって約4000人の職員がふえる、というふうな各部から出たそうです。鈴木都知事は、一切それを認めない。現有勢力でやるんだ、というふうに決めたというような新聞報道がございました。4000人をふやさないで現数の中でやりくりする、という気が遠くなるような、どんなことをやるのかな、と私も一瞬耳を疑ったわけなんですけれども、間違いなく何回も読むとそう書いてあるんですね。あ

あいうニュースを見て担当部長としてどうお考えになるのか、これを一点お聞かせいただきたい、というふうに思います。

それから外部委託でございますけれども、２番目の、全体業務に対する委託業務の割合、これはわかりました。そうしますと、現在、９月３日に６項目、組合に要求してある。組合が「うん」と言ったのか「ノー」と言ったのか、よくわかりませんけれども、現在これ以外に何か検討されている委託業務案みたいなものは、あるのかどうか、その辺がもしあったら教えていただきたい、というふうに思います。

それから、自主財源の確保の中で重点課題は料金の改定が、というようなことをちらっと部長がおっしゃられたんですが、例の滞納のことですけれども、自主財源の確保の中の一つに国保の滞納の問題がある。よく言われることに権利義務という話があるんですけれども、納税義務があって義務を果たさないでもって権利だけ主張して、あの医者にかけろとか、あの病院に入院させろとか、ということを言われる。たしか国保の場合は九十一、二％だと思うんですけれども、収納率が。日野市では26市のうち７番とか８番とかいう督促の実績を上げている、というふうに思いますけれども、ああいう実態をどのように思っているのか。例えば商売をやっていて、品物を売って代金が入らなかったら、その店はつぶれちゃうわけですよ。91％しか入らなくてもいいんだよ、あとの９％は、もう５年先のツケでいいんだよ、というふうな大変余裕を持った、今、財政運営をやっているような日野市役所株式会社であるわけですけれども、その辺の点は重点課題ではないのかどうか、以上の点について、もう少し詳しく御答弁をいただきたいと思います。

以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　再質問についての答弁を求めます。総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　総務部長、お答えいたします。

１点目の職務給に関する件でございますけれども、冒頭にもお答え申し上げたとおり地方公務員法に定める給与決定原則が、これが職務と責任に応じた給与にしなさい、こういうことが第１項に掲げられております。

職能給のお話もただいま伺いましたが、地方公務員法の24条に照らしまして職務給で今後も組合とも交渉を進めていこう、と考えております。組合側と平行線のまま対立するところはどこか、というお尋ねでございますけれども、係長までこれを一挙におろしますと、係長職は組合員でございますので、組合が、組織が何らかの影響を受ける。このような考え方から係長職まで職務給をおろすことに同意しない、ここらに原因があるのではないかと思っております。

それから、どういう職員像を描いているか、ということですけれども、市役所に勤務する職員は、市民のためになる人間でなければいけない、市民のためになる人間がいる場所である、このように考えております。したがいまして、市民のためにとって役に立つ人間でございますので、能率よく仕事をし、そして清潔である、そういう職員像が理想の職員像である、このように把握をしております。

７枚のカードを持って打っていた、こういう事実を指摘されましたけれども、管理監督の立場にある者として、大変遺憾なことであります。早速、またそういうことがないように徹底をしてまいりたい、と思っております。

それから昇任の件でございますが、係長とか課長とかラインの職制以外に、市役所へ入ってからずっと一筋その道を歩んでいるような人たちには、専門職といいますか、スタッフとしての昇任の場面があってもいいように思います。そういう面でも今後検討を加えていきたい、と思っております。

それから、東京都の職員の定数4000人減のお話でございますけれども、これは、私自身、大変びっくりしております。新聞の報道の域を脱しておりませんので、よくその情勢をつかんでおりませんけれども、臨海地帯の仕事に向けて4000人をふやす、ただし、新しく採用しないんだということですから、これは4000人減と同じことになります。どういう手法でやっていくのか、ただ不思議に思っております。

今後、都とも連絡をとりましてその手法などを聞き出し、それを日野市にも役立ててまいりたい、こう考えております。

以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　それではお答えします。

まず企画課の問題でございますが、総務部長からお答え願えるかと思ったんですが、もちろん行革の一環でなくして、私の方も現在の事務量を勘案した中で総務部長にお願いをしてありますし、近いうちにその体制をつくっていただく方法でお願いをしているところでございます。

なお、５点目の外部委託でございますが、これは具体的に６項目を挙げました。しかし、この方針につきましては、当然各部所でこの行革の方針を持っているわけでございます。すべて、この６項目で終わったということでなくして、各部では引き続きその精査をしている、というふうに私どもは判断をしております。具体的には６項目ですが、

今後、各部でのできるもの、またその精査をしている状況だ、というふうに理解しております。

なお、最後の自主財源の問題でございますが、私は市民サイドの自主財源の中でのお答えをしたということで、非常に不足部分があったかと思いますが、料金を改定して徴収するには、という前提での市民のコンセンサスが重要課題であろう、という意味でお答えしました。当然、その前段としては市税、使用料等を含んだ収納率のアップ、これは、やはり大きな問題であろう、というふうに私も考えております。そのための手法を税だけの例を申し上げましたが、同じような方法でやはり収納率を高くすることによっての、また料金改定をした中での市民の理解は求められる、というような考え方で現在考えております。

以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　奥住日出男君。

○１番（奥住日出男君）　　最後に、市長に二、三点、御質問申し上げます。

推進事項が１年数カ月、10カ月ですけれども経過したわけですけれども、市長自身、自己採点するんであれば、現時点で何点あげられるのか、この推進事項でですね、これを１点、お聞かせをいただきたい。

それから、自分の感じている進捗率としては、どの程度まで来たのかなということもあわせてお答えいただきたい。

それから、市民に対して、前に市長が、たしか組織のスリム化というようなお話をなさったと思うんですけれども、聞いたことがあるんですけれども、スリム化イコール活性化とは言いませんけれどもね、こういう住民サービスの業務でありますと。そうは言いませんけれども、職員ぐるみでもって行政改革に取り組んでいますよ、みんな、わかっているんです、我々も。

ところが、冒頭申し上げましたように、民間委託はこれこれこうだから反対、職員は大幅に要求する、という、こういうビラが張られている。ああいう光景を見て、あれは組合のやることだからしょうがないよ、あれは職場の要求だから、と言えばそれまでですけれども、職員ぐるみで行革に取り組むという姿勢の中で、あの辺をどうお考えになっているのか、お聞きをしたいと思います。これが２点目。

それから最後に、「統計日野」で職員の数が書いてございます。今、市民１人当たりの職員が、市民111名に１名ですか、111名に１人ということ、それから一般行政職でいうと、327名の人口で職員が１人いるという、施設の方は169名だ、というふうに書いてあるんですね。果たして、この職員の数が類似団体と比較して、日野市は多いのか少ないのか、以上３点についてお聞きをしたいと思います。

以上です。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　　私は、労働行政と申しましょうか、経済の中で労働によって生産がある、世の中の価値をつくるのは、まさにその労働力である。労働の貴さということが評価されることによって健全な社会が成り立つ、こんなふうに理解をしております。

農業の場合は、これは土壌、あるいは空気中の酸素、水の中のまた物質というようなことで、光エネルギーを使ってまずでん粉ができる、というあたりから物の価値がだんだんと発展をしていく、そういうことだろうと思っております。

物をつくる場合は、かなり数字的な生産性、あるいは生産力、あるいは成果、そういうものの測定が可能になるわけですけれども、行政という仕事には、なかなか数字上の測定手段が難しい。行政の生産性という言葉を使ったのは、あるいは私があんまり経済学を知らないせいかもしれませんが、行政にも生産性はある、ということを常々職員にも言いますし、私自身もそう思っております。

つまりサービスという仕事ですから、そのサービスの成果は何で測定をするかというと、これはお金もうけでしたら利益で積算できるわけですけれども、やっぱり市民の方がどのように行政を評価していただけるか、役所に来られて用事が足りました、ということと、まあまあ足りました、というのと、足りなかった、そういう評価が一番教えられる部分が多いだろう、ということでアンケートをとったりしたこともあるわけでございます。

そこで行政の生産性、その生産性をどのようにみんなの能力を引き出して向上発展をさせるか、ということが行政内部の大きな眼目でなければなりませんし、また、そのことが影響することが極めて大きい。こういう考え方で内部指導をしている、そういう状況でございます。

先ほど問われました職員像、自治体の職員像というのは、おのずから、もちろんあるべきでありますし、そういうことを職員研修所の機関誌に巻頭言で求められたことがありますので、そういうことを書いたこともありますから、一度見ていただきたい、こんなふうにも思っております。

すべての簡素化とか機能化ということが、つまり生産性を高める手段としてそれぞれ

関連をし合う、これをいかに有機的に職員のやる意を引き出す中で、一般的に言えば私は少数精鋭で仕事に取り組み、ある、他に依存のできる、あるいは他の能力に期待をする、というようなのが大体委託という仕事になって外に発注をする、その委託などをする――企画的な、企画だけではないと思いますけれど、そういう判断能力を持つ、これがとりもなおさず一方には行政能力にもなるし、簡素化にもまた、つながっていくだろうということで、職員の機能を特に求めると申しましょうか、親切、清潔、能率、職員モットーとしては親切、清潔、能率、組織のモットーといたしましては規律、それから機能、協力、こういうことだろう、ということを指導の理念にいたしております。

そこで問われるところの、今、それがどの程度達成できてきいるか、行革の推進事項が自己採点をすればどういうところか、と問われまして、はたと判断に迷っております。かなりの点をつけたいわけでありますけれど、果たしてそれが評価されるかどうか、ということもありますが、落第点ではないし、また努力目標もこれからの範囲の中に目指していくべきものが多い、ということも感じております。

進捗率という点で、またいろいろ御意見をいただきたました。私も余り気は長くないんですけれど、本当に気を長く持たないと、こういう仕事は難しいことだな、ということをつくづく感ずるわけでございまして、長い間の歴史もございますし、それから、目指す将来像といいましょうか、時代が変わってまいりますからそれに対応できる、絶えず修正なり方向転換をしていかなければならないわけであります。

したがって、行ってここに到達すれば、ここで終わり、ということはないように思っております。進捗率は、これからどんどんと評価をいただけるぐらいに詰めていかなければならない、というふうに感じております。

組織のスリム化という言葉も確かに重要なことでございまして、いわゆるマンネリ化とか、それから硬直化というのは、その組織の肥大から始まることが、しばしばあるわけであります。絶えず頭を冷静に、そして判断能力を高める状態を維持し、余り複雑になればなるほど物事は難しくなりますから、その意味で私は少数で精鋭で、そうして機能的である、ということが一番望ましい姿だ、こうは思いますけれども、やはり仕事の量もございますから、なかなかそのあたりに意見の不一致がある、というふうに感じております。

運動の手段として幼児的な域を脱していない組合のそういう性格もあるわけであります。規律という意味では規律が大切である。そうして、大きな団体であり組織でございますから、何といってもその規律もお互いが遵守をする、というところから、すべての

機能化、あるいは協力、それらが始まる、このように考えるところでございます。

類似団体等の比較で、日野市の場合は施設職員が多い。これは明らかに言えることだと思います。なぜならば、何と申しましょうか、市民サービスにかなりいろいろな施設を持っている、ということであります。市立病院に約200名、直営保育園にこれまた約数十名、レベルの高い図書館行政に他よりまた数が多い。いろんな意味で施設職員が日野市は多い。しかも、それが直営という形を維持しておりますために市の職員である、ということになるわけでございまして、本来の役所らしい仕事というのは、行政職員、行政組織の範囲では全体の半ばを少々という程度でありますから、むしろこれは低い。類似団体に比較しても低い。そこで、いろいろと職員像が求められる理由がある、ということも言えるものだと思っております。職員総数では決してスリムとは言えないかもしれませんけれども、日野市の行政組織、行政サービスの展開からいいますと、かなり少数精鋭でがんばっている、というふうに、一般的に言っていただけるんではなかろうか、こんなふうに考えております。

なお、これからのまた努力をすることによって御期待に沿うようにしなければならない、これは申すまでもございません。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　奥住日出男君。

○1番（奥住日出男君）　　ありがとうございました。

確かに行政改革というのはエンドレスですから、当然市長が今答弁されたようなことになるわけです。家庭生活と全く同じでして、現状に甘えてこれで満足しているわけじゃないわけですから、それは当然のことでございます。

この推進事項、多様化する行政需要に的確にこたえていくんだ、ということと、それから今おっしゃったように時代に応じて行政改革というのは変わってくるから、それにも積極的に取り組んでいく、という、こういうために行財政改革、ここでは行政改革推進本部となっておりますけれども、そこが、推進本部として方針として出したものであるわけですね。

私、今、市長が職員の数について、確かに施設職員が多い、これは市民サービスに向けられているためだよ、ということ、反面、行政職員は少ないんだということ、それは庁のトップとして言うわけですから当たっていると思うんですね。ただ、市民にそれがよく理解できないわけですよ。何か、いろんな面で来たときにあの辺に座り込んだり、ビラを張ったり、市民会館の前に入ってはいけないように車をとめてわいわいやっているとか、どうも余裕があるような感じがしてならない、ということをよく聞くわけです

ね。ですから、こういう状況だから少ないんですよ、と何かそういったものを数字的に資料として出してもらえれば納得もするし、理解をしてもらえるんじゃないかな、こんなふうに考えるわけです。

今後、ひとつそういう面をきちっと整理をしていただきたい、というふうに思います。行政改革エンドレスですから、私もこれからエンドレスでもってフォローしてまいりたい、というふうに考えておるわけでございます。この基本方針の冒頭に「行政は、いかなる社会情勢のもとであっても行政需要に的確にこたえるとともに、新たな時代に即応した行政課題の解決に向けて積極的に取り組まなければならない」と書いてあります。そのあと私は括弧して、（そのために行政改革は避けて通れないですよ）ということをつけ加えまして、この質問を終わらせていただきます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　これをもって16の１、行政改革の進捗状況について問う――推進事項の具体的な取り組み内容とその実施率――の質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後３時31分　休憩

午後４時３分　再開

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問17の１、緑と清流を生かすまちづくりについての通告質問者、小俣昭光君の質問を許します。

〔10番議員　登壇〕

○10番（小俣昭光君）　　17の１、緑と清流を生かすまちづくりについての質問をさせていただきます。

緑地は、良好な生活環境を確保する上で重要な要素の一つに上げられています。安全で快適な都市環境を構成する上で極めて重要な、また貴重な位置を占める既存の緑地を守ることが、その第１であります。

緑地が、まとまった空間の広がりとして存在することによって、自然生態系や歴史的風土保全、都市美観の形成、都市気象の緩和、環境衛生の効果が期待されます。

これら緑地によってもたらされる自然環境は、今日の都市環境のもとにおいて最も不足し、最も要求されている要素であります。これ以上、緑が減らされないようにしていかなければなりませんので具体的な質問は後で、この緑の問題については述べます。

水問題については、水は、その絶えず変化する動的な性格や一見どうにでもなるようで、ままにならない存在状況を正直に反映する性質など、自然の素材の中でとりわけ不思議な魅力を持っています。

人間と水との結びつきは言うまでもないことですが、まず命を保持する飲み水として深くかかわってきました。古い歴史を持つ都市では、市民に飲み水を供給する施設、泉、わき水、井戸などは、いろんな工夫が施されています。昔の人々がどんな気持ちで水とかかわっていたか、を思いめぐらすことができるのであります。

生活環境の中心的な施設として水場が存在しているところは、珍しくありません。この水場とその空間を公共建築の前面や都市の広場に設け、水が備えているすがすがしさ、涼しさ、美的造形など豊かに表現が施されています。市役所の表玄関にも池が施されているのもその一つと思われます。

水の存在状態に応じた環境形成の工夫が、長い歴史を経て今もなお利用され親しまれています。我が国の都市は、歴史的には恵まれた水辺空間を抱えているが、近年の急速な都市化とともに各地の魅力ある水辺の多くを失ってしまいました。中でも、線的形態で存在する川辺に接していた都市部の水辺空間が大きく退化するとともに、人と水との交流も遠のいていきます。多摩川や浅川の汚濁が激しく、遊泳禁止になったのは1970年ごろだと言われております。

水辺環境がもたらす豊かさや水を介した文化、そして生命的次元まで沿った視点で水の存在に思いめぐらすとき、これからのまちづくりに大いに生かしていかなければなりません。

日本の庭園の中には、すぐれた水の生かし方が各所に見られます。ところが、これが都市環境にまで拡大されると水利用のあり方に大きな隔たりが出てきております。日本の大都市の多くが、城下町として水利を巧みに生かして形成されていったことは周知の事実であります。これらの歴史を経た水系、あるいは水脈を、現在の都市は各種の都市施設へと変容させています。中でも、水辺空間を道路化し車道優先の都市空間に置きかえたことは、多くの問題を残してきました。現在の都市は、川を初めとする水辺空間を徹底的に破壊してきた、といっても言い過ぎではありません。これ以上、都市の中を流れる川や水路を初めとする水辺空間の姿が消えていくのを見過ごすことはできない。その立場から16年前、緑と清流を取り戻そう、と森田革新市政が誕生したのであります。

昔から水田が開かれ、その用水として河川やわき水から導水する方法が発達していま

した。水質がよければ、水路から直接汲み取って飲用水に用いたり、あるいは途中から分水したものを飲用、雑用、防火用水などに利用していました。城下町、門前町、宿場町などへも通水させたことも相当古くから行われてきました。

古来から、灌漑用水の確保には極めて多くの努力が払われ、歴史を経て培われてきた経験と知恵は、上水道開削の技術にも容易に応用されてきました。

中世に入ると、水田は急激に増加し灌漑技術も普及しました。それまで水田は低い地域に求められていたが、新たな平野地に川の水を水源として開拓されてきました。しかし、河川沿いの低地流域は水害の危険にさらされることが多かったため、灌漑工事と平行して大規模な治水工事も全国的に行われました。

近世に入ると一層水利開発は進展して用水量の増加となり、その水源を大河川に求めるようになっていきました。そのころの河川は流水量も不安定であったため、治水と利水の工事が同時に行われています。この時代の用水の技術は、川の水を用水に当てる場合、まず堰を築き河川の流れをせきとめ、水位を上げ、水門へ導き堤防内へ通水し、そこから人工的に開削された水路によって目的地にまで水を導水する。水路のところどころで分水し集落や田畑にも分配しました。これらの水路の水は灌漑用として利用されるばかりでなく、生活全般の生活用水にも活用されることが多かったのであります。用水施設は、新田開発と相まって増設されていきました。

城下町形成期の前後には、ほぼ全国的に用水路は敷設されたが、これらの幾つかは各地で今も活用されているものがあります。その代表的なものは、玉川上水、辰己用水があり、そのほか箱根用水、琵琶湖疏水、猪苗代疏水などが知られています。

用水の代表格である玉川上水は、当時の江戸の町へ給水するのを目的として開削され、多摩川羽村を取水口として四谷の大木戸に至る全長42キロに及んでいます。分水路も多岐にわたり、玉川上水の分水を受けていた水路は33本の分水路もあった、と言われております。

明治31年には淀橋浄水場が完成し、それ以後は最下流５キロの役割は終結しましたが、昭和38年淀橋浄水場が廃止されるまでは、羽村取水口から37キロの区間は上水路の役目を担っていました。そして、現在も羽村の堰と小平監視所の12キロには、都民の飲料水確保のため用水路として使われてきております。

玉川上水路は、現在、一部はコンクリートで固められていますが、開設当時の素堀りの姿を残しているところもあります。当時の面影をしのぶことができるのは貴重であります。水路沿いには桜などの樹木、昆虫や魚や十数種の野鳥の生息といった生態が現在

でも見られます。

玉川上水路は、江戸時代から現代に至るまで都民に上水と農業用水を供給しながら美しい自然環境、歴史環境など憩いの場を提供してきました。近年多くの中小河川や用水路と同様に、汚染、水量不足、暗渠化が進行し、加えて宅地化、下水道の普及等の都市化現象に押されて、水辺環境は荒廃の一途をたどってきました。

この玉川上水路は、現在その水源のほとんどを都民の飲用水にするため、村山、山口貯水池へ回されているので、玉川上水路の中流、下流は、その分水路に流水が落とされていない状態になっています。東京都は、49年に玉川上水を生き延びさせるため水量の少ない都内河川を蘇らせる対策として、水資源を節約するためにも昭島にある北多摩二号処理場などの排水を三次処理水にして活用する計画を現在は実施してきております。

特に玉川上水と野火止分水には、三次処理水を魚が住めるＢＯＤ８ＰＰＭ前後まで水質改善したものをパイプでポンプアップし、自然的な流れを復活させるという。現在ではこの計画は、野火止用水が流通している各自治体で環境影響調査に着手しています。高度処理水再利用は、全国に存在する危機的水路空間復活を左右するほど注目に値するものになりつつあります。一度壊した自然を取り戻すのは大変な努力が必要でありますので、日野市の緑と清流を取り戻すため、ここで具体的に質問をいたします。

まずは、緑を守る立場から質問をいたします。

第１は、緑と清流のネットワークの拠点となるべき場所として市内の大規模公園、神社、仏閣、城址跡等の文化的、歴史に関する施設および用水路、段丘崖のハケなどから選び出して、次の箇所を拠点の対象とする、と述べております。

そして、最初に百草園を初めに16カ所ありますが、この拠点から離れております旭が丘五丁目、西平山五丁目の境にあります段丘崖の西大介の緑を守るための施策はあるのかどうかお聞かせいただきたいと思います。

第２点目は、これから区画整理に入る地域でありますが、東平山一丁目の段丘崖、ここの緑をどう守るか、規模としては広くないところでありますが、お聞かせいただきたいと思います。区画整理が入りますので、それらのところをどう生かしていくのかをお聞かせいただきたいと思います。

３点目は、豊田南の区画整理内の緑であります。例えば個人の屋敷林の樹木を守る場合、どういう立場で守るのか、もう既に区画整理に入っている地域でありますので対策をお聞かせいただきたいと思います。

第４点目は、浅川の親水計画について計画に沿って進んでいるのか、この点もお聞か

せいただきたいと思います。

第５点は、水路の清流復活について、その方策をお聞かせいただきたいと思います。特に日野市の重要な用水となっておりますので、区画整理内あるいはそういうところでのこれからのまちづくりの中で、用水がどのように生かされていくのか、お聞かせいただきたいと思います。

第６点目は、水質浄化のための施策についてお聞かせいただきたいと思います。高幡市営住宅のところにあります浄化施設、その後どういう状況になってこれからも活用できるのかどうか、お聞かせいただきたいと思います。

以上、とりあえず６点、お聞かせをいただきたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　小俣昭光君の質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　御質問のありました緑と清流を生かすまちづくりについて、ということでございまして、１番目に出ました西大介緑地を守れ、ということでございます。これについて御説明申し上げます。

言うまでもなく市内には、緑地保全事業の施策といたしまして、「緑の保護と育成に関する要綱」これを昭和47年７月に制定いたして、その運用をやっているところでございます。現在登録されておりますところの緑地、約77ヘクタールでございます。そして、これは民間で保全をしていただいている、という状況でございます。

今、御指摘の西大介の緑地でございますけれども、やはりその一部でございます。登録されております。面積にして、約1.3ヘクタールでございまして、土地所有者は４人の方々でございます。

近年の傾向といたしまして、こういう緑地を利用してマンションなどをつくる、というような傾向がございまして、非常に市としても苦慮しているところでございますけれども、しかし、何としてもこういう緑は守っていかなければならない、というぐあいに考えておる次第でございまして、まだ議案として御審議を十分――建設委員会に付託されたわけでございますけれども、日野市の緑地信託等に関する条例を可決していただきますならば、こういうものの適用も考えてまいりたい、というぐあいに考えているところでございます。

次に西平山地区の件でございますけれども、これにつきましては前田部長の方から御答弁を願いたいと思います。

それでは、今まで市は緑地を幾らぐらい買い上げてきたか、ということをちょっと御説明いたします。最初に買いましたのが昭和52年でございます。そのときは約7600平方

メートルの買収をいたしております。以後ずっと買収を続けまして、62年、本年はまだ入っておりませんけれども、約７万7000平方メートル、金額にいたしまして45億の緑地を買収しているところでございます。

それから、清流の件でございますが、親水計画は着実に実行に移されているかどうかという件でございます。浅川親水計画では新井橋を起点といたしまして、下流が保全ゾーンでございます。上流が親水ゾーンということになっているわけでございます。

保全ゾーンにつきましては遊歩道の整備を進めております。これにつきましては、来年度に下水道の浅川幹線工事が終わりますので、昭和66年度にはプロムナードと言いましょうか、堤防の遊歩道の完成を目指したい、というぐあいに考えております。

それから、新井橋から長沼橋までの間は親水ゾーンに親しむ公園、それから親水スポット及び遊歩道の三つから成り立っている、ということでございまして、水に親しむ公園ということで仮称ではございますけれども、豊田田園公園につきましては豊田の区画整理事業の中に入っておりますので、この中で実施されることになっているわけでございます。

また、仮称駒形公園、これにつきましては市長の方からもちょっと御説明がございましたけれども、プールの改造といいますか、そういうものを含めた中におきまして、来年度基本計画を策定する予定であります。また、仮称平山親水公園につきましては、建設省の護岸工事にあわせまして整備する、という方針をとっております。

それでは、親水スポットはどうかということでございます。親水スポットは、基本的に建設省の護岸工事との関係がございますので早急に実現を目指していきたい、というぐあいに考えております。今後、建設省と十二分に協議をいたしたいと思います。

なお、昭和65年度には仮称二番橋が完成する予定でございます。この中で右岸側に親水スポット等を第１号といたしまして、滝合橋から上流のところにも階段式の堤防、親水公園ができておりますけれども、それ以上に、ちょっと目を引くものをつくっていきたいというぐあいに考えております。

遊歩道でございますけれども、浅川流域の遊歩道の計画は圏央道路を含めまして約70％の整備が終わっております。計画では68年に完成することになっておりますが、市民プールなど建設省の護岸工事との関係もございますので、今後建設省と協議をしていきたい、というぐあいに考えております。

それから、水路の清流復活についてということでございますが、市内の水路には、清流を取り戻して後世に残すためには二つの重大な問題があるんじゃないだろうか、とい

うぐあいに考えております。一つは水をきれいにすることですが、これにつきましては後ほど述べますといたしまして、二つ目には十分なる水量を将来にわたって確保していく水の確保、これが重要なことではないだろうか、というぐあいに考えております。

先日、浅川を見たところによりますと背の部分に流れているのは、ほとんどそんなに水量は、浅川の水量はない、というような状況にありつつありますので、この水量の低下は、やはり深刻な問題というぐあいにとらえているわけでございます。

さらに洪水対策といたしましては、浅川の河床を１メートル下げる可動掘削する、という計画を立てております。もし、この河床が下がりますと、ほとんどの取水口にはどうして水を入れるか、建設省はそれを保障すると言っておりますけれども、建設省の言葉を信じたい、というぐあいに考えております。

また、流水量も年々少なくなってくることが予想さますので、清流の復活はもとより年間の通水につきましても、その将来は楽観できない問題がある、というぐあいに考えております。以上のような観点に立ちまして、市では従来の事業に比べまして平年度に流水の状況調査、わき水の調査と水路の基本計画策定のための検討を始める予定でございます。

それから、水質の浄化という件でございます。水質の汚濁は、大変解決困難な問題も多々あるわけでございますけれども、昭和45年に制定されました水質汚濁防止法によりまして、工場とか事業所の排水制限につきましては一応の効果があらわれてきた、というぐあいに考えております。しかし、一般家庭や商店の排水というものによるところの水質汚濁というものは、これがやはり一番、現在では深刻な問題ではないだろうか、というぐあいに考えております。

そういうことを受けまして、当市といたしましては昭和51年に全国に先がけまして、日野市の公共水域の流水の浄化に関する条例、清流条例と愛称で呼んでおりますが、さらには昭和55年に日野市清流監視指導員設置要綱を設定するとともに水路週間というものを設けました。これは11月の１日から１週間でございますけれども、水路の浄化に、以上のようなことで取り組んできたわけでございます。

また一方では、昭和61年に浄化施設を設置しました。高幡の市営住宅のところでございます。これは、今度の高幡の特別養護老人ホームは、それをよけておりますので、あれはそのまま残したい。水路も護岸をぴしゃっと親水護岸的なものにしていきたい。ですから、特養ができることによってあの水路をつぶすことはございません。生かしていきます。本年度は木炭浄化のテストを行ったわけでございます。しかしながら、市内を

流れる水路の延長は約200キロメートルございます。その水量が冬の間でも推定１日当たり約20万トン以上という状況で、これはおのずから限界があるわけでございますが、したがいまして、今後は汚水は根本から断っていかなきゃならん、これらの施策により一層の努力をする必要がある、というぐあいに考えております。

これ等も、下水道というものの完備も着々と進んでおりますので、川もきれいになっていくんではなかろうか、また水路もきれいになっていくだろう、というぐあいに考えております。

以上のようなことでテストを行ってはおりますが、十二分にこのテストの結果を踏まえまして、来年度を研究準備期間といたして、昭和65年には体制を整えまして水質浄化にさらに取り組んでいきたい、というぐあいに考えております。

以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　それでは、私の方から２点につきましてお答えをいたします。

１点目は、東平山一丁目の法地の保存でございます。この件につきましては、付近の住民の方から保存の請願が出まして現在建設委員会で検討している、というものでございます。この土地につきましては南傾斜の土地でございまして、構図と現地が不一致の土地でございます。

さらに、この土地についての地主さんの意向でございますけれども、現在、売る意思はない、とそういう状況でございます。これを区画整理の中で保存を、ということでございますが、区画整理の計画につきましては、道路、公園、その他都市施設につきましては、できるだけ現地の現状を十分生かすような形で配慮するわけでございますけれども、特に公園等につきましては配置の全体のバランスが大事でございます。

したがって、今の時点でどこの場所に小公園ができる、というところまでのまだ計画の詰めは、なされておりません。今後、要望の趣旨は十分踏まえて事業を進めたい、というふうには考えておりますけれども、現在、個人の所有地でありますから、現地に必ず保存できるというようなことは約束をできない状況でございます。

それから２点目の、豊田区画整理区域内の崖地の問題でございます。

これは吹上の境から2・2・3が豊田の駅の方へ続くわけでございまして、一部その崖地を通りまして若宮神社の南に出ていくわけでございます。道路ができるところは、ともかくといたしまして、若宮神社の南側でありますとか、それから、その途中等につきま

しては、できるだけ神社の用地、あるいは公園等で保存できるところはそういう形で確保をしていきたい、というふうに考えております。

さらに、ずっと西の方へまいりまして、農家の集落がありまして、段上が住宅化されているわけでございまして、この辺の換地につきましては、現在のいわゆる屋敷林のような形で換地を現状のままいたしまして、いわゆる屋敷の一部として現状のような形で保存をできるように今考えている、ということでございます。まだ具体的には、これからの作業ということであります。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　小俣昭光君。

○10番（小俣昭光君）　　再質問をさせていただきます。

第１点目の西大介の緑地のところなんですけれど、ぜひあそこに少しずつ開発がされるという形で、なし崩し的になくなってしまう心配があります。ぜひ、そういう点では今のうち、確かに個人の土地ですから難しいかと思いますけれども、これから、今、建設委員会にかかっています緑地信託の条例などを生かしていただきながら、ぜひ確保していただきたい、というように思っております。

今までも緑地を確保するということで、７万7000平米も確保しているということでありますが、さらに積極的にお願いしたい、というように思います。

それと、第２点目の東平山一丁目の地域ですけれど、これもまだ、そういう点では区画整理、これからの場所で難しいかと思いますけれど、こういうところを残していただく、私は今回ここの部分を指しておりますけれど、要するに今ある、こういう雑木林というんですかね、緑地、こういうところをやはり自然のままに残していく、本当に手の入った公園ということではなくて、むしろ、こういう自然のままのところを生かせるようなことが特に重要じゃないのかな、というように思っておりますので、そういう点では、ここだけの部分でなく、これから区画整理に入るところでも積極的にそういうところを生かしながらまちづくりをしていただきたい、というように思います。

２点目と３点目は同じようなもので、豊田南の区画整理もそうですけれども、そういうところで、ぜひ積極的にお願いしたい、というように思います。

それと、浅川親水計画については一応了解いたします。積極的に建設省あるいは東京都と働きかけていただいて、１日も早くこれらの計画ができるように、この部分については要望しておきたいと思います。

第５点目の清流の復活、水路の清流の復活ということで、特に建設部長からも言われましたように豊田南の区画整理内には、あちこちにわき水がわいているところがあるわ

けですね。そういう点では、このわき水を確保する、そして、水路を本当に清流が流れる水路になれば、そういう点では本当に素晴らしい町にもなるわけですので、そういう点ではこのわき水を確保するということで、特に今まちづくりが進められ、あるいは下水道が進められて、道路はアスファルトになっていく、という中で、雨水が地下に浸透するということが非常に浸透しずらくなってきているのではないか、というように思うわけですけれども、そういう点でもこの地下に浸透させる方策、こういうのも積極的にやっていただきたい、というように思います。

私は、何年か前に一般質問でやはり地下浸透の問題を提起いたしました。雨水の、せめて屋根に降った雨をトヨから側溝にそのまま流れるのではなく、トヨを受ける升、そこの底を抜くとか、あるいはその敷地内から道路の側溝に流れるまでの側溝については、例えば底を抜いて浸透できるような、そういうようなことが検討されてもいいのではないか、そういうことによって地下浸透を進めて、そしてそのことによってわき水をふやす、あるいは浅川の水量を確保する。これは、そういう点では日野だけでは浅川は難しいでしょうけれど、そういう点でも、そういうところが重要じゃないのかな、というように思いますので、この辺についてどのような考えがあるか、お聞かせいただきたいと思います。

それと、もう一つは、私はこの質問、今までこの質問を当たるにあたって、今まで用水は、道路が狭ければふたをかけて、そこを通路にしたらどうだ、というように私自身も今までは、そう思っていましたですけれども、実際には、それは一時的な対策であるということに気がつきました。

そういう点では、今度の豊田南の区画整理、こういう中でこの水路、ぜひ、今まで例えば二小の前の都道ですけれども、ここにふたをかけて歩道としてなっておりますけれども、区画整理が終わったらこの部分を取り除いて、そして市民の人たちが憩いの場にもなるような、散策の場にもなれるような、そういうような形態をぜひ実現させていただきたい、というふうに思います。

以上、何点か再質問させていただきます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　　再質問についての答弁を求めます。建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　再質問に対しまして御答弁申し上げます。

西大介の件でございますが、この確保には、さらなる努力をしてほしいということでございます。十二分に努力をしてまいる所存でございます。

浅川親水路につきましては、これは要望ということでございましたので、やはり建設

省ともよく――建設省といいましても京浜工事事務所でございますけれども、よく打ち合わせをしていきたい、というぐあいに考えております。

それから、清流復活ということで水の確保ということ、水量のバランスの問題かと存じますが、浸透式の舗装がございます。これ等は車道に使うのはまだちょっと無理か、強度が非常に落ちますので、歩道等に浸透式の舗装を使う。それとか歩道に、本年度計画しておりますけれども、市役所通り前というんですか、消防署の前のとおりでございますけれども、あそこの舗装を一部分はがしまして植樹をしたい、というぐあいに考えております。

そういうぐあいに水のバランスをとっていかなきゃならない、というぐあいに考えております。

以上でございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　第二小学校の裏の水路の問題でございますけれども、豊田の区画整理のテーマの中には、水というものも大きなテーマの一つに置かれております。それで、豊田用水については、できるだけ現況を保存するような形で努力をしております。特に、御指摘の第二小学校の裏の付近でございますけれども、この道路は将来は市道になりまして、幅員が８メーターで片側歩道の設置でございます。水路は、もちろん道路に沿うような形で再整備をする、ということでございます。

したがいまして、水路のふたかけはなくなりまして、歩道は道路の一部としてつくられる、ということになるわけでございます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　小俣昭光君。

○10番（小俣昭光君）　一言、市長に緑と清流を守る立場で何かお気づきの点がありましたら、お願いしたいと思います。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　都市化をする中で緑と清流を取り戻すということは、まさに言うべくして非常に困難な仕事である、ということは、もうつくづく感じておるわけでありますが、それでもなお、後世にいい町を残すためには、万難を排してでも取り組んでいかなきゃならない、そういうことが市民の支持にも大きく理解される時代になっております。人間性を豊かにするために一番基本的な問題だと思っておりますので、これからも努力をいたしたいと思っております。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　小俣昭光君。

○10番（小俣昭光君）　最後に要望して終わりたいと思います。

今の緑と清流を取り戻すということで、これからも私たちも全力を上げてがんばっていく決意であります。

また、今度の来年行われます市長選挙におきましては、革新市政第５期を目指して全力を上げていただきたい、というふうに思います。その立場で、この緑と清流、本当に日野市に合ったスローガンとして、さらに私たちもがんばっていく決意を述べまして、一般質問を終わらせていただきます。

○副議長（一ノ瀬　隆君）　これをもって17の１、緑と清流を生かすまちづくりについての質問を終わります。

本日の日程は、すべて終わりました。

明日の本会議は午前10時より開議いたします。時間厳守で御参集願います。

本日は、これにて散会いたします。

午後４時46分　散会

12月16日　金曜日　（第６日）

昭和６３年
第４回定例会　日野市議会会議録　（第46号）

12月16日　金曜日　（第６日）

出席議員　（30名）

１番	奥住日出男　君	２番	宮沢清子　君
３番	高橋　徹　君	４番	土方尚功　君
５番	山口達夫　君	６番	天野輝男　君
７番	福島盛之助　君	８番	福島敏雄　君
９番	中谷好幸　君	10番	小俣昭光　君
11番	川嶋　博　君	12番	馬場繁夫　君
13番	夏井明男　君	14番	小山良悟　君
15番	馬場弘融　君	16番	高橋徳次　君
17番	簏野行雄　君	18番	一ノ瀬　隆　君
19番	板垣正男　君	20番	鈴木美奈子　君
21番	中山基昭　君	22番	秦　正一　君
23番	黒川重憲　君	24番	古賀俊昭　君
25番	谷　長一　君	26番	市川資信　君
27番	石坂勝雄　君	28番	名古屋史郎　君
29番	竹ノ上武俊　君	30番	米沢照男　君

欠席議員　（なし）

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	長谷川暢男君	総務部長	坂本金雄君
市民部長	大貫松雄君	生活環境部長	藤浪竜徳君
清掃部長	小林修君	都市整備部長	前田雅夫君
建設部長	永原照雄君	福祉部長	高野隆君
水道部長	橋本栄萬君	病院事務長	大崎茂男君
教育長	長沢三郎君	教育次長	砂川雄一君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	佐藤智春君	次長	土方留春君
書記	田中正美君	書記	濃沼哲夫君
書記	佐々木茂晴君	書記	小林章雄君
書記	斉藤令吉君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3
立川速記者養成所　所長　関根福次
速記者　村上紀子君

議事日程

昭和63年12月16日（金）
午前10時開議

日程第　1　一般質問
（議案上程）
日程第　2　議案　第118号　日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
（請願上程）
日程第　3　請願第63－26号　「宅地開発指導要綱」にもとづく公的負担の軽減に関する請願
日程第　4　請願第63－27号　旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願

日程第　5　請願第63－28号　鉄道共済年金の安定的財政確立に関する請願
日程第　6　請願第63－29号　日野市営グランドの充実を求める請願

本日の会議に付した事件
日程第1から第6まで

午前10時33分　開議

○議長（市川資信君）　おはようございます。

本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員、23名であります。

これより日程第１、一般質問を行います。

一般質問18の１、市民サービス向上めざす市政をの通告質問者、板垣正男君の質問を許します。

〔19番議員登壇〕

○19番（板垣正男君）　市民サービス向上を目指す市政をと題しまして、一般質問を行います。

どういう時代にあっても、市民サービスの向上を目指す行政の任務は、当然のテーマであるわけでございます。しかし市民の側から、行政へ向ける目というのは、必ずしも行政側の市民サービスを目指そうとする意思とは違う場合もあるわけでございます。そうしたときに、市民側の要望、気分あるいはさまざまな時代を反映したサービス向上を目指す声に耳を傾けていくかということが、どうしても必要になってまいりますし、それが一つの大きな課題ともなるということになってまいるのではないかと思います。

私が今回取り上げましたこの課題の中に、幾つか具体的な項目について、質問を行ってまいりたいと思います。

これまで議場におきましても論議が行われた事柄にも関係するわけでございますし、殊さら新しい問題を提起するということにはならないと思うわけでありますけれど、これまでの行政サービスの積み重ねの上で、さらに今日市民の方々が望まれる、あるいは直接行政にかかわる部門で改善を要すると思われる点などについて、具体例を挙げながら質問を行ってまいりたいと思います。

御承知のように、日野の市内にはたくさんの公共施設があるわけでございます。現在も15万余の市民を対象にしたそれらの施設が、有効に利用されてまいってきているものと思います。そしてそれらの場を利用いたしまして、市民の皆さん方の文化的な活動、あるいはその他市民生活に必要な活動が営まれてまいってきているわけでございます。

こういうことで、公共施設でありますから当然市民全体の利益とマッチした利用のされ方というものが、一方には求められるわけでございます。また一方、利用する側の利便ということもまた当然考えていかなければならないわけでございまして、この両方をいかに統一させていくか、しかも時代を反映させた今日的な要求や課題を解決するとい

うことで、統一させていくかということになってくるのではないかと思うわけでございます。

そういう観点から申し上げますと、例えば市のさまざまな施設の利用料金、施設の申し込み期間、利用の時間の再検討を要する部門もあるのではないかと思うわけでございます。施設によってかなり違いがあるということもあるわけでございまして、利用されている市民の皆さん方は、毎日そういうことを経験されているわけでありますが、たくさんの施設を改めて調べてまいりますと、そういう違いなどがかなりあるということにも気がつくわけでございます。

例えば婦人センターは、使用料は必要ありません。無料で使えます。申し込み期間の、申し込みより以前３カ月前から利用ができるようになっております。使用時間でありますが、夜間は午後９時までとなっております。福祉センターは、これも使用料は実際は取っていないのでありますけれど、申し込み期間が使用の１カ月前からということになっております。夜間の使用時間は９時半までとなっております。公民館は、これも使用料は取っておりません。申し込み期間が１カ月前、夜間の終了時間は９時半となっております。地区センターは、これはもう使用料はないわけでありますが、申し込み期間が１カ月前、夜間も９時半までとなっております。ことしオープンいたしました生活保健センターは、最も安い使用料金が400円、これは使用区分によってでありますが、一つの使用区分におきまして低い料金が400円、申し込み期間が２カ月前からとなっております。使用時間が、夜間は９時半までということになっております。勤労青年会館は、これは使用区分の安いので800円、申し込み期間が２カ月前から、夜間は10時までとなっております。市民会館、あるいは南平体育館、学校開放の条例規則等がございますが、これはまた後ほど触れることにいたしまして、ざっと見ただけでも、おおむね夜間の利用が９時、９時半、10時までというふうになっております。

最近開設いたしました施設は生活保健センター、勤労青年会館、有料ではありますけれど、申し込みの期間が２カ月前からとなっております。ただし公用、公共的団体が使用する場合は３カ月前から申し込みができるということになっております。夜間の使用時間も、勤労青年会館の場合は午後10時までということになっております。当然これらのオープンに伴う使用区分の利用時間、申し込み期間、使用料等については議会で論議を経たものでもあるわけであります。

この間、一定の利用期間を経まして、利用者等の実際の声を総合してまいりますと、いろいろと要望点なども出てまいってきていると思うわけであります。これは当然なことでもあるわけでありますが、実際の姿の中でいろいろと利用者側から見た改善点を要望するということは、当然ではないかと思うわけであります。

私の方で幾つか改善点を申し上げますので、どなたか関係部長、代表してお答えされてもよろしいですし、関係担当部長でそれぞれお答えされても結構なんですが、例えば婦人センター、３カ月前の申し込みというのは大変好評のようでありますが、夜間の使用が９時までというのは、いかにも実態に合わないという声もあるわけであります。昼間の利用時間であるならば、これは問題ないわけでありますけれど、働いている婦人の方々もたくさんおられるわけでありますし、夜間の９時というのはちょっとやはり早過ぎるのではないかという声があります。

勤めから帰ってまいりますと、市内の勤労者ならば６時あるいはその前後から利用することもできるわけでありますけれど、市外に通勤などされている方々は、帰ってから諸準備を行ってこのセンターを利用するということになりますと、７時ないしは７時半になってしまうということになるわけであります。

終わりの時間が９時までとなっておりますと、それより以前に目的の使用を終えて、後片づけその他終えて、会館を９時までに出るということになりますと、大体８時半ころには終えなければならないということにもなってくるわけであります。これを９時半ないしは10時ころまで延長することはできないかというのが、一点ございます。

それから福祉センター、公民館、地区センターの申し込み期間が１カ月前となっているわけでありますけれど、これは私も直接経験したことでもありますが、１カ月前の申し込みということになりますと、なかなか活動の計画が立ちにくいという経験なども多くされているようであります。最低２カ月前に申し込みができるようになりますと、会場を確保して初めてその団体、グループなどの活動が本格的に決まるわけでありますから、１カ月前の利用申し込みということになりますと、それからＰＲ、あるいは広報を使う場合など、なかなか実態に合わないということになってまいっている例が出ているようであります。

これを２カ月前に申し込みができるように、申し込み期間の延長を図っていくことが必要ではないかと考えるわけであります。あわせて、夜間の使用時間の終了を９時半ということではなくて、10時まで延長できないかということでございます。これは管理の面との兼ね合いが当然あるわけでありますが、現在、高齢者事業団等に委託されているケースが多いようでございます。これらも勤労者の利用等を考えますと、どうしても９時半まで利用、活動を行って、その上後片づけ等々を行って会館を出るということにな

りますと、やはり15分から20分かかってしまうという声が、多く聞かれるわけであります。

生活保健センターの利用料金、さらには使用時間の夜間の終了でございますが、勤労青年会館やあるいは生活保健センターも同じでありますが、この使用料金は利用する市民や団体等によって、若干の差を設けてもいいんではないかということでございます。現在の利用料金も、最低ぎりぎりの線で決められているというふうに私たちも考えているわけでありますけれど、しかし利用する市民団体等によりましては、わずか月に１回とか、あるいは２カ月に１回、あるいは半年に１回しか利用しないということではなくて、やはりもっともっと利用したいのだという希望も、たくさん持っているわけであります。

そういう市民団体の使うものと、使用料金をたいして負担にならずに支払える団体等も、当然あると思うわけでございます。そうしたことなどの若干の利用料金の区分などもあってもいいのではないかと思うわけでございますし、もちろん無料になればそれにこしたことはないわけでありますが、一足飛びにそこまでいかないということであるならば、そうしたことなども考慮していただきたいと思うわけであります。

夜間の使用時間は、生活保健センターは午後９時半となっておりますが、10時までに延長できないかということでございます。その理由といたしましては、これまで申し述べたことなどが主な理由となるわけであります。

以上、この点の質問をとりあえず行ってまいりまして、その後さらに私の考えなどを含めて、再質問を行ってまいりたいと思います。

○議長（市川資信君）　板垣正男君の質問についての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　それでは、私の関係するものにつきまして、お答えいたしたいと存じます。

まず婦人センターの件でございますけれども、婦人センターにつきましては、現在使用時間が９時までということになっております。これにつきましては、利用される方が主婦の方が非常に多いということに聞いております。したがって、９時半となりますとかなり家庭にも影響あるということで、恐らく９時ということにしたのではないか、このように考えております。

それから地区センターでございますけれども、地区センター、それから勤労青年会館、生活保健センターも含めてでございますけれども、地区センターにつきましては現在９時半、それから生活保健センターも９時半ということになっております。これについて

は、再三議会等でも御指摘があったわけでございますけれども、この延長につきましては、やはり遅くなりますと地域に対します迷惑もありますし、あとまた管理上の問題もございます。したがいまして一応９時半というのが妥当ではないかな、このように考えております。

それから勤労青年会館でございますけれども、団体によっては使用料金の差をつけるということでございますけれども、これについては公平の立場から、差をつけるのは問題がある。やはり公平に使っていただくのが行政としても公平な立場ではないかな、このように考えておりますので、その点は御了解をいただきたいと存じます。

それから地区センターの使用申し込みの件でございますけれども、１カ月前ということになっております。御指摘の点もあろうかと思いますけれども、できるだけ地域の皆さんに公平に使っていただくという面からいたしますと、この１カ月というのが妥当であるというような判断でこの基準を設けたものと思いますので、今後そういうふうな考えでいきたいと、このように考えております。以上でございます。

○議長（市川資信君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　それでは、福祉センターについてお答えをいたします。

福祉センターの利用時間は、現在、昭和59年に従来の午後９時から９時半までに、30分の延長をいたしました。近隣の同様施設を調査いたしたところでございますが、大体同様な時間でございまして、利用時間の延長については、市民の強い要望は現在、特に聞いておりませんけれども、これは市の施設の他の関連等もございますので、時間延長については他の施設との関係、あるいは市民の要望等を十分に調査した上で今後の検討課題としたいというぐあいに考えております。

また利用手続について、１カ月から３日までということでございますけれども、これについては一応現在のところ、他市の施設等は２カ月というところもあるようでございます。これはホールが施設内にあるようなところが大体２カ月、こういうふうなことだそうですが、他の施設関連で２カ月というところもあるようでございますので、その辺のところと市民の要望等を勘案いたしまして、今後検討の課題といたしたいというぐあいに考えております。

○議長（市川資信君）　教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　公民館について、お答えをいたします。

まず利用申し込みの期間のことでございますけれども、現在の公民館はいわゆるホールを持っておりませんので、通常は比較的小規模な団体の集まりの利用ということが大

体中心になっておりますので、今まで１カ月前から３日前までということで、そんなに大きな問題が出ているというふうには理解はしていないのですが、公民館の場合はいろいろ公民館の主催事業というのもあります。ですからそういう面で、純然たる他施設の場合とはおのずから対応の仕方も異ならざるを得ないのではないかというふうに考えておりますけれども、ただ御指摘のありましたように、小規模な集まりであっても参加者への案内とかいろいろ準備とか、そういうような形で１カ月以上前に場所の確保をしなければならないという場合もあろうかと思います。

現在でも公民館の使用条例の施行規則の中で、館長が特に必要と認めた場合は１カ月以上前でも手続ができるような形になっておりますので、現在でも公民館の方へ申し出ていただければ、対応は可能ではないかと思っております。

それから利用時間の問題も９時半ということになっているわけですが、実際には管理人を高齢者事業団の方から派遣してもらって、午後10時まで勤務してもらっていますので、９時半までは目いっぱい原則的には使っていただけるのではないかというふうに考えております。

ただ、いずれにしろこの申し込みの受付期間の問題も、利用時間の問題も、やはり市民の利用の実態に合わせて設定するのが一番望ましいわけでございますので、今後とも改善方については検討していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（市川資信君）　板垣正男君。

○19番（板垣正男君）　今、３人の部長から説明がございました。婦人センターの夜間の９時までの使用は、主婦が多いから現状でいいんではないかというお話でございましたが、そうとは限らないのではないかと思うんです。

今、主婦といってもいろいろ幅広く解釈がとられますけれど、勤労されている婦人の方々も大変多いわけであります。ですから９時半までに利用時間を延長すると、家庭に支障を起こすということはないと思うのです。これは利用する団体のその利用の必要に応じて時間を決めるわけでありますから、会館の利用時間が９時から９時半に延長されて、それによって支障を来すという理由は、ちょっと成り立たないのではないかと思うのです。そういうことを、もし一々家庭のことまで言いますと、会館の施設利用云々ということになって、ものが私はちょっと外れてくるのではないかというふうに思うのです。実際の利用実態に合わせまして、時間の延長というものが必要になってくるのではないかと思うわけであります。

そういうことからまいりますと、例えば申し込み期間が全部ばらばらだということであるとか、あるいは夜間の使用の終了時間が、これもまちまちだというようなことなども、これはやはりもう少し全体の検討を要する問題ではないかと思います。

福祉センターはホールがないということであるとか、あるいは公民館もホールがないというような理由があるようでありますけれど、必ずしもホールを使う事業や活動だけを対象にして、申し込み期間を１カ月か２カ月延長するということを検討するということではないと思うのです。いろんなグループなどがあるわけでありますし、規模の大小を問わず、やはり１カ月前では期間が足りないという場合もあるわけであります。福祉センターなどは和室でありますけれど、ステージのついた立派な部屋もあるわけであります。また公民館も、実習室等を使いますと、かなりの人数利用ということもできる部屋もあるわけでありますから、そうしたことなどもあわせて考えて、利用者の要求にこたえていただきたいというふうに思います。

地区センターの件でありますけれど、１カ月前の申し込みは、公平に利用されるという点から妥当だというふうにおっしゃっておりますけれど、公平に使わせるということからいきますと、やはりこれはほかの施設と同じように、もっと以前から使えるようになれば、それぞれの活動の計画というものも立つことができるわけであります。１カ月以内の準備というのは、これは実際はなかなか大変なんですね。特に新しい活動を行うという場合の地区センターの利用ということになりますと、むしろ非常に困難になってくる。あるいは地区センター以外の１カ月前ということになりますとね。しかし定期的に場所を借りて行う、地区センター、ほかの施設を利用しているということになりますと、これは１カ月前でも利用は可能なんです。新しく事業あるいは活動を行おうとする団体や市民には、なかなか不便さも、これではあるということになるわけであります。

さらに市民会館に及んでまいりますと、これは大ホールは１年前から利用の申し込みはできますし、小ホールは市内の居住者であれば７カ月前から利用もできるということになるわけであります。南平体育館、これも１カ月前ということに条例上はなっております。さらに学校開放でありますけれど、これは条例上はたしか７日以前に申し込みはできるということになっているようであります。しかし実際利用するには登録をする、登録した団体に開放するということになっておるようであります。

夜間の使用時間は、体育館であるならば９時までということになっておるようでありますが、これは機械警備との関係だろうと思うのですけれど、実際はなかなか９時までに利用はできないという姿になっているかと思います。これは教育委員会ももちろん掌握しているかと思いますけれど、先ほど申し上げましたように、なぜ夜間をやはり利用

するかということなんです。昼間利用できれば昼間利用するということだと思うのです。しかしだから、それができないから夜間の利用ということになるのです。午後６時から９時までということになっておりまして、３時間、体育館を利用することができることになっておりますが、午後６時からすぐ体育館を使ったスポーツ等を行うということは、夜間を利用する人たちは、なかなか難しい場面もあるわけです。勤務を終えて、そして体育館に集まって、必要な練習等を行うには、やはり６時半、７時にもなってしまう。それを８時半に終了して、跡片づけその他終えて、45分にはもう学校を出なければいけないということに、実際はなっているようでありますから、その点はまだまだ検討する余地があるのではないかと思いますので、これは答弁は結構ですから、意見として申し上げておきたいと思います。

次に、オレンジボックスのことでございますが、日野市もこれまでごみ収集の問題につきましては、行政、市民との相互協力のもとで非常な努力を重ねてまいりまして、今日のようなごみの収集実態をつくり上げてきたといってもよろしいかと思うわけであります。決してすべてが非常に不愉快を与えるようなごみの収集や、あるいは市民のごみに対する意識があるというふうには、私も思ってはいないわけであります。

しかしこういう努力を行った中でも、なおかつ私たちの目に触れるのは、オレンジボックスがかなりあふれた状態が、あちこちに目につくようになっているということでございます。この年末年始だけの問題ではなくて、日常的なこととして、オレンジボックスをふやすということも一つは考えられるわけでありますけれども、しかし地域やその道路の事情によってはなかなかそれができないということもある箇所も多いわけでございます。

７日に１回の回収をもっと日を短くして、例えば５日に１回とかというような、収集回数日を短縮するということによって、このオレンジボックスの回収を一層前進させるということが、今、必要ではないかというふうに考えるわけであります。担当部門での考えをお聞かせしていただきたいと思います。

もう一点、区画整理事業のことでございますが、これはいろいろと論議をされたことでもありますが、区画整理事業を始めるに当たりまして、事業計画がつくられてまいります。その後、地権者等に供覧を行ってまいるわけでありますが、この地権者が事業計画を供覧する、閲覧するという際に、ちょっとやはり窓口でトラブルと申しますか、なかなかスムースにいかないことなどがあるようでございます。私どもの聞いた点などもあるわけでございますが、もう少し地権者の利便と、地権者個人の箇所と言いますか、

地権者にかかわるその部分とあわせて、区画整理地域全体の事業計画がどのように計画されているかということを、やはり地権者として知りたいと思うのです。そうしたときに、供覧の際の利便を、もっともっと検討してもいいんではないかということがあるわけでございます。

その辺の考えなどを、お聞かせをしていただきたいと思います。以上、再質問。

○議長（市川資信君）　板垣正男君の再質問についての答弁を求めます。清掃部長。

○清掃部長（小林　修君）　現在のオレンジボックス、不燃のごみの収集は、週１回行っているところでございます。

今、ボックスがあふれているという御指摘がございましたけれども、現段階では、不燃のごみの多いところは、地元の人と協議した上で、ボックスをふやすということで対応しているのが現状でございます。

しかし年々不燃のごみもふえてまいりますので、私たち、部内でもいろいろ話題にしております。ただ、業者を委託しておりますから、その辺との関係もございます。例えば車両をふやさなければいけないだろうし、それからそれに伴う人員の問題、それからコースを変更していかなければいけないというような課題が出てまいりますので、私たちも今後、現実にわかっておりますから、検討させていただきたいと思っております。

一方、市内を見ておわかりと思いますけれども、不燃のごみのボックスの周りに、本当は粗大に回さなければいけないとか、中には資源のごみになるというような部分も含まれておりますので、そういう面での資源ごみの回収事業についても、来年度から見直していきたいと思っております。

ひとつよろしくお願いしたいと思います。以上です。

○議長（市川資信君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　２点目につきまして、御説明をいたします。

ただいまの御質問のございました点は、区画整理法に基づきまして、第３条の３項でございますけれども、都道府県または市町村が区画整理事業ができるという規定がございまして、このいわゆる市町村施行を進める上で手続が、規定を要するわけでございます。

第３節の都道府県及び市町村ということで、この事業を進める上で、55条に事業計画の縦覧等についての規定があるわけでございます。この縦覧でございますけれども、縦覧の意味は二つほど大きくございまして、一つは書類、図面などを自由に一般の方に見せるということが一つございます。それからその見せた上で、異議の申し立て等の機会

を与えるということでございます。

この二つの事項を周知させるための手続があるわけでございます。これは法律の中で、市の公告基準条例に基づきまして、縦覧の期間でありますとか、場所を告示をするということになっておりまして、この法律の解釈からいきますと、縦覧に供する意味でございますけれども、この縦覧に供する意味の中に、コピーの複写まで考えていないということでございます。あくまでも日時、場所等を告示しまして、資料等の提供をし、閲覧をしてもらって、縦覧をしていただきまして、その縦覧によります意見を利害関係者からいただく、そういうことになっておるわけでございます。

他の自治体が実際にどういう手続をしているかということも調べてみたわけでございますけれども、都市計画関係だけに限って申し上げれば、東京都及び各市につきましてはコピーのサービスはしていないということでございます。

御質問の中にありましたけれども、この縦覧の趣旨と言いますのは、私が今申し上げましたように、事業計画の趣旨を一般権利者の方に説明をし、その内容について意見をいただくということでございますので、内容の周知徹底については、できるだけのことはしなければいけないというふうには理解をしているものでございます。

○議長（市川資信君）　　板垣正男君。

○19番（板垣正男君）　　市民サービス向上を目指す市政をということで、何点か具体的に質問を行ったわけでありますが、私はきょう取り上げましたこれは施設、あるいはボックスの問題、区画整理のことなど含めまして、特に施設利用という点では、中谷議員の文化論ではありませんけれど、本当に日野市民の文化を育てる、文化的な活動を育てるということでは、施設の利用というのが極めて大切な役割を持っているわけであります。施設の障害なくしてそれぞれの活動ができるようになれば、一層市民の間の文化的な諸活動というものが大きく前進するものと、私は確信を持っているものでございます。

市民会館を借りる際にも、営利でない市民団体が借りるときも、あるいは商業的な興行を打つときも同じように料金を支払うということなどは、実態としていかがなものだろうかということが、これまでの経験の中で、一つの考えとして出てきているわけであります。

附属設備などを借りますと、例えば譜面台一つ借りるにも50円、100円取られるわけです。そういうのは使用料金、入場料金を払っている業者も、全くそういう料金を支払わないで利用される団体も同じように支払うということなどがあるわけであります。ですからそういう市民のさまざまな文化活動をやはり高めるという点での、施設を借りる

上での障害をできるだけ少なくしていくということが、私は大切なことではないかと思うわけでございます。

そうした点での質問を行いまして、今後一層検討されますことを強く要望いたしまして、この質問を終わります。

○議長（市川資信君）　　これをもって18の１、市民サービス向上めざす市政をの質問を終わります。

一般質問18の２、公民館、中央福祉センターの利用と建てかえについての通告質問者、板垣正男君の質問を許します。板垣正男君。

○19番（板垣正男君）　　中央公民館と建物は一つになっていると言ってもいいわけでありますが、福祉センターの利用というのは年々高まっているという実績があるわけでございます。場所も適切なところに建てられているということであるとか、駐車場なども確保されているということなど相まちまして、公民館、福祉センターの利用が年々高まってまいってきているわけでございます。施設が好位置にあるということとあわせまして、やはり市民の各層、各地域等が、公民館や中央福祉センターの利用を必要とするような活動がふえてまいってきているということにもいえるわけでありますが、昭和58年の公民館の利用者というのが、延べ人員で３万9357人となっております。５年後の62年度には４万7926人、8500人余りの利用者の増ということになっているわけであります。こんなに実際ふえているのかということなどが、私も調べてみて、改めて思い知ったわけでございます。

それでは福祉センターの場合はどうかと申しますと、同じ昭和58年度では、中央福祉センターは３万8587人、62年度になりますと５万4086人で、１万5500人の利用者増となっております。この５年間に8000人から１万5000人の利用者増ということになっておりますから、日野市民のこうした施設を利用したさまざまな文化活動、教育活動その他の諸活動が、大いに盛んになっているということにもなるわけであります。それと並行いたしまして、これらの施設に対するさまざまな要望もあわせて出てきているというのも、実態ではないかと思います。

先ごろ発表されました日野市の教育要覧、1988年版によりますと、公民館の中で、施設整備の項でこのように述べております。

昭和41年に開館して以来22年が経過した。市民の利用内容は年とともに変化すると同時に、多岐にわたるようになり、施設に対する苦情や要望が多くある。加えて建物の各所に老朽化が目立ち、毎年のように改修工事を行ってきている。こういうふうに述べて

いるわけであります。

教育長もよくこのことは御存じだろうと思いますが、最近における工事の主なものとして、昭和60年度には婦人実習室の改修を行いました。61年度には１階便所の改修、62年度には講座室、視聴覚室の改修をそれぞれ行ってまいっております。今年度も改修が予定をされているようでありますが、こうして老朽化の目立った建物の改修が、年々行われてまいってきているわけであります。

これは福祉センターでも同じような改修が行われてきているということも言えるわけでありますが、空調設備なども最近、入りました。入った後は非常にいいわけでありますけれど、しかし構造そのものが、昭和41年当時の設計に基づくものでありますから、今日の利用実態から見ますと、やはり使いにくいという点などがあるわけであります。私も直接利用者の方々から承りまして、例えば料理教室に使う流しが、なかなか排水が悪いという問題が、いまだにあるそうであります。もう何年来の話でありますけれど、改善されないというのです。一部手直しを行ったけれど、流しそのものを抜本的に改善しないと、なかなかよくならないというわけであります。排水口の直径がもともと小さいというわけなんです。幾ら排水管の曲がったのを真っ直ぐにしても、管そのものが細いわけでありますから、思うように排水ができないということなどが、今日依然として続いているわけであります。その他障害者がなかなか利用しにくいということなどがございます。そういうことなどを考えあわせまして、私は思い切って建てかえということを検討課題に載せていくべきではないかと考えておるわけであります。

日野市の基本構想によりますと、公民館の整備といたしまして、次のように方向づけを行っております。

市民の学習活動や相互交流の起点である中央公民館を高度化、多様化した学習活動、文化、創造活動のニーズに対応できる施設として整備しますと、こういうふうになっているわけであります。高度な活動、多様化した学習や文化創造活動というものにこたえるには、一部改修を行っていくにしても、十二分にこたえることができないのが、現状ではないかと思うわけであります。

中央公民館の改修は、昭和62年から64年度改修工事、5000万円の予算で行う事業計画が発表されております。私は、これまでこうした改修等が行われたことはそれなりに必要であったわけでありますから、それらを評価しつつも、これからの公民館活動、あるいは中央福祉センターの利用ということを考えてまいりますと、やはり時代に合ったような施設に抜本的に改善していくということが必要ではないかと考える次第でございます。

す。

市民の利用実態などから考えあわせまして、市側の考えを伺ってまいりたいと思います。

○議長（市川資信君）　板垣正男君の質問についての答弁を求めます。教育次長。

○教育次長（砂川雄一君）　公民館につきましては、今お話の中にございましたように、建設されてから二十数年を経過しておりますので、確かに老朽化も進んでおりますし、手狭にもなっているのが現実でございます。

これは市の基本計画の中にも掲げてございますように、当面はこの施設の改修によって対応していきたいという形で、現在の予定では64年度に改修計画を行いたいというように考えております。

現在の施設の中で、いろいろ部分的には少しずつの補修工事は行ってきましたけれども、それは当面その施設を維持するに必要な範囲で今までやってきたわけでございます。64年度に関しては全面的な改修計画をやって、使いやすさを増したいというふうに考えております。

ただ面積がふえるわけではございませんので、その点でまだいろいろ問題は残ろうかと思いますけれども、当面の問題としてはそういう形で対応をする。将来の問題としては、公民館の場合には先ほども言いましたように、公民館の独自事業というのがございます。それともう一つは施設を市民活動のためにお貸しをするという、両面があるわけでございます。

独自事業の方も今後ますます発展をしていくと思いますので、それにふさわしい施設規模というのが当然必要になってくるかと思います。ただ、施設をお貸しするという側面の問題でいいますと、他の地域コミュニティ施設との配置計画との整合性ということも当然問題になってくるわけでございまして、その辺のところを十分に今後検討をいたしまして、将来的には何らかの形で、施設規模の面でも改善を図るようにしたいというふうに考えております。以上です。

○議長（市川資信君）　福祉部長。

○福祉部長（高野　隆君）　中央福祉センターについての考えと言いますか、関連についてのお答えをいたします。

中央福祉センターにつきましては、昭和41年に開館して以来、二十数年が経過しておるわけでございます。建物もかなり老朽化しておりますし、雨漏り、漏水等がありまして、毎年、修理等をしております。

そういうことで、ことしも屋上の防水工事のお願いをしているわけでございます。現在、中央福祉センターにつきましては、貸し施設としての利用でございます。そこでその中に日社協が入っている、こういうことで、高齢者事業団に管理をお願いして、貸し施設としての活用をしているわけでございますけれども、センターの利用者からも、建てかえについての御要望は以前からありました。

また建てかえにつきましては、私どもとしては将来構想の中で考えていく、特に隣にあります中央公民館との関連の中で、一体化した構想の中で、建てかえるとすれば考えるべきではないだろうか。また同一敷地内に日野児童館もございますし、各施設の総合的な活用、将来的な見通しといいますと、コミュニティ施設としての活用といいますか、そこら辺のところも含めて総合的に考えて、位置づけして施設の目的、また規模等を総合的に考えた上で決定すべきだろう、こういうぐあいに考えておりますし、それについては今後検討課題として取り組むべきであるというぐあいに考えております。

○議長（市川資信君）　　板垣正男君。

○19番（板垣正男君）　　基本計画を引用するまでもないのでありますが、一応基本計画に述べられている方向を申し上げますと、老人福祉センターについては整備を行うということに加えまして、既存の施設の改修、改築を行うとともに、コミュニティセンター施設の整備にあわせて新設も検討していきます、こういうふうに述べて方向づけを行っております。

新設というのは、いろいろ地域的な新しい施設をつくるということにもなってくると思いますし、また中央福祉センターのように建てかえということも、この中に含まれているのではないかと考えるわけでございます。当然公民館との関係におきまして、検討が行われるものと思いますので、特段、この問題についても要望を行ってまいりたい思います。

あわせて市長からこの建てかえの問題について、今後の考えについて伺っておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　日野市の市民施設といたしまして、現在の公民館並びに福祉センターは、一定の役割を果たしてまいりました。

20年少々ということですから、本来ならば鉄筋コンクリートの建物で老朽化とは言えないわけでありますけれども、環境の社会の、あるいは住民のニードも変わってまいりましたし、いろいろな意味で規模が合わなくなった。あるいは機能が新しく求められてきている、こういう時代的な変化が背景にあるということが伴っておると思います。

公民館、福祉センター、場所として今までは公共の場所を探せばああいうところしかなかったから、そういう位置づけになっておりますが、将来展望をいたしますと、福祉センターはあの場所でよろしかと思いますが、公民館は本来ならもっと南部とも共用できる、共通に使える、そういう位置が望ましいということになってまいると思います。

そう言いましてもなかなか用地の確保は、今のところはっきりした見通しがあるというわけではございませんので、むしろ日野駅に近いところに民間の建物などのできる際に、ある程度の機能を確保していくということが、考えられる一つであります。

いずれ現状のままでいいということじゃございませんので、少し物事を広域的に考えて、建てかえということに臨みます場合には、いろいろな新しい要素を加えた配慮が必要である、このように考えておりますので、今後の基本計画の後期の課題として、衆知を集める手段をたどりながら一定の方向づけをしていく、これが現在考えられるお答えになると思います。

○議長（市川資信君）　　板垣正男君。

○19番（板垣正男君）　　昭和58年度に、社会教育委員会が行いました答申がございます。それは日野市における社会教育活動推進のための振興策についてと題したものでございまして、諮問に答える形で答申を行ったものであります。

この中で公民館の施設のことについても触れているわけでございますが、一つは現在の中央公民館の施設整備のこと、もう一つは市内の各地域の方々の利用ということから、南部地域に分館が必要だというふうに述べているわけであります。南部との利用ができるような位置に設置するということも、これは一つの考えでもありますけれど、交通その他を考えてまいりますと、南部にも公民館が必要だというふうに提言されているわけであります。そういう観点を貫いて今後の検討に資していただきたい、このことを申し上げまして、この質問を終わりたいと思います。

○議長（市川資信君）　　これをもって18の２、公民館、中央福祉センターの利用と建てかえについての質問を終わります。

一般質問18の３、栄町地域にコミュニティセンターをの通告質問者、板垣正男君の質問を許します。

○19番（板垣正男君）　　栄町地域にコミュニティセンターをと題しまして、一般質問を行いたいと思います。

御承知のように、私たちの生活に地理的な条件というのは重要な影響を及ぼすわけで

ございまして、市内全域の各それぞれの地域は、こうした地理的な条件に大きく左右されながら生活を送っているわけであります。

詳しく申し上げるまでもなく、栄町、新町地域というのは一つの地域をなしております。東は中央線、そして南は甲州街道、西は日野台地というところにちょうど囲まれるような形で位置しているわけであります。

生活圏も日野駅方向が一つの流れを形づくっているものの、やはりこうした地域の一つの特性に応じまして、この新町、栄町地域の一つの生活圏をなす地域でもあろうかと思います。

御承知のように、東光寺小学校ができる以前、まだ三小学区だったころでありますが、文化施設をつくってほしいというＰＴＡの請願がございました。議会でも論議をされ、採択をされたわけであります。その後地域の自治会館、あるいは自治会館の建てかえ、地区センターの設置等の請願も相次いで出て、これも採択されてまいってきているわけであります。

これらを総合して考えますと、やはり文化活動のできるような一つのセンターになるべく施設が欲しいのだということに尽きるのではないかと思うわけであります。市内には市民会館、あるいは勤労福祉会館、生活保健センター等整備されてまいりました。こうした大きな施設を利用するということとあわせまして、身近なところでの一定規模の施設というものもまた同時に必要になっているわけであります。図書館の分館をという要望も、こうしたことの一つのあらわれでもあったわけでありますが、地区センターの必要性とあわせまして、コミュニティセンターを設置してほしいという新しい、またこれまでの地域の要求を一つにまとめたような形での請願も、今度の議会に提出されました。これらの要望実現のために、関係する議員、あるいは住民の皆さんともども、今日までその努力を続けてきてまいってきているわけであります。

もうこの表題そのものでございますが、ここで具体的な話になってまいりますと、神鋼電機跡地の都営住宅用地における一定の土地の確保、そして集会施設建設見通し等もあったと思います。２・２・11の道路計画の促進などもいよいよ具体化してまいりまして、測量等が行われようというところまで話が東京都のもとにおいて行われて、進んでまいってきているわけでございます。

こうした道路計画との関係抜きにして、都営住宅用地も語ることができないようになってまいりました。これまでの論議を踏まえた上での話でありますけれど、この住宅用地内における地域の集会施設、コミュニティセンターの建設の見通しというのを、ずばり

伺ってまいりたいと思います。できましたら、これまでの経過などを若干踏まえて、今後の見通しなどをお聞かせしていただきたいと思うわけであります。

○議長（市川資信君）　板垣正男君の質問についての答弁を求めます。生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　それでは、栄町地域にコミュニティセンターをということで御質問でございますので、私の方からお答えいたしたいと存じます。

当該地域のコミュニティ施設でございますけれども、現在、地区センターが２館ございますし、地元の自治会館が３館ございます。その中規模なコミュニティ施設でございますけれども、これにつきましては全市的な規模、それから配置などの位置づけを、これから企画課とともに計りまして、調整をいたしまして、その結果に基いた計画なんかで今後建設を進めていきたいと、このように考えております。

御質問の栄町二丁目に建設を予定されております都営住宅の中に置きますコミュニティ施設でございますけれども、この中に集会所ができる、そして地域に開放されるという方針があるというふうに聞いております。

この敷地につきましては本年度末で遺跡の調査が終了いたしまして、建設計画は150戸、昭和65年度着工で４年間の計画で完成される、こういうふうに聞いております。地元の７自治会、約1300世帯からの要望もございますので、市といたしましても積極的に対応していきたいと、こういうふうに考えております。

東京都との事前協議があるわけでございますけれども、この際には地元の要望を十分に組み入れまして、企画課を通じまして要請をしていきたい、このように考えております。以上です。

○議長（市川資信君）　板垣正男君。

○19番（板垣正男君）　そういたしますと、昭和65年度に都営住宅の建設が始まるということでありますから65年度に具体化する、こういうふうに受け取ってもよろしいですか。企画財政部長なりあるいは市長でも結構なんですが、いかがでございましょうか。

○議長（市川資信君）　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　現状の中での、今、私の方も東京都からは具体的にこの協議はまだ市の方にはありません。よって計画として、過去の経過として、遺跡調査が終わっての計画の話だけでございます。当然、今お話ししたように具体的な問題が東京都で煮詰まった場合には、市の方に協議があるということは踏まえておりますが、議員さんからの質問の中にもありますとおり２・２・11の道路問題、それに対する市としての考え方を、住宅局長に市長が要請した経緯もあります。これはもう既に議会の中

でもお話ししているとおりでございます。移転等の問題を含んでの用地の確保の問題等もありますので、具体的に私の方に東京都からの相談があった時点で今後協議していきたい、具体的には私は65年というふうには考えておりません。以上です。

○議長（市川資信君）　板垣正男君。

○19番（板垣正男君）　生活環境部長と企画財政部長の答弁が食い違っておりますので、ひとつ調整する意味で市長から答弁いただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　多摩川に近い地域、この都市計画の時代が来たというふうに申し上げておるわけでございまして、これは都市計画道路並びに公共下水道、それらにあわせまして特に都営住宅の団地がかなりの面積を占めておる、こういうことがあります。

特に姥久保都営住宅は駅に極めて近く、非常に場所柄としてもいいところですから、東京都にはまだ建てかえ計画はないそうですが、あの姥久保都営住宅をもっと高層化して環境整備をしてほしい。その際にまた、日野市の市民のための公共施設を可能にしてほしい、こういうことを全体の都営住宅の範囲のこととして、申し入れをいたしております。

したがいまして、その栄町の都営住宅もなるべく、あの地域に公共用地がないものですから、都営住宅の計画の中にぜひ日野市の施策を可能にしてほしいということを、強く要請をいたしておるわけであります。神社の場所等もございますので、それらのことも含めて当然地元の要望されるコミュニティ施設はつくるということは可能であります。ただもう少し広域的に考えます場合に、文化施設といわれますとやはり図書館とか何かのホール的なものを考えますような場合は、もっと利用範囲を広く考える意味で、やはり駅に近いところの、今後つくられる民間ビル等の中に協議をしていきたい、こういう考え方がございます。

いずれにいたしましても、道路をつくることとあわせまして、幾つかの問題を解決のめどをつけていこう、こういう考えでおりますことを、お答えにしておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　板垣正男君。

○19番（板垣正男君）　なかなか年度のことが出てまいりません。生活環境部長の方が情報が早いのか、それともなかなか年度が出ないということが実態なのか、はっきりしないわけでありますが、従来の計画によりますと、遺跡調査が終われば都営住宅の建設

に取りかかるということであったわけであります。しかし２・２・11の計画問題が浮上してまいりましたために、それとの関係が当然この地域にもかかってきたわけでございます。

こういうことなどをそれぞれ調整を行った上でないと、なかなか事業は進まないということは、これはもう十分理解のできることであります。東京都の話が来るのを待つということではなくて、積極的な姿勢で東京都とも協議を進めるということで、ひとつ努力をしていただきたいと思います。

道路の問題がスムースにいくというようなことになってまいりますと、意外と早くこのコミュニティセンターの計画も大きく具体化してくるのではないかというふうに、私は期待を持つわけでございます。関係機関との協議など、今後一層詰めていただきますよう、強く要望いたしまして、この質問を終わります。

○議長（市川資信君）　これをもって18の３、栄町地域にコミュニティセンターをの質問を終わります。

一般質問18の４、国際交流についての通告質問者、板垣正男君の質問を許します。

○19番（板垣正男君）　国際交流について、質問を行ってまいります。

日野の議会でも、国際的な交流やあるいは国際的な論議などもいろいろと行われている、今日の論議の実態でございます。国際交流といってもいろいろあるわけでございますが、私の一つの経験などを踏まえまして、御提案を申し上げたいと思います。

ことしの10月に、私は札幌に行く機会がございました。国際的な鮭会議が行われまして、その代表の一人として会議に出席させていただいたわけでありますが、その際アメリカの代表から、ぜひ日野の友人と国際的な交流を行いたい、こういう申し入れを受けました。これは児童などを対象としたことであるわけでありますが、私も初めてのことでもありましたので、御希望に沿うよう努力いたしましょうという返事を行ってまいってきたわけでありますが、いろいろと実際事を進めるということになりますと、該当者はなかなか大変なようであります。経験がないだけに、思うようにいかないということなどがあります。

それにはやはり言葉の問題、あるいは諸準備等の問題もあるわけでありますが、アメリカなどの例を伺ってまいりますと、一つの団体などをつくりまして、財政的な面の援助なども行って、そこが窓口となって希望する学校、団体、あるいは市民などにこうした交流の場を提供するということなどが行われているそうであります。

そういうことなどを考えますと、私は市にもそういう窓口があってもいいんではない

かというふうにも考えているわけでありますが、またその一方、もしそれにかわるような団体等がつくれるということであるなら、こうした団体などを設置して、市も十分協力を行って、そこを窓口として国際的な交流を進めるという方法も、一つの方法ではないかというふうに考えるわけであります。

例えば日野市内にもたくさんの外国の方々が見られるそうであります。ホームステーなども行われているそうでありますが、市内の名勝などを案内しても英文の説明書がないということがあります。こうしたことなどがちゃんとできておれば、説明、案内などにも非常に利便になるというわけであります。すべて市役所でそれらを行ってほしいということも、また大変な側面もあるわけでありますから、こうしたことなども行えるのではないかということです。

さらに通訳の確保というのも必要になってまいります。例えば学生のアルバイト等を含めまして、通訳のできる方々は市内にたくさんおられると思いますが、こうした方々を登録しておきまして、必要な時、場所に紹介するということが、二つ目としてあるのではないかと思うのです。

それから三つ目に、いろいろな外国との交流を行う際の窓口、いろいろな助言をしてもらえるということも可能ではないかと思うのです。こうしたことなどを行えるようなものになれば、一層国際交流というようなものスムースに進んでいくのではないかと思うわけでございます。

こうしたことなどを考えあわせまして、市側の考えもあろうかと思いますが、ひとつ聞かせていただきたいと思うわけでございます。

○議長（市川資信君）　板垣正男君の質問についての答弁を求めます。企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　過去の提言等もいろいろあるわけでございますが、この国際交流問題につきましては、役割は今後ますます大きくなるだろうというふうに、我々も認識しております。当市におきましてはこれまで姉妹都市との交流、あるいは青少年海外派遣事業の実施、ちょうどことしで２回目を実施したわけでございます。

また市民レベルの中におきましては、交流活動等を団体の中で行ってもらっている実態等があるわけでございます。それに対しまして、行政としては支援、援助等を行ってきたという経過でございます。ことしも平和事業基金の活用等の問題の中でも、大いに活用した中で、仮称ではございますが、今後日野市の対外文化交流協会と申しましょうか、そういった趣旨のものを現在、私の方でも準備中でございます。そういう中で、各種の交流事業、あるいはホームステーの問題、市内の外国人との留学生事業等の問題等

を含んで、今後市民参加の中での国際交流を積極的にやっていきたいというふうに、現在、準備を進めているところでございます。以上でございます。

○議長（市川資信君）　板垣正男君。

○19番（板垣正男君）　市側の一定の取り組みが、今、紹介されたわけであります。ぜひこれらを成功させまして、正しい国際的な交流が行えるようにしていただきたいと思うわけであります。

さらに市民のさまざまな国際的な交流への援助、物質的なものだけじゃなくて、精神的な面での援助ということも、当然求められてまいると思うわけであります。そうした際の対応ができるようにしていただきたいと思います。

最後に、市長にこの問題で、平和基金との関係も当然あるわけでございますので、そうしたことなどでの市長の考えも当然あろうかと思います。この際、伺っておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　地域社会としての対外文化との交流あるいは平和事業、こういうことが、いわゆる国際化時代の新しい役割として、市民の意識の中にもだんだん広がってまいっておりますので、今、企画部長がお答えをいたしましたとおりの考え方、その際に将来は協会を期する、そして市民連絡会事務局というものを、職員を設置して役所の組織の中に置く、こういうことを考えております。

○議長（市川資信君）　板垣正男君。

○19番（板垣正男君）　以上をもちまして、この質問を終わります。（拍手）

○議長（市川資信君）　これをもって18の４、国際交流についての質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により、暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって、暫時休憩いたします。

午前11時54分　休憩

午後１時６分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問19の１、文化都市日野市建設に向けて行政の活性化を追求しようの通告質問者、福島敏雄君の質問を許します。

〔８番議員登壇〕

○8番（福島敏雄君）　大変御苦労さまでございますが、できるだけ簡略に質問をさせていただきますので、おつき合いをいただきたいと思います。

表題の解説というわけではありませんけれども、ここで言う文化都市というのは、いわゆる文化ということよりも、住むことが悦びであり誇りである町をといった意味の、全体的な町のただずまいを総合して文化というふうに考えております。したがって、質問の趣旨といたしましては、現在の日野市を、さらに市民の望む町にしていくためにどうしたらいいのかという観点で質問をいたしますので、御答弁をいただきたいと思います。

まず1点目は、現在の日野市の現状について、市長並びに関係部長の御認識を承りたいというふうに思います。

私は、一口で言えば、現在の日野市はまちづくりは進んだけれども、市民ニーズにこたえるにはまだまだ課題が多いということに尽きるんではないかというふうに考えております。私も、議員になりましてちょうど7年になろうとしているわけでございますけれども、この間、大変町のたたずまいについては進展をしたということについては、評価をしております。

私は、7年前の市民に対する公約といたしまして、7つのまちづくりということを訴えてきたわけでありますけれども、まず初めの都市基盤整備の充実ということにつきましては、御存じのように公共下水道が、特に終末処理場の完成の一部稼動の時期も明らかになっているというような状況の中で、着々と進んできたということについては、7年前には想像もできなかったということだろうと思います。

さらに都市計画道路につきましても、大変難しいところが残ってはおりますけれども、これも一歩、二歩、前進をしておる。さらに区画整理に至っては、万願寺、高幡、豊田というようなことで事業に着手がされまして、要するに都市基盤整備で手をつけなければいけないことについては一応着手がされているというふうに感じておりますが、特に難しいところはこれからも残っているということだろうと思います。

2番目には、健康と医療というようなことについて、市民の皆さん方に充実を図っていこうではないかという訴えをさせていただきました。この7年間を見てみますと、健康保健センターが建設されたということで、予防医療の面におきまして、その箱物でございますけれども、でき上がった。今後、きめ細かい対応は求められておりますけれども、一応予防医療の拠点ができたということでございますし、南部地域の病院につきましても、これもまだ議論は残っているとは思いますけれども、建設に対する方向づけと

いうものについては、市長並びに議会側においても必要性が再確認をされて、建設に向かって動き出している。さらに市立病院の建設につきましても、当初市長は大変消極的な面があったやに思いますけれども、ここに来まして、建てかえということについて表明をされているということで、これも医療という面で、日野市のこれからのあるべき姿が目に浮かぶような形に、市民の前に話される、こういう状況になってきております。

さらには老人福祉、障害者福祉の充実という面でございますけれども、これにつきましても特に福祉事業団というものを設立をいたしまして、老人の在宅ケア、特に食事サービスですとか家事援助サービス、こういったようなものが日の目を見てきたということ、さらには待望久しい特別養護老人ホームも建設の着手が行われた、こういうようなことでございます。

さらには障害者の関係におきましてはつばさ学園、はくちょう学園、こういった形で障害者がいかに自立をしていくかということについての行政の手助け、この面についても施策が展開をされてきている。

さらには文化施設の充実という面がありますけれども、市民会館というものが建設をされまして、市民会館を核とする地区センターの集会網、こういったようなものが整備が進んできている。さらには郷土資料館、ふるさと博物館というような形で、市民がこれはなくてはいけないのではないかというふうに言っていたものについて、形が整ってきているというふうに考えます。

さらには体育施設も、議員の皆さん方からも大変要望の多いところでございますけれども、市民の森スポーツ公園の完成、さらには東光寺グラウンドの完成、そしてこれはスポーツ施設と言えるか、広く見ればスポーツ施設ということになると思いますけれども、やはり今市長の方から提案されております、乗鞍高原におきます林間施設の更新、こういったような問題も出てきております。

6番目には、私は市民の皆さん方にはこの日野市のいい自然を残して、教育環境も充実していこう、こういう訴えをさせていただいておりますけれども、特に緑を守るということにつきましては、日野市の今の市政の重点課題として、緑化協会の設立ですとか、緑地信託制度の新設というようなことで、意見はあろうかと思いますけれども、自然を守る、緑を守る、こういった形での努力が進められている。

7番目には、市民の皆さん方も大変このことについては要望も強いわけでありますけれども、行政の効率化、さらには計画的なまちづくりというようなことを市側にお願いをしてきたわけであります。これにつきましても60年の事務の電算化、それ以降のＯＡ

化の充実、さらにはまだまだ足りない面がありますけれども、行財政の改革として何をしなくてはいけないかということについては、一応その項目がまとめられている。さらにはことしの春、明らかになりました基本計画の策定、こういったような大きく７つの項目から、それぞれの施策を見てみますと、議員になりまして７年間、大変市長には耳の痛いことを、若年の未熟者が言ってきたという感想はありますけれども、取り入れていただいて、一応当初発言をしてきた内容について、布石は打たれてきたというふうに感じております。

冒頭、くどいようですけれども、さらにこれをレベルアップしなくてはいけないというふうに、私は考えております。特にこれからの行政の課題といたしましては、この着手した事業をいかに早く完了させることができるかということ、さらには困難な仕事が先送りされていることに対する克服、要するに用地が確保できないからというような理由でなかなか進展しない事業に対して、どうこれを早く進展させるか。それから表題にも掲げましたいわゆる文化都市、こういったようなものの建設に向けてはロマン、夢といったものをあわせ考えて日野のたたずまいを考える、質の高い町の施策づくりという面で、これからさらに検討を加えていかなければならないというふうに考えます。

それから高齢化、あるいは高度情報化、国際化というようなことが言われておるわけでございますが、これを地方自治体にどう展開するかということについては、今、教科書のない時代だ、こういうふうに一口で言われていると思います。要するにこれをやればいいのだということがないわけで、それぞれの自治体がいかに真剣に考え、取り組むか、それを施策化するか。要するに、この面をとらえて都市間競争の時代だ。市民のために何をしたらいいのかということについては教科書はない。自分がみずから考え、創意工夫をして施策をあみ出していく、こういう時代だというふうにいろいろな方も言われておりますし、私もそういう時代だというふうに考えております。

そこで質問の１点目ですが、今言ったように日野市は一応布石は打たれていますけれども、さらに高い施策を追求をしなくてはいけないというふうに考えますし、都市間競争の時代の中で、さらに自己研さんを積みながらレベルアップをしていかなければいけない、そういう時代に今、日野市は遭遇しているというふうに感じておりますけれども、市長はこれに対してどのような感想をお持ちか、まず１点、お聞きをしたいと思います。

続いて質問をいたします。

それから２点目ですけれども、私はそういう観点でさらに研さんをしていかなければならないという立場で、現在の行政がこれからさらに一歩高い行政を進める上で、今何

が問題なのか、何を克服していかなければいけないのかという観点から問題を提起し、市側の見解をお聞きをしたいと思います。

今回の一般質問を通じましても、市長はこれからの事業については市民参加ということと、力を合わせて新しいまちづくりに邁進していきます、こういう答えがあります。私はそのことは否定をする者ではありませんし、大変貴重なことだと思います。

ただ、常々私が考えておりますのは、実際にそれを事業化なり予算化するのは職員だということだと思います。したがって、これからの事業をいかに市民要望に沿った形で進められるかというのは、職員がいかに意識を改革することができるかということと、政策立案能力がレベルアップできるかということに、私は尽きるのだというふうに思います。

そうした意味で考えますと、やはり私は幾つか、３つばかり今の行政で変えていかなければならない事柄があるのではないかと。ほかにもあろうかと思いますけれども、私が考えますのを３つばかり提起をいたしますので、それについての御見解をお聞きいたしたいと思います。

これは一般的に書物などでも言われていることでありますけれども、今、地方自治体の職員の仕事の仕方ということを一口で言いますと、実務的施策の遂行重視になっているのではないか。要するに私はこの仕事をやっているのだ、今までもこういう仕事をやってきた、ですからこれをそつなくきっちりやるということに、仕事の重点があるのではないか。こういう状況でいきますと、私は今からさらに一段高い施策を展開するというところについては、無理があるのではないか。発想を転換しなくてはいけないのではないか。むしろそういったことは重要なことでありますけれども、政策的、戦略的な施策を重視する方向、言いかえれば、今、自分のやっている仕事を通じる中で、市民は何を望んでいるのかということを十分知るということ。それを実現するためには行政は何をしなくてはいけないかということを考えて仕事をする、このことが私は重要になってきているのかなという感じがいたします。

もちろん今の日野市の職員の中で、こういうふうに考えて仕事をしている人がかなりいるということは、私も日常のつき合いの中で承知をしておりますが、組織として私はそういうふうになっていないのではないかという感じがいたします。

関連をいたしますけれども、２つ目は仕事の仕方といたしまして、同じような話になりますけれども、要はミスをしないということが仕事の基本になっている。ミスをするということは大変まずいことですから、そのことはいいのですけれども、ミスを恐れず

に新しい仕事への挑戦をする、こういう意識を持たなければ、今、議会からも提起されている課題について対応し切れないのではないかということでございます。

一人一人の職員と話をしておりますと、ここはこう変えたらいいのだがなという話は数多く聞きます。ただそれが全体の、市長の耳まで届くのかどうなのかわかりませんけれども、そういった意味で、一人一人の職員の持つアイデアというようなものを、市長のところまで届く管理システムと言いますか、そういったようなものが必要ではないのかなという感じがいたしますし、あの人はこういう失敗をしたからああいう人なんだという評価よりも、むしろあの人はこの仕事をした、こういう仕事ができるということでその人の評価を決めていくということが、私は必要ではないのかなという感じがいたします。

それから意識改革の中でも３つ目は、やはり専門家、専門職の位置づけを高めることというふうに思います。これも、いつの機会かも言わせていただいておりますけれども、行政の各分野にいわゆる行政のプロというものを配置していくという考え方が、私は必要だと思うのです。それで市民参加、市民の中にもプロがいます。相当の知識の高い人もいます。そういう人たちと意見交換をする、対等に意見交換のできる職員を養成する。そして職員と市民とが競合し合ってといいますか、相乗効果をもたらしながら、高いレベルの施策を徹底していく、こういうことが必要だと思うのです。

ここのところは抽象的だとわかりにくいと思いますから、もう少し具体的に言わせていただきますと、私がプロが必要だというふうに考えますのは、やはり一つは労政の部署にプロが必要だというふうに思います。今の人がプロでないというふうには言いませんけれども、要するに私は先日の奥住議員の一般質問にもありました。職務給、今、地方公務員法ですか、職員の給料は職務給でなければいけない、こういうふうに書かれているという話があります。

しかし日本の、民間企業も含めまして、純粋な職務給というものをしいている企業というものは大変少ないし、それを職能給に置きかえてきているというのは、これは民間企業の賃金制度の常識でございまして、そういったようなものがやはり理解できて、さらに職員の組合とも対等にいろいろなことで話ができるというプロが、これから必要になってきているところです。

これはどうやってできるかと言えば、その部署に長くつく、そしていろいろな経験を積む、勉強をする、このことがやはりプロとして重要なことだと思うのです。これからの行政を考えますと、職員組合とのいろいろな話を円滑にやらなければいけない部分が

多いわけでして、こういった意味でいきますと、労政のプロを育てる、定着させるということは、大変重要なことだと思います。

それから例えば用地買収のプロ、これも今でも大変優秀な人がやっていると思いますけれども、２・２・５号線がなかなかできない。これはいろいろこちらサイド、職員サイドだけの問題じゃないかもしれませんけれども、これからの事業について、これを計画どおりに遂行するというのは、用地買収だと私は思っております。したがってこういったものの用地買収の専門家を育成する、プロをつくる、このことは重要であります。

さらにＯＡ化であります。事務の電算化、ＯＡ化、このことについてのプロも必要なことは、皆さん方も想像にかたくないと思います。この間の古賀議員さんの質問に対する、ＯＡ化によって、電算化によってどれだけ人なり時間なり、市民サービスが向上したのかという質問に対して、ほとんど的確な答弁がされていないというのは、大変残念に思います。これはいろいろなことを考えれば、大変口幅ったいような言い方でありますけれども、私に１週間時間をいただければ、かなり議員の皆さんに御理解をいただけるような資料ができるというふうな感覚を持っております。

したがってこういうプロ、さらには商業のあり方というような、これからの日野市の商業をどうするかということを真剣に考える人がいなくてはいけないのじゃないか。山口議員さんの一般質問の中で、豊田の南口の土地区画整理の中で、どういう町のたたずまいになるのですかと言ったときに、市長の御答弁は、区画整理が終わってから考えますよという話がございました。

私は、それはやはりちょっと残念な発言だなという感じがいたします。要するにあの区画整理だけじゃなくて、南口については再開発ということもあるわけでして、駅前再開発をあの近隣の人に賛成してもらえるかどうかということを考えれば、あの町が本当に再開発のビルをつくって、そこに入って営業が成り立つかどうかということが、要するに再開発ビルができるかどうかというポイントだと思うのです。

したがって例えば１・３・１沿いに、あるいは浅川沿いに、人の集まる企業なりあるいは屋根つきドームなり、何だかわかりませんけれども、できてくるということを市が考えていれば、当然私も再開発のビルの中に入って仕事をしてみようということになるわけでして、そういった区画整理あるいは再開発ということになったときに、その商業の立場の人の身になって考えられる、そういう役所の職員のプロといったものの必要性を感じております。

それからいま一つは、福島盛之助議員から東光寺上の農業の、今、農地について、市

はどういう考え方があるのかという話がありました。私も初耳だったのですけれども、私立高校の用地としてどうかなというような話も、そのときありました。私はそういう構想を練ることはいいとは思いますけれども、やはり日野市の農業はどうしなければいけないかという、真剣に考える人を育てて、市長がもし構想があるのだとすれば、その構想を、そのプロの職員と関係者との話し合いにまずゆだねていくというか、そういったようなものが必要ではないかというような観点で、私はこれからのまちづくりを進める上で、それぞれの行政の分野におけるプロの必要性を感じております。

特に竹ノ上議員からの質問の中で、７階建てのビルができる、こういう話がありました。これは多摩平五、六丁目につきましても建設委員会に請願がかかってきました。これからまちづくりを進める上で、この種の住民と建設業者とのあつれきといいますか、これはかなりふえてくるような気がいたします。そうなってきたら、これからのそういうものに対して住みよいまちづくり要綱というものはどうしなくちゃいけないのかというようなことを真剣に考える人、これはやはりいなければいけないのではないかという感じがいたします。

夏井議員からはがけ崩れの指摘もございました。ただ公害行政の中で、日野市のがけ崩れはあっちゃいけないわけですから、どういう状況にあるかというようなことについても、日野市の全容を把握する。さらには小俣議員からは緑地の確保という話もありました。日野市の緑地は、どこは確保していくのだというようなことを決めて、それに対する取得の方法まで一応考えていくというプロも必要ではないか。

今回の議会、19番目でございますので、いろいろな議員の皆さん方の指摘を聞いておりまして、これをそれぞれ議員の皆さん方の指摘に沿った形で行政の施策として引き上げていくとするならば、私は役所のそれぞれの部署にプロを置くということが必要だというふうに感じております。こういう考え方について、市側はどのようにお考えか、２点目でございます。

それから３点目でございますが、そういう行政の問題があるとすれば、私は幾つか具体的にこうしたらいいんではないかということについて指摘をいたしますので、御回答をいただきたいと思います。

一つはやはり政策策定部門の強化ということでございます。今企画財政部があるわけでございますけれども、そこが貧弱だということではありません。私がこの７年間の議員生活を通じて感じておりますことは、日野市の新しい施策がどのような形で展開してきたかということを、私なりに間違っているかもしれませんけれども、お話ししますと、

いわゆる市長の大変理想の高い発想、それがまずあって、その後、それが具体的な施策を生んできているということで、職員からこういうものをすべきだということがあって施策になってきたというものは、目に見えるものでは少ないのではないか。

４年に１回選挙がありますから、市長がそういうまちづくりについて構想を示して、リーダーシップをとっていくということについては、私は否定をしないし、大変重要なことだと思いますけれども、私は構想が示されたら、後の具体化の手法については職員なり市民なりがそれぞれの具体化する方法の案ぐらいはつくっていくということが必要なんではないかな。この７年間を見てみますと、非常に偉大な市長の発想、構想がかなり前にありまして、職員がやっとその後を追いかけて、施策を合わせていくということだったと思います。職員の皆さん方には大変申しわけない言い方になるかもしれませんけれども、相当のギャップが感じられております。

市長の高い理論とそれから見識に職員が近づく、このことが私はこれからのまちづくりの中で、相当ウエートとしては大きいものがあると思います。先ほど言いましたように、ほとんどの施策においてはもう布石は打たれた。それをどう掘り下げて展開をしていくかということになりますから、これは市長の一人の力だけじゃ大変無理だ。したがってそれぞれの部署で、政策企画立案能力を高めていくということが、私は必要だというふうに感じております。

そこで質問なんですけれども、私は今の企画部門に人を幾ら集めても、そういうふうにはならないのではないかなという感じがいたします。したがってそれぞれの部において、要するに政策立案に携わる人、これは市長とも日ごろよく綿密な打ち合わせもしますし、企画部とも打ち合わせをする。といって籍は各部に置いて、その部のこれからやらなければいけないものについてまとめ上げていく、こういう部署が必要ではないかなという感じがしております。

人をふやしてくれればそれはできるよという御回答はあるかもしれませんけれども、私は人をふやさなくてもそれができるのではないかという感じがしております。したがって各部に政策研究、立案部門をつくる、もう今あるのかもしれませんけれども、私にはそれが目に見えておりませんので、そこをもっと強化することが重要ではないかなと思いますので、御見解を伺いたいと思います。これが質問の３点です。

それからいま一つの問題提起は、人事異動に工夫が必要ではないかなということであります。先ほど言いましたように、専門家、プロを育てていくことについては、やはりそれなりの年数携わっていただくということが必要であると思います。行政の中では、

余り長く同じ人がいちゃいけないという部署もあろうかと思いますけれども、先ほど言いましたような労政、用地買収、ＯＡ化、商業、農業の経済、あるいは公害防災、老人福祉、障害者福祉、緑地、清流の維持、人事、保健医療、伝統文化、芸能、あるいは社会教育、こういったようなところにはやはりプロが必要じゃないかな。今までもそういった意味で、一般の人事異動の中でそういったプロを育てていくのだというような気持ちで人事異動をやっていたかどうかということと、今後そういうことをやっていくかどうかということについて、お聞きをしたいと思います。

それから最後に５番目でございますが、やはり職員に生きがいがわき出る仕事の与え方、生きがいと働きがいのわき出る仕事の与え方、あるいはそれに対する処遇、こういうものが必要だと思います。

これも具体的な指摘にはならないかも、ちょっと抽象的かもしれませんけれども、市長にお聞きをしたいのですけれども、生きがい、人生における最大の生きがいは何かということであります。私は、今まで議員になる前は、まあ生活ができて、家族がうまくいって、そして健康で生活できれば、これが一番いい人生だというふうな考えできましたけれども、議員となってちょっと振り返ってみますと、どういうときに生きがいを感じるかというと、やはり市民の皆さん方のいろいろな意見を議会の場で代弁し、それがその方向に施策化されたときというようなときには、最高の生きがいという感じがいたしますし、生きがいというものはそういうものかなという感じがしております。

私もそういった面で考えますと、職員が生きがいなり仕事のしがいというものを感じるということは、自分が考えて、市民のために本当にいい仕事ができたというのが職員の最大の生きがい、働きがいというような感じがいたします。

先ほど来、市長には酷なような言い方かもしれませんけれども、市長が先頭を引っ張って、ほとんど市長の構想でやってきた。したがって市長にはその生きがいというものが相当あるし、この行政の中において生きがいを、大ざっぱに言えば一人で享受をしてきたというふうに言えるのかなという感じがいたします。

したがって私は、そうした意味でいけば、先ほどの問題とも関連するわけですけれども、職員に生きがいを与える、こういう仕事のさせ方、そのことはやはり政策において市長の構想を具体化させるのは職員の方におろしていく、こういうようなことをぜひこれからやっていく、さらには私は現在ある、それぞれの部署で仕事をしている人たちに、今、市民が何を望んでいるか、そのためには何をしなくてはいけないのかということを、少なくとも課長さん以上にはまとめてもらって、それを市長と話し合いをしながら、じゃ

これをやってみろというような、第一線の管理職の皆さんと市長との話し合いというものが、これからの欠けている部分の日野市の行政を、一日も早く市民要望に沿った形にする一番の早道じゃないかなというふうに感じておりますので、そういうお考えについて市長はどのように思われるか、お聞きをしたいと思います。

通告の内容とそれほど、文書で書いた通告と違わないと思いますけれども、若干表現が違っているやに受け取られるかもしれませんけれども、そういった面はお許しをいただきまして、担当部長並びに市長から御見解を賜りたいと思います。以上です。

○議長（市川資信君）　福島敏雄君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　適切な御指摘をお示しいただきながら、一番私にとっても肝心なところを指摘されておるというふうに、拝聴したところであります。

答え方が逆順序になるかもしれませんが、今日の日本がとっております地方自治という形、これは住民自治の上に市民自治が有機的に存在して、それがだんだんとまとまって国政に反映をされていく、あるいは国政に対する大きな地方自治としてのチェック権能を持つ、こういうところに新しい人類発展の方向が存在するということは、これはもういわゆる普遍的な人類の現実であろうと思っております。

そういう意味で我々の地域社会をどのように市民本位に構成していくかということの手段が、行政による事務事業の展開、こういうことになっていると思うわけであります。したがいましてその事務事業に当たる、つまり地方自治の公務員、あるいはそれの組織、それのまた企画立案をし、そのリーダーシップをとっていく権能といいましょうか、権限でありますとか能力、これをどのように適切に組み合わせていくかということが、その成果にまた非常に影響する、これは言うまでもない現実の姿であると思っております。

そのあたりのところに大変欠けるところもあろうかと思いますし、また何か今のお話ではいろいろな行政の手段を市長が生きがいとしておるという、ちょっとそれには私もひっかかるわけでありますが、要するに物を私物化して、自分の生きがいのために使うなんということは、これは大それたことでありますから、すべてそんなことは市民からくみ上げられておる。

日本国の憲法に、この間もちょっと申し上げましたけれども、国政あるいは自治体行政にかかわらず、その権威は市民に由来をする。そうして選ばれた者が権力を行使してものを決める。そしてそのことの福利は市民が享受をされる、こういう関係で成り立つはずでございまして、そのことをいかに的確に、また具体的にやっていくかというところに行政組織の任務がある、このように考えるわけでございます。

そしてまた職員に、あるいは組織にもちろん機能性ということが必要でありますし、それぞれのまた要所、要所に能力のあるといいましょうか、専門知識を経験をしたいわゆるプロ的な能力のある職員が数多く、どこを見渡してもそういう職員がいる、こういう姿こそまさに望ましい形であるということには全く同感でございます。

現実は言うべくして必ずしもそのようにはならないわけでありまして、これはその人の経験能力、それから過去に一番――何といいましょうか、職員は何でもできるという一定の能力、つまり自治に対する基本的な認識が必要でもありますし、私は自己保身ということはちっとも考えることはない、市民の前に真正面に取り組んで、市民のおっしゃることをよく聞いて、それを行政に反映させる、後ろを見たり、管理職の顔を一々見ることはないというわけでありますけれども、現実の世の中はなかなかそのようにもいかない面もあるようであります。

そういうことを日ごろ反省をしながら、つい急ぐ余りリーダーシップ的なあらわし方になってしまうということはままあったかと思いますが、それは決して適切な方法ではないということは重々感じておるわけでありまして、そして地方自治はまさに住民の意識を反映する限り可能性の非常に多いところである。私は可能性の宝庫だと言っているわけですが、地元の素材を大いに駆使して自然環境あるいは社会環境、経済環境、いろいろなアイデアが成り立つというふうに思います。

それをどのように将来を展望しながら、いわゆる成果は市民が享受されるということですから、それは今日の高齢者の立場にある人にも、あるいは将来の子供、次の時代を担う人たちにも、それぞれに立派に機能するといいましょうか、満足が得られる内容でなければならない、このように思うわけでありまして、日ごろ申し上げておりますとおり、ハードの施策は目立つところのソフトの成果である、こういうことをずっと見通しながら、市民の御意見を反映をする形で取り上げ、取り扱っていくというところが行政の任務だ、このように思うところでございます。

御指摘は一々ごもっともでございまして、我々の将来への展望を指導していただく内容であったと思っておりますので、これらをなるべく的確に具体化するということで、お答えをさせていただきたいと思います。

順序を挙げて質問があったわけでありますが、総論で言えばそういうことであります。あと、それぞれの担当の方で少しそれを補足させていただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　具体的な問題として、実務的な施策の遂行重視からの問題でございます。

当然この大きな施策を展開する中では、実務的な重視を過去実施してきたわけでございます。もちろん日常の市民サービスを徹底してやるということは申すまでもないわけでございますが、新しい時代に向かってのやはり高齢化、あるいは高度情報化社会等の対応の問題等を含んで、これからの長期的な視点に立っての考え方を具体的にまとめる上では、現在の単なる庁内でのプロジェクト、そういった行政組織でなくして、やはり今後総合的な問題として施策を検討する中でも必要であろうというふうに私は考えております。

また2点目のミスをしないでというような御質問でございます。当然行政ではミスをしない方が一番いいわけでございますが、長期的な事業を促進する上におきましてはなかなか社会経済の変化、あるいはそれに伴う予測が、多くの不確定要素があります。そういった中では、先を見越した意味で柔軟性のある施策の立案、そういった考えに立つべきだろう。よって、そういうことを恐れることなく仕事に挑戦すべきだというふうに考えております。以上でございます。

○議長（市川資信君）　福島敏雄君。

○8番（福島敏雄君）　ありがとうございました。

生きがいということで市長から反論がありましたけれども、人間みんな本能で動いております。本能というのは幾つかあると思いますけれども、やはり人に認められたいというのはだれでもあるわけでして、評価されたい、そのためにみんな一生懸命やっている。評価されれば、私はそれは生きがいの中では最高のものだろうという意味での生きがいでありますから、何も私物化とか、行政をやっていることが私物化とかいうのではなくて、一生懸命やった後評価されるというのは、その人にとっては私は最高のものだろうという意味での生きがいでございますので、そういうやり遂げたというものをやはり職員も実感できる、そういう行政の進め方をやっていく必要があるし、施策を、これだけ布石を打ってきた中では、その布石はポイントはいい。石坂議員もよく言うように、特別養護老人ホームも反対することは何もない、いいことだ。林間施設、これもいいことだ。ただ、一歩掘り下げたらどういう施設になるのですかというようなことについては、やはり市長だけでは全部目が行き届かないのではないかな。したがってそこから先はおろした方がいい。

それで、あれを読んでみますと、市長はまた民間の何とか協議会に任すというようなお話ですけれど、任す前に一回内部で徹底的に大成荘等のあり方、あるいは乗鞍高原の

民間施設のあり方、論議してこれで市はいきたいと思うけれども、皆さん方どうでしょうか、それで修正するべきものがあれば修正していくという考え方が必要だし、そういう経過をとっていけば、これからの経営の仕方についても、参画した人は十分いろいろな勉強もできるし、能力も生かしていく、これは一例であります。そういった機会をぜひつくってほしいと思います。

それから私はきょうの板垣議員さんの質問を聞いていてもこの一点を感じたのですけれども、公民館と新町、栄町の地区センター、コミュニティセンターは、日野駅周辺にビルを建ててそこに配置をするのだ、こういう市長の構想が表明されました。私は、そのことは、今まで市長が言ってきたことは大体方向として合っていますし、結果として間違っていたものはないから、私はそれは方向として正しいのだろうと思うのです。

しかし本当に市長のその構想をやるためには、一般市民あるいは行政の担当とのギャップを埋めていく努力が必要じゃないかなと思うのです。私も栄町に住んでおりますから、栄町で文化センターをつくってほしいというこの請願の趣旨は、あの二丁目付近に集会施設がないから、何としても神鋼跡地に集会施設をつくってほしいというのが趣旨でございまして、それを駅の方につくられたのじゃ、これはちょっとその地域の住民の意思を尊重したことにならないわけです。大きなまちづくりの中で日野の駅前にそういった文化度の高いものをつくっていくということについては全くそのとおりであろうと思いますけれども、あのときの市長の答弁ですと、新町の神鋼電機跡地のところにそういう集会施設をつくる可能性はありますけれども駅の方がという、むしろ駅の方にウエートを置いたような答弁だったですから、私はそれはそっちもそうだし、こっちもこうだろうというのが、今、偽らざる実感でございますので、市長の構想をお示しになられたときには、やはりその構想を下におろしてほしい、それをおろせば必ずやもっと森田市長の先見性というか、そういうものが理解されてスムースにいくという感じがいたします。

きょうは何か一方的なお話に終わったような感じでございますが、市長からは大綱的にはお前の言うことはそのとおりだろうという御返事がありました。議会報告にはそのように書かせていただきたいと思っております。

以上で終わります。

○議長（市川資信君）　これをもって19の１、文化都市日野市建設に向けて行政の活性化を追求しようの質問を終わります。

一般質問20の１、行政の当面する課題とその対応について（主として都市生活環境の整備）の通告質問者、中山基昭君の質問を許します。

〔21番議員登壇〕

○21番（中山基昭君）　ただいま議長さんの方から紹介いただきました通告の内容に従いまして、お伺いをしてまいりたいというふうに思いますけれども、既に多くの質疑等もなされてきております。できるだけ重なりを避けて、簡潔にひとつ質問してまいりたいというふうに思います。

既に去る６月の定例会におきましても、同様な趣旨と観点から社会福祉あるいは保健医療、行財政の運営、こういうものにつきまして指摘とそれぞれの課題等も提起をしてまいりました。本日は特にその続編ということで、都市生活環境施設の整備、こういうふうな促進を中心的にお伺いをし、さらには対応への一層の努力を促してまいりたい、このように思います。

質問は当然そういう面で前回と同様な観点からになりますので、前段におきます背景やその必要性につきましては、もう多くを申し上げることを避けてまいりたいというふうに思いますが、私は先ほども大変次元の高い都市づくりのお話がございましたけれども、やはり何といっても指標、指針は市民が健康でより豊かな、そして文化的な生活を営むことのできる健全な地域社会、これを目指すことにあるのではないかというふうに受けとめております。

市制から25年を経て、市内の人口も16万人が言われるようになりました。当然市街地、住宅地の広まりとともに、その生活の基盤は、特に多くの市民が工業、商業、サービス業等に働く勤労市民であります。今日までの社会や経済の移り変わりとともに、生活の水準面からも、生活様式の多様化、あるいは意識、価値感、こういうものも大変幅広くなってきております。

こうした中で、特に最近いろいろの場で強調されるのは心の豊かさ、心の時代、こういうふうなことがよく言われるわけでございます。私はそうした面も大事にしながら、少なくとも行政施策の推進に当たりましては、物も心も、そして質も量も、こういうふうな視点をひとつ大事にしていきたい、こんなふうに思います。

そういう面では生活と生産、あるいは都市機能と理念、こういうふうな調和する施策や事業の推進が求められておるというふうに感じております。既に基本計画等の中でも一定の方向が示され、課題などもかなり整理をされてきておるように思います。そういう面では基本計画、基本構想がただ単に机上の一つの計画等に終わることのないように、隘路やあるいは困難を克服し、さらには乗り越えて実現、実践を図ってほしい、あるいは図らなければならない、こんなふうな感じがしておるわけです。

そうした面からの期待等を込めての質問をしてまいりたいわけでございますけれども、特に具体的な質問の前に、先ほども触れました物も心も、あるいは質も量も、住生活と地域産業経済、こういうふうな観点から基本計画との関連を含め、まず最初に市長からの見解等をお聞きしてまいりたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　　中山基昭君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　　現代の市民意思は、一応経済成長を経て物質的な豊かさという面では、ごく一般的には暖衣飽食、多少資源の浪費という状況にまでなっておるように見ますので、よく言われますのは物に対します心のバランスが欠けているのではなかろうか。したがって心の面にいろいろ社会政策の方向を、ウエートをかける必要がある、こういう点が社会教育の上からも、あるいは子供たちの健全育成のためにも、いろいろな角度から提言をされておる。このことは、まさに時代の将来展望を見る場合に当たっておるというふうに考えなければならないと思います。

そこで、御指摘の物も心もまた質においても量においても、また住生活や産業という環境条件からも、それらをより施策の方向として位置づけるべきだろう、こういう御提言だと伺うわけでありまして、そのことにつきましては今、これからの進むべき方向として一番関心の高いところだということが、我々の行政の上からも言えるところでございます。

心のことといいますと、なかなか一人一人の考え方も多様でございますし、いわゆる市民意識の多様化という状況の中でありますので、行政としてはやはり健全な地域社会、あるいは子供たちの健全な成長、こういうことが総合的に眼目としてする必要があると思いますから、その手段として今の文化的な社会教育でありますとか、あるいはスポーツや健康のための施策とか、それからとりわけ人の心を大きく支配しますのに、自然環境ということが極めて大切だということになろうかと思いますので、緑と清流を取り戻そうというようなキャッチフレーズを挙げて、市民の意識の方向づけも考えながら取り組んでおる、こういう状況でございます。

基本計画の推進もそういうことを重点に置いて方向づけを行うのが正しい、こういう認識でございます。

○議長（市川資信君）　　中山基昭君。

○21番（中山基昭君）　　ありがとうございました。

それでは具体的に４つに分けて、それぞれお伺いしてまいりたいというふうに思います。

最初に公共下水道の整備促進等についてであります。都市生活環境の面からはやはり土地の利用、あるいは道路の確保、下水道の整備、こういうそれぞれ欠くことのできない大事な課題なり、あるいは基盤的な要素ということになると思います。今まで年次ごとにそれぞれ着実に進捗をしてきておる、こういうことに理解を寄せながら、確認を含めてお伺いしたいわけでございますけれども、全市内の計画面積2,362ヘクタールでしたか、特に南多摩処理区におきましては既に一部が供用されている。さらには近々に全域が供用になるというところまで進んできておるというふうに、お伺いしております。

ただし浅川処理区、あるいは秋川処理区、こういうところにつきましては処理場の稼動が67年というようなことも言われております。現在、関係する管渠等のそれぞれの埋設工事等も進められておりますが、特にそれぞれ大きな計画路線等の変更がなくて、しかも計画年次にできれば100％の供用を期待をしたいのですけれども、なかなかこの辺が難しいようです。この辺の見通し等をどのように持たれておるかということでございます。

この中の二つ目は、建設費の概算と財源構成でありますけれども、当初54年次の下水道の基本計画等の内容によりますと、概算の建設費が553億、こういうようなことが計上されておるわけですけれども、基本計画等の中では300億ちょっと、こういうような関係になっております。もちろんこの積算は大変難しいという面もあるから、多少心配があるという程度ですけれども、もっとお聞きしたいのは総事業費に対する国庫からの支出金、あるいは地方債への依存、これは通常ですと国庫から36％、地方債へ56％、こういうような内容でございますけれども、これは大体そういう形で推移をしてきておるのか、あるいはこれからもそういう形で推移をするのか、こういうようなことについて、まずお伺いしておきたいというように思います。

次に二つ目でございますけれども、安全と利便な道路交通網、こういうふうな関係になるわけでございますけれども、基本計画の中でも、道路は都市機能上大変重要な役割を担うようになった。こういう面からその利便性、あるいは安全性、防災上など多様な機能を組み合わせての計画的な整備、こういうことが指摘をされ、あるいは言われております。私ども議会におきましても、重点的な課題といたしまして建設委員会を初め交通対策委員会、こういう中で積極的な取り組みもしてきております。

さらにはそれぞれの行政においても、担当においても努力をされてきておるということについては、一応の認識といいますか、理解を寄せるところでございますけれども、現在皆免許、車社会、こういうようなことが言われるように、家庭生活に、あるいは通

勤に通学に車の利用等は、必需品的な一つの物になってきておるのじゃないかというふうに思います。資料等からは、日野市の中には乗用車だけで３万2154台、世帯当たり1.8台くらいだというような資料もありますけれども、実際はもっともっと多くなっているのじゃないかというふうな感じをしております。

一方市内の都市計画路線、こういうものを見た場合に、国道が３路線、あるいは都道が９路線、市道が13路線ということで、25の路線計画があるわけですけれども、全体の整備率は36％、こういうような状況でございます。当然こうした整備のおくれ等が、人口増加やあるいは産業や経済活動の発展等によって、昨日もありましたけれども狭い道路への通過交通等の混雑や、あるいは自転車、歩行者の安全を阻害する、こういうような状態になってきているのじゃないかという感じをしております。そういう面から、ぜひ交通安全対策という面も含めた一つの緊急的な対応も必要だろうというふうに受けとめております。

特にこの中で幾つかお伺いしたいわけですけれども、例えば主要な計画道路の整備、都市計画道路の基本調査報告等もございます。その中でもその整備方針として主要幹線１・３・１号線を初め、それぞれの幹線道路の整備促進が言われております。しかし実際にはなかなかいつ整備ができるのかなというふうな心配をしながら、この調査報告書を見せていただいておるわけですけれども、これらについては今まで大体区画整理、こういう中での方針なり、あるいは対応が主体的でございますけれども、やはり必要な場合は一つの街路事業、あるいは社会資本の投資という面からも積極的な投資推進が必要ではないかというように思いますけれども、この辺の特に主要な計画道路整備等についての進め方なり現在のお考え、これをひとつお伺いしておきたいというように思います。

さらにはこの中の二つ目でございますけれども、ＪＲの新設駅と都市モノレール等についてでございます。中央線の豊田あるいは八王子駅間、これは大変電車区間の中で距離が長いという中から、もう数十年来にわたっていろいろ話題になったり、要望等も出されてきております。ことしの３月には西豊田駅の設置予備調査、こういうものもまとまってきております。新聞報道等もなされ、多くの期待や関心がそれぞれ寄せられてきております。しかし駅制限の問題、あるいは採算性、こういう面からＪＲ側は比較的消極的だというふうな対応も言われております。

そこでやはり資金の負担等について、自治体として、あるいは東京都等も含めてどの程度できるのかというふうなことまで検討を進めないと、なかなか話が進まないのじゃないかというような感じをしております。この点を、現状をどのように把握をされて、

これからはどのように見通しを持っているかということでございます。

次にこの中の都市モノレールですけれども、これは一昨日ですか、環境評価の東京都のあれはごく小さい影響しかないのじゃないかというふうな新聞報道等もなされております。特にそういう面では16キロ、あるいは立川₃新青梅街道の5.7キロ、こういう工事が市町村と分けられているということでございますけれども、全線の予定がそれぞれ支障がなく73年の開業見込みということで進められるのかどうかということです。

特に私のお聞きした範囲ですけれども、立川の駅周辺の再整備、これが大変難しくて、当初の5.7キロもかなりおくれるのじゃないかというふうなことも言われておるようです。そういう面では当然全体の事業計画がずれるのかなというような感じもしておりますけれども、いや、そんなことないのですということなのかどうなのかということでございます。

さらには連絡バス路線の拡充についてですけれども、これは当然日常生活の中で身近な、簡便な公共交通というもので高齢化社会等の対応を含めて、バス交通網の確立に、大変期待の強いものがあります。特にバス交通検討対策委員会等からも、３系統による循環バス路線というふうな答申もなされています。担当部においても、この答申に沿ってできるだけ不便地域を解消しようということで、バス会社等とも努力なり折衝を重ねている、こういうことも十分承知をしております。

ただそれだけですと、やはり採算面でどうしても不便地域が残ってしまうのじゃないかというような心配もしております。そういう面では現在の路線バス、この路線等の一つの工夫等をした中で、そうした採算面から営業路線から漏れるというところへの対応を、やはりする必要があるのじゃないかというふうに感じております。

例えば現在の平山城址公園駅と高幡不動駅の連絡バス、これも一部見直し等も行って、本数もふえたという関係で、かなり利用者も大幅に増加をしてきておる、こういう実態の中にあると思います。そういう面では単に負担金なり助成というものがそう多くなくても、一つの工夫ができるのじゃないかというふうな感じをしております。

具体的には例えば現行の路線を二つくらいの路線に分割をしながら、そして市役所、市民会館等を乗り継ぎ点に豊田駅₃平山城址、あるいはもう一つは日野駅₃高幡不動というふうな形に、路線等の検討に入ることも必要じゃないかというふうに思っております。この辺も、あわせてお伺いしたいと思います。

次に豊田駅の周辺の安全確保についてですけれども、駅広場あるいは放置自転車、交差点付近の二輪車レーンの確保、この３点だけに限って豊田駅周辺についてお伺いをし

ますけれども、豊田駅の利用者も大変増加をしてきております。利用交通の連絡地点という面からは、駅前広場も大変狭くなって、混雑をしておるというのが実態でございます。

しかし現状の北口の物的条件、建物条件というものを見ますと、抜本的な対策ということは大変困難ではないかというふうに思います。そういう面でこれまでも指摘をしてきましたが、南口側にそれぞれの対応を連動して考えていかなきゃいかん、あるいは対応しかないのじゃないかというような感じもしております。しかし南地区の全体計画整備については、まだまだ相当の時間、期間等も必要ではないか、あるいはそれなりの質疑等の中でもそんな感じをしておりました。

そういう面では緊急的な当面の対応として、ここに予定されます２・２・３号線を駅の南から既存の２・２・６号、ここまでに結ぶような形の路線をひとつ先行してつくると、かなり南口の方も変わりますし、北口も変わってくるのじゃないかというような感じもしております。少し無理な面もあるかと思いますけれども、そういう努力もしてほしい、こんな感じもしております。

次に駅周辺の放置自転車ですけれども、市長もこの中で一つの重点課題として取り組んでいかなければいかんじゃないかというようなお話もございます。なかなかいろいろな面で御苦労をしているけれども、それぞれ実効が上がらないというのが現状ではないかというふうに思います。

一方利用者の方は、やはり足がわりということで大変重宝、便利である、こういうことでできるだけ駅の近くまで乗りつけたい、こういうふうな一つの実態の中での状況があると思います。確かに現在、条例による規制等があるわけですけれども、何か少し無理があるのかなというふうな感じをしながら、条例等をたまに開いて見るのですけれども、そういう面で考えると、整備センター等の有料駐車場、これはかなり利用率もいいし、比較的満杯に使われている。こういう面では多少有料であってもできるだけ駅の至近距離にこうした施設をつくる必要があるかなというふうに思います。そういう面で、これからもそうした面への努力をひとつお願いをしたい、あるいは必要じゃないかなということでございます。

あとこの中の豊田駅周辺の最後ですけれども、駅前の商店街通りはパーキングチケットというような面から、自動車の駐車はまあ整理をされてきているというふうに思います。しかし一方、スクランブル交差点付近の２・３・１号線というのですか、これは立派な二輪車専用レーンがあります。しかしいつも駐車によって遮断をされている。歩行

者も大変危険な思いをする。あの交差点というのはこんな状況です。

この中で金融機関なり商店は一定の駐車場といいますか、駐車用地は確保されているようです。ただし利用者の方がなかなか利用33あそこにとめた方が便利だということですぐとめてしまう。当然そういう面では注意の呼びかけ等も必要でしょうけれども、この中で歩道の関連を含めて歩行者、あるいは車利用者、それぞれが安全に利用できるような対応をしてほしいと思います。

大きく三つ目になるわけですけれども、公営住宅の整備拡充等でございますけれども、大都市周辺における激しい地価の上昇、こういう面から住環境の悪化が進んできているということは論を待たないと思います。そういう面では公営、あるいは公共住宅の整備なり、あるいは確保に大変注目がされております。

これまで土地区画整理等に伴う住宅地の供給や、あるいは市営住宅の建てかえというような中で、一定の居住水準等の確保に努力をされてきておるわけですけれども、用地の確保等も含め、現在の市営住宅という面で考えると、かなり保有数を大幅にふやすということは難しい面があるのじゃないかというふうな感じをしております。そういう面から施設の規模やあるいは条件というものを十分整理をしながら、民間事業者の協力等を得て、特に高齢者あるいは母子、父子世帯というところを優先にするような、いわば民設公営的な専用住宅というものの確保について研究をしていくことも、一つの課題ではないかというふうに思います。

さらには限られた住宅でございます。一定期間を経て回転すること、これはある意味で本来の趣旨であるし、望ましいというように思います。しかし現在の住環境という面を考えるとなかなかそうもいかない。大変長期にわたって入る場合も出てくる。これも否定はいたしません。しかしだからといって、収入の超過であって付加使用料を払えばそれでいいのだということだけでは、またいかない部分もあるのじゃないかと思います。そういう面では、付加使用料等を納付しておる入居者に対してどういうふうな対応をされているかということです。さらには現在、入居者で付加使用料を払っている方はどのくらいいるかということでございます。

さらにこの中の最後になりますけれども、旭が丘の四丁目の工業団地内に建設されます公団の住宅ビルですか、かなりできてきました。市長からも、行政報告等もございました。特にそういう面では職住近接という観点から、市内のそれぞれ在住、外勤の勤労者からは多くの関心が寄せられてきておるということだろうと思います。

そこで、例えば先日も市内の関係事業所なり企業については一定の説明を実施をした、

こういう報告がございました。そうすると、在勤の場合はある意味でそれでかなり決定できるかもわかりません。在住の場合、どのような形で進められているかということでございます。

さらにはこの中で、市営住宅とも関連になりますけれども、特に市営住宅は公営住宅法によって入る収入基準がかなり厳しくなっておるということです。そうなると、いわゆる中間所得層等はかなり入りにくい部分が出ている。こういう面では、こうしたせっかくの行政施策による公団住宅ですから、そうした中間層をこの中に優先的に入れるような形の対応をしてほしかったというふうな感じもしております。この辺が研究なり検討されたかどうかということでございます。

次に四つ目の最後になりますけれども、これはいろいろこの中でも今まで質疑等がなされてきました。中規模の広がりを持つ多目的なコミュニティセンターというふうなことでございますけれども、基本計画の中でも地区センター等の整備を図って、体系的な施設のネットワークづくりを進めるのだ、こういうことでございます。

そういう面で、これまでの質疑を聞いておりますと、特に用地確保の面を含めて、何か少し消極的だなというような感じをしながら聞いていたわけですけれども、ぜひひとつ積極的な努力をお願いをしたいということです。

そこで、地区センターは大変身近な集会施設ということで、総体的にはよく利用されているように思います。しかし年間の利用実績等を見ますと最低が32件、あるいは60件、あるいは多いところは1000件を超えている。こういうふうに大変幅広い利用状況になっております。もちろん数が多いからかなりそういう面も広がりを持つということも理解ができるわけですけれども、施設の規模や立地条件が必ずしも現在の市民ニーズに対応しているのかどうなのか、こういうような心配もしております。この点についてはどのように把握をされ、受けとめられておるのかということを、まずお聞きをしておきたいというふうに思います。

さらには市民相互の交流や文化活動、こういう拠点になるような多目的なコミュニティセンター、こういうものの必要性は当然論を待たないというふうに思いますけれども、特にこうしたものの中規模施設等について、具体的に基本計画等の中で実践、実現をしていくにはどのようにするのだ、この辺が少し計画の中では不足をしておるように思います。この点を、ひとつどのように進められるかということを、お伺いしておきたいというように思います。

大体大きくはそれぞれ四つに分けた中でお伺いしてまいりたいと思います。よろしくお願いをいたします。

○議長（市川資信君）　中山基昭君の質問についての答弁を求めます。都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　それでは、都市整備部関係につきまして、お答えをいたします。

まず公共下水道の計画でございますが、全市の建設の目標といたしまして、昭和76年を置いております。この計画の内容でございますけれども、南多摩処理区につきましては、面積が232ヘクタールでございます。

この区域につきましては、南多摩の処理場に放流をするものでございます。この区域につきましてはほぼ完了いたしまして、63年の８月１日現在では212ヘクタールの区域が供用されているということでございます。

それから秋川処理区でございますが、これは多摩川右岸の八王子処理場に放流をするものでございます。面積といたしましては397ヘクタールでございます。この処理場の完成は、昭和66年度でございまして、供用開始は67年度を予定をしております。現在、この397ヘクタールを昭和67年度までには完了させたいということで取り組んでいるところでございます。

それから次が浅川処理区でございます。これは浅川処理場に放流をするものでございます。面積といたしましては、全体で1733ヘクタールでございます。浅川右岸が760ヘクタールでございます。これは一部調整区域があります。この面積が122ヘクタールございますので、実質としては638ヘクタールが処理エリアになるわけでございます。

左岸でございますけれども、左岸の面積が973ヘクタールでございます。このうち、現在認可を取ってございますのが万願寺土地区画整理区域内の168.1ヘクタールでございます。御指摘の本管等の変更等の問題でございますけれども、特に浅川処理区のうち、いわゆる未認可の区域があるわけでございます。これが約804ヘクタールあるわけでございますけれども、この残る未認可の区域を今後どうするかという課題が一つあるわけでございます。

一つは、幹線で申し上げますと浅川中央幹線でございます。これは都市計画道路１・３・１号線に埋設をいたしまして、西平山方面まで汚水管を持っていくというものでございます。御承知のように、万願寺土地区画整理区域内につきましては１・３・１号線を使いまして、管渠の埋設ができるわけでございます。さらにかねてから申し上げておりますけれども、万願寺区画整理の西側の境から川崎街道まで、340メートルにつきましては、建設省の単独の道路事業として整備をしようということで、今、測量等に着手

をしている。したがって川崎街道までの本管の見通しは、今の時点ではややついてきたということでございます。

それから豊田の区画整理の区域までの間をどうするか、そういうことでございます。この間につきましては、豊田南並びに西平山の区画整理との関連もございますので、そう先に送るわけにはいかない区間でございます。将来、64年ないし65年ころには一部計画変更を含めて対処をいたしたいというふうに考えております。

それからあと一つは、多摩川中央幹線でございます。これは浅川の処理場から１・３・１に参りまして、１・３・１から２・２・11号線に入るわけでございます。これは中央自動車道の下を通りまして万願寺、それから東町、要するに２・２・10号線を横断をいたしまして多摩川自治会を通り、それからＪＲ中央線の下を通り、新町方面に行くという経路でございます。

この経路を考えますと、まず中央自動車道から２・２・10号線までの間でございますが、これはモノレールの路線にもなっておりますけれども万願寺第２区画整理、あるいは東町区画整理で２・２・11号線をつくり、管渠の埋設をいたしたい。それから２・２・10号線からＪＲ中央線までは一応道路が一部完成し、また市民の森スポーツ公園の北側につきましては、64、65年度には完成するということでございますので、中央線までは何とか見通しがつくといいますか、計画上、先が見えてきているということでございます。

問題は、中央線から以西の問題でございます。この件については現在東京都の方に、道路の必要性の中に交通問題はもちろんありますけれども、多摩川中央幹線の敷設の問題もあるわけでございますので、早期完成につきましてお願いをしているところでございます。この道路の着工なりあるいは完成を見極めまして、この区間の中央幹線の敷設については決めなければいけないというふうに考えております。現在、私どもでは64年ないし５年にはある程度の方向づけをしなきゃいけないというふうに、今、考えているところでございます。

それから資金計画でございます。これは総額で、補償費を含めまして今、考えておりますのが497億円でございます。このうち財源でございますけれども、国都補助金が約22.5%、それから地方債が67.5%、それから一般財源が10%、このような資金計画を、現在持っております。これはあくまでも現時点でございますので、この負担の割合等については今後変化があるというものでございます。

それからちょっと前後しますけれども、この公共下水道の建設でございますけれども、

区画整理を現在やっているところ、それからこれからやろうとするところにつきましては、この区画整理事業と合わせて本管の敷設をしていくということでございますので、先ほど冒頭に昭和76年と申し上げましたけれども、それは区画整理事業とうまく整合して完成したということを前提にしておりますので、区画整理事業がこれから着工するところ等については、事業期間がこれより延びますれば、それだけその区域は完成が先に行くということでございます。

それから都市計画道路の関係でございますが、多摩地域の都市計画道路は、区部に比較いたしまして非常に整備がおくれておりますので、昭和62年度に東京都が中心になりまして、各市を調整をし、日野市都市計画道路基本計画調査報告書というものをまとめました。この内容は、昭和90年までには全部都市計画道路を完成しようということで、その中の計画として昭和70年度までの、いわゆるこれを前期と称しまして、市及び東京都、国が着手しようとする路線を調整の上、決めております。

それを申し上げますと、まず市施行で街路事業として行うものが２・２・５号線、２・２・９号線、これは合わせまして約860メーターでございます。それから東京都施行といたしまして１・２・１号線、これは程久保から中大、それから明星大学の間を通りまして多摩センターの方に行く道路でございます。モノレールが通る道路でございますが１・２・１号線、それから１・３・４号線、これは第二関戸橋関連道路でございます。それから２・２・10号線、２・２・11号線、それから２・２・12号線――２・２・12号線といいますのは川崎街道及び北野街道でございますけれども、ここで言っている場所につきましては高幡不動尊のあの部分でございます。これは東京都と合わせますと、全部で１万1,000メーターになるわけでございます。それから国施行といたしまして１・３・１号線、１・３・２号線で、長さにいたしまして6,200メートルでございます。

それから本市は区画整理事業を進めておるわけで、その中で都市計画道路をもちろん建設をしておるわけでございます。これが９路線ございまして、6300メートルでございます。そうしますと総延長で２万4300メートルが事業化をされるということになるわけでございます。現在の都市計画道路の整備率が34.4%ございます。これは以前にはいま少し高い数字であったわけでございますけれども、動物園の前通りでございます。これがモノレールが通るために計画幅が広がったわけで、完成から未完成に落ちまして34.4という数字になったわけでございます。

これで今申し上げました進捗率を見ますと、前期で着工及び完成するものが77%まで上がるということになります。それからいわゆる昭和70年までの完成を見ますと、実質

18％アップいたしまして、約53％の完成率になるということでございます。

次がモノレールでございますけれども、これは多摩センターから新青梅街道まで16キロメートルを昭和72年度までに完成をさせるということで、現在東京都が取り組んでいるものでございます。当初の計画は立川以北を第１期でつくりまして、一部供用開始をということで考えておったのでございますけれども、若干都市計画の問題等がございまして、当初のスケジュールどおりにはいかないようでございます。

聞くところによりますと、東京都はそれでは全体計画がおくれますので、立川以南を昭和66年ないし７年の着工を考えておりましたけれども、それを前に倒しまして、いわゆるできるところから工事等を着工したいというふうに、政策の変更をしようとしていることを伺っております。現時点で申し上げますと、一応72年完成ということで事業が進んでいるということでございます。

それから豊田駅周辺の関連で都市計画道路２・２・３号線の早期着工の件でございますが、これは御承知のように豊田南の区画整理の区域内でございまして、いわゆる仮換地を行いまして、この道路予定地の権利者の家等も移転をいたしまして、この用地をあけ、道路をつくるという順序になるわけでございます。確かに早急につくるメリットは十分ございますので、事業の中で十分努力をいたしたいというふうに考えております。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　放置自転車の件でございます。

放置自転車につきましては、非常に悩んでいるところでございますが、やはり市は市としての責務もある。すなわち駅にいらっしゃるとき、東の方からいらっしゃるならば、その東からいらっしゃる途中に無料の駐車場がある。また北から来る方々に対しては北の方に無料の駐車場があるというような整備をいたしまして、400メートルから500メートルは歩いていただきたいというのが市の考え方でございまして、それと同時にお願いしたいことは、やはり住民の方々にルールを守ってほしい、市も責務を果たしますけれども、自転車に乗ってこられる方々もひとつルールを守ってほしい。

それと、もう一点おっしゃいました駅近くに整備センターがつくっている駐輪場は大体満タンになっている、今後も整備しなさいという御意見でございます。それにつきましては今回の予算でお願いをしております。約200台を収容する、342平方メートルございますけれども、これをやはり場所といたしましては豊田四丁目の45の７でございまして、先ほど言いましたように約200台の駐車が可能でございます。これも財団法人自転車整備センターに委託をしていきたいというぐあいに考えているところであります。

それからスクランブルのところ、都道と多摩平幹線１号線がクロスするところのスクランブルがございます。これ等につきましては歩行者とか自転車、自動車がスムーズに安心してできるような道路にしていく必要があるのじゃないかということでございます。

ごもっともな御意見でございます。このスクランブルでございますけれども、警視庁といたしましては今後スクランブルの交差点をつくらないという方針をとっております。と言いますのは、スクランブルであるところとスクランブルでないところがありますと、スクランブルだと思って、スクランブルでないところでも斜に横切って飛び出す人が多いのだそうでございまして、今後はスクランブルはなくしていくという方針を示しております。そういうことでいろいろ警察ともまたよく相談いたしまして、駐輪場、駐車場につきましては逐次、今申し上げましたとおりここでまた200台の整備もできるという中で、今後努力をしてまいりたい、かように考えております。以上です。

○議長（市川資信君）　　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　　２点目の安全と利便な道路交通網の中での、新駅の問題でございます。

新設駅の内容につきましては、既に調査報告書をＪＲに、でき上がった時点で送付いたしました。送付というよりは、私の方で持っていき、そしてその後説明をしたという経過でございます。

その後10月28日にはＪＲ東日本本社に、市長が本社の幹部と会いまして、強力な促進の要請をした経緯でございます。ＪＲ側としては現在、かなり慎重な対応でございますので、具体的な結論には至っておりませんが、なお一層実現に向けて努力していきたいというふうにお答えしておきます。

なお２点目の連絡バス路線の充実ということでございます。御承知のとおり、連絡バスにつきましては、ことしから４往復を８往復にしたという経緯でございます。非常に乗車人員等も増加している傾向はあるわけでございますが、ただこの連絡バスだけでなくして、議会のつど各委員さんから要望あるいは意見を伺っているわけで、その中では当然大きな問題としては７つの不便地域の問題でございます。

先ほど中山議員さんからも特別対策委員会の中で３路線をというような話もありました。そういった経過を踏まえまして、私の方も非常に７カ所の不便地域の中では、道路網の問題等もあり、他の施策の方向等を考えながら、運輸省にも相談した経緯がございます。そういった問題等を含んで、当然運輸省としてはエリア許可権の問題でございますので、実質的には京王を呼び、指導した経緯もあるわけでございます。３路線の要請

につきましては、京王側もかなり積極的に現在、対応しております。年があけてから具体的には市の方に提示すると、これはあくまでも京王が自主路線でやるという考え方でございます。

しかしそういう中でも、今、議員さんからの提案の中で、連絡バスを現行の２系列にということでございます。２系列の問題も考えなければなりませんが、一つの不便地域の３路線の問題とあわせて、現行、かなり道路網が完備している中での、市の財源負担を多少しましても、実現すべき場所等もあろうかと思います。そういう中で、この３路線の京王の回答を待ちながら、積極的に対応していきたいというふうに思っております。

もう一つは３番目の旭が丘公団住宅でございますが、既に市長から情勢報告をしたとおりでございます。来年の４月に向けての入居ということで、当初の目的の職住近接というような中での、300人以上の従業員の企業のところを全部市に呼びまして、説明会を12月の５日に開催をいたしました。よって、具体的にはその申し込みを優先で取った上で、一般の公募を検討するということでございます。今回につきましては、200前後というような数字でございますので、企業優先の中での申し込みを取った後の対応というような状況でございます。

なお、最後の多目的な地域施設の充実ということでございます。この公共施設用地を確保する問題としては、とにかく第１の条件としては、用地確保が第１でございます。土地の高騰の中での大変求めにくい問題、よってそういう中での多目的の必要性、また現状の施設整備を複合的にというような考え方は、土地確保のための一つの施策としては、考えざるを得ないと思っております。当然これを複合的にやるということでございますし、基本計画の中にも一つの施策の方向等をまとめてあるわけでございますが、複合的にやる場合の一つの場所としての検討、考え方、それを庁内の関係機関での討議がまず前段で必要だろうというふうに思っております。そういう調整を図りながら、コミュニティ等の施策のネットワーク化を図りたいというふうに考えております。

土地問題につきましては、きょうの新聞でも土地基本法懇談会の報告の骨格が出されております。そういう中では、今後この動向が、公共性を全面的に土地政策にというような内容でございますので、この辺も十分見守りながら今後の対応をしていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　仮称西豊田駅新設運動に伴います調査の結果は、ＪＲ当局に重要な資料として、新駅への検討を強くお願いをしたわけであります。

そしてその際、私が参りましたときに、相手の方はＪＲの運行本部長という責任の衝にある方でございますが、新駅建設経費に７億円が必要ということが、調査書に書き上げられておるわけでありますので、地元負担ということで、そのことが非常に決定的な条件となるならば、日野市としても責任を持って対応いたしますということは、要望の中に、大切な部分としてお伝えをいたしました。

○議長（市川資信君）　　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　市営住宅関係を、総務部長からお答えを申し上げます。

御質問の中にもございましたように、地価の高騰とこれに連動をいたします家賃の値上げによりまして、低所得者層の住宅事情はますます厳しくなっております。このために、公営住宅の必要性が大きくクローズアップされてまいりました。市としては、これら需要にこたえるべく健闘しておりますが、地価の事情から申しまして、新たに市営住宅の建設用地を求めるということは大変難しい、極めて困難なことでございます。

そこで市といたしましては、既存の住宅の建てかえ事業によりまして、供給の確保に努めていく方針を打ち出してございます。これら建てかえ住宅は、建てかえ事業につきましては、市の住宅政策の重要な課題として位置づけられております。この建てかえ事業につきましては、単に住宅の更新面というとらえ方だけでなくて、不燃化によります防災性が非常に高まること、土地の有効利用、あるいは住環境の整備、また居住水準の向上などの面からも大変重要な事柄であると考えております。

御質問の中にございました高齢化社会を迎える中での老人世帯向け住宅、あるいは母子世帯向け住宅、身体障害者向き住宅につきましても、十分配慮をした中で計画に取り組んでおります。向河原の第４期工事におきましては、これまで既設住宅にありましてはすべて１種住宅でございましたが、この向河原第４期工事では第２種住宅62戸を予定しております。さらに障害者用、それから老人世帯用各４戸、それから母子世帯８戸を計画をいたしておるところでございます。

建てかえ計画の対象団地といたしましては、昭和30年代に建てられました古いものから、具体的には高幡、下田、東光寺、城址ヶ丘団地、こういったところが昭和30年代の建築でございますけれども、この中から優先順位を決めまして、整備拡充を図ってまいりたいと思っております。現時点では市営住宅の戸数が444戸ございますけれども、これを建てかえ事業によりまして建てかえをいたしますと179戸ふえまして、623戸になる予定でございます。

それから御質問の中にございました付加使用料徴収者でございますけれども、全体の

約44%の方から徴収しております。これは毎年収入調査を実施いたしまして、その都度徴収をしているものでございます。本年３月に募集をいたしました向河原団地につきましては、その応募の倍率が19.25倍にも達しております。市営住宅を必要とする所得の層の方にお入りいただくためにも、所得をオーバーしている人たちには、今後公営住宅法によりますあけ渡しの請求を行っていきたいと思います。

この場合、東京都で実施をしております都営の住宅でございますとかあるいは住宅供給公社、そういった住宅をあっせんをしてまいりたいと思っております。以上です。

○議長（市川資信君）　中山基昭君。

○21番（中山基昭君）　それでは、できるだけ限った再質問と要望をしてまいりたいと思いますけれども、最初に下水道関連の財源構成等、お伺いしました。特に、当初から見ますと、国庫からの支出がウエートが減少して、起債への依存が高まってきたこと、こういう傾向になってきておるようです。

一方、現在の市の地方債の残高、354億でありますか、これらを見ますとそれぞれの借入先が政府資金、これがその中の約八十数%を占める、こういうことですよね。しかし現在の財政の仕組みあるいは政府の予算設定上からいくと、なかなか難しい部分もあるのだなというような感じもして、受けとめております。

しかし少なくとも下水道、それから道路整備、こういうような直接の生活関連施設については、政府は金は貸すけれども出さないよ、こういうふうなことでなくて、直接そうした政府支出なり資金の活用、こういう面への努力をこれからいろいろの場を通じてぜひしてほしい、こういうひとつ要望を申し上げておきたいと思います。

次に道路計画との関係にもなるわけですけれども、例えば旭が丘の四丁目の工業団地に大変大きな町ができる。3000名くらいの人があれする。当然車等もふえる、歩行者も何か心配になる。あるいは地域周辺の生活道へ車が進入する、いろいろの課題があります。そういう中で考えるときに、やはりあの中の２・１・３号線、西長沼線ですか、これは既に全体計画の1190メートルの80%近くが完成をしておるところです。残りは20%わずかだ。しかし後は国鉄線を越えるという問題もあるわけです。それをするにはかなりまだ時間もかかるわけですけれども、そうした町の変化と、生活施設と言いますか、こういうものを一体的にとらえた対応をしないと、どうしてもいろいろな問題が発生するのではないか。もちろんそうかといって、２・１・３号だけできたって１・３・１がなければだめだよ、こういう反論もあろうかと思いますけれども、いずれにしてもそうした一体化の中で、ぜひこれからの生活施設づくり等を進めてほしいということです。

先ほど建設部長の方から豊田駅前の交差点の話もありましたけれども、むしろ交差点のあり方がどうだというよりか、私は二輪車レーンを二輪車レーンとして専用にひとつ使えるようにしてほしい、こういうことなんです。そういう面では何遍も申し上げていますけれどもなかなか進まない、いま少し工夫ができるのじゃないか、こういうことをひとつ強く申し上げておきたいというふうに思います。

あと特に昨日も公団住宅の旭が丘四丁目へのできる問題について、高橋徳次議員さんからも特に通学路の確保、あるいは安全対策、こういう中でいろいろ指摘もございました。もらろんのことだと思います。私はそれと含めて、この中の当該小学校、中学校、具体的には旭が丘なり第四中学校になろうかと思いますけれども、こういう中での人員が全部入ったときの受け入れ体制、こういうものに特段の心配がないのかどうなのかというようなことについて、多少懸念を持っております。今までの推計表等を見ましても、余り変化がないということですから、大丈夫だよということであれば、大丈夫だよというふうな御返事をいただきたいということです。

あとは、これは市長の方になろうかと思いますけれども、公団の行政協力という面から考えると、特に工業団地内という面も含めると、市民施設的な、例えば工業会館でも何でもいいのですけれども、というような形の施設を何かつくれるような努力をしてほしかった、こんな感じもしておりますけれども、その辺はこの公団と話をされてきた経過があるのか。いや、とてもそんなことはだめだよ、こういうふうなことなのか、ひとつその辺をお伺いしておきたいというふうに思います。よろしく。

○議長（市川資信君）　中山基昭君の再質問に対して答弁を求めます。教育長。

○教育長（長沢三郎君）　小中学校の児童生徒が600戸からの住宅が、元の千代田自動車跡地にできるという状況の中で、果たして旭が丘小学校あるいは四中におけるところの受け入れ態勢は大丈夫なのか。私たちの方では、間違いなく受け入れ態勢は大丈夫であるという判断を持っております。

なお、今度の予算の中にも一応学区域の検討委員会等の予算要請もしておりますけれど、前回の検討委員会の中でも、特に旭が丘小学校と六小との関係、あるいは四中と二中との学区域の見直しの問題、これらの問題をあわせながら対応してまいりますと、相当数の児童生徒が仮にふえたとしても、六小も二中も十分な教室数を予定しておりますし、また現実問題として600戸の入居に対しまして最大限、一番大きく人数を抑えたとしても小学生で240、中学生で120ということですから、学級数にいたしますと６学級、あるいは３学級程度の学級増というものを見なくてはならない、そういうようなことも

考えられますけれど、今申し上げましたように、隣接しております六小あるいは二中の問題等とも含めながら、十分対応できるような体制をとっていきたいと、こう考えております。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　千代田自工跡地の都市整備公団による工住一体化開発につきましては、職住近接ということで、住宅建設は基本的に臨んでほしいという注文を出しました。つまり地元の既存の企業に従事されるその方々の住宅、あるいは経営者の立場からも職員の住宅確保に寄与したい、そういうことであります。

そのほかに、地元施設をつくってくれということは申しませんでした。しかしながら相当数の住宅ができることでありますから、いい周辺の環境整備とあわせて、いわゆる団地内集会所といいましょうか、共有の場所は設けられるというふうに承知いたしております。

○議長（市川資信君）　　中山基昭君。

○21番（中山基昭君）　　ありがとうございました。質問を終わります。

○議長（市川資信君）　　これをもって20の１、行政の当面する課題とその対応について（主として都市生活環境の整備）の質問を終わります。

お諮りいたします。議事の都合により、暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって、暫時休憩いたします。

午後３時11分　休憩

午後４時18分　再開

○議長（市川資信君）　　休憩前に引き続き会議を開きます。

これより議案第118号、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定の件を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。市長。

〔市長登壇〕

○市長（森田喜美男君）　　議案第118号、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、提案理由を申し上げます

本議案は、一般職の職員の給料表及び扶養手当、通勤手当を改めるため、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正するものであります。

詳細につきましては担当部長に説明いたさせますので、よろしく御審議のほど、お願いいたします。

○議長（市川資信君）　　関係部長から詳細説明を求めます。総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　説明に入る前に、議案書の中にミスプリが発見されましたので、大変恐縮ですが御訂正方をお願いしたいと思います。

９ページでございます。９ページに２等級の給料表がございますけれども、その号給のところでございます。下から２段目に10、10とございますけれども、これは20、20の誤りでございます。号給のところに10、10が２カ所ございますけれども、この２カ所とも20、20に御訂正をお願い申し上げたいと思います。大変申しわけないことをいたしました。おわびいたします。

それでは議案第118号、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、御説明申し上げます。

本年８月４日に人事院は国会及び内閣に対しまして、国家公務員の給与に関し勧告をいたしました。その率は2.35でございます。その後10月６日、東京都人事委員会による勧告がございまして、その率は2.37でございました。さらに10月７日には特別区の率が決まりまして、2.38となっております。日野市といたしましては国並みの率、2.35％の率の給与の改正を行ったものでございます。なお、適用日は本年４月１日にさかのぼって施行するものでございます。

改正の主な点について御説明を申し上げます。

率のトータルにつきましては、ただいま申し上げましたように、国並みの2.35でございますけれども、条例第７条３項中、これは扶養手当の項でございますけれども、配偶者と配偶者を欠く場合には第１子の手当、これを１万5,600円から１万6,100円に、500円をアップいたします。その他の扶養家族につきましては、現行6,500円に200円アップいたしまして、6700円に改めるものでございます。

それから第９条第２項第２号中、交通用具につきましては1,800円をプラス700円アップいたしまして、2,500円に改めるものでございます。

以上、説明を終わらせていただきます。よろしく御審議のほど、お願い申し上げます。

○議長（市川資信君）　　これより質疑に入ります。古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　何点かお尋ねをいたします。

給与改定は毎年いろいろな条件、つまり民間の動向や国、東京都の給与改定率等を参考に、労使間で大体話し合われたその結論が提案をされるわけでありますが、日野市に

限って言えば、先ほど全協でも話が出ておりましたが、市内の企業の大体大手と呼ばれる会社の平均の改定率等が一つの基準になる。その地域の経済動向等を十分に参考にしながら決めていくということになれば、そういったものもひとつ参考にすべきだろうと思うのです。

ただ今回の場合には、国の人事院勧告の給与の増加率を参考にいたしておりますので、勤務時間では国と比較をしてどうなのか。それからこれから週休２日制ということで、土曜日の役所が仕事をするかしないか、つまり土曜日もお休みをとろうということで、そうした動きもあるわけですが、給与というものが労働力の提供に伴う反対給付である以上、労働条件等も日野市だけが何か特別な形で行われるということは好ましくないわけでありますので、土曜閉庁に向けてどのような対応がなされているのか、国ではどうなのか、東京都ではどういう動きであるのか、その辺の比較がわかれば、教えていただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　市内企業の勤務時間と市役所の勤務時間の差でございますけれども、大手企業の勤務時間のトータルにつきましては、今ここでつかんだ数字を持っておりません。市役所では42時間30分の勤務時間になっております。国の場合はこれが44時間でございますけれども、市の場合は42時間30分、国の場合は44時間からさらに週休分１回を、１日１時間をマイナスいたしまして、国の場合は43時間になっております。市の場合は42時間30分でございます。それから大手企業の勤務時間については、これから労政事務所などに問い合わせをいたしまして、調査をいたしたいと思います。

それから来年１月からは国家公務員が４週６休制をとります。土曜日閉庁方式の４週６休制をとりますし、都の場合も４月から実施の予定と聞いております。こうなりますと、また勤務時間に変動が出てまいりますけれども、26市についてはまだいつからやるというめども立っておりません。国と都の勤務時間、それに対応する給与などにつきましても今後調査をいたしまして、市としての対応を生み出してまいりたいと思っております。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　大体わかりました。

先ほどの全協の場でも、福島敏雄議員の方でお話がありましたが、今回いろいろな資料が提出をされて、従来の追加議案の給与改定時の資料に比べればかなり細かい資料に充実を図られてきているということはわかるのですが、当然職員の皆さんの給与は、そ

の原資となるのは市民の税金であります。ですからその納税者である市民や個人、法人の皆さんに納得をしていただくということからすれば、当然こういった資料にさらに市内の民間企業の給与改定率等もあわせて今後記載をしていただければ、より資料としても私どもわかりやすくなるし、豊富な判断材料が提供されるということになると思いますので、その点、お願いをしておきたいと思います。

なお、今回の場合には定期昇給分が含まれて提案をされて、2.35ということではないということで、民間の場合との、もちろん国の人事院勧告のやり方、算定の方法等もあろうかと思いますが、定昇分を含むのか含まないのか。その点、民間との間の考え方も違うかもわかりませんが、よりわかりやすい、そういったものも含めて資料を今後作成していただきたいという点を、お願いをしておきたいと思います。以上です。

○議長（市川資信君）　ほかに御質疑はありませんか。なければ、これをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております本件については、委員会付託を省略いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって、本件については委員会付託を省略することに決しました。

本件について、御意見があれば承ります。なければ、これをもって意見を終結いたします。

これより、本件について採決いたします。本件は原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第118号、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定の件は、原案のとおり可決されました。

これより請願第63－26号、「宅地開発指導要綱」にもとづく公的負担の軽減に関する請願の件を議題といたします。

請願の要旨は、お手元に配付しました印刷物のとおりです。請願第63－26号の常任委員会への付託は、会議規則第138条の規定により、議長において建設委員会に付託いたします。

これより請願第63－27号、旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願の件を議題といた

します。

請願の要旨は、お手元に配付しました印刷物のとおりです。請願第63－27号の常任委員会への付託は、会議規則第138条の規定により、議長において厚生委員会に付託いたします。

これより請願第63－28号、鉄道共済年金の安定的財政確立に関する請願の件を議題といたします。

請願の要旨は、お手元に配付しました印刷物のとおりです。請願第63－28号の常任委員会への付託は、会議規則第138条の規定により、議長において総務委員会に付託いたします。

請願第63－29号、日野市営グランドの充実を求める請願の件を議題といたします。

請願の要旨は、お手元に配付しました印刷物のとおりです。請願第63－29号の常任委員会への付託は、会議規則第138条の規定により、議長において文教委員会に付託いたします。

本日の日程はすべて終わりました。

12月19日から始まります常任・特別委員会は、お手元に配付しました日程表のとおりです。委員の皆様には、日程表に基づき御参集願います。

次回本会議は12月23日金曜日、午前10時より開議いたします。時間厳守で御参集願います。

本日は、これにて散会いたします。

午後４時31分　散会

12月23日　金曜日　（第７日）

昭和６３年
第４回定例会　日野市議会会議録　（第47号）

12月23日　金曜日　（第７日）

出席議員　（30名）

１番	奥住日出男　君	２番	宮沢清子　君
３番	高橋　徹　君	４番	土方尚功　君
５番	山口達夫　君	６番	天野輝男　君
７番	福島盛之助　君	８番	福島敏雄　君
９番	中谷好幸　君	10番	小俣昭光　君
11番	川嶋　博　君	12番	馬場繁夫　君
13番	夏井明男　君	14番	小山良悟　君
15番	馬場弘融　君	16番	高橋徳次　君
17番	旗野行雄　君	18番	一ノ瀬　隆　君
19番	板垣正男　君	20番	鈴木美奈子　君
21番	中山基昭　君	22番	秦　正一　君
23番	黒川重憲　君	24番	古賀俊昭　君
25番	谷　長一　君	26番	市川資信　君
27番	石坂勝雄　君	28番	名古屋史郎　君
29番	竹ノ上武俊　君	30番	米沢照男　君

欠席議員　（なし）

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	長谷川暢男君	総務部長	坂本金雄君
市民部長	大貫松雄君	生活環境部長	藤浪竜徳君
清掃部長	小林修君	都市整備部長	前田雅夫君
建設部長	永原照雄君	福祉部長	高野隆君
水道部長	橋本栄萬君	病院事務長	大崎茂男君
教育長	長沢三郎君	教育次長	砂川雄一君
総務部参与	山崎彰君		

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	佐藤智春君	次長	土方留春君
書記	田中正美君	書記	濃沼哲夫君
書記	佐々木茂晴君	書記	小林章雄君
書記	斉藤令吉君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3
立川速記者養成所　所長　関根福次
速記者　村上紀子君
速記者　川久保友子君

議事日程

昭和63年12月23日（金）
午前10時開議

（議案審査報告）　（総務委員会）

日程第1　議案　第96号　日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について
日程第2　議案　第97号　日野市職員の分限に関する条例の制定について
日程第3　議案　第98号　日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第4　議案　第99号　日野市市税条例の一部を改正する条例の制定について
（総務・文教・厚生・建設）
日程第5　議案　第105号　昭和63年度日野市一般会計補正予算について（第3号）
（文教委員会）
日程第6　議案　第80号　日野市立幼児教育センター設置条例の一部を改正する条例の制定について
（厚生委員会）
日程第7　議案　第104号　日野市立保育園設置条例の制定について
日程第8　議案　第106号　昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算について（第1号）
日程第9　議案　第109号　昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算について（第2号）
日程第10　議案　第110号　昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算について（第2号）
日程第11　議案　第112号　昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算について（第1号）
（建設委員会）
日程第12　議案　第100号　日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定について
日程第13　議案　第101号　日野市都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定について
日程第14　議案　第102号　財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例の制定について
日程第15　議案　第103号　日野市緑地信託等に関する条例の制定について
日程第16　議案　第107号　昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算について（第2号）
日程第17　議案　第108号　昭和63年度日野市下水事業特別会計補正予算について（第3号）

日程第　18	議 案　第 111 号	昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算について（第１号）
日程第　19	議 案　第 113 号	市道路線の認定について
日程第　20	議 案　第 114 号	土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結について
日程第　21	議 案　第 115 号	農業共済無事戻金の交付について
日程第　22	議 案　第 116 号	南多摩農業共済事務組合の設立について
（請願審査報告）		（厚生委員会）
日程第　23	請願 第 63－27 号	旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願
		（建設委員会）
日程第　24	請願 第 63－26 号	「宅地開発指導要綱」にもとづく公的負担の軽減に関する請願
（取り下げ）		（総務委員会）
日程第　25	請願 第 62－53 号	法務局の増員に関する要請についての陳情
		（文教委員会）
日程第　26	請願 第 62－６号	公立中学校英語の授業時間増に関する陳情
日程第　27	請願 第 62－32 号	第三幼稚園における２年保育４歳児の増員に関する請願
（継続審査）		（総務委員会）
日程第　28	請願 第 63－16 号	都営住宅家賃値上げ中止の意見書提出を求める請願
日程第　29	請願 第 63－22 号	東京都住宅供給公社住宅の家賃値上げ中止を求める意見書提出の請願
日程第　30	請願 第 63－28 号	鉄道共済年金の安定的財政確立に関する請願
		（文教委員会）
日程第　31	請願 第 63－11 号	日野市立第二中学校音楽室に机を設置させるべく日野市教育委員会に勧告に関する請願
日程第　32	請願 第 63－14 号	再び万願寺一里塚現状保存を訴える陳情
日程第　33	請願 第 63－29 号	日野市営グランドの充実を求める請願
		（厚生委員会）
日程第　34	請願 第 62－19 号	東町地区公害に関する請願
日程第　35	請願 第 62－24 号	犬の不妊・去勢手術に関する市と市内病院（獣医師）との委託契約の改善と猫に対しての不妊・去勢手術に対する補助に関する請願
日程第　36	請願 第 63－３号	保健、医療、福祉の拡充に関する陳情
日程第　37	請願 第 63－23 号	沢川広場に便所および水道設備設置並びに広場拡張に関する請願
日程第　38	請願 第 63－24 号	放射能測定器設置の請願
日程第　39	請願 第 63－25 号	コミュニティセンター建設に関する請願
		（建設委員会）
日程第　40	請願 第 62－42 号	山王下公園周辺の市営駐輪場設置反対に関する陳情
日程第　41	請願 第 63－９号	日野市東平山地区における緑地を守るとともに、私有地の買い上げを求める請願
日程第　42	請願 第 63－18 号	「宮」町名存続要望に関する陳情
（継続審査議決）		
日程第　43		下水道対策特別委員会の継続審査議決に関する件
日程第　44		スポーツ・公園対策特別委員会の継続審査議決に関する件
日程第　45		交通対策特別委員会の継続審査議決に関する件
日程第　46		市立病院等対策特別委員会の継続審査議決に関する件
（議案上程）		
日程第　47	議員提出議案第10号	学校事務職員等の給与費国庫負担制度除外に反対する意見書
日程第　48	議員提出議案第11号	旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する意見書
（緊急質問）		
追加日程第１		土木工事の不正疑惑！あいつぐ不明朗な公共事業について問う

本日の会議に付した事件

日程第１から第22及び追加日程第１まで

午後４時33分　開議

○議長（市川資信君）　　こんにちは。本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員30名であります。

お諮りいたします。議事の都合により、あらかじめ会議時間の延長をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって、会議時間を延長することに決しました。

お諮りいたします。議事の都合により、暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって、暫時休憩いたします。

午後４時34分　休憩

午後６時44分　再開

○議長（市川資信君）　　休憩前に引き続き会議を開きます。

お諮りいたします。土木工事の不正疑惑、あいつぐ不明朗な公共事業について問うの件につき、小山良悟君から緊急質問の通告があります。所定の賛成者がありますので、この際、緊急質問を日程に追加し発言を許すことに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって小山良悟君の緊急質問を日程に追加し発言を許すことに決しました。

小山良悟君の発言を許します。

〔14番議員　登壇〕

○14番（小山良悟君）　　議長のお許しをいただきましたので、件名に従って緊急質問をさせていただきます。

去る11月の臨時議会の際に、高幡特別養護老人ホームの３回目でやっと落札したという、この入札のあり方といいますか、そういったものに私もいろいろ質問をいたしまして建設部長ともやりとりをしたわけでありますが、そのやりとりの中で、どうも納得できないというか、そういう点がございまして、それで、こういったようなことについて私も勉強不足でもありましたし、実際に実情はどうなっているんだろうか、しかも最近は、皆さん御存じのように、全国的に見られる傾向ですけれども、自治体の公共事業の

不調が相次いでいるという、そういう状況でありますので、私も建設委員をやっておりますので、そういった点も勉強もしなくちゃいかんということで実際に現場なんかも回って歩き、そしてまた建設業者のところにもいろいろ勉強しに行ったというか、歩き回りました。

その過程で思わぬことが、情報が入手しまして（「どこから入ったんだ」と呼ぶ者あり）私が60年の定例会の第１回目の定例会で緊急質問した都立高校、南平の都立高校のグラウンドの擁壁工事の不正工事といいますか、やり直し工事について緊急質問した経緯があるわけでありますけれども、その緊急質問のときの議事録もあるわけですが、そのときにもいろいろやりとりしているわけですけれども、そのときには市の説明といいますか、決して納得したわけじゃありませんでしたけれども、一応その市の説明で一応私もそれ以上の追及をしてなかったわけでありますけれども、その本当の理由、なぜ擁壁が傾いたかという本当の理由が今回の、たまたまいろいろ回って歩いた段階でその真実がわかったということで、そのことが捨ててはおけない重大問題だということで、これは森田市政のツケでございますので、もう３月議会では間に合いませんし、任期は、もうとにかく来年の３月で終わりでございますので、それまでにはきちんとした責任というか、けじめをつけてもらわなきゃならんということで、本定例会のきょうしかチャンスがございませんので緊急質問という形でさせていただきました。

それにまた業者の、建設業者のいろいろ現在の苦境といいますか、いうふうなものも肌で建築現場なんかにも行って現場の声も聞き、あるいはいろんな業者の話も聞いて本当に苦慮している最近の公共事業のあり方というものについても肌に感じ、しかも業者はもう異句同音にもう公共事業も返上したい、そういうもう悲痛な訴えといいますか、いうことも肌で感じまして、これもまた捨ておけぬ重大な問題だ。つまり私どもは良質な公共施設をつくってもらいたいわけでありますから、今の非常に厳しい条件の中で対応している建設業者、まかり間違って手抜きなどあってはならんという懸念もあるわけでありまして、この辺の対応も早急にやらなくちゃならんということ、これも緊急性のある問題だということで、きょうはこの土木工事の問題について、第１番目に南平高校グランドの擁壁工事の新たな疑惑、２番目に高校用地買収の新たな疑惑、それから３番目にエセ同和問題、４番目に特別養護老人ホームの落札の問題、そして、相次ぐ建築工事の不調の問題ということで、できるだけ要領よく質問したいというふうに思います。市当局の責任ある答弁をお願いしたいというふうに思います。

さて南平高校のグラウンドの擁壁工事のやり直しの問題については皆さんも記憶に新

しいところだというふうに思います。――資料がいっぱいあるものですから――ちょっと資料が一つ、睡眠不足の頭で用意したものですからどっかへ行ってしまいました。資料なしで進めますけれども、このやり直しの問題については、60年の第１回定例会で私が緊急質問いたしました。そのときに、当時、赤松助役が健在でございまして、なぜ、こういう事態になったのか、という質問をしたわけでありますが、そのときに、議事録をちょっと読ませていただきますけれども、「山砂でこれを埋めていくんだという設計になっているものでございますけれども、その山で発生しました土そのものを実際には埋めていった、こういうことによりまして、土炭という泥炭層の、泥岩という層の粘着度の非常に強い土でございます。そういうところから土圧の違いが出てまいりまして、擁壁の目違い、あるいは前傾斜というふうなものなどが出てきたわけであります」ということで、山砂を埋めて工事をするんだという設計になっていたんだけれども、その山で発生した土そのものを実際に埋めていったということで、こういう事態になったというふうな答弁をそのときにしているわけであります。

当時、私も余りそういう知識というか、いうものがなくて、市の説明というか、いうものにある程度仕方がないのかなということで引き下がったんですけれども、今回、いろいろ勉強させていただきまして、実はこの不正工事といいますか、結果的に不正工事ということになるわけでありますが、設計で山砂を埋めるという形になっているんですね。その山砂にいい部分と悪い部分とがあるということで、設計ではそのいい部分を埋めるということになっていたわけであります。

ところが、いい部分を何と驚くことに鹿島建設の下請であります杉並区に所在する松島工業というところが、このいい砂をダンプで運んで売り飛ばした。そして、悪い砂、いわゆるお金で売れる部分のいい物を運び出して売って、お金を出して運び出してもらわなきゃならない悪い部分の物を埋めたということであります。この事実は全く驚くべきことでありまして、こういうことがそのときに知っておったならば、この鹿島建設に対する責任追及というか、いうものも違った形で、また日野市も一銭も損害を得ることなく対応できたんでありますけれども、そのことが知らなかったということが悔やまれてならないわけでありますが、そしてまた日野市の対応もそういったことを見抜けなかったということについては大変残念であります。

それで、私はこの発生した発生土といいますか、埋める設計になっていたということでありますが、日本技術開発に設計を委託しておりまして、ボーリング調査もしているわけであります。そのボーリング調査で土質とかそういうものもはっきりしているわけ

であります。ところが、公社の、日野市土地開発公社の議事録があります。60年６月10日付のやつでありますけれども、この中で、理事長が当時の赤松助役でありますけれども、この問題で理事会で次のように語っております。「地山を垂直に切り下げなければならないところ、行政指導と違った６分で切ったことか原因の一つ、それから、埋め戻した土が現場の発生土をそのまま使用したことによります。設計上でも現場の発生土を使用することになっていますが、ただし、これは粘着率を35度という良質の砂を使うことになっています。現場にこの種の砂が少なく、泥岩質の土を使用したことにより土圧がかかったことが原因とのことであります」というふうに言っているわけです。これは、日本技術開発でボーリング調査をやっているわけでありますから、その正確な調査が出ているわけでありましたから。設計でそれを指定してあった、良質の砂を使うということを、粘着率35度という良質の砂を使うということを指定してあった。ところが、その砂がなかったというふうに、少なかったと、こういう説明しているんですね。

これは、もしそうだとするならは、いわゆるボーリング調査がでたらめだということになるわけでありますし、実際は、実は日本技術開発のボーリング調査はちゃんと正確だった。――少ないわけであります。ダンプカーでもう盗み出しているというか、運び出して売却してましたから、良質の砂はなくなったのは当たり前なんです。そして残された、指定されてないといいますか、悪い、悪質な砂をそれを埋め込んでたということですから、そういう擁壁が傾いたと、こういうことになるわけであります。こういったこの事実は、もう不正工事以外何物でもないということは、はっきり指定できるというふうに思うわけであります。

私は、市当局としまして、この辺の問題解明というか、いうものについてもう少し取り組み方があったわけでありまして、その辺の対応といいますか、原因究明ができなかったというか、あるいはどのように原因究明したのかというものについて、改めてそのことをひとつまず伺いたいというふうに思います。

それから、私が指摘したことがうそだ、でたらめだともし言うならば、私はこの設計図書とか、それから工事の内訳書とか、一番肝心な工事の記録写真、これは必ずあるはずであります。これは専門家が分析すれば、設計で指定されたものを使っているかどうかというものがわかるということでありますので、そういったものも提出を求めたいというふうにも思いますし、また、その資料提出を拒むというんであるならば、議会で百条委員会でも開いて、何せ５千何百万という日野市がこの不当な、払わなくてもいい税金を払っているわけですから、このまま看過するわけにはいかないということでありま

す。

この何といいますか、費用の負担のついてはこれから触れますけれども、そういった大きな問題でありますので、市の方から正直にといいますか、実態をまず述べていただきたいし、この問題指摘についての取り組みについて、どのような形で対応していくかを市側のこの私の指摘を受けて決意というか、取り組みについての考えをまず聞かさせていただきたいというふうに思います。

それから――ちょっと待ってくださいね。――契約とこの工事責任についてであります。

今申し上げましたように、原因が山砂、設計で指定した良質な山砂を埋めないで、それを鹿島建設の下請の松島工業というところが運び出した、これはもちろん鹿島建設も承知している、現場監督も所長もいるわけですから承知しているわけであります。そういうことをやったために擁壁が傾いたということでありますので、これが不正工事だということをはっきりまず指摘しておきます。

そして今度は契約と工事費の弁償についてでありますけれども、設計変更と称して工事請負契約を結んで、なおかつこの鹿島建設の見積価格に、いわゆる費用の負担の積算の根拠といいますか、それを工事契約価格１億3,500万でした。契約書の写しがあるわけでありますけれども、この工事請負契約は１億3,500万で３月30日に契約しているんですね。私が緊急質問したのは３月27日です、この問題について。３月27日に緊急質問して指摘しましたところ、市側は、これはあわてて対応というか、いうことかもしれませんが、設計変更という、追加工事という形で３月30日に契約している、追加工事、工事請負をしている、契約をしているんですね。これは日野市が１億3,500万円払いますよという契約なんですね。もう最初から日野市が１億3,500万払いますという契約が私が緊急質問したもう３日後に、もうそういう契約を取り交わしちゃっているわけです。責任の追及とか、その費用の負担はどうするとかという、もうそういうことは全く、日野市がとにかく当たり前のように日野市が丸ごと負担するというか、いう形での契約をしているということにまず驚きです。いいかげんだということも指摘していきたいわけでありますけれども、工事契約が１億3,500万円、これは随意契約をやっているわけでありますが、鹿島建設の当初の見積もりが１億6,876万なんですが、最終的に１億3,500万ということで、この擁壁の工事は１億3,500万でやりますということで鹿島建設と開発公社が契約をしたわけであります。

そういう工事であるのに、費用の負担、本来は今から、今にして思えば日野市は費用

を負担する責任はどこにもない、一銭も負担する根拠はないわけであります。しかし、それを一応そのときの特に状況というか、に戻して、仮に日野市が負担しなきゃならないというふうに仮定したとしても、この次に鹿島建設がやり直し工事の費用50％、日野市が33.6％、それから日本技術開発が16.4％ということで、その負担をしてやり直し工事するということを決めたということですけれども、これを決めたのは６月の25日ですか、６月であります。つまり最初はもうとにかく日野市は１億3,500万でこの工事やってくださいということで日野市が負担する、支払い、鹿島建設にこの工事代金を支払って契約ですね、要するに。そういう形でやっていて、いろいろ議会でも追及される、どうのこうのということで、それでは一応この問題についてどう対応しようかということであれしたんでしょうけれども、どの程度の真相解明したか全くわかりませんが、今にして見れば、真相解明の取り組みも非常に甘いわけでありますけれども、簡単に日野市もとにかく負担をしましょう、鹿島建設50％、日野市に33.6ということで負担しましょうということにした。

しかも、そのじゃあ費用の負担を、負担を、金額です。金額の算出する根拠は工事契約１億3,500万で、１億3,500万の工事なんですから、やり直しにしてやるにしたって１億3,500万がとにかく工事ですから、これの費用の負担の割合でやるのが常識なんですね、常識なんです。ところが、これが全く市長の裁定、市長が全く自分の裁定だとみずから言っておりますけれども、その費用の負担の割合の算出の数字を、鹿島建設の当初の１億6,876万を根拠にして割合を決めた。

なぜ、そんなことをするかということを私も当時追及しているんですが、市長は、鹿島建設に負担の金額を大きくさせるためにそうするんだ、日野市が得するためだというふうなことを言っているんです。これも数字のトリックでありまして、結局どういうことかといいますと、実際は１億3,500万で、いわゆる工事契約に基づいてこの割合を、負担の割合を決めれば鹿島は6,750万、日野市が4,536万、日本技術開発が2,214万ということになるわけですけれども、ところが、この見積もりの１億6,876万で決めたわけで、この差額が3,376万というのが出てくるわけでありますけれども、この金額が鹿島建設にプラスになるわけですね。鹿島建設はプラスになるという理屈になるわけでありまして、日野市が、鹿島建設は8,438万負担することになりましたよと、50％だから１億六千何がしの8,438万負担することになりましたよということで金額がふえたように見えるわけです。１億3,500万でやった場合には6,750万だから差し引き1,688万、鹿島建設に負担増を与えたという形になるんですね、数字的には。

しかし、実際はこれに結局かさ上げしてますから3,376万入金増になるわけでありますから、差し引きで1,688万、鹿島はプラスになる、こういうことになるわけであります。そして日野市は4,536万でいいものを5,666万負担するという形になりましたから、差し引き1,130万が損するわけです。日野市は得するわけじゃない、もう鹿島建設に有利になるような、そういう裁定を市長がやっているわけです。ここでも日野市民に損害を与える形をやっているわけです。これも日野市が負担をしなきゃならないという、それを責任があるという仮定した場合の話としてのことでも、そういうことが指摘をできるわけでありますけれども、実際にはこの5,666万なんていうのは全く負担する必要がなかった。責任を負う金額ではないということが先ほどの不正工事という指摘の中で明確に言えるわけでありまして、この金額を日野市に市長は損害を与えたという形になったわけであります。

それで、これの今度は支払いといいますか、この費用の払うのはどこから金を捻出するんだと、何を根拠にその金の支出行為をするんだ、ということを聞いたら、公社の運用益でやります、というふうなことを答弁しているわけですね、この当時ですね。そこで、その当時もちょっとその件についてやりとりしたんですけれども、つまり書類上の処理の問題が出てくるわけであります。どういうことかといいますと、まず公社の定款では、この運用益の運用については制限されているわけでありますね。定款の24条で、公社は、剰余金の運用というところがあります。余裕金の運用ですね。これは「公社は次の方法によるほか業務上の余裕金を運用してはならない」とはっきり規定しているわけでありますが、国債または地方債の取得、さらには郵便貯金または銀行その他主務大臣の指定する金融機関への預金、こういうことでもう規定されているわけであります。これ以外の目的には余裕金を運用することはできない。ところが、それから運用するということを言っているわけですが、そのことが一つがまず開発公社の定款に違反しているということが一つ言えますし、その次の勘定科目といいますか、これはどういう名目になるんだと、経理処理上の科目はどうなるんだといったら、補償・補てんのあれだということを当時の山崎部長が答弁しているわけであります。

したがって、この定款の24条に当てはまる事務にはなっていないということで、しかも今度は、5,666万支払ったということについての公社の決算書があるわけでありますけれども、抜粋でありますから全部網羅しないということで、あるいは私の指摘が違うというなら、それはそれで資料で示してもらいたいんですが、この支出の中にそれを払ったというふうな数字の動きが、私にはちょっと理解できないんです。この計算上でどこ

でそれを払ったかですね、このお金を。決算書で私にわかるように説明してもらいたい、この決算上ちょっと、私にはちょっと私が見た限りにおいては動きがないということで、そのことがまずひとつ答弁していただきたいということであります。

それから公社の議決といいますか、やり直し工事については３月29日、私が質問したのは３月27日ですが、３月の29日の議案第22号で、持ち回り理事会という形でやり直しの造成追加工事ということで１億3,500万の随意契約の議決をしているわけでありますけれども、この5,666万を支払ったことについての理事会で諮っているという資料がちょっと私にはないので、この辺ところはきちんと対応しているのかどうか、その辺も答弁をいただきたいというふうに思います。

それから、鹿島建設にしてもいろいろ工事の金額を減額などしたりして、社内的にはお金を動かさない形で対応しているんですね。鹿島建設の方は民間の企業のことですからどういう経理の処理をしたかということは、日野市としても立ち入るところじゃないかとは思いますけれども、ただ不正なといいますか、工事、いわゆる払われる根拠のない形の金が入ってきたのをどういうふうに処理したのかというのは非常に興味のあるところでありますけれども、それが知っていたら教えていただきたいということであります。

それから、当時、市長は３者の負担額の割合を決めました。その根拠といいますか、それを教えてもらいたいんです。責任の理由というか、それぞれの割合を決めた理由、根拠というものについて答弁をいただきたいというふうに思います。

先ほどの公社の運用益で云々というようなことについては監査の方ですね、公社の。監査の方でその書類の対応がどのように監査されたのか、もし部長がわからなければ、きょうは担当課も待機しているということでありますので、速やかにその辺のところを聞いて答弁をお願いしたいというふうに思います。つまり定款違反のその処理をしたことについて、監査がどういうふうに認めたのか興味のあるところでありますので、これもぜひ教えていただきたいということであります。

とりあえず、いわゆる不正工事といいますか、いうことについて今の質問でまず答えていただきたいというふうに思います。

○議長（市川資信君）　小山良悟君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　まず私から答える部分をお答えをしておきたいと思います。

昭和59年当時、日野市に都立南平高校を誘致すると、その方法として土地をまず相当な量、相当な面積を開発公社が確保し、高校の誘致運動にいろいろと努力をしたわけで

あります。そして東京都との約束事が成り立って、そうして校地の造成は日野市の開発公社がやってほしい、建物は都が、教育当局が直接建てる、こういう経過でありました。我々の日野市土地開発公社は、公共用地を先行取得をするという任務を持っておるわけでありますが、公社自身に造成をする能力とか、あるいは業者を指導監督する能力というものはもちろん持っているわけではありません。したがって、市の組織の中の職員が技術に関しては何といいましょうか、能力をなるべく、日野市の能力で協力をしたと、こういう経過があります。

今のお話の、その造成中に擁壁の一部が少し膨らんだと、そういう事故が発生したわけでありまして、その修復をどういう方式でするかということが生じたことを思い出しております。

当時、日野市開発公社の理事長は助役赤松君でございましたし、責任と使命を感じて、そうしてあらゆる努力を払って東京都との約束を、つまり造成まで、本来は能力のない造成まで請け負って、しょって、そして完成をさせた。そして結果、東京都に造成地としてお納めをした。ですから、そこにかかりました総経費はもちろん都から総括的には支払いはいただいておると、こういうことになるわけであります。残余の土地が今南平丘陵公園として造成を、公園の造成をされつつある、こういう次第は御承知のとおりだと思います。

そして、その造成中に起きた事故、つまり擁壁の一部分がたしか20センチほど膨らんだということがありましたその理由は、いろいろと私も状況判断をいたしました。つまり全体の造成設計を担当しております日本技術開発、それから造成の仕事を施工を受けた鹿島建設、また監督指導をした、ある程度監督指導にかかわった日野市の組織職員、こういうことになるわけでありまして、その事故の修復をどうするかということで開発公社理事長、非常に苦労したと思っておりますが、ともかく納入をする期限のこともありますので、造成に当たった鹿島建設の負担と責任ということで積算をしたというふうに記憶をいたしております。

そのまた私も日本技術開発あるいは鹿島建設、そして当時その監督に、あるいは現場の指導に当たった市の組織職員、それぞれに一応の責任がある。そして当時、赤松理事長は、事故を発生させたその工事の施工者並びに設計を行った――設計監督も行っておるわけでありますから、その日本技術開発の責任において解決をしようという考えを持っていたことはよく承知しております。

その際、いわゆる発注した設計会社あるいは施工会社が本当に自分の責任として、そ

ちら側で処理をするのが確かに一義的には望ましいことではありますが、そういう業界の常として、とても自分のミスだということを法廷にでも明らかにするということはなかなか困難であると、こういう客観性もあるということを私自身も承知しております。とにかく納期なり当然の早期に修復はしなければなりません関係上、その施工部分は開発公社が負担をするということで、発注をしたのが結果的には１億三千何がしの金額です。ただし、これも全体の積算では１億六千何がしという金額になるところを約3,000万円ほど鹿島の自前の責任という感じで値引きをしたということを当時お話ししたと思っております。

そこで、３者の、３者というのは日野市の何も含めてですが、応分の負担において解決をすることがこの事業の円満な解決になるものだ、また、それをしなければ泥沼のような形に進みかねない、ということを私は開発公社のまた指導責任者として一応の判断をいたしました。その結果が今御指摘のとおりの１億3,000万、つまり値引きをしたというのではもう既に向こうの言い分が出てきますので、もとの積算で、半分は負担をしなさい。まず発注側の公社と、それから鹿島の関係で第一歩の解決をする、つまり折半責任であります。そうして、その市の負担分の中の当然また技術開発の責めに請求すべき部分も当然ありますから、日本技術開発にたしか半分だったでしょうか、その程度しか支払い責任を認めないよ、ということで一応そういう割合の処理をした。当時、三方一両損という言い方もしたように思いますが、そういうことでこの問題の何といいますか、泥沼化しない一応の解決を図ったと、私の気持ちは全くそういう気持ちであります。

そして、今言われるところのつまり開発公社に負担をふやした。これは開発公社の経費はもちろん市民の税に依存する会計経理でありますから、余れば当然市のまた市に戻される、あるいは足りないという場合にはまたこれは公金に依存をして補助をする、調整をすると、こういう形で成り立っておる開発公社の会計だというふうに思っております。

そこで、当時から何か不正疑惑だというふうに、そういう言葉を用いておられるようですけれど、我々の行政の周辺には、全く不正とか疑惑というものは存在しないと、みずから確信を持っておるつもりでおります。そうして、そういう解決で一応事が処理をできておりますし、東京都にそれを納めることによって、土地代金としては保障をされてある。それから校地もその納入が間に合って、そうして、その造成の上に学校建築がなされて、たしか翌年開校することができた。日野市としては大きな高校誘致の目標を達成したと、そういう完結になっておると、そういう結論になっておるということであ

りまして、多少の紆余曲折はございましたが、私は全体の行政の流れとして、正常な結論をたどったと、こういうことでございます。

その運用益とかいうことで定款上のことも言っておられますが、運用益というのは全体の多分余剰金とかということだったと思うんですが、多少の事務経費、事務経費といいますか、事務経費も留保してありますので、そういう手段によって会計上の処理がなされた。担当者も全く完璧な処理であります、と申しておったことをよく記憶しております。

そういう当時の大きな事業に取り組んだ一応の流れでございまして、それ以外の細部の部分につきましては担当からお答えをする部分があろうと思いますが、私の責任に属する全体の流れの処理としては、私は不正とか疑惑とか言われるところは全くないということを私の知る限りにおいて確信をいたしております。以上です。

○議長（市川資信君）　　総務部参与。

○総務部参与（山崎　彰君）　　それでは細かい点２点ございますので、御説明申し上げます。

全体の流れの中にはそういうふうな今市長さんのおっしゃったことでございますが、私どもから、御指摘がございました定款の問題で、これが違反しているのではないかということでございますが、御質問の件でございますが、第24条、確かに、余裕金の運営については、国債とか地方債あるいは郵便貯金、銀行とかというものに預金をしなさいよ、ということでございますが、この場合、その上の23条の適用がございまして「利益及び損失の処理ということで、その２に、公社は毎年度事業の損益計算上の損失を生じた場合には、前項の規定により、準備金を減額して整理する」ということでございます。

それから、その上がやはり準備金、残余の場合の準備金ということで、赤松理事長がお話しになっております内部的な処置としての問題は、決算におきまして資本の部におきまして、準備金でございます。前年度繰越準備金それから補助金、これは市の方から来ます。そして当年度の損失、利益というようなものを出しております。この中での前年度準備金、補助金そしてこの準備金の中に含まれるという解釈でこの処理を行いました。議員さんがおっしゃられるように、余裕金の運用につきましての問題につきましては、これは24条でございますので、それとは違った解釈をとっております。

それからもう一つ、私が60年11月に赴任いたしましての後の、御質問の中で5,666万の日野市の支払いの件でございますが、この件につきましては、三方一両損というような形でございましたので、言われたとおり、たしかここでも補償・補てん的な意味合い

というようなことを申しました。決算にはそれはどこに出ているんだということの御質問でございますが、それは決算書の、補償的なものでございましたんですが、実際には決算におきましては支出の部でございまして、事業費の工事請負費の７億9,918万円の中で処理をさせてもらっております。以上でございます。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　山崎参与の答弁はわかりました。

ただ、決算のこの処理も、いわゆる性格、意味からして補償・補てんという意味になるわけですね。それが、いわゆる造成費としてやったということは、もう早い話が最初から日野市がこのやり直し工事の何というか、責任というか、というものを持つんだという形の何というか、補償というふうな形じゃない取り組みになっているわけですよね。その点はそれなりにまた言い分はあるでしょうから、この辺はいいですけれど、市長の答弁で、まず感じたことは、この問題についての原因究明というのはどこまで真剣にやったのかというのは、もう甚だ疑わしいということがまず第１点であります。

もう盛んに東京都に対して期限が間に合わないというふうなことで、そちらの方の責任と使命感といいますか、都に対しての責任と使命感でとにかく原因追及よりも、とにかく間に合わせなくちゃいけないんだという形の中で、市民の方に顔を向けた部分というのは感じられないわけであります。市民の方には都立高校ができるんだからというふうなことでの対面といいますか、立派なものがあるんだということで、そっちの方にそれなりの何というか、市長なりの主張ができるんでしょうけれども、今のこの問題に関しては、そういう都に対する責任と使命とはまた別の次元の問題だろうということを私は申し上げたいわけであります。

私は、市長が不正をしているということを言っているわけじゃないんですね。市も不正をやっているということを私は言っているわけじゃなくて、きちっとした設計があって、正確な設計があって、そして、その設計に基づいて正確な正しい工事をしておればこういう問題は置きなかったわけであります。ところが、その設計とは違う、施工業者が、設計とは違う工事をやった、しかも、それがいわゆる不正な手段といいますか、金になる山砂をダンプカーで運び出した、下請の松島工業を使って。これは不正以外の何物でもない、業者が不正をしているということを私は言っているんですね。鹿島建設に対して、この5,660――幾らでしたかね、5,666万、日野市が払った分、そして運び出されたその山砂だって日野市の財産ですよ。金になるわけです。財産です。そういうところに、もう返せというのは当然じゃありませんか。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　私がそれ以上詳しいことは余り知っているわけじゃありませんが、あそこのいわゆる発生した土といいましょうか、造成をして出ています、つまり土のまず計算を間違えたといいますか、これはレベル、一定のレベルで盛り土あるいは地ならしをする計算が、私も一つの例として知っていますが、粘土質の土で一たび水分を含むと大変な膨張をする。このあたりにはあそこの稲城砂層という土壌だと聞いていますけれど、非常に特殊な土質と申しましょうか、今だから思い出しますけれど、レベルを計算するのにも１メートルの誤差が出る、つまり何平米ありましょうか、何千平米に対して１メートルというそれだけ土に余剰の土が出たというふうに聞いております。その余剰な土は、これはいわゆる外に搬出すべき土です。余剰な土としては搬出すべき土です。

でも、その際に、今伺ったところでは良質の砂というのが地元に果たしてあったかどうか、その下には御承知のとおり、あそこはかつて山砂を取ったところですから砂があるんですよね。そのことで、とにかく土の計算が違った。あわせて擁壁の裏込めをするのに仕事を急いだということが一つあるかもしれませんけれど、その水分を含んだ土を用いて、そうして、それをブルドーザーでならした。これだけの圧力を加えると計算上、立派な擁壁でも土圧とそれから何といいましょうか、そのブルドーザーのならすその作業圧に耐えられなかった、そのことが擁壁のはらみをつくった、こういうことだというふうに説明を聞き承知をしております。

そして特に市の関係職員はそのことを、その場の土を使うことといいましょうか、あるいはそのためにブルを用いることを、やっぱり認めたというふうなのかどうか、そのあたりは明確ではありませんけれど、そこにやはり若干の責任も我々は内部的に感じなきゃならないところがある。

これを、仮に表に出て、だれそれの負担ということを明らかにするための、あの当時、赤松君は訴訟でもして、とこう言っておりましたけれど、訴訟しても立証できることじゃありませんし、また我々の庁内の職員がそのために余分のといいましょうか、要らない、また苦労するということも、これは見るに耐えません。そういうことで先ほど申し上げておりますような施工業者に２分の１の責任を持たせる、それから設計監督業者にも契約の２分の１を損をさせると、自分の方で遠慮される。そういう結果で、おのずからの割合ができたと、こう思っておりますし、そのことに対しましては両社の経営者も非常に恐縮をしながら、市のお裁きにはまことにざんきにたえません、というふうな立場で

了承をしたと、こういうことでございまして、そういうことを思い出してお答えをしているわけでありまして、その処理は確かに公社の理事長という立場だったら、もっと追及をして明らかにしたいという気持ちは出るかもしれませんが、私は全体のこの問題の処理といたしましては適切な処理であったと、こう思っております。

そのことで一番大きい目的としますところの都立高校も誘致に成功し、また開校にも間に合ったと、こういう経過のことも御承知おきしていただきたいと思っております。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　市長ですね、今後の議論の展開で時間も差し迫っていますから、高校のできたことの、それはもう私も十分よかったと思っているんですよ。だから、そのことは強調しなくていいから、もっと的を絞って私の質問にストレートに答える形で進めていきたいんですよ。

今、市長と、今の議長の発言の許しをいただいてやりとりしてきたんですが、今ここでふと私は思ったことは、市長が、市長の答弁姿勢というか、答弁の内容とか、そういったものを聞いていますと、おかしいなと思ったことが今一つあります。どういうことかというと、普通ですね、例えば施主であるならば、山砂ですね、良質な山砂を不正にもダンプカーで運び出したと、これが工事ミスの原因なんだよと言われたとき、指摘されたときに、普通の施主だったら、何、そんなことがあったのか、とんでもない、すぐ調査する、という形で、そういう姿勢が出てくるのが普通の人間の態度です。ところが、市長は一貫して、ある意味では業者をかばう発言に終始している。この辺は率直に私のインスピレーションですけれど、私独特の勘ですけれども、これは非常に市長の答弁姿勢には大きな疑問をまず抱きます。

それから、擁壁のあれですね、設計で計算を間違ったと、こう言っているんですね。いろんな工事の、土木工事の中でその設計ミスが本当にされるものが普通なんだ、当たり前なんだというんじゃ、とてもじゃないけれども、安心して工事なんかできないし、また設計専門家に対してのそういう報酬を払うこともできないわけですね。設計ミスだというならば、これは日本技術開発の責任を負わせなけりゃならないわけでしょう、市長が言う今のあれであればね。100％日本技術開発が弁償しなけりゃならないんですよ、設計ミスなら。だから、それを日本技術開発にそれを請求しないというのも、これも解せない話です。じゃあ実際は日本技術開発の設計ミスじゃないんですよ。

私は最初から再三指摘しているように、設計できちんと粘着度35％、35度ですか、いうことですね、良質の山砂を使うということで設計で指摘されているのに、その良質の

部分を不正にも鹿島建設の、鹿島建設が下請の松島工業を使って運び出したから、だから、こういう擁壁が傾いたんだということを再三私は指摘しているんですよ。

そのことにもう少し市長も踏み込んで、どう受けとめ、どのように対応するつもりなのか、そういうふうなものを業者に対する責任を求める姿勢というのは欲しいですね。自分の金を弁償したんじゃないから痛くもかゆくもないからそういう態度でいるのかもしれないけれども、自分のお金でもしそういう不当な弁償をさせられたということがわかったら、もう怒りますよ、これは。訴訟問題ですよ。裁判で立証できないと、こう言うんですね。不正があったかどうかということは法廷で争っても立証できないと、こう言いますけれども、相手は一流企業じゃないですか、鹿島建設。公共事業は日野市の事業は全部やっているじゃないですか。是は是、否は否としてきちんと責任を追及しなくちゃならん。実施したやつは当然のことです。最初から法廷で争えない、争っても立証できないなんて言っているのは、何か逃げ腰にならなきゃならない理由があるのかということを指摘したいんです。

例えば、この議会だって百条委員会をつくって、そして参考人を呼んでやるということだってできるわけですよ。徹底的に市長がそういう形であくまで、何となく私の質問を上手にそらしていくという形で終始するならば、私はこの百条委員会の設置を議会に要請して、この真相の解明をしたいというふうに思います。まず、その参考人としては、鹿島建設の代表者、契約の代表者、それから工事現場の責任者、下請の松島工業の代表者それから現場の責任者、こういう人たちを呼んで百条委員会で証言してもらう。砂利を運んだというダンプの運転手も言っているんですね。運んだ人本人が言っているんですから。ですから、そういうのに証言を求めれば事実解明を議会だってできるんですよ。ただし、その真相を解明をしようとしないからできないんであって、市長はこの問題に関しては終始逃げる姿勢なんですよ。公社の金云々とかと言っているけれど、市民の税金、貴重な税金なんですよ、五千何ぼか、5,600万、これは払う理由がなかったんだよ、ということを今私が指摘しているんですよ。それに対して責任ある対処をするのが市長の立場じゃないですか。

それと、さっき話の中で、市長にお伺いしますが、砂を運ぶのを市の現場のというか、市の職員も認めた、ある程度認めた部分の責任もある、と言いましたね。（「そんなことは言いません」と呼ぶ者あり）いや今言いましたよ。速記さん書いてますから、私はちゃんとメモをしてありますよ。（「現場というのは作業現場のことです」と呼ぶ者あり）ですから作業現場のね、その砂を運ぶことを認めた、ある程度認めた責任というこ

となんです。（「そんなことは言いません」と呼ぶ者あり）じゃあ、どういうこと、それはさっきの、きちっとやってください。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　私も余剰の土は、つまり膨張するから、レベル以上の土は外に搬出をする、これは常識でもわかりますが、その搬出をした土がどういう性質の土だったのかということは現場を見たわけでもありませんし、また市の職員も現場に普通には、普通のときには監督に行っているわけでありますから、その場で使える物をよそに出すとか、そういうことはないはずだと、こう思っております。

そして先ほど言いましたとおり、現場で発生した水質、水を含むと非常に膨張する土を使って裏込めをした。これは確かに裏込めは、良質の砂でするのが当然でありますし、そこに工事のミスがあった、こういうふうに見ていますから、それで施工者にも責任をとらせたと、こういうふうに申し上げているわけです。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　市長、微妙に変わってきているし、今またおかしなことを言いましたね。裏込めの砂を良質の砂で埋めるべきものを、良質の砂で埋めなかったからミスが起きたと言いましたね。どういうことですか、それは。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　私も余り技術にそういうことに詳しいわけじゃありませんし、話として聞いているわけでありまして、仕事に急いだということもあったかもしれませんが、要するに雨の後のあれですね、膨張しつつある土といいましょうか、それを本来ならば、ブルドーザーのような形で圧力を加えてならすということでなしに、何かやわらかな方法で裏込め作業がなされていたならば、そういうことは発生しなかったのではなかろうかというふうに思うわけでありまして、つまり裏込めの材料とか、それから施工上のブルを使って点圧をしたというところに無理があったんではなかろうかと、こういうふうな報告を聞いたことを覚えております。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　市長はね、自分で微妙に答弁の内容が――言っているのは同じようなことを言っているようだけれど、本質的に違うことを、変わってきているということを気づいていますか。（発言する者多し）

いいですか、市長ね、最初に言ったその砂ね、路上に出た残土を運び出すのは、そんなものに認めるとかどうだとか、そんな責任問題でも何でもない、当たり前のことです

よ。市の責任に帰する理由にも何でもないわけですから、それらは、じゃあ何でもないということなんですね。先ほどの最初、これは議事録を書いていますから、市長が最初に言ったのは、それを認めたという責任もあるし、というふうなことを言っていますから、これは議事録で後で解明ができますから、市長自身が言ったこと。（「そんなことは……」と呼ぶ者あり）だから、いずれにしてもその砂のあれを搬出した云々ということについてもちょっと変わったきた。

それから、今、設計のそういう工事のやり方でミスがあったみたいなお話を聞いている、ということを今市長が言ったんです。そういうことになると、このもう話は市長は既に知ってたということを、語るに落ちたといいますか、いうことになるんじゃないんですか。そういう現場の、なぜ擁壁のあれになったか云々について、ある程度のことを市長は知っているじゃないですか。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　当時の理事長から聞いて、自分の憶測の部分もあるかもしれませんが、そのような順序で理解をしておると、こういうふうに申し上げておるわけでありまして、私が現場に行って立ち合ったということじゃもちろんありませんから、要するに皆あり得ることとして、あり得ることというのは要するに物理的な膨張というこがその原因だということを申し上げているわけであります。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　市長も随分無責任な答弁というか、当時の赤松助役から要するにそういう報告を聞いた、推測部分もあるかもしれませんが、と言葉をつけ加えているんですね、答弁の中に。何か言って私が何か言い返すと、微妙にぼかす部分の言葉を入れてきているんです。大変なもう市長の答弁上手というか、いうことになりますけれども、仮に市長はそれを報告聞いたという段階で、人ごとみたいに今市長言っているじゃないですか。もし赤松助役がそういうことを言っていたというなら、何だ、それはと市の血税を使って5,660万も弁償しているんだと、即刻この真相を追及、解明しろ、そういうことを言うのが普通でしょう。聞いておりました、と今ここで市長席に座って答弁しているその姿というのは全く解せないですね。どこにその責任があるんですか。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　先ほども申し上げましたが、開発公社の総括、監督責任は私にあるということで赤松助役の報告を聞いたり、また一定の判断をして、そうして私が総括的な指導の、総括的な処理の指導を行ったと、こういうことであります。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　総括的な処理云々の前に、業者に対してきちんと責任をとらせる。その上で市としてのまた総括的な処理するというのが筋だと思うんですね。

　市長ね、もう一度聞きますが、市長、いいですか、聞きますけれども、さっき市長は、工事の裏込めですね、裏込めの埋め方で、その工事の手法ですね、手法を違う方法でやっていたらこういうことはなかったんじゃないか、という答弁をしてました。それは、いつの段階でそれを聞いたんですか、そういうことを。どういうふうに聞いたんですか、もう少し詳しく言ってください、その件について……。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　いや、物理的な圧力によって、つまり膨張をする土と、それから点圧というブルドーザーを使った圧力と、それが部分の膨らみをつくり出したということだと、これは、そういう報告も聞いたように思いますし、また、あり得る、あり得るといえば、そういうことをすれば随分無理がかかるなというふうに感じたと、こういう記憶でお答えをしているつもりです。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　素人の市長がその工事のやり方で、これは無理がかかるななんて思うようなことだったら、これは大変なことですよ。市長、そう思いませんか。専門業者ですよ、鹿島建設は。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　ですから、あそこの土に詳しいという鹿島建設と、それから日本でも水準の高いという日本技術開発が全く幼稚なミスをしたものではないかということをかなり厳しく問い詰めたということであります。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　今の市長の答弁ですね、日本技術開発と鹿島建設、日本でも優秀な、もうどちらも設計の分野、工事の分野で有数な企業であります。そこが何とも初歩的なミスをしたものだということを責任を追及したと今市長が言いました。皆さん、聞いてますね。

　それならば、なぜ日本技術開発、鹿島建設に補償を求めないんですか。何で日野市が責任を負わなきゃならないんですか。初歩的ミスだったら全く話にならないことでしょう。初歩的ミスを日本技術開発、鹿島建設が犯しているんなら、鹿島建設に、日本技術開発に全面的に責任を負わせるのが常識でしょう。なぜ、それを求めないんですか。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　それを求めた結果というふうに御理解いただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　そうすると、市長の立場としては、その責任は日本技術開発と鹿島建設にあるんだと、その責任を求めたけれども、それに応じてくれなかったから市がその補償を払う立場じゃないけれども、しようがないから市が負担したと、こういうことですか。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　先ほども言っておりますとおり、本来、本務でない仕事にまたかかわった市の職員も、技術職員もそのことにかかわっているからということが大切な部分です。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　仕事でのかかわり合いでの責任というのはもちろんあるわけですよね。私が言っているのは擁壁のゆがんだ原因について、ただ言って、そのことについてやっているんですね、今私。その原因が再三言っているように、山砂を、良質な山砂を鹿島建設の下請が運び出したということで起きたということを言っているんですよね。そのことについては市長、どうするつもりですか。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　不適当だったということは後でわかるわけですが、そのことに立ち会ったり指導したりしたのも、やっぱり市の職員もかかわっているという我々の責任もあるわけですから、余りそのことを公にしない形で適切な処理をした、ということで御判断をいただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　市長が今、ただいま重大発言しました。市の公共事業には市の職員は立ち会います、どの現場にも。いいですか、皆さん、よく聞いてください。じゃあ契約をしてきちんとした契約に基づいて工事請負をさせて、いろんな業者にやらせてます。市の職員もかかわり合いをみんな持っています。その責任がある。それはわかりますよ。わかりますが、日野市は業者が不正をやっても、日野市も例えばその業者が何か市財を盗んだ、そういうことがあっても市の方にもその責任があるということで税金からそれを払う、業者に全面的な責任、補償をしない、市長は今こういう発言をしてい

るわけであります。市長、そういう姿勢では困るじゃないですか。今後の公共事業に対しての責任を、この工事請負契約書というのは、これは何のためにあるんですか。（「比較も全く違いますよ」「そんなことあるはずがない」と呼ぶ者あり）

比較が違う、じゃありませんよ。この工事だって鹿島建設がきちんと契約をして、工事請負契約してやっている仕事なんですよ。いいですか。（「具体的に名を挙げなさい」と呼ぶ者あり）日本技術開発が設計し鹿島建設が施工して、そしてあのミスができたわけですね。現実に起きたこのミスです。このミスに対して、これ、やり直しの費用がかかった。市も管理の責任があるからといって33％、実質的にはもっと、いわゆる工事請負契約からいけばもう半額ですね。日野市が負担、責任をしょい込んじゃっているんです。そういうことは、やっぱり許すわけにいきませんよ。そういうことをやらせるわけにいかない。無責任じゃないですか。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　部分部分の不正を許したりということはもちろんありませんし、それから、トータルとしては東京都から最終的に総経費は補てんをしていただいているわけでありますから、これは造成地を納めるということで結論的には処理のできているわけでありますから、それらの中で一定の結論ということでよろしいんじゃないかと、私は思っております。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　市長はますますおかしなことを言うわけで、最終的には都が全部補てんしてくれるからと、こういうことを言っているんです。その経過の間に例えば不正なことがあって支出したその分も東京都が全部しょい込んでくれればもういいんだというふうに言わんばかりの答弁です。（「そんなことじゃない」「曲げてとるんじゃないわよ」と呼ぶ者あり）そういうことを市長はのうのうと言っていらっしゃるんですよ今、議事録ちゃんと出ますからね、これ。

重ねて聞きますが、市長、鹿島建設の下請の松島工業がその山砂を売ったと、それが事実だとしても鹿島建設に対してその補償を請求はしないんですか。

○議長（市川資信君）　市長。

○市長（森田喜美男君）　そんなことは全然私も存じません。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　存じませんじゃなくて、全く不思議でしようがない。それが事実だったらとんでもないことだということで怒るのが普通でしょう、市長。（「聞いたら腹立ちますよ」と呼ぶ者あり）だから、腹が立つなら真相を解明をして、真相解明して責任を求める形での対応すべきじゃないんですか。事実はどうなんだということを真相解明する気持ちはないんですか、市長には。

市長が、もしそういうふうな態度に終始するならば、先ほど申し上げたあそこの擁壁の工事の設計図書それから工事内訳書、工事記録写真、これを提出してもらいたい。議会側で真相追及しますよ。資料を請求していただけますか、提出していただけますか。

○議長（市川資信君）　ただいまの小山良悟君の資料提出要求に対する答弁を求めます。総務部参与。

○総務部参与（山崎　彰君）　写真それから調査をした記録、そうした物についての今持ち合わせておりませんが、書類として残っておる部分については提出できます。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　特に確認したいんですが、工事の記録写真は当然あるはずなんです、なきゃいけないわけですね。それは提出は大丈夫ですね。それを拒まれると真相解明はできませんから、その辺きちんと約束してください。市長がやらないなら、私どもでやります。

○議長（市川資信君）　総務部参与。

○総務部参与（山崎　彰君）　今申し上げましたように手元に持っておりませんので調べまして、恐らく写真はどの工事におきましても必ず一定の期間それをとっておりますので、小さな土木工事におきましてもやっておりますから、日野開発公社か、あるいは建設会社かどちらかにあるはずです。ありますので、それをまた提出できると思います。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　山崎部長もある意味では感情を高ぶらせながら、この資料提出については出せる、ということを言いましたので、この問題については市長の答弁の中にも業者の責任と思われるような種の答弁も随所にあるわけであります。そして私自身が今指摘した、山砂を、良質な山砂を運び出したという問題もあるわけでありますから、そういうことをわかって市がしょい込まなくてもいい貴重な税金ですね、5,666万というものを払ったということについては、苦労して税金を払っている市民の１人として大きな憤りを感じ得ないわけでありますから、この金については、もう即刻返してもらうべき努力するのが我々また市民の代表としての議会人の責任もあろうかと思いますので、市長がこの業者を守るような発言に終始するならば、私どもが徹底してこの資料をもとにして、それから現場の調査もして、科学調査して、どういうふうな土質でどういうふ

うな形、もう一度いろんなボーリングの調査の資料も、日本技術開発のボーリングの調査の資料も提出いただきます。

そういうようなものを突き詰めていけば真相がはっきりするわけでありますし、その真相がはっきりした時点において市長にこれについての責任といいますか、というものをとっていただく。来年の３月は任期でありますから、それでおしまいということであるならば、職務については責任をとらなくったって、もう市民の判断でおりていただくようなことにあるいはなるかもしれませんけれども、（「そうはいかないわよ」と呼ぶ者あり）しかし、市民に与えた損害金についてはあくまで賠償責任というものは求め続けていきたいということで、この擁壁のことについては資料を出していただくということを前提にして、この擁壁の問題はこれで終わります。

さて次に、次は都立高校の用地の買収の問題でも、私もこれもまた私が緊急質問していろいろ取りざたされたわけでありますが、今回の私自身がいろいろ工事関係とか、そういったようなところを回って歩く中で、不動産業者でありますけれども、これは私は確定しているわけじゃありません。しかし、そういう話を聞いた以上は真相を知りたい、こう思うのは議員として当然でありますので、実は、この新日本エンタープライズが用地を買収、鈴木独歩が買収したわけでありますけれども、その資金を市が立てかえたと、こういうことを公言してはばからない不動産業者がいるわけです。名前もわかっております。そういうことを聞きますと、事実はどうかはわかりませんが、きちんとやっぱりこの件についても私なりにただしておきたい、これも聞き捨てならぬ問題だなというふうに思うわけであります。

この用地の問題については（「ちゃんと資料を用意しておきなさい」と呼ぶ者あり）都立高校ができたとかということについては先ほども言うように、これはお手柄です。これは言っておきますから、そのことはまたあえて何回も答弁の中で出なくても私は十分にそれは認識しておりますから、そのことはぜひ答弁の中では割愛していただきたいというふうに思うわけですが、この用地の買収について日野市土地開発公社の理事会の議事録がありますけれども、その中で、理事の皆さん、いろいろ懸念するような発言もあるわけでありますけれども、例えば57年の３月５日の議事録でありますけれども、当時の倉又教育長が「都立高校を誘致するとのことだが、全部かかるのか。――全部買うのかということですね、――かかるのか」「１万坪が高校用地で残りは市が保有する、道路、排水などの問題がある」というふうに赤松理事長が答えているわけですね。結城部長が「都市計画上、市街化調整区域の網がかかっており、さらに国の緑のマスタープ

ランで総合公園の網をかぶっているので市が変更を出さないと何もできないのではないのか」という都市計画部長がこういうふうに言っているんですね。で赤松理事長は、「国の緑のマスタープラン、裁判の問題、進入路あるいは造成、資金、排水などの問題について話し合ったが……」そういう問題はやっぱり赤松助役も感じておったようです、この用地を買うについては。そういうことが非常に懸念される問題があるということで市長にも話し合ったけれども、市長はその買う気持ちは変わらないということで、市長が強くこれを主張したようであります。「市が取得するのに高校用地ではよくないのではないか」と生野部長が言っているんですが、理事長は「市は高校用地として買収する」というふうなことでそのやりとりが書いてあります。

それから、３月31日の議事録ではこういうことを書いているんですね。理事長が、赤松理事長が、この都立高校の用地買収の議案について言っているんですが、57年です、３月18日「鈴木、来住野、新日本エンタープライズの国井、草野氏があいさつに来庁し、３月20日――２日後ですね――またエンタープライズの国井、草野それから成和土地の森、富士銀行江戸川支店の北山氏が来庁して今後のことについて常務理事、用地課長と協議し、市として前に提案した単価山林２万5,500円――平米当たりですね――道路地12万3,000円で実測により買収し登記料を支払うことといい、それでよろしいとのことで、ただいま実測中です。４月に入り、新理事長のもとで契約になると思う」こういうふうに赤松理事長は言っているんですね。そして、その中で結城部長が「エンタープライズの国井という人をどういう人か御存じと思うが、私どもがかき回され、この人が入っているのでは危険性がある」こういうふうに結城部長が言っているんですね。エンタープライズのことをですね。理事長は「その辺は慎重に対処したい」というふうな答弁しているわけでありますけれども、ここで、わずか３月18日に独歩氏から仲買をしていた木住野さんとか、そして新日本エンタープライズ、３者がそろってきた。そして２日後３月20日に、２日後の３月20日に、またエンタープライズと成和土地と富士銀行が来た。で、この３月20日で、23日に、いいですか、市がこの条件で独歩から買いますよ、買ってくれますね、それでいいですよ、とやりとりしたっていうふうな意味合いになっているわけですが、そういう話を決めておいて、どういうわけだか23日ですよ、わずか３日後に鈴木独歩からエンタープライズに名義がかわっちゃった。わずか３日後ですよ。独歩氏とかエンタープライズが市に協議した、これは何の協議をしたのかな、という疑わしき部分もありますけれども、一応市が買うというふうなことでの協議に来たというふうに理解するとしても、これで買ってくれますねと市にわざわざ来て、そしてその二、

三日後に市に売るんじゃなくてエンタープライズに売っちゃっている。こういう事実があるわけであります。

この二、三日前に市の買収の意思を確認して、もういきなり新日本エンタープライズに転売したこの意味といいますか、３月、それを知る上で３月18日と３月20日に来庁した人物、これの立場ですね、どういう立場で来たのか、この説明をいただきたいというふうに思います。新日本エンタープライズはどういう立場でそのときには日野市に来てたのか、それから富士銀行の江戸川支店というのはどういう立場で日野市に来てたのか、それから成和土地というのはどういう立場で来てたのか。木住野氏はわかります。そういうことでこの新日本エンタープライズの社長と富士銀行、成和土地、どういう立場でこの日付で日野市に来てたのか、それを教えていただきたい。

それから、その金の立てかえた云々というううわさですね、についてを知る上でお聞きしたいんですが、買収をしたのが４月の15日ですね、57年の４月15日に、わずか23日後にまた市が買った、４億何がし、約５億近くの金を上乗せして市が買ったわけですけれど、その払い込んだ時期と、それから支払った時期、お金をエンタープライズに払った、それを教えてください。

それから、当時を知る理事の皆さんが少なくなっていますのであれなんですが、きょう、あす、赤松理事長がこれは57年４月13日、買収する２日前です。２日前に、普通は登記なんかも何か専門家に聞くと２日ぐらいかかるという話ですね。15日に登記、所有権が移転しているというから、もうそのときにやっちゃってたんじゃないかなというふうに推察されるんですが、「二、三日じゅうに、きょうあすじゅうに実測の検収が済み、契約そして債務の抹消、登記、支払いとなる、契約は乙、株式会社新日本エンタープライズ、丙、東京エステート株式会社の３者で行い、丙の東京エステート株式会社は第一相互銀行の不動産部の子会社です。――皆さんも御存じの、名だたる地上げ屋の最上恒産に多額の不正、それこそ不当な融資といいますか、によって世間を騒がせた最上恒産の第一相互銀行です、かかわりのある、そこの子会社の東京エステートですね。――そこの第一相互銀行の不動産部門の子会社で債権を支払うため銀行より借り入れし、債務抹消の手続を行い、代金は東京エステート株式会社に支払うとのです」と書いてあるけれども、ちょっと何かおかしいですけれども、そのときに伊藤部長が「議案は地積、そして金額が決定したら差しかえるのか」こういう質問をしているんですね。理事長は、「差しかえます」と言っているんですが、当時を知るこのメンバーを見てみますと、当時を知っている人はあれなんで、収入役ね、これのあれに出席しておりますので、収入

役にちょっとお伺いしたいんですが、この議案を差しかえるというのはどういう意味なのか、それをちょっと教えてもらいたいんです。お願いします。

○議長（市川資信君）　　今、３点ばかり質疑がされているわけですね、収入役を含めて。１点目から、総務部参与。

○総務部参与（山崎　彰君）　　それでは、今すぐお答えできるのと、それからちょっと時間を今置いて、控えております、これはあれいたしますが……。

まず３点でございますが、なぜ富士銀行あるいはエンタープライズ、成和土地ですか、というような代表者が来られたかということでございますが、何せ57年の件でございますので、ちょっとこれは時間をもらいます。

それから、支払いの期日でございますが、今私ども、これも調べます。すぐにあれできると思うんですが、57年の４月の15日、今御指摘のありましたように、確かに契約書は結ばれております。おりますが、支払いは、いつしたかということについては、ちょっとお待ちください。

それから３点目の方ですが、エステートの件でございますが、この契約書につきましては３者でございまして、日野の土地開発公社それと新日本エンタープライズ及び東京エステート株式会社というような３者で甲乙丙で結ばれておりました、土地売買契約書です。

それで、じゃあここで東京エステート株式会社なるものはどういう役割をということ（「いや、いいです、東京エステートじゃないですよ、いいです、東京エステートの方は」と呼ぶ者あり）――そうですか。

２点目の支払いでございますが、57年４月の23日に支払いをいたしております。（「４月23日、わかりました」と呼ぶ者あり）

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　ちょっと続けて答弁してください、済みません。

○議長（市川資信君）　　収入役。

○収入役（加藤一郎君）　　大変古い問題でございまして、その理事会の中で伊藤部長が発言されたということなんですけれど、ちょっと私もその記憶がございませんので……。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　これは、じゃあちょっと前田部長、当時――これは答弁の予定をしてなかったんですが、前田部長もこのときに出席されているんですが、特に前田部長あたりは非常に記憶力のいい方ですし有能な脳裏ですから、もうこの意味はもう承知

していると思うんですが、それをちょっと教えていただけないでしょうか。

○議長（市川資信君）　都市整備部長。

○都市整備部長（前田雅夫君）　――（「これは失礼しました、前田部長は出てなかった。長沢教育長、長沢教育長、議長、済みませんでした」と呼ぶ者あり）（笑声）

○議長（市川資信君）　教育長。（「少し失礼しました、教育長、済みません」と呼ぶ者あり）

○教育長（長沢三郎君）　今やりとりされているような内容の問題については私、理事として当時出席しておりましたけれど、全く本当に記憶がございませんで、私が心配していたのは、都立高校の問題について東京都の教育委員会の方が極めてシビアに新しいその高等学校をふやしていくと（「いや、そういう話はもういいんですよ、そういう話は、教育長」と呼ぶ者あり）そのことだけ心配しておられて、あとのことは……（「わかりました」と呼ぶ者あり）

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　さっきくぎを刺しておいたように、そのことの意義はもうよくわかっているんですよ。

それじゃあ山崎参与に、この57年４月13日の伊藤部長が言っている議案は、いわゆる差しかえるかということについて、地積とか金額が決定したら、これはどういうことを意味するのか調べて後で教えてください。

さて、そこでお金の支払いが４月23日という答弁をいただきました。16億8,000万ですか、の多額の金額でありますが、そのお金は、そのお金はどこから出したんですか。

○議長（市川資信君）　総務部参与。

○総務部参与（山崎　彰君）　御承知のように公社はすぐにお金といっても持っておりませんので、これは銀行から一借りをいたしまして、そしてお支払いしておるというような状況でございます。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　銀行から借りてやったということですね。

じゃあお伺いしますが、これは私の方が間違っているというならはっきりしてもらいたいんですが、４月23日に銀行から借りて払ったと、こういう答弁をいただきました。私の手元にある資料では、借り入れしたのは８月１日ですね、57年８月１日から３年間ということで利息は7.６％のと期間が、何ですか、これは３年でしょうか、それから５年のが7.７％ということで、８月１日に借りているんですよ。（「どこから手に入れた

資料なの」と呼ぶ者あり）これは日野市の職員からいただいた資料です。（「だれから名前言いなさい」と呼ぶ者あり）その辺ところを……。（「一定の人しかもらえないんじゃなかった」と呼ぶ者あり）

○議長（市川資信君）　総務部参与。

○総務部参与（山崎　彰君）　今の８月18日と、13日ですか、ということはちょっと私の方は今書類お持ちしておりませんが、私が申し上げました57年４月23日の件でございますが、これは日野開発公社で執行済みという丸印が押してありまして、16億8,458万115円ということが、これが執行されております。ここにあります。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　それじゃあ、この借り入れした、借り入れ、銀行から借りた借り入れの詳細があるわけでしょ。それを後で結構ですから見せてください。（「はい」と呼ぶ者あり）そうすれば、このいただいた資料が間違っているのかどうかというのがはっきりしますので、これはじゃあ宿題にしておきますから、きょう全部詰めるつもりありません。いろいろ課題がありますから、資料の提出問題も第１問でやっておきましたから、それも出してほしいし、それから今言った都立高校用地買収で、いわゆく金のうわさといいますか、市が立てかえたなんていうようなことのあれを聞いたものだから、じゃあその支払いのときのあれはどうしたのだろうかという金の流れを聞きたいから聞いたんですよ。別に非難中傷するつもりはないし、真実を知りたいから聞いているんで、この件についてその証拠となるものを見せていただければ結構ですから、これは見せていただけますね。後日で結構です。どうでしょうか。

○議長（市川資信君）　総務部参与。

○総務部参与（山崎　彰君）　はい、わかりました。調べまして、ありますのでお届けします。お見せいたします。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　この件についてはかなり力強くというか、出します、ということを言っているのでかなり自信がおありのようだとは思いますが、一応念のため確認をさせていただきたいというふうに思います。

それでは、この件についてはこれで終わりまして……。

○議長（市川資信君）　お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後８時30分　休憩

午後９時00分　再開

○議長（市川資信君）　　休憩前に引き続き会議を開きます。

小山良悟君の緊急質問を続けます。

〔14番議員　登壇〕

○14番（小山良悟君）　　お疲れのところ申しわけありません。できるだけ簡略に質問いたします。

エセ同和の問題でありますけれども、ことしの11月30日読売夕刊に、読売とか全国紙にも翌日も出ておりますが、同和会の総合開発事業協同組合連合会ですね、公共工事を食い物にしているという記事が出ておりました。その代表が逮捕されたということでありますが、この指名業者が61年度、日野市でも指名をされているわけでありますが、その際に、日野市の業者も実は脅迫されたということでありまして、市長と特別の関係だと。指名を譲らなければ指名停止しちゃうということで実際に脅迫されたということを伺いました。

そこで、この件については簡単にお伺いしますが、指名のなぜそういう業者を指名したかということと、それから市長と特別の関係というふうにして同和はおどかしたわけでありますが、どういうことを指しているのかをお伺いしたいというふうに思います。

それから特養老人ホームの件についてでありますけれども、（「それはまた問題が違う」と呼ぶ者あり）続けてやります――じゃあその答弁だけください、今の質問について……。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君の質問についての答弁を求めます。市長。

○市長（森田喜美男君）　　全く存じません。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　指名をした理由といいますか、それを答えてください。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　何のことやらその質問の趣旨がよくわかりませんが、存じません。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　市内の建設業者がこの同和におどかされたんです。どこの業者というと、またいろいろ以後のことにも差し障りもあるかと思いますが、それは別の場

で明らかにするといたしますが、そういう事実があるんです。同和の和地光行というんですか――なる人物が脅迫をした。その脅迫にひるまないで、この同和には落とさせちゃいけないというようなことで頑張ったらしいんですが、そういう事実があったんです。

市長が知らないというならそれは知らないで結構です。また、それは和地というのが市長の名をかたって特別の関係があるということでおどかしたのかもしれないから市長がわからないというのかもしれませんが、そういう形でおどかされたというふうに聞きましたから、市長とはどういう関係なんだろうということを聞きたくなるわけで、それは知らないというならそれで結構ですけれども、――そうですか、わかりました。

この問題については深くこれ以上いたしません。そうそう事実があったということだけを指摘しておきたいということで、この質問を終わります。

そして次の質問に入ります。高幡の特別養護老人ホームの入札でありますけれど、今回このことがきっかけで私はいろいろ回って歩いて今度の質問に及んだわけでありますが、これは不正とか疑惑とかというんじゃなくて、そういう入札のあり方といいますか、落札のあれが、それが２回不調に終わって３回目落札した、そしていわゆる随意契約もできない隔たりがあったという中で、外構工事とエレベーター工事をつけ加えただけで落札にこぎつけた、しかも落札の業者が全然日野市に実績もない業者で、橋梁関係では実績があるところですが、建築物といいますか、そういう箱物関係では実績のない業者でありますが、そこに落札されたわけでありますが、そのことが、それじゃあエレベーターの工事は物すごいべらぼうな利益じゃないかというような私質問をしたんですが、そういう単純な疑問がありまして、どうも最近のそういう入札の何というか、問題についてもう少し建設委員としても知っておく必要があるなということで、いろいろ回って歩いたわけであります。

まず、この入札で私が入手した資料によりますと、３回目で入札したこのオリエンタルコンクリートというのは都ランクではＡの209ということですね。いわゆる民間では５億ぐらいの実績があるらしいんですけれども、都の実績はゼロという、自治体の実績ゼロということでありまして、民間のやつは実際、実績としては半分にしか見ないというふうなことでありますから、今度の６億の工事をやる業者としての資格といいますか、というものが足りないんではないか、おかしいんではないかというふうにちょっと疑問に思いますので、その点についてが１点、質問の１点です。

それから仕様の変更をですね、全然してないのかどうか、改めてお伺いしたいというふうに思います。それが２点目であります。

とりあえずその２点について御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君の質問についての答弁を求めます。総務部長。

○総務部長（坂本金雄君）　　総務部長がお答えいたします。

第３回目の入札によって落札いたしました業者の実績についてでございますけれども、一般の土木工事で市道24号立体交差、これは栃木県の小山市の発注でございますけれども、立体交差の工事をやっております。そのほかに建築工事といたしまして栃木県の真岡市で校舎の新築工事を受け持っております、さらに民間では健康サウナの建物を受け持っております。

御質問の中にもございましたように、橋梁、橋脚、橋台、これが専門の業者でございますけれども、このような実績もございますし、さらに日野市には61年３月、指名参加願が出されております。そういう関係もございまして、当市の工事の請負契約に関する基準に照らしまして適正な業者である、そういうことで指名をいたしてございます。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　御答弁申し上げます。

１回目、２回目それと３回目の、１回目、２回目は同じ仕様でございます。３回目は仕様が変わっております。と申しますのは、エレベーターと外構工事を入れておりますので、仕様書は当然変わってまいります。以上です。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　エレベーターもどのようなエレベーターをつけるんですかと現場で聞いたわけでありますが、ストレッチャー型のエレベーターというんですか、寝台というかベッドのまま運べるエレベーターと、それから給食用のエレベーターというふうなこととか、それから洗濯用の小型リフト、この三つでどのぐらいになるんだか、こういうふうなものは価格を明らかにできないということを再三言っているんで、質問しても無理かなと思うんですが、大体、いわゆるストレッチャー型のエレベーターは2,000万ぐらいじゃないかと、こう言っているんですね。全部で4,000万、３基で4,000万ぐらいでできるんじゃないだろうかというふうなことを言っているんですが、仕様の変更、仕様の変更というのは設計変更というか、部長は前の臨時議会で私の答弁したあれは設計変更という主張しましたね。私が言っているのは、例えば外壁なら外壁で、外壁は当初どういう仕様だったんですか。それからサッシの基準といいますか、積算の基準、そういったものを、それから警備員の変更とか、そういうものはありませんか。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　設計変更という問題でございます。私の言い方も少々悪かったのかもしれませんけれども、プラン、プランの変更はしてないということです。ですけれども、先ほど言いましたように、１回目、２回目はエレベーターと外構工事は入ってない、３回目はエレベーターと外構工事が入っておりますので仕様書が当然変わってまいりますので、内部的に、市役所の内部の職員同士では設計変更ということになるわけです。受け取った人は、これはわからないと思います、設計変更したと、しなかったということはわからないと思います。以上です。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　外壁のタイル、外壁のタイルの仕様、それを例えばタイル張り、外壁ね、これをタイル張りから例えば吹きつけにするとか、そういうふうな変更はございませんか。それを聞いているんです。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　普通のタイルから吹きつけタイルに変更いたしました。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　そうしますと話はまた違ってくるわけなんです、部長。盛んに聞いたんです。変わった部分は何かといったら、エレベーター工事と外構工事、それを入れただけだと、それで金額は増額したと、こういうふうに言ってたんですよね。設計変更はありません、いわゆるその他の変更はない、こういうことだったんです。今具体的に外壁の変更はありませんかといったら、タイル張りから吹きつけタイルに変更した、こういう答弁ですね、そうすりゃあ仕様の変更があったということになるんです。１回目、２回目と違うわけですね。それからサッシなんかも見積もりの率も変わったんじゃないんですか、どうですか。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　最初から私どもが説明しましたときから、設計変更をいたしましたということは申し上げたわけです。それを設計変更じゃないんじゃはないか、おかしいじゃないかということを盛んに言われたんですけれども、私は設計変更ではないということで、それと同じタイルでございますので、その点ちょっと食い違いがあったことをおわび申し上げます。（「サッシはどうなんです」と呼ぶ者あり）

サッシにつきましては都が指定する単価等がございますように、サッシにつきましてもほかのサッシに入れかえたという事実がございます。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　これは私が具体的なこの資料を入手して質問するから、こういう答えが初めて本会議場で出てくるわけで、今までの説明では、そういう仕様の変更はない、外構工事とエレベーターのいわゆる本来分離発注するものを一括でやっただけだという、そういう今までの説明だったんですね。私もそういうふうに受けとめておったわけです。だから単純にエレベーター工事と外構工事、そんなにうまみのある、もうけがよっぽど強くなきゃ過去２回の入札で、いわゆる５％以上も差があって落札できないでいたわけですから、それをつけ加えただけで落札にこぎつけるなんていうんじゃ、よっぽどエレベーターのあれが工事がうまみがあるのかなということで、そういう疑問から現場に行ってエレベーターはどういうふうのを使うんですかと、いろいろ聞いたわけなんですよ。

それで今具体的に外壁のタイル張りから吹きつけに変更した、サッシもほかのに変えた、つまり見積もりが変わっちゃっている、金額が変わっているわけですよ。タイルの外壁のあれが1,500万、それからサッシの見積もりのあれが2,000万、変わっているわけですね。それから警備員が500万ですか、ということで合わせて約4,000万ほど浮く形にされているわけであります。

このことが私どもに言っていることと違う。もっと最初から明らかに、金額を具体的に示せということは無理だというのは、それはもうわかりましたけれど、こういう仕様の変更があったりとか、こういうふうな２回落札が不調に終わったから、こういうふうな財政で積算単価の見直しをしましたかというと、してないという積算単価のそういう質問したとき、してないということを答えているんです、部長が。ところが、実際はこうやって聞き出せばこうふうに答えが出てくる。そういうやり方が一つは不明朗だということを申し上げたいわけであります。（「そのとおりだ」と呼ぶ者あり）

それからもう一つは、分切りというやつがあるそうですね、業界では、分切り。積算単価出させて、そして予定価格を決めるときに、市長が端数整理、本来は端数整理だそうなんですけれども、その端数整理の分切りというのがあるそうなんですが、それがどこの自治体でもある程度はあるわけですが、しかし、最近は国の指導なんかでも分切りをなるべくしないようにというふうなことで指導を受けているようですけれども、この各市の状況を調べてもらったんですね、分切りの状況。

そうしましたら隣の八王子はもう分切りは全くの端数ということで、してないに等しい。それから革新市政の町田市も同じなんですね。東村山もゼロとかというふうになっているようでして、１％、0.5から１％に、せいぜい２％というふうなところが多いわけですが、日野市だけは一番高くて3.5％ぐらいだと、分切りが。

で緊急性といいますか、今私はこのことを取り上げたのは、今実際に物価も、物価というか、今、公共事業で不調に終わることが多く、その理由は何だろうということでいろいろ聞いて歩いたわけですけれども、結局今工事がたくさん出まして、何ですか型枠工といいますか、特に型枠工というやつの材料から職人含めての対応が非常に高くなって厳しい状況にあって職人が引っ張りだこだと、受けた元請の方はその下請に職人確保させるのにもう本当に苦労しているんだそうです。一つの工事を受けを持つ、自治体の、民間でもうけて自治体で損をしているというふうなことでありまして、日野市の工事でも、児童館の工事なんかでも赤字が出ておりますし、それから、これは今やっている工事なんかもほとんどもう赤字の状況で、できれば工事をもう受けたくない、返上したい、そういう厳しい状況にあるということであります。そういう厳しい状況の中で実際のそういう職人さんに払う労賃も上がり、材料も上がっているという形の中で、自治体の積算の根拠が見直しされないというか、いう中でギャップが出てきちゃって15％ぐらいのもう実勢のあれとは差が出てきちゃった。

そこを自治体の仕事を受けないと、またそれなりに後々の差し障りもあるということで泣く泣く赤字を覚悟で実際の工事を受けているというのが現実のようです。しかし、これは日野市だけじゃないということですね。どこでもそういう問題が出ているわけです。

ただ、ほかの市と違うのはどこかというと、その分切りの問題なんですね。そういうふうにもう厳しく、もう赤字でやっている業者に対して追い討ちをかけるような高い分切りでやるということは、これはもういわゆる私は業者泣かせといっちゃあれですけれど、業者の立場で肩を持つわけじゃないんですけれど、市民の立場からすれば無理なそういう値引きといいますか、いうふうな分切りを、高い分切りをやって価格を抑えつけるというふうな形ですと、良質ないわゆる公共施設の建築をしてくれるのかどうかというやっぱり懸念があるわけですよね。業者にはもうけろとも言わないかわりに、やっぱり適正な価格で良質な公共施設をつくってほしいということは、これは望むわけであります。そういったことすらも懸念されるような今もう情勢にある、そういうことを市長は一体どの程度認識しているのか、非常に私はこの公共事業については危機感を感ずるわけであります。

ですから、今度のオリエンタルコンクリートのあれについては分切りをしているのか、してないのか、その辺のところをひとつちょっと答えていただけませんか。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　落札が順調にできて、いい仕事をしていただくということで心がけているつもりでございます。

また御質問のことについてはよく記憶しておりません。（「分切りのことについて記憶してないということですか」と呼ぶ者あり）

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　分切りのことについて記憶してないという答弁ですか、市長。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　どういう意味でお聞きになっているか存じませんが、前段で答えた、なるべくいい仕事をしていただくように心がけたいと、こういうふうな気持ちでおります。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　いや、その気持ちはわかりますけれども、オリエンタルコンクリートのこの工事、高幡特老のあれは最近のことじゃないですか。記憶してないとかなんとかということじゃなく、もう鮮明に鮮やかだと思うんですよ。分切りしているんですか、してないんですか。

○議長（市川資信君）　　市長。

○市長（森田喜美男君）　　ほとんど発注する仕事は落札をしておりますし、なるべく執行するためには落札してもらわないといけない、これらのことも伴っておりますので、十分配慮した方法をとっておるつもりでございます。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　どうやら答えたくないようであります。

答えないというのも一つの答弁で、またそれで推し図ることができるわけでありまして、つまり高い分切りをどの工事でも分切りをしている日野市でありますけれども、このオリエンタルコンクリートの今回の工事については分切りをしてないというふうなことであります。それに対して市長は明確な、答えたくないというか、そういうふうな感じでありますから、これ以上聞きませんけれども、しかし、これはまじめにいろいろな日野市の工事を受けているほかの業者にとっては怒りすら覚える不公平な対応といいますか、と言わざるを得ないんです、というふうに思うんですね。たまたま市が困ったからこれだけ分切りしないでというような形でいる。しかも仕様変更をやって金額を浮かせて幅を持たせて、それで何とか落札にこぎつけるというふうなやり方、これフェアじゃ

ないと思うんですね。まじめに市の仕事を赤字でもしょい込んでやっているほかの業者が聞いたら怒り出しますよ。不公平だと思うんです、そういうやり方は。それが不明朗だということで今回私は取り上げたわけなんです。

ぜひ私はこういうふうな、特にこういう工事の関係というのは、もうできるだけ明朗にといいますか、フェアな形で対応すべきだというふうに思うわけなんです。先ほどの答弁で私どもに明らかにしてなかった金額を浮かすテクニックもやっておった、それから分切りもしなかったということであります。こういうふうなやり方は今後厳に慎んでもらいたい。そして公平にやってもらいたいというふうに思うんですね。

それからもう一つ、公平にやってもらいたいということで債務負担行為の補正が今回出ておりますけれども、これは最近のこういう建築ブームといいますか、を反映して消費税の値上がりとか労賃のアップとかということで見直しをせざるを得ないというところで、今回、高齢者センターの新築とか文化財センターの新築、こういったものについてのいわゆる補正ですね、増額の補正をしているわけですが、これはその見直しということで積算単価の基準を上げて見直しするために補正するんだというふうな職員の説明でありますけれども、これは年度途中で値上げというか、見直しするということになりますと、既に既契約というか、既に契約してた赤字をしょい込んで泣く泣くやっている業者に対して、これまた不公平感といいますか、というものが出てくる。

少なくとも同じ年度は同じようなやっぱり形で、例えば既に契約したところに対しても何かの対応をするとか、そういうふうなとにかく気持ちよく日野市の公共事業をしてもらうためにも公平にやるべきじゃないかということを思うわけですね。そういったことについての取り組みはどうでしょうか。難しい問題ですか、見直しをするふうな年度に全部請けた既契約のあれは予算でやっていく……。

○議長（市川資信君）　　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　　今回、補正をお願いしている高架下の問題につきましては当然占用するということで、全く国有地を購入したときと同じような条件がつくわけでございます。よって、これを63年度末までに完成させるということが一つの申請した内容でございます。よって、この２点については、ぜひそういった内容を加味しながらここに債務負担行為の補正をお願いした、というふうに私の方はそういう状況でこれだけをお願いした経過でございます。

○議長（市川資信君）　　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　　ちょっと確認しますが、この増額の理由は、年度内に完成する

ためにこういう対応をしたということですが、この積算の単価を上げて見直しして増額という形の対応じゃないんですか、違うんですか。

○議長（市川資信君）　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　63年度、64年度にまたがっての工事でございます。よって占用は64年末までにこれを建築するというものでございます。よって63から64年の工事がまたがりますが、今質問の中の要旨のように、当然そういった中身を精査しての増額の補正をお願いしたという意味でございます。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　部長の答弁、私なんかわかったような、何かわからないような感じで、中身を精査した上での増額だ、つまり今の諸般の情勢に対応するために、積算の基準ですね、基準をアップした、単価アップしたということでとらえていいんですか。

○議長（市川資信君）　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　全くそのとおりです。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　だから最初からそういうふうにもう少しわかりやすく、どうも回りくどい答弁が多いんですよ。単刀直入にわかりやすく答弁してください。そうすりゃあもう本当に話が早く進むわけですから……。

そうしますと、今もってこの同じ63年度で既に契約している、工事を請け負って工事をしているそういう業者に対してのあれは、不公平といいますか、みんな赤字で苦しんでいるわけですよ。だから、そういうふうなものに対しての対応はどうなんですか。できないんですか、考えないんですか、そのことをちょっと聞いているんです。

○議長（市川資信君）　企画財政部長。

○企画財政部長（長谷川暢男君）　その御質問がありましたのでこういう占用の状況をこうこうこうだというふうに、私はちょっと回りくどかったかと思いますが、そういう説明をしたということで、今現行では現在の入札した部分については、現在そういう考えは、今の時点では財政レベルの中では考えておりません。

○議長（市川資信君）　小山良悟君。

○14番（小山良悟君）　これ以上繰り返してもしようがありませんが、少なくとも今この問題を取り上げましたことについて、特別養護老人ホームの落札、やはりからくりがあったといいますか、ということはここでこの質問のやりとりで浮かび出たわけでありますけれども、こういうからくりじゃなくて、正々堂々と我々の納得できる明朗な入札

を行っていただきたいということを強く主張しておきたいというふうに思います。

あともう一つのあれがありますが、大体今の質問の中で、大体私の主張すべきことを言ってありますので、詳しくいろいろ現状についてもやりたいところですけれども、時間もかなりたっておりますので、以上をもちましてこの質問を終わらせていただきます。長い間どうもありがとうございました。（拍手）

○議長（市川資信君）　これをもって緊急質問を終わります。

これより議案第96号、日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定の件を議題といたします。

総務委員長の審査報告を求めます。

〔総務委員長　登壇〕

○総務委員長（夏井明男君）　それでは、本委員会に付託されました議案第96号、日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について御報告申し上げます。

本議案につきましては、対象事業の歴史的な変化に応じまして4市――八王子、稲城、町田、日野で一部組合をつくりまして対象していく、それに連動しましてこの条例の一部改正をするという趣旨の説明のもとで、質疑に入りまして、新旧対照表の文中に横線と番号で省略したような箇所があるけれども、説明としては、文字で表現していく必要があるのではないかという御質疑がありました。改正した部分のみを従来どおり記載しました。今後検討してまいりたい。すなわち下水、国保、土地区画、水道、農業共済というふうな文字形態の意味であります。

意見に移りまして特に意見はなく、採決の結果、全会一致原案可決と決しました。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は、原案可決であります。本件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありません。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第96号、日野市特別会計条例の一部を改正する条例の制定の件は、原案のとおり可決されました。

これより議案第97号、日野市職員の分限に関する条例の制定、議案第98号、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定の件を一括議題といたした

いと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

総務委員長の審査報告を求めます。

〔総務委員長　登壇〕

○総務委員長（夏井明男君）　それでは、議案97号、98号についての総務委員会の報告を申し上げます。

まず議案の文中の中で「生死不明又は所在不明」とあるけれども、その意味はどういうことかという御質疑がございました。東京都の条例に倣って定めたということであります。生死不明は、生きているか死んでいるかわからない状態です。所在不明は、例えば本人の記憶喪失によってわからなくなってしまった場合などがあります。言葉の厳密を期した次第です、という御答弁であります。

さらに、保健婦の場合に資格取得に３カ年かかるけれども、この間、休職とできるのかどうかという御質疑であります。最大３カ年間休職できることになっている、ということであります。

さらに日野市では失職の例外に過去該当するような事例があったかという質疑に対しましては、通勤途中にはありませんでした、という御答弁であります。

さらに資格取得後に市立病院に勤務する条件をつけられないか、付せられないかということであります。答弁といたしましては、職員である者が、資格取得後なお勤務する条件をつけることは、憲法、公務員法に照らして無理であろうと考える。職員になる前に奨励金等を出し、資格取得させたその後で、その資格を生かした職員となり勤務させる条件をつけ、もし職員とならず勤務しない場合は奨励金等返還させる、こういうことはできます。この場合、給料で支給され奨励金とは違うということであります。給料で支払った場合には返還させることはできないというお話であります。

さらに他市の場合、100分の70の給料の支給になっているかどうかという御質疑であります。答弁としましては、東京都さらに町田、稲城市などの公的病院を設置しているところではこのような対応です、という御答弁であります。

さらに、この条例に該当する職員をどのように選抜するのかという御質疑であります。病院事務長の答えとしましては、答弁としましては、現在、職員課と調整中ですが、病院全体から選抜を考えている。なお在職中１年以上の職員を選抜するつもりであるということであります。

意見に入りまして特に意見はなく、採決の結果、議案97号、98号一括採決に入り、全会一致原案可決と決しました。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本２件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本２件について採決いたします。本２件に対する委員長報告は、原案可決であります。本２件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありません。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第97号、日野市職員の分限に関する条例の制定、議案第98号、日野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定の件は、原案のとおり可決されました。

これより議案第99号、日野市市税条例の一部を改正する条例の制定の件を議題といたします。

総務委員長の審査報告を求めます。

〔総務委員長　登壇〕

○総務委員長（夏井明男君）　議案第99号、日野市市税条例の一部を改正する条例の制定の件の議案説明を市民部長から受けた次第であります。

特に本会議での議案説明に重複すること多く、質疑なく、特に意見もなく、採決の結果、全会一致原案可決と決した次第であります。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は、原案可決であります。本件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありません。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第99号、日野市市税条例の一部を改正する条例の制定の件は、原案のとおり可決されました。

これより議案第105号、昭和63年度日野市一般会計補正予算（第３号）の件を議題と

いたします。

本件については４常任委員会に分割付託いたしておりますので、順次審査報告を願います。

総務委員長の審査報告を求めます。

〔総務委員長　登壇〕

○総務委員長（夏井明男君）　昭和63年度日野市一般会計補正予算（第３号）の歳入全般、歳出のうち議会費、総務費、第２表、債務負担行為補正の件を質疑いたしました。

主な内容としましては、備品購入でタイプライターの購入が予定されているけれども、今後もタイプライターの使用をしていくのかという御質疑であります。現在使用中のタイプライターが傷みがひどいので購入したい。現在、ワープロでは点の集合体であって、法務局で認められておらず、活字のタイプライターが必要であります。これは戸籍を作成するときに使用していく、そういうふうな御答弁でありました。

意見に入り特に意見はなく、採決の結果、全会一致原案可決に決した次第でございます。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

これをもって総務委員会関係の審査報告を終わります。

次に、文教委員長の審査報告を求めます。

〔文教委員長　登壇〕

○文教委員長（高橋徳次君）　それでは議案第105号のうち、文教委員会に付託されました歳出のうちの教育費でございます。

主な補正の内容は、林間施設費の土地契約負担金2,880万8,000円でございます。長野県安曇村に林間施設として青年の森を新設するために土地7,202平米を借り上げるものの負担金でございます。

主な質疑の内容といたしましては、第二中学校に雨漏りがあるようだが、他の学校はどうか。なぜ早急に修理をしないのか。林間施設は既にあるので、臨海施設を考えたか。林間施設としては２番目となる経費等を考え、１カ所に立派な施設をつくった方がよいのではないか。他の候補地はなかったのか等の質問がございました。

それに対する回答といたしまして、雨漏りについては優先的に修理をしている。また臨海施設の用地確保はなかなか用地の確保が難しい。少年の森、青年の森と分け、一般

市民の利用のできるようにしたい。冬期の利用を考慮したい等の答弁がなされました。

委員会としては急遽教育委員会に現地調査を申し入れ、昨日22日です、現地の調査を行い、本日、本会議前に委員会を開き、審議いたしました。本日の委員会の主な質疑は次のとおりです。現地の視察をして予定地にもう１画加え、設備、駐車場等に余裕のあるものをつくる方がよいのではないか。委員会としての視察より教育委員は一緒に行ったのか。

これに対する答弁は、現段階では今の計画どおり進めたいが、要望、意見があれば考えたい。教育委員会として視察に教育委員は行っていないということです。

質疑の後、本議案に対する附帯意見が提出されました。内容については既にお手元にある資料のとおりでございます。念のため附帯意見書を読ませていただきます。

附帯意見

既に市が保有する林間施設「大成荘」の利用目的及び建替え計画が未決定のままであり、日野市基本計画には新たな林間施設の建設計画は無い現状での、本提案にはいくつかの問題点が内蔵されている。

それにも拘らず議会提案までに教育委員会による現地踏査が行われておらず、事前の検討や準備が充分でなかった事については敢えて指摘しておきたい。

しかしながら、市の林間施設の充実により、青少年の野外活動の場を確保し、もって心身の健全な育成に資するとともに、市民の余暇利用の場を提供することは、時代の要請にも添うものである。

従って、今後この事業が多額の予算を費やして進められる事業であることに鑑み、その目的の確実な達成のためにも、今回提案の用地の面積に固執することなく、未利用隣地の確保を考慮するなどの施設利用の拡充を検討するよう強く要望の意見を付す。

以上でございます。

委員会としては審査の結果、附帯意見が付され原案可決と決定した次第でございます。なお附帯意見については賛成多数でございました。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

これをもって文教委員会関係の審査報告を終わります。

次に、厚生委員長の審査報告を求めます。

〔厚生委員長　登壇〕

○厚生委員長（米沢照男君）　　議案第105号の歳出のうち民生費、衛生費、労働費にかかわる厚生委員会の審査報告を申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出おのおのに４億6,690万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を344億9,087万円としようとするものであります。このうち当委員会に分割付託された歳出は民生費、5,604万5,000円の増額、衛生費、446万6,000円の増額、労働費、36万円の増額、合わせて6,087万1,000円の増額であります。

質疑の主なものを御報告をいたします。

まず民生費、社会福祉費の消費生活向上推進費のうち備品購入費の放射線測定器、49万円の計上について若干質疑応答がございました。放射線測定器はどの程度の働きをするものなのか、測定器を使用する人はだれなのか、不安だけをかき立てるようなことにならないかなどなど質疑応答がされました。

主なものだけ報告をしておきます。放射線測定器はどの程度の働きをするものか、また測定の結果が数値で出てくるのかどうかという質疑がされました。これに対する答弁としては、電球に例えれば放射能がワット数に当たり、放射線は光に当たるものである。放射線測定器は光があるか、ないかをはかるもので、いわゆるガイガーカウンターと言われるものであり、測定の結果が数値に出てくる。さらに、市が対応する分野は東京都の消費者センターに持ち込む前の段階での役割を果たす、こういう位置づけで放射線測定器という機器を選定したという答弁がされました。放射線測定器を使用するのはだれかという質疑に対して、各消費者団体、食品の放射能汚染に関心を持つ個人の方々が使用するという答弁がなされております。

さらに臨時職員の雇上賃金に関連して質疑がされました。電算化が進む中で臨時職員の雇い上げをしないで済むようになりつつあるのではないかという質疑がされました。これに対して、この臨時職員の雇上賃金の計上は福祉タクシーの関係と保育所の入所措置事務関係２カ所に計上されているわけですけれども、福祉タクシー券の準備については、ことし４月より２枚増の６枚を配ることになったもので、通常の時間だけでは対応し切れないということで雇い上げの賃金の計上となったものである。さらに保育所の入所措置事務の点については、入所申請は３月15日に締め切って２週間で入所の手続を完了しなければならないという時間的な制約の中で、どうしても必要な雇上賃金の計上であるという説明がされております。

さらに消費生活向上推進費の商品の安全確保及び適正化事業に関連して、委員会の構成や性格についての質疑がされております。答弁としては、委員会の性格は、消費者運

動の一環としての部会であって、検討機関ではないということ、さらに委員会は要綱に基づいて設置運営し、委員15名の中に、いわゆる学者委員は考えていない、こういう答弁がされております。

こうした主な質疑応答の中で慎重審議の結果、全会一致で原案を可決すべきものと決しました。

よろしく御審議をお願いいたします。

○議長（市川資信君）　　これより質疑に入ります。古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　　議案が提案をされましたときにもちょっとお尋ねをいたしましたが、本議案の放射線測定器の件についてお尋ねをいたします。

放射線と放射能の違いについては今電気に例えて市側が説明をしたという委員長の報告がございましたが、私どものこの議会に請願が先般出されております。放射能測定器設置の請願ということで、この請願者は放射線をはかる放射線測定器ではなくて、放射能を測定するものを求めて請願を出しておられるわけです。先般、本会議場で申し上げましたが、昭和49年の９月に例の原子力船むつの原子炉からの放射線漏れ事故というのが起きました。このときに新聞では、放射能漏れ事故、というふうに大誤報がいろんな新聞で行われたわけです。放射線と放射能というのは全く違うわけです。ですから、測定器もこのように二つあるわけですが、私どもがよく放射能と放射線を混同する。一つの知識としてきちんとした理解を持っていない場合に混乱も起こるのではないかと思いますし、過去、現に日本のジャーナリズムもそうした間違いを犯したということがあるわけです。

ここで放射能測定器を購入をしないで、放射線測定器を購入する理由は何なのかですね、また食品の安全性を常に追求をしていくということで、これらの機器を備えていくということであれば、当然この請願者の求めているものも必要になってくるのではないかと思うんですが、その辺の議論は委員会の中でどのように行われたかですね、お聞きをしたいと思います。

○議長（市川資信君）　　厚生委員長。

○厚生委員長（米沢照男君）　　お答えをいたします。

その点も論議されております。事務当局の説明では、市が対応するのはどの分野なのかを検討した。市としては、都へ中継していくパターンを想定してこの放射線測定器という機器を選定した、こういうふうに説明をしております。つまり東京都には消費者センターがあり、そして、そこに放射能、いわゆる測定の機能を持っているということで

すから、その前の段階として、市としては放射線の測定をしていく。その上で必要があれば東京都の消費者センターに検査を依頼するといいますか、持ち込むということで、東京都の役割と市の役割をきちっと区分したそういう責任分担といいますかね、行政範囲といいますか、そういう位置づけで放射線測定器の導入を決めたと、こういうことであります。

なお放射能測定器を設置する場合には、その建物といいますか、から相当スペースを持った、そして、それなりの相当予算もかけての施設が必要になる、こういう説明もされております。まず放射線の測定からスタートをし、東京都とタイアップした中でこれらの検査といいますか、行政側としてまず対応していきたい、こういう説明がされております。以上です。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　放射能測定器は東京都に既に所有をしているものがある。その前段といいますか、日野の場合には放射線測定器を設置をして放射線の検値を行っていきたいということなわけですね。わかりました。

それで機械にはどんなものでもそうですが、非常に高価なもの、それから私どもが手軽に扱えるハンディーなものいろいろあると思うんですが、使われている放射線測定器の中で、今回日野市が購入しようとしているものはどの程度のランクにあるものかどうかですね、きちんとした測定はもちろんできると思いますが、どの程度の精度のものを求めて今回購入を計画したのか、その点、議会の委員会での議論の内容をお聞かせいただきたいと思います。

それからもう１点、放射線をはかるということは食品の照射、放射能からの照射を受けた放射線の有無を調べて、私どもが口にする食品の安全性を確保していきたい、安全を確保していきたいということでの理由があるわけですが、現在の輸入食品のいわゆる放射線に場合によっては毒されているのではないかという危惧からこういうものが購入を予定されたわけですが、現在、輸入食品はどのような基準にあるというふうに、今、市は理解しているのかですね、そういった点、必要性があるからもちろん購入が意図されたと思いますが、現状は輸入食品についてはどういった認識を持っておられるか。チェルノブイリのソ連の原発事故の後、こうした気運が今強まっているわけですが、市が購入を意図した現状の輸入食品に対する認識をお聞かせいただきたいと思いますので、委員会の中での議論があったと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（市川資信君）　厚生委員長。

○厚生委員長（米沢照男君）　まず購入を予定しているその測定器の機能といいますか、性能ですが、委員会にはこうしたシンチレーションサーベイメータというんでしょうか、このカタログが写し、コピーが配られております。

それで委員会の中でこういう質疑応答もされております。市民の方々の関心を高める役には立つかもしれないと思うけれども、実際に汚染されたものをはかるのに、どの程度有効なのか。また危険食品か否かのことが商店への現代の魔女狩りになると怖いと思う。これも検出された、あれも検出されたとなっての不安づくりのみとなってはいかがなものかと、こういう疑問も呈しながらの質疑がされました。これに対して生活課長の答弁としては、放射能は、先ほどの答弁になりますけれども、放射能は電球に例えればワット数に当たる、都、小金井市のものがこれに当たる、放射線は電球に例えれば光に当たり、当市のものはこれになります。きっかけをつかむ、光のありなしをつかむのが今回この計上をした購入予定されている計器ですと、こういう説明がされております。

輸入食品の認識については委員会ではそこまで論議されておりませんので、その部分についての答弁は、担当部長から答弁していただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　生活環境部長。

○生活環境部長（藤浪竜徳君）　放射能に対する市の考え方ということでございますけれども、現在、我が国に輸入されております食品でございますけれども、検疫場におきまして放射能の有無を検出をしております。現在、暫定基準として370ベクレルの以下であるかという判定をそこでしているわけでございますけれども、これによりまして水際作戦といいますか、そういう国の対応をしているところでございます。

しかし、請願の方からも出されておりますけれども、やはり不安があるということでございますので、これの不安をなくすといいますか、そういう意味でもやはり対応が必要ではないかと、このように考えているところでございます。

したがいまして、簡便な測定器でございますけれども、いわゆるこの我々が購入しようという機械でございますけれども、これはいわゆる放射能ではありませんで、放射線を測定するものでございます。先ほど委員長から説明がありましたけれども、放射能の強さをあらわすのは、いわゆるベクレルで表示をしてございます。このベクレルの表示が小金井とか東京都で購入をしている機械でございますけれども、市で考えておりますのは、いわゆる光に当たる部分、要するに物質がどの程度の光を受けているかというものでございます。これをはかるのがシーベルトアワーといいますけれども、この測定順序を使いましていわゆるシーベルトアワーをはかるものでございます。

放射線をどの程度受けているかということでございますので、当然たくさん受けていれば反応もそれなりに高いわけでございますので、放射能と放射線の、放射線が当然強ければ放射能のベクレルも高いというわけでございます。相関関係もございますので当然感知はできると、このように考えております。したがいまして、当面はこの一番簡便といいますか、携帯もできるということで、この機械を購入するものでございます。以上でございます。

○議長（市川資信君）　古賀俊昭君。

○24番（古賀俊昭君）　機械の精度といいますか、さほど高価なものでもないけれども、市民の不安を取り除くために、ある程度の性能を備えたものを購入するということだろうと思うんですが、原発事故がソ連で起きて死の灰が世界じゅうにばらまかれるというようなことで、不安が確かに世界じゅうに広がっているということは事実でありますが、日野市がまたここでこうした放射線測定器を購入するということで、委員長報告の中にもありましたが、ないものにおびえるといっては極端な言い方になるかもわかりませんが、現実の輸入食品の現状と日本のそのチェックを今やっている能力等を考えますと、取り立てて今問題になる状況にはないというふうに聞いております。

市民が少しでも死に疑いを持ったものを持ってきまして、その市民によく安心はしてもらうようにそうした機械を活用するということはいいのかもわかりませんが、ただ何かそういった一つの不安をかえって醸成するようなことがあってはならないと思いますので、その点は運用に当たって充分注意をしていただきたいと思います。

先般、私新聞記事を見ておりましたらこういう記述がありました。ちょっと参考までに御紹介させていただきたいと思いますが、――現在、日本は欧州などから食糧を輸入している、全輸入品に対して４％ぐらいの割合になる。もし欧州からの輸入品全部が輸入制限値である370ベクレルの汚染度であったと仮定しても、輸入食品を毎日1.4キログラムずつ１年間食べてみたとすると年間で４ミリレムになる。これは放射線医学総合研究所の話によると、何か目に見えない影響の残る最低のレベル、例えば白血球の数が変化をする２万5,000ミリレムに対して約１万分の１ということになる。毎日1.4キログラムずつ１年間食べ続けたとしても、輸入食品だけをですね、このくらいのものが体内に影響を与えるということになる――ということで、現状では取り立てて心配をする状況にはないということを科学者の立場から述べられたものがありました。

こういった一つの冷静な目も同時に持ってこの運用に当たっては充分その点にも留意をしていただくといいますか、くれぐれも何かいたずらにそうした不安をあおることのないように注意をしていただきたいと思うわけであります。

以上、意見になりましたが、申し上げて質問を終わります。

○議長（市川資信君）　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

これをもって厚生委員会関係の審査報告を終わります。

次に建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長　登壇〕

○建設委員長（川嶋　博君）　それでは、議案第105号の歳出のうち農業費、商工費、土木費を付託されたものについての審議の経過を御報告申し上げます。

農業費は530万円減額いたしまして１億980万5,000円でございます。商工費におきましては457万円増額いたしまして１億4,992万9,000円でございます。土木費につきましては３億8,898万4,000円増額いたしまして82億4,680万7,000円になりました。

主な内容につきましては、農業費のうち総務費の300万円の減額でございます。商工費の総務につきましては、やはり総務費でございます。それから商工費の商工振興費が、これは郵送料でございます。土木費につきましては主な内容につきまして、松山２号線裁判の和解金がこの中に含まれております。これにつきましては議案第114号でまた改めて御報告を申し上げます。土木費のうち街灯費が659万4,000円で修理費として計上されております。また交通安全対策費が、これは豊田駅の北口自転車管理費で、委託料が239万3,000円が減額になっております。橋りょう新設改良費が、これは仮設案内板が設置の項目として計上されております。以上が主な内容でございます。

質問はなく、意見といたしまして、街路灯については要望に応じられないことが多い、増額を要望しておくという意見がございました。

慎重審議の結果、全会一致可決になりましたことを報告いたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

これをもって建設委員会関係の審査報告を終わります。

各委員長報告について御意見があれば承ります。竹ノ上武俊君。

○29番（竹ノ上武俊君）　教育費の林間施設土地契約負担金のことに関する附帯意見というのが出ましたので、このことに触れまして一言意見を申し上げておきたいと思います。

補正予算全般には全く問題なく賛成をします。この教育費の中の林間施設に関する2,

880万8,000円でございますが、これは委員長から審査報告がありましたとおり、大成荘に続きましてもう一つ林間施設をつくる、そのための準備金ということでございます。この補正予算につきましての文教委員会の質疑の中で、教育委員会に対する質問が幾つかなされました。この中で、委員の中から教育委員会は、もし必要な場合に、もう１区画残っている未利用地、これを購入することを検討するかというようなことがあったわけでございます。これに対して教育委員会の次長、教育長ともども、もし全体的、という言葉で表現されておりましたけれども、市議会なり市なり教育委員なり市民から拡張した方がいいという、そういうことになれば拡張のため努力することにやぶさかではありませんと、こういう回答があったわけでございます。

そういう意味で、あえてこの附帯意見の結論である未利用隣地の確保を考慮せよという附帯意見をつける必要はないというふうに私は感じて委員会におきまして附帯意見をつけることに反対をいたしたわけでございます。

この附帯意見の中身を読んでみますと、この附帯意見自身も一、二矛盾点も抱えておりますので、その点を指摘いたしまして意見としておきたいと思います。

第１点は、今度の林間施設の建設計画が問題点を幾つか内蔵している、というふうに指摘をされております。問題点がそんなにたくさんあれば、これは補正予算に反対した方がいいわけで、私は問題点が内蔵されている、幾つか内蔵されている、というふうに指摘するほどのことは審議の間でなかったというふうに認識をいたしております。むしろ、これは日野市の基本計画、この精神に沿って、この基本計画の政策を発展した新しい着眼点に基づく政策、そのための補正予算であるというふうに積極的に市民からは受けとめられるものではないか、こういうふうに思うわけでございます。

また場所の選定について、あらかじめ一定の収容人員等を決めて、それから全国の適地を捜すのが筋だというような質疑、御意見などもございました。しかし、私は時と場合によっては、今住民の中で大変強い要望の一つが日野市に保養所をつくってくれということでございます。これは市も市当局、教育委員会等も御存じだと思いますけれど、日野市内のかなりたくさんの自治会の団体からも要望書が数年間続いて出されているはずでございます。また老人団体、市民の間からも要望が出されております。そういう際に、教育委員会が情報網を張りまして、いい適地があった場合はこれを早く入手するということは、私は市民の立場に立てば大切な判断ではないかと思うわけでございます。しかもこの物件につきましては不動産業者がこの都市部で不動産を売買するようなそういう物件ではなく、安曇村が村の発展のために坪当たりでいえば100円、１年間ですよ、

そういう安い値段でいろんなところに貸しましょうと、こういう公的な団体が双方で判断をしてお互いの住民の利益の発展のために使おうというものでございまして、そういう保証があるわけでございますので、変なものをつかまされるというようなことでもないので、この借用料がどうだとか、保証金がどうだとかいうことはそれほど厳しく安曇村に要求すべき性格のものでは私はないと思います。

そういう点で、この問題点が幾つか内蔵されているという点は納得ができませんでした。

もう１点でございます。（「――何言っているんだ」と呼ぶ者あり）議会提案までに教育委員会による現地踏査が行われておらず、とこういう文章がございます。不規則発言が続くようですが、ひとつお静かに御意見を聞いていただきたいと思います。（「竹ノ上武俊君は現地視察を欠席した」「何だ、それは」と呼ぶ者あり）

○議長（市川資信君）　御静粛に願います。（「共産党の活動のために厚生委員会を欠席した」と呼ぶ者あり）

○29番（竹ノ上武俊君）　――現地踏査が行われていないということでございますけれども、委員会の審査で教育委員会の答弁がございました。資料も安曇村の案内図、構図の配付がございました。また契約などに関する議案の写しなども資料がございました。それから10月３日ですね、教育委員会を代表して小松委員という方、それから教育委員会事務当局からは、都合により教育長は欠席だったそうですが、教育次長が参加をする、そして市側からは財政の責任者である企画財政部長、それから日野市の最高責任者である森田喜美男市長、この４名が10月３日に現地踏査をしているわけでございます。その現地踏査をしている詳細なカラーフィルムの写真まで委員会には提示があったわけでございます。

私はここまであれば、教育委員会による現地踏査が行われておらず、というのは言い過ぎではないかと、こういうふうに思うわけでございます。

また事前の検討や準備が十分でなかったこと、ということについては主観の違いがいろいろございますので、あえてあれこれ言いませんが、私はもう事前の調査や検討が、あるいは準備が十分になされたなというふうに委員会において判断をいたした次第でございますので、あえてこういう附帯意見をつける必要はないと、このようなふうに指摘をしておきたいと思います。

そして教育委員会ではこの４名の調査結果をもとに、11月14日、全教育委員出席で審査をし、さらに12月10日にこれについての結論を出して市当局と補正予算のいろいろや

りとりがあって、補正予算として市長が提案をしたということだと思います。

そういう点で、私は重要な市民要望でございますので、これほど完備した補正予算であり資料がある場合には、率直に市民にかわって我々議員が賛成をすべきもの、こういうふうに確信いたしておりますので、附帯意見をつけることには反対をいたしましたことを、共産党市議団を代表いたしまして一言申し上げた次第でございます。

○議長（市川資信君）　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は、原案可決であります。本件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第105号、昭和63年度日野市一般会計補正予算（第３号）の件は、原案のとおり可決されました。

これより議案第80号、日野市立幼児教育センター設置条例の一部を改正する条例の制定の件を議題といたします。

文教委員長の審査報告を求めます。

〔文教委員長　登壇〕

○文教委員長（高橋徳次君）　それでは、文教委員会の審査報告を申し上げます。

議案第80号、日野市立幼児教育センター設置条例の一部を改正する条例の制定でございます。

本件は第３回定例会で本委員会に付託されたものでございます。閉会中も含め３回にわたって審議し、市長にも出席を求め慎重審議されたものでございます。

本件に対する質疑の主なものを概略申し上げます。

時限をなくすということは永遠課題にするのか。私立幼稚園に設立の理解が得られていない現実をどう考えるか。３年の時限があったにもかかわらず、それに見合った報告がない。幼・保一元化を掲げたのにその見解はどこへ行ったのか、といった質疑が出ました。

それに対する答弁は、２ないし３年で実る形のものではなく、腰を据えて研究に力を入れたい。センターとして役に立つところを利用してもらいたい。私立幼稚園協会に理解が得られていない。市長からは、精神は幼・保一本化を目指している、子供のことであることに視点を置き、将来にかけ幼児の時代を培っていきたい、との答えがありました。

質疑の後、谷委員ほか４名より修正案が出されました。内容は既にお手元に配付されておりますように、原案では付則として、条例は公布の日から施行するとされておりますが、修正案では、付則として、条例は交付の日から施行し、昭和67年３月31日限りでその効力を失うというものでございます。

質疑、討論を省略し、採決の結果、賛成多数をもって修正案を可決すべきものと決しました。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。竹ノ上武俊君。

○29番（竹ノ上武俊君）　修正案反対、原案可決の立場で一言意見を申し上げます。

３年前にもこの提案がなされました際、共産党市議団は修正案に反対をいたしたわけでございます。と申しますのは、やはり教育の研究テーマというものは、公共自治体等が行う場合にしても長い目で見なければ私はその真の成果を認識できるということにはならない性格のものではないか、というふうに考えるわけでございます。ですから、結局今回もまた３年間見てみようということで修正案が出されたのかもしれません。このこと自身に３年前の時限立法が認識不十分の立場からのものであったということを私は証明したというふうに考えるわけでございます。

以下、修正案に反対する意見を簡潔に数点申し上げたいと思います。

共産党市議団が中谷議員の一般質問あるいは過去も申し上げてまいりました。その第１は、昭和50年の９月30日、日野市議会が全会一致で日野市に東京都立の幼児教育総合研究機関の早期建設、この決議をもって陳情したことは皆さんが御存じのとおりでございます。その後、都の状況によりまして都立はできないということになりました。しかし、その当時あるいはその数年前から、日野市に幼児教育研究機関が来る、あるということについては議会も全会一致そういうことを望んでいたものでございます。恐らく日野市民も日野市にはそういう研究機関がふさわしい、こういうことでこの運動は始まった、このことを私どもは忘れてはならないと思うわけでございます。

つまり日野の市政がこの教育を重視する、その政策の一つとして幼児教育センター、こういうものをつくることは考え方の上では私は何人も否定できないものではないか、このように強調しておきたいと思います。そして実際に３年間の研究成果としてはるる資料がこれも議会に提出をされたわけでございます。その中でまだ端緒的ではございま

すけれども、幼児の発達に関する研究や資料、これら相当発展をいたしまして、また資料も整いつつあるわけでございます。また幼児の家庭教育についてもさまざまな情報交換や資料の作成あるいは経験が蓄積をされてまいりました。また幼児教育保育の実践という観点からも多くの実践、経験が集約をされてきて一定の報告にもなってきているわけでございます。

今後の問題としては、現在の子供たちの状況からして、小学校、中学校との関連等も含めた幼児教育がますます重要になっていることは、これも何人も私は否定できない問題ではないかというふうに思うわけでございます。そして特に最近は子供たちの状況が変化をしております。この修正案を出された方々は幼・保一元化のテーマがなくなったではないかとおっしゃっておりました。しかし、それらの精神は、幼・保一元化の研究テーマの精神は今も続いておりますし、この研究テーマというのは、私は今の社会を反映して、そのときどきで変化するのは、これは必然的なことではないか、こういうふうにも思います。

ですから、よく市民の批判あるいは市議会などの意見などももちろん反映させる必要はございますけれども、今後も幼児のために研究テーマをその情勢に合わせて重要なものに絞ってひとつ大きな成果を上げていただくように要望しておきたいと思うわけです。

それからもう一つの問題は私立幼稚園との関係の問題でございます。私立幼稚園の経営者の皆さん等からこのことについて批判がいろいろ出されているという状況になっております。しかし、この私立幼稚園から出されているいろいろの意見の背景として、今、幼児数減少、私立幼稚園の大変深刻な経営問題があると思うわけでございます。私立幼稚園といえどもみずからも幼児教育の研究はされておりますけれども、やはりこの幼児教育の研究が大事だということについては、私は反論はなさっていないと思います。

ですから私立幼稚園のことについてはそういう政治的な性格、背景、こういうものを勘案して市なり議会なりが対応して私立幼稚園の条件整備のためにみんなが力を尽くしていく方向で解決をしていけば、事は私は時間はかかるとしても解決をしていくのではないか、こういうふうに思うわけでございます。

例えば日野市にタヌキが生息しているか、いないか、こういったような教育、研究のテーマということになりますと１年か２年でいいですけれど、相手は生きた人間でございますので、そういう短兵急な時限立法でこういうことを研究機関あるいは研究者の皆さんに押しつけるというのは、私は非常に研究する方々にとっても不安定な状況、環境を与えますので、よくない、こういうふうに思うわけでございます。

最後に、よく自民党の市議団の方も、市議団とは呼ばないかもしれませんが、自民党の議員の方々も一村一品運動というのが今全国にあります。これを高く評価する一般質問なんかをされているわけですよね。日野市は一市一品ではなく、一市――（「自民党じゃないよ」「共産党も――からいいんだよ」と呼ぶ者あり）自民党もいると思うんですが、多くの議員の方かこういうことを評価して一般質問等されております。それで日野市は一市一品じゃなく、一市何十品かもしれません。しかし、日野市のように住宅都市として値打ちのあるまちとして市民が評価し、都内でも評価されているところでは、当然私は教育というのは内外ともに重視する政策テーマであると思います。

そういう意味で、日野市の特徴としてほかの市にはまだまだ全国には少ないと言われております。しかし、日野市が率先して幼児教育研究センターなるなど、こういう教育研究の機関を設置していくことは日野市のみならず広い地域の意味で私は有意義なことと思います。

以上の理由で冒頭申し上げましたとおり、原案可決、修正案反対ということを強く申し上げておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　馬場繁夫君。

○12番（馬場繁夫君）　それでは、議案第80号、日野市幼児教育センター設置条例の一部を改正する条例の制定につきまして、原案に反対し、修正案に賛成の立場より意見を述べます。

重松先生の幼児教育活動における基本理念は、幼児の行動を詳しく観察し、それに合わせての発達検査をも試行して、幼児のうちに潜んでいる広い可能性を探るとともに、お子様一人ひとりの個性的な発達の法則を模索するという考え方は理解できるものであります。それはゼロ歳から３歳までにおきましては人間形成の全般的な基礎がつくられる時期でありますし、３歳から６歳までに子供の社会への対応の基礎がつくられるということも言われております。しかもこの乳幼児期におきます人間形成の基礎づくりのあり方が、その後におけるところの心身の成長、発達に大きな影響を及ぼすことは多くの専門の方々の御指摘されているところであります。それだけに、この時期の子供に対する家庭でのしつけなど広い意味での幼児教育、教育環境を深めていかなきゃならないということであります。

しかしながら、幼児教育、教育環境等の将来を考え見ますと不安要素も委員会等の中で明らかにされているところであります。自主的な63年策定ともいえます基本計画に明記されておらず、突然65年に資料室のセンター化、条例化等の話もできてきております。

幼児教育相談業務の重複、さらには地域の教育力の位置づけ、私立幼稚園協会等の諸問題等であります。これらの教育行政におきます場当たり的側面性と一貫性、計画性の弱さであります。

行動を詳しく観察し、その幼児のうちに秘めております可能性を引き出す、この実践研究方式を基盤としながら、教育環境を取り巻く諸問題の解決のための方策と幼児教育の発展への計画を見出し、市民及び議会の理解と協賛せしむとともに東京都、国への吏員の働きかけと財政的な協力も得られるようこの３年間で努力されることを考え、原案に反対し修正案に賛成いたします。以上です。

○議長（市川資信君）　　ほかに御意見はありませんか。一ノ瀬　隆君。

○18番（一ノ瀬　隆君）　　与党の責任ある会派と自認します社会クラブとしての意見を申し上げておきたいと思います。私どもの会派は文教委員会に所属しておりませんので、意見を申し上げておいた方がいいと思ってあえて議長のお許しをいただきました。

私どもは文教委員会で大変苦労なさって話し合いの結果、出した結論である修正案に賛成したいと思います。（拍手）与党の立場は堅持して、最初に申しましたように責任ある与党として自負しております私どものクラブとして、自信を持って修正案に賛成するものであります。

文教委員会の審議の中で３年間の時限条例とか、あるいは２年間の時限条例というようないろいろな意見があって話し合いがなされたそうであります。この場合、それぞれ話し合いなしにやったとしたらそれぞれが修正案が否決され、結果として原案も否決されるということになるわけであります。その点を考慮して（「そうじゃない」と呼ぶ者あり）文教委員会は大変苦労なさった、その文教委員会の結論を尊重いたしまして、私どもは修正案に賛成いたしたいと思います。（拍手）

○議長（市川資信君）　　ほかに御意見はありませんか。福島敏雄君。

○８番（福島敏雄君）　　要望をいたしたいと思います。

馬場繁夫委員さんから意見が述べられまして、要するに幼児教育センターの重松先生のお話ですと、三つ子の魂百まで、とこういうことがよく言われておりますが、この３年間の中で私はそういうことになるとすれば多くの３歳未満の人は家庭にいるわけでして、そういう人たちにいかにアプローチをしていくかと、親に対してですね、そういう幼児教育センターの働きかけが少なかったように感じます。

したがって、一般にこの幼児教育センター、三つ子の魂百までという、そういう重要性がうたわれているにしては、実際のその子供たちへ、あるいは親へ、どういうような

アプローチあるいは示唆がされたかという面をとりますと、甚だ私も孫もいるわけでございますけれども、ほとんどないような感じがいたします。それだけ必要な三つ子の魂百までということがあるとすれば、この３年間にぜひそういう形の実践運動も進めていただくよう要望しておきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は、修正であります。本件は、委員長報告のとおり決するに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（市川資信君）　　挙手多数であります。よって議案第80号、日野市立幼児教育センター設置条例の一部を改正する条例の制定の件は、修正可決されました。

これより議案第104号、日野市立保育園設置条例の制定の件を議題といたします。

厚生委員長の審査報告を求めます。

〔厚生委員長　登壇〕

○厚生委員長（米沢照男君）　　議案第104号、日野市立保育園設置条例の制定についての厚生委員会の審査報告を申し上げます。

昭和60年11月に、地方公共団体の執行機関が国の機関として行う事務の整理及び合理化に関する法律が施行されましたけれども、この法律第17条の規定により、保育所入所措置事務などが機関委任事務から団体委任事務化され、委任された地方公共団体の事務となったものであります。これに対応するため、元条例である日野市保育所設置条例の全部を改正し、名称を日野市立保育園設置条例として制定しようとするものであります。

条例の内容といたしましては、一つには、保育所を保育園と名称が変わります。二つには、保育園の定数、保育料等についてはこの条例の委任条項の規定に基づき、市長が児童福祉法及び児童福祉施設最低基準等によって定めることとし、定員は現状に合わせ、施行規則別表に明記することとなったものであります。

主な質疑といたしましては、一つは、団体事務化することによって市の段階で定数も変更することができるようになったのかどうかという質疑がされました。これに対して答弁としては、定員は都道府県知事の認可事項であったものが届け出事項と変わり、事務が簡素化されてやりやすくなりました、という答弁でありました。

２点目の質疑としては、当分の間、現行どおりでいいのではないかという問いがなされました。答弁としては、保育料は各市ばらつきがある現状ですけれども、法が変わっ

ても大きく変わることはないと考えております。こういう答弁でありました。

意見としては、条例の全面改正だからといって短期間に急激な変化は好ましくないのではないか。２点目は、幼・保は根拠法が異なっているだけで処遇は同じにしないといけないのではないか。３点目は、自治体の裁量が大きくなったことでレベルアップも可能になるという点は評価できる。しかし、国の責任放棄でもあるし、保育内容を充実させながら補助率の回復を国に求めていく必要があるのではないか。以上のような意見が出されました。

慎重審議の結果、全会一致で原案を可決すべきものと決しました。

よろしく御審議をお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は、原案可決であります。本件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第104号、日野市立保育園設置条例の制定の件は、原案のとおり可決されました。

お諮りいたします。議事の都合により暫時休憩いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって暫時休憩いたします。

午後10時42分　休憩

午後11時15分　再開

○議長（市川資信君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

これより議案第106号、昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）、議案第109号、昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算（第２号）、議案第110号、昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算（第２号）、議案第112号、昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算（第１号）の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

厚生委員長の審査報告を求めます。

〔厚生委員長　登壇〕

○厚生委員長（米沢照男君）　厚生委員会の審査報告を申し上げます。

まず議案第106号、昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）であります。

本件は歳入歳出おのおの2,194万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を41億7,049万6,000円とするものであります。今回の補正は、63年６月第112通常国会におきまして国民健康保険法が４点改正をされたもののうち、高額医療費共同事業が創設をされ、都道府県も加わり共同事業が実施されることになったものによるものであります。東京都にあっても東京都国民健康保険団体連合会がこの事業の取りまとめをすることになり、日野市も当該連合会へ拠出をしようというのが今回の主な補正の内容であります。交付基準は１件当たり80万円を超えた場合となっております。

質疑、意見は特に委員会ではございませんでした。

慎重審査の結果、全会一致で原案を可決すべきものと決しました。よろしく御審議をお願いいたします。

次に、議案第109号、昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算（第２号）であります。

今回、補正の予定額は収益的収入及び支出に4,885万9,000円を追加し、収益的収支及び資本的収支の予定額を26億4,553万4,000円としようとするものであります。

質疑といたしましては、支出のうち看護職員の募集広告料285万円が計上されておりますけれども、これに関連をして本年第２回定例会で日野市職員定数条例の一部を改正をして定数外職員を置けることの弾力条項が新設をされたけれども、この効果はどうかという質疑に対しまして、答弁としては、定数条例の弾力条項を適用し、定数外採用を３名行うことができました。しかし、一方で退職の予定者もここで３名おりますので、差し引きとしては増加がないということになります。

さらに２点目として、看護職員の募集方法はどのようなものになっているのかという質疑に対して、講読者の多い日刊紙２紙と看護婦の雑誌、助産婦の雑誌に掲載しているという答弁がありました。

意見といたしましては、看護職員の募集経費が６月に補正をされ、再度の補正になっておりますけれども、これもよいけれども、給与体系の見直しによって看護職員にプライドを持ってもらえるようにすることの方が効果的ではないか、こういう意見が出され

ました。

委員会として慎重審議の結果、全会一致で可決すべきものと決しました。よろしく御審議をお願いいたします。

さらに議案第110号、昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算（第２号）であります。

今回の補正は歳入歳出おのおの2,282万9,000円を追加をし、歳入歳出予算の総額を17億1,152万7,000円とするものであります。

特に質疑、意見はございませんでしたけれども、委員会として原案を可決すべきものと決しました。よろしく御審議をお願いいたします。

議案第112号、昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算（第１号）であります。

本件の補正は歳入歳出おのおの4,211万4,000円を追加をし、歳入歳出予算の総額を40億2,836万8,000円とするものであります。

内容といたしましては、62年度の諸項目の精算を行い、かつ62年度決算による繰越金の額を確定するものであります。

特に質疑、意見はございませんでした。

全会一致で原案を可決すべきものと決しました。よろしく御審議をお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本４件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本４件について採決いたします。本４件に対する委員長報告は、原案可決であります。本４件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第106号、昭和63年度日野市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）、議案第109号、昭和63年度日野市立総合病院事業会計補正予算（第２号）、議案第110号、昭和63年度日野市受託水道事業特別会計補正予算（第２号）、議案第112号、昭和63年度日野市老人保健特別会計補正予算（第１号）の件は、原案のとおり可決されました。

これより議案第100号、日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定、議案第101号、日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定、議案第102号、財団法人日野市環境緑化協会に

対する助成等に関する条例の制定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長　登壇〕

○建設委員長（川嶋　博君）　それでは、建設委員会に付託されました議案について審査の経過と結果を御報告申し上げます。

議案第100号でございます。日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定でございます。

内容につきまして申し上げますと、資金の種類、改正前は運転資金、設備資金、緊急資金、それから４番目といたしまして身体障害者の専用開業資金でございます。改正内容につきましては、それに身体障害者のかわりに開業資金という項目を設けまして、市民を対象に幅広くその資金の運用が借りられるようになったわけでございます。それから年齢の要件それから資金別の取扱金融機関もすべての資金についてどの金融機関でも扱えるように改められております。それから融資限度額でございますが、運転資金の60万円が750万円、150万円アップになっております。それから設備資金1,000万円が1,250万円、250万円アップに変わっております。それから緊急資金でございますが、50万円が新しい改正案では350万円、６倍に上がっております。それから身体障害者専用開業資金100万円であったものが、開業資金に代わりまして700万円、これは７倍のアップに変わっております。それから融資の期間についても、今まで何年何カ月というのが月別に変わっております。以上のような内容でございます。

慎重審議の結果、全会一致可決になっておりますので、御報告申し上げます。

次、101号は日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定でございます。

この制定につきましては第１課、第２課に変わりましたので、今までの第18条の３項には審議会の庶務は、日野市役所都市整備部区画整理課において処理する、という条項が、審議会の庶務は、都市整備部において処理する、というように変わるものでございます。この万願寺区画整理とともに高幡地区区画整理事業及び豊田南地区区画整理の三つの区画整理事業も同様の内容でございます。

以上の改正につきまして、当委員会といたしまして全会一致可決でございますことを

報告申し上げます。

続いて議案第102号でございます。102号は財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例の制定でございます。

内容につきましては皆さんのお手元に参考資料がお配りされていると思います。

その中で質問がございました。その中で３億円の基金をもとに64年１月６日から財団法人へ補助金を委託として支出するということでございますが、質問の中では「出えん」を漢字を使わないのは何かということでございます。この問題につきましては、その意味は、補助金を含めまして作業する机とか、そういう備品等も市の方で補助するという項目でございます。

以上の内容でございますが、慎重審議の結果、全会一致可決することを御報告申し上げます。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本３件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本３件について採決いたします。本３件に対する委員長報告は、原案可決であります。本３件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第100号、日野市中小企業事業資金融資あっせん条例の一部を改正する条例の制定、議案第101号、日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業施行規程を定める条例等の一部を改正する条例の制定、議案第102号、財団法人日野市環境緑化協会に対する助成等に関する条例の制定の件は、原案のとおり可決されました。

これより議案第103号、日野市緑地信託等に関する条例の制定についての件を議題といたします。

委員長の審査報告はこれを省略いたします。本件については、建設委員長から目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。あわせて、本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。建設委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって建設委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより議案第107号、昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算（第２号）、議案第108号、昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算（第３号）の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長　登壇〕

○建設委員長（川嶋　博君）　ただいま議長の方からお許しがいただけました議案第107号、昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算（第２号）でございます。

歳入歳出とも５億8,029万6,000円を追加いたしまして49億9,808万1,000円とするものでございます。歳出につきましては万願寺区画整理事業に２億2,081万円を追加するものでございます。続いて、高幡区画整理事業には追加は変更はございません。豊田南区画整理費につきましては３億5,127万3,000円を追加し、トータルで49億9,808万1,000円とするものでございます。主な内容につきましては万願寺区画整理の1・3・1にかかわる公共施設の管理者負担でございます。続きまして、豊田南地区もやはり区画整理に使う予算でございます。

慎重審議の結果、全会一致可決ということを報告申し上げます。

次に議案第108号についても慎重審議の結果、全会一致可決いたしました。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本２件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本２件について採決いたします。本２件に対する委員長報告は、原案可決であります。本２件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第107号、昭和63年度日野市土地区画整理事業特別会計補正予算（第２号）、議案第108号、昭和63年度日野市下水道事業特別会計補正予算（第３号）の件は、原案のとおり可決されました。

これより議案第111号、昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算（第１号）、議案第113号、市道路線の認定の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長　登壇〕

○建設委員長（川嶋　博君）　議案第111号、昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算（第１号）でございます。

歳入歳出とも189万2,000円を追加し、4,586万7,000円とするものでございます。主な内容につきましては農作物の共済勘定、園芸施設共済勘定、業務勘定そして総合といたしましては共済事業収益でございます。

以上の結果、全会一致原案可決と決することを御報告申し上げます。

続きまして議案第113号、市道路線の認定でございます。

建設委員会といたしまして現地を視察いたしました。この場所は日野市本町七丁目３番13地先、延長130メートル、幅員４メーターから5.5メートルの日野94号線でございます。あと１点につきましては、日野市日野7773番地先の延長といたしましては78メートル、幅員は４メートルの日野95号線でございます。

現地を慎重に審査をいたしまして原案のとおり可決したことを御報告申し上げます。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本２件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本２件について採決いたします。本２件に対する委員長報告は、原案可決であります。本２件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議案第111号、昭和63年度日野市農業共済事業特別会計補正予算（第１号）、議案第113号、市道路線の認定の件は、原案のとおり可決されました。

これより議案第114号、土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結の件を議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長　登壇〕

○建設委員長（川嶋　博君）　議案第114号、土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結についてでございます。

この議案につきましては皆様方のお手元に資料がお配りされていると思います。この中につきまして慎重審議を行いました。この中には裁判官からの3,400万円の和解金の支払う勧告を受けた、これの経過の報告がございました。

これにつきましては、質問の中には松山２号線の分譲のときの道路としてつくったのだと思うがどうなんだ。それから市の対応が悪かったのではないか、積極的に解決してほしいという要望の点もございました。それから、和解金を含めた一切で幾ら費用がかかったのかという質問がございました。

以上の結果、市の方の答弁もございまして、開発したのは昭和26年９月の道路網にはのっている。それから寄付の申出書が市の方に保管されていない。それから和解金につきましては全体的なトータルの金額は３月になって確認をするというような答弁もございました。

この件につきましては慎重審議の結果、建設委員会としては全会一致可決したことを御報告申し上げます。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。石坂勝雄君。

○27番（石坂勝雄君）　簡単に１点だけ聞きたいと思うんですが、今までの何かこの松山２号線というものの理事者というか建設当局の今までのお話だと、何ていうかこういう結果を想定されていたのか、いわゆる何というか、こういう言葉は適切でないかもしれないが、よく民事というのは泥棒にも３分の理ありというようなことの中で、万やむを得ないんではなかろうか、ということでこういうことに和解が成立させたのか、その点の１点だけお聞きしたいと思います。

○議長（市川資信君）　建設委員長。

○建設委員長（川嶋　博君）　ただいま石坂議員の方からの質問ですが、委員会としてはその種の質問がなかったので、理事者側の方から答弁させていただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　御答弁申し上げます。

そのような想定をしていたかということでございますけれども、その点につきましては裁判官の方からそのような和解をした方がいいぞ、ということでございますので和解

に踏み切ったということでございます。（「当初だよ、問題は」と呼ぶ者あり）

当初は、第１審では勝訴しておることもございますので、このような当初の結果を踏まえたことからいきますと、このようなことがあるかなというぐあいに考えていたわけですけれども、やはり裁判官が和解した方がいいということでございますので、そのようにしたわけでございます。

○議長（市川資信君）　　石坂勝雄君。

○27番（石坂勝雄君）　　何かちょっと建設部長の何か切れ味が悪いんで再度聞かざるを得ないんですが、私が言っているのは１審で何というか勝訴したわけですよね。そういう面で２審へ行って、２回目のあれになって、こういう裁判官の和解が来るというのは、いろいろの経緯の中で、役所の方にも何か手落ちがあったということの報告があるからこういう事実経過の中で和解をしろということが来たんで、役所じゃ、だから当然だと思うのか、これは結果を見てやむを得ないと、建設委員会じゃ全会一致でよろしいというんだから、ただ私は問題は、ここには動機なり発想なり結果というものを踏まえてどう判断していたかということ、もともと負けるものだと、もともと和解が来るならこんなことやらない方がいい、弁護士の費用だって高くてばかばかしいんですからね。どうなんですか。市長だな、これは。

○議長（市川資信君）　　建設部長。

○建設部長（永原照雄君）　　御答弁申し上げます。

最初からこれは勝訴するという想定のもとにこういうことに対処したということでございます。（「おかしいよ」と呼ぶ者あり）

○議長（市川資信君）　　ほかに御質疑はありませんか。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。天野輝男君。

○６番（天野輝男君）　　この土地所有権確認等請求事件について、請求事件について意見を述べさせていただきます。

この事件は今石坂代表も言われていたように、日野市において手落ちがあったわけであります。手落ちというのは要するに、ここの方浅賀ミチ子さんですか、ミチ子さんの前持っていた方が結局その土地を分譲したときに日野市に結局道路をつくって分譲して家をつくったわけですから、当然この登記を済まして、日野市のですね、市道として認定を受けていると思っていたら認定を受けていない、そこに落とし穴があってこういう、だから第１審は寄付として認めたために勝訴したわけです。２審以降は、この寄付は寄

付じゃないと、直接的に寄付には根拠はないということで、これが、そのことから要するに浅賀さんが1,085万円出損したということで、この出損ということが日野市でこの事実については背任的悪意者として、裁判をしてその事実についてはないけれども、やはり所有権の移転をしてないからここに一番問題があるなということでこの裁判は和解をせざるを得なくなったわけであります。そういう面で、日野市においては大変な落ち度があるわけです。

そういう面で私はこの問題について、先ほど我々の仲間の小山良悟議員が緊急動議でしているように、やはり少しのむだであっても、やはり今後は十分省いていかなけりゃならないというそういうところに問題があると私こう思うわけです。

そういう面で、私はぜひこういう問題については、やはりこの当然名義は所有権の移転登記がしてなければ民事事件だったら当然和解ということに、少し法律的なものを知っているならば和解しなけりゃならないということはわかるんです。そんなことは初めからわかっていたからこういうことをするということは私は日野市の税金のむだ遣いじゃないかと、このように思うわけであります。そういう面で私はこの件について今後こういうことのないように十分審議していただきたいと思います。

○議長（市川資信君）　　一ノ瀬　隆君。

○18番（一ノ瀬　隆君）　　この議案114号が全会一致可決という委員長の報告でありました。長い間の地元市民の悲願にこたえた建設委員の皆さんの良識に敬意を表するところであります。

この松山２号線に地主がいたということで日野台五丁目の人たちが最も困ったことは下水道への不安もありましたが、過去の出来事としては、このことで都市ガスが敷設できなかったということであったと思います。この地域には20年も前から都市ガスを引きたいという強い願望があり、再三その実現の努力がなされたようですが、そのたびに挫折してしまいました。そして８年前ごろだったと思いますが、今度こそはと日野台地区センターでの会合を皮切りに立ち上がりました。東京ガスの好意もあって話がうまくいって、もう一歩で待望の都市ガスが引けるようになったのでありました。それがこの松山２号線に地主がいて、その反対でまたまた都市ガスは実現しませんでした。

この道路は公道になるのに支障があった原因に、先ほど天野議員も述べられたように市がこの土地の登記を怠ったということがあり、この点に市の責任があると思います。もちろん森田市政よりもはるかに前の時代であります。したがって都市ガスが今日まで引けなかったのは市の責任でもあると思います。きょう晴れて市道になり、この時に当

たり、一刻も早くこの地域に都市ガスが敷設できるよう市の努力を促したいのであります。

最近、既存の住宅地へのガス敷設は非常に困難になったということであります。昨年、私は一般質問で市の責任であるから日野台五丁目の都市ガス敷設は市としても最大限努力すべきだ、市長が東京ガスの社長に直接会いに行ってでもこの実現のために尽くすべきだと発言しました。市長は、当然努力します、と明言しています。ここで日野台五丁目の住民のかねてからの強い要望である都市ガス敷設に、市も早急に努力してほしいことを重ねて強く要望しておきます。以上です。

○議長（市川資信君）　　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は、原案可決であります。本件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって議案第114号、土地所有権確認等請求事件に関する和解の締結の件は、原案のとおり可決されました。

これより議案第115号、農業共済無事戻金の交付、議案第116号、南多摩農業共済事務組合の設立の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長　登壇〕

○建設委員長（川嶋　博君）　　議案第115号、農業共済無事戻金の交付についてでございます。

この件につきましては、農作物共済、水稲で交付対象者が205名、交付金につきましては36万6,665円でございます。農作物の陸稲につきましては14名の対象者がおります。金額につきましては２万5,965円でございます。農作物共済の麦につきましては４名の対象者、金額にいたしましては5,116円でございます。園芸施設につきましては対象者17名、４万7,146円でございます。

以上の説明の後、質疑、意見はなく、全会一致可決でございます。よろしくお願いいたします。

続きまして議案116号、南多摩農業共済事務組合の設立についてでございます。

これにつきましては皆様のお手元に資料がある内容でございます。この内容につきましては、質問につきましては下柚木はどういうところかという質問がございました。または質問の中には、この場所は元役場跡にこの事務組合が設立する場所でございます。またプレハブでリースで借りて一時そこに事務所をそこに設け、将来は八王子市の庁舎の中に入る考えでいるという答弁がございました。

この内容につきましては全会一致可決ということを御報告申し上げます。以上でございます。

○議長（市川資信君）　　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本２件について御意見があれば承ります。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本２件について採決いたします。本２件に対する委員長報告は、原案可決であります。本２件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって議案第115号、農業共済無事戻金の交付、議案第116号、南多摩農業共済事務組合の設立の件は、原案のとおり可決されました。

お諮りいたします。この際、会期の延長の件を日程に追加し、先議いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって本件を日程に追加し、先議することに決しました。

会期の延長の件を議題といたします。

お諮りいたします。今期定例会の会期は、本日までと議決されておりますが、議事の都合により会期を12月24日まで１日間延長いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって会期は12月24日まで、１日間延長することに決しました。

お諮りいたします。12月24日の会議は、議事の都合により特に午前０時に繰り上げて開くことにいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって12月24日の開議時間は、午前０時に繰り上げることに決定いたしました。

お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ延会いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

本日の未了日程は明日の日程といたします。明日の本会議は午前０時より開議いたします。

本日はこれにて延会いたします。

午後11時57分　延会

12月24日　土曜日　（第８日）

昭和６３年
第４回定例会　日野市議会会議録　（第48号）

12月24日　土曜日　（第８日）

出席議員　（30名）

１番	奥住日出男　君	２番	宮沢清子　君
３番	高橋　徹　君	４番	土方尚功　君
５番	山口達夫　君	６番	天野輝男　君
７番	福島盛之助　君	８番	福島敏雄　君
９番	中谷好幸　君	10番	小俣昭光　君
11番	川嶋　博　君	12番	馬場繁夫　君
13番	夏井明男　君	14番	小山良悟　君
15番	馬場弘融　君	16番	高橋徳次　君
17番	簇野行雄　君	18番	一ノ瀬　隆　君
19番	板垣正男　君	20番	鈴木美奈子　君
21番	中山基昭　君	22番	秦　正一　君
23番	黒川重憲　君	24番	古賀俊昭　君
25番	谷　長一　君	26番	市川資信　君
27番	石坂勝雄　君	28番	名古屋史郎　君
29番	竹ノ上武俊　君	30番	米沢照男　君

欠席議員　（なし）

説明のため会議に出席した者の職氏名

市長	森田喜美男君	収入役	加藤一郎君
企画財政部長	長谷川暢男君	総務部長	坂本金雄君
市民部長	大貫松雄君	生活環境部長	藤浪竜徳君
清掃部長	小林修君	都市整備部長	前田雅夫君
建設部長	永原照雄君	福祉部長	高野隆君
水道部長	橋本栄萬君	病院事務長	大崎茂男君
教育長	長沢三郎君	教育次長	砂川雄一君

会議に出席した議会事務局職員の職氏名

局長	佐藤智春君	次長	土方留春君
書記	田中正美君	書記	濃沼哲夫君
書記	佐々木茂晴君	書記	小林章雄君
書記	斉藤令吉君		

速記委託先　住所　東京都立川市曙町一丁目10の3
立川速記者養成所　所長　関根福次
速記者　川久保友子君

議事日程

昭和63年12月24日（土）
午前10時開議

（請願審査報告）　（厚生委員会）
日程第1　請願第63－27号　旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願
（建設委員会）
日程第2　請願第63－26号　「宅地開発指導要綱」にもとづく公的負担の軽減に関する請願
（取り下げ）　（総務委員会）
日程第3　請願第62－53号　法務局の増員に関する要請についての陳情
（文教委員会）

日程第4　請願第62－6号　公立中学校英語の授業時間増に関する陳情
日程第5　請願第62－32号　第三幼稚園における2年保育4歳児の増員に関する請願
（継続審査）　（総務委員会）
日程第6　請願第63－16号　都営住宅家賃値上げ中止の意見書提出を求める請願
日程第7　請願第63－22号　東京都住宅供給公社住宅の家賃値上げ中止を求める意見書提出の請願
日程第8　請願第63－28号　鉄道共済年金の安定的財政確立に関する請願
（文教委員会）
日程第9　請願第63－11号　日野市立第二中学校音楽室に机を設置させるべく日野市教育委員会に勧告に関する請願
日程第10　請願第63－14号　再び万願寺一里塚現状保存を訴える陳情
日程第11　請願第63－29号　日野市営グランドの充実を求める請願
（厚生委員会）
日程第12　請願第62－19号　東町地区公害に関する請願
日程第13　請願第62－24号　犬の不妊・去勢手術に関する市と市内病院（獣医師）との委託契約の改善と猫に対しての不妊・去勢手術に対する補助に関する請願
日程第14　請願第63－3号　保健、医療、福祉の拡充に関する陳情
日程第15　請願第63－23号　沢川広場に便所および水道設備設置並びに広場拡張に関する請願
日程第16　請願第63－24号　放射能測定器設置の請願
日程第17　請願第63－25号　コミュニティセンター建設に関する請願
（建設委員会）
日程第18　請願第62－42号　山王下公園周辺の市営駐輪場設置反対に関する陳情
日程第19　請願第63－9号　日野市東平山地区における緑地を守るとともに、私有地の買い上げを求める請願
日程第20　請願第63－18号　「宮」町名存続要望に関する陳情
（継続審査議決）

日程第　21　　下水道対策特別委員会の継続審査議決に関する件
日程第　22　　スポーツ・公園対策特別委員会の継続審査議決に関する件
日程第　23　　交通対策特別委員会の継続審査議決に関する件
日程第　24　　市立病院等対策特別委員会の継続審査議決に関する件

（議案上程）
日程第　25　議員提出議案第10号　学校事務職員等の給与費国庫負担制度除外に反対する意見書
日程第　26　議員提出議案第11号　旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する意見書

本日の会議に付した事件
　日程第１から第26まで

午前０時　開議

○議長（市川資信君）　　おはようございます。本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員29名であります。

これより請願第63－27号、旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願の件を議題といたします。

厚生委員長の審査報告を求めます。

〔厚生委員長　登壇〕

○厚生委員長（米沢照男君）　　厚生委員会の請願審査報告を申し上げます。

請願第63－27号、旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願の件であります。

この請願は日野市日野台５－15－６、後藤亀次郎さん、ほか21名から提出をされたものであります。請願の要旨は63年５月、平和祈念事業特別基金に関する法律が制定をされ、戦後、強制抑留者、在外引揚者等に慰謝の念を示す事業を行うことになりました。しかしながら、軍歴期間不足のため何らの処遇もされていない恩給欠格者がなお存在をしています。ついては、これらの旧軍人軍属恩給欠格者を対象とし、慰謝の措置を講ずるよう関係行政庁へ市議会から意見書を提出してほしいという内容のものであります。

委員会として慎重審査の結果、請願採択と決しました。

なお、お手元に旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する意見書案が配付をされているかと思います。後刻委員会委員連名で提出をする予定になっておりますので、よろしくお願いをいたします。

以上、委員会としての請願審査の報告でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。中谷好幸君。

○９番（中谷好幸君）　　旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願について一言意見を述べさせていただきます。

私ども日本共産党は、かつての侵略戦争における犠牲者すべてに対して国家補償すべきである、こういう立場でございます。さきの第112国会で制定されました平和祈念事業特別基金につきましては、私どもは国会で反対をいたしました。その理由の一つは、この112国会で制定された平和祈念事業特別基金が、戦後処理をこの基金をもって終わりとする、こういうふうな説明が行われた点と、また、この平和祈念事業特別基金そのものが極めて欺瞞に満ちたものであるという点でございます。

この請願にもありますように、この基金は例えばシベリア抑留者の一部に10万円の慰労金を払うなどとしておりますけれども、そのほかのほとんどの戦争犠牲者が放置されたままになっている点でございます。この請願にも触れられておりますけれども、軍歴期間が12年満たない人については何の処遇もされない、また、さらにこの軍人軍属恩給欠格者であっても、公務員の場合はこの軍歴が厚生年金に加算されるなどの点があるにもかかわらず、民間に勤めた者あるいは事業を興した者に対してはこうした軍歴が全く加算されてない、こういう問題が全く放置をされているという点で、この祈念事業特別基金に反対したわけでございます。

そういう点で、この請願の趣旨は全く当然の要求でございますし、一層戦争犠牲者に対する国家補償を強めていく、救済を行う、こういう点を強く求めるものでございます。この点について一言述べまして、請願に対する賛成の意見とさせていただきます。

○議長（市川資信君）　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は、採択であります。本件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって請願第63－27号、旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願の件は、委員長報告のとおり採択と決しました。

これより請願第63－26号、「宅地開発指導要綱」にもとづく公的負担の軽減に関する請願の件を議題といたします。

建設委員長の審査報告を求めます。

〔建設委員長　登壇〕

○建設委員長（川嶋　博君）　ただいまの請願の第63－26号でございます。「宅地開発指導要綱」にもとづく公的負担の軽減に関する請願でございます。

建設委員会といたしまして12月19日と、また本日の２回にわたる建設委員会の審議でございます。この請願の請願者は日野市三沢701番地、七生農業協同組合組合長理事、朝倉　巌さん、ほか１名の方でございます。この請願の出た内容といたしましては、皆様方に資料としてお配りしている中にもございますように、他市に比べまして日野市の開発分担の関係は他市に比べまして一番厳しい状況に置かれております。この内容によって請願者も請願として出されたと判断をいたします。

これにつきまして質問の中には、行政、公的分担が高いために家賃にはね返るのかというような内容とか、社会情勢が変わり、市も見直しているのかというような質問もございました。これにつきまして、市の方の今回の改正も行われるということがありました。その一つにつきましては大型店舗の問題、２番目といたしましては公益、公共負担の是正それから駐車場の問題、それから建築計画のお知らせ板ですね、このような項目を改正をすることも考えているとの答弁がございました。

さらに、ただいまの中には公益、公共負担の是正する中でも集会場の設置とか問い合わせ先の看板につきましても明記するように、それから現在は３週間を工事が完了するまで長期間にその内容を市民の方に知らせる、こういうような、知らせてほしいというような御意見もございました。それからワンルームマンションにつきましては、今回の場合は管理運営面に定めて、ということで、ソフト面でございます。

以上の内容につきまして慎重審議の結果、建設委員会といたしまして全会一致採択と決しました。以上でございます。

よろしく御審議をお願いいたします。

○議長（市川資信君）　これより質疑に入ります。なければこれをもって質疑を終結いたします。

本件について御意見があれば承ります。小俣昭光君。

○10番（小俣昭光君）　「宅地開発指導要綱」にもとづく公的負担の軽減に関する請願について一言意見を申し上げます。

この日野市住みよいまちづくり指導要綱は昭和53年改正されました。自民党・政府の悪政により日野市は人口急増都市として民間デベロッパーにより乱開発を防ぐ大きな役割と公共施設整備、学校建設を進めてきました。これらは自民党・政府の補助金が余りにも少ないためで、過密化やスプロール化等に住環境の悪化及び災害の防止を図り、健康で文化的な市民生活を保障できる住みよいまちづくりを実現するために頑張ってきました。

このたびの請願者は農協組合長であります。請願趣旨では将来の農家経済を安定させるため農住建設事業に取り組んでいますと述べられております。代々自民党・政府の農政の失敗により、農家が田畑をつぶして住宅を建設し、生計に充てざるを得ないのが現実であります。日野市住みよいまちづくり指導要綱を見直す作業を行うに当たり、一つは、500平米以下の開発区域での大規模店舗法並みの規制等をすること、２番目としては、駐車場についての今の要綱では不十分であります。例えば駐車場、１台当たりの面積だとか通路の確保が明確にされておりません。これらのことをはっきりさせる必要が

あります。３番目としては、公共施設の中に図書館、文化施設、体育館など、市民が文化的に生活できる公共施設を新たに取り入れていただけるよう要望いたしまして、意見といたします。

○議長（市川資信君）　　ほかに御意見はありませんか。なければこれをもって意見を終結いたします。

これより本件について採決いたします。本件に対する委員長報告は、採択であります。本件は、委員長報告のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって請願第63－26号、「宅地開発指導要綱」にもとづく公的負担の軽減に関する請願の件は、委員長報告のとおり採択と決しました。

これより請願第62－53号、法務局の増員に関する要請についての陳情の件を議題といたします。

本件については、請願者より委員会へ取り下げたいとの申し出がありましたので、総務委員長より報告を求めます。

〔総務委員長　登壇〕

○総務委員長（夏井明男君）　　請願第62－53号につきまして、総務委員会として何回か質疑をしてまいりました。ところが、63年12月15日付、請願者代表、多摩市落合一丁目15番地１、全法務労働組合、東京地方本部東京支部多摩分会長、上田好昭氏より、法務局の増員に関する要請についての陳情に関する請願は、都合により取り下げをしたい旨がございまして、総務委員会にお諮りし、全会一致で取り下げを承認いたした次第でございます。

よろしく御承認のほどお願い申し上げます。以上です。

○議長（市川資信君）　　ただいまの委員長の報告のとおり、これを承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって請願第62－53号、法務局の増員に関する要請についての陳情の件は、取り下げることに決しました。

これより請願第62－６号、公立中学校英語の授業時間増に関する陳情、請願第62－32号、第三幼稚園における２年保育４歳児の増員に関する請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

本２件については、請願者より委員会へ取り下げたいとの申し出がありましたので、文教委員長より報告を求めます。

〔文教委員長　登壇〕

○文教委員長（高橋徳次君）　　それでは請願第62－６号、公立中学校英語の授業時間増に関する陳情でございますけれど、これは文教委員会に付託されまして数回にわたり審議をしてまいりました。しかし、請願者の方から取り下げたいということで今議会に申し出がございましたので、取り下げることに決しました。

また請願第62－32号、第三幼稚園における２年保育４歳児の増員に関する請願でございますけれど、これも請願者と何度か話し合いましたけれど、請願者自身のお子さんが他の保育園へ入園されたということで取り下げたいということでございます。

よろしく御審議のほどお願いします。

○議長（市川資信君）　　ただいまの委員長の報告のとおり、これを承認することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認めます。よって請願第62－６号、公立中学校英語の授業時間増に関する陳情、請願第62－32号、第三幼稚園における２年保育４歳児の増員に関する請願の件は、取り下げることに決しました。

請願第63－16号、都営住宅家賃値上げ中止の意見書提出を求める請願、請願第63－22号、東京都住宅供給公社住宅の家賃値上げ中止を求める意見書提出の請願、請願第63－28号、鉄道共済年金の安定的財政確立に関する請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

総務委員長の審査報告はこれを省略いたします。本３件については、総務委員長から、目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。あわせて本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。総務委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって総務委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより請願第63－11号、日野市立第二中学校音楽室に机を設置させるべく日野市教育委員会に勧告に関する請願、請願第63－14号、再び万願寺一里塚現状保存を訴える陳情、請願第63－29号、日野市営グランドの充実を求める請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

文教委員長の審査報告はこれを省略いたします。本３件については、文教委員長から、目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。あわせて本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。文教委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって文教委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより請願第62－19号、東町地区公害に関する請願、請願第62－24号、犬の不妊・去勢手術に関する市と市内病院（獣医師）との委託契約の改善と猫に対しての不妊・去勢手術に対する補助に関する請願、請願第63－３号、保健、医療、福祉の拡充に関する陳情、請願第63－23号、沢川広場に便所および水道設備設置並びに広場拡張に関する請願、請願第63－24号、放射能測定器設置の請願、請願第63－25号、コミュニティセンター建設に関する請願の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

厚生委員長の審査報告はこれを省略いたします。本６件については、厚生委員長から、目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。あわせて本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。厚生委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって厚生委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより請願第62－42号、山王下公園周辺の市営駐輪場設置反対に関する陳情、請願第63－９号、日野市東平山地区における緑地を守るとともに、私有地の買い上げを求める請願、請願第63－18号、「宮」町名存続要望に関する陳情の件を一括議題といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認め、一括議題といたします。

建設委員長の審査報告はこれを省略いたします。本３件については、建設委員長から、目下委員会において審査中の事件につき、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。あわせて本委員会の所管事務を調査研究するため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。建設委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって建設委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

次に日程第21、下水道対策特別委員会の継続審査議決に関する件を議題といたします。

下水道対策特別委員長より、下水道に関する事件の調査研究のため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

次に日程第22、スポーツ・公園対策特別委員会の継続審査議決に関する件を議題といたします。

スポーツ・公園対策特別委員長より、スポーツ・公園に関する事件の調査研究のため、

閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

次に日程第23、交通対策特別委員会の継続審査議決に関する件を議題といたします。

交通対策特別委員長より、交通に関する事件の調査研究のため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

次に日程第24、市立病院等対策特別委員会の継続審査議決に関する件を議題といたします。

市立病院等対策特別委員長より、市立病院等に関する事件の調査研究のため、閉会中の継続審査にされたいとの申し出があります。

お諮りいたします。委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

これより議員提出議案第10号、学校事務職員等の給与費国庫負担制度除外に反対する意見書の件を議題といたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。高橋徳次君。

○16番（高橋徳次君）　それでは議員提出議案第10号、学校事務職員等の給与費国庫負担制度除外に反対する意見書です。

意見書は、お手元に配付したとおりでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（市川資信君）　質疑、討論を省略し、直ちに本件について採決いたします。

本件は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議員提出議案第10号、学校事務職員等の給与費国庫負担制度除外に反対する意見書の件は、原案のとおり可決されました。

これより議員提出議案第11号、旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する意見書の件を議題といたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。米沢照男君。

○30番（米沢照男君）　議員提出議案第11号、旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する意見書案でございます。

文案については、お手元に配付してありますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（市川資信君）　質疑、討論を省略し、直ちに本件について採決いたします。

本件は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（市川資信君）　御異議ないものと認めます。よって議員提出議案第11号、旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する意見書の件は、原案のとおり可決されました。

本日の日程はすべて終わりました。

これをもって昭和63年第４回日野市議会定例会を閉会いたします。

午前０時28分　閉会

地方自治法第123条第２項及び日野市議会会議規則第81条の規定により署名する。

日野市議会議長　　市　　川　　資　　信

署　名　議　員　　馬　　場　　繁　　夫

署　名　議　員　　夏　　井　　明　　男